仙台市文化財調査報告書156集

宮城県仙台市

郡山遺跡

――第65次発掘調査報告書――

1992.3

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書156集

宮城県仙台市

郡山遺跡

——第65次発掘調査報告書——

1992.3

仙台市教育委員会

郡山遺跡第65次調査G区全景写真（南より）

写真1
郡山遺跡全景写真
（昭和27年撮影）

序　　文

郡山遺跡の発掘調査も本年度で12年目を迎え、東北地方の古代史にとって数多くの発見を重ねてまいりましたことは、古代史・考古学等の識者のみならず市民の皆様方もご承知のことと存じます。

幻の城柵としての一端を現した昭和54年以来、継続的に進められてきた発掘調査により古代の記録にない“幻の城柵”はまさに“甦る城柵”として私たちの前にその姿を現してきたのです。辺境とされてきた当地方の歴史観を一変した我が国最古の地方官衙跡「郡山遺跡」の発見は、日本の考古学・古代史学界に新たな話題を提示したものと言えます。

本書は太白区郡山五丁目に所在する郡山中学校の校舎、ならびに体育館の建て替えと、柔剣道場の新設などにともなって発掘調査した成果をまとめたものであります。この調査によりこれまで不明であった方四町II期官衙の南方の様相が明らかになりました。また官衙跡の下層からは弥生時代や縄文時代に溯る土器が出土し、郡山の地がこれまで考えられていた以上に、古くから人々に営みがなされていたことが明らかになりました。また校舎の建築にあたっては配置や基礎構造の変更によって、II期官衙に関わる多くの建物跡などの遺構を保存し、新校舎の一部に普及、展示活動のため「ピロティ」の空間を設けたことなど、今後の文化財保護に役立つ先例になることと思います。

このような成果を上げられましたのは、ひとえに学校関係者ならびに地元の皆様のご理解と御協力があっての賜物と感謝する次第です。先人の残した貴重な文化遺産を次の世代に継承していくことは、行政によってのみなし得るものではなく、市民一人一人の先人への理解と敬意がなくては成し得ないものであります。

これからも文化財保護への深い御理解と御協力をお願いするとともに、本書が文化財愛護の心を高揚させる一助となりますことを願って止みません。

平成４年３月

仙台市教育委員会

教育長　東海林　恒英

例　　言

1．本書は仙台市立郡山中学校の校舎、体育館等の建て替えに伴う郡山遺跡第65次発掘調査の成果をまとめたものである。

2．報告書の作成および編集は長島栄一が行った。

3．報告書中の本文執筆は、「第Ⅲ章第３節２　Ⅱｂ層水田跡、３　Ⅲ層水田跡

10　Ⅻ層における遺構と遺物」が金森安孝が行ない、それ以外は長島栄一が担当した。

4．第Ⅴ章の自然科学的分析については下記の方々に執筆をお願いした。記して感謝の意を現す次第である。

1．プラントオパール分析結果報告……古環境研究所

2．郡山遺跡の花粉分析……東北大学理学部生物学教室　守田益宗

3．郡山遺跡発掘調査 ^{14}C 年代測定報告……パリノ・サーベイ社

4．郡山遺跡発掘調査　材及び種子同定報告……パリノ・サーベイ社

5．郡山遺跡鉄滓の金属学的調査……大澤正巳

6．郡山遺跡から出土した赤色顔料について……東京国立文化財研究所　見城敏子

7．郡山遺跡の火山灰……東北大学農学部　山田一郎・庄子貞雄

8．植物遺体鑑定結果報告……東北大学農学部　星川清親・庄子駒男

9．郡山遺跡出土、灰、炭化物、土壌の顕微鏡による観察

……東京大学総合研究資料館　松谷暁子

10．SB996 掘立柱建物跡の柱材について　……奈良国立文化財研究所　光谷拓実

11．安山岩製石器の使用痕　東北大学埋蔵文化財調査室……山田しょう

5．野外における発掘調査および報告書の作成に伴う整理に際し、次の方々から多くの指導、助言をたまわった。記して感謝の意を表す次第である。（順不同・敬称略）

河原純之、狩野　久、岡本東三、工藤雅樹、須藤　隆、山中敏史、宮本長二郎、
佐々木光雄、進藤秋輝、丹羽　茂、小井川和夫、加藤道男、阿部　恵、柳沢和明、
村田晃一、太田昭夫、主浜光朗、佐藤甲二、荒井　仁、高久俊一

凡　　例

1．遺構図の平面位置は昭和55年に作成した相対座標で、座標原点は任意に郡山遺跡内に設置したNo.1原点（X＝0、Y＝0）としている。座標の方向は磁北方向である。

2．文章中で記した方位角は真北を基準としている。仙台地方における真北方向は磁北方向から7°20′東に偏している。

3．遺構略号は次のとおりである。なお全遺構に通し番号を付しているが、この番号は国庫補助事業による調査に付している番号の継続である。

SA　柱列などの塀跡	SE　井　戸　跡	SX　その他の遺構
SB　建　物　跡	SI　竪穴住居跡・竪穴遺構	P　ピット・小柱穴
SD　溝　　跡	SK　土　　坑	

4．遺物略号は次のとおりで、各々種別ごとに番号を付した。なおこの番号は国庫補助事業による調査で出土した遺物の番号とは、別になっている。

A　縄文土器	B　弥生土器	C　土師器（非ロクロ）
D　土師器（ロクロ）	E　須　恵　器	F　丸瓦・軒丸瓦
G　平瓦・軒平瓦	I　陶　　器	J　磁　　器
K　石器・石製品	L　木器・木製品	N　金属製品
P　土　製　品		

5．遺物実測図の網スクリーントーン張り込みは黒色処理を示している。この他のスクリーントーンについては図中に内容を示した。

6．遺物実測図中の中心線が実線は遺物の残存が点線は1/4以下、一点鎖線は1/4～1/2、実線はそれ以上である。

7．第Ⅲ章第3節4.(1)掘立柱建物跡・一本柱列の中で、模式図の記号の内容は以下のとおりである。

○　柱掘り方のみを検出し、柱痕跡を検出していない場合

◉　柱掘り方と柱痕跡を検出した場合

＋　推定された柱穴の位置

8．本書の土色については「新版標準土色帳」（古山・佐藤1970）を使用した。

9．石器・石製品の材質の鑑定は、仙台市教育委員会所有の石材標本による。

10．調査・整理に関する諸記録および出土遺物は、仙台市教育委員会が保管している。

目　　次

序　　文

例　　言

凡　　例

第Ⅰ章　発掘調査に至る経緯と経過……1

第1節　調査に至る経緯……1

第2節　調査経過……1

第3節　調査要項……5

第Ⅱ章　遺跡の概要……9

第1節　遺跡の位置と地理的環境……9

1．郡山遺跡の位置……9

2．郡山遺跡の地理的環境……9

第2節　周辺の遺跡と歴史的環境……9

第3節　遺跡の発見とこれまでの歩み……17

第Ⅲ章　発掘調査報告……21

第1節　調査の方法……21

1．調査区の設定……21

2．測量の基準と実測図の作成……22

第2節　基本層位……23

第3節　発見された遺構と遺物……29

1．Ⅰ層における遺物……29

2．Ⅱ層における遺構と遺物……29

3．Ⅲ層における遺構と遺物……41

4．Ⅳ層における遺構と遺物……62

(1)　掘立柱建物跡・一本柱列……62

(2)　竪穴住居跡……106

(3)　土　坑……154

(4)　溝　跡……162

(5)　その他の遺構……186

5．Ⅶ層における遺構と遺物……195

6．Ⅷ層における遺物……197

7．IX層における遺構と遺物 ……198
8．X層における遺構と遺物 ……202
9．XI層における遺構と遺物 ……203
10．XII層における遺構と遺物 ……261
11．北部（K、L、M区）IV層以下における遺物 ……271
12．XV層における遺物 ……280
第4節　遺物について ……281
1．土師器 ……281
2．須恵器 ……292
3．その他の遺物 ……298
第5節　遺構について ……300
1．掘立柱建物跡 ……300
2．その他の遺構 ……308
第IV章　普及活動と遺構の保存・復元 ……310
第1節　普及活動 ……310
第2節　遺構の保存・復元 ……312
1．校舎部分における遺構の保存と復元 ……312
2．体育館、柔剣道場における遺構の保存 ……313
第V章　自然科学的分析 ……322
1．プラントオパール分析結果報告 ……323
2．郡山遺跡の花粉分析 ……343
3．郡山遺跡発掘調査 ^{14}C 年代測定報告 ……351
4．郡山遺跡発掘調査　材及び種子同定報告 ……355
5．郡山遺跡出土鉄滓の金属学的調査 ……367
6．郡山遺跡から出土した赤色顔料について ……378
7．郡山遺跡の火山灰 ……380
8．植物遺体鑑定結果報告 ……381
9．郡山遺跡出土、灰、炭化物、土壌の顕微鏡による観察 ……383
10．SB996掘立柱建物跡の柱材について ……387
11．安山岩製石器の使用痕 ……388
第VI章　ま　と　め ……391
写真図版 ……397

第Ⅰ章　発掘調査に至る経緯と経過

第1節　調査に至る経緯

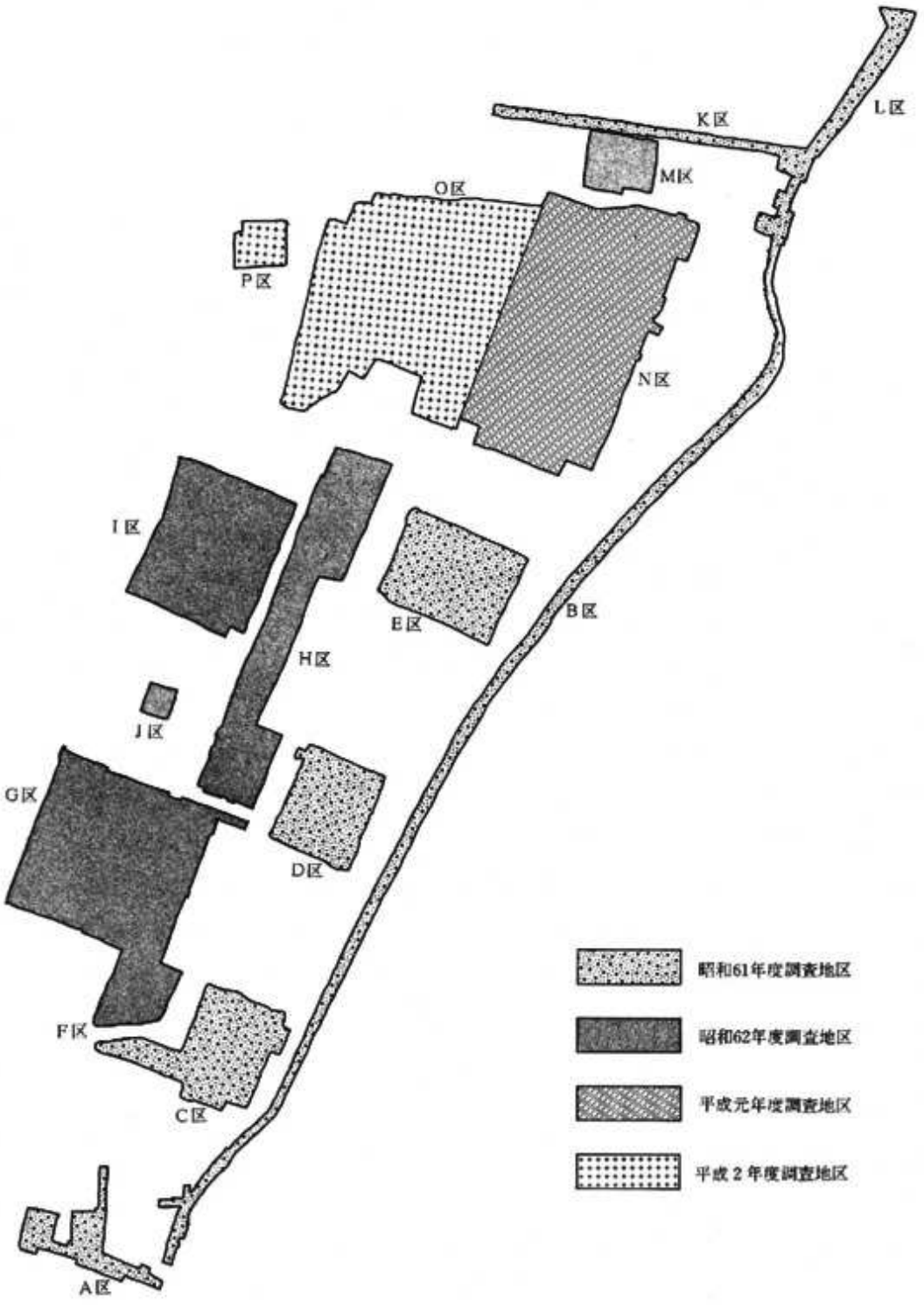
仙台市立郡山中学校は、仙台市太白区郡山五丁目10－1に所在している。昭和36年8月の開校以来、敷地内北側に木造モルタル二階建ての校舎が建ち現在に至っている。後に増築はあるものの築25年に及び、老朽化が著しい。また学区内の郡山、北目、大野田地区は、これまで近郊農村地帯として農業を基盤とした地域であったが、近年急速に宅地化が進み、生徒数も増加する傾向にある。このような中にあって、実情に即して校舎を建て替え、新たな教育環境を整備する必要が生じた。

郡山中学校の開校した昭和36年当時は、郡山遺跡の範囲は諏訪神社周辺の一部とだけ考えられていたが、昭和54年の郡山三丁目における開発行為事前調査、昭和55年以降の範囲確認調査などを通じて、多賀城造営以前の古代の役所跡と寺跡が広い範囲にひろがっていることが明らかになった。郡山中学校の敷地は、推定方二町と目われる寺跡の一部に含まれ、2時期ある役所のうちの新しい時期の役所－Ⅱ期官衙－の南前面に位置しているということが、確認されている。これらのことから現位置に同規模で校舎を建て替えた場合、寺跡その他の重要な遺構を損なう恐れが大きいと考えられた。学校の敷地の南側に建てることも検討されたが、日照権の問題が生じるので適当ではないとされた。また学校自体を遺跡外へ移転することも検討されたが、遺跡の範囲が広大であるため通学距離や交通事情からも不可能であると判断された。

以上のような中で考えられたのが、敷地の東側に隣接する水田部分に新校舎を建設するという案であった。ここは昭和57年に第34次調査として、発掘調査が実施された箇所で、古代の遺構は存在するが他の地域に比べて遺構の密度は極めて薄い地域であることがわかっていた。仙台市教育委員会では、水田部分約8,700㎡を新たに取得し新校舎を建築することとし、昭和60年度中に用地取得を終了し、昭和61年に発掘調査、昭和62年に校舎建築という予定であった。

第2節　調査経過

郡山中学校の校舎新築に伴う発掘調査は昭和61年4月より実施され、校舎部分の調査が終了したのは昭和62年9月である。また体育館・柔剣道場部分の調査は平成元年8月より実施され、終了したのは平成2年12月であった。



第１図　第65次調査年度別調査地区

昭和61年４月には未だ校舎の配置が決定しておらず、新校舎建築に附帯して行われる市道拡幅、水路切廻し工事の一部から調査（A、B区）を開始した。昭和61年５月末日に新校舎の配置図が教育局施設課（現学校建設課）より提示されたが、校舎配置は新たに取得した部分だけでは納まらず、現校庭に大きく張り出すことや、校舎が６棟に分立し交互に連結する極めて特異な形態であること、また４階建ての校舎が３階建てになったため床面積が増加したことなどにより、発掘調査の計画を大幅に見直す必要が生じた。とりあえず校庭に張り出した部分の調査（F、G、H、I区）を実施するため、調査区上の擁壁、立ち木の撤去と生徒の安全確保のためのバリケードの設置を施設課に求め、調査は旧水田部分のC、D、E区に限って実施した。校庭内での調査が可能になり、調査が開始されたのは、F、G区が８月、H、I区が11月になってからのことである。この間、調査体制の充実に努め、下層においてプラントオパール分析や花粉分析を実施し、遺構の存在を探るとともに、調査期間も昭和62年８月まで延長することを文化財課、施設課間で申し合わせた。調査が進行するに従い、これまで知られていた古代の遺構（Ⅳ層上面）の他に、D区下層（Ⅶ層上面）から弥生時代と推定される畦畔状遺構が検出され、さらに下層（Ⅺ層上面）から縄文時代後期後半の土器が出土するに及んだ。昭和61年度中の成果としては以下のことがあげられる。

① 調査区のうちA、B区ではⅣ層上面で竪穴住居跡５軒、掘立柱建物跡２棟などを検出した。２ケ所で下層調査を実施したが、遺構、遺物を検出することはできなかった。

② C、Fa区ではⅣ層上面で竪穴住居跡２軒、掘立柱建物跡３棟などを検出し、Ⅺ層上面からは縄文時代後期後半の土器が出土した。

③ D区では削平をかなりうけていたが、Ⅳ層上面で竪穴住居跡３棟を検出した。またⅦ層上面では弥生時代と考えられる畦畔状遺構を１条検出し、Ⅺ層上面の性格不明遺構からは、縄文時代の後期後半の土器がまとまって出土した。

④ E区ではⅣ層上面で土坑や溝などを検出し、Ⅸ層上面で畦畔状遺構１条を検出した。

⑤ Fb区、G区ではⅡ、Ⅲ層上面で調査を実施し、Ⅳ層上面の遺構検出までは至らなかった。

⑥ K、L区ではⅣ層上面で竪穴住居跡５軒を検出し、下層より弥生時代の初頭から末葉までの土器が出土した。

昭和62年度になりFb、G、H、I区の調査を進めていくうちに、Ⅳ層上面ではFb、H、I区では遺構の数が少ないもののG区ではかなりの数の遺構（柱穴）が検出された。４月末日になってほぼ真北方向を基準とした掘立柱建物跡が、四面廂付建物を中心に規則的に配置されていることがわかった。これらの建物は基準方向と出土した遺物からⅡ期官衙とほぼ同時期と考えられ、建物の性格については慎重に検討する必要があるものの、遺跡内にあって重要な建物群と考えられた。これらの成果をもとにして、５月22日に記者発表を行い、同月24日に現地

説明会を実施した。現地説明会と前後して県内の考古学関係者の見学が相次ぎ、文化庁からは河原、狩野両主任調査官の調査指導を頂いた。その際河原主任調査官より、古代の建物群の発見されたG区上の校舎の基礎構造の設計を検討し、遺構の保存に努める旨の指導があった。これを受け仙台市内部での検討の結果、基礎構造を変更することで遺構の保存と校舎建設が可能となった。それによってG区上の校舎は3階建てが4階建てになり、新たな1階部分はピロティとして遺構の保存・活用のためのスペースとなった。このピロティ内での遺構復元が可能となり、きわめて個性的な校舎の建築となった。これによりG区では校舎の基礎により遺構の破壊されるのは最小限に留められ、その部分のみの下層調査となった。ただしカリオン（時計台）部分の調査としてJ区、ポンプ、受水槽部分の調査としてM区を追加した。その間に校舎の建設工事は発注され建設工事と発掘調査が並行して進められた。校舎部分の調査が全て終了したのは昭和62年9月11日であった。

昭和62年10月以降、昭和63年度末に報告書刊行の予定で整理作業を進めていた。しかし、郡山中学校より新校舎は完成したが、体育館、プールなどの施設が旧校舎とともにあったものを使用しているため、老朽化が著しいことや新校舎と体育館が校庭を挟んで向い合うなど、利用に支障をきたすため早急に改善するよう要望が出された。それを受け仙台市教育委員会では昭和64年度（平成元年度）に体育館部分の発掘調査を実施し、昭和65年度（平成2年度）中に体育館を建設することを決定した。それにより校舎部分の発掘調査報告書を体育館部分の調査の終了するのを待って、合わせて平成2年度末に刊行することになった。

体育館部分の発掘調査が開始されたのは平成元年8月で、平成2年8月までに終了する予定であった。

調査は体育館の配置に従い、N区を設定（第1図参照）して行ったが、調査区の北端より2間×10間の長大な掘立柱建物跡、南端より規模は不明であるが柱の掘り方が2m近くに及ぶ掘立柱建物跡を検出したため、平成元年11月9日に記者発表、11月11日現地説明会を実施した。それらの成果をふまえ、体育館の構造を校舎と同じ様に遺構を損なわないよう設計、建築できないか学校建設課に検討を求めた。学校建設課では、予算の制約上体育館の構造の変更はできないが、配置では可能であるとして、南北棟の体育館を東西棟にして調査区の北端、南端で検出された遺構を保存することで合意した。これによって体育館の配置で新たに西側に張り出した箇所（O区）を平成3年度に調査することになった。その際、学校建設課よりこれ以上の設計変更には応じられないとし、O区の調査は記録保存のみに限るようにとの申し入れがなされた。平成元年度の調査はN区の中央部分の下層調査（弥生時代IX層）まで実施した。

平成2年度に体育館と合わせて新たに柔剣道場も建設することが学校建設課より表明された。文化財課では、N区の下層調査（縄文時代XI層）とO区の調査を合わせても平成2年8月

には調査が終了するとしていたが、柔剣道場の建築も加わるとO区の調査面積が600㎡から1300㎡と増加するため、平成2年10月を調査終了の予定とした。N区の下層調査を終え、O区の調査を開始したのは平成2年6月である。調査開始後間もなく、N区で検出した2間×10間の建物跡と軒を揃えて2間×10間の建物跡が一棟、さらに南にややずれながら2間×5間以上の建物跡が一棟、東西に並ぶよう検出された。西側の2間×5間以上の建物跡の全容をつかむため、地下に埋没された高圧電線管をよけながらP区(100㎡)を設定し、調査した結果、これも2間×10間の建物跡と推定された。

このような状況から体育館、柔剣道場の基礎構造等についても、校舎部分において遺構の保存をしたことから同様に再考を依頼し、設計を担当する都市整備局営繕課より配置や床面積を変更し、遺構の保存が可能な設計プランが提出された。検出された3棟の長大な掘立柱建物跡をはずして、南側に体育館、柔剣道場が建設されることになった。これによって必要となった掘立柱建物跡の南側での下層調査を実施し、平成2年12月に全ての発掘調査を終了した。

第3節　調査要項

1．遺跡の名称　郡山遺跡（仙台市遺跡登録番号　C－104）

2．調査区所在地　仙台市太白区郡山五丁目10番1号

3．調査次数　第65次調査（郡山中学校地区）

4．野外調査期間　昭和61年4月14日～昭和62年9月9日（校舎部分）
平成元年8月7日～平成2年12月17日（体育館・柔剣道場部分）

5．整理期間　昭和62年9月10日～昭和63年10月8日
昭和64年1月5日～平成元年3月17日
平成2年2月1日～平成2年3月28日
平成3年1月7日～平成3年7月31日

6．調査面積　6,660㎡

A区	40㎡	B区	520㎡	C区	270㎡
D区	270㎡	E区	400㎡	F区	150㎡
G区	850㎡	H区	650㎡	I区	600㎡
J区	25㎡	K区	120㎡	L区	100㎡
M区	115㎡	N区	1,250㎡	O区	1,200㎡
P区	100㎡				

7．調査主体　仙台市教育委員会

8．調査担当　　仙台市教育委員会文化財調査係

課長　　早坂春一

調査係長　佐藤　隆

調査担当　長島榮一、千葉仁、荒井格、佐藤良文、中富洋、渡辺雄二

金森安孝

9．調査参加者

昭和61年度（野外調査）

相沢義徳、青山諒子、赤井沢勝利、赤井沢きすい、赤井沢サダ子、赤井沢進、赤井沢千代子、浅野ヤシ子、熱海千佳子、阿部喜美、阿部　宏、阿部ミノル、阿部幸夫、石川弘子、板橋スエノ、板橋みつよ、市川ふさ子、伊藤貞子、伊藤隆行、糸谷明子、今出宏子、太田りう子、大友節子、大友義信、大友鶴雄、大沼　勇、大森ノブ子、岡崎彰子、岡崎徹郎、小国和男、小佐野章子、小嶋登喜子、小野享子、小野ヒサコ、小野寺健二、小野寺里香、小野寺雄、織内由美、貝沼サナ子、加嶋みえ子、片平聖一、片山志真、木村陽子、菊地和恵、菊地つね子、菊地みよし、工藤ゑなよ、熊谷久美子、小池房子、古賀克典、小竹弘則、児玉きよ子、小林てる、小林　充、今野ちぎよ、今野富美子、桜井　乾、佐々木恵子、佐々木貴子、佐々木敬之、佐々木徳久、佐々木八重子、佐藤育子、佐藤紀美、佐藤よし江、柴崎きぬえ、庄司勝寿、庄子錦一郎、菅井あや子、菅井清子、菅井たえ子、菅井美枝子、須賀栄子、菅ノ又三千代、菅谷裕子、菅原和子、菅原みほ子、鈴木かつ子、鈴木　進、鈴木正道、鈴木雅文、高橋ふみ子、高橋義明、高橋よし子、高村朋子、武田　萬、竹森永源、田中善則、丹野タエ、千坂よしみ、千田あや子、千葉　一、寺田ユウ子、富沢平一郎、永野泰治、西沢孝子、西村博幸、二瓶甚次郎、二瓶豊子、二瓶八千代、長谷川ゆかり、早川裕子、原田由美子、半澤俊昭、針生昭三、樋口　敦、平野真美、藤雄和茂、藤代まゆみ、星　愛子、星　昌宏、洞口尚英、堀江栄子、前田裕志、牧かね子、三浦市子、三浦芳江、嶺岸光子、宮嶋　都、村井二郎松、村井奈保子、村上令子、最上浪子、森田安恵、森ナシヨ、八木啓介、谷津和弘、山田貞子、山田千代子、山田　太、山田やす子、横田一男、横田やへ子、吉田りつ子、我妻美代子、若生久美、渡辺イチ子、渡辺久子、渡部匡、

昭和62年度（野外調査）

相沢義徳、青山諒子、赤井沢勝利、赤井沢きすい、赤井沢サダ子、赤井沢千代子、赤川千広、浅野ヤシ子、阿部善美、阿部孝一、阿部志う、阿部　淳、阿部すえ子、阿部清太郎、阿部高子、阿部ミノル、阿部幸夫、安斉直子、岩岐豊子、石川弘子、伊勢みつ、板橋スエノ、板橋みつよ、伊藤貞子、伊藤隆行、今出宏子、植田　純、遠藤かつ子、太田りう子、太田すえ子、大槻明美、

大友キヨ子、大友節子、大友鶴雄、大沼　勇、大森美知子、岡崎徹郎、尾形陽子、小川徳子、小川良子、小国和男、小佐野章子、小嶋登記子、小野桂子、小野ヒサコ、小野寺健二、小野寺里香、小畑勝子、加嶋みえ子、加藤貴久、菊地　旭、菊地和恵、菊地つね子、菊地真理、工藤ゑなよ、熊谷久美子、小池房子、小林てる、小林義人、小沼ちえ子、今野淑子、紺野好章、今野ちぎよ、今野富美子、斎藤堅勝、佐々木恵子、佐々木敬之、佐々木淑江、佐々木徳久、佐藤あや子、佐藤朋宏、佐藤久恵、佐藤真奈美、佐藤よし江、佐野　宏、下山田俊之、庄子錦一郎、東海林基子、菅井あや子、菅井清子、菅井妙子、菅井宏行、菅井美枝子、須賀栄子、菅ノ又三千代、菅谷裕子、菅原和子、菅原みほ子、鈴木かつ子、鈴木キミエ、鈴木くに、鈴木　進、鈴木つや子、鈴木弘恵、鈴木美和、外川みつ子、高橋いく子、高橋とみ子、高橋ヨシ子、田口由美、武田芳子、武田　萬、竹森永源、田中さと子、田中基道、千田あや子、寺田ユウ子、戸田泰史、富沢平一郎、永野泰治、滑川康介、新沼よしえ、二宮貴志、二瓶八千代、根本展江、長谷川三枝子、早川裕子、早坂みつえ、林　琢也、針生みなよ、針生昭三、原田由美子、樋口敦、平田正二、福山幸子、伏谷昌博、藤雄和茂、藤代まゆみ、古田千枝子、星　愛子、本多由美、牧かね子、村井二郎松、三浦市子、嶽岸光子、宮嶋　都、村上令子、森田安恵、八木啓介、谷津和広、山内昌広、山田貞子、山田千代子、山田やす子、吉田りつ子、我妻美代子、若生久美、渡辺イチ子、渡辺俊明、渡辺久子

昭和62年度（整　　理）

相沢義徳、赤井沢勝利、阿部　淳、石堂恵弥、大森美知子、岡崎徹郎、尾形陽子、小川徳子、小国和男、小佐野章子、小野寺健二、小野寺里香、加藤貴久、菅野ゑみ子、菊地和恵、菊地真理、郡山和彦、小林三佳、紺野好章、斎藤彰裕、佐々木敬之、佐藤あや子、庄子錦一郎、東海林基子、外川みつ子、高村朋子、戸田泰史、滑川康介、根本展江、平田正二、福山幸子、藤代まゆみ、本多由美、八木啓介、谷津和宏、若生久美、渡辺俊明

昭和63年度（整　　理）

相沢義徳、赤井沢勝利、阿部　淳、石堂恵弥、大森美知子、岡崎徹郎、尾形陽子、奥山直美、小川徳子、小国和男、小佐野章子、小野寺健二、小野寺里香、菅野ゑみ子、菊地和恵、菊地真理、郡山和彦、斎藤彰裕、佐々木由美、佐々木敬之、佐藤あや子、庄子錦一郎、外川みつ子、高村朋子、東海林基子、根本展江、福山幸子、藤代まゆみ、本多由美、増田瑞枝、三浦芳江、八木啓介、谷津和弘、若生久美、渡辺俊明

平成元年度（野外調査）

相沢としえ、壱岐裕子、伊勢多賀子、伊勢みつ、板山つねよ、岩間かつ江、上原若子、遠藤トキ子、大沼ヨネ、大場　信、岡安唯一、小嶋登喜子、勝又洋行、金沢沙知子、叶　　誠、亀山カヨ、川地モトヨ、川村　侃、北村宗司、熊谷久美子、桜谷勇作、佐藤栄子、佐藤亀治、佐藤　均、佐藤浩道、庄子かつえ、庄子信哉、鈴木きぬ子、鈴木秀乃、鈴木正道、菅井百合子、鳥畑きみえ、畠山賢子、日比野園子、平間　栄、藤原美記子、洞口れい子、嶺岸イツ子、嶺岸わくり、森ミヨノ、山浦文彦、谷津妙子、山田　太、横田きくよ、渡辺久幸

平成２年度（野外調査・整理）

相沢としえ、会田　光、赤井沢きすい、赤井沢サダ子、赤井沢千代子、浅野升夫、安斉直子、阿部いし、阿部美代寿、壱岐裕子、伊勢多賀子、伊勢みつ、市前久乃、伊藤貞子、伊藤はるよ、岩井レイ子、上原若子、遠藤トキ子、大友節子、大場　信、岡安唯一、尾形陽子、小佐野章子、小野辰夫、小野みや子、小嶋登喜子、小沼佳代子、菊地つね子、北村宗司、工藤ゑなよ、熊谷久美子、小池房子、小林てる、斎藤紀子、佐々木直子、佐々木義昭、佐藤栄子、佐藤　剛、佐藤博之、鈴木美栄子、鈴木秀乃、菅井百合子、外川みつ子、高橋ヨシ子、田中きと子、千田あや子、寺田ユウ子、鳥畑きみえ、針生ゑなよ、早坂みつえ、半澤　忍、樋口さち子、日比野園子、福山幸子、洞口れい子、牧かね子、増田瑞枝、嶺岸安好、谷津妙子、横田きくよ、吉田アキヨ、吉田りつ子

平成３年度（整理）

奥山允子、小佐野章子、佐藤栄子、佐藤裕子、菅井百合子、畑中ゆかり、日比野園子、洞口れい子、増田瑞枝、吉田りつ子

第II章　遺跡の概要

第1節　遺跡の位置と地理的環境

1．郡山遺跡の位置

郡山遺跡は宮城県仙台市の南東部、仙台市太白区郡山二～六丁目に位置する遺跡で、遺跡の範囲は東西800m、南北900m の約60万㎡に及んでいる。

今回の第65次調査区は太白区郡山五丁目10番地内の仙台市立郡山中学校と、東、北に隣接する水田部分の地域にまたがっている。ＪＲ長町駅より南東に２㎞程のところで遺跡の中でも南東寄りの地点である。

2．郡山遺跡の地理的環境

仙台市東南部（旧仙台市域）の地形は、西半部と東半部の大きく二つに分けられる。西半部は奥羽山脈から派生する七北田丘陵、青葉山丘陵、高館丘陵と名取川支流の広瀬川が形成した段丘地形からなっている。段丘は、古期から青葉山段丘、台ノ原段丘、上町段丘、中町段丘、下町段丘と呼ばれている。藩制時代以降、仙台の市街地は台ノ原段丘～下町段丘の上に形成されてきた。

東半部は海岸より幅10㎞幅の「宮城野海岸平野」と呼ばれる沖積平野である。北は宮城郡七ヶ浜から南は亘理郡山元町までの40㎞程の三日月形に広がっている。この平野は七北田川、名取川、阿武隈川の堆積物によって形成され、流域には扇状地・自然堤防・後背湿地・旧河道などの地形が複雑に入り組んでいる。また現在の海岸線から奥へ４～５列の浜堤が形成されている。沖積平野上の標高は大部分が５ｍ以下であるが、広瀬川、名取川の扇状地や内陸では10～15mに達しているところもある。

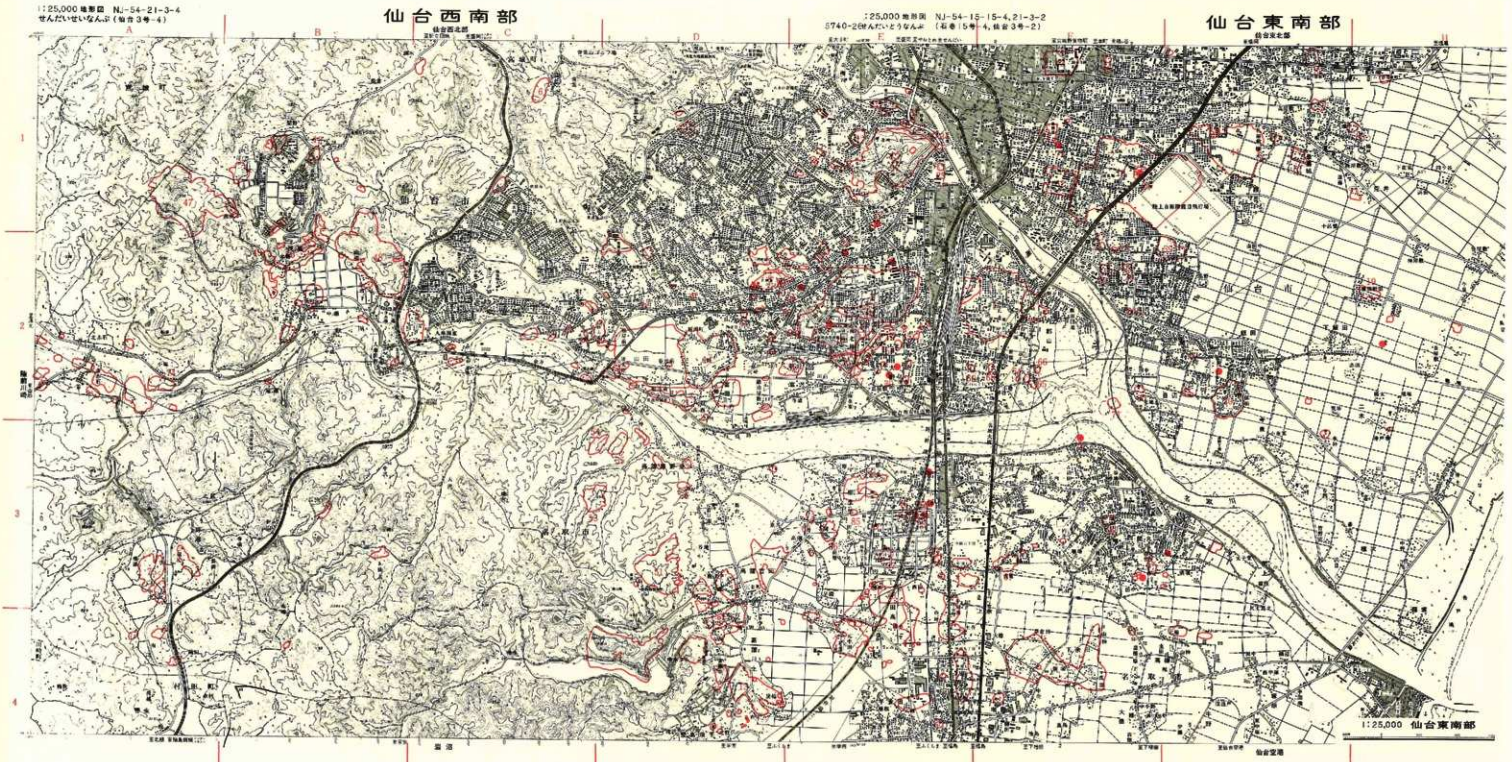
郡山遺跡の立地するのは、北東を広瀬川、南を名取川、西を長町－利府構造線で画される郡山低地の中央やや東寄りで、標高８～11m の自然堤防と後背湿地上である。遺跡内には数条の旧河道が観察されるが、遺跡南端を画する旧河道は顕著である。

第2節　周辺の遺跡と歴史的環境

近年仙台市南部は、地下鉄の開業、道路の整備、政令指定都市指定による都市機能の分化などに伴って、地形的な条件とは別に新たな要因から住宅地や高層ビルの立ち並ぶ市街地を生み出している。この変貌に追い立てられながら、発掘調査には暇がない状況である。このような

第7表 遺跡地名表

No.	遺跡名	種別	立地	年代	位置	No.	遺跡名	種別	立地	年代	位置
1	郷北遺跡	官衙 寺院	自然堤防 後背湿地	縄文・弥生 古墳・奈良 平安・中世	F2	44	仙台東郷条里跡	条里跡	後背湿地	奈良	G1
						45	元袋Ⅲ遺跡	集落跡	自然堤防	奈良・平安	E2
2	西台畑遺跡	包含地	自然堤防	弥生・古墳	E2	46	安久遺跡	集落跡	自然堤防	弥生・平安・中世	E3
3	北目城跡	城館	自然堤防	中世	F2	47	茂庭大館	城館	丘陵	中世	A1
4	山田上ノ台遺跡	包含地・集落跡	段丘	旧石器・縄文・平安・近世	C2	48	けんとう城跡	城館	丘陵	中世	B2
5	北前遺跡	包含地・集落跡	段丘	旧石器・縄文・古墳・平安	C2	49	茂庭沼館	城館	丘陵	中世・天正年間	B2
6	青葉山遺跡	包含地	段丘	旧石器	C1	50	秦館跡	城館跡	段丘	中世・天正年間	B2
7	富沢遺跡	包含地・水田跡	後背湿地	旧石器・縄文～近世	E2	51	長塚城跡	城館	丘陵	中世	D3
8	三神峯遺跡	集落跡	段丘	縄文	D2	52	大館山館跡	城館	丘陵	中世	D4
9	萩ヶ丘遺跡	包含地	丘陵緩斜地	縄文・奈良・平安	E1	53	熊野堂大館跡	城館	丘陵	中世	C3
10	山口遺跡	包含地・水田跡	自然堤防	縄文・弥生・奈良・平安	E2	54	黒崎城	城館	丘陵	中世	C3
11	下ノ内浦遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	E2	55	小館	城館	丘陵	中世	D3
12	梨野A遺跡	集落跡	丘陵	縄文～中世	B1	56	熊野経塚	経塚	丘陵	中世	D3
13	今熊野遺跡	貝塚・集落跡	段丘	縄文～平安	D4	57	鹿ヶ崎城跡	城館	丘陵	中世	E1
14	上野遺跡	包含地	段丘?	縄文・奈良・平安	D2	58	富沢館跡	城館	自然堤防	中世	E2
15	六反田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	E2	59	沖野城跡	城館	自然堤防	中世	G2
16	下ノ内遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	E2	60	日辺館跡	城館	自然堤防	中世	F2
17	伊古田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	E2	61	長喜城跡	城館	自然堤防?	中世	G1
18	南小泉遺跡	集落跡	自然堤防	弥生～中世	F1	62	若林城跡	城館	自然堤防	中世・江戸	F1
19	藤田新田遺跡	集落跡	浜堤	弥生	H2	63	松木遺跡	集落跡	自然堤防	平安・中世	E3
20	今泉遺跡	集落跡・城館	自然堤防	弥生・古墳・平安～近世	G2	64	矢ノ上Ⅰ遺跡	水田跡	自然堤防	平安・中世	F2
21	船渡前遺跡	集落跡	自然堤防	縄文・弥生・奈良・平安	D2	65	矢ノ上Ⅱ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安	F2
22	戸ノ内遺跡	集落跡	自然堤防	古墳・平安・中世	F3	66	矢ノ上Ⅲ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安	F2
23	安久東遺跡	集落跡・古墳	自然堤防	弥生～近世	E3	67	後河原遺跡	水田跡	自然堤防 後背湿地	弥生～近世	F3
24	遠見塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳	F1	68	竜ノ橋遺跡	集落跡	自然堤防	古墳～平安	F2
25	兜塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳	E1	69	的場遺跡	集落跡	自然堤防	奈良・平安	E2
26	裏町古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳	D2	70	仙台大塚山古墳	円墳	自然堤防	古墳	F3
27	一塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳	E1	71	日辺遺跡	集落跡	河川敷	古墳(中期)	F2
28	二塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳	E2	72	雷塚古墳	円墳	自然堤防	古墳	F1
29	砂押古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳	E2	73	泉崎浦遺跡	包含地	自然堤防	縄文・奈良・平安	E2
30	鳥居塚古墳	古墳	自然堤防	古墳	E2	74	川添東遺跡	城館	丘陵	縄文	A2
31	愛宕山横穴群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳(末期)・奈良	E1	75	坪沼館跡	城館	丘陵	中世	A3
32	大年寺横穴群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳・奈良	E1	76	安養寺貝塚	貝塚	段丘	縄文・弥生・奈良・平安	D4
33	向山横穴群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳・奈良	E1	77	砂押Ⅰ遺跡	包含地	自然堤防	古墳・奈良・平安	F2
34	宗禅寺・横穴群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳・奈良	E1	78	神柵遺跡	包含地	自然堤防	縄文～平安	F2
35	土手内・横穴群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳	D2	79	中柵西遺跡	包含地	自然堤防	弥生～平安	F2
36	清水遺跡	集落跡	自然堤防	弥生～中世	E3	80	砂押Ⅱ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安	F2
37	栗遺跡	集落跡	自然堤防	古墳	E3	81	河原越遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安	F2
38	中田畑中遺跡	集落跡	自然堤防	古墳～平安	F3	82	北屋敷遺跡	集落跡	自然堤防	平安・中世	G1
39	富沢窯跡	窯跡	丘陵斜面	古墳～平安	D2	83	荒井館跡	城館跡	自然堤防?	中世	H1
40	金山窯跡	窯跡	丘陵斜面	古墳	D2	84	下飯田薬師堂古墳	古墳	自然堤防	古墳(後期)	H2
41	内台窯跡	窯跡	丘陵端部	奈良	D2	85	雷東遺跡	包含地	自然堤防	平安	E3
42	陸奥国分寺跡	寺院跡	段丘	奈良・平安・鎌倉	F1	86	開発遺跡	包含地	自然堤防	平安	E3
43	陸奥国分尼寺	寺院跡	段丘	奈良?	F1	87	門前山岡遺跡	包含地	丘陵	縄文・弥生・平安	B2



第２図　周辺の遺跡（国土地理院１/25,000「仙台西南部」「仙台東南部」より作製）

中で発掘調査の行われた遺跡の多くは記録の残るかわりに地上から姿を消して行くのである。発掘調査件数の多さの裏には、後世へ伝えるべき遺跡の減少がある。発掘調査の技術的な進歩や関連科学との協力によって、現時点ではわからない事が後の時代には明らかにされる事は多いはずである。未調査ではあるが保存され、遺物の分布や地形の特徴などから概要の推定できる遺跡と、これまで発掘調査の行われた遺跡の内容を踏まえて、仙台平野南部の歴史的環境を概観してみたい。なお、近世以降については伝世の文献資料、地図にもとづき、郡山遺跡周辺の現在に至る様子を略述することにする。

旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、これまで山田上ノ台遺跡(4)と北前遺跡(5)、青葉山B遺跡(6)などが知られている。山田上ノ台遺跡は2万数千年前から3万数千年前に降下堆積した川崎スコリア層の上下から、それぞれ後期旧石器と前期旧石器が出土している。北前遺跡は山田上ノ台遺跡と200m程しか離れておらず、同一段丘上に立地し同様の成果を得ている。青葉山B遺跡からは、山田上ノ台遺跡の立地する上町段丘の形成される以前に降下した愛島軽石層のさらに下から石器が出土している。旧石器時代の遺跡は、以上のように丘陵地帯や高位段丘に限られていたが、昭和63年度の富沢遺跡(7)第30次調査では沖積平野から旧石器が発見された。富沢遺跡からは石器が出土したのに留まらず、樹木、樹根、毬果、葉、種子などの植物化石、昆虫化石、動物のフンなど後期旧石器時代（2万3千年前）の自然環境を復元するに足る成果があった。

縄文時代

早期の遺跡としては、山田上ノ台遺跡、北前遺跡、三神峯遺跡(8)、萩ケ丘遺跡(9)、山口遺跡(10)、下ノ内浦遺跡(11)、梨野A遺跡(12)、嶺山B遺跡などがある。このうち山口遺跡からは早期末葉の貝殻条痕文土器、縄文条痕土器が出土し、沖積平野の遺跡でも早期に遡ることが知られた。さらに下ノ内浦遺跡からも早期前葉の押型文土器が出土し、竪穴遺構や土坑なども検出されている。これ以外は全て丘陵や段丘上の遺跡に限られている。

前期の遺跡としては、三神峯遺跡、今熊野遺跡(13)、北前遺跡、下ノ内浦遺跡、山口遺跡、梨野A遺跡などである。三神峯遺跡からは前期前葉の住居跡が8軒検出され、北前遺跡からは前期末葉の土坑群が検出されている。また名取川対岸の今熊野遺跡からは、前期前葉の住居跡が59軒検出され全国でも稀な例とされている。

中期の遺跡としては、山田上ノ台遺跡、上野遺跡(14)、六反田遺跡(15)、下ノ内遺跡(16)、山口遺跡などがある。山田上ノ台遺跡からは中期末葉の住居跡が38軒検出されている。早、前期を含め住居跡がまとまって検出されたのは、山田上ノ台遺跡のような段丘や丘陵上であったが、中期になると六反田遺跡では中期中葉の住居跡が1軒、下ノ内遺跡では中期末葉の住居跡が3軒検出されている。また山口遺跡からも中期中葉以降の土器片が出土している。

後期の遺跡としては、六反田遺跡、下ノ内遺跡、山口遺跡、下ノ内遺跡、伊古田遺跡(17)、山田上ノ台遺跡などである。六反田遺跡からは後期初頭から前葉にかけての住居跡が12軒検出され、下ノ内浦遺跡からも後期前葉の配石遺構や土坑群が検出されている。また伊古田遺跡からは後期中葉の土器とともに土偶が出土している。このように段丘、丘陵上の遺跡から沖積平野への一層の進出が顕著となる。しかし後期後葉以降になると郡山低地西半では、六反田遺跡、山口遺跡などで土器片は出土するものの、明確な遺構を伴う遺跡は減少するようである。

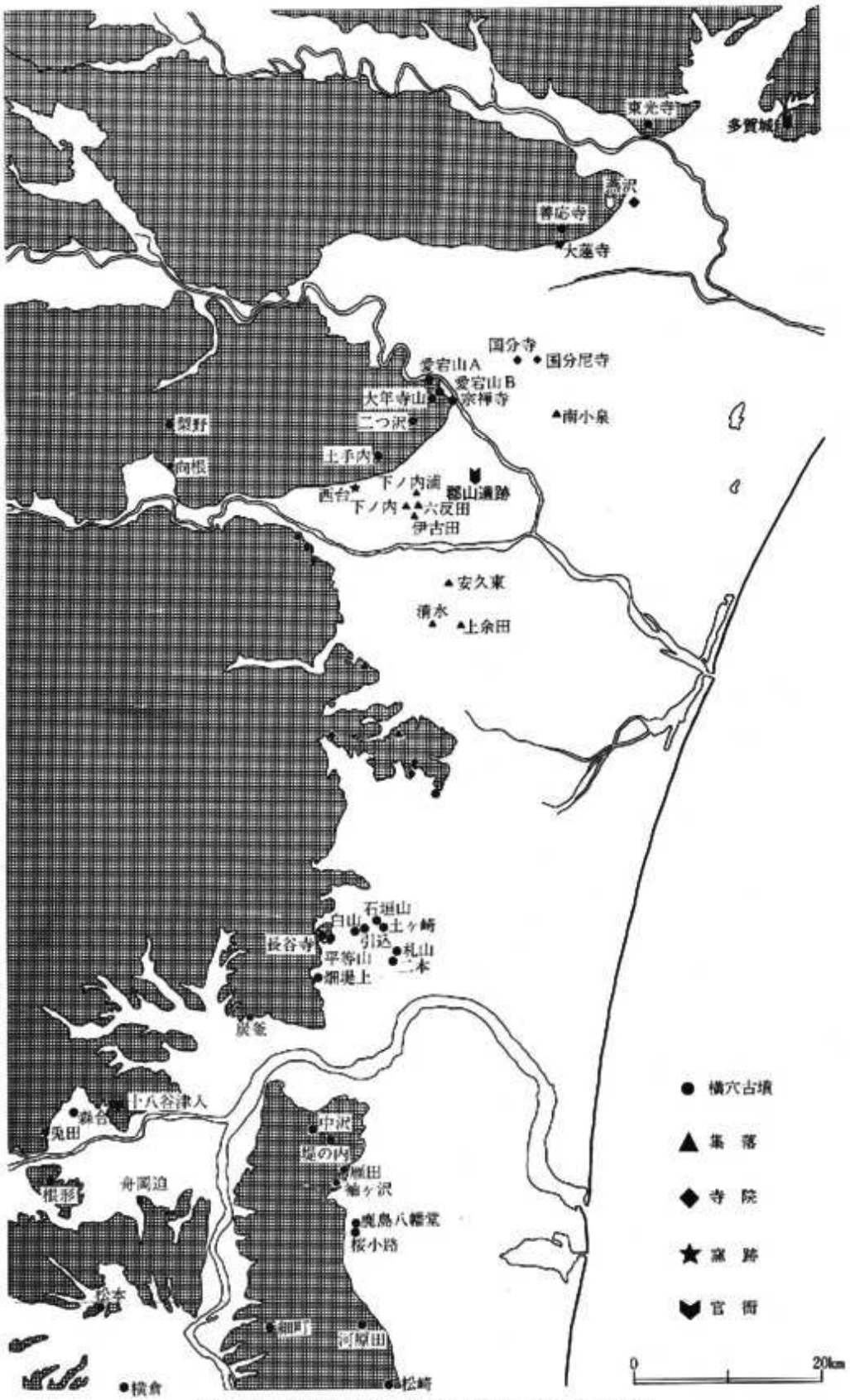
晩期の遺跡としては、六反田遺跡、山口遺跡、梨野A遺跡、沼原B遺跡、嶺山A、B遺跡などである。しかしこれらの遺跡も明確な遺構を伴うものは少ない。

弥生時代

弥生時代の遺跡は、富沢遺跡、下ノ内浦遺跡、下ノ内遺跡、六反田遺跡、山口遺跡、西台畑遺跡(2)、南小泉遺跡(18)、藤田新田遺跡(19)、今泉遺跡(20)、船渡前遺跡(21)などがある。遺跡の分布は、船渡前遺跡や十三塚遺跡（名取市）のように丘陵や段丘上の遺跡もあるが、沖積平野の自然堤防、浜堤などに一段と拡がったと言える。昭和58年に富沢遺跡からは弥生時代中期に属する水田跡が検出され、東北では青森県田舎館村垂柳遺跡に次ぐ発見として注目された。下ノ内浦遺跡からは、弥生時代後期以前の竪穴遺構や土坑などが検出されている。また西台畑遺跡からは、弥生時代中期の墓坑などが検出されている。その他の遺跡では検出される遺構が少なく、遺物のみ出土することが多い。

古墳時代

古墳時代の遺跡は、弥生時代よりはるかに自然堤防、浜堤を中心に拡大し、数を増して行く。まず方形周溝墓が戸ノ内遺跡(22)、安久東遺跡(23)、今熊野遺跡などに造られ、そののち高塚古墳として名取市の宇賀崎一号墳（方墳）、高館山古墳、飯野坂古墳群（前方後円墳）などが築かれる。５世紀初頭前後になって遠見塚古墳(24)、雷神山古墳などが築かれるようになる。雷神山古墳は全長168mで東北第１位、遠見塚古墳は全長110mで東北第３位であり、大規模な土木工事を可能にする技術と人の動員力を有する支配者の存在が認められる。また５世紀後半から６世紀中頃にかけて兜塚古墳(25)、裏町古墳(26)、一塚古墳(27)、二塚古墳(28)、砂押古墳(29)、大野田古墳群、春日社古墳、鳥居塚古墳(30)などの埴輪を有する古墳が郡山低地上に築かれる。続いて大年寺山周辺に横穴群が造られるようで、愛宕山横穴群(31)、大年寺横穴群(32)、向山横穴群(33)、宗禅寺横穴群(34)、土手内横穴群(35)などである。これらの横穴群の中には奈良時代まで引き続くものもある。ただしこの時期までの集落の分布となると以外に少なく、郡山低地上では六反田遺跡、下の内遺跡、伊古田遺跡、泉崎浦遺跡などで竪穴住居跡が検出されているにすぎない。郡山低地以外でも南小泉遺跡のように広範囲に及ぶものもあるが、清水遺跡(36)、栗遺跡(37)、中田畑中遺跡(38)、戸ノ内遺跡などと散在的である。しかし地形的な集落の成立要因を考えると、現在の



第3図　古墳時代後期から奈良時代にかけての遺跡

住宅地と重複し未発見の可能性もあると考えられる。また埴輪や須恵器の需要に応じるよう富沢窯跡(39)、金山窯跡(40)などが出現する。

奈良時代

奈良時代の遺跡としては、郡山遺跡の寺跡中枢建物に供給した瓦を生産した西台窯跡(41)が、西方3kmに位置している。郡山遺跡が終末をむかえた時期に仙台平野北端の丘陵上には、多賀城が国府として造られたと考えられる。多賀城よりやや遅れて仙台平野の中央部には、陸奥国分寺(42)、国分尼寺(43)が造られ、周辺には東郊条里(44)などの条里制の実施も見られる。また下ノ内遺跡、伊古田遺跡、下ノ内浦遺跡、六反田遺跡、山口遺跡、元袋III遺跡(45)などからは竪穴住居跡が検出され、集落が営まれていたことが認められる。その他清水遺跡でも竪穴住居跡が検出されている。前時代よりの横穴群への追葬の他に、安久東遺跡の古墳のように横穴式石室への埋葬なども同時に行われている。

平安時代

平安時代の遺跡は、自然堤防上において前時代から重複しながら拡大し、検出される竪穴住居跡の件数なども増加している。集落跡としては下ノ内遺跡、伊古田遺跡、下ノ内浦遺跡、六反田遺跡、山口遺跡、安久遺跡(46)、安久東遺跡、清水遺跡、中田畑中遺跡、南小泉遺跡、山田上ノ台遺跡などで、そのうち下ノ内浦遺跡、南小泉遺跡、中田畑中遺跡、山田上ノ台遺跡では掘立柱建物跡が集落内に出現している。生産跡としては富沢遺跡や山口遺跡で、水田跡を検出している。また北前遺跡からは半地下式の須恵器窯跡、嶺山C遺跡からは製鉄炉が検出されている。

中　世

中世の遺跡は、丘陵上の山城と沖積平野上に点在する平城がほとんどである。仙台平野南部で山城は、茂庭と高館の丘陵地帯に集中している。茂庭地区では茂庭大館(47)、けんとう城跡(48)、茂庭西館(49)、峯館跡(50)などである。高館地区では高館城跡(51)、大館山館跡(52)、熊野堂大館跡(53)、黒崎城(54)、小館(55)などで、近くに熊野経塚(56)などもある。山城としては他に茂ケ崎城跡(57)などがある。平城としては富沢館跡(58)、北目城(3)、沖野城跡(59)、今泉遺跡、日辺館跡(60)、長喜城跡(61)、若林城跡(62)などがある。集落としては安久東遺跡、松木遺跡(63)、南小泉遺跡などで、遺構を検出している。また富沢遺跡、山口遺跡、欠ノ上I遺跡(64)、後河原遺跡(67)からは、中世の水田跡が検出されている。

近世以降

近世以降は伊達政宗の仙台城築城と城下町の造営により、大きく変貌する。慶長5年(1600)関ケ原の合戦が起ると、石出三成と結ぶ会津の上杉景勝が徳川家康の背後を脅かす動きを見せるに到った。徳川方の有力な大名であった伊達政宗は、同年7月名取郡北目城(3)に入り、ここ

を根拠地として上杉と対峙したとされている。政宗は12月25日に国分氏の旧城である千代城に赴き、そこに新城の縄張りを行い、「仙台」と命名した。慶長７年（1602）５月に仙台城は一応完成し、翌慶長８年（1603）８月に岩出山城より仙台城へ移っている。政宗は、宮城郡荒巻、小田原、南目、小泉、名取郡根岸村など五ケ村の入会であった原野や谷地である広瀬川東岸に城下町を建設した。城下には24ケ町が作られ、四代藩主綱村の世に最大の発展をとげたと言われている。元禄10年（1697）に大年寺が建立され、名取郡根岸村まで城下に編入されたのはこの時である。安永元年（1772）に完成した「封内風土記」によれば、根岸村に北長町、平岡村に南長町があり、市や店があり、駅として機能していたことが知られている。同時に郡山村も存在し、戸口67、男女375と記録されている。

江戸時代以降明治初年まで奥州街道沿いの長町と隣接しながらも、郡山付近は農村的な姿を留めていたようである。明治22年に上野－塩釜間の鉄道が開通すると、郡山の地は長町方面と分断される結果となった。市街地の中心部では踏切を立体交差にするなどして交通の便が計られたが、長町の東側には貨物駅があったため、交通の便が悪く、現在でも南北1.8kmに渡り車での線路の横断は出来ない状況にある。国道４号線仙台バイパスの開通するまで東北線以東の地は交通上不便な地であり、都市化するのが周辺に比べ遅れることになった。遺跡の範囲が明らかになってきたのは昭和50年代に入ってからのため、宅地化が進んだが、辛うじて遺跡の中枢部には畑地や水田を残す状況となっていたのである。

第３節　遺跡の発見とこれまでの歩み

郡山遺跡が学術的な文献に初めて現れるのは、大正３年（1915）『考古学雑誌』第５巻第５号に山中樵氏により「漆液を容れたる陶器（附陸奥国名取郡家の遺址）」で論ぜられたのが最初である。氏は旧町名で矢口、矢来地区（現在の郡山二、三丁目周辺）と東北線の間で、煉瓦工場の粘土採掘の際に、石製品、土師器、須恵器などが発見され、そのうち漆の入った平瓶に注目して1000年～1200年前のものと考えた。これらの遺物の出土範囲が広いことや、国分寺、多賀城方面への地理的な便、字名に郡山のあることなどから「郡家」の存在を指摘している。この論文については、昭和25年（1950）仙台市史第３巻別編１の伊東信雄氏の「北目古代集落址」に抄録し紹介されている。以上の２氏の指摘は現在のII期官衙を中心とする郡山遺跡の北半部について論じたものと推定される。

II期官衙と同時期と考えられる寺跡についても早くから指摘がある。昭和13年（1938）寶雲22号に内藤政恒氏は「東北地方発見の重弁蓮花文鐙瓦に就いての一考察（下）」を発表し、仙台市郡山出土の瓦を多賀城の瓦を継承したものとして平安時代中頃のものとしている。またこの

地を名取郡衙の所在地と推定している。これに掲載された瓦は、昭和49年（1974）に出版された東北古瓦図録にも掲載され、仙台市郡山在家諏訪神社東方の出土ともなっている。伊東信雄氏も仙台市史第3巻別編1の「郡山古瓦出土地」の中で、瓦と伴に出土する土器から平安初期を降らないものとして、寺院址を推定している。伊東氏は昭和24年に諏訪神社の北方で畑の天地返しの折、瓦が多量に出土しているのを写真撮影している。この頃に採集された瓦が東北大に所蔵されており、昭和57年（1982）東北大学大学部考古学資料図録には軒丸瓦と鴟尾片が掲載されている。

また場所や時期などの詳細は不明であるが、昭和38年（1963）『蝦夷』に高橋富雄氏は郡山の地から柵木が出土したらしいことを伝えている。

昭和54年に入り、郡山三丁目205－1、206－1において開発行為が計画され、初めて仙台市教育委員会により発掘調査が行われた。それにより掘立柱建物跡、竪穴住居跡、土坑などとともに多量の土師器、須恵器、円面硯などの遺物が出土し、7世紀末から8世紀初頭の官衙跡との見方が強まった。以上の成果をもとに文化庁、宮城県教育委員会と協議し、遺跡の範囲と性格を明らかにするため、昭和55年度から国庫補助事業による範囲確認調査を実施してきた。また国庫補助事業の開始と同時に、これまで郡山遺跡と郡山三丁目遺跡と分離していたのを周辺も含め、郡山遺跡として登録し直し現在に至っている。

これまでの仙台市教育委員会による調査の内容を年度ごとに略述しておく。参考までに（ ）内に調査次数、概報番号、仙台市文化財調査報告書番号を載せておく。

昭和55年度（第1～9次　郡山Ⅰ　第29集）

Ⅱ期官衙（造営基準方向が真北）外郭南辺の大溝と材木列を検出した。外郭の南西隅には櫓状建物跡があり、大溝、材木列ともL字状に屈曲し北へ延びている。Ⅱ期官衙の外郭は方四町と推定され、時期は大溝の出土遺物から7世紀後半から8世紀初頭と考えられる。諏訪神社北方の古瓦散布地には、同時期の別区画が存在すると考えられた。

昭和56年度（第10～22次　郡山Ⅱ　第38集）

Ⅱ期官衙外郭の東辺と西辺を検出し、四町＝428.44m四方（一町＝107.11m、一尺＝29.75cm）の規模で造られていると推定した。西辺上からは櫓状建物跡が、官衙内からは関東地方（鬼高式末～真間式初頭）の特徴を示す土師器が竪穴住居跡から出土した。

諏訪神社北方の古瓦散布地からは大規模な基壇建物跡が検出され、軒丸瓦、鴟尾などが出土した。隣接する郡山中学校校庭内より井戸が検出され、堆積土中から木簡が3点出土した。このうち第3号木簡は、習書以前には写経用の定木として使用されていたと見られる。これらのことから、Ⅱ期官衙と同時期の付属寺院跡が存在したと考えられた。

昭和57年度（第23～34次　郡山Ⅲ　第46集）

II期官衙の中央部（第24次）を調査したが、I期官衙の遺構が多く、II期官衙の中枢は東西仮想中軸線上より以南に位置している可能性があると考えられた。I期官衙にも3小期の変遷があり、7世紀後半代に造営されたと考えられる。またI期官衙はII期官衙と重複しながらも、より広い範囲と推定される。

昭和58年度（第35～42次　郡山IV　第64集）

第24次調査の隣接地（第35次）を調査し、I期官衙の材木列、柱列による小区画を検出した。建物は内部に柱の配置されない建物が多く、区画外南東部の総柱による建物群とは明らかに区別される。II期官衙の外郭南辺より北へ三町の東西線上には、一本柱列による塀跡が検出された。

昭和59年度（第43～49次　郡山V　第74集）

昭和57、58年度と同様にII期官衙の政庁を確認する目的で、中央部よりやや南寄りの地点（第44、48次）で調査を行ったが、I期官衙の遺構が多くII期官衙の政庁は確認されなかった。

II期官衙北辺で材木列、大溝を検出し、II期官衙はおおむね方四町（東西428.44m、南北422.73m）であることを確認した。

昭和60年度（第50～59次　郡山VI　第86集）

未確認のII期官衙政庁について昨年までの調査結果と地形観察から、東西幅75～80mで外郭南辺より80～85m以北に存在すると推定し、調査を行った。その結果、規模、方向、配置などから政庁内の正殿、後殿と考えられる建物が検出された。同時にI期官衙の倉庫と見られる総柱建物跡や板塀跡も検出された。

II期官衙外郭南辺の中央より6m程東にずれて、外郭の南門を検出した。柱穴4ケのみであったが八脚門の一部と推定された。

昭和61年度（第60～64、66～67次　郡山VII　第96集）

I期官衙の小区画（第24、35次）の延長部分を検出し、東西51～54m、南北65～66mと判明した。II期官衙と同時期の寺院跡の中枢を区画する材木列とそれに取り付く北西部の門を検出した。東西81m、南北132mと推定される。また講堂と推定される基壇建物跡の北側より、建物跡がまとまって検出され「僧房」と推定された。

昭和62年度（第68～74次　郡山VIII　第110集）

櫓状建物跡の存在が想定されたII期官衙外郭南辺上で、これまでの南西隅、西辺上と同様の構造のものは検出されなかった。昨年推定した寺院における区画施設の南延長線上で、同様の材木列を検出した。

昭和63年度（第75～82次　郡山IX　第124集）

第2次調査で検出した大型の建物に関連する遺構を調査し、I期官衙中枢部分の一画の構造

を明らかにした。２間×４間程の小規模な倉庫が集中するＡ期から、板塀と建物によるＢ期、８間×４間の大規模な建物が２棟建ち並ぶＣ期まで、３小期の変遷がある。

平成元年度（第83次　　郡山Ｘ　　第133集）

Ⅱ期官衙中枢地区より政庁の中心殿舎である正殿と考えられる５間×８間の四面廂建物が検出された。またこの北側からは広範囲な石敷施設や石組池が検出され、官衙内にあって極めて重要な政務、儀礼などが行われていたと考えられた。

平成２年度（第86～89次　　郡山Ⅺ　　第146集）

Ⅱ期官衙の中心地区のやや北寄りを調査し、Ⅰ期官衙に関わる建物跡や塀跡を検出した。その中には鍛冶工房と考えられる遺構も存在する。また周辺と同様に、倉庫建物が軒をそろえ立ち並ぶ状況も確認された。

この他に宅地造成など開発に伴う事前調査で、以下のものがある。

昭和56年度　郡山遺跡－宅地造成に伴う緊急発掘調査報告－（第13次、第42次）

Ⅰ期官衙の材木列２列と、真北方向の掘立柱建物跡４棟などを検出した。

平成元年度（調査）　郡山遺跡－第84次、85次発掘調査報告書－（第84次、第85次、第145集）

第84次調査では、平安時代の土坑、水田跡、官衙の時期に属すると考えられる掘立柱建物跡、竪穴住居跡などが検出されている。第85次調査では、柱の掘り方が２ｍ以上の掘立柱建物跡（Ⅰ期官衙）や、５間×８間の四面廂付建物跡（Ⅱ期官衙）などが検出されている。

第Ⅲ章　発掘調査報告

第１節　調査の方法

１．調査区の設定

調査区は、郡山中学校の校舎の新築される箇所と掘削を伴って地下遺構に影響を与える附帯工事箇所について設定した。この際パイル打ちの行われるものについては、パイルの芯から２ｍ程外側から調査区として設定した。しかし既存の校舎と使用中の農業用水路については、止む

A、B、L区　　道路拡幅
C、D、E、F、G、H、I区　　校舎
J区　　カリオン（時計台）
K区　　水路
M区　　ポンプ室、受水槽
N区　　体育館
O区　　体育館・柔剣道場
P区　　補足調査

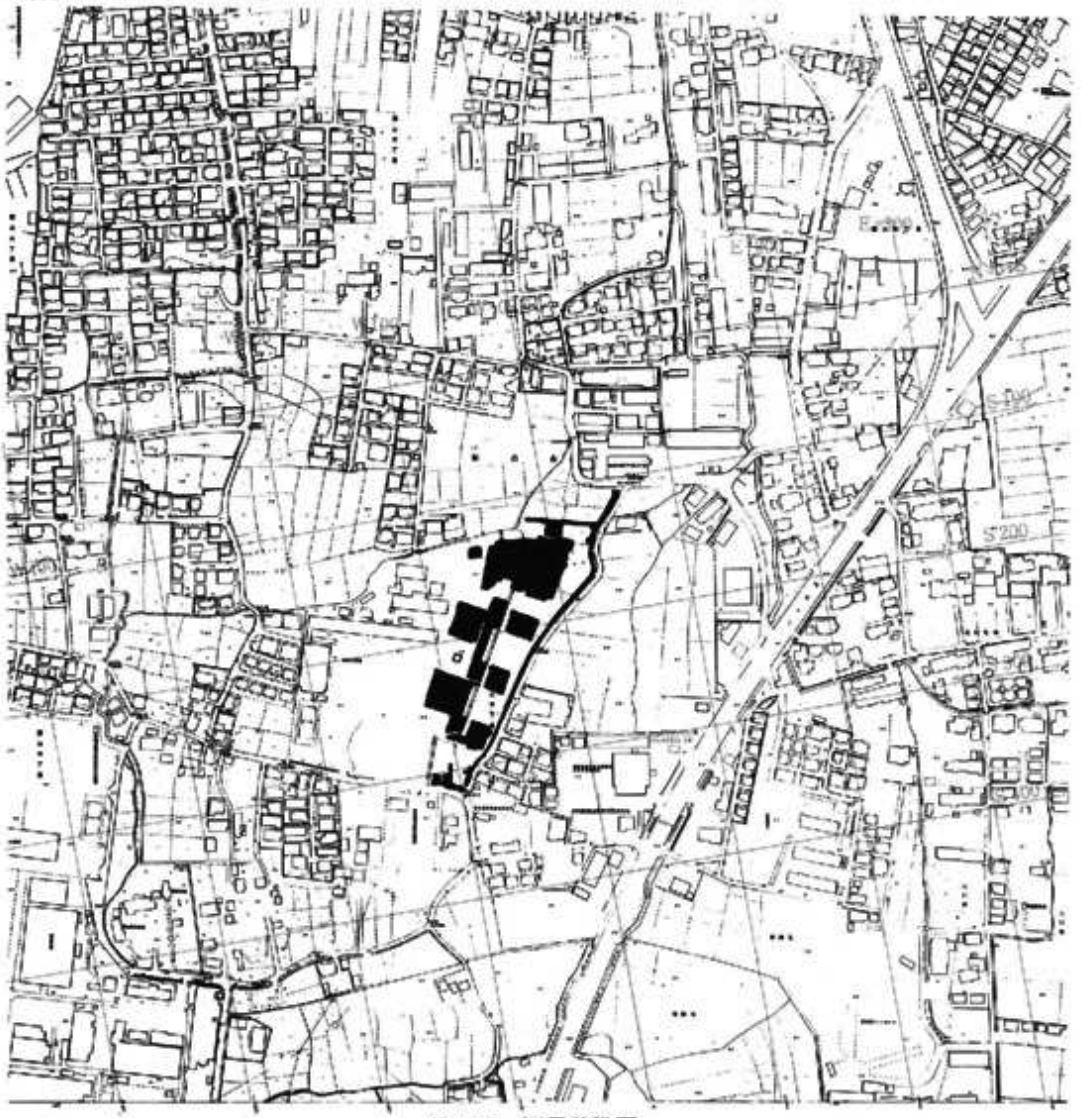
第４図　調査区配置図

を得ず調査区から外した箇所がある。

2．測量の基準と実測図の作成

郡山遺跡は、国庫補助事業による範囲確認調査に伴い昭和55年度に地形図を作成している。地形図には郡山三丁目地内に№1基準点（X＝O、Y＝O）を設定し、磁北線を基準とし座標を表している。遺跡内には計58点の基準点が設置され、海抜高も合わせて表記されている。郡山中学校に関わる調査－第65次調査－もこの座標を使用している。

調査区はS－100～320（基準点№1より南へ100～320m）、W－120～E－60（基準点№1より西へ120mと東へ60m）の範囲内である。調査区内には座標の3m毎に杭や釘を打ち込み、実測図作成上の基準とした。



第5図　測量基準図

実測図の作成にあたっては1/20平面図、断面図を基本としたが、調査区の規模や遺構の分布などに応じて1/40平面図、1/10平面図、断面図を作成した。報告書中の平面図は、掘立柱建物跡など広範囲に渡るものは1/100で、竪穴住居跡、土坑、溝跡などを各々掲載する場合は1/60とした。ただし規模の小さい遺構については1/40で掲載したものもある。

第2節　基本層位

郡山遺跡第65次調査において、以下のような土層が確認された。この層の状況は第65次調査に限るものであって、遺跡全体を包括しているものではない。なお本文中にIV層と記載されているものは、特に断りのない限りIVａ層のことである。

Ⅰａ層　10YR5/2灰黄褐色シルトで、粘性はないがしまりはややある。発掘調査以前の旧耕作土である。

Ⅰｂ層　7.5YR5/2灰黄褐色粘土質シルトで、粘性、しまりともややある。上部に酸化鉄の集積が認められる。

Ⅱａ層　10YR4/2灰黄褐色シルト質粘土で、粘性、しまりともある。

Ⅱｂ層　10YR4/2灰黄褐色粘土で、粘性はあるが、しまりはややある程度である。酸化鉄により赤橙色を帯びている。

Ⅱｃ層　7.5YR4/1褐灰色粘土で、粘性はあるが、しまりはややある程度である。

Ⅱｄ層　2.5Y4/1黄灰色粘土で、粘性はあるがしまりはない。10YR6/3にぶい黄橙色粘土を縞状に2～3枚含んでいる。

Ⅲａ層　7.5YR5/2灰黄褐色粘土質シルトで、粘性、しまりともややある。上面に灰白火山灰を含んでいる。

Ⅲｂ層　5YR5/2灰褐色シルト質粘土で、粘性、しまりともややある。下面の凹凸が著しい。

Ⅳａ層　10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトで、粘性、しまりともややある。官衙の時代の遺構検出面である。

Ⅳｂ層　10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトで、粘性、しまりともややある。

Ⅳｃ層　10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトで、粘性、しまりともややある。

Ⅳｄ層　10YR4/3にぶい黄褐色粘性質シルトで、粘性、しまりともややある。

Ⅳｋ層　10YR3/1黒褐色粘土質シルトで、粘性、しまりともややある。Ⅳａ層の上に堆積し、官衙の時代の遺構検出面である。

Ⅴａ層　10YR6/3にぶい黄橙色粘土質シルトで、粘性はややあるが、しまりはない。

Ⅴｂ層　10YR4/4褐色粘土質シルトで、粘性はややあるが、しまりはない。

VIa層　10YR7/3にぶい黄橙色シルト質粘土で、粘性、しまりともややある。

VIb層　7.5YR7/4にぶい橙色粘土質シルトで、粘性はややあるが、しまりはない。

VIc層　10YR4/1褐灰色粘土で、粘性があり、しまりもややある。7.5YR7/3にぶい橙色粘土と黒色の植物遺体が互層に入り込んでいる。

VIIa層　7.5YR6/2灰褐色粘土で、粘性があり、しまりもややある。弥生時代の畦畔状遺構と遺物を検出している。

VIIb層　7.5YR5/2にぶい褐色粘土で、粘性があり、しまりもややある。VIIa、b層は若干の色調の違いのみで、極めて類似している。

VIII層　7.5YR6/3にぶい褐色粘土で、粘性があり、しまりもややある。

IXa層　7.5YR5/2灰褐色粘土で、粘性があり、しまりもややある。弥生時代の水田跡を検出している。

IXb層　7.5YR6/2灰褐色粘土で、粘性があり、しまりもややある。

Xa層　10YR7/1灰白色粘土で、粘性があり、しまりもややある。

Xb層　10YR7/2にぶい黄橙色粘土で、粘性があり、しまりもややある。

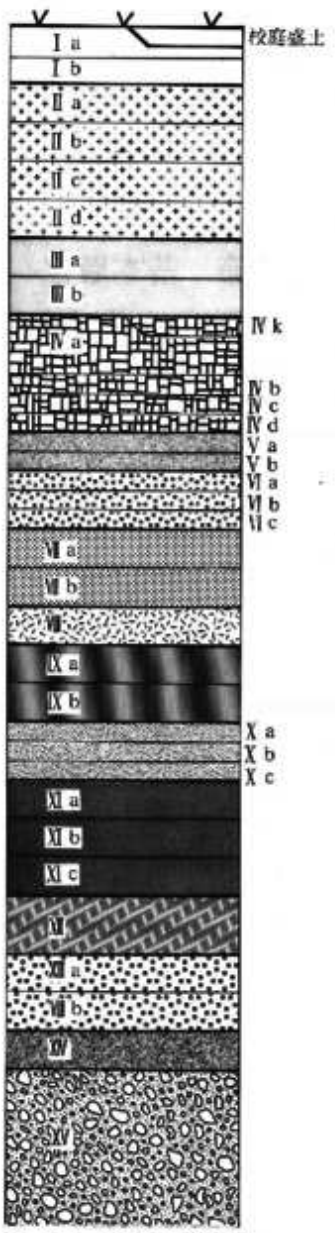
Xc層　7.5YR7/2明褐灰色粘土で、粘性があり、しまりもややある。

XIa層　10YR4/1褐灰色粘土で、粘性が強く、しまりもある。縄文時代の遺物を含んでいる。a、b、c層とも徐々に変化し、各層間の界線は明瞭ではない。

XIb層　10YR5/2灰黄褐色粘土で、粘性が強く、しまりもある。

XIc層　7.5YR5/1褐灰色粘土で、粘性、しまりともある。

XII層　7.5YR6/2灰褐色粘土で、粘性があり、しまりもややある。縄文時代の遺構と遺物を検出している。調査区によってグライ化が著しい箇所がある。



第6図　第65次調査基本層位柱状図

XIIIa層　10YR7/2にぶい黄橙色ロームで、粘性しまりともややある。

XIIIb層　10YR6/2灰黄褐色シルト質粘土で、粘性があり、しまりもややある。

XIV層　7.5YR5/3にぶい褐色粘土質シルトで、粘性はややあるが、しまりはない。

XV層　5G4/1暗緑灰色砂で、粘性はないが、しまりはややある。

XVI層　7.5Y5/2灰オリーブ色シルトで、粘性があり、しまりもややある。

XVII層　10YR4/2オリーブ灰色シルトで、粘性、しまりともある。

XVIII層　2.5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルトで、粘性はややある程度であるが、しまりはある。層下部に炭水化物をブロック状に含んでいる。

XIX層　10GY4/1暗緑灰色砂質シルトで、粘性、しまりともある。未分解の葉などの植物遺体を含んでいる。

XX層　7.5GY4/1暗緑灰色粘土で、粘性はないが、しまりはある。植物遺体を少量含んでいる。

XXI層　10G4/1暗緑灰色砂で、粘性はあるがしまりはない。

XXII層　5G4/1暗緑灰色砂質シルトで、粘性、しまりともややある。木片を帯状に含んでいる。

XXIII層　10BG5/1青灰色砂、粘性はあるがしまりはない。この層より下部は礫層となる。

以上であるが、K区、L区については、IV層以下の堆積状況が基本的に異なること、調査区の幅が狭いため充分な平、断面観察が出来なかったことから、やむをえず独自の層位番号を付けている。

K区

5a層　10YR7/2にぶい黄橙色粘土質シルトで、粘性があり、しまりもややある。

5b層　10YR8/1灰白色粘土質シルトで、粘性があり、しまりもややある。

6層　10YR8/1灰白色粘土で、粘性はあるがしまりはない。上層に砂分が多い。

7層　10YR8/1灰白色粘土質でシルトで、粘性、しまりともある。酸化鉄を多量に含む。

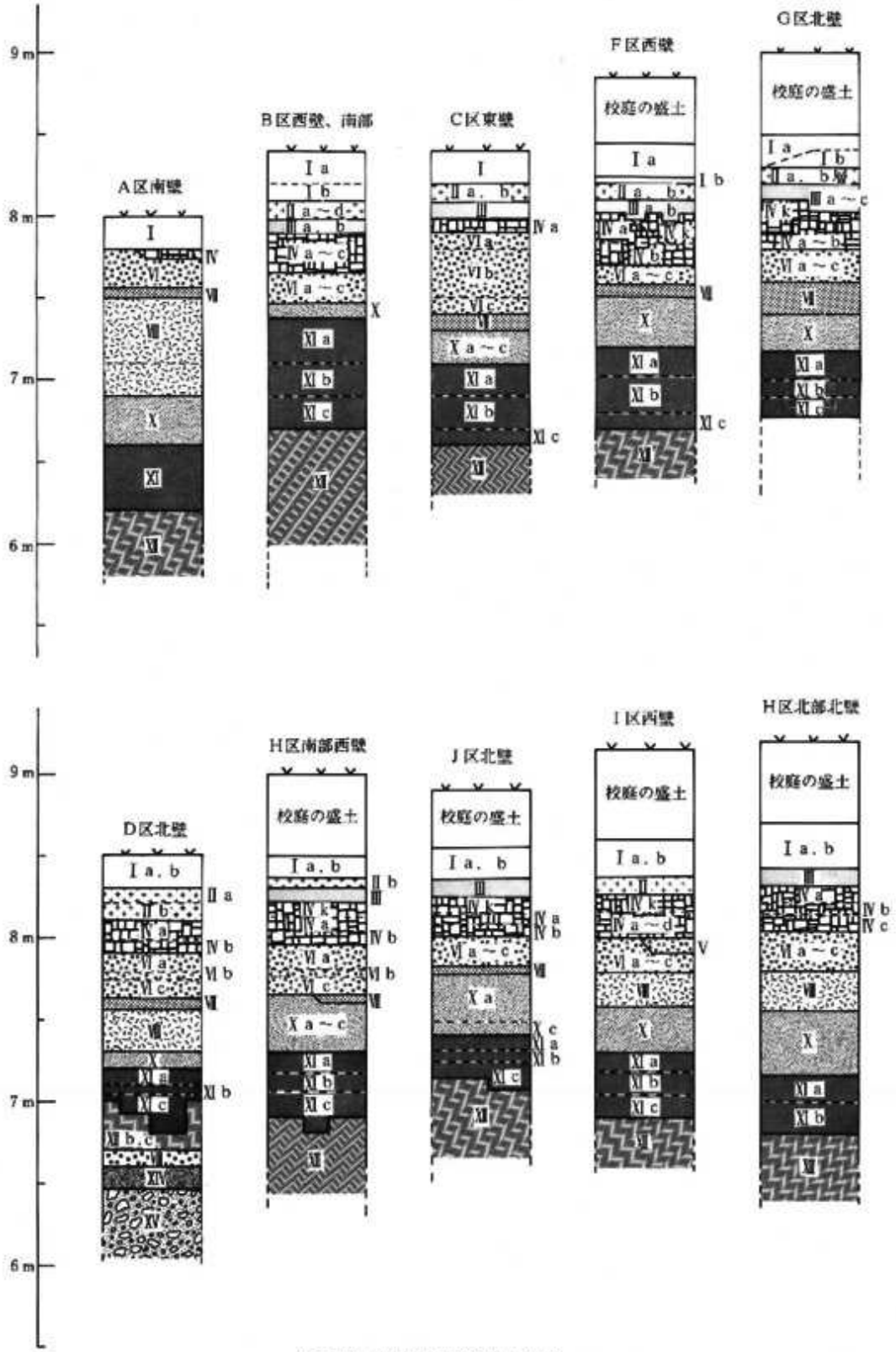
8層　10YR4/1褐灰色粘土で、粘性があり、しまりもややある。弥生時代初頭の土器を出土している。

9層　10YR5/1褐灰色粘土で、粘性があり、しまりもややある。

10層　5G4/1暗緑灰色粘土で、粘性はあるがしまりはない。

L区

5a層　2.5YR7/2灰黄色シルト質粘土で、粘性があり、しまりもややある。酸化鉄を多量に含み、マンガン粒を全体的に斑状に含んでいる。弥生時代中葉の土器を出土している。



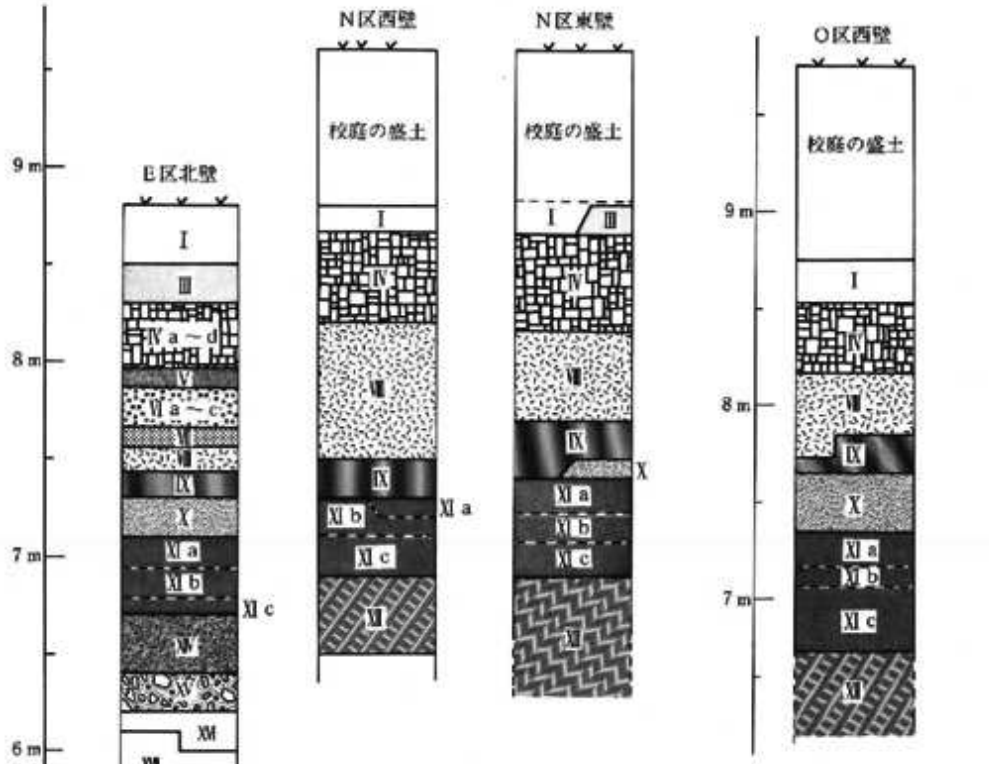
第7図　調査区別柱状図（1）

5 b層　2.5Y6/3にぶい黄色シルト質粘土で、粘性はややある程度であるが、しまりはある。酸化鉄を均等に含んでいる。

6層　2.5Y7/3浅黄色シルト質粘土で、粘性、しまりともややある。酸化鉄を多量に含んでいる。調査区北端において、6層の下部に10Y R5/2灰黄褐色粘土で、炭化物を下層に多量に含む層が若干堆積している。この層は部分的にしか見られない層なので6層として扱った。

7層　2.5Y6/2灰黄色シルト質粘土で、粘性が強く、しまりはややある程度である。

8層　10Y R5/3にぶい黄褐色粘土で、粘性はないがしまりはややある。酸化鉄を多量に含み、粗砂を少量含んでいる。



第9図　調査区別柱状図

第8図　調査区別柱状図（2）—①

9層　10YR4/2灰黄褐色砂で、粘性があり、しまりもややある。粗砂を多量に含み、木片も含んでいる。

10層　5Y7/2灰白色砂で、粘性はないがしまりはややある。

11層　7.5GY5/1緑灰色砂で、粘性は弱いがしまりはある。10YR3/2黒褐色土を層上に薄く含んでいる。

12層　10YR3/3暗褐色砂質粘土で、粘性があり、しまりもややある。炭化物と木片を含んでいる。

13層　10GY6/1緑灰色砂質粘土で、粘性、しまりともややある。炭化物を含む。

14層　10YR6/3にぶい黄橙色砂で、粘性はないがしまりはややある。木片を含む。

またL区の中央部より北側では、8層以下がさらに変化している。

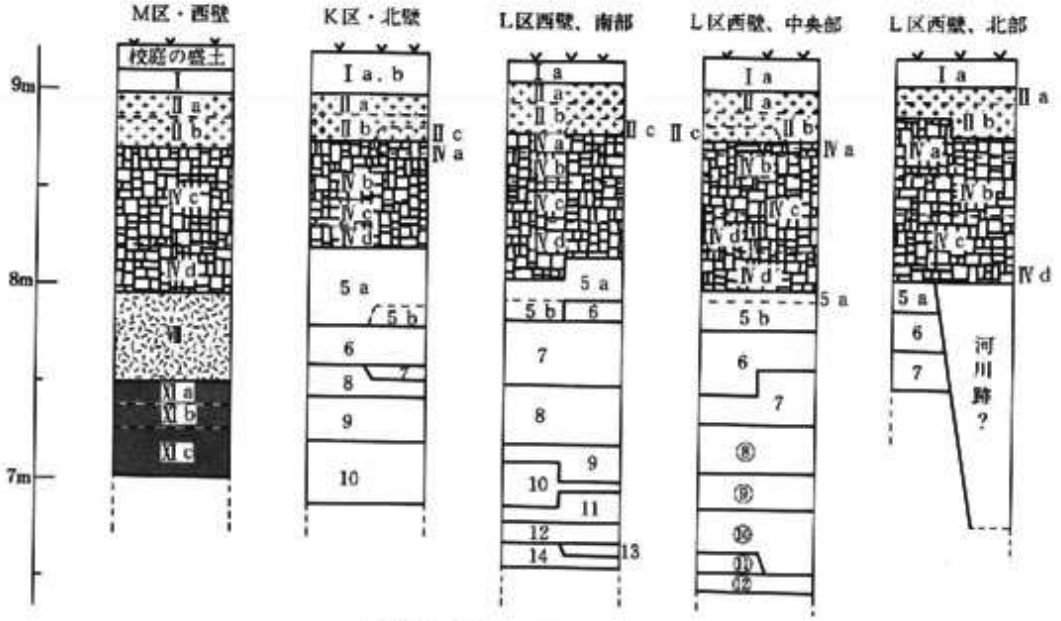
⑧層　10YR5/2灰黄褐色シルト質粘土で、粘性はあるがしまりはない。酸化鉄を上層に少量含んでいる。

⑨層　2.5GY5/1オリーブ灰色シルトで、粘性はややある程度であるがしまりはある。酸化鉄を少量含む。

⑩層　5Y3/1オリーブ黒色シルト質粘土で、粘性はある程度であるがしまりはある。酸化鉄をごく少量含んでいる。

⑪層　10YR1.7/1黒色の炭化物の層である。

⑫層　10GY4/1暗緑灰色シルトで、粘性はないがしまりはある。

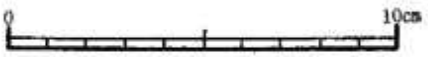


第10図　調査区別柱状図（3）

第３節　発見された遺構と遺物

１．Ｉ層における遺物

Ｉ層は発掘調査が開始されるまで営まれていた水田の耕作土か、昭和36年以前に学校の敷地が造成されるまでの水田の耕作土である。ガラス片などにまじって、土師器坏、甕、Ｃ－82高坏（第11図）。須恵器坏、高台付坏、甕、陶器碗、皿、鉢、凹面に「＋」の筆描きのあるＧ－６平瓦、近世の燻し瓦などの遺物が出土している。



登録番号	種別	器形	部位	層位	外面調整	内面調整
C--82	土師器	高坏	脚部	Ｉ層	ヨコナデ	ヘラケズリ

第11図　Ｉ層出土遺物

２．II層における遺構と遺物

II層において検出された遺構は、土坑12基、水田跡２、溝跡２条、ピットなどである。なおII層上面の遺構の分布範囲はＣ・Ｆ・Ｉ・Ｏ区などに限られている。

ＳＤ931溝跡

〔調査区〕　Ｃ区　　〔検出面〕　II層

〔重複〕　認められない

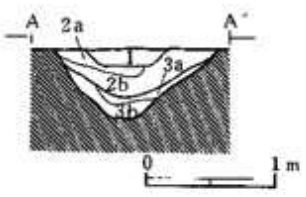
〔規模・平面形〕　長さ24m以上、上幅110～150cm、下幅20～40cm、深さ55cmで、Ｎ－16°－ＥからＮ－62°－Ｗへクランク状に屈曲して延びる溝跡である。

〔堆積土〕　３層に大別され、灰黄褐色シルト質粘土、粘土、黒褐色粘土質シルトなどである。

〔壁・断面形〕　ゆるやかではあるが直線的に立ち上がり、Ｕ字形を呈している。

〔底面〕　ほぼ平坦である。

〔出土遺物〕　堆積中から土師器坏、高坏、甕片、関東系の土師器坏片、須恵器坏、蓋、甕片磁器片が出土している。



SD931
土色註記表

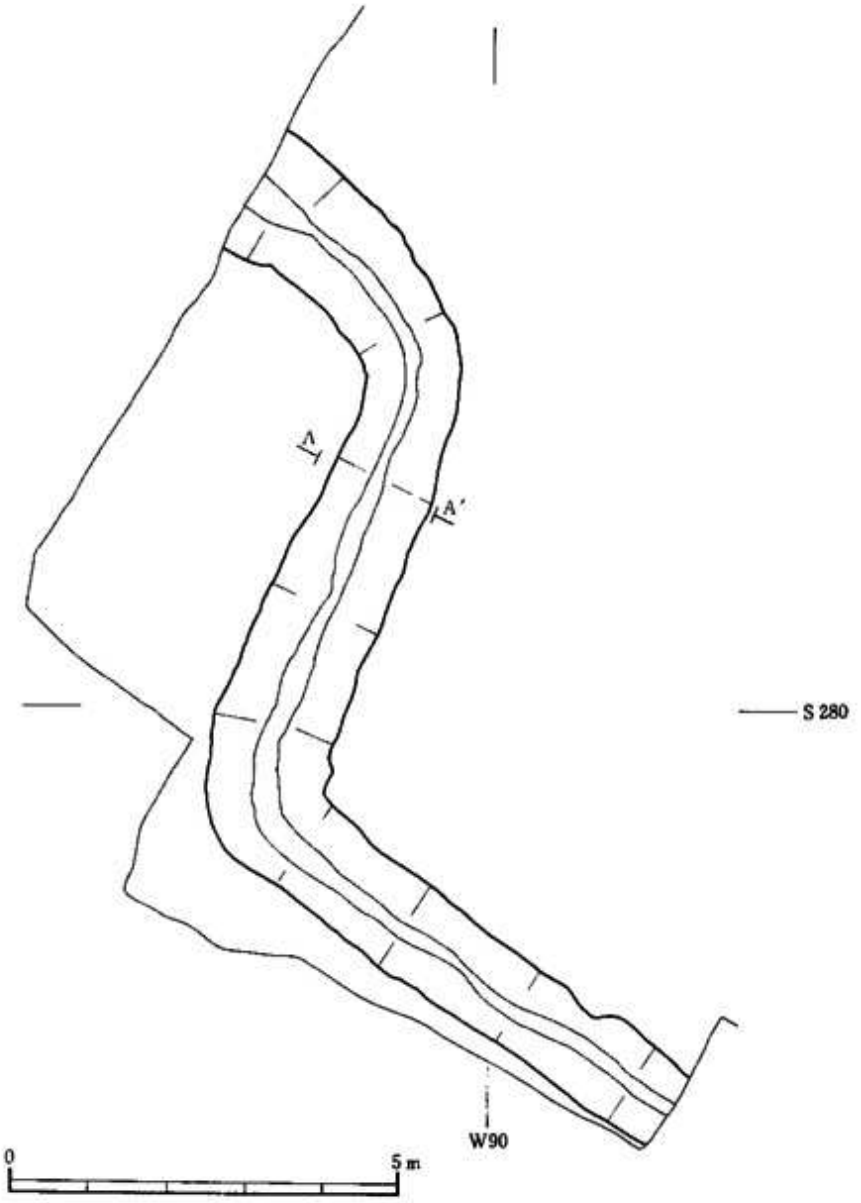
層位	土色	土性	その他
1	10YR 4/1 褐灰色	シルト質粘土	
2a	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	
2b	10YR 3/2 黒褐色	粘土質シルト	
3a	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	酸化鉄を多量
3b	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土	

第12図　ＳＤ931溝跡断面図

ＳＫ932土坑

〔調査区〕　Ｃ区西北　　〔検出面〕　IVａ層（II層上面より掘り込まれている。）

〔検出状況〕　遺構の一部が調査区外に延びている。



第13図　ＳＤ931溝跡平面図

〔重複〕　認められない。

〔規模・平面形〕　長軸2.05m、短軸１.65m、深さ30cmで、不整形である。

〔堆積土〕　単層で10ＹＲ4/1褐灰色粘土質シルトである。

〔壁〕　ゆるやかに立ち上がる。

〔底面〕　平坦な部分が少なく摺鉢状を呈している。

〔出土遺物〕　堆積土中から須恵器片が２点出土している。

ＳＫ933土坑

〔調査区〕　Ｃ区西北　　〔検出面〕　Ⅳａ層（Ⅱ層上面より掘り込まれている。）

〔検出状況〕　遺構の一部が調査区外に延びている。

〔重複〕　認められない。

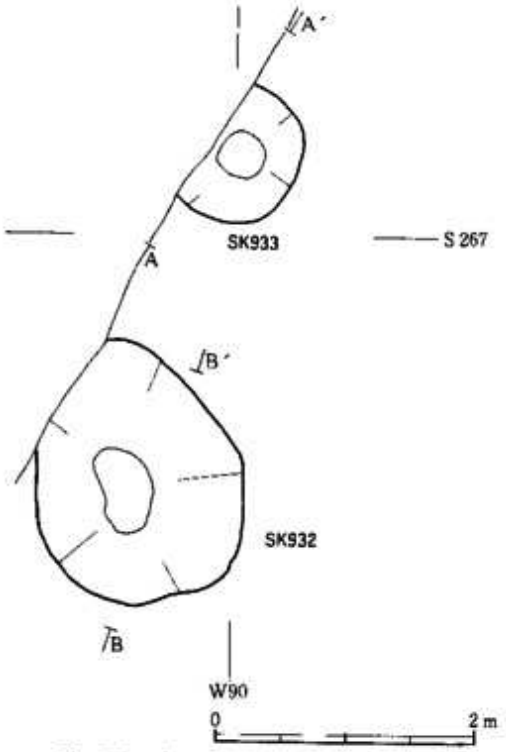
〔規模・平面形〕　東西0.65m 以上、南北1.3m、深さ50cmで、平面形は不明である。

〔堆積土〕　２層に分けられ、灰黄褐色シルト、シルト質粘土などである。

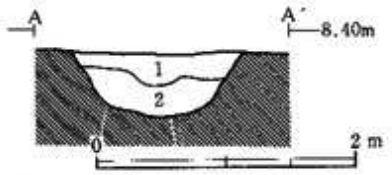
〔壁〕　ゆるやかではあるが、直線的に立ち上がる。

〔底面〕　ほぼ平坦である。

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。



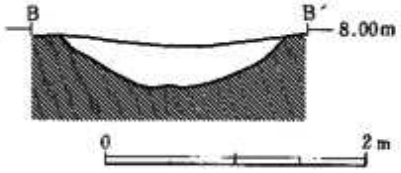
第14図　ＳＫ932・ＳＫ933土坑平面図



ＳＫ933
土色註記表

層位	土　色	土　性
1	10YR 5/2 灰黄褐色	シルト
2	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト

第15図　ＳＫ933土坑断面図



第16図　ＳＫ932土坑断面図

ＳＫ970土坑

〔調査区〕　Ｆａ区　　〔検出面〕　Ⅱ層

〔重複〕　ＳＤ971に切られている。

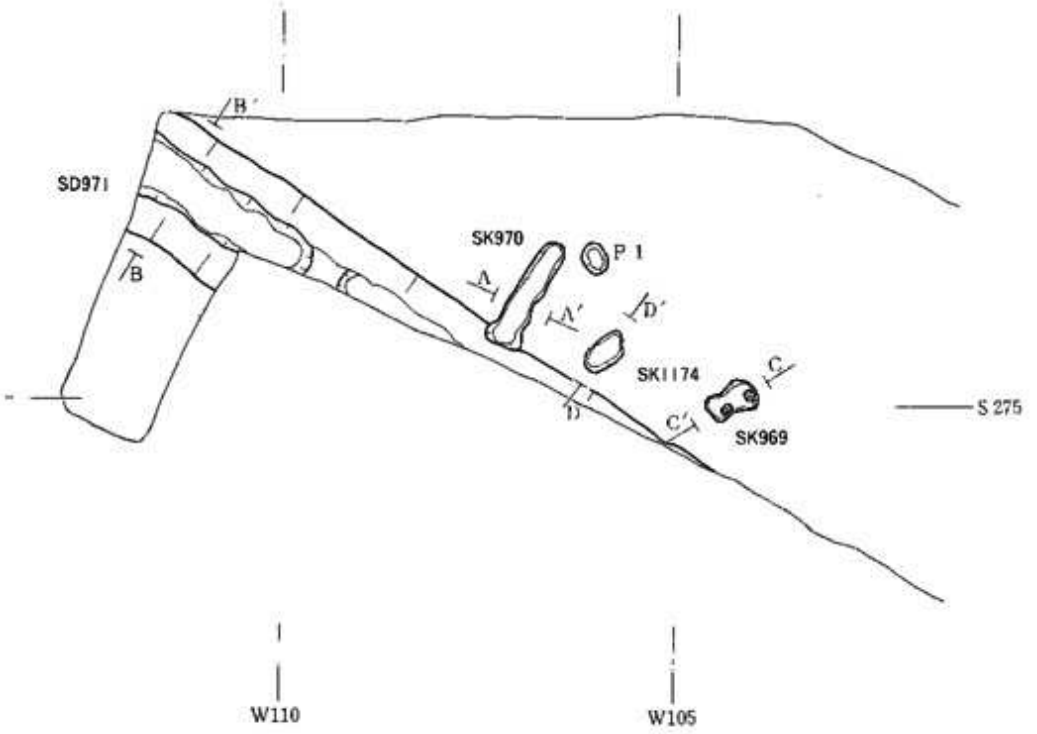
〔規模・平面形〕　長軸1.5m、短軸0.35m、深さ６cm程度で、隅丸長方形である。

〔堆積土〕　10ＹＲ4/1褐灰色シルト質粘土で、暗褐色シルト質粘土をブロック状に含んでいる。

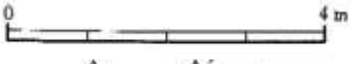
〔壁〕　ゆるやかにわずかに立ち上がる。

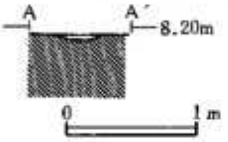
〔底面〕　ほぼ平坦である。

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。

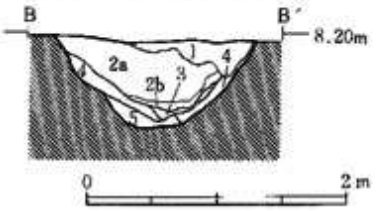


第17図　Ｆａ区　Ⅱ層上面平面図





第18図　ＳＫ970土坑断面図



第19図　ＳＤ971溝跡断面図

ＳＤ971溝跡

〔調査区〕　Ｆａ区　　〔検出面〕　Ⅱ層

〔検出状況〕　ほぼ遺構の南半が調査区外に延びている。

〔重複〕　ＳＫ970に切られている。

〔規模・平面形〕　長さ8.5m以上、上幅150～160cm、下幅40～60cm、深さ55～65cmで、Ｅ－26°－Ｓの方向に延びる溝跡である。

〔堆積土〕　５層に大別され、暗褐色粘土質シルト、シルト質粘土などである。

〔壁・断面形〕　ゆるやかに立ち上がり、Ｕ字形を呈している。

〔底面〕　検出したのは一部であるが、やや凹凸がある。

層位	土　色	土　性	その他
1	10YR　4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	
2a	10YR　3/3 暗褐色	粘土質シルト	
2b	10YR　3/3 暗褐色	粘土質シルト	暗褐色粘土質シルトを含む。
3	7.5YR 5/2 灰褐色	粘　土	
4	10YR　4/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土	
5	10YR　3/3 暗褐色	シルト質粘土	

〔出土遺物〕　堆積土中から少量の土師器坏、高坏、甕片、須恵器坏、蓋、甕片、陶器片、Ｋ－28礫石器（写真図版159-2）が出土している。

ＳＫ969土坑

〔調査区〕　Ｆａ区　　〔検出面〕　Ⅱ層

〔重複〕　認められない。

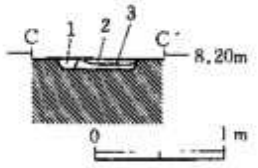
〔規模・平面形〕　長軸0.6m、短軸0.4m、深さ８～24cmで、不整形である。

〔堆積土〕　３層に分けられ、暗褐色、褐灰色シルト質粘土などである。

〔壁〕　ゆるやかに立ち上がるが、上半では直線的に立ち上がっている。

〔底面〕　ほぼ平坦であるが、２ケ所でピット状に落ち込んでいる。

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。



層位	土色	土性
1	10YR 3/3 暗褐色	シルト質粘土
2	10YR 4/1 褐灰色	シルト質粘土
3	10YR 3/2 黒褐色	シルト質粘土

第20図　ＳＫ969土坑断面図

ＳＫ1174土坑

〔調査区〕　Ｆａ区　　〔検出面〕　Ⅱ層

〔重複〕　認められない。

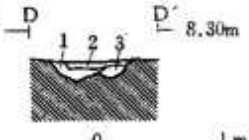
〔規模・平面形〕　長軸0.62m、短軸0.38m、深さ14～18cmで、不整形である。

〔堆積土〕　３層に分けられるが、基本的には黒褐色シルト質粘土のみの堆積である。

〔壁〕　ゆるやかではあるが、やや直線的に立ち上がる。

〔底面〕　凹凸がある。

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。



層位	土色	土性	その他
1	10YR 3/1 黒褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色土を含む。
2	10YR 3/1 黒褐色	シルト質粘土	褐灰色土を含む。
3	10YR 3/1 黒褐色	シルト質粘土	やや明るいにぶい黄褐色土を含む。

第21図　ＳＫ1174土坑断面図

ＳＫ967土坑

〔調査区〕　Ｆｂ区中央　　〔検出面〕　Ⅱ層

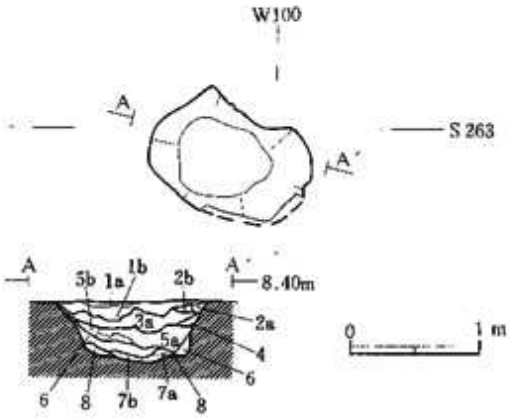
〔検出状況〕　遺構の南東部から削平されている。

〔重複〕　認められない。

〔規模・平面形〕　長軸1.3m、短軸0.8m、深さ45cmで、不整形である。

〔堆積土〕　８層に大別され、暗褐色シルト質粘土、暗緑灰色、灰黄褐色粘土などである。

〔壁〕　直線的に立ち上がり、上半でやや傾斜



層位	土色	土性	その他
1a	10YR 6/1 褐灰色	シルト	
1b	10YR 5/1 褐灰色	シルト	
2a	10YR 3/1 黒褐色	シルト	
2b	10YR 3/2 黒褐色	シルト	
3a	10YR 3/4 暗褐色	シルト質粘土	
3b	10YR 4/1 褐灰色	シルト	
4	10YR 2/3 黒褐色	シルト	
5a	10GY 4/1 暗緑灰色	粘土	黒色粘土ブロックを含む
5b	10GY 4/1 暗緑灰色	粘土	酸化鉄を多量
5c	10GY 4/1 暗緑灰色	粘土	酸化鉄を少量
6	10GY 4/1 暗緑灰色	粘土	明緑灰色粘土を少量
7a	10GY 4/1 暗緑灰色	粘土	
7b	N 5/0 灰色	粘土	
8	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土	酸化鉄

第22図　ＳＫ967土坑平・断面図

が緩くなる。

〔底面〕　ほぼ平坦である。

〔出土遺物〕　堆積土中から土師器甕片が少量出土している。

ＳＫ1105土坑

〔調査区〕　Ⅰ区東南隅　　〔検出面〕　Ⅱ層

〔重複〕　ＳＫ1106に切られている。

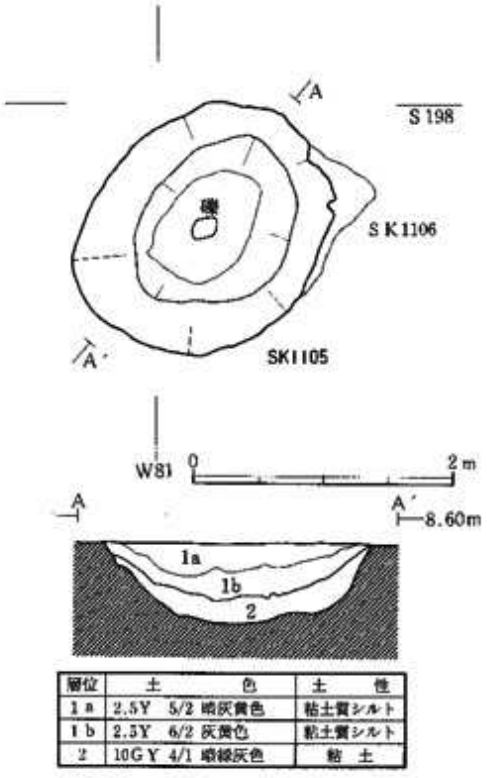
〔規模・平面形〕　長軸2.1m、短軸1.7m、深さ60cm程で、不整楕円形である。

〔堆積土〕　２層に大別され、灰黄色粘土質シルト、暗緑灰色粘土などである。

〔壁〕　ゆるやかに立ち上がる。

〔底面〕　やや凹凸があり、底面にへばりつくように23×17cm程の不整形の礫がある。

〔出土遺物〕　堆積土中から少量の土師器坏、甕片、陶器片、磁器片が出土している。



層位	土色	土性
1a	2.5Y 5/2 暗灰黄色	粘土質シルト
1b	2.5Y 6/2 灰黄色	粘土質シルト
2	10GY 4/1 暗緑灰色	粘土

第23図　ＳＫ1105土坑平・断面図

ＳＫ1104土坑

〔調査区〕　Ⅰ区東南隅　　〔検出面〕　Ⅱ層

〔重複〕　認められない。

〔規模・平面形〕　東西1.51m、南北1.46m、深さ26～38cmで、方形である。

〔堆積土〕　２層に分けられ、暗灰黄色粘土質シルト、黄灰色シルトである。

〔壁〕　やや急に直線的に立ち上がっている。

〔底面〕　ほぼ平坦であるが、北西隅が５cm程ピット状に落ち込んでいる。

〔出土遺物〕　堆積土中から土師器甕片、須恵器甕片が各１点出土している。

ＳＫ1106土坑

〔調査区〕　Ⅰ区東南隅　　〔検出面〕　Ⅱ層

〔重複〕　ＳＫ1105を切っている。

〔規模・平面形〕　長軸1.8m、短軸0.7m、深さ６cmで、不整形である。

〔堆積土〕　単層で、2.5Y4/1黄灰色シルトである。

〔壁〕　立ち上がりは一定していない。

〔底面〕　凹凸がある。

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。

〔その他〕　ＳＫ1107に連続する可能性がある。

ＳＫ1107土坑

〔調査区〕　Ⅰ区東南端

〔検出面〕　Ⅱ層

〔検出状況〕　遺構の一部を調査区内で検出した。

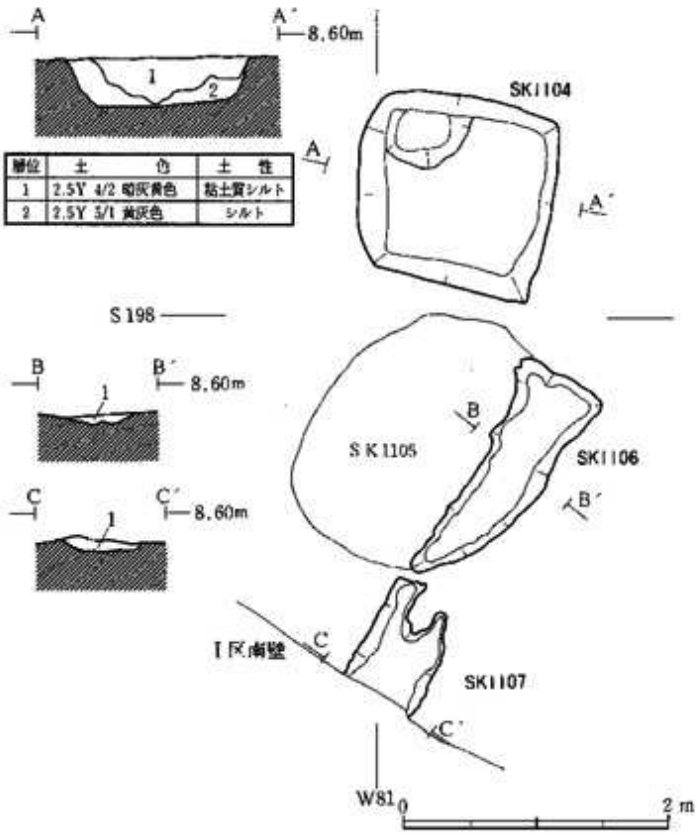
〔重複〕　認められない。

〔規模・平面形〕　長軸0.9m、短軸0.63m、深さ７cmで、平面形は不明である。

〔堆積土〕　単層で、2.5Y4/1黄灰色シルトである。

〔壁〕　立ち上がりは一定していない。

〔底面〕　やや凹凸がある。



第24図　ＳＫ1104・ＳＫ1106・ＳＫ1107土坑平・断面図

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。

〔その他〕　ＳＫ1106に連続する可能性がある。

ＳＫ1323土坑

〔調査区〕　Ｏ区　　〔検出面〕　Ⅱｄ層

〔重複〕　他の遺構との重複はない。

〔規模・平面形〕　長軸1.65m、短軸0.65m、深さ20cmで、隅丸方形である。

〔堆積土〕　２層に分けられ、暗褐色シルトないしシルト質粘土である。

〔壁〕　緩やかに立ち上がっている。

〔底面〕　平坦である。

〔出土遺物〕　陶器を出土している。

ＳＫ1325土坑

〔調査区〕　Ｏ区　　〔検出面〕　Ⅱｄ層

〔重複〕　ＳＤ1323溝跡を切っている。

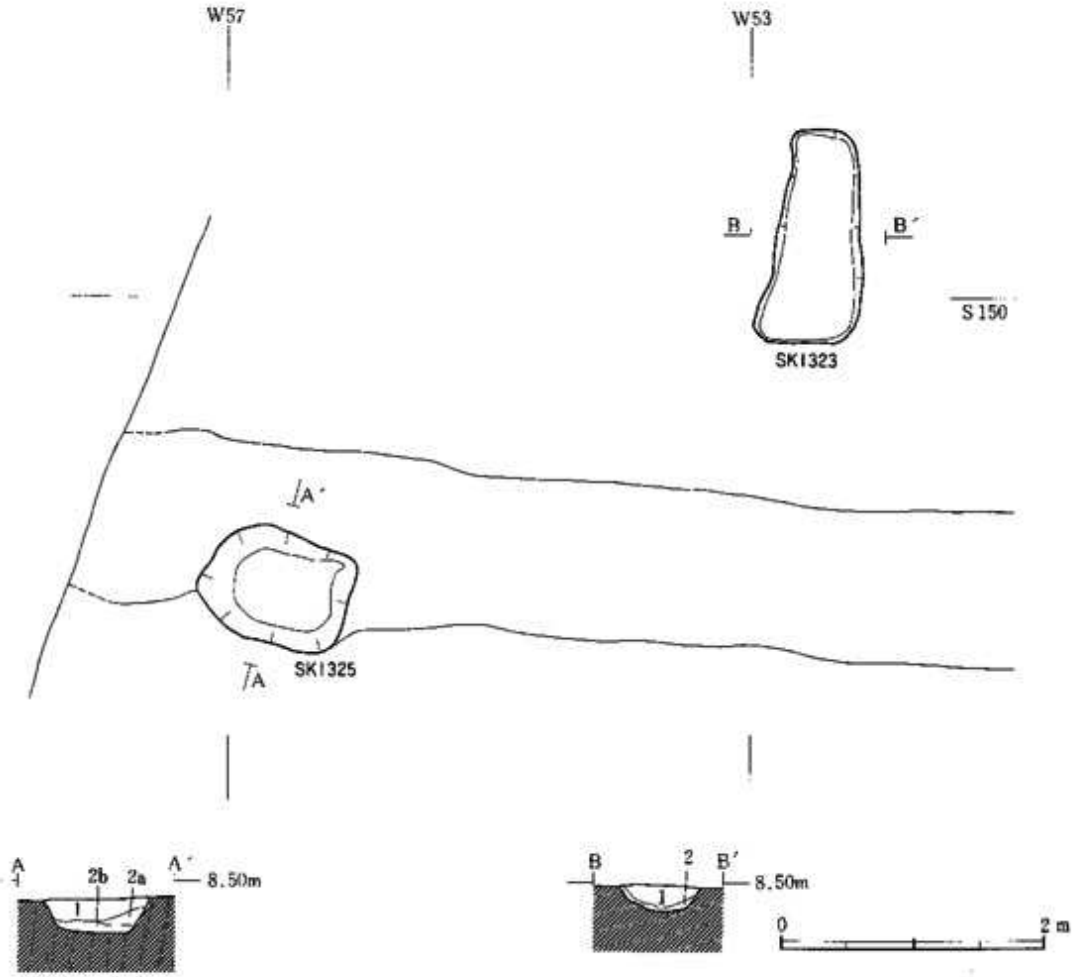
〔規模・平面形〕　長軸1.15m、短軸0.85m、深さ28cm、隅丸方形である。

〔堆積土〕　3層に分けられ、褐灰色ないし灰褐灰色の粘土質シルトである。

〔壁〕　急に立ち上がっている。

〔底面〕　平坦である。

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。



SK1325A-A′

層位	土色	土性	その他
1	10YR 4/1 褐灰色	粘土質シルト	褐色・黒褐色の粘土質シルトを斑に含む。
2a	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	
2b	10YR 5/1 灰褐色	粘土質シルト	

SK1323B-B′

層位	土色	土性	その他
1	10YR 3/3 暗褐色	シルト	酸化鉄・マンガン粒を含む。
2	10YR 3/3 暗褐色	シルト質粘土	酸化鉄・炭化物を少量含む。

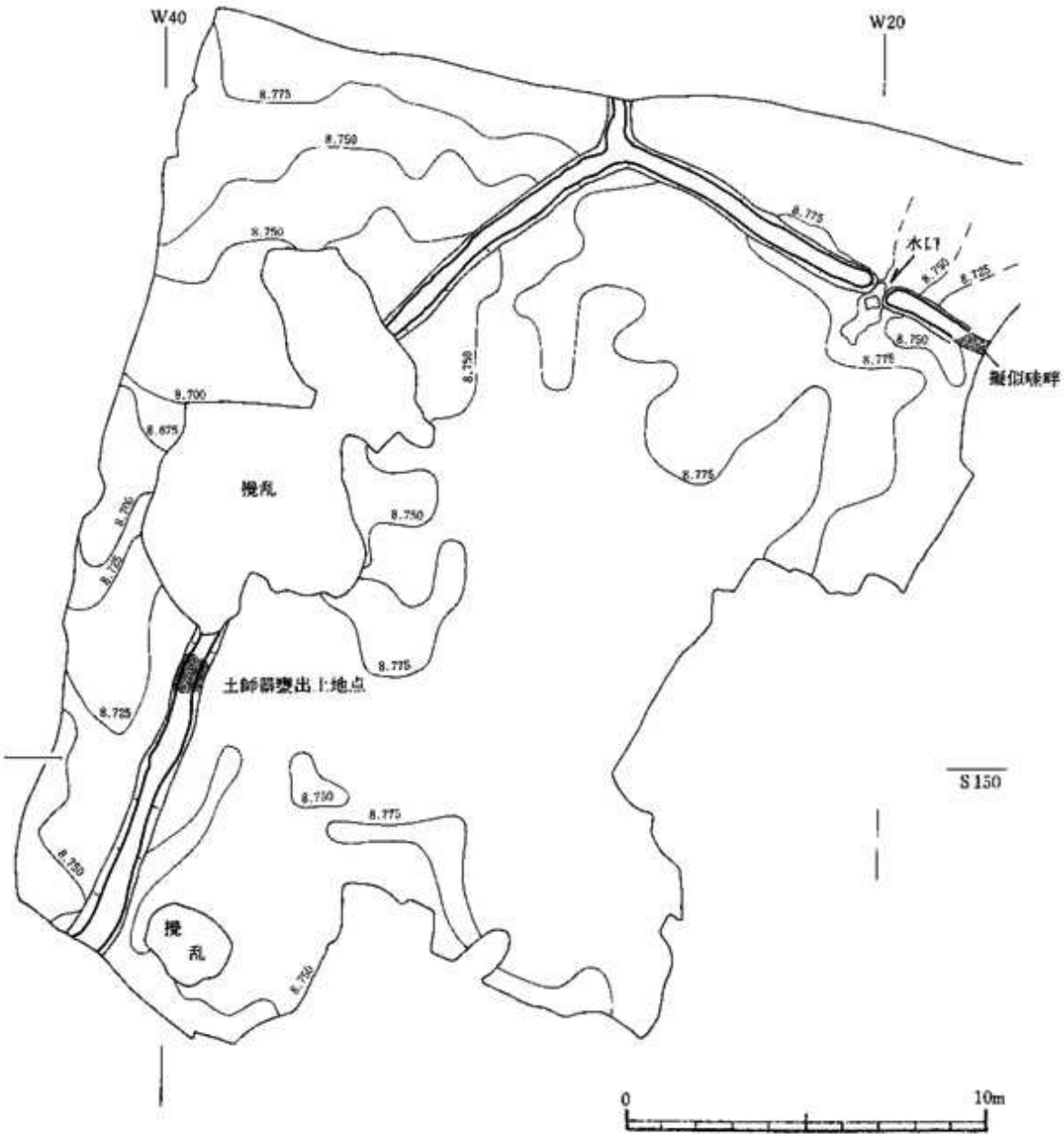
第25図　ＳＫ1323・ＳＫ1325土坑平・断面図

IIb層　水田跡

〔調査区〕　O区　　〔検出面〕　IIb層

〔検出・重複〕　IIa層を除去しながら、畦畔、水口を検出した。中学校施設の基礎、用水堀などによる撹乱を受けている。他の遺構との重複は認められない。

〔水田の構成・形状・規模〕　三叉に交差する畦畔、水口を検出した。



第26図　IIb層水田跡平面図・等高線図

（畦畔）

区画は方形と推定されるが、完全な一筆をなす水田区画は検出されていない。畦畔の規模は上端幅35～75cm、下端幅65～120cm、作土上面からの高さは2～6cmを、N－33～63°－E（検出長27m）、N－7°－W（同1.5m）、E－23°－S（同11m）の方向を示す3本の畦畔が、調査区北端で交差している。土壌は粘土質シルトの盛り土畦畔である。畦畔下面で擬似畦畔を確認している。

（水口）

水田の標高は8.80m～8.75mで、北側の水田区画と南側とでは1～3cmの標高差があり、E－30°－Sの方向の畦畔の50cmほど途切れた水口の付近では、水流による数cm程度の作土上面の凹みが確認された。

（作土）

厚さ10～15cm程度である。畦畔下部では擬似畦畔を検出した。作土下面には鉄分の集積が認められた。

〔出土遺物〕

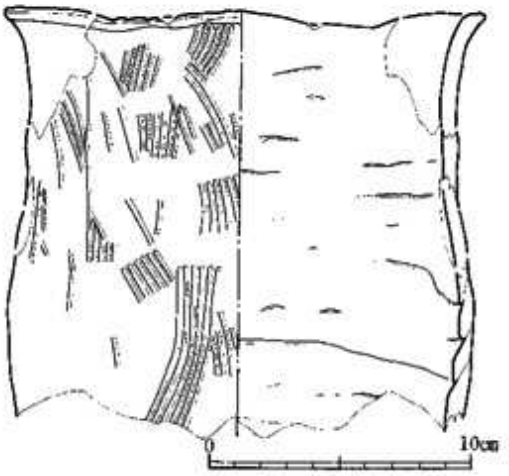
O区南側の畦畔下部より、土師器C－122甕が一括出土した。その他には、土師器坏・甕、須恵器坏・高台付坏・甕、古銭N－66などが出土している。

〔水田跡の時期〕

水田跡は、地形を考慮し等高線に平行・直交する畦畔によって構成されている。宋銭とみられる出土遺物から、中世期に属するものと考えられる。

〔その他〕

IIb層の分布は、O区の東半を中心に確認されており、層厚は10～15cmほどで、北側で厚く、南側で薄い。N区ではI層水田（現代）の耕作によってO区より一段低く削平されており、西側の一部を除き検出できなかった。IIb層の標高は、8.8～8.7m前後で、IIb層の地形は、北から南、西から東に傾斜している。



登録番号	種別	器形	整代	外面調整			内面調整			法量(cm)			残存	備考	写真図版
				口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	口径	器高	底径			
C－122	土師器	甕	肥塚	ハケメ			不明（輪積み痕のみ）			36.7以上	18.4	—		第IIa	

第27図　IIb層水田跡出土遺物

IIc層擬似畦畔

〔調査区〕　O区　　〔検出面〕　IIc層

〔検出・重複〕　O区のＳＢ1320堀立柱建物跡の東端の柱掘り方とＳＤ1322溝跡を南北方向に切っている。方向Ｎ－26°－Ｅ、幅４～6.5m、長さ31mほどの帯状に凹んだ部分に堆積するⅡｃ層上面で検出された。

〔擬似畦畔の形状と規模〕　区画は不明である。規模は幅25～50cm、長さ4.5mと5.7m、方向はＥ－33°－Ｓを測る、8m程度の間隔をおいて並行する２本を検出した。擬似畦畔は酸化鉄とマンガンを多く含み、Ⅱｃ層と同じ土壌である。

〔出土遺物〕　土師器坏・甕、須恵器坏・蓋・甕、Ｋ－179礫石器Ｋ－183剝片（写真図版71－５）などを出土している。

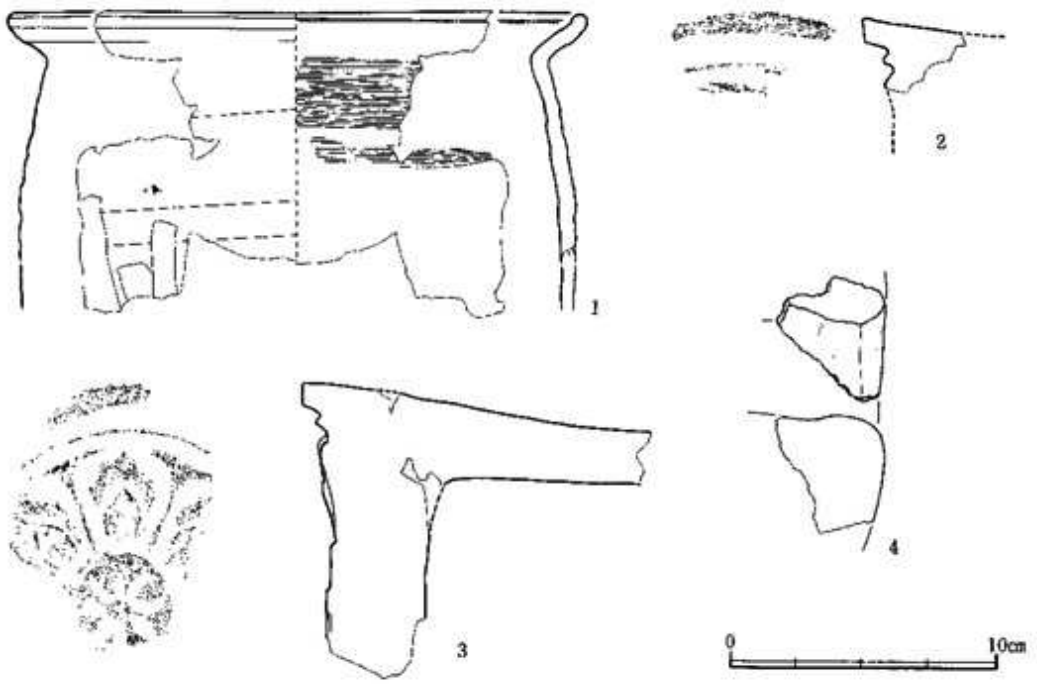
第28図　Ⅱｃ層擬似畦畔平面図

〔水田跡の時期〕　出土遺物には古代を下るものは含まれてないが、灰白色火山灰を含む下層のⅢ層の所属時代よりも年代が下がるものとして、中世期に属するものとみなしたい。

〔その他〕　Ⅱｃ層は、Ⅳ層上面検出のＳＢ1320堀立柱建物跡の一部とＳＤ1322溝跡を切って、O区を南北方向に帯状に分布している。層厚は３～15cmほどである。

なお、Ⅱ層中あるいは上面よりの出土遺物は、土師器、須恵器、古代の瓦Ｆ－２軒丸瓦、Ｆ－４軒丸瓦、近世の丸瓦（Ｆ－７）、近世の陶器（Ｉ－４七輪＜堤焼＞）、Ｋ－175滑石製賽子、Ｊ－３、４青磁器碗、Ｎ－20鉄斧、Ｎ－41永楽通寶、Ｎ－46鉄釘、鉄滓などがある。図示できるものは、以下のとおりである。

第29図　Ⅱ層からの出土遺物（１）



番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整			内面調整			法量(cm)			残存	備考	写真図版
						口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	器高	口径	底径			
29－1	N－19①	金属製品	不明	F区	Ⅱ層中	—	—	—	—	—	—	たて 7.2	よこ 0.7～1.6	厚さ 0.6～0.8			—
29－2	N－19②	金属製品	不明	F区	Ⅱ層中	—	—	—	—	—	—	たて 6.8以上	よこ 0.4～1.2	厚さ 0.6～0.9			—
29－3	N－20	鉄製品	鉄斧	G区	Ⅱ層中	—	—	—	—	—	—	長さ 6.5以上	幅 3.2～4.3	厚さ ～1.2			—
29－4	E－44	須恵器	坏	G区	Ⅱ層中	—	ヘラケズリ	—	—		—	—	—	—	破片		—
30－1	D－4	土師器	壺	J区	Ⅱ層上面	ロクロナデ	ロクロナデ 部ヘラケズリ	—	ロクロナデ	・ヘラナデ	—	11.9以上	(22.1)	—	1/10	ロクロ使用	—
30－2	F－2	瓦	軒丸瓦	H区	Ⅱ層上面							—	直径 (17.0)	—			—
30－3	F－4	瓦	軒丸瓦	I区	Ⅱ層上面							—	—	—			—
30－4	K－167	磨石器	不明	F区	Ⅱ層中	敲面あり							—				—

第30図　Ⅱ層からの出土遺物（2）

3．Ⅲ層における遺構と遺物

Ⅲ層において検出された遺構は、土坑4基、溝跡5条、水田跡1などである。Ⅲ層の分布範囲は、かなり限定されており遺構数も少ない。

調査区南端（B区）から北端（K区）まで延びているSD345溝跡は、基本層位の堆積状況によって、Ⅲ層あるいはⅣ層上面で検出されるなど地区により異なっている。ここでは掘り込まれた層位を検出面として扱っているため、Ⅲ層における遺構として掲載する。ただし、Ⅲ層の堆積していない調査区では、Ⅳ層上面での平面図である。また、F・G・H区のⅣ層上面で掘立柱建物跡や一本柱列を検出し、その直上層であるⅢ層下面からⅣ層上面にかけて多量の土師器、須恵器を出土している。この遺物の出土は、きわめて限定的な範囲であり、遺構との関連が強いと考えられるため、これらについては次項の4－(1)掘立柱建物跡のG区出土遺物で掲載している。

SK972土坑

〔調査区〕　G区　　〔検出面〕　Ⅲ層

〔重複〕　認められない。

〔規模・平面形〕　長軸2.3m、短軸1.5m、深さ75cmで、ほぼ楕円形である。

〔堆積土〕　3層に大別され、灰黄褐、灰色砂質シルト、褐灰色粘土質シルトなどである。

〔壁〕　ゆるやかに立ち上がる。

〔底面〕　摺鉢状の底面を呈するが、南側深さ45cm程のところで部分的に平坦となり、テラス状の段を形成している。

〔出土遺物〕　堆積土中から土師器坏、甕片と、少量の須恵器坏、蓋、甕、壺片が出土している。

SK973土坑

〔調査区〕　G区　　〔検出面〕　Ⅲ層

〔重複〕　認められない。

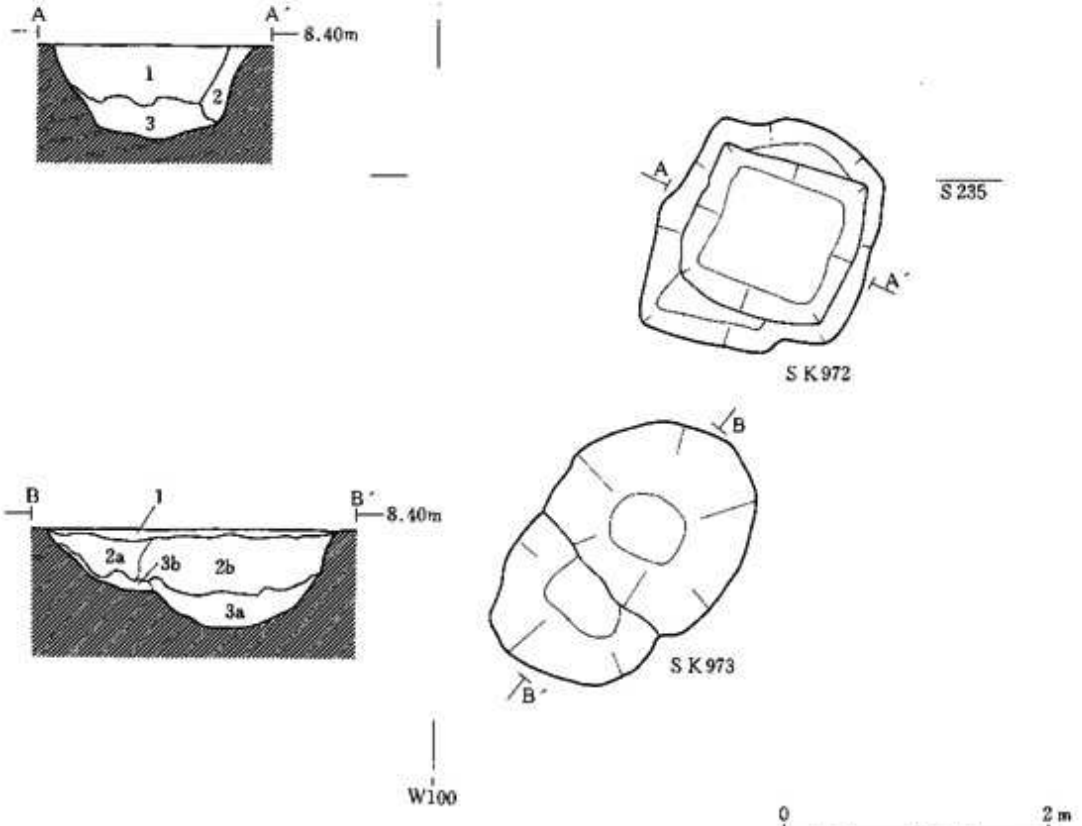
〔規模・平面形〕　長軸1.8m、短軸1.65m、深さ74cmで、不整形であるが、下半に至って一辺1.2mの方形となる。

〔堆積土〕　3層に分けられ、褐灰色砂質シルト、灰色粘土質シルトなどである。

〔壁〕　上半ではやや緩やかであるが、ほぼ直線的に立ち上がる。

〔底面〕　ほぼ平坦であるが、中央付近がやや凹んでいる。

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。



SK972

層位	土色	土性	その他
1	10YR 6/1 褐灰色	砂質シルト	
2	10YR 6/1 褐灰色	砂質シルト	暗褐色粘土質シルトをきむ
3	5Y 5/1 灰色	粘土質シルト	

SK973

層位	土色	土性	その他
1	10YR 6/2 灰黄褐色	砂質シルト	
2a	7.5Y 6/1 灰色	砂質シルト	
2b	7.5Y 6/1 灰色	砂質シルト	黄褐色粘土質シルトを含む
3a	10YR 5/1 褐灰色	粘土質シルト	暗褐、黄橙色粘土質シルトを含む
3b	10YR 5/1 褐灰色	粘土質シルト	

第31図　SK972・973土坑平・断面図

SD977溝跡

〔調査区〕　Fb区　　〔検出面〕　III層

〔検出状況〕　遺構の南端部分のみ調査区外に延びている。

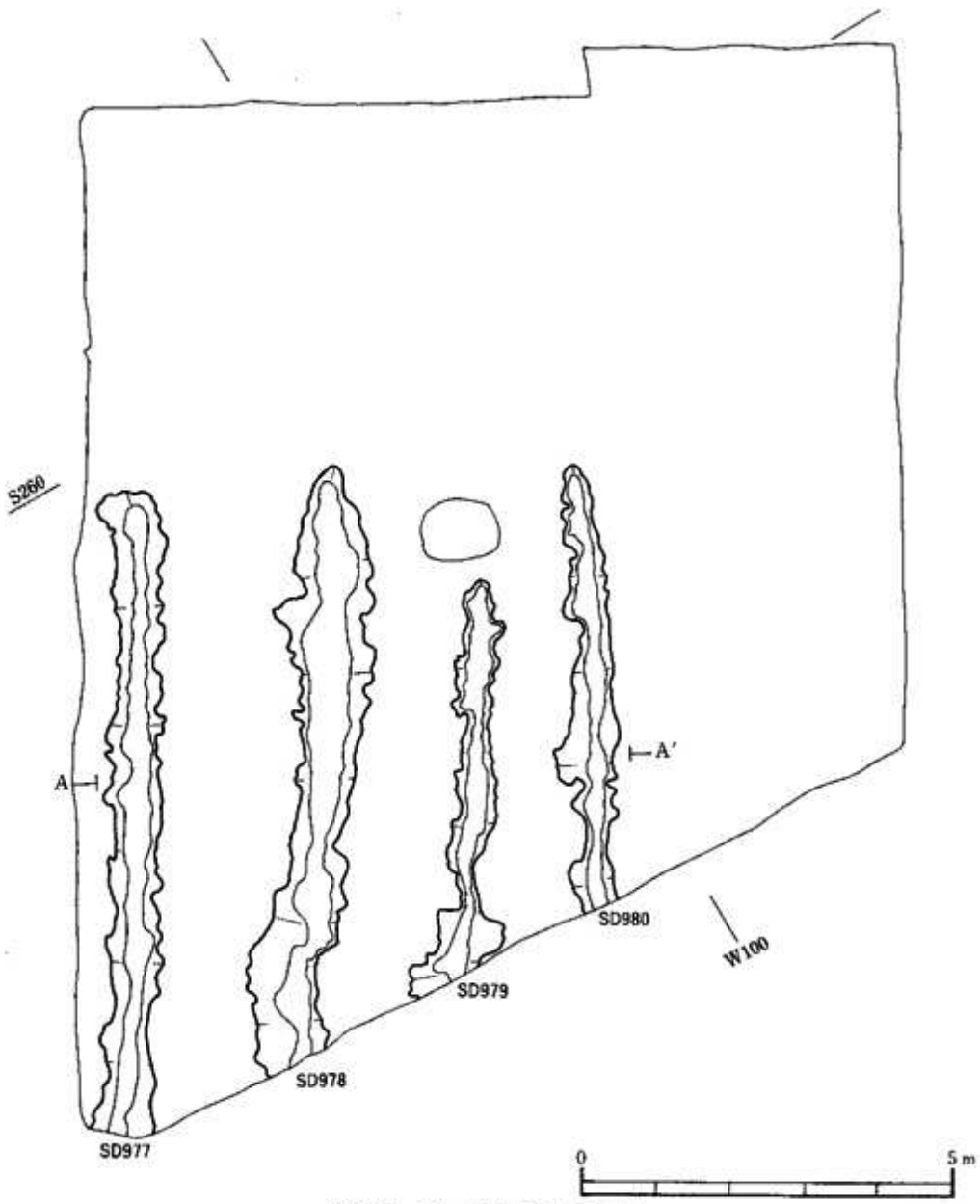
〔重複〕　認められない。

〔規模・平面形〕　長さ8.7m以上、上幅44～75cm、下幅14～42cm、深さ8～11cmで、N－26°－Eの方向に延びる溝跡である。

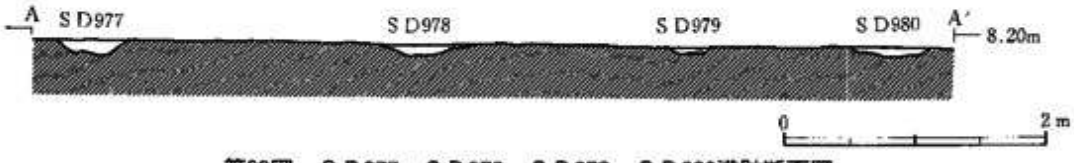
〔堆積土〕　単層で、10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトである。

〔壁・断面形〕　ゆるやかではあるが直線的に立ち上がり、逆台形を呈する。

〔底面〕　やや凹凸がある。



第32図　Ｆｂ区Ⅲ層上面平面図



第33図　ＳＤ977・ＳＤ978・ＳＤ979・ＳＤ980溝跡断面図

〔出土遺物〕　堆積土中から土師器坏、甕片、須恵器坏、蓋、高坏片が出土している。

ＳＤ978溝跡

〔調査区〕　Ｆｂ区　〔検出面〕　Ⅲ層

〔検出状況〕　遺構の南端部分のみ調査区外に延びている。

〔重複〕　認められない。

〔規模・平面形〕　長さ８ｍ以上、上幅57～120cm、下幅15～70cm、深さ７～10cmで、Ｎ－26°－Ｅの方向に延びる溝跡である。

取掛番号	種別	器形	出土遺物	層位	外面調整	
					つまみ部	体部～端部
E－13	須恵器	蓋	SD-978	覆土	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→ロクロナデ

内面調整			法量(cm)			残存	備考	写真図版
体部	天井部	口部	器高	口径	底径			
ロクロナデ	ロクロナデ	—	3.4	12.4	—	3/4	蓋11	—

第34図　ＳＤ978溝跡出土遺物

〔堆積土〕　単層で、10ＹＲ4/3にぶい黄褐色粘土質シルトである。

〔壁・断面形〕　きわめてゆるやかに立ち上がり、逆台形あるいは舟底形である。

〔底面〕　やや凹凸がある。

〔出土遺物〕　堆積土中から土師器坏、甕片、須恵器坏、Ｅ－13蓋（第34図）甕片が出土している。

ＳＤ979溝跡

〔調査区〕　Ｆｂ区　〔検出面〕　Ⅲ層

〔検出状況〕　遺構の南端部分のみ調査区以外に延びている。

〔重複〕　認められない。

〔規模・平面形〕　長さ５ｍ以上、上幅23～83cm、下幅15～45cm、深さ４～10cmで、Ｎ－27°－Ｅの方向に延びる溝跡である。

〔堆積土〕　単層で、10ＹＲ4/3にぶい黄褐色粘土質シルトである。

〔壁・断面形〕　ゆるやかに立ち上がり、逆台形を呈する。

〔底面〕　やや凹凸がある。

〔出土遺物〕　堆積中から少量の土師器坏、甕片が出土している。

ＳＤ980溝跡

〔調査区〕　Ｆｂ区　〔検出面〕　Ⅲ層

〔検出状況〕　遺構の南端部分のみ調査区以外に延びている。

〔重複〕　認められない。

〔規模・平面形〕　長さ６ｍ以上、上幅24～77cm、下幅14～35cm、深さ５～９cmでＮ－30°－Ｅの方向に延びる溝跡である。

〔堆積土〕　単層で、10ＹＲ4/3にぶい黄褐色粘土質シルトである。

〔壁・断面形〕　ゆるやかに立ち上がる部分と、直線的に急に立ち上がる部分がある。断面形

は舟底形あるいは逆台形である。

〔底面〕　やや凹凸がある。

〔出土遺物〕　堆積土中から土師器坏、甕片と少量の須恵器坏、甕片が出土している。

ＳＤ345溝跡

〔調査区〕　Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｎ・Ｍ・Ｋ区

〔検出面〕　Ｂ区－Ⅳ層上面、Ｃ区－Ⅲ層上面、Ｄ区－Ⅳ層上面、Ｅ区－Ⅳ層上面、Ｎ区－Ⅳ層上面、Ｍ区－Ⅳ層上面、Ｎ区－Ⅳ層上面

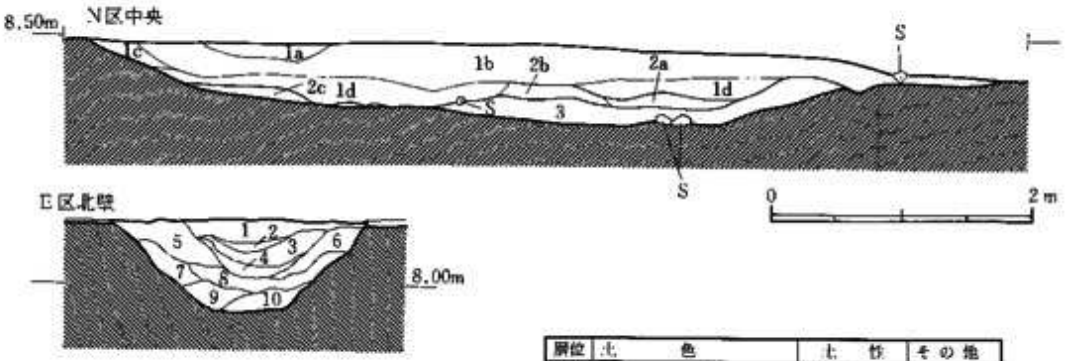
各調査区により基本層位の堆積状況が異なっているため、検出される層位が地区によって違いがある。

〔重複〕　ＳＩ946（Ｃ区）、ＳＸ934、ＳＤ347（Ｄ区）、ＳＫ1318、ＳＤ920、ＳＩ920、ＳＩ1200、ＳＫ1301、ＳＢ1306、ＳＢ1191（Ｎ区）、ＳＤ1166（Ｍ区）を切り、ＳＸ924（Ｂ区）、ＳＤ349（Ｃ区）、ＳＤ1164（Ｎ、Ｍ区）に切られている。

〔規模・平面形〕　長さ206m以上、Ｅ区の南半部で最も細く上幅110cm、下幅22cm、Ｎ区の南半部で最も太く上幅９ｍ、下幅4.6mである。掘り込まれた上面からの深さは、30～75cmである。北端のＫ区から南端のＢ区までで底面の高さが97.5cmほど低くなっている（第２表参照）。Ｎ－23°－Ｅの南北方向に延びる溝跡である。

〔堆積土〕　地点により堆積土の色調にはばらつきがあるが、主にシルト土である。

〔壁・断面形〕　ゆるやかに立ち上がり、逆台形あるいは扁平なＵ字形を呈する箇所が多い。



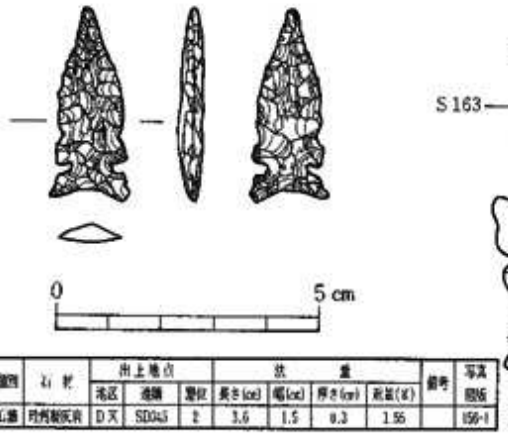
層位	土色	土性	その他
N区			
1a	10YR 3/3 暗褐色	粘土質シルト	
1b	10YR 4/4 褐色	シルト	
1c	10YR 4/3 にぶい黄褐色	シルト	
1d	10YR 5/2 灰黄褐色	シルト	炭化物
2a	10YR 3/3 暗褐色	シルト	
2b	10YR 3/2 黒褐色	粘土質シルト	
2c	10YR 4/4 褐色	粘土質シルト	
3	10YR 4/4 褐色	粘土質シルト	砂を含む

層位	土色	土性	その他
E区			
1	10YR 4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	
2	10YR 3/2 黒褐色	粘土	
3	10YR 5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	
4	10YR 6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	
5	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	
6	10YR 3/4 暗褐色	粘土	
7	10YR 3/4 暗褐色	粘土	マンガン
8	10YR 4/4 褐色	砂質シルト	
9	10YR 5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	
10	10YR 5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	

第35図　ＳＤ345溝跡断面図

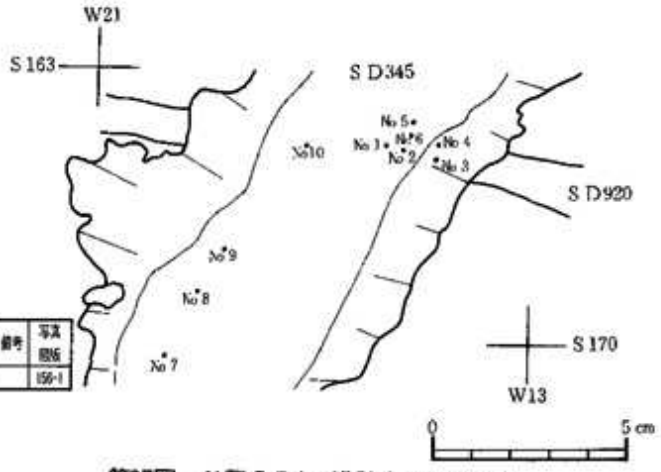
〔底面〕　平坦である。南から北へ傾斜して低くなっている。

〔出土遺物〕　堆積土中からE－5円面硯（第167図2）の一部、ロクロ使用のD－6土師器甕（第43図2）、軒丸瓦F－1（第43図1）、F－6（第43図3）や、その他土師器、須恵器、陶器、古銭（第38図）、K－1石鏃（第36図）、礫石器（第42・47・48図）などが出土している。

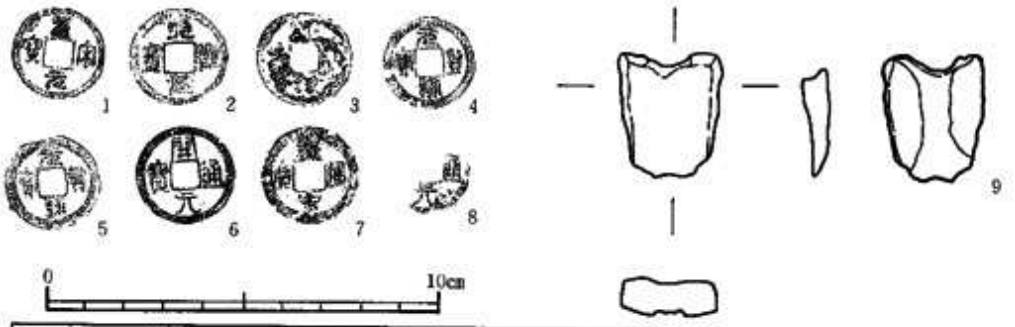


登録番号	種別	石材	出土地点 地区	遺構	層位	法量 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	写真図版
K-1	石鏃	珪質凝灰岩	D区	SD345	2	3.6	1.5	0.3	1.55		159-1

第36図　ＳＤ345溝跡出土遺物（1）

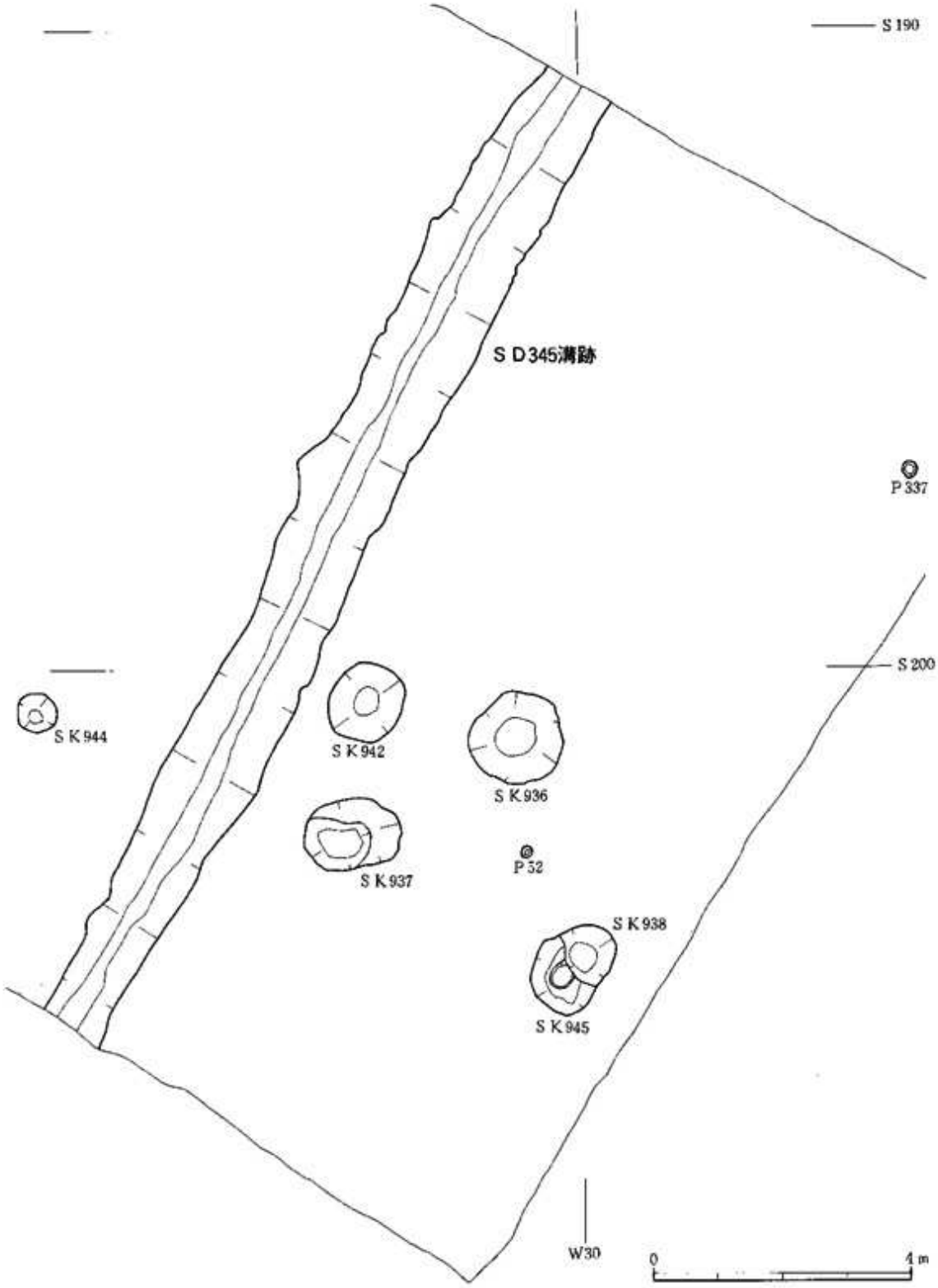


第37図　Ｎ区ＳＤ345溝跡出土杭平面図

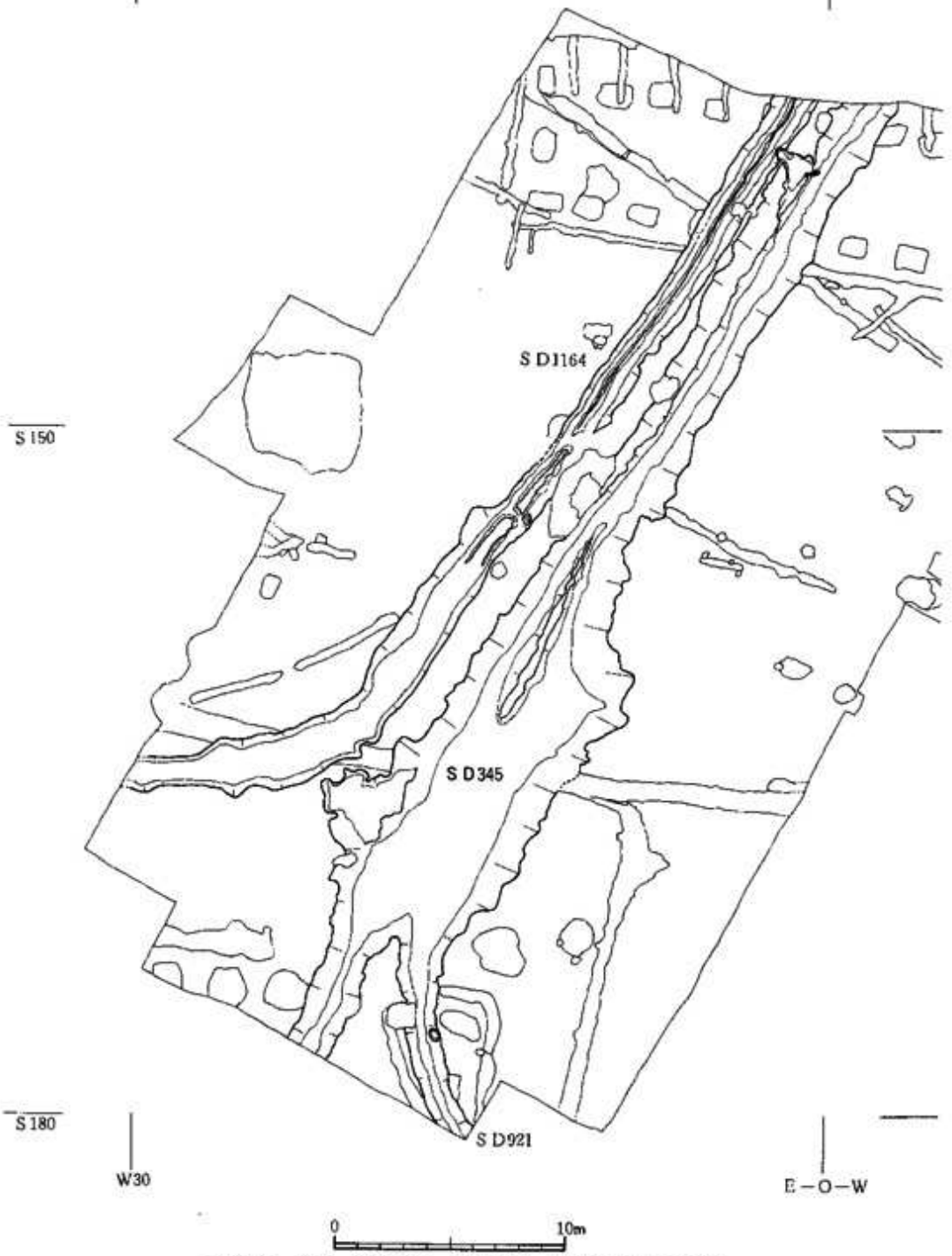


図版番号	遺物番号	出土地点 地区	遺構	層位	種別 器形	法量・特徴	写真図版
1	N31	N	SD 345	1	古銭 聖宋元寶	初鋳年、建中靖国元年(1101)、北宋、銅銭 直径23.2mm、孔辺7mm、縁厚1mm	127－1
2	N32－1	N	SD 345	1	古銭 大聖元宝	初鋳年、大聖元年(1023)、北宋、銅銭 直径25mm、孔辺7mm、縁厚1.1mm	127－2
3	N32－2	N	SD 345	1	古銭 不明	直径24.5mm、孔辺7mm、縁厚1.2mm、銅銭	127－2
4	N33	N	SD 345	1	古銭 元豊通宝	初鋳年、元豊元年(1078)、北宋、銅銭 直径24mm、孔辺6.5mm、縁厚1mm	127－3
5	N35	N	SD 345	底面	古銭 元豊通宝	初鋳年、元豊元年(1078)、北宋、銅銭 直径25mm、孔辺7mm、縁厚1.1mm	127－4
6	N36－1	N	SD 345	底面	古銭 開元通宝	初鋳年、武徳4年(621)、唐、銅銭 直径25mm、孔辺6.5mm、縁厚1.1mm	127－5
7	N36－2	N	SD 345	底面	古銭 皇宋通宝	初鋳年、宝元2年(1039)、北宋、銅銭 直径24.5mm、孔辺7.5mm、縁厚1mm	127－5
8	N37	N	SD 345	底面	古銭 開元通宝	初鋳年、武徳4年(621)、唐、銅銭 直径――、孔辺――、縁厚1.3mm	127－6
9	N45	N	SD 345	底面	不明品	長さ3.2cm、幅0.9cm	127－7

第38図　ＳＤ345溝跡出土遺物（2）

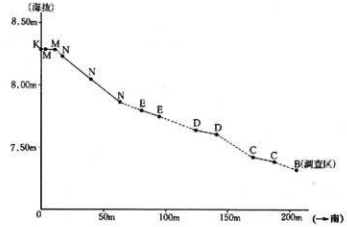


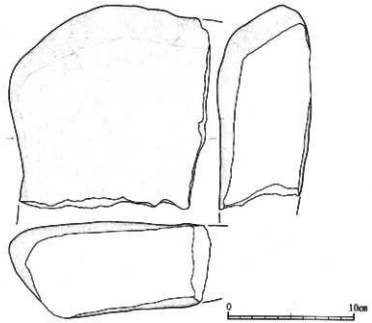
第39図　E区東部平面図（S D345溝跡）



第40図　N区　S D345・S D1164・S D921溝跡平面図

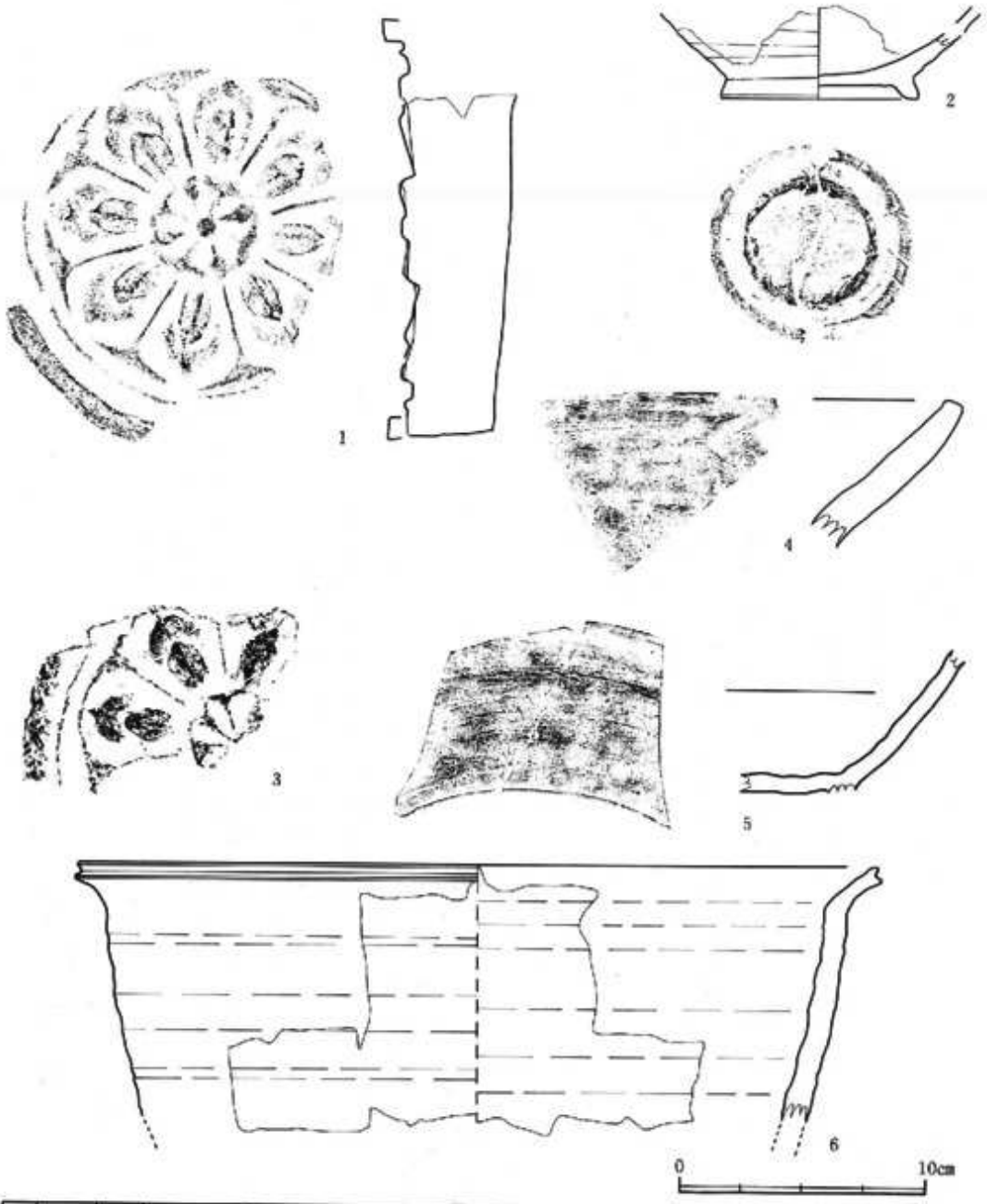
第41図　ＳＤ345・ＳＤ1164・ＳＤ920溝跡平面図





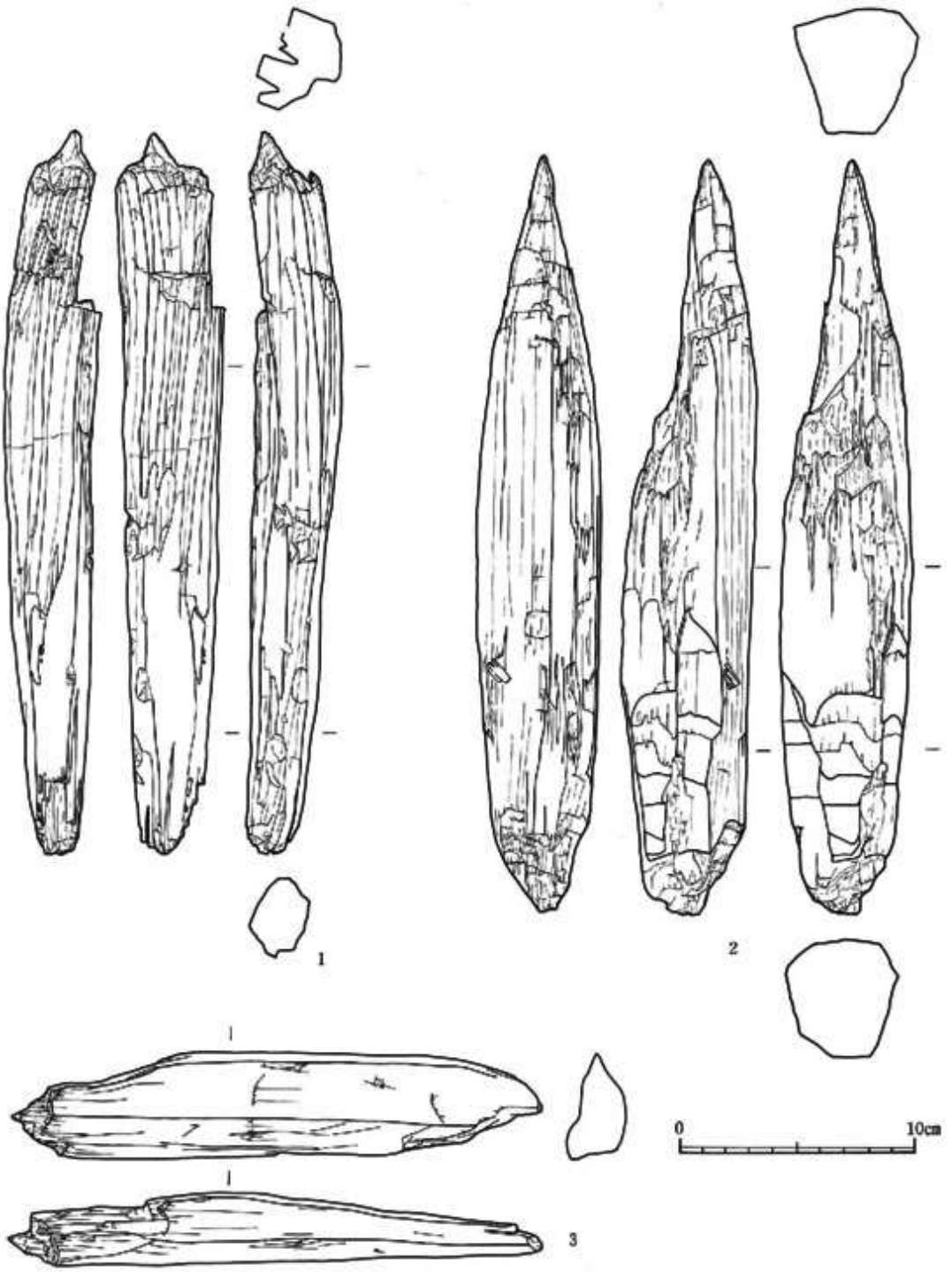
遺構番号	種別	石材	出土遺構 地区	出土遺構 溝幅	出土遺構 層位	法量 長さ(cm)	法量 幅 (cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重量(g)	特徴	備考	写真図版
K－9	砥	安山岩	D区	S D345		16.1	15.7	7.6	3057.5	磨面あり		156－10

第42図　ＳＤ345溝跡出土遺物（３）

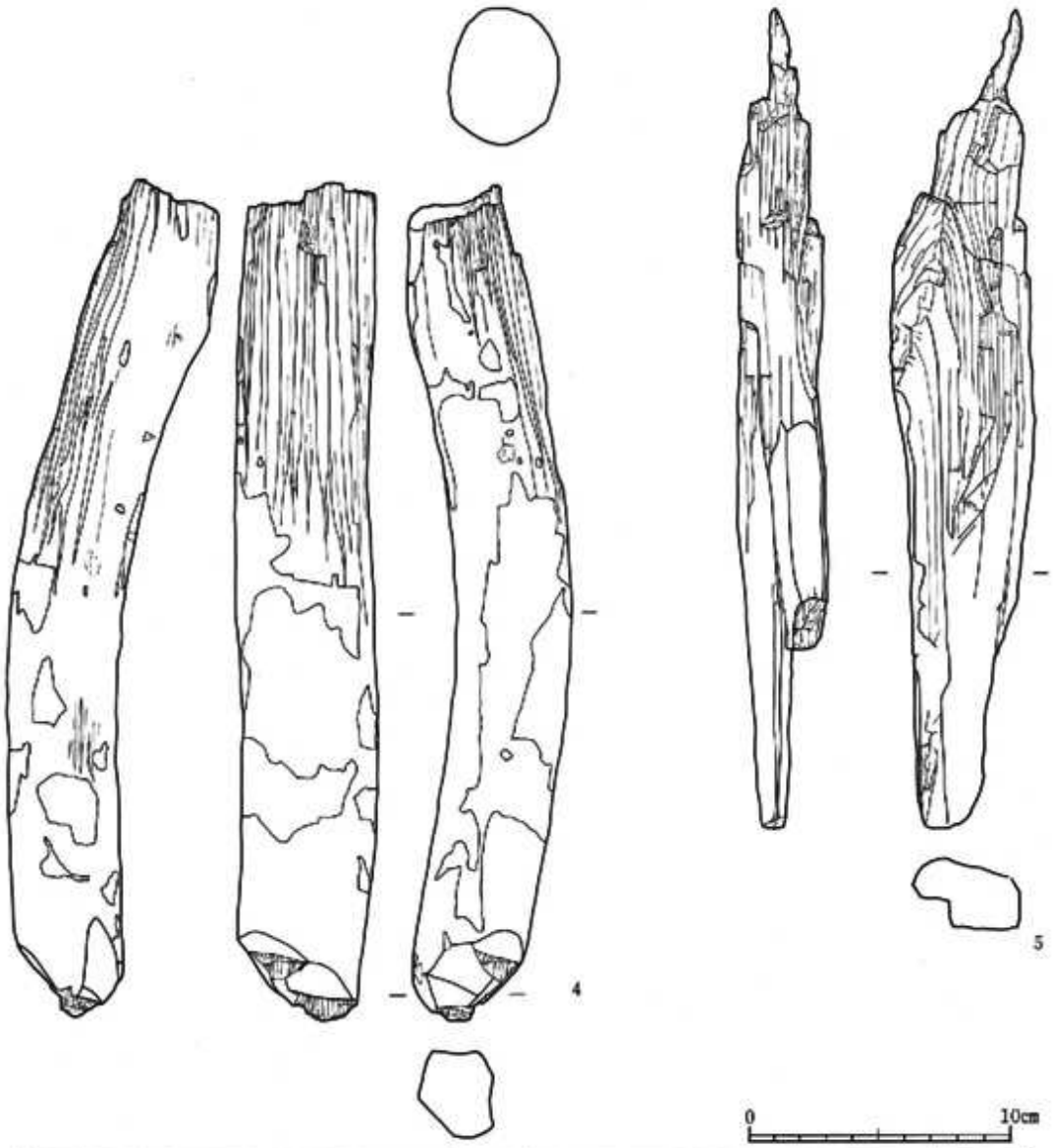


番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	残存	備考	写真図版
1	F−1	瓦	軒丸瓦	SD-345	埋積土中	—	—	—	—	—	—	—	復原 17.5	—	4/5		127−9
2	D−6	土師器	椀	SD-345	2層	—	ロクロナデ	回転糸切り	—	ロクロナデ	ロクロナデ	3.8 以上	—	8.1	2/3		127−8
3	F−6	瓦	軒丸瓦	SD-345		—	—	—	—	—	—	—	復原 (19.6)	—	1/4		—
4	I−2	陶 器	こね鉢	SD-345	焼							6.2 以上	(26.8)	—	破片		127−10
5	I−1	陶 器	壺	SD-345		—	回転 ヘラケズリ	—	—	—	—	6.1 以上	—		破片		127−11
6	E−85	須恵器	甕	SD-345	2層	ロクロナデ	ロクロナデ	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	20.7 以上	33.1	—	1/4		127−12

第43図　ＳＤ345溝跡出土遺物実測図（３）

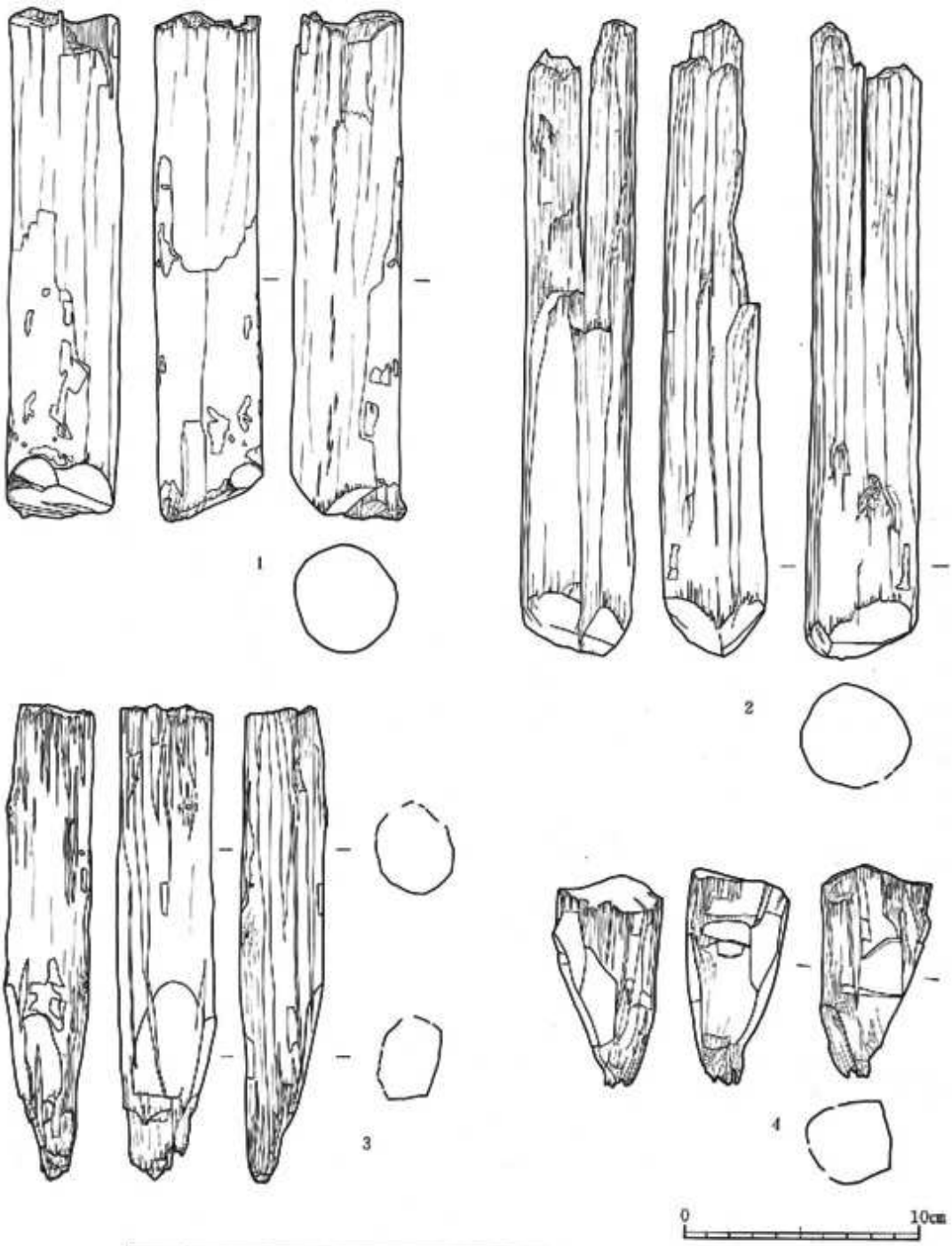


第44図　ＳＤ345溝跡出土遺物（４）



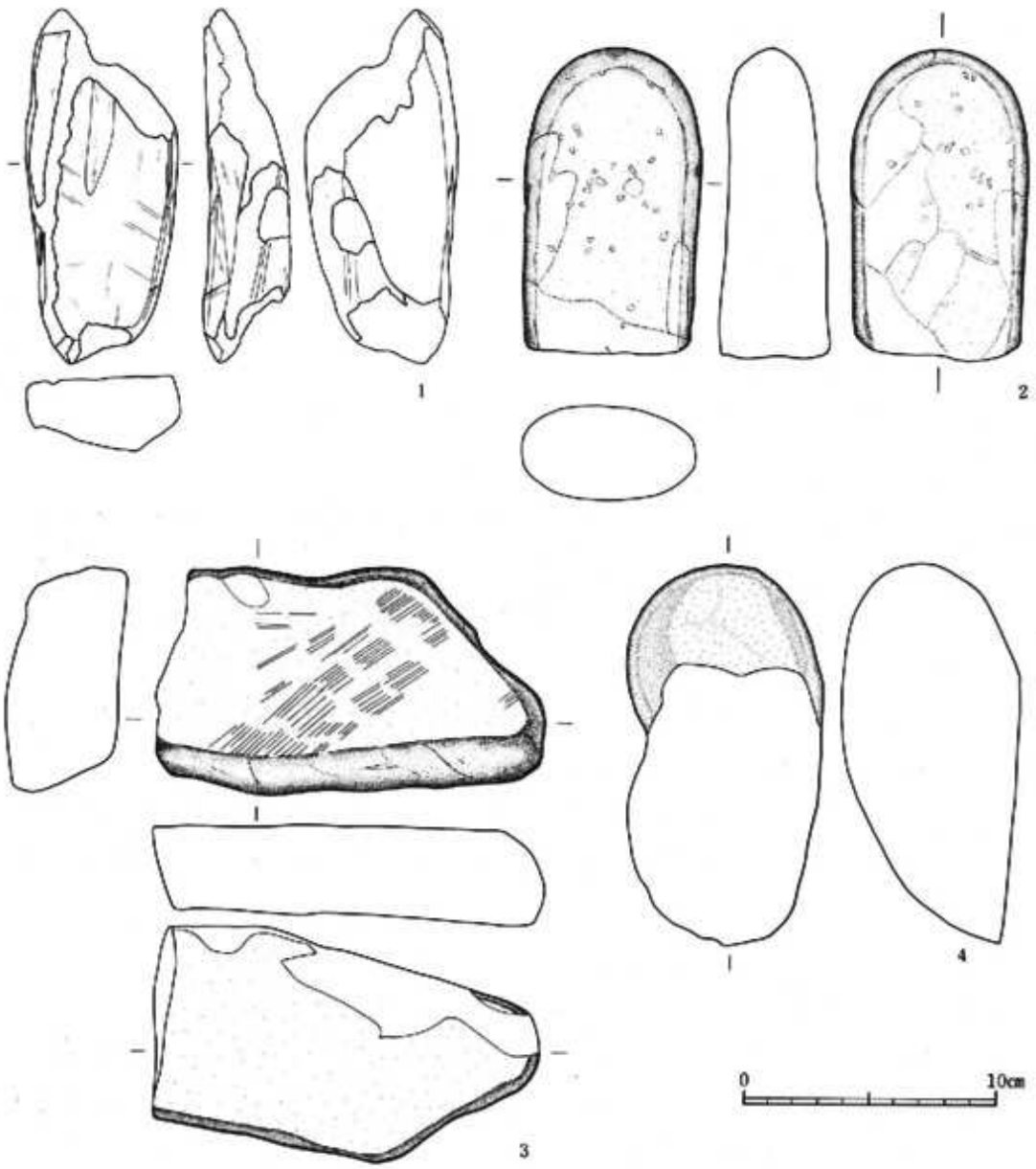
図版番号	登録番号	出土地点			種別・器形	法量・特徴	写真図版
		地区	遺構	層位			
1	L－9②	D区	SD 345	底面	木製品 杭	長さ31.3cm、幅4.2cm	―
2	L－7	D区	SD 345	底面	木製品 杭	長さ32.8cm、幅4.5cm	―
3	L－8	D区	SD 345	底面	木製品 杭	長さ23.1cm、幅4.6cm	―
4	L－6	D区	SD 345	底面	木製品 杭	長さ32.6cm、幅5.4cm	―
5	L－9③	D区	SD 345	底面	木製品 杭	長さ32.1cm、幅5.3cm	―

第45図　SD345溝跡出土遺物（5）



図版番号	登録番号	出土地点			種別・器形	法量・特徴	写真図版
		地区	遺構	層位			
1	L—1	D区	SD 345	底面	木製品 杭	長さ22.1cm、幅4.9cm	——
2	L—2	D区	SD 345	底面	木製品 杭	長さ27.6cm、幅4.8cm	——
3	L—5	D区	SD 345	底面	木製品 杭	長さ20.5cm、幅4.2cm	——
4	L—3	D区	SD 345	底面	木製品 杭	長さ9.2cm、幅4.5cm	——

第46図　SD345溝跡出土遺物実測図（6）



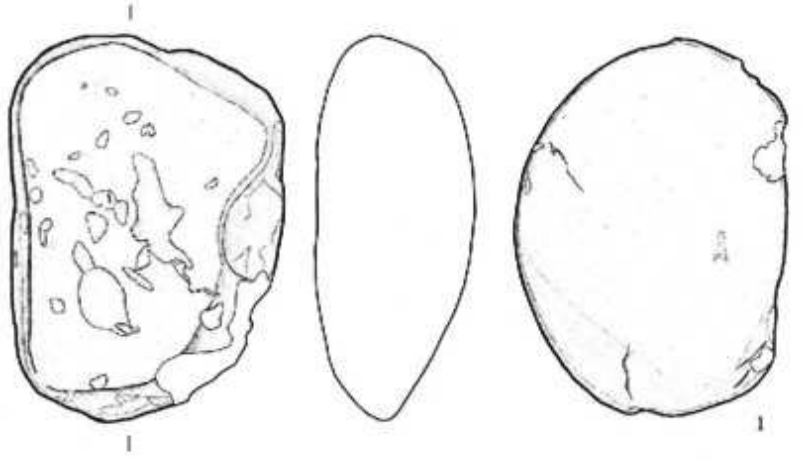
図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点 地区	遺構	層位	法量 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特徴	備考	写真図版
1	K−13	磨石器	不明	D区	SD 345	灰褐土	14.2	6.1	3.9	308.5	磨面		157−1
2	K−174	磨石器	安山岩	D区	SD 345	底面	12.3	6.8	3.3〜4.0	607.5	被面有り擦痕		171−7
3	K−171	磨石器	安山岩	D区	SD 345	底面	9.0	15.5	3.5	924.6	磨面		170−10
4	K−173	磨石器	安山岩	D区	SD 345	2層	15.2	7.5	〜7.0	1102.2	磨面有り		170−9

第47図　ＳＤ345溝跡出土遺物 (7)

ＳＫ1174Ａ・Ｂ土坑

〔調査区〕　Ｎ区　　〔検出面〕　Ⅲ層

〔重複〕　Ａ・Ｂ土坑ともⅢ層水田跡を切っており、さらにＢはＡを切っている。検出面では



登録番号	種別	石材	出土地点 地区	遺構	層位	法量 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特徴	備考	写真図版
K—172	磨石器	不明	D区	SD 345	2層	24.8	17.0	9.8	閃石		171—1

第48図　ＳＤ345溝跡出土遺物（８）

Ｂの堆積土がＡの上面を覆っており、Ｂを一段掘り込んでからＡを検出した。

〔規模・平面形〕　＜Ａ＞長軸2.07m、短軸1.00m以上、深さ46cmで、隅丸方形と推定される。＜Ｂ＞長軸2.20m、短軸1.35m以上、深さ64cm、不整円形である。

〔堆積土〕　＜Ａ＞４層に分けられ、褐色ないし灰黄褐色粘土質シルトで、Ⅳ層地山土をブロック状に含んでいる。＜Ｂ＞グライ化した灰黄褐色シルトのほぼ均質な単層で、一時期に埋められたものと捉えられる。

〔壁〕　＜Ａ＞直線的に立ち上がっている。　＜Ｂ＞緩やかに立ち上がっている。

〔底面〕　＜Ａ＞平坦である。　＜Ｂ＞中央部がもっとも深く、凹凸がある。

〔出土遺物〕　＜Ａ＞遺物は出土しなかった。　＜Ｂ＞堆積土中から幅4.5cm、全長9.1cm以上の粘板岩製のＫ－169硯（写真図版170-6）、燻し瓦、土師器片、２×2.5cm大の布の残欠を出土している。遺構の時期は近世期である。

ＳＫ1175土坑

〔調査区〕　Ｎ区　　〔検出面〕　Ⅲ層

〔重複〕　Ⅲ層水田を切っている。

〔規模・平面形〕　長軸1.65m、短軸1.40m、深さ62cmで、ほぼ円形である。

〔堆積土〕　ほとんど単層と捉えられるグライ化した灰黄色粘土で、ＳＫ1174Ｂ土坑と堆積土が類似している。

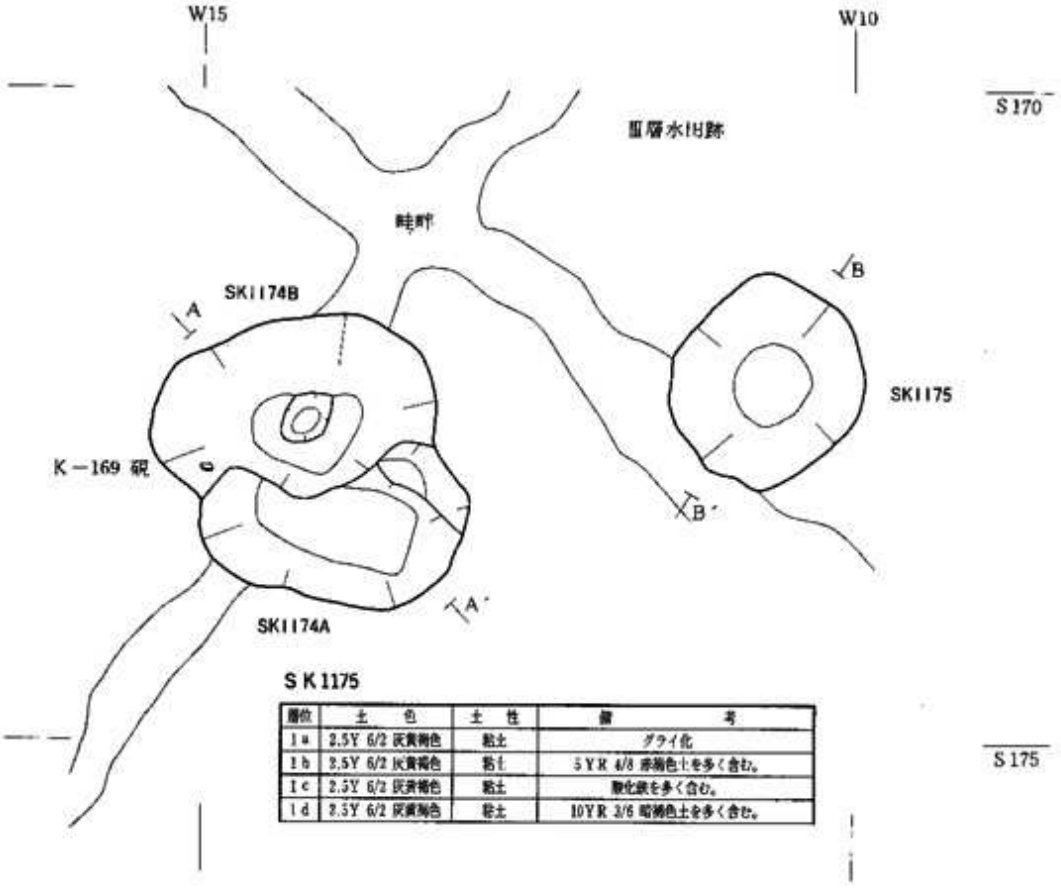
〔壁〕　やや急に立ち上がっている。

〔底面〕　中央部がもっと深く、半球状の丸底である。

〔出土遺物〕　堆積土中から乳白色の磁器の碗口縁部片、土師器片を出土している。遺構の時期は近世期である。

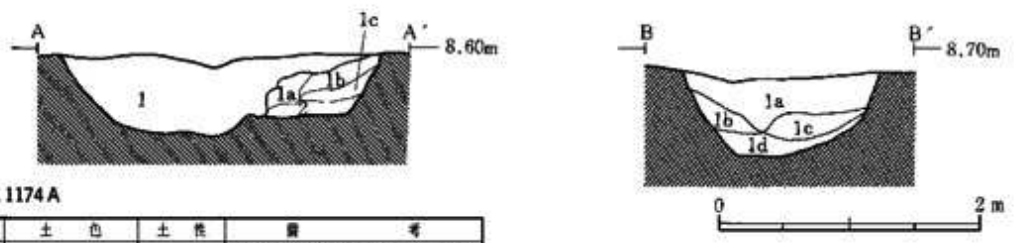
Ⅲ層　水田跡

〔調査区〕　N区　　〔検出面〕　Ⅲ層



SK1175

層位	土色	土性	備考
1a	2.5Y 6/2 灰黄褐色	粘土	グライ化
1b	2.5Y 6/2 灰黄褐色	粘土	5YR 4/8 赤褐色土を多く含む。
1c	2.5Y 6/2 灰黄褐色	粘土	酸化鉄を多く含む。
1d	2.5Y 6/2 灰黄褐色	粘土	10YR 3/6 暗褐色土を多く含む。



SK1174A

層位	土色	土性	備考
1a	10YR 4/4 褐色	粘土質シルト	10YR 5/2 灰黄褐色土を微に含む。マンガン粒を少量含む。
1b	10YR 4/4 褐色	シルト	10YR 3/3 暗褐色土と10YR 4/4 褐色土を全体に含み、炭化物を少量含む。
1c	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	10YR 4/6 褐色土を小ブロック状に含む。
2	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	10YR 3/4 暗褐色土をブロック状に含む。

SK1174B

層位	土色	土性	備考
1	10YR 5/2 灰黄褐色	シルト	グライ化

第49図　SK1174A・B・SK1175土坑平・断面図

〔検出・重複状況〕　IIａ層を除去し、十字形に交差する畦畔を検出した。調査区内に段差および耕作域と非耕作域の境界を有し、調査区の南東側に耕作域が展開する。ＳＫ1174・ＳＫ1175土坑に切られている。

〔水田の形状と規模〕

（畦畔）

区画は不整方形で、確認された水田１区画の面積は180㎡前後である。畦畔の規模は上端幅20～120cm、下端幅55～200cm、作土上面からの高さは３～10cmで、Ｅ－33～58°－Ｓ（検出長20m）、Ｎ－28°－Ｅ（同18m）の方向を示す２本の畦畔が、調査区南東でほぼ直交する。土壌は粘土質シルトの盛り土畦畔である。水田の標高は8.20m～8.60mで、西側の水田区画２面は南北方向に帯状に凹み、灰白色火山灰がリング状に堆積している。

（作土）

厚さは10～15cm程度である。層中に灰白色火山灰の小ブロックを含み、畦畔下部では擬似畦畔を検出した。作土下面には鉄分の集積が認められた。

〔出土遺物〕

畦畔からは土師器甕、須恵器蓋・甕、作土中からは土師器坏・高台付坏・甕、須恵器坏・蓋・甕、瓦、Ｊ－１青磁皿、皇宋通寶・元祐通寶など５枚が密着した古銭（Ｎ－42）、「元祐通寶」・「聖宋元寶」の２枚が密着した古銭（Ｎ－43）、Ｎ－50鉄釘、凹石、珪化木などが出土している。このうち、青磁皿は、内面に花文が描かれ、高台内に釉が施されておらず、14ないし15世紀の中国産とみられる。

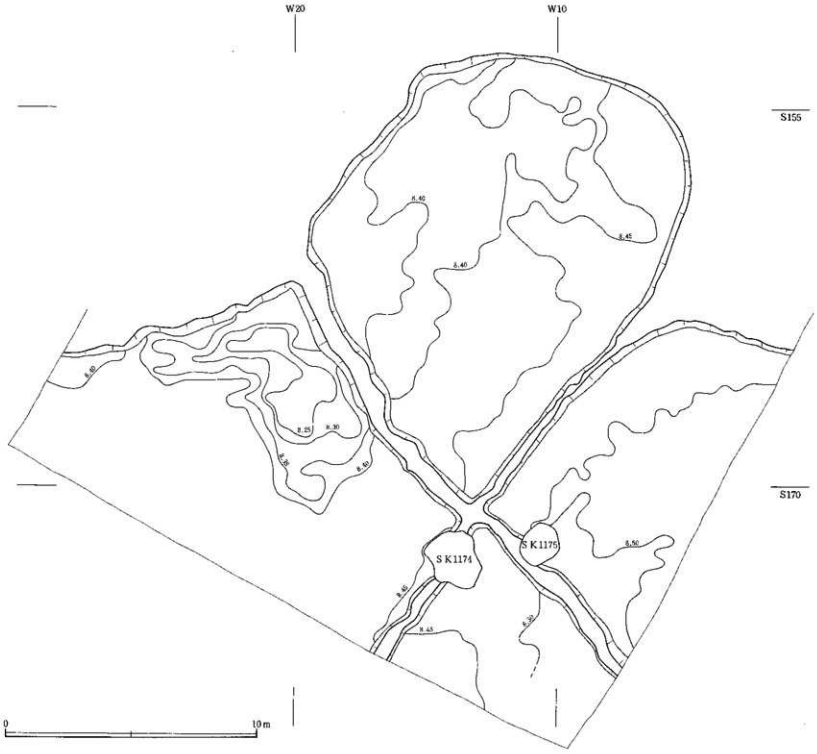
〔水田跡の時期〕

出土遺物の年代観から、おおむね中世の時期に属する遺構と捉えたい。また、耕作域の範囲、段差など地形の制約を大きく受けていた点を指摘しておきたい。

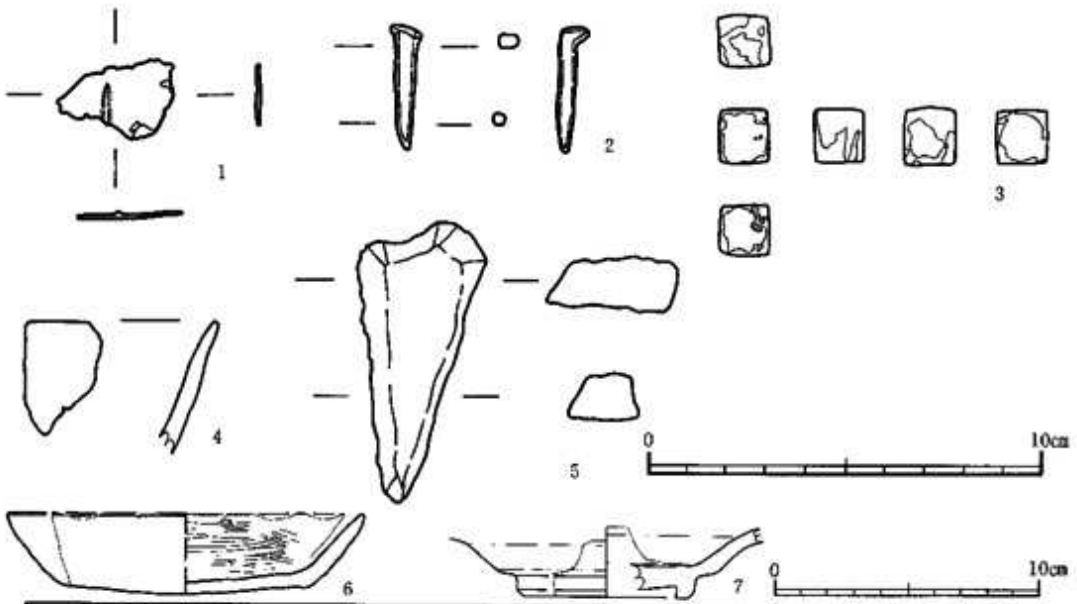
〔その他〕　Ｎ区におけるⅢ層の分布は、Ｎ区の中央で段差を有し、耕作域は南側に限られ、層厚は15～25cmほどである。Ⅲ層標高は8.2～8.6mほどで、地形はほぼ平坦であるが、Ⅳ層上面遺構の影響で西側の水田２面の検出レベルが南北方向に凹んで検出された。

また他の調査区のⅢ層中より第53図に図示した遺物が出土している。

この他、Ｎ区において水田跡以外のⅢ層中からの出土遺物には、平底の土師器Ｃ－117坏・甕、須恵器坏・高台付坏・蓋・甕、内面に漆の付着したＥ－93壺、12.9×15.4×厚さ5.0cm大のＨ－３鵜尾、中国産片切彫の青磁碗Ｊ－２、Ｋ－176石鏃（写真図版170－２）、Ｋ－178敲石、Ｎ－38開元通寶、Ｎ－40正隆元寶、Ｎ－44・47・48・49などの鉄釘や鉄鏃などの鉄製品、鉄滓、馬歯、珪化木などを出土している。



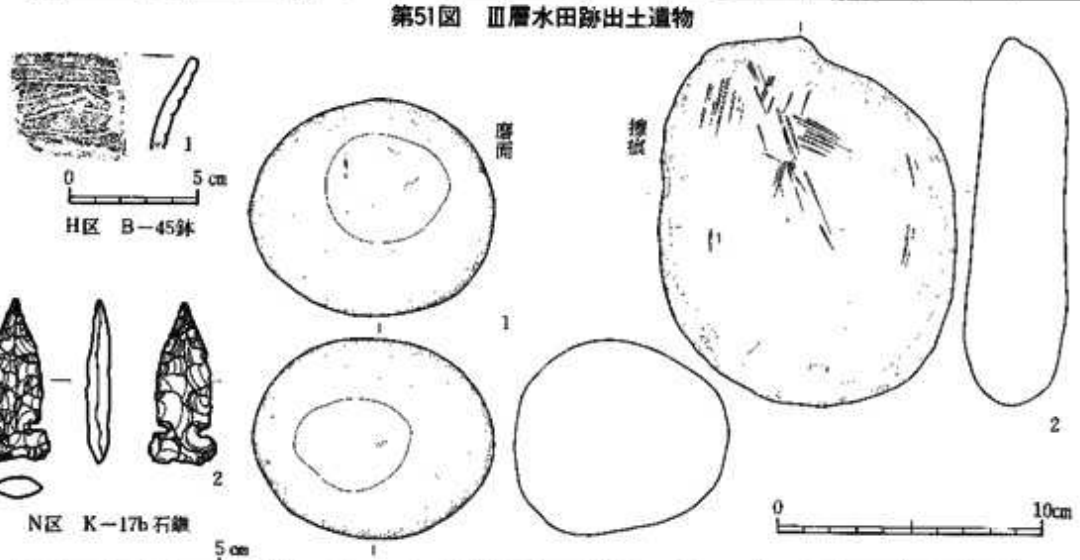
第50図　N区Ⅲ層水田跡平面図



図版番号	遺物番号	出土地点 地区	遺構	層位	種別 器形	法量・特徴	写真図版
1	N—48	N区	水田跡	Ⅲ層	金属製品 不明	たて0.5～1.8cm、よこ1.6～2.8cm、厚さ0.1cm	—
2	N—47	N区	水田跡	Ⅲ層	鉄製品 釘	長さ3.2cm、幅0.2～0.5cm、厚さ0.3～0.5cm	—
3	K—175	N区	水田跡	Ⅲ層	石製品 不明	1辺1.3～1.4cmのサイコロ状	170—4
4	J—2	N区	水田跡	Ⅲ層	青磁碗	画花文	—
5	N—44	N区	水田跡	Ⅲ層	金属製品 不明	たて6.7～7.2cm、よこ0.6～3.3cm、厚さ1.2cm	—

番号	登録番号	種別	器種	出土遺構	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 器高	法量(cm) 口縁部	法量(cm) 底部	残存	備考	写真図版
6	C—117	土師器	坏	水田跡	Ⅲ層	不明	不明	不明	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	3.0	(13.7)	(9.6)	1/5	坏B1	—
7	J—1	青磁	皿	水田跡	Ⅲ層	—			—			2.7以上	—	(6.8)	1/8		—

第51図　Ⅲ層水田跡出土遺物



図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点 地区	出土地点 層位	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重量(g)	特徴	備考	写真図版
1	K-30	磨石類	安山岩	Fa区	Ⅲ層	9.4	7.6	8.2	891	磨面		159-4
2	K-31	敲磨器	不明	Fb区	Ⅲ層	14.3	11.3	4.0	598			159-8

第52図　Ⅲ層出土遺物

第53図　F区Ⅲ層出土遺物

4．Ⅳ層における遺構と遺物

Ⅳ層において検出された遺構は、掘立柱建物跡17棟、柱列１列、一本柱列３列、竪穴住居跡21軒、土坑59基、溝跡74条である。第Ⅲ章２でも述べたがⅣ層上面の遺構は主にⅣａ層上面で検出されたものであるが、Ｇ区からＩ区にかけてのⅣａ層の上層にはⅣｋ層が堆積し、その上面でも同様に遺構が検出されている。ここでは(1)掘立柱建物跡、一本柱列、(2)竪穴住居跡、(3)土坑、(4)溝跡の順で遺構の概要と遺物について述べる。(3)土坑と(4)溝跡で記述しなかったものについては、土坑観察表、溝跡観察表を参照して戴きたい。

(1) 掘立柱建物跡、一本柱列

ＳＢ911　建物跡

〔調査区〕　Ａ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔重複・増改築〕　認められない。

〔規模〕　桁行３間（柱間寸法210～215cm、総長64m）、梁行２間（柱間寸法250cm、総長5m）の南北棟である。

〔方向〕　桁行方向はＮ－０°－Ｅである。

〔柱穴掘り方〕　一辺75～95cmで、方形のものが多く深さは30～70cmである。

〔柱痕跡〕　直径16～25cmのものが多い。

〔抜取り痕跡〕　Ｎ１Ｅ１、Ｎ１Ｅ３、Ｎ３Ｅ１柱穴が抜き取られている。Ｎ３Ｅ２柱穴も抜き取られた可能性がある。

〔出土遺物〕　土師器坏、甕片が少量出土している。

柱穴位置 / 群記		N1E2		N2E1		N3E1		N4E1		N4E2		N4E3	
形状		方形		不整方形		方形		隅丸方形		方形		方形	
大きさ	掘り方(A)	75×85cm		90×90cm		80×80cm		65×80cm		94×90cm		94×95cm	
	柱穴(B)	16×20cm		16×14cm		12×16cm		18×24cm		23×32cm		34×40cm	
深さ		(A) －	(B) 30cm	－	－	－	46cm	40cm	50cm	50cm	－	60cm	90cm
掘り方埋土		－		－		－		灰黄褐色粘土質シルトなど		灰黄褐色シルト質粘土など		暗灰色粘土など	

第３表　ＳＢ911建物跡柱穴観察表

ＳＢ923建物跡

〔調査区〕　Ｂ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

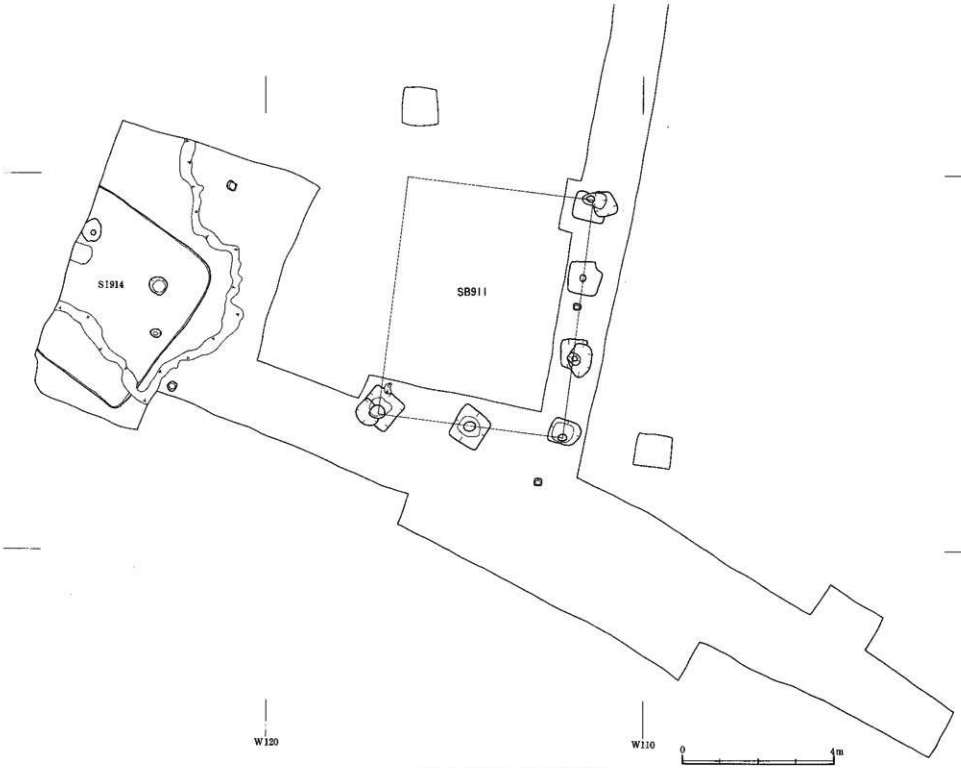
〔検出状況〕　木の根による撹乱をうけ、さらに遺構の一部を調査区内で検出したにすぎない。

〔重複・増改築〕　ＳＸ924に切られている。

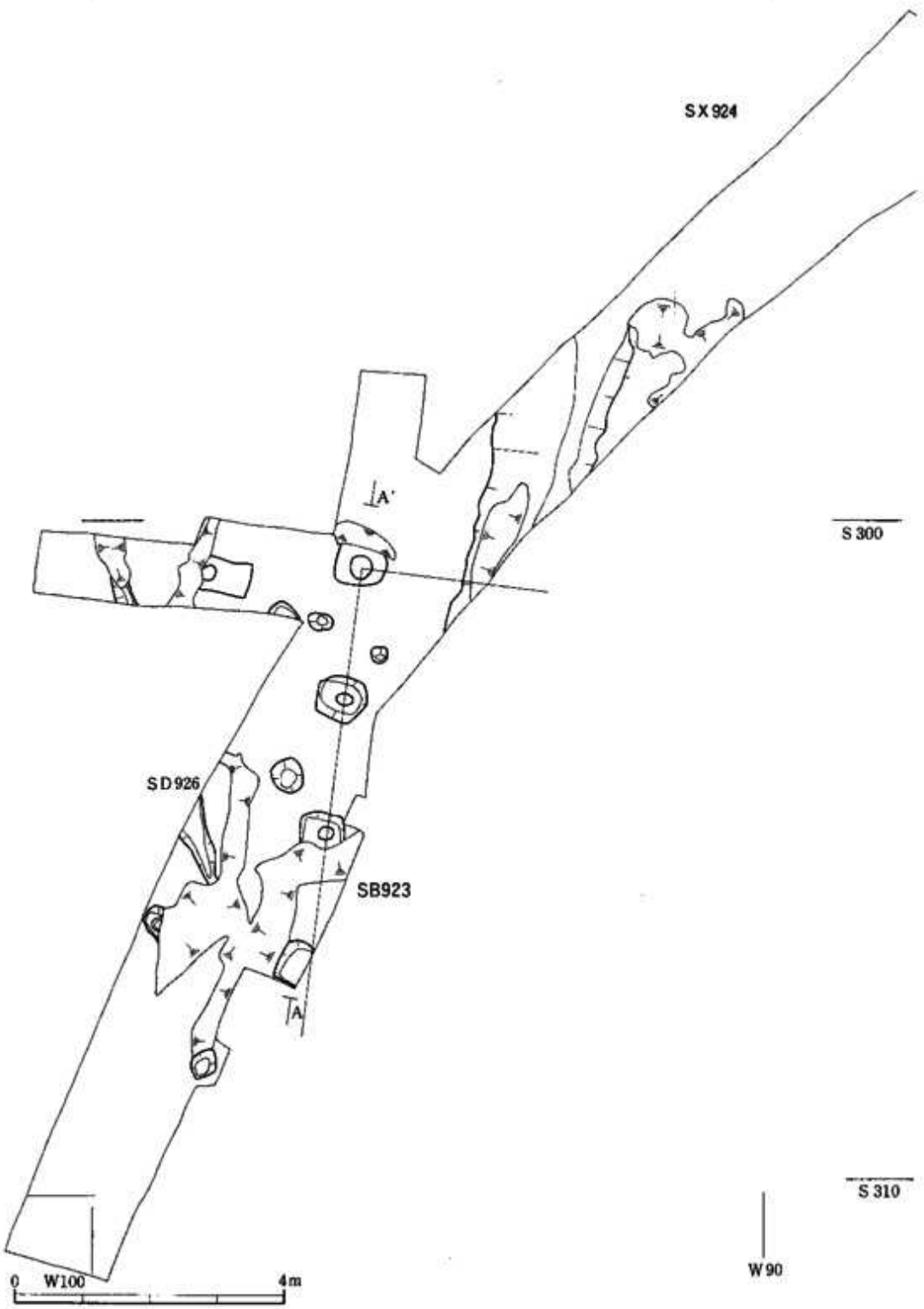
〔規模〕　南北３間以上（柱間寸法200cm、総長6m以上）である。

〔方向〕　南北柱列はＮ－０°－Ｅである。

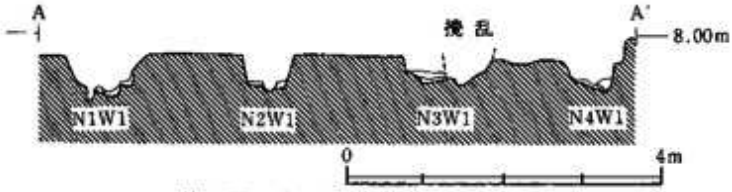
〔柱痕跡〕　直径18～34cmである。



第54図　A区平面図（SB911建物跡）



第55図　B区南部平面図（SB923建物跡）

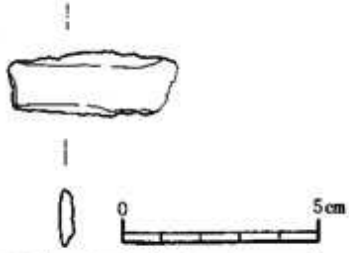


第56図　ＳＢ923建物跡柱列断面図

第４表　ＳＢ923建物跡柱穴観察表

柱穴位置 / 計測		N1		N2		N3		N4	
形状		隅丸方形		不整方形		隅丸方形			
大きさ	掘り方(A)	60以上×75cm		70×75cm		50以上×70cm		70×40以上cm	
	柱穴(B)	34×38cm		18×22cm		20×22cm		−	
深さ		(A) 56cm	(B) 50cm	40cm	45cm	35cm	−	40cm	−
掘り方埋土		灰黄褐色シルトなど		灰褐色粘土など		灰褐色シルトなど		にぶい黄褐色など	

〔抜取り痕跡〕　各柱穴とも抜き取りをうけている。



登録番号	出土地点			種別・器形
	地区	遺構	層位	
N−14	A区	ＳＢ 923	抜き取り穴	金属製品不明

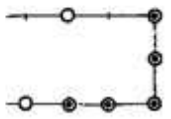
法量・特徴	写真図版
長さ4.4cm以上、幅1.2〜1.7cm、厚さ〜0.18cm	129−2

第57図　ＳＢ923建物跡出土遺物

〔出土遺物〕　金属器Ｎ−14不明品（第57図）と土師器坏、甕片、須恵器坏、甕片が少量出土している。

ＳＢ950建物跡

〔調査区〕　Ｃ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層



〔検出状況〕　建物の柱穴を調査区内で５基のみ検出し、さらに調査区の北壁中で別の柱穴を確認した。

〔重複・増改築〕　認められない。

〔規模〕　東西３間以上（柱間寸法210〜230cm、総長6.5m以上）、南北１間以上（柱間寸法220cm、総長2.2m以上）であるが、Ｆｂ区に建物の延長部分が検出されないことやＣ区北壁西端に柱穴の掘り方断面が検出されたことから、東西３間ないし４間、南北２間の東西棟と推定される。

〔方向〕　東西柱列はＥ−1°−Ｓ、南北柱列はＮ−2°−Ｗである。

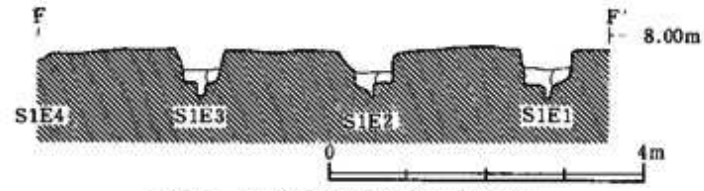
〔柱穴掘り方〕　一辺55〜80cmで、隅丸方形あるいは不整形である。深さは40〜50cmである。

〔柱痕跡〕　直径14〜20cmである。

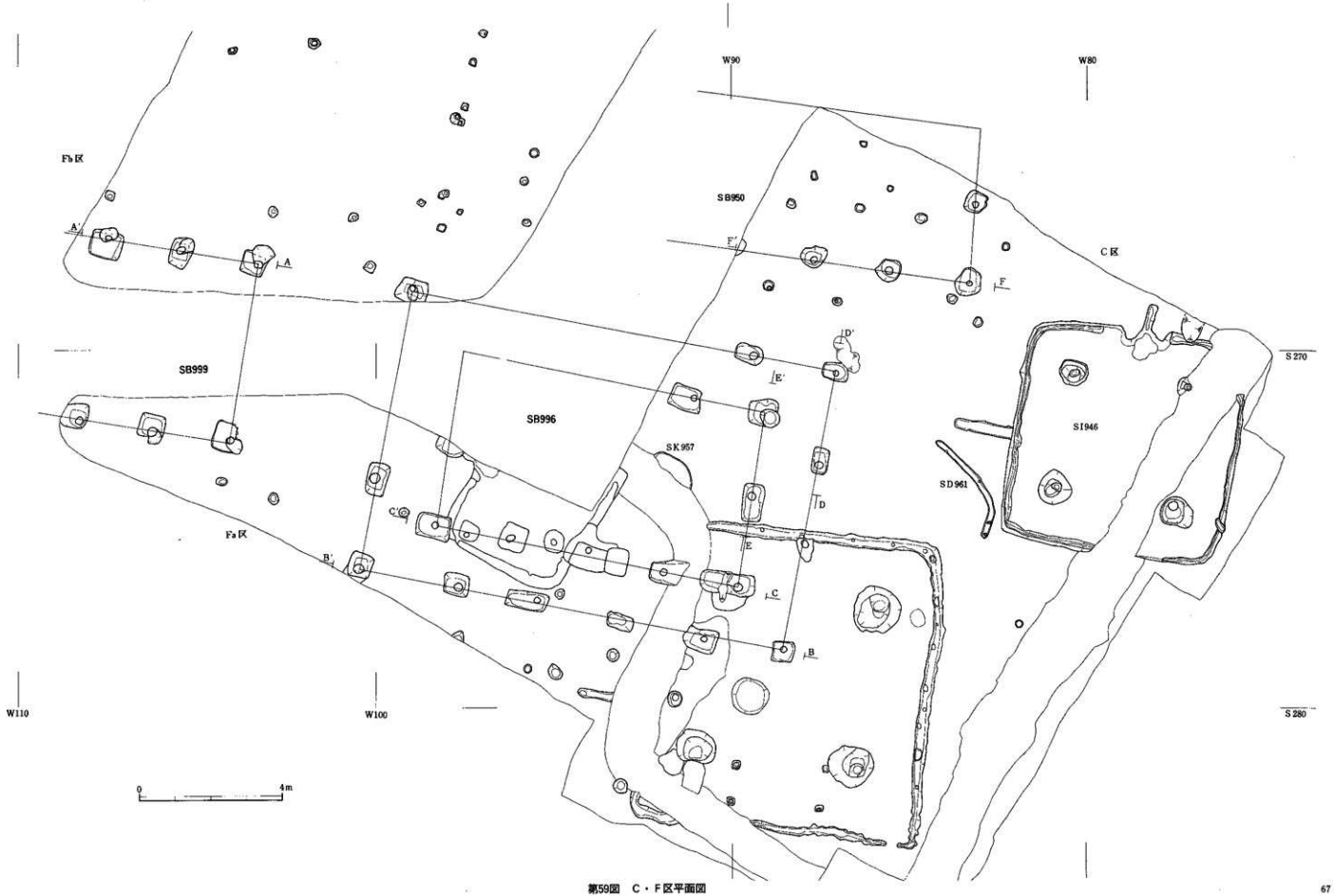
〔抜取り痕跡〕　各柱穴とも掘り方がゆがんでおり、断面での柱痕跡も不明瞭であることから、各柱穴が抜取りをうけていると考えられる。

第５表　ＳＢ950建物跡柱穴観察表

柱穴位置 / 計測		S1E1		S1E2	
形状		不整形		隅丸方形	
大きさ	掘り方(A)	80×70cm		60×60cm	
	柱穴(B)	14×16cm		20×20	
深さ		(A) 40cm	(B) 60cm	50cm	60
掘り方埋土		黒褐色シルト質粘土など		黒褐色シルト質粘土など	
S1E3		S1E4		(北壁中) S1E3	
不整形		−		−	
60×70cm				−	
20×20cm		−			
40cm	60cm	55cm	75cm	55cm	75cm
黒褐色シルト質粘土など		灰黄褐色粘土質シルトなど		黒褐色シルト質粘土など	



第58図　ＳＢ950建物跡南柱列断面図


W90
W80
W110
W100
S270
S280
Fb区
Fa区
C区
SB950
SB999
SB996
SK957
SI946
SD961
A'
B'
C'
D'
E'
F'
A
B
C
D
E
F
0
4m

第59図　C・F区平面図

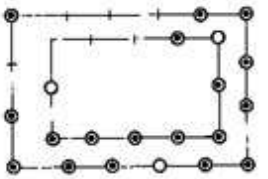
〔出土遺物〕　C区北壁中のN1E3柱穴と想定される柱穴より須恵器E－8蓋（第60図）が出土し、その他柱穴掘り方より土師器片が少量出土している。

登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整			内面調整			法量(cm)			残存	備考	写真図版
					口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	器高	口径	底径			
E－8	須恵器	蓋	SB950 P1		つまみ部 ロクロナデ	回転ヘラケズリ →ヘラナデ	底部 ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	—	4.3	17.3	—	ほぼ完形	第1-1	129－1

第60図　SB950建物跡出土遺物

SB996建物跡（第59図参照）

〔調査区〕　C、Fa、Fb区　　〔検出面〕　IVa層



〔検出状況〕　遺構の一部は調査区外に延び農業用水路により削平されている。

〔重複・増改築〕　SI947、SI1101を切り、SD931に切られている。

〔規模〕　＜身舎＞桁行4間（柱間寸法210～220cm、総長8.6m）、梁行2間（柱間寸法220cm、総長5m）である。＜廂＞桁行5間（柱間寸法220～300cm、総長12m）、梁行3間（柱間寸法220～280cm、総長8m）の東西棟である。

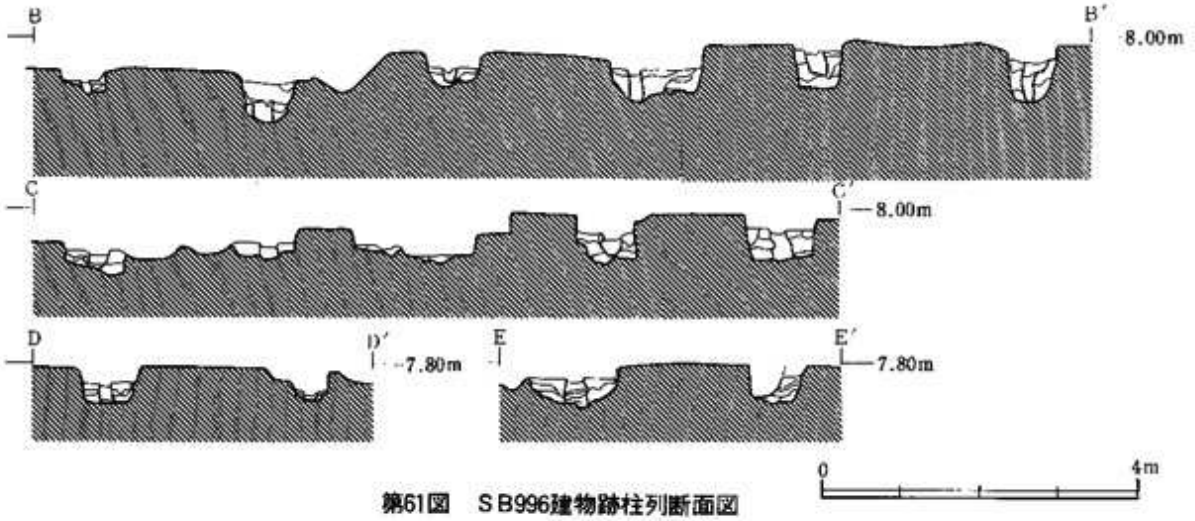
〔方向〕　＜身舎＞梁行方向はN－2°－Eである。＜廂＞梁行方向はN－4°－Eである。

〔柱穴掘り方〕　＜身舎＞一辺60～110cmで隅丸長方形のものが多く、深さは35～60cmである。＜廂＞一辺45～115cmで隅丸長方形のものが多く、深さは30～70cmである。

〔柱痕跡〕　＜身舎＞直径15～26cmである。　＜廂＞直径14～28cmである。N3E1より材出土。

〔抜取り痕跡〕　身舎のN1E1のみに抜取り穴がある。

〔出土遺物〕　土師器坏、甕片、須恵器坏、甕片が出土している。



第61図　SB996建物跡柱列断面図

第6表　ＳＢ996建物跡柱穴観察表

〈身舎〉

柱穴位置 / 柱記	N1E1	N1E2	N2E1	N3E1	N3E2	N3E3	N3E4	N3E5	N2W1
形状	隅丸方形	隅丸長方形	隅丸長方形	隅丸方形	不整形	隅丸長方形	方形	隅丸長方形	－
大きさ 掘り方(A)	75×80cm	62×90cm	110×60cm	60×80以上cm	65×100cm	65×90cm	74×74cm	65×95cm	35以上×80cm
大きさ 柱穴(B)	－	15cm	20×22cm	20×26cm	20cm	18cm	20×22cm	20cm	
深さ	(A) 50cm (B)	3cm －	30cm 60cm	60cm 30cm	40cm 45cm	25cm 30cm	60cm 50cm		60cm －
掘り方堆土	黒褐色シルト質粘土など	－	－	黒褐色シルトなど	褐灰色シルトなど	灰褐色シルトなど	暗灰色粘土	褐灰色粘土質シルトなど	－

〈廂〉

柱穴位置 / 柱記	N1E1	N1F2	N1E5	N2E1	N3E1	N4W1	N4E1	N4E2	N4E3
形状	長方形	隅丸長方形	不整方形	隅丸長方形	不整形	隅丸長方形	方形	隅丸長方形	隅丸長方形
大きさ 掘り方(A)	50×70cm	50×80cm	65×85cm	70×45cm	60×45cm	94×65cm	50×60cm	70×95cm	60×80cm
大きさ 柱穴(B)	16cm	20×22cm	18cm	20×22cm	20×18cm	28×26cm	18×16cm	18cm	14cm
深さ	(A) 40cm (B) 40cm	40cm －	50cm 55cm	50cm 50cm	40cm －	60cm 65cm	30cm 40cm	60cm 60cm	50cm 40cm
掘り方堆土	黒褐色シルトなど	－	にぶい黄褐色シルト質粘土など	灰黄褐色シルト質粘土など	－	－	灰黄色シルト質粘土など	にぶい黄色粘土質シルトなど	灰黄褐色粘土質シルト質など

柱穴位置 / 柱記	N4E4	N4E5	N4E6
形状	隅丸長方形	方形	方形
大きさ 掘り方(A)	50×115cm	60×70cm	70×60cm
大きさ 柱穴(B)	16cm	24cm	25×26cm
深さ	(A) － (B) －	60cm 40cm	70cm 70cm
掘り方堆土	褐灰色粘土など	褐灰色粘土など	灰黄褐色粘土など

ＳＢ999建物跡（第59図参照）

〔調査区〕　Ｆａ、Ｆｂ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔検出状況〕　旧農業用水路により、一部削平されている。

〔重複・増改築〕　認められない。

〔規模〕　桁行２間以上（柱間寸法210cm、総長4.2m以上）、梁行１間以上、総長5.1mである。梁行については２間（柱間寸法255cm）あるいは３間（柱間寸法170cm）と推定される。

〔方向〕　梁行方向はＮ－2°－Ｅである。

〔柱穴掘り方〕　一辺65～90cmで、方形あるいは隅丸方形が多い。深さは40～70cmである。

〔柱痕跡〕　直径16～22cmである。

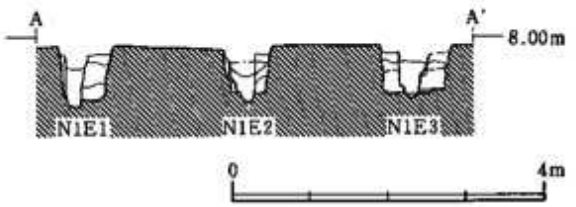
〔抜取り痕跡〕　Ｎ１Ｅ１、Ｎ１Ｅ２、Ｎ１Ｅ３、Ｎ３Ｅ１、Ｎ３Ｅ２に抜取り穴がある。

第7表　ＳＢ999建物跡柱穴観察表

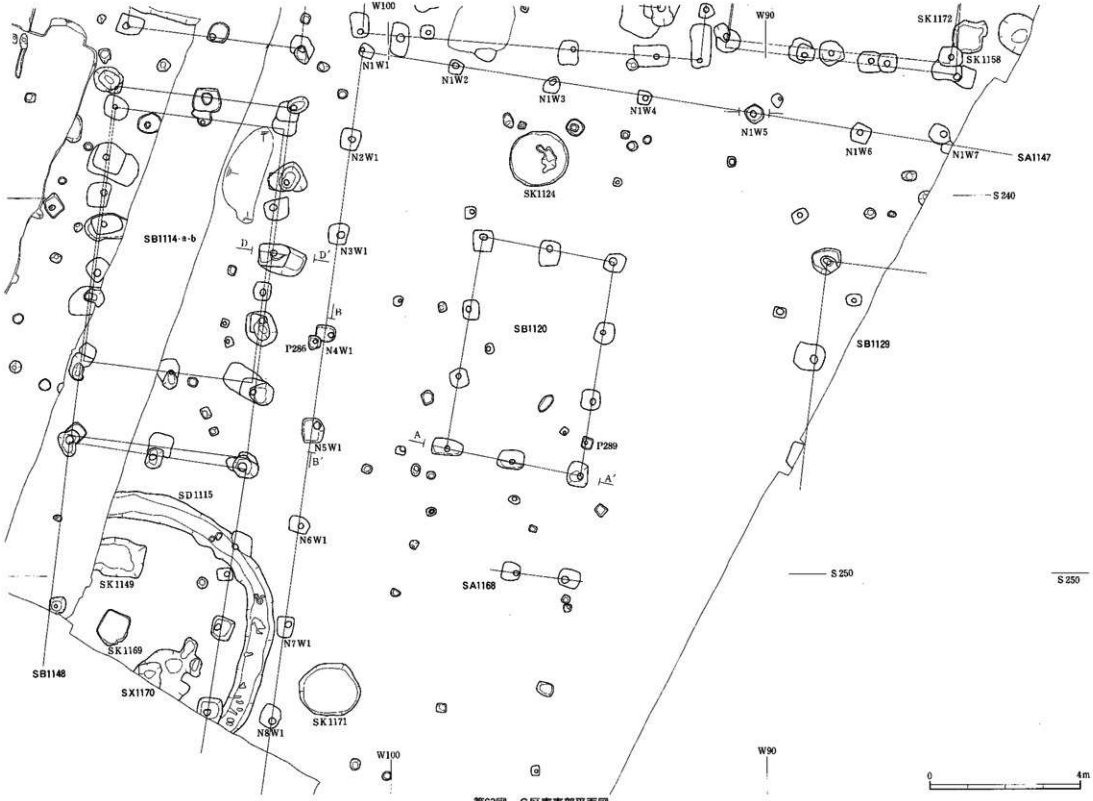
柱穴位置 / 柱記	N1E1	N1E2	N1E3
形状	方形	隅丸長方形	方形
大きさ 掘り方(A)	64×86cm	85×95cm	75×90cm
大きさ 柱穴(B)	20×22cm	20×22cm	16×18cm
深さ	(A) 70cm (B) 80cm	60cm 70cm	60cm 70cm
掘り方堆土	灰黄褐色シルト質粘土	黒褐色粘土など	灰黄褐色シルト質粘土など

柱穴位置 / 柱記	N3E1	N3E2	N3E3
形状	隅丸方形	隅丸方形	隅丸方形
大きさ 掘り方(A)	80×60cm	65×70cm	70×70以上cm
大きさ 柱穴(B)	17×20cm	25×23cm	20×20cm
深さ	(A) 60cm (B) 60cm	50cm 60cm	60cm 75cm
掘り方堆土	褐灰色粘土質シルトなど	褐灰色粘土質シルトなど	

〔出土遺物〕　土師器甕片、須恵器高台付坏片が少量出土している。

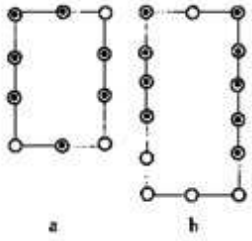


第62図　ＳＢ999建物跡北柱列断面図



第63図　G区南東部平面図

ＳＢ1114ａ・ｂ建物跡（第66図参照）



〔調査区〕　Ｇ区　　〔検出面〕　Ⅳｋ層

〔検出状況〕　旧農業用水路によって削平された柱穴があり、深さも浅い。

〔重複・増改築〕　ＳＢ1148に切られている。Ａ（３間×２間）からＢ（５間×２間）へ建て替えている。

〔規模〕　＜ａ＞桁行３間（柱間寸法213～240cm、総長6.8m）、梁行２間（柱間寸法220～240cm、総長4.5m）の南北棟である。

＜ｂ＞桁行５間（柱間寸法178～200cm、総長9.4m）、梁行２間（柱間寸法230～240cm、総長4.7m）の南北棟である。

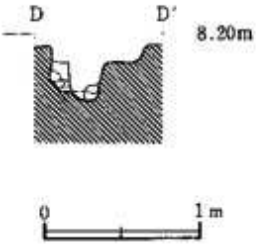
〔方向〕　＜ａ＞桁行方向はＮ－０°－Ｅ、梁行方向はＥ－０°－Ｓである。

＜ｂ＞桁行方向はＮ－０°－Ｅ、梁行方向はＥ－０°－Ｓである。

〔柱穴掘り方〕　＜ａ＞一辺48～100cmで、隅丸長方形のものが多い。

＜ｂ＞一辺44～80cmで、隅丸長方形のものが多く、深さは10～70cmである。

〔柱痕跡〕　＜ａ＞Ｎ４Ｅ２のみ抜取り穴がある。＜ｂ＞Ｎ１Ｅ２、Ｎ５Ｅ３、Ｎ６Ｅ１、Ｎ６Ｅ２、Ｎ６Ｅ３については明瞭ではないが、それ以外は抜き取りが及んでいる。



第64図　ＳＢ1114ｂ
N3E1柱列断面図

〔出土遺物〕　土師器坏、高坏・甕片・須恵器蓋・甕片が出土している。

第８表　ＳＢ1114a・ｂ建物跡柱穴観察表

〈ａ〉

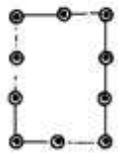
柱穴位置 / 註記	N1E1	N1E2	N1E3	N2E1	N2W1	N3E1	N3W1	N4E1	N4E2	N4E3
形状	－	－	隅丸方形	隅丸方形	隅丸方形	隅丸方形	隅丸方形	隅丸長方形	不整形	－
大きさ 掘り方(A)	40以上×65cm	40以上×65cm	60×63cm	55×65cm	65×60cm	30×48cm	58×58cm	70×100以上cm	30以上×60以上cm	30以上×44cm
大きさ 柱穴(B)		12cm	12×14cm	18cm	14×16cm	18×16cm	14×17cm		10cm	
深さ	(A) － (B)	－ －	－ －	－ －	－ －	－	－ －	－	－ －	－
掘り方埋土	黒褐色粘土など		黒褐色シルトなど	褐灰色シルトなど	褐灰色シルトなど	褐灰色シルトなど	黒褐色粘土質シルトなど	褐灰色粘土など	褐灰色シルトなど	褐灰色シルトなど

〈ｂ〉

柱穴位置 / 註記	N1E1	N1E2	N1E3	N2E1	N2W1	N3E1	N3W1	N4E1	N4W1	N5E1
形状	隅丸方形	隅丸方形	－	－	隅丸方形	隅丸長方形	隅丸長方形	隅丸長方形	－	－
大きさ 掘り方(A)	50×58cm	60×74cm	－	44×60cm	76×80cm	60×80cm	50×70cm	30×45cm	75×70cm	60×60以上cm
大きさ 柱穴(B)	12×16cm	－		14×16cm	14×16cm	14×18cm	14cm	14×16cm	18cm	16cm
深さ	(A) － (B)	10cm 20cm	－ －	－	－ －	70cm 70cm	－ －	－	－ －	－
掘り方埋土	褐灰色シルトなど	褐灰色シルトなど	褐灰色粘土質シルトなど	褐灰色シルトなど	褐灰色シルトなど	褐灰色シルトなど	褐灰色粘土など	褐灰色シルトなど	褐灰色シルトなど	褐灰色粘土など

柱穴位置 / 註記	N5W3	N6E1	N6E2	N6E3
形状		－	隅丸方形	不整形
大きさ 掘り方(A)	70×50cm	－	55×60cm	80×70cm
大きさ 柱穴(B)	－	－	－	22×18cm
深さ	(A) 10cm (B) 15cm	60cm	50cm －	9cm
掘り方埋土	褐灰色シルトなど	黒褐色シルト質粘土など		灰黄褐色粘土質シルトなど

ＳＢ1119建物跡（第66図参照）



〔調査区〕　Ｇ区　　〔検出面〕　Ⅳｋ層

〔検出状況〕　旧農業用水路、ＳＤ1108により削平されているため、きわめて検出状況が悪い。

〔規模〕　桁行３間（柱間寸法203～225cm、総長6.5m）、梁行２間（柱間寸法221～242cm、総長4.7m）の南北棟である。

〔方向〕　桁行方向はＮ－0°－Ｅである。

〔柱穴掘り方〕　一辺50～75cmで、隅丸長方形のものが多く、深さは47～49cmである。

〔重複・増改築〕　ＳＤ1108に切られている。

〔柱痕跡〕　直径16～20cmである。

〔抜取り痕跡〕　Ｎ３Ｅ１、Ｎ４Ｅ１に抜取り穴が見られる。Ｎ１Ｅ２、Ｎ１Ｅ３は遺存状況が悪いが、平面形から抜取りが及んでいる可能性がある。

〔出土遺物〕　土師器甕片、須恵器甕片が少量出土している。

第９表　ＳＢ1119建物跡柱穴観察表

柱穴位置 / 計測			N1E1		N1E2		N1E3		N2E1		N2W1		N3E1		N3W1		N4E1		N4E2		N4E3	
形状			隅丸方形		－				隅丸方形		隅丸方形		－		隅丸方形		不整形		隅丸方形		長方形	
大きさ	長軸方向(A)		60×58cm		70×65以上cm		46以上×30以上cm		50×30cm		75×66cm		50以上×30以上cm		30×30cm		50×64cm		32×36cm		66×26cm	
	短軸方向(B)		18×20cm		16cm以上		10×14cm		16×22cm		18×28cm		16×30cm		15×15cm		13×18cm		18cm		16×18cm	
深さ		(A)		(B)	－		－	－		－	－		－		－	－	38cm	42cm	38cm	36cm	35cm	35cm
埋め方堆積土			褐灰色シルトなど		褐灰色シルトなど		褐灰色シルトなど		褐灰色シルトなど		褐灰色シルトなど		褐灰色シルトなど		－		褐灰色粘土質シルトなど		－		褐灰色シルトなど	

ＳＢ1120建物跡（第63図参照）

〔調査区〕　Ｇ区　　〔検出面〕　Ⅳｋ層

〔重複・増改築〕　認められない。

〔規模〕　桁行３間（柱間寸法185～200cm、総長5.75m）、梁行２間（柱間寸法171～185cm、総長3.6m）の南北棟である。

〔方向〕　桁行方向はＮ－2°－Ｅ、梁行方向はＥ－4°－Ｓである。

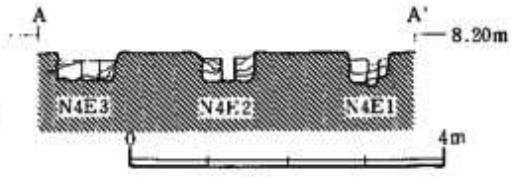
〔柱穴掘り方〕　一辺42～82cmで、隅丸方形あるいは隅丸長方形のものが多い。深さは35～42cmである。

〔柱痕跡〕　直径12～20cmである。

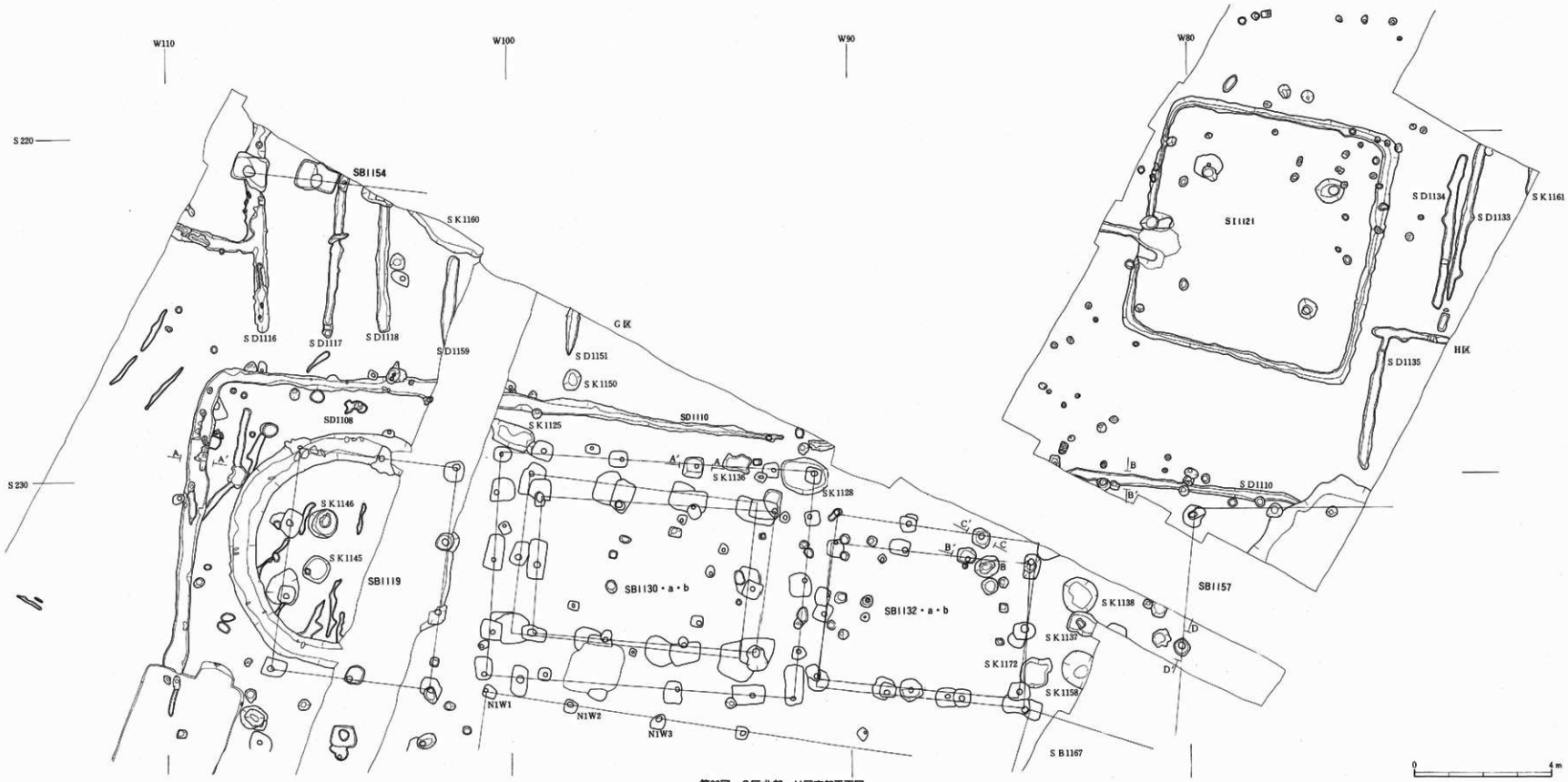
〔抜切り痕跡〕　認められない。

〔その他〕　Ｐ289の位置がＳＢ1120の桁行方向と重複していることから、関連する可能性がある。

〔出土遺物〕　土師器坏、甕片、須恵器甕片が少量出土している。



第65図　ＳＢ1120建物跡南柱列断面図



第66図　G区北部、H区南部平面図

第10表　ＳＢ1120建物跡柱穴観察表

柱穴位置 / 柱名	N1E1		N1E2		N1E3		N2E1		N2W1		N3E1		N3W1		N4E1		N4E2		N4E3	
形状	隅丸方形		隅丸長方形		方形		隅丸方形		隅丸方形		隅丸方形		隅丸方形		隅丸長方形		隅丸長方形			
大きさ 掘り方(A)	50×54cm		66×56cm		56×50cm		56×52cm		52×44cm		54×50cm		50×48cm		63×54cm		50×70cm		42×80cm	
大きさ 柱穴(B)	20cm		15cm		20×16cm		13cm		14cm		16×14cm		15×13cm		16cm		12×14cm		15×14cm	
深さ	(A) —	(B) —	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			38cm	62cm	38cm	36cm	35cm	35cm
掘り方埋土	褐灰色シルトなど		褐灰色シルトなど		褐灰色シルトなど		褐灰色シルトなど		褐灰色シルトなど		褐灰色シルトなど		褐灰色シルトなど		にぶい黄褐色シルト質粘土など		褐灰色シルト粘土など		褐灰色粘土質シルトなど	

ＳＢ1129建物跡（第63図参照）

〔調査区〕　Ｇ区　　〔検出面〕　Ⅳｋ層

〔重複・増改築〕　認められない。

〔規模〕　南北２間以上（柱間寸法252cm、総長5.5m以上）である。

〔方向〕　南北柱列方向はＮ－０°－Ｅである。

〔柱穴掘り方〕　一辺70～80cmで、方形あるいは隅丸方形である。

〔柱痕跡〕　直径14～22cmである。

〔抜取り痕跡〕　Ｎ１Ｗ１のみ抜取り穴がある。

〔出土遺物〕　土師器片が１点出土している。

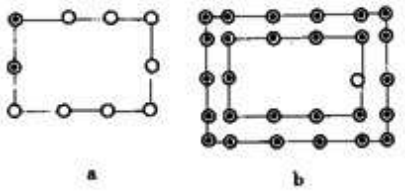
第11表　ＳＢ1129建物跡柱穴観察表

柱穴位置 / 柱名	N1	N2	N3
形状	方形	隅丸長方形	—
大きさ 掘り方(A)	77×78cm	80×70cm	68×38以上cm
大きさ 柱穴(B)	14×22cm	20cm	
掘り方埋土	褐灰色シルト質粘土など	灰黄褐色シルトなど	褐灰色シルトなど

ＳＢ1130ａ・ｂ建物跡（第66図参照）

〔調査区〕　Ｇ区　　〔検出面〕　Ⅳｋ層

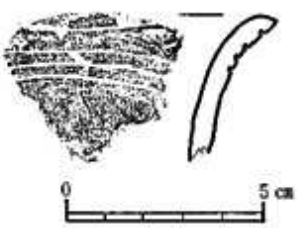
〔重複・増改築〕　ＳＫ1128、Ｐ268、Ｐ271、Ｐ272、Ｐ276、Ｐ278に切られている。ａ（３間×２間）からｂ（５間×２間四面廂付建物）へ建て替えられている。



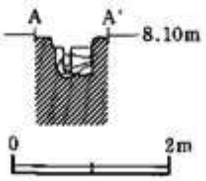
a　　b

〔規模〕　＜ａ＞桁行３間（柱間寸法約210cm、総長6.5m）、梁行２間（柱間寸法約210cm、総長4.2m）の東西棟である。＜ｂ＞（身舎）桁行３間（柱間寸法215～230cm、総長6.8m）、梁行２間（柱間寸法186～225cm、総長4.1m）である。（廂）桁行５間（柱間寸法102～135cm、215～238cm、総長9.1m）、梁行２間（柱間寸法115～139cm、193～249cm、総長6.6m）の東西棟である。

〔方向〕　＜ａ＞梁行方向の一部はＮ－２°－Ｅである。＜ｂ＞（身舎）桁行方向はＥ－３°－Ｎ、梁行方向はＮ－１°－Ｅである。（廂）桁行方向



第67図　ＳＢ1130ｂ Ｎ４Ｅ６出土弥生土器



第68図　ＳＢ1130ｂ Ｎ１Ｅ３柱穴断面図

番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整			内面調整			法量(cm)			残存	備考	写真図版
						口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	底高	口径	底径			
1	E−45	須恵器	甕	SB1130b N1E6		ロクロナデ→液状沈線	—	—	ロクロナデ	—	—	8.2以上	(15.0)	—	(口縁部の)1/5		—
2	C−80	土師器	坏	SB1130b N1E1		ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヘラミガキ	→黒色処理	—	(3.4)	15.6	—	1/8	坏AⅡ2b	129−8

第69図　SB1130建物跡出土遺物 (1)

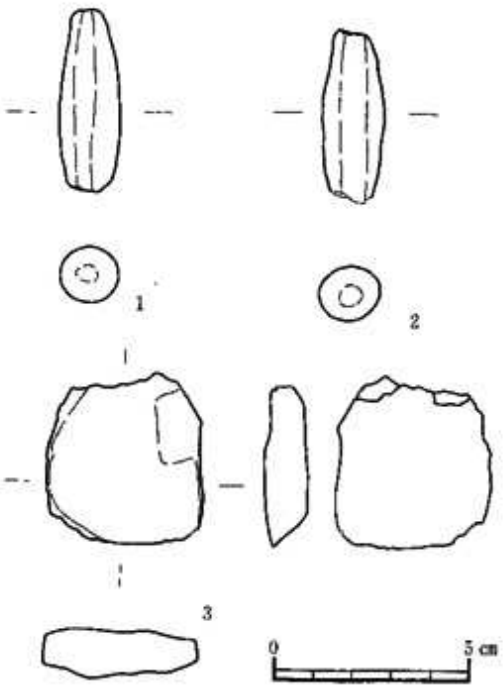
はE−3°−N、梁行方向はN−1°−Wである。

〔柱穴掘り方〕　＜a＞一辺50〜119cmで、隅丸長方形あるいは不整形が多い。＜b＞（身舎）一辺40〜115cmで、隅丸長方形あるいは隅丸方形が多い。（廂）一辺42〜115cmで隅丸長方形あるいは隅丸方形が多い。深さは50cm程である。

〔柱痕跡〕　＜a＞直径15〜18cmである。＜b＞（身舎）10〜26cmである。（廂）10〜20cmである。廂の柱は身舎に比べ、総じて細いものが多い。

〔抜取り痕跡〕　＜a＞抜取り穴の明瞭なものはN3E4柱穴である。他の柱穴の多くも抜取りが及んでいる可能性がある。＜b＞廂の柱には抜取りが認められないが、身舎ではN2E1、N2W1、N3E4を除く柱穴には抜取りが認められる。

〔出土遺物〕　土師器坏、高坏、甕片と少量の須恵器坏、甕片が出土している。また＜b＞の柱穴より須恵器E−45甕（第69図1）、土師器C−80坏（第69図2）、C−111坏、C−112坏、土製品P−3土錘（第70図2）、P−4土錘（第70図1）、金属器N−21手斧（第70図3）が弥生土器B−3壺（第67図）が出土している。



番号	登録番号	種別・器形	法量	写真図版
1	P−4	土製品・土錘	長さ4.8cm 幅 1.5cm	129−5
2	P−3	土製品・土錘	長さ4.5cm 幅 1.6cm	129−6
3	N−21	金属製品・手斧	長さ4.5cm 幅 4cm	129−4

第70図　SB1130建物跡出土遺物 (2)

第12表　ＳＢ1130a・ｂ建物跡柱穴観察表

〈ａ〉

柱穴位置 / 註記	N1E1	N1E2	N1E3	N2E1	N2E2	N2W1	N3E1	N3E2	N3E3	N3E4
形状	隅丸長方形		不整方形	不整形	隅丸方形	隅丸長方形	隅丸方形	不整形	－	－
大きさ 掘り方(A)	60×110cm	30以上×60cm	100×60以上cm	95×70cm	78×60cm	69×56cm	110×180cm	90×70cm	70以上×74cm	－
大きさ 柱穴(B)			－	15cm	－	15×15cm	－	－	－	－
深さ	(A) － (B) －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
掘り方埋土	黒褐色シルトなど	褐灰色シルトなど	黒褐色シルトなど	黒褐色粘土質シルトなど	灰黄褐色シルトなど	黒褐色シルトなど	灰黄褐色シルトなど	褐灰色シルトなど	褐灰色シルトなど	褐灰色シルトなど

〈ｂ〉（身舎）

柱穴位置 / 註記	N1E1	N1E2	N1E3	N1E4	N2E1	N2W1	N3E1	N3E2	N3E3	N3E4
形状	長方形	隅丸長方形	隅丸長方形	隅丸方形	隅丸方形	隅丸長方形	方形	隅丸長方形	－	隅丸長方形
大きさ 掘り方(A)	50×78cm	60×110cm	90×60cm	60×64cm	50×50cm	115×56cm	70×95cm	58×80cm	30以上×70cm	40×72cm
大きさ 柱穴(B)	14×16cm	10×12cm	18cm	24×22cm	12×14cm	18cm	22×20cm	12×15cm	14cm	20×26cm
深さ	(A) － (B) －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
掘り方埋土	褐灰色シルトなど	褐灰色粘土質シルトなど	灰黄褐色シルト質粘土など	褐灰色シルト質粘土など	黒褐色シルトなど	黒褐色シルトなど	褐灰色粘土質シルトなど	褐灰色シルトなど	褐灰色シルトなど	灰黄褐色粘土質シルトなど

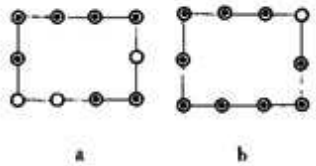
（廂）

柱穴位置 / 註記	N1E1	N1E2	N1E3	N1E4	N1E5	N1E6	N2E1	N2W1	N3E1	N3W1
形状	長方形	隅丸方形	隅丸方形	隅丸方形	隅丸方形	隅丸方形	隅丸方形	隅丸方形	隅丸方形	隅丸長方形
大きさ 掘り方(A)	44×44cm	42×48cm	58×58cm	48×55cm	50×60cm	43×32cm	42×43cm	64×70cm	70×62cm	164×56cm
大きさ 柱穴(B)	15×19cm	10×14cm	12cm	12cm	14×16cm	12×10cm	12cm	14cm	13cm	12cm
深さ	(A) － (B) －	－ －	56cm 40cm	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
掘り方埋土	褐灰色シルトなど	黒褐色シルトなど	褐灰色シルトなど	褐灰色シルトなど	褐灰色シルトなど	褐灰色シルト質粘土など	褐灰色シルトなど	褐灰色シルトなど	褐灰色粘土質シルトなど	褐灰色シルトなど

柱穴位置 / 註記	N1E1	N1W1	N5E1	N5E2	N5E3	N5E4	N5E5	N5E6
形状	不整方形	隅丸方形	隅丸長方形	隅丸方形	隅丸方形	－	隅丸長方形	隅丸方形
大きさ 掘り方(A)	38×40cm	36×62cm	115×56cm	56×95cm	62×52cm	34以上×52cm	89×48cm	65×50cm
大きさ 柱穴(B)	14×12cm	12cm	10×14cm	12×14cm	12×13cm	－	20×20cm	12×14cm
深さ	(A) 10cm (B) －		－ －	－ －				
掘り方埋土	黒褐色粘土質シルトなど	褐灰色シルトなど	褐灰色シルトなど	褐灰色シルトなど	褐灰色シルトなど	褐灰色シルトなど	褐灰色シルトなど	褐灰色シルトなど

ＳＢ1132ａ・ｂ建物跡（第66図参照）

〔調査区〕　Ｇ区　　〔検出面〕　Ⅳｋ層



〔重複・増改築〕　ＳＢ1167、ＳＫ1172を切っている。ａからｂへ南桁行と西梁行をそろえ、柱間寸法を延ばして建て替えている。

〔規模〕　＜ａ＞桁行３間(柱間寸法180～230cm、総長5.8～6.1m)、梁行２間(柱間寸法190～214cm、総長４～4.3m)の東西棟である。＜ｂ＞桁行３間(柱間寸法180～212cm、総長4.9m)、梁行２間（柱間寸法231～247cm、総長６ｍ）の東西棟である。

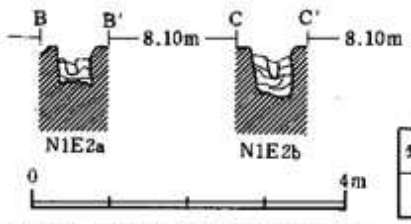
〔方向〕　＜ａ＞北桁行方向はＥ－0°－Ｓ、南桁行方向はＥ－2°－Ｓで、梁行方向はＮ－0°－Ｅである。＜ｂ＞北桁行方向はＥ－1°－Ｓ、南桁行方向はＥ－3°－Ｎで、梁行方向はＮ－1°－Ｅである。

〔柱穴掘り方〕　＜ａ＞一辺は45～80cmで、隅丸長方形あるいは隅丸方形である。深さは50cm程である。＜ｂ＞一辺は45～65cmで、隅丸方形のものが多く、深さは65cm程である。

〔柱痕跡〕　＜ａ＞直径12～18cmである。＜ｂ＞直径18～22cmである。

〔抜取り痕跡〕　＜a＞N1E1のみ抜取り穴がある。＜b＞N1E4、N3E4のみ抜取り穴がある。

〔出土遺物〕　土師器坏、甕片、須恵器甕片が出土している。また＜b＞の柱穴より土師器C－22坏（第72図）が出土している。



第71図　SB1132建物跡柱穴断面図

登録番号	種別	器形	出土遺構	外面調整 口縁部	外面調整 体部	内面調整 底部	内面調整 体部	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	備考	写真図版
C－22	土師器	坏	SB－1132B N3E2	ヨコナデ	ヘラケズリ	黒色処理		3.3	10.3	8.9	坏A 1a	129－9

第72図　SB1132建物跡出土遺物

第13表　SB1132a・b建物跡柱穴観察表

＜a＞

柱穴位置 / 柱記		N1E1	N1E2	N1E3	N1E4	N2E1	N2W1	N3E1	N3E2	N3E3	N3E4
形状		隅丸長方形	隅丸方形	隅丸長方形	－	－	隅丸方形	隅丸長方形	隅丸長方形	－	－
大きさ	掘り方(A)	72×59cm	45×55cm	45×69cm	59×62cm	40以上×50cm	54×58cm	50以上×80cm	54×54以上cm	60×50cm	
	柱穴(B)	18cm	14cm	16cm	12cm	－	13cm	16×18cm	12×16cm	－	－
掘り方埋土		黒褐色粘土質シルトなど	黒褐色粘土など	黒褐色粘土質シルトなど	黒褐色シルトなど	褐灰色シルトなど					※Bと重複

＜b＞

柱穴位置 / 柱記		N1E1	N1E2	N1E3	N1E4	N2E1	N2W1	N3E1	N3E2	N3E3	N3E4
形状		－	不整方形	隅丸方形	隅丸方形	長方形	隅丸方形	隅丸方形	隅丸方形	不整形	不整形
大きさ	掘り方(A)	－	50×50cm	45×50cm	60×55cm	50×65cm	32×46cm	32×62cm	50×50cm	40×45cm	60×60cm
	柱穴(B)	－	18cm	15cm	20×22cm	22cm	14×11cm	14×16cm	16cm	14×16cm	14×15cm
掘り方埋土		灰黄褐色シルトなど	灰黄褐色シルトなど	褐灰色粘土など	褐灰色粘土質シルトなど	褐灰色シルトなど	褐灰色粘土質シルトなど	黒褐色シルトなど	暗灰色粘土質シルトなど	黒褐色シルト質粘土など	褐灰色粘土質シルトなど

SB1144建物跡

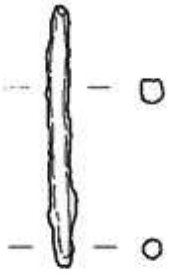
〔調査区〕　Fb区

〔検出面〕　IVa層、一部IVk層

〔検出状況〕　遺構の一部のみ調査区内で検出した。SX1102により上面が削平されている。

〔重複・増改築〕　SX1102に切られている。

〔規模〕　南北柱列2間（柱間寸法220cm、総長4.4m）、東西柱列1間以上（柱間寸法200cm、総長2m以上）である。



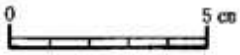
〔方向〕　南北柱列はN－0°－Eである。

〔柱穴掘り方〕　一辺は32～70cmで、方形あるいは長方形である。深さは35～50cmである。

〔柱痕跡〕　直径12～18cmである。

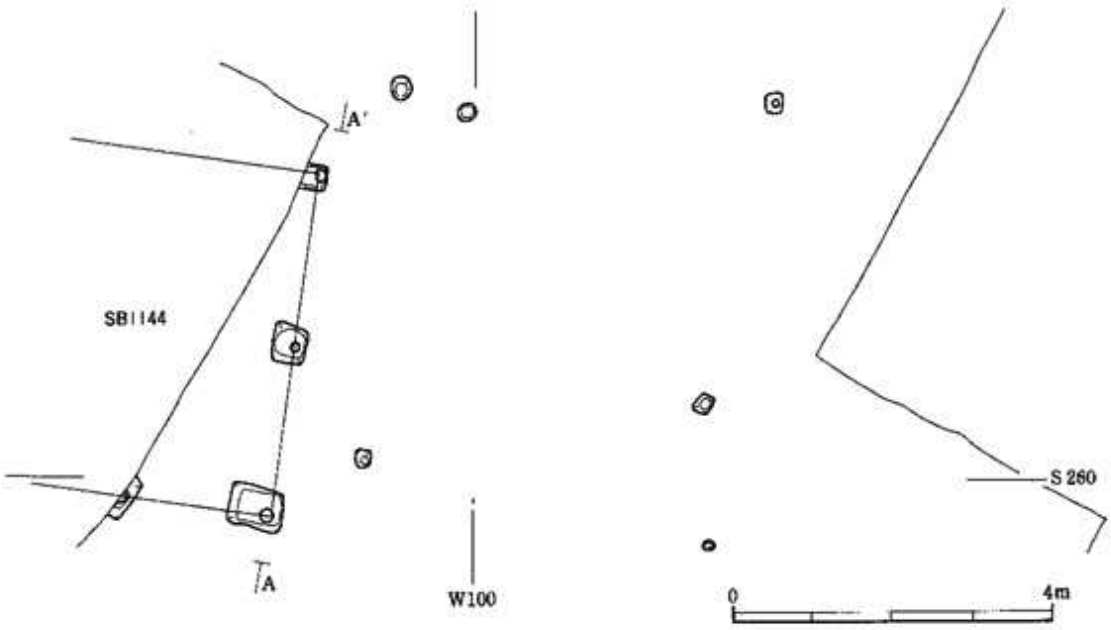
〔抜取り痕跡〕　認められない。

〔出土遺物〕　金属器N－8鉄鏃（第73図）が出土している。

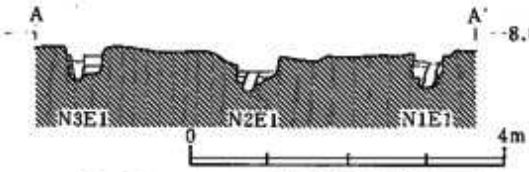


登録番号	種別・器形	法量	写真図版
N－8	鉄製品・鉄鏃	長さ6.7cm以上 幅0.4～0.7cm 厚さ0.6cm	129－3

第73図　SB1144建物跡出土遺物



第74図　ＳＢ1144建物跡平面図



第75図　ＳＢ1144建物跡東柱列断面図

第14表　ＳＢ1144建物跡柱穴観察表

柱穴位置記		N1E1		N2E1		N3E1		N3E2	
形式		方式		方式		長方形		―	
大きさ	掘り方(A)	32×30cm		50×42cm		50×70cm		60×14以上cm	
	柱穴(B)	14×15cm		12cm		18cm		―	
深さ		(A) 40cm	(B) 40cm	35cm	43cm	40cm	40cm	40cm	50cm
掘り方埋土		褐灰色粘土質シルトなど		褐灰色粘土質シルトなど		褐灰色粘土質シルトなど		灰黄褐色粘土質シルトなど	

ＳＢ1148建物跡（第63図参照）

〔調査区〕　Ｇ区　　〔検出面〕　Ⅳｋ層

〔検出状況〕　旧農業用水路により西桁行の柱穴が削平されているため、きわめて遺構の残存状況が悪い。

〔重複・増改築〕　ＳＤ1115に切られ、ＳＢ1114ｂを切っている。

〔規模〕　桁行３間以上（柱間寸法210～225cm、総長6.5m以上）、梁行２間（柱間寸法230～250cm、総長4.8m）の南北棟である。

〔方向〕　桁行方向はＮ－２°－Ｅ、梁行方向はＥ－２°－Ｓである。

〔柱穴掘り方〕　一辺44～70cmで、隅丸方形あるいは不整形である。深さは９～60cmである。

〔柱痕跡〕　直径14～20cmである。

〔抜切り痕跡〕　認められない。

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。

第15表　ＳＢ1148建物跡柱穴観察表

柱穴位置 / 柱　記	N1E1		N1E2		N1E3		N2E1		N2W1		N3E1		N3W1		N4E1	
形　状	不整形		隅丸方形		不整形				－		隅丸方形		隅丸方形		隅丸方形	
大きさ　掘り方(A)	50×60cm		51×44cm		70×60cm		50以上×50cm		26×14cm		60×36cm		42×42cm		60以上×68cm	
大きさ　柱　穴(B)	20cm		13×16cm		20cm		14×16cm		－		18×15cm		(8cm)		18cm	
深　さ	(A) 60cm	(B) 65cm	60cm	60cm	20cm	30cm	－	40cm	9cm	－	56cm	58cm	10cm	20cm	40cm	50cm
掘り方埋土	褐灰色粘土など		暗褐色粘土など						褐灰色シルトなど		暗褐色粘土質シルトなど		暗灰色シルトなど		灰黄褐色シルト質粘土など	

ＳＢ1154建物跡（第66図参照）

〔調査区〕　Ｇ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔検出状況〕　遺構の一部のみ調査区内で検出した。

〔重複・増改築〕　ＳＤ1116、ＳＤ1118に切られている。

〔規模〕　東西２間以上（柱間寸法200cm、総長3.5m以上）である。

〔方向〕　東西柱列はＥ－0°－Ｓである。

〔柱穴掘り方〕　一辺70～100cmで、隅丸方形のものがあり、深さは50～55cmである。

〔柱痕跡〕　32～40cmである。

〔抜取り痕跡〕　ＳＩＷ１、ＳＩＷ２に抜取り穴がある。

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。

第16表　ＳＢ1154建物跡柱穴観察表

柱穴位置 / 柱　記	W1		W2		W3	
形　状	－		隅丸方形		－	
大きさ　掘り方(A)	80×70以上cm		70×85以上cm		50以上×100cm	
大きさ　柱　穴(B)	34cm		40×32cm		－	
深　さ	(A) 35cm	(B) 70cm	50cm	64cm	－	－
掘り方埋土	褐灰色シルト質粘土など		黒褐色粘土など		－	

ＳＡ1157一本柱列（第66図参照）

〔調査区〕　Ｇ区、Ｈ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔検出状況〕　遺構の一部のみ調査区内で検出した。

〔重複・増改築〕　ＳＸ934に切られている。

〔規模〕　南北１間以上（柱間寸法380cm、総長3.8m以上）、東西２間以上（柱間寸法170～240cm、総長４ｍ以上）である。

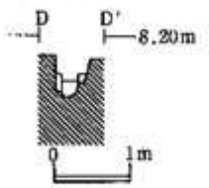
〔方向〕　南北柱列はＮ－1°－Ｗ、東西柱列はＥ－5°－Ｎである。

〔柱穴掘り方〕　一辺30～65cm、隅丸方形あるいは楕円形である。深さは21～65cmである。

〔柱痕跡〕　直径８～24cmである。

〔抜取り痕跡〕　ＮＩＷ１のみ抜取り穴がある。

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。

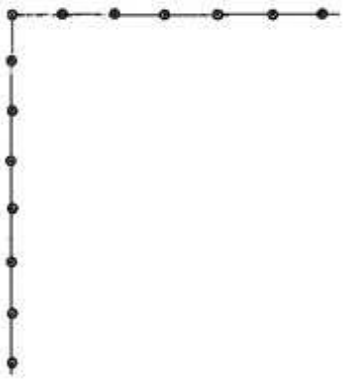


第76図　ＳＢ1157建物跡柱穴断面図

第17表　ＳＢ1157建物跡柱穴観察表

柱穴位置 / 柱　記	S1W1		N1W1		N1W2		N1W3	
形　状	隅丸方形		隅丸方形		長円形		隅丸方形	
大きさ　掘り方(A)	44×48cm		63×35cm		40×35cm		32×30cm	
大きさ　柱　穴(B)	18×23cm		18×24cm		8×16cm		－	
深　さ	(A) 58cm	(B) 5cm	29cm	65cm	30cm	30cm	21cm	－
掘り方埋土	黒褐色粘土		－		暗灰色粘土		－	

ＳＡ1147一本柱列（第63図参照）



〔調査区〕　Ｇ区　　〔検出面〕　Ⅳｋ層

〔重複・増改築〕　Ｎ４Ｗ１がＰ286に切られている。

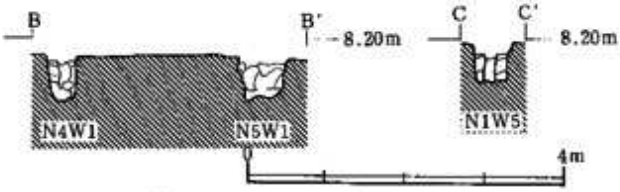
〔規模〕　南北７間（柱間寸法240～266cm、総長18m以上）、東西６間（柱間寸法250～295cm、総長16m以上）である。

〔方向〕　南北柱列はＮ－１°－Ｅ、東西柱列はＥ－２°－Ｓである。

〔柱穴掘り方〕　一辺22～64cm、隅丸方形、隅丸長方形あるいは方形である。深さは50～60cmである。

〔柱痕跡〕　直径10～20cmである。

〔抜取り痕跡〕　認められない。



第77図　ＳＡ1147一本柱列断面図

〔出土遺物〕　土師器坏、甕片、須恵器坏、高坏片が少量出土している。

第18表　ＳＡ1147一本柱列柱穴観察表

柱穴位置 / 註記	N1W1	N2W1	N3W1	N4W1	N5W1	N6W1	N7W1	N8W1	N1W2	N1W3
形状	隅丸長方形	方形	隅丸方形	隅丸長方形	隅丸方形	隅丸長方形	隅丸長方形	隅丸長方形	隅丸長方形	不整形
大きさ 掘り方(A)	22×40cm	66×54cm	54×50cm	42×34cm	66×64cm	43×52cm	54×42cm	58×56cm	35×40cm	44×44cm
大きさ 柱穴(B)	10×12cm	14×20cm	20×18cm	12×14cm	20×20cm	15×14cm	14×16cm	16cm	14×26cm	16×16cm
深さ	(A) — (B) —	— —	— —	60cm 60cm	60cm 60cm	— —	— —	— —	— —	—
掘り方埋土	褐灰色シルトなど	褐灰色シルトなど	褐灰色シルト質粘土など	灰黄褐色シルト質粘土など	褐灰色粘土質シルトなど	褐灰色シルトなど	褐灰色粘土質シルトなど	褐灰色シルトなど		

柱穴位置 / 註記	N1W4	N1W5	N1W6	N1W7
形状	方形	方形	方形	
大きさ 掘り方(A)	25×35cm	46×46cm	52×49cm	36×28cm以上
大きさ 柱穴(B)	14cm	18cm	16cm	—
深さ	(A) — (B) —	50cm 50cm	—	— —
掘り方埋土	褐灰色シルトなど	褐灰色シルトなど	灰黄褐色シルトなど	黄褐色シルト質粘土など

ＳＡ1168柱列（第63図参照）

〔調査区〕　Ｇ区　　〔検出面〕　Ⅳｋ層

〔重複・増改築〕　認められない。

〔規模〕　東西１間（柱間寸法130cm、総長1.3m）である。

〔方向〕　Ｅ－０°－Ｓである。

〔柱穴掘り方〕　一辺40～58cmで、隅丸方形あるいは、隅丸長方形である。

〔柱痕跡〕　直径14～21cmである。

〔抜取り痕跡〕　認められない。

第19表　Ｓ1168柱列柱穴観察表

柱穴位置 / 註記	W1	W2
形状	隅丸方形	楕円形
大きさ 掘り方(A)	50×50cm	46×35cm
大きさ 柱穴(B)	14×14cm	16×21cm
深さ	(A) — (B) —	— —
掘り方埋土	灰黄褐色粘土質シルトなど	灰黄褐色シルトなど

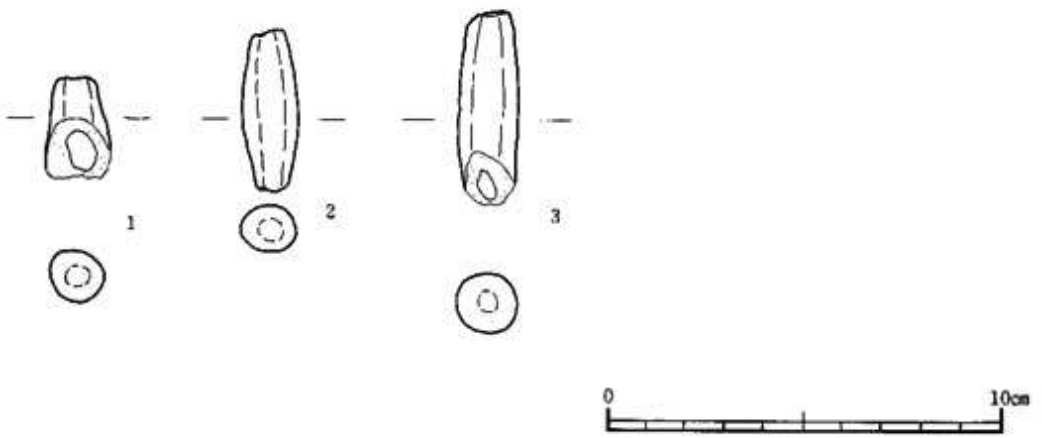
〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。

F・G・H区出土遺物

SB1114a・b建物跡、SB1119建物跡、SB1120建物跡、SB1129建物跡、SB1130a・b建物跡、SB1132a・b建物、SB1148建物跡、SA1147一本柱列、SA1168柱列などの遺構を覆うように、多量の土師器、須恵器を出土した。出土層位はⅢ層中からⅣa層上面までで、これらの遺構に伴うものと考えられるため、ここに一括して載せておく。

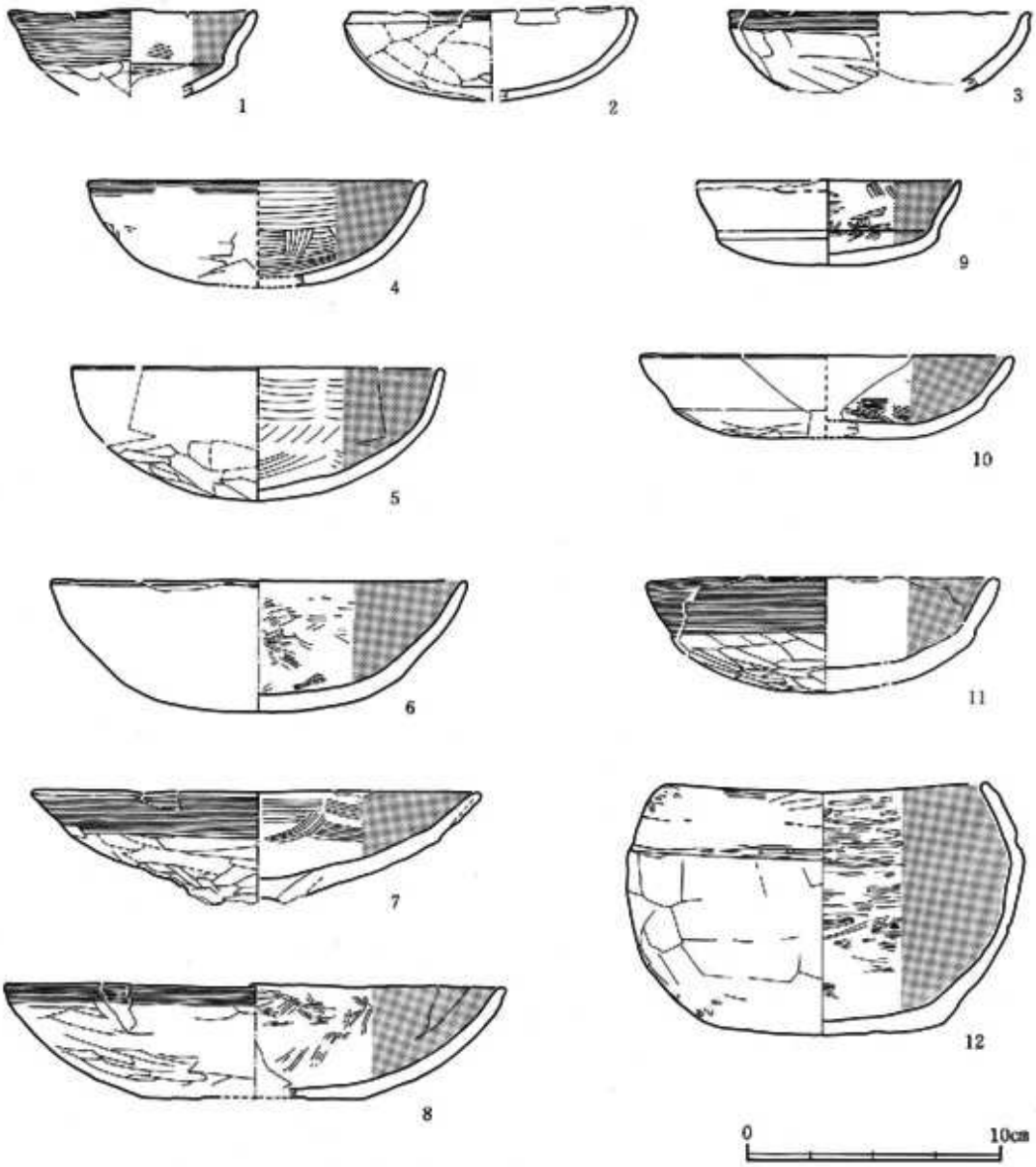
番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	残存	備考	写真図版
1	E-21	須恵器	高台付坏	Fb区	Ⅲ層中	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	3.5以上	12.0	7.5	1/4	高台付坏1	130—1
2	E-10	須恵器	坏	Fa区	Ⅲ層中	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	2.9	10.6	5.8	1/2	坏Ⅲ2	130—3
3	E-20	須恵器	坏	Fb区	Ⅲ層中	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	不明	不明	不明	2.8	8.2	5.3	1/3	坏Ⅱ3	130—5

第78図　F区出土遺物



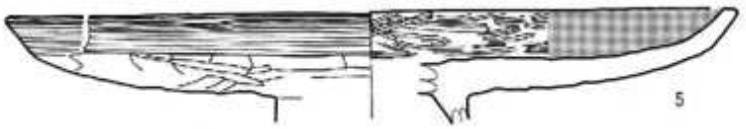
図版番号	遺物番号	出土地点 地区	出土地点 遺構	出土地点 層位	種別 器形	法量・特徴	写真図版
1	P—13	G区		Ⅳa層上面	土製品 土錘	長さ2.5cm、幅1.2—1.6cm、孔径0.6cm	125—4
2	P—2	G区		Ⅳa層上面	土製品 土錘	長さ4.2cm、幅0.9—1.5cm、孔径0.6cm	125—3
3	P—14	G区		Ⅳa層	土製品 土錘	長さ5.0cm、幅1.2—1.5cm、孔径0.5cm	125—2

第79図　G区出土遺物 (1)



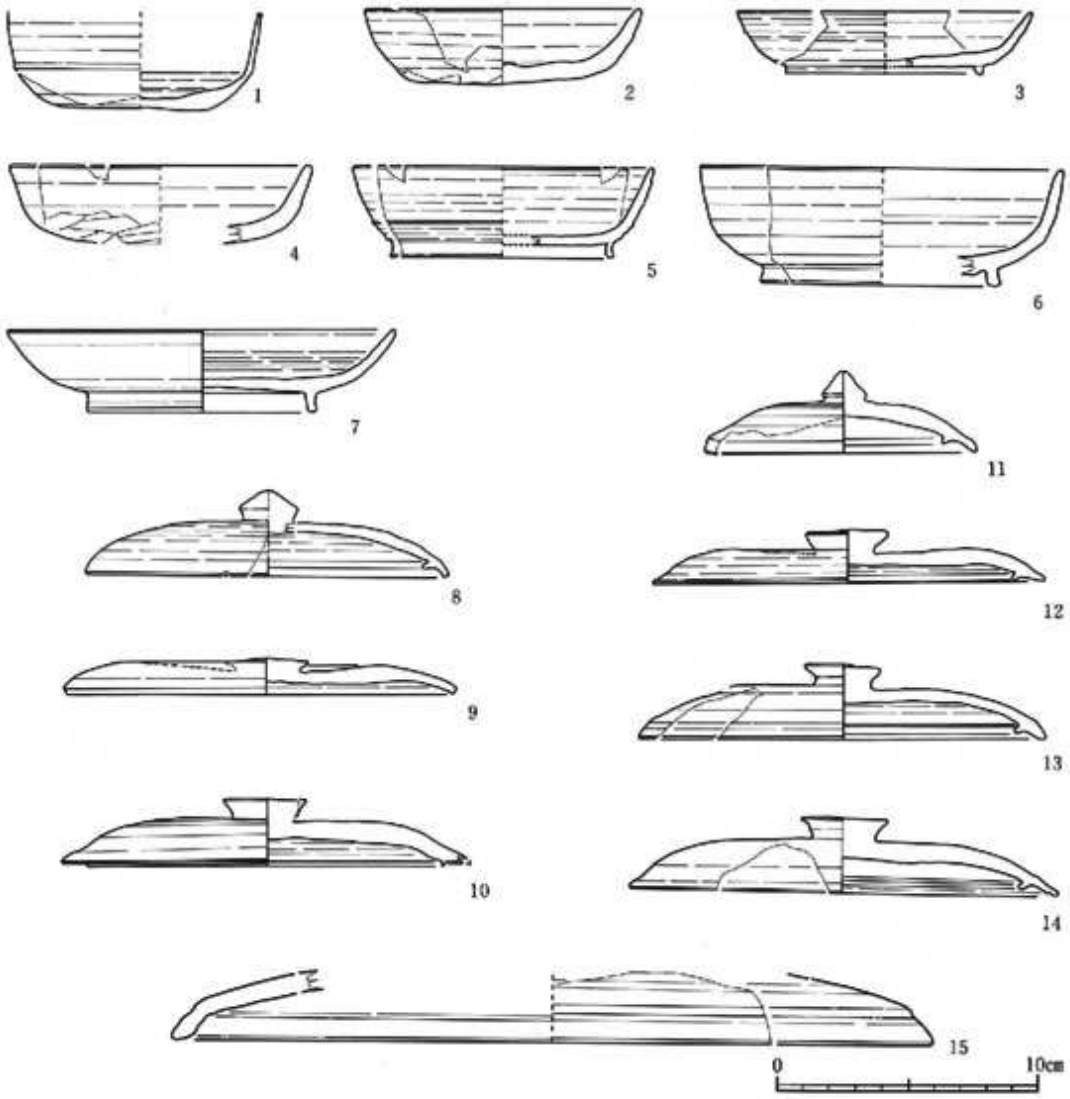
番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	単位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	残存	備考	写真図版
1	C−46	土師器	坏	G区	Ⅲ層中	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			(3.8)	(9.8)	(8.2)	1/6	AⅠ2	136−7
2	C−42	土師器	坏	G区	Ⅲ層中	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	不明			(3.6)	(11.2)	(7.6)	1/4	BⅢ	136−8
3	C−98	土師器	坏	G区	Ⅲ層中	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	不明			(3.5)	(11.9)	——	1/5	BⅢ	136−12
4	C−48	土師器	坏	G区	Ⅲ層中	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			(4.2)	(13.4)	(10.3)	1/4	AⅢ2	136−16
5	C−75	土師器	坏	G区	Ⅲ層中	不明	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			5.3	14.9	4.7	1/3	AⅢ2	131−2
6	C−44	土師器	坏	G区	Ⅲ層中	不明	不明	不明	ヘラミガキ→黒色処理			5.2	16.6	10.7	1/2	AⅢ1	131−3
7	C−73	土師器	高坏	G区	Ⅲ層中	ヨコナデ	ヘラケズリ	——	ヘラミガキ→黒色処理			4.5以上	17.8	——	1/2	高坏Ⅱ	——
8	C−45	土師器	坏	G区	Ⅲ層中	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			(4.5)	(19.8)	(8.6)	1/4	AⅣ1	131−6
9	C−13	土師器	坏	G区	Ⅲ層中	不明	不明	不明	ヘラミガキ→黒色処理			3.3	10.4	9.0	2/3	AⅠ2	136−11
10	C−43	土師器	坏	G区	Ⅲ層中	不明	不明	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			(3.3)	(14.8)	(8.0)	1/5	AⅢ2	131−1
11	C−40	土師器	坏	G区	Ⅲ層中	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			4.6	13.9	5.3	1/2	AⅠ2	136−14
12	C−38	土師器	甕	G区	Ⅲ層中	ヘラミガキ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			9.6	12.8	9.6	4/5	AⅠ	131−8

第80図　G区出土遺物 (2)



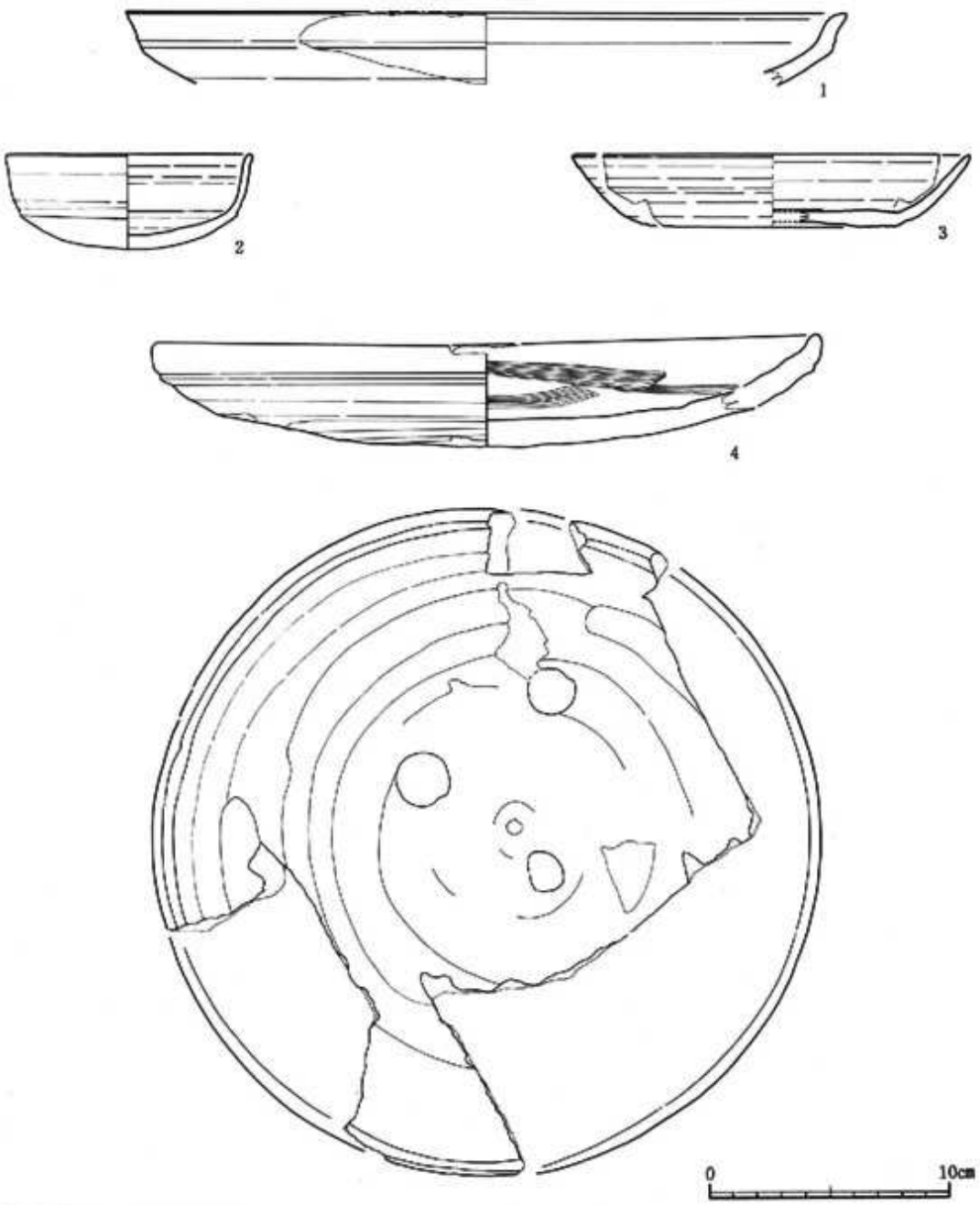
番号	挿図番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	残存	備考	写真図版
1	C-27	土師器	坏	G区	Ⅱb層中	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			3.0	8.5	7.2	完形	坏A Ⅱ1a	136-5
2	C-76	土師器	坏	G区	Ⅳa層上面	ヨコナデ	ヘラケズリ	―	ヘラミガキ→黒色処理			4.3以上	17.2	―	1/6	体1	136-10
3	C-70	土師器	坏	G区	Ⅱ層中	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			4.6	14.9	12.4	1/10	坏A1 3a	136-15
4	C-47	土師器	坏	G区	Ⅱ層中	ヨコナデ	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			5.7	19.5	11.5	1/3	坏A1 2c	133-5
5	C-23	土師器	高坏	G区	Ⅱb層中	ヨコナデ	ヘラケズリ	―	ヘラミガキ→黒色処理			4.3以上	(27.8)	―	1/3	高坏1a	―
6	C-41	土師器	甕	G区	Ⅱ層中	ヨコナデ	不明	―	ヨコナデ	ヘラナデ	―	18.9	18.9	(孔径)9.1	3/4		132-6
7	C-50	土師器	高坏	G区	Ⅱb層中	―	脚柱部ヘラケズリ	裾開部ヘラナデ	坏部黒色処理	―	脚部ヘラケズリ	5.1以上	―	11.3	2/3	高坏1 透孔が3ヶ所有	132-2
8	C-72	土師器	高坏	G区	Ⅱb層中	―	脚柱部ヘラケズリ	脚裾部ヨコナデ	―	―	不明	5.6以上	―	13.3	2/3	高坏1	132-1
9	C-25	土師器	高坏	G区	Ⅱb層中	坏部ヘラケズリ	脚柱部ハケメ	脚裾部ヨコナデ	坏部ヘラミガキ→黒色処理		脚部ヘラケズリ	7.4以上	―	12.0	1/2	高坏2	132-4

第81図　G区出土遺物 (3)



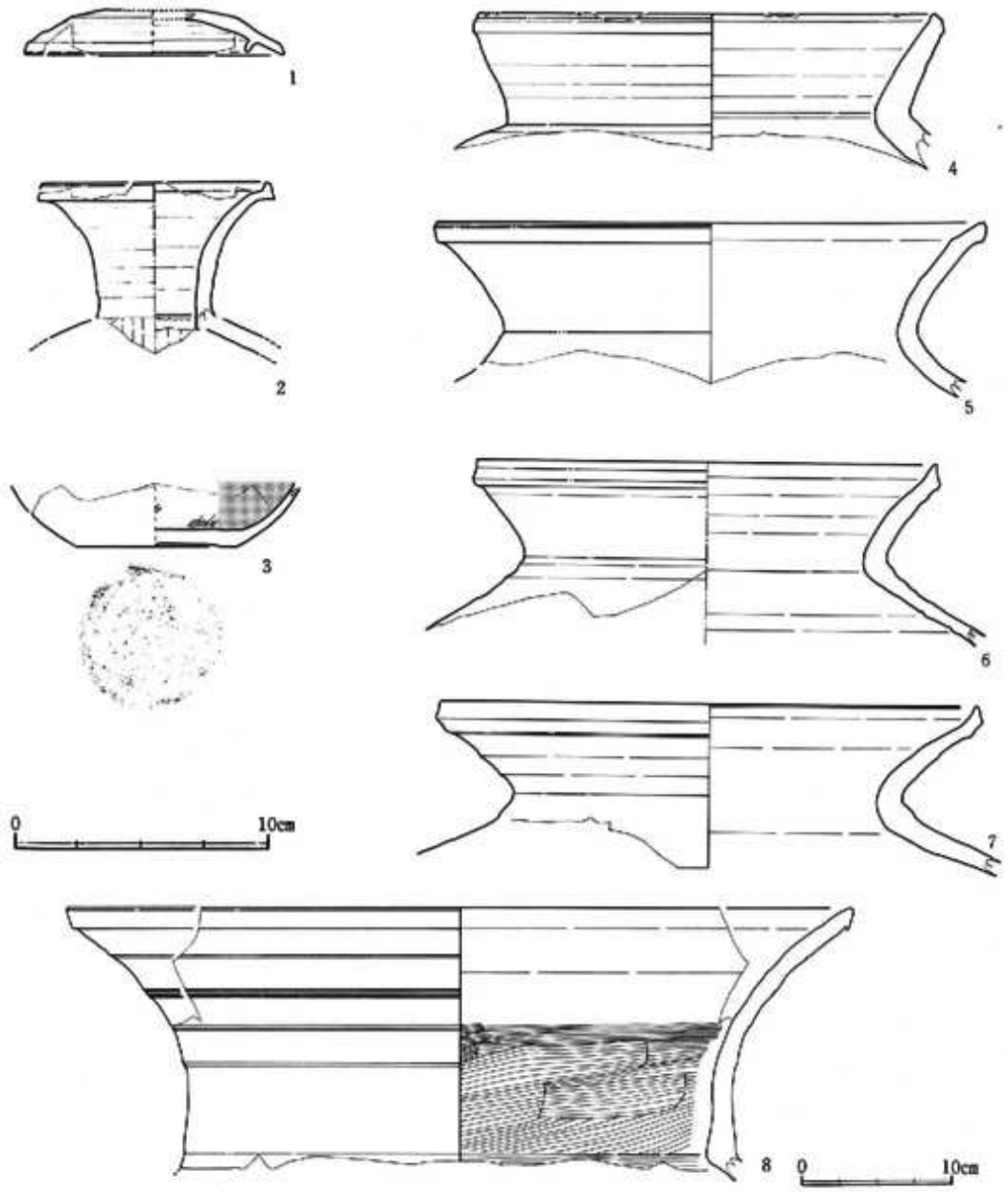
番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	残存	備考	写真図版
1	E−57	須恵器	坏	G区	基層中	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→ロクロナデ	—	ロクロナデ	ロクロナデ	4.7以上	9.7以上	(5.5)	1/3	坏Ⅰ3	133−2
2	E−30	須恵器	坏	G区	基層中	ロクロナデ	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	2.9	10.6	7.5	3/4	坏Ⅱ2	133−1
3	E−70	須恵器	高台付坏	G区	基層中	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	2.4	(10.4)	(7.6)	1/4	高台付坏Ⅰ	133−5
4	E−29	須恵器	坏	G区	基層中	ロクロナデ	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	(3.2)	(11.5)	(9.8)	1/5	坏Ⅱ2	133−7
5	E−68	須恵器	高台付坏	G区	基層中	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	3.5	(11.6)	(8.7)	1/5	高台付坏Ⅱ	133−10
6	E−67	須恵器	高台付坏	G区	基層中	ロクロナデ	ロクロナデ→回転ヘラケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	(4.5	(14.0)	(9.2)	1/8	高台付坏Ⅱ	133−6
7	E−25	須恵器	高台付坏	G区	基層中	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	3.2	14.8	8.8	1/2	高台付坏Ⅱ	133−9
8	E−27	須恵器	蓋	G区	基層中	回転ヘラケズリ→ロクロナデ			ロクロナデ	ロクロナデ	—	3.3	(16.9)	—	1/4	蓋Ⅰ1	135−2
9	E−28	須恵器	蓋	G区	基層中	つまみ部ロクロナデ	ロクロナデ	端部ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	—	1.4	15.0	—	ほぼ完形	蓋Ⅰ1b	135−5
10	E−26	須恵器	蓋	G区	基層中	つまみ部ロクロナデ	ロクロナデ→回転ヘラケズリ	端部ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	—	2.6	15.6		4/5	蓋Ⅰ2b	135−9
11	E−55	須恵器	蓋	SK−1149		つまみ部ロクロナデ	回転ヘラケズリ	端部ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	—	3.2	10.4	—	2/3	蓋Ⅰ1	135−1
12	E−23	須恵器	蓋	G区	基層中	つまみ部ロクロナデ	ロクロナデ	端部ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	—	2.1	15.0	—	4/5	蓋Ⅰ2b	135−7
13	E−31	須恵器	蓋	G区	基層中	つまみ部ロクロナデ	回転ヘラケズリ→ロクロナデ	端部ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	—	2.0	15.6	—	3/5	蓋Ⅰ2b	135−10
14	E−32	須恵器	蓋	G区	基層中	つまみ部ロクロナデ	ロクロナデ	端部ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	—	2.8	16.4	—	4/5	蓋Ⅰ2b	135−8
15	E−39	須恵器	蓋	G区	基層中	—	回転ヘラケズリ→ロクロナデ	端部ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	—	2.8以上	(29.2)	—	1/8	盤の可能性あり	135−13

第82図　G区出土遺物 (4)



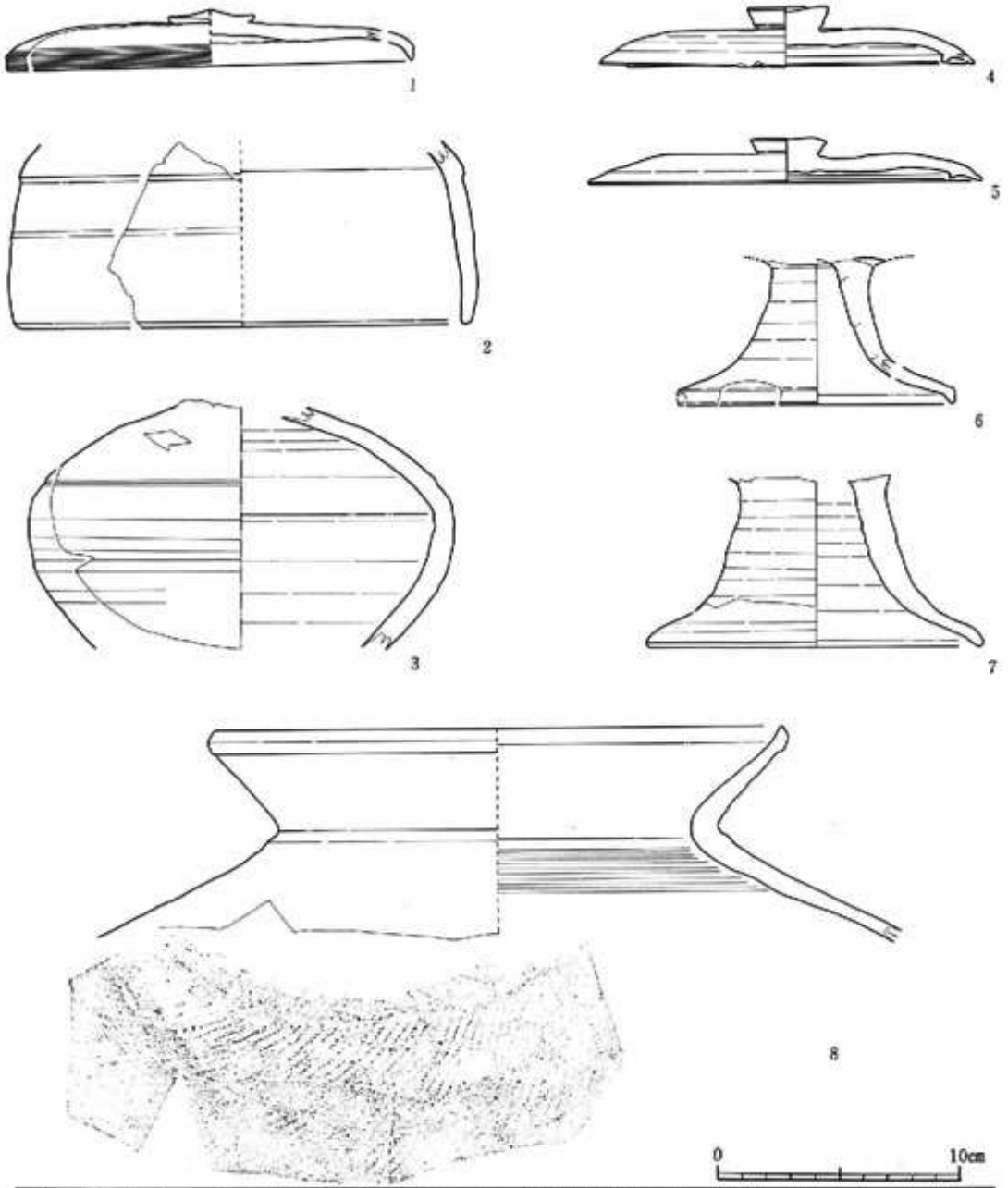
番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整			内面調整			法量(cm)			残存	備考	写真図版
						口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	器高	口径	底径			
1	E-35	須恵器	盤	G区	第b層中	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	(2.4)	30.0	22.3	1/2	盤 II	—
2	E-41	須恵器	坏	G区	攪 乱	ロクロナデ	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	4.0	10.3	9.0	2/3	坏I 2	133-3
3	E-66	須恵器	坏	G区	第b層中	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	3.0	16.5	10.8	1/4	坏II 1	133-4
4	E-22	須恵器	盤	G区	IVa層上面	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ→回転ヘラケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ→一部ヘラナデ		4.5	27.8	15.0	3/4	底部に欠損線跡(圏?)有、盤I	132-11

第83図　G区出土遺物 (5)



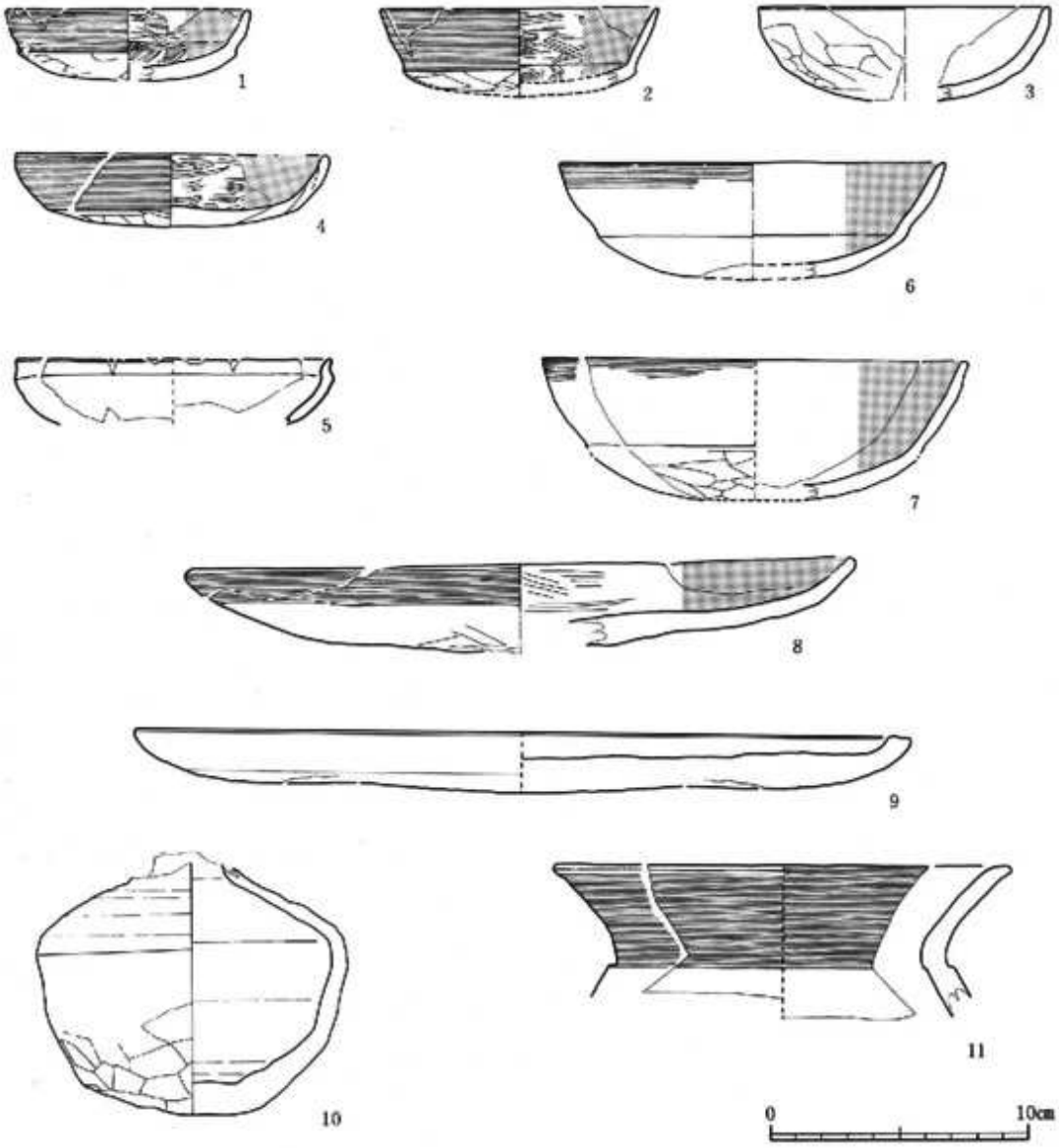
番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整			内面調整			法量(cm)			残存	備考	写真図版
						口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	器高	口径	底径			
1	E−73	須恵器	蓋	G区	Ⅳk層上面	—	回転ヘラケズリ	端部ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	—	1.8以上	10.3	—	1/3	蓋Ⅰ1	135−4
2	E−71	須恵器	長頸壺	G区	Ⅲ層中	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ	—	—	6.8以上	9.2	—	(口縁部の)1/3		132−3
3	D−2	土師器	坏	G区	Ⅲ層中	—	ロクロナデ	回転糸切り→手持ちヘラケズリ	—	ヘラミガキ→黒色処理		2.5以上	—	6.7	1/4	ロクロ使用	136−3
4	E−37	須恵器	甕	G区	Ⅲ層中	ロクロナデ	ロクロナデ	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	6.3以上	18.6	—	(口縁部)完形	甕Ⅰ1	134−4
5	E−60	須恵器	甕	G区	Ⅲ層中	ロクロナデ	ロクロナデ	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	6.9以上	21.9	—	(口縁部の)1/2強	甕Ⅰ1	134−5
6	E−75	須恵器	甕	G区	Ⅲ層中	ロクロナデ	ロクロナデ	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7.3以上	18.3	—	(口縁部の)1/4	甕Ⅰ1	134−1
7	E−58	須恵器	甕	G区	Ⅲ層中	ロクロナデ	平行叩き	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	6.6以上	21.5	—	(口縁部の)1/2	甕Ⅰ1	134−2
8	E−24	須恵器	甕	G区	Ⅲ層中	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ	口縁部ヘラナデ	—	18.3以上	52.2	—	(口縁部の)2/3	甕Ⅰ2	134−3

第84図　G区出土遺物 (5)



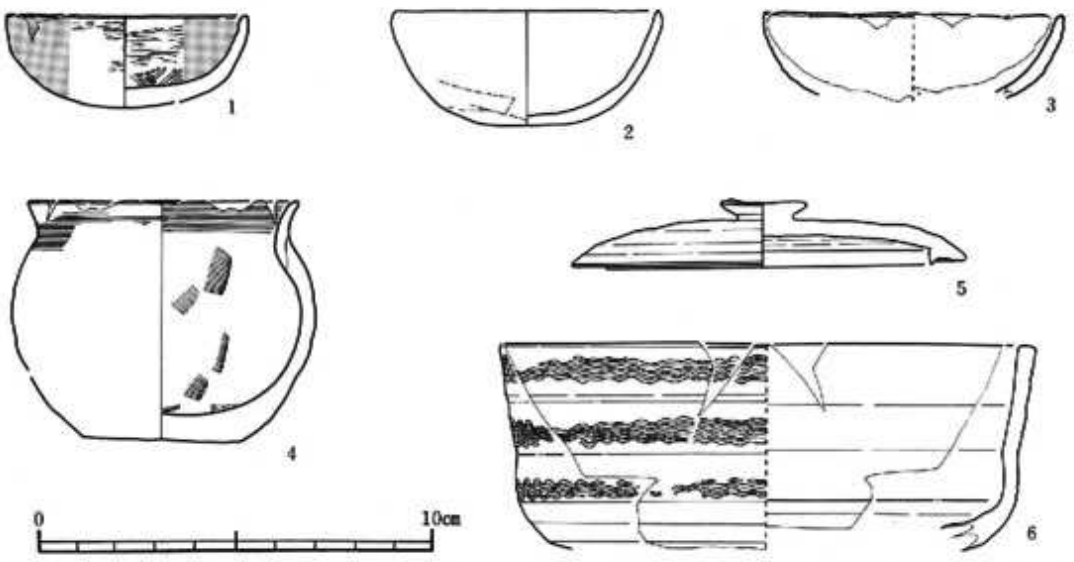
番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整			内面調整			法量(cm)			残存	備考	写真図版
						口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	器高	口径	底径			
1	E−62	須恵器	蓋	G区	Ⅲb層中	つまみ部 ロクロナデ	回転ヘラケズリ	端部 ヘラナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	—	2.3	(16.8)	—	1/5	蓋Ⅱ1b	135−11
2	E−74	須恵器	蓋	SB−1132 周辺	Ⅳa層	—	ロクロナデ	端部 ロクロナデ	—	ロクロナデ	端部 ロクロナデ	7.8 以上	(19.0)	—	1/8	蓋Ⅱ2	132−7
3	E−72	須恵器	蓋	G区	Ⅳ層上面	—	回転ヘラケズリ →ロクロナデ	—	—	ロクロナデ	—	10.3 以上	—	—	1/4		133−12
4	E−38	須恵器	蓋	G区	Ⅲb層中	つまみ部 ロクロナデ	ロクロナデ	端部 ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	—	2.5	15.5	—	4/5	蓋Ⅱ2b	135−3
5	E−34	須恵器	蓋	G区	Ⅲb層中	つまみ部 ロクロナデ	回転ヘラケズリ →ロクロナデ	端部 ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	—	1.8	16.3	—	完形	蓋Ⅱ2b	135−12
6	E−65	須恵器	高杯	G区	Ⅲb層中	—	脚柱部 ロクロナデ	脚裾部 ロクロナデ	—	—	脚部 ロクロナデ	5.8 以上	—	11.5	(脚部の) 2/3		133−8
7	E−63	須恵器	高杯	G区	Ⅲb層中	—	脚柱部 ロクロナデ	脚裾部 ロクロナデ	—	—	脚部 ロクロナデ	7.2 以上	—	14.0	(脚部の) 3/4		133−11
8	E−59	須恵器	甕	Ⅲ,Ⅲ層 SD−1110		ロクロナデ	平行叩き	—	ロクロナデ	上部ヨコナデ 青海波文	—	9.2 以上	23.8	—	(口縁部の) 1/4	甕Ⅰ1	134−6

第85図　G区出土遺物 (7)



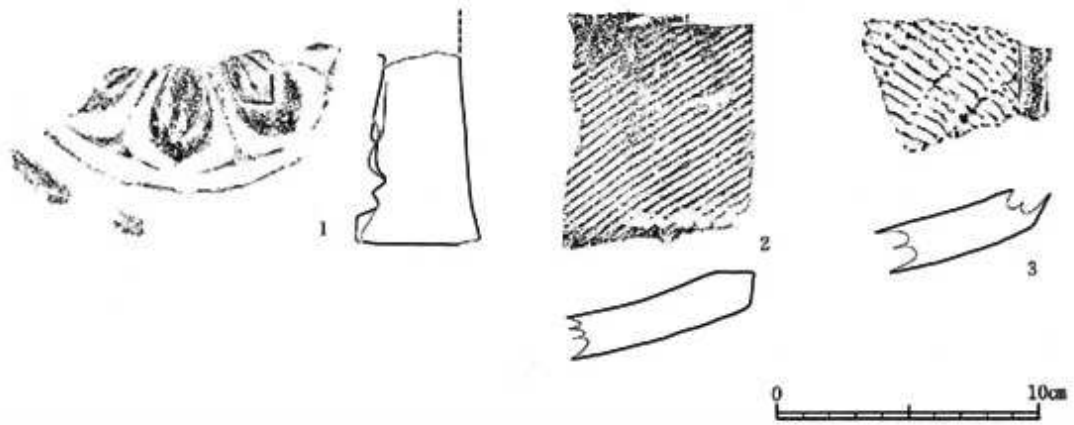
番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	残存	備考	写真図版
1	C-52	土師器	坏	G区	Ⅳa層上面	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			(2.8)	9.5	8.4	1/3	坏A Ⅰ2b	130-6
2	C-49	土師器	坏	G区	Ⅳa層上面	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			(3.5)	10.9	9.1	1/3	坏A Ⅱ1a	130-1
3	C-100	土師器	坏	G区	Ⅳa層上面	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	不明			(3.8)	(11.5)		1/6	坏B Ⅰ	130-9
4	C-113	土師器	坏	G区	Ⅳa層上面	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			2.8	12.2	9.6		坏A Ⅱ2	130-13
5	C-101	土師器	坏	G区	Ⅳa層上面	不明	不明	―	不明			2.5以上	(12.2)	―	1/5	坏B Ⅱ	―
6	C-74	土師器	坏	G区	Ⅳa層上面	ヨコナデ	不明	不明	不明			(4.4)	(15.0)	(11.0)	1/4	坏A Ⅰ2a	130-17
7	C-93	土師器	坏	G区	Ⅳa層上面	ヨコナデ	不明	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			5.5	16.4	13.0	1/3	坏A Ⅰ2d	131-4
8	C-72	土師器	高坏	G区	Ⅳa層上面	ヨコナデ	ヘラケズリ	―	ヘラミガキ→黒色処理			3.8以上	26.0	―	1/2	高坏Ⅰ	―
9	E-33	須恵器	壺	G区	Ⅳa層上面	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	30.0	2.7	22.0		壺 E	132-10
10	E-11	須恵器	長頸壺	G区	Ⅳa層上面	―	ロクロナデ	ロクロナデ→手持ちヘラケズリ	―	ロクロナデ	ロクロナデ	10.3以上	―	7.8			132-9
11	C-61	土師器	壺	G区	Ⅳa層上面	ヨコナデ	ヘラナデ	―	ヨコナデ	ヘラナデ	―	6.0以上	8.9	―	1/4	壺B a	132-5

第86図　G区出土遺物 (8)



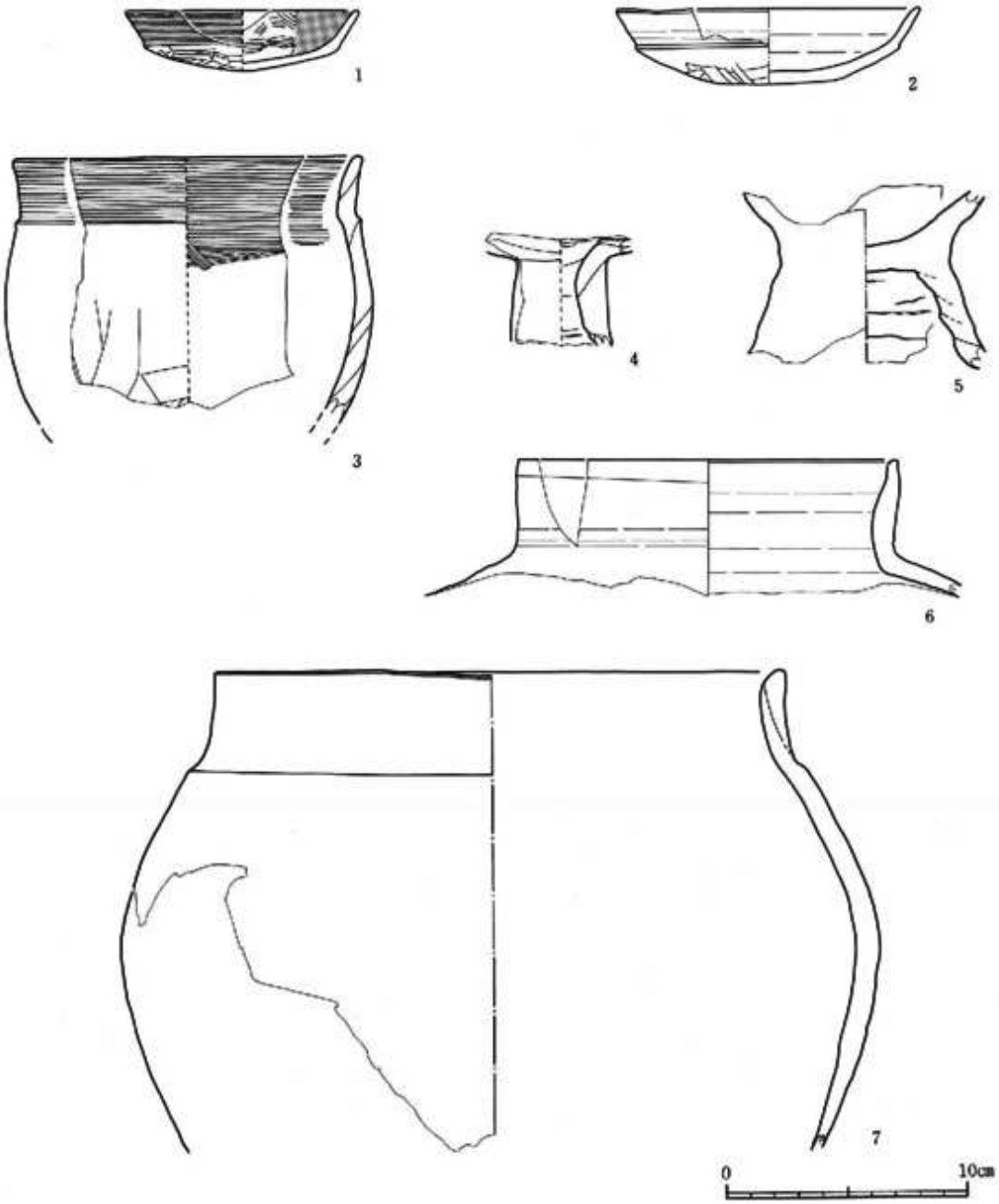
番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整			内面調整			法量(cm)			残存	備考	写真図版
						口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	器高	口径	底径			
1	C-56	土師器	坏	SB1130周辺	Ⅳk層中	ヘラミガキ→黒色処理			ヘラミガキ→黒色処理			5.6	9.3	7.3	3/4	坏A Ⅱ 2 a②	136-2
2	C-51	土師器	坏	G区	Ⅳk層上面	不明	不明	ヘラケズリ	不明	不明	不明	4.4	10.4	4.0	1/2	坏B Ⅰ	136-4
3	C-99	土師器	坏	G区	Ⅳk層上面	不明	不明	不明	不明	不明	不明	3.2以上	(11.9)	—	1/6	坏B Ⅰ	—
4	C-55	土師器	鉢	SB1130周辺	Ⅳk層中	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	9.3	10.4	6.2	2/3	鉢Ⅱ b	131-7
5	E-12	須恵器	壺	G区	Ⅳk層上面	つまみ部ロクロナデ	回転ヘラケズリ	回転→ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	—	2.6	15.0	—		壺Ⅰ 2 b	135-6
6	E-36	須恵器	鉢	G区	Ⅳk層上面	ロクロナデ	ロクロナデ 下端回転ヘラケズリ	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	8.0以上	(20.4)	—		4～5条単位の沈線が3段入る	132-8

第87図　G区出土遺物 (9)



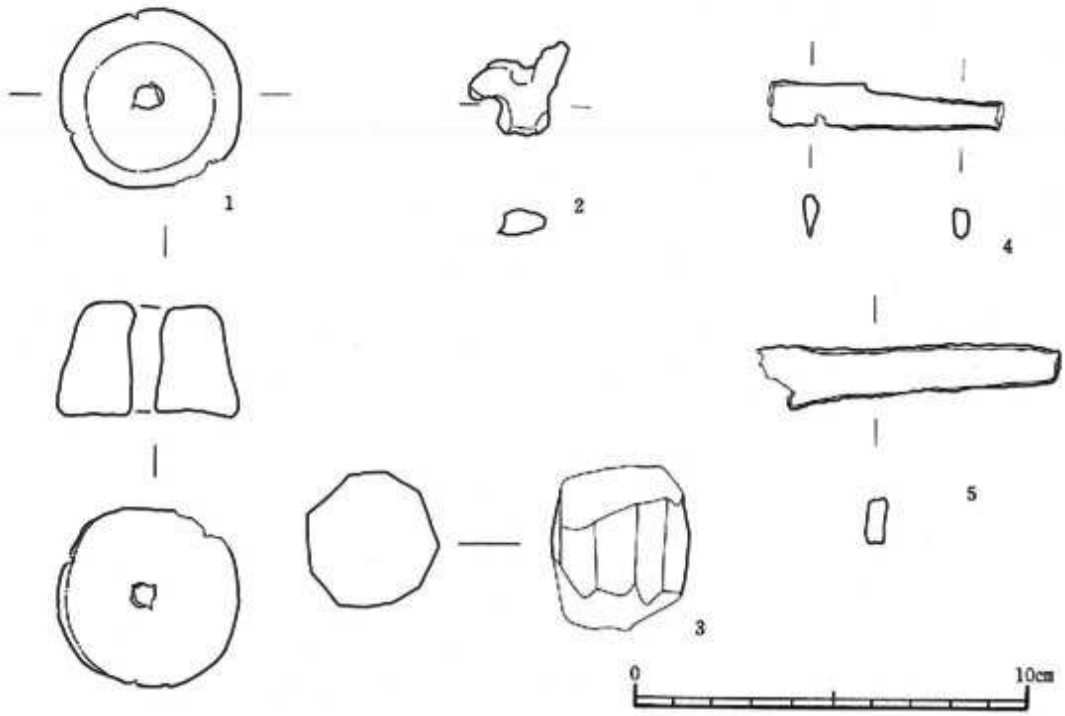
番号	登録番号	種別	器形	出土遺物	層位	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	F-3	瓦	軒丸瓦	G区	Ⅲ層中				125-6
2	G-5	瓦	平瓦	G区	Ⅳa層上面	(凹面)布目・指痕・糸切り痕		125-7	
3	G-4	瓦	平瓦	G区	Ⅳa層上面	(凹面)布目→カデ		125-8	

第88図　G区出土遺物 (10)



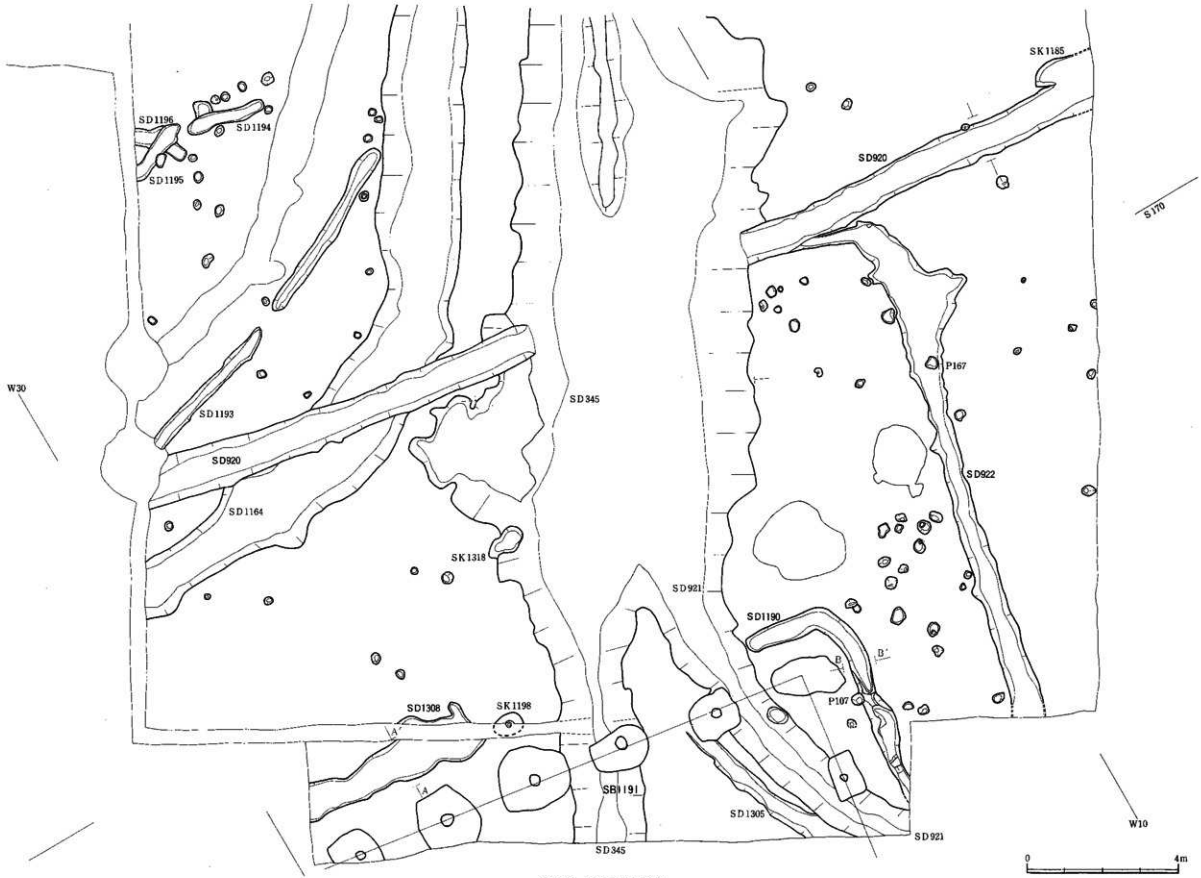
番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	残存	備考	写真図版
1	C-23	土師器	坏	H区	Ⅳa層上面	ヨコナデ	ヨコナデ	手持ちヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			2.5	9.6	8.0	1/4	坏AⅡ1	130-4
2	E-54	須恵器	坏	H区	Ⅳb層上面	ロクロナデ	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	3.2	10.5	5.1	1/4	坏Ⅰ1	130-6
3	C-59	土師器	甕	H区	覆土中	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	12.2以上	14.5	—	1/4	甕Ⅳ	—
4	C-68	土師器	器台	H区	Ⅳb層上面	—	—	脚部不明	—	—	脚部ヘラケズリ	4.7以上	—	—	(脚部片)1/3		—
5	C-69	土師器	台付甕	H区	Ⅳa層上面	—	—	脚部不明	—	—	不明	7.1以上	—	—	(脚部片)1/3	磨滅が著しい	130-5
6	E-53	須恵器	甕	H区	覆土中	回転ヘラケズリ	ロクロナデ	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	5.7以上	15.6	—	(口縁部)完形	甕Ⅱ	130-13
7	C-62	土師器	甕	H区	覆土中	不明	不明	—	不明	不明	—	20.3以上	20.6	—	1/3	甕Ⅳ	130-9

第89図　H区南部出土遺物



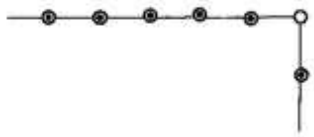
図版番号	遺物番号	出土地点 地区	出土地点 層位	種別 器形	法量・特徴	写真図版
1	P—17	H区	Ⅱ層	土製品 紡錘車	長さ4.6cm、径4.7cm、孔径0.7cm	130—8
2	N—23	Fb区	Ⅱ層	金属製品 不明	たて1.8～2.4cm、よこ1.2～2.2cm、厚さ0.6cm	130—11
3	P—12	G区	Ⅱ層	土製品 不明	長さ3.5cm以上、幅3.4cm、手持ちヘラケズリ	130—7
4	N—6	G区	Ⅱ層中	鉄製品 刀子	長さ5.9cm以上、茎元幅1.0cm、刀元幅1.2cm	130—10
5	N—28	Fa区	Ⅱ層上面	鉄製品 刀子	長さ7.8以上、茎部幅1.0—1.7cm、茎部厚0.5～0.6cm	130—12

第90図　F・G・H区出土遺物



第91図　N区南部平面図

ＳＢ1191建物跡



〔調査区〕　Ｎ区　　〔検出面〕　Ⅳ層

〔検出状況〕　遺構の一部のみ調査区内で検出し、南に拡張区を設定したが敷地の制約上、遺構の全容は明らかにできなかった。なおこの建物跡については保存されることになったため、柱穴を確認することにとどめた。

〔重複・増改築〕　ＳＤ345、ＳＤ921、ＳＤ1305溝跡に切られている。

〔規模〕　南北柱列１間以上（柱間寸法270cm、総長2.7m以上）、東西柱列５間以上（柱間寸法250～270cm、総長13m以上）である。

〔方向〕　東西柱列方向はＥ－1°－Ｓである。

〔柱穴掘り方〕　一辺74～190cmで、隅丸方形あるいは隅丸台形などである。深さは99cmのものがある。

〔柱痕跡〕　直径22～35cmであるが、30cm前後のものが多くきわめて大形である。

〔抜取り痕跡〕　Ｎ１Ｅ１のみ抜き取られていたとも考えられるが、土坑との重複の可能性もあり判然としない。

〔出土遺物〕　土師器坏、甕片、瓦、縄文土器片（単節ＬＲ）が少量出土している。

〔その他〕　建物の北、東側をＳＤ1190、1308溝跡が、柱穴より140～180cm離れ巡っている。

第20表　ＳＢ1191建物跡柱穴観察表

柱穴位置 / 記号		N1E1		N1E2		N1E3		N1E4		N1E5		N1E6		N2E1	
形状		不整形		隅丸方形		隅丸台形		隅丸台形		不明		不明		隅丸長方形	
大きさ	掘り方(A)	190×178cm		118×74cm		118×154cm		170×198cm		170×166cm		170以上×120cm		118×78cm	
	柱穴(B)			35×27cm		33×29cm		28×26cm		30×35cm		30×24cm		18cm	
深さ		(A) 99cm	(B) —	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
掘り方埋土		褐灰色粘土質シルトなど		-		-		-		-		-		-	

ＳＢ1306建物跡

〔調査区〕　Ｎ区　　〔検出面〕　Ⅳ層

〔重複・増改築〕　ＳＫ1307、ＳＫ1346、ＳＤ345、ＳＤ1164、ＳＤ1176、ＳＤ1189、ＳＤ1309～1313に切られている。なおＳＫ1307、ＳＫ1346土坑付近では柱穴に切られる遺構が一部観察されたが、ＳＢ1306建物が保存されていることになったため柱穴を確認するにとどめた。

〔規模〕　桁行10間（柱間寸法220～250cm、総長23.7m）、梁行２間（柱間寸法250～265cm、総長5.2m）の東西棟である。

〔方向〕　桁行方向はＥ－2°－Ｓである。

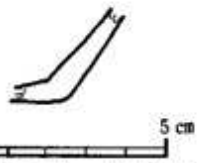
〔柱穴掘り方〕　一辺70～155cmで、隅丸方形あるいは隅丸長方形のものが多い。深さは42～92cm程である。

〔柱痕跡〕　直径15～34cmであるが、20cm前後のものが多い。焼けて焼土、炭化物を含む箇所があり、火災に遭ったと考えられる。

〔抜取り痕跡〕　認められない。

〔出土遺物〕　土師器坏、甕片と須恵器甕片が少量出土している。またN3E10より底部から体部へ屈曲して立ち上がる土師器C－123坏（第92図）と、N2E1より金属器N－51不明品が出土している。

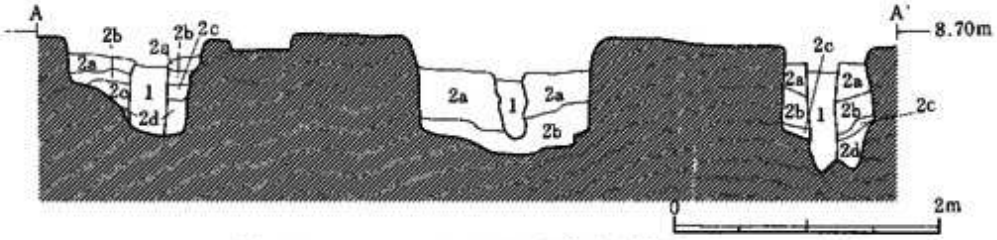
〔その他〕　建物の東、西、南側をSD1319、1188、1180溝跡が、柱穴より100～120cm離れて巡っている。



登録番号	種別	器形	出土地点 出土遺構
C-123	土師器	坏	SB1306 N3E10

外面調整	内面調整
不明	不明

第92図　SB1306
N3E10出土遺物



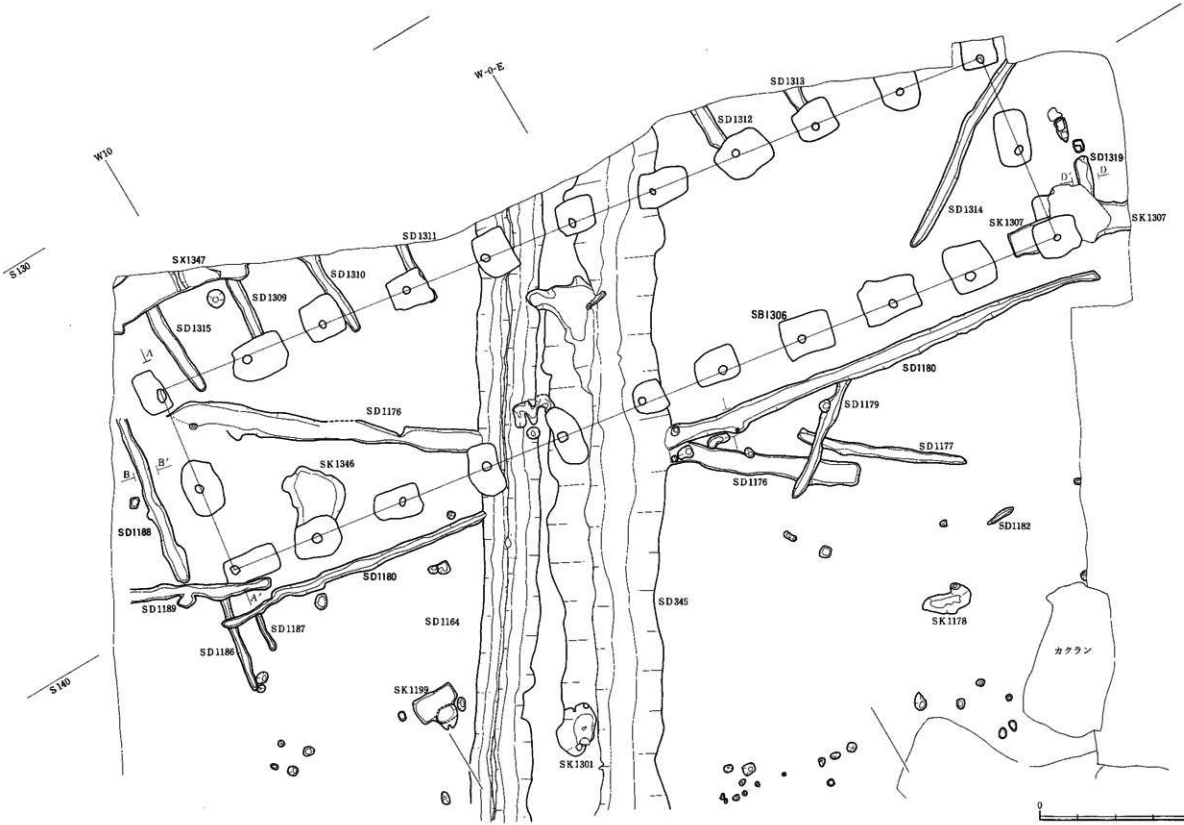
第93図　SB1306建物跡西桁行柱列断面図

第21表　SB1306建物跡柱穴観察表

柱穴位置 / 柱記	N1E1	N1E2	N1E3	N1E4	N1E5	N1E6	N1E7	N1E8	N1E9	N1E10
形状	隅丸長方形	不整形	隅丸方形	隅丸長方形	不整方形	方形	隅丸方形	方形	隅丸方形	隅丸長方形
大きさ 掘り方(A)	70以上×95cm	105以上×100cm	98×105cm	115×137cm	92×137cm	92×102cm	120×106cm	95×116cm	112×107cm	105×126cm
大きさ 柱穴(B)	22×30cm	18×22cm	20cm	19×22cm	15cm	25×20cm	20×23cm	18×20cm	20×17cm	105×150cm
深さ	(A) (B)	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
掘り方埋土	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

柱穴位置 / 柱記	N1E11	N2E1	N2W1	N3E1	N3E2	N3E3	N3E4	N3E5	N3E6	N3E7
形状	隅丸長方形	隅丸長方形	不整形	隅丸方形	隅丸方形	隅丸長方形	長方形	隅丸方形	不整形	
大きさ 掘り方(A)	115×70cm	150×86cm	150×98cm	105×117cm	125×120cm	118×155cm	100隅丸長方形	89×110cm	85×80cm	155×88cm
大きさ 柱穴(B)	34×24cm	25×19cm	20×23cm	16×19cm	24×28cm	22×18cm	21cm	22×26cm	21×34cm	155×88cm
深さ	(A) 75cm (B) 76cm	－ －	92cm 80cm	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
掘り方埋土	黒褐色粘土など	－	にぶい黄橙色粘土など		－	－	－	－	－	－

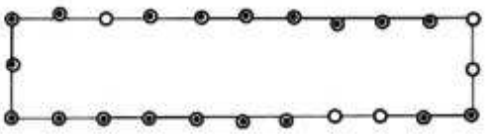
柱穴位置 / 柱記	N3E8	N3E9	N3E10	N3E11
形状	隅丸長方形	隅丸長方形	隅丸方形	長方形
大きさ 掘り方(A)	140×83cm	84×122cm	105×125cm	72×147cm
大きさ 柱穴(B)	24cm	24×15cm	25cm	22×26cm
深さ	(A) 42cm (B) －	－ －	－ －	96cm 96cm
掘り方埋土	－	－	にぶい黄褐色粘土など	



第94図　N区北部平面図

ＳＢ1320建物跡

〔調査区〕　Ｏ区　　〔検出面〕　Ⅳ層



〔検出状況〕　遺溝の一部が旧農業用水路、撹乱により削平されている。

〔重複・増改築〕　ＳＤ1327～1332に切られている。

〔規模〕　桁行10間（柱間寸法220～250cm、総長23.5m）、梁行２間（柱間寸法230～280cm、総長5.2m）の東西棟である。

〔方向〕　桁行方向はＥ－1°－Ｓである。

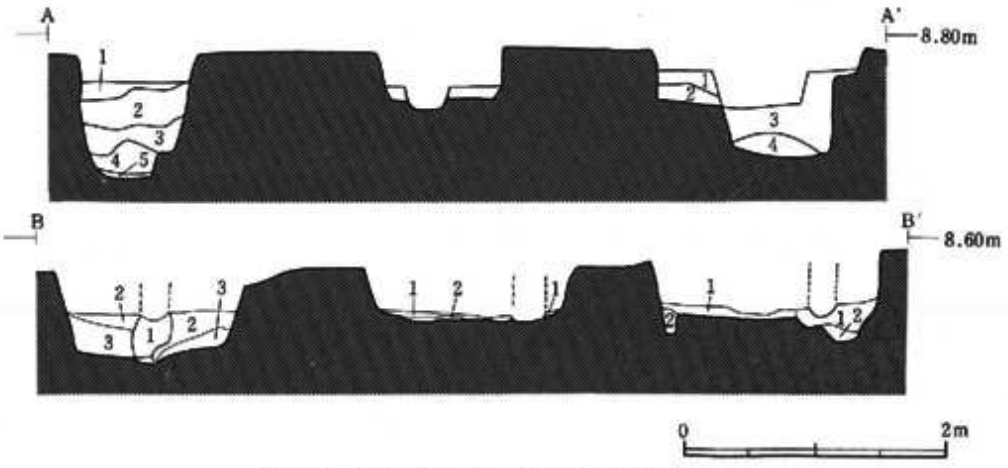
〔柱穴掘り方〕　一辺70～210cmで隅丸方形あるいは隅丸長方形のものが多い。

〔柱痕跡〕　直径13～33cmであるが、20～30cmのものが多い。柱の抜取り穴が深いため、柱痕跡が検出されないものもある。

〔抜取り痕跡〕　西梁行を除き、全ての柱穴に柱の抜取り痕跡が認められ、一部炭化物を含むものがある。西梁行については検出面が旧農業用水路により削平されており、柱の抜取り痕跡が認められないが、他の柱穴と同様に抜取りが行われていた可能性がある。

〔出土遺物〕　各柱穴の抜取り穴より、土師器坏、甕片と少量の須恵器、瓦片が出土している。またＮ１Ｅ２、Ｎ１Ｅ４抜取り穴より淡橙色を呈する土師器Ｃ－124甕(第96図１)、Ｎ１Ｅ１、Ｎ１Ｅ２抜取り穴などより須恵器Ｅ－94甕（第96図２）が出土している。

〔その他〕　建物の東、南側をＳＤ1333、1336溝跡が、柱穴より110～150cm離れて巡っている。これらの溝跡からは堆積土中に焼土、炭化物が含まれ、抜取り穴にも一部炭化物が含まれることから、ＳＢ1320建物跡が火災に遭ったと考えられる。



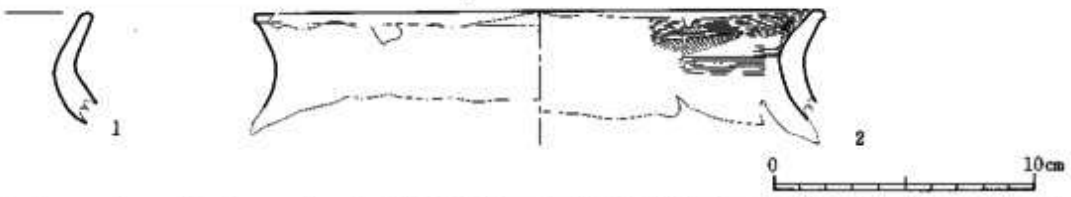
第95図　ＳＢ1320建物跡梁行柱列断面図

第22表　ＳＢ1320建物跡柱穴観察表

柱穴位置 / 柱記	N1E1	N1E2	N1E3	N1E4	N1F5	N1F6	N1E7	N1E8	N1E9	N1E10
形状	隅丸長方形	隅丸長方形	隅丸長方形	隅丸長方形	不整形	不整形	隅丸長方形	楕円形	隅丸台形	長方形
大きさ 掘り方(A)	180×115cm	170×90cm	150×105cm	165×120cm	135×140cm	188×120cm	155×95cm	180×115cm	170×94cm	250×85cm
大きさ 柱穴(B)	--	17cm	13×15cm	13×19cm	15×27cm	27×20cm	31×18cm	20cm	--	210×85cm
深さ	(A) 40cm / (B) --	- / -	- / -	- / -	- / -		- / -	- / -	- / -	- / -
掘り方埋土	--	-	-	-	-	-	-	-		

柱穴位置 / 柱記	N1E11	N2E1	N2W2	N3E1	N3E2	N3E3	N3E4	N3E5	N3E6	N3E7
形状	長方形	隅丸方形	隅丸長方形	隅丸長方形	隅丸方形	隅丸長方形	隅丸方形	隅丸方形	隅丸方形	不整形
大きさ 掘り方(A)	185×75cm	96×118cm	156×90cm	92×120cm	150×135cm	140×105cm	130×116cm	128×107cm	85以上×90cm	134×100cm
大きさ 柱穴(B)	20cm	--	33×25cm	30×25cm	18×22cm	-	-	39×18cm	25×22cm	13×15cm
深さ	(A) 70cm / (B) 50cm	37cm / -	41cm / 41cm	75cm / -	- / -	- / -	- / -	- / 73cm	- /	
掘り方埋土	暗褐色粘土質シルトなど	暗褐色粘土質シルト	暗褐色粘土質シルト	暗褐色粘土質シルトなど		-			-	-

柱穴位置 / 柱記	N3E8	N3F9	N3R10	N3E11
形状	隅丸方形	楕円形	隅丸台形	隅丸台形
大きさ 掘り方(A)	80以上×84cm	145×69cm	127×70cm	135×90cm
大きさ 柱穴(B)	17×23cm	15×17cm	24cm	18cm
深さ	(A) 33cm / (B)		67cm /	70cm / 65cm
掘り方埋土	-	-	-	褐色粘土質シルトなど



番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	残存	備考	写真図版
1	C－124	土師器	壺	ＳＢ1320		不明	―	―	不明	―	―	―	―	―	―	第Ⅰ1	―
2	F.－94	須恵器	甕	ＳＢ1320		不明	―	―	ナデ	―	―	5.1以上	9.7	―		第Ⅳ	―

ＳＢ1321建物跡　　**第96図　ＳＢ1320建物跡出土遺物**

〔調査区〕　Ｏ・Ｐ区　　〔検出面〕　Ⅳ層

〔検出状況〕　Ｏ区においては、遺構の一部が旧農業用水路により削平されている。Ｏ区とＰ区の間については、上層の盛土内に高圧電線管が埋設されているため調査が実施できなかった。Ｏ区、Ｐ区で検出した柱穴は、掘り方の形状、埋め土、柱穴の配列関係等から同一の遺構と考えＳＢ1321建物跡とした。なお、Ｐ区については、ＳＢ1321建物跡の性格究明のために設定した調査区であるため、遺構を確認するにとどめた。

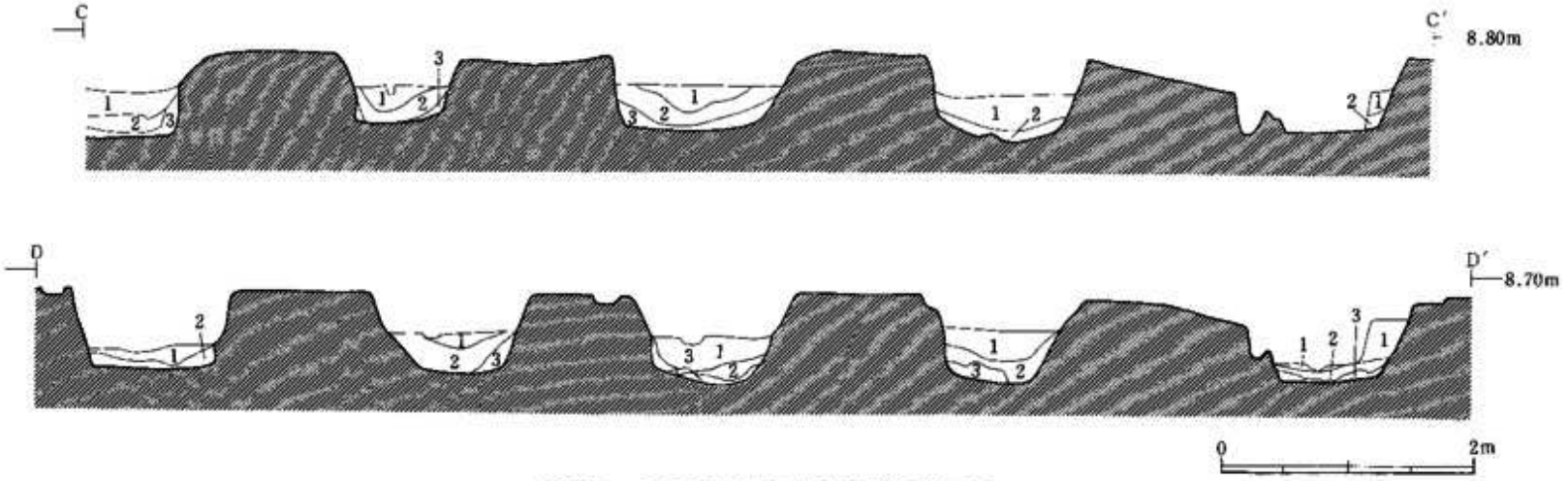
〔重複・増改築〕　小規模なピットに切られる柱穴がある。

〔規模〕　桁行10間（柱間寸法210～270cm、総長23.5m－推定－）、梁行２間（柱間寸法250cm、総長５ｍ）の東西棟である。

〔方向〕　桁行方向はＥ－３°－Ｓである。

〔柱穴掘り方〕　一辺85～155cmで、隅丸方形、隅丸長方形のものが多く、他の建物跡に比べ

第97図　O区北半、P区平面図



第98図　O区SB1321建物跡桁行柱列断面図

第23表　SB1321建物跡柱穴観察表

柱穴位置 / 註記	N1E1	N1E2	N1E3	N1E4	N1E5	N1E6	N1E7	N1E8	N1E9	N1E10	N1E11	N2E1
形状	不整方形	隅丸方形	楕円形	円形			—	楕円形	—	—		隅丸方形
大きさ 掘り方(A)	120×115cm	120×125cm	135×133cm	85×92cm	130×90以上cm	(調査区外)		85×55以上cm	110以上×155cm	85以上×115cm	75以上×111cm	113×92cm
大きさ 柱穴(B)	—		17×13cm	14×10cm	25cm			—	15×20cm	13以上×25cm	—	21cm
深さ	(A) 58cm / (B)	70cm / —	58cm / —	55cm / —	70cm / -			—	— / —	—	—	33cm / —
掘り方埋土	暗褐色シルト質粘土など	暗褐色シルト質粘土など	褐色、暗褐色シルト質粘土など	褐色シルト質粘土粘土質シルトなど	黒褐色、暗褐色粘土質シルトなど			—	—	—	—	—

柱穴位置 / 註記	N2W1	N3E1	N3E2	N3E3	N3E4	N3E5	N3E6	N3E7	N3E8	N3E9	N3E10	N3E11
形状	隅丸長方形	隅丸方形	隅丸方形	隅丸長方形	隅丸方形	隅丸長方形			不明	円形	隅丸長方形	隅丸長方形
大きさ 掘り方(A)	137×106cm	112×125cm	107×125cm	148×133cm	108×120cm	122×96cm	(調査区外)		105×60以上cm	152×162cm	107×130cm	113×92cm
大きさ 柱穴(B)	17×21cm	21×19cm	14×11cm	18×20cm	18cm	12×25cm		—	18cm	20cm	20cm	15×19cm
深さ	(A) — / (B)	67cm / 55cm	67cm /	- / 72cm	— / 62cm	— / 60cm	-		—	— / —	— / —	— / —
掘り方埋土	—	暗褐色粘土質シルトなど	黒褐色、褐色粘土質シルトなど	暗褐色粘土質シルトなど	暗褐色粘土質シルトなど			—	—	—	—	—

て平面形が丸味がかっている。深さは60～70cm程である。

〔柱痕跡〕　直径11～25cmであるが、20cm前後のものが多い。

〔抜取り痕跡〕　認められない。

〔出土遺物〕　土師器坏、甕片と須恵器甕片、鉄器片が少量出土している。

ＳＡ1338一本柱列（第184図参照）

〔調査区〕　Ｏ区　　〔検出面〕　Ⅳ層

〔検出・重複〕　学校用地を巡る農業用水路にＷ５・６柱穴掘り方が削平されているが、農業用水路の壁中で東端にあたるＷ７柱穴掘り方を確認した。ＳＤ920溝跡を切っている。

〔規模〕　東西方向の一本柱列で、柱間６間で検出総長は約８ｍである。柱間寸法は105～150cm（平均132cm）である。

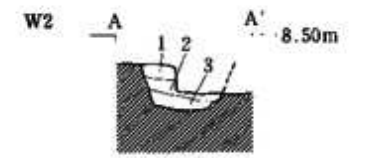
〔方向〕　Ｅ－5°－Ｓである。

〔柱穴堀り方〕　長辺が65～110cmで、短辺が50～65cmの隅丸長方形を呈し、深さは35～40cmで、柱穴掘り方埋土は褐色系の粘土質シルトである。

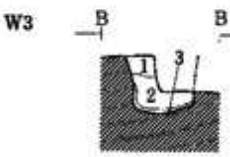
〔柱痕跡〕　柱痕跡は確認されなかった。

〔抜取り痕跡〕　認められない。

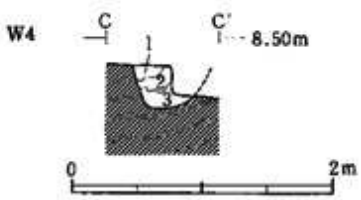
〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。



層位	土色	土性	その他
1	10YR 3/4 暗褐色	粘土質シルト	
2	10YR 4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	
3	10YR 4/4 褐色	粘土質シルト	



層位	土色	土性	その他
1	10YR 4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	
2	10YR 3/4 暗褐色	シルト質粘土	
3	10YR 3/4 暗褐色	シルト質粘土	酸化鉄の斑状



層位	土色	土性	その他
1	10YR 2/2 黒褐色	シルト	炭化物を含む
2	2.5YR 6/1 黄灰色	粘土質シルト	
3	10YR 4/4 褐色	粘土	

第99図　ＳＡ1338一本柱列断面図

(2)　竪穴住居跡

ＳＩ902竪穴住居跡

〔調査区〕　Ｂ、Ｋ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔検出状況〕　遺溝の一部のみ調査区内で検出したが、かなり削平されている。

〔重複〕　ＳＩ903に切られている。

〔規模・平面形〕　西壁４ｍ以上、南壁2.2mで、長方形と推定される。

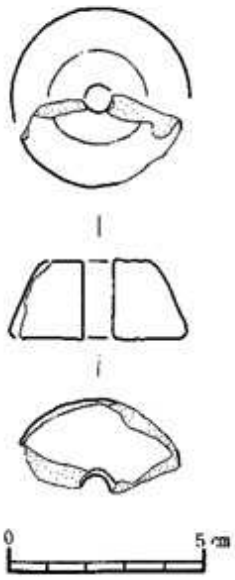
〔方向〕　西壁でＮ－41°－Ｗである。

〔堆積土〕　２層に大別されるが、貼床上面では１層のみである。にぶい黄褐色粘土質シルトで、炭化物、焼土を含んでいる。

〔壁〕　現存する壁高は３～８cmで、かなり削平されている。傾斜などは不明である。

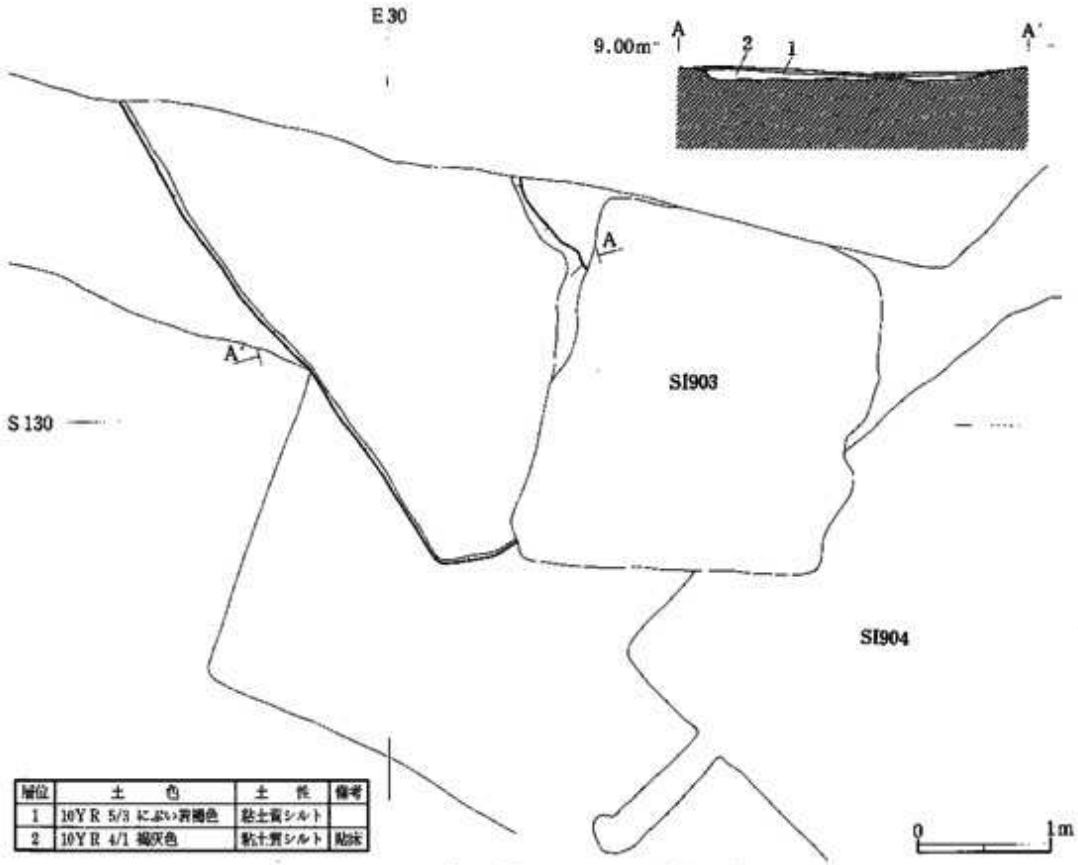
〔床面〕　褐灰色粘土質シルトにより貼床を構築してほぼ平坦である。床面上に1.5×2.0mの範囲で炭化物、焼土が分布している。

〔出土遺物〕　土製品Ｐ－７紡錘車（第100図）、土師器坏、高坏、甕片と少量の須恵器甕片が出土している。



遺物番号	出土地点			種別 器形	法量・特徴	写真図版
	地区	遺構	層位			
P－7	B区	ＳＩ902	2層	土製品 紡錘車	長さ2.1cm、最大径4.6cm、最小径2.6cm、孔径0.8cm（復元径）	114－1

第100図　ＳＩ902竪穴住居跡出土遺物



層位	土色	土性	備考
1	10YR 5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	
2	10YR 4/1 褐灰色	粘土質シルト	貼床

第101図　ＳＩ902竪穴住居跡平・断面図

ＳＩ903竪穴住居跡

〔調査区〕　Ｂ・Ｋ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔重複〕　ＳＩ902、ＳＩ904を切っている。〔方向〕　Ｎ－7°－Ｅである。

〔規模・平面形〕　西壁2.9m、南壁2.35mで、隅丸長方形である。

〔堆積土〕　6層に大別されるが、貼床上面では3層である。暗褐色シルト、灰黄褐色粘土質シルトなどで、炭化物、焼土を含んでいる。

〔壁〕　現存する壁高は12～24cmでゆるやかに立ち上がっている。

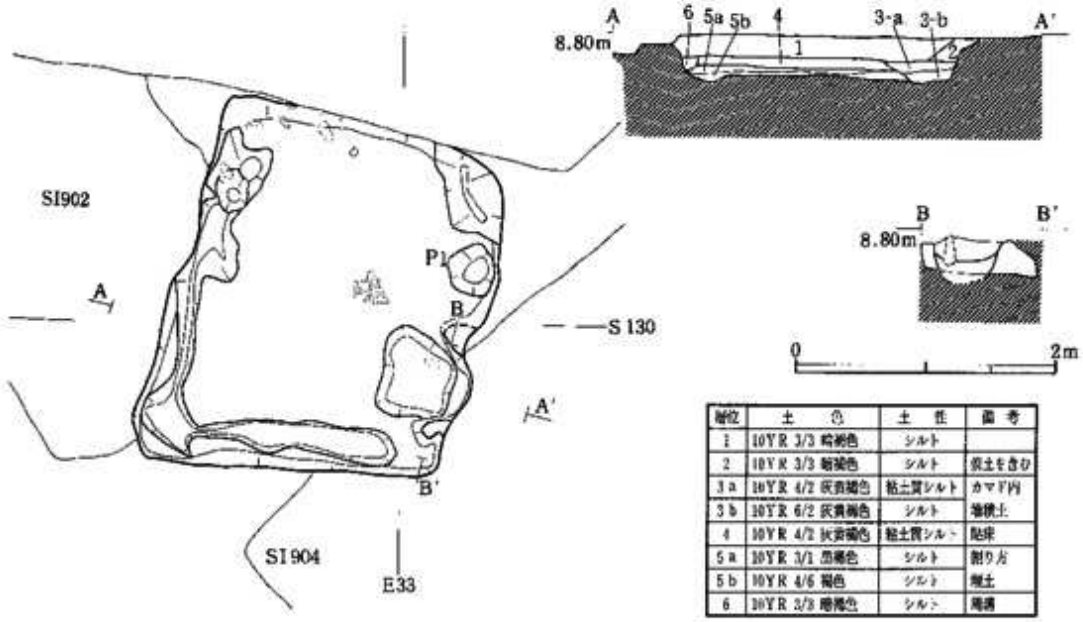
〔床面〕　灰黄褐色粘土質シルトにより貼床を構築し、ほぼ平坦である。

〔柱穴〕　床面上と掘り方底面上を含めて3個のピットを検出したが、形態、規模、配置等からいずれも規則性がみられず、主柱穴とは認め難い。

〔カマド〕　東壁中央やや南よりに位置し、灰黄褐色粘土質シルトで貼床構築後に作られている。焚口と燃焼部のみで煙道は見られない。両袖の先端幅は65cm、奥行は22～27cmで、底面に55×56cm、深さ5cm程の不整形のピットがあり、中央やや北寄りに石製の支脚が打ち込まれた状態で立っている。

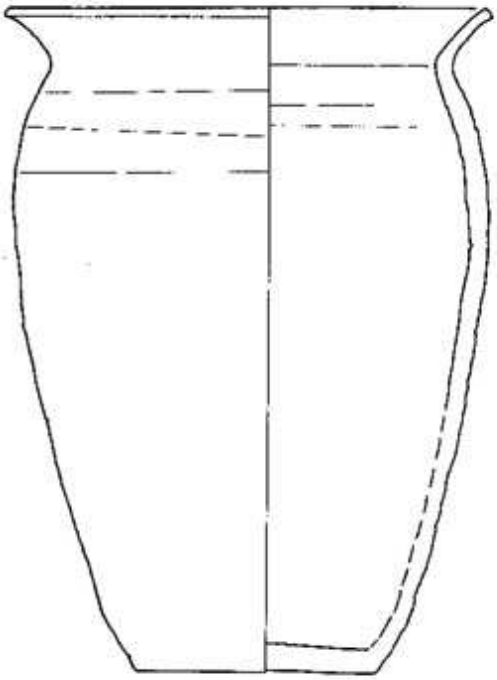
〔周溝〕　西壁と南壁に認められ、幅8～32cm、深さ7～11cm、断面は「U」字形である。西壁北寄りで周溝幅が広がり、一部ピット状態に落ち込んでいる。

〔出土遺物〕　住居掘り方から土師器Ｃ－16壺（第103図2）と、床面上から須恵器Ｅ－15甕（第103図1）が出土している。その他住居内堆積土、掘り方などから土師器坏、甕片、須恵器坏片が出土している。



層位	土色	土性	備考
1	10YR 3/3 暗褐色	シルト	
2	10YR 3/3 暗褐色	シルト	焼土を含む
3a	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	カマド内
3b	10YR 6/2 灰黄褐色	シルト	堆積土
4	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	貼床
5a	10YR 3/1 黒褐色	シルト	掘り方
5b	10YR 4/6 褐色	シルト	焼土
6	10YR 3/3 暗褐色	シルト	周溝

第102図　ＳＩ903竪穴住居跡平・断面図



番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整			内面調整			法量(cm)			残存	備考	写真図版
						口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	最大	口径	底径			
1	E−15	須恵器	壺	S I 903	床直	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切り	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	27.5	18.2	9.1	ほぼ完形	墨書	114−9
2	C−16	土師器	壺	S I 903	掘り方	ヨコナデ	不明	—	不明	不明	—	4.2以上	6.6	—	1/8		114−8

第103図　S I 903竪穴住居跡出土遺物

S I 904竪穴住居跡

〔調査区〕　B・K区　　〔検出面〕　IVa層

〔検出状況〕　遺構のほぼ西半を調査区内で検出したのみである。

〔重複〕　S I 903に切られている。

〔規模・平面形〕　西壁4.3m、南壁2.6m以上で、隅丸方形あるいは隅丸長方形と推定される。

〔方向〕　西壁でN−36°−E、煙道でN−38°−Eである。

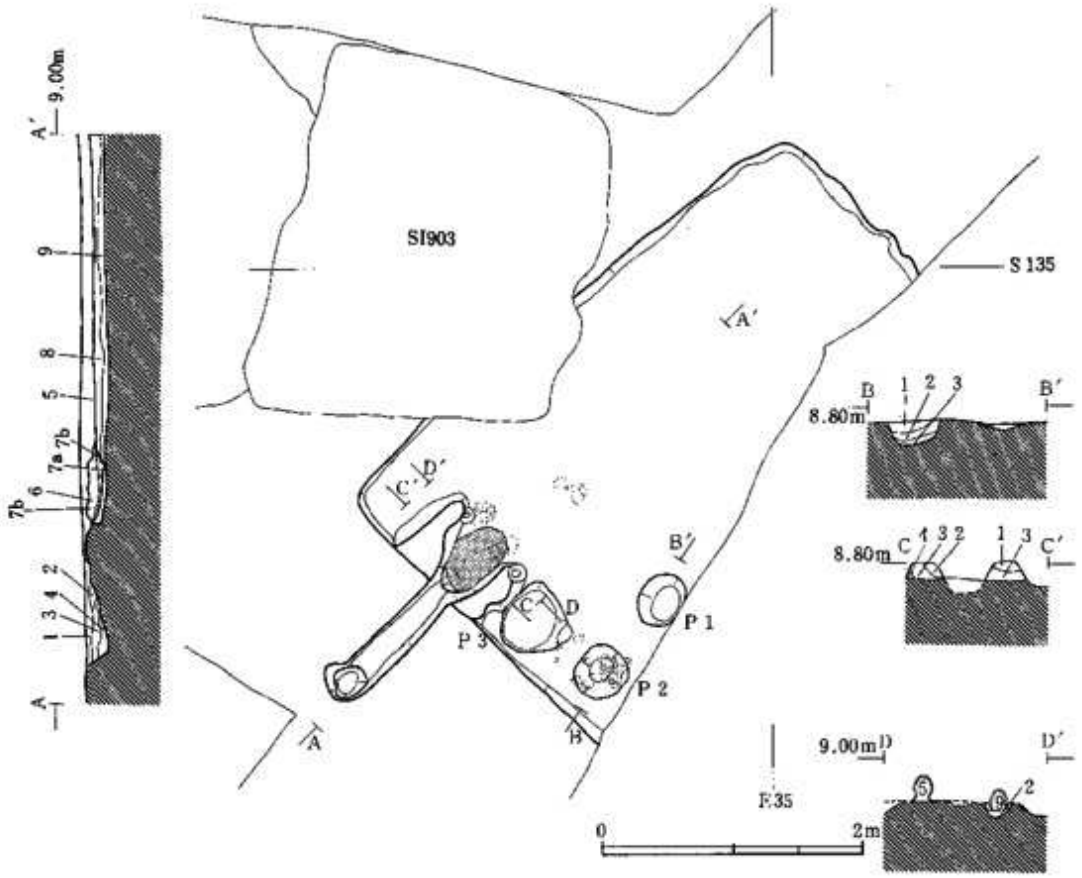
〔堆積土〕　9層に大別されるが、貼床上面では2層である。暗褐色シルト、粘土質シルトで、炭化物、焼土を含んでいる。

〔壁〕　現存する壁高は8〜18cmでほぼ垂直気味に立ち上がっている。

〔床面〕　にぶい黄褐色粘土質シルトにより貼床を構築し、ほぼ平坦である。床はしまり良く、堅い。

〔柱穴〕　床面上で3個のピットを検出したが、形態、配置等からいずれも主柱穴とは認め難い。

〔カマド〕　南壁西端寄りに位置し、灰黄褐色、にぶい黄褐色シルト、粘土質シルトなどで貼床構築後に作られている。焚口と燃焼部、煙道が良好に残っている。両袖の先端幅は70cm、奥行は58～65cmで、底面に35×56cm、深さ6cm程の楕円形のピットがある。両袖の先端に土師器



層位	土色	土性	その他	層位	土色	土性	その他
1	10YR 3/4 暗褐色	シルト		6	10YR 3/3 暗褐色	粘土質シルト	
2	10YR 3/3 暗褐色	粘土質シルト	煙道内堆積土	7a	5YR 4/6 赤褐色	シルト	カマド内堆積土
3	10YR 4/4 褐色	粘土質シルト		7b	10YR 4/6 褐色	粘土質シルト	
4	10YR 2/3 黒褐色	粘土質シルト		8	10YR 5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	貼床
5	10YR 2/3 黒褐色	シルト		9	10YR 7/8 黄橙色	シルト	掘り方埋土

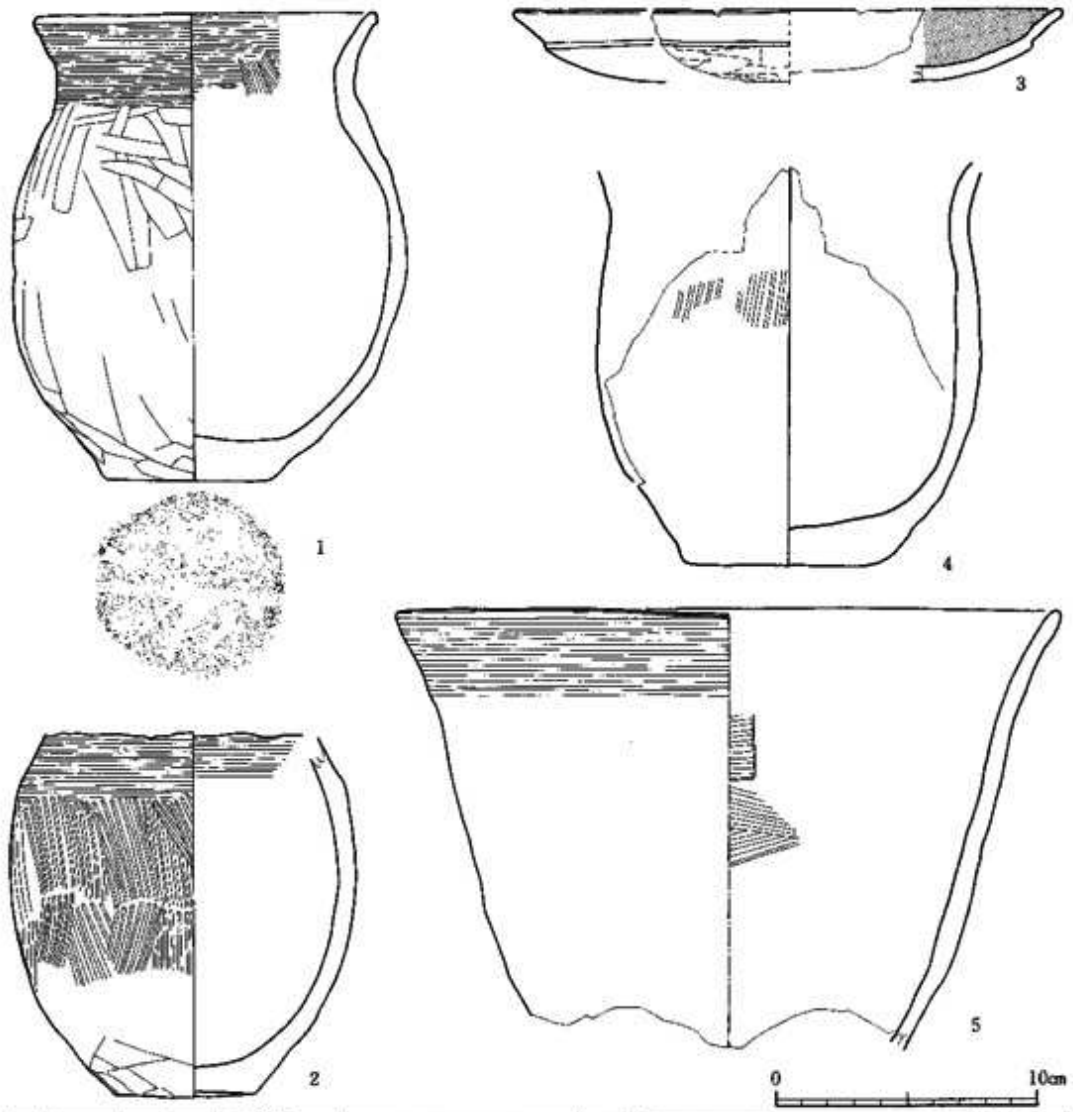
第24表　ＳＩ904竪穴住居跡ピット観察表　（単位：cm）

	P1	P2	P3
平面形	楕円形	楕円形	不整形
規模	32×42	37×40	55×55
深さ	29	6	14
堆積土	褐色シルト質粘土など	褐色シルト質粘土	暗褐色シルト質粘土など

第104図　ＳＩ904竪穴住居跡平・断面図

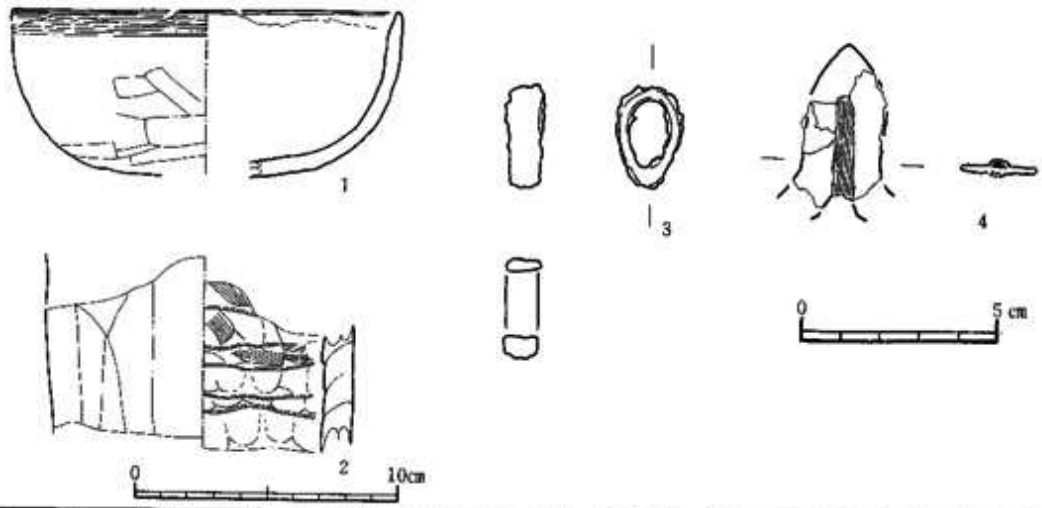
甕（C－6・7）を倒立させ、体部下半まで埋め込んでいる。煙道は総長115cm、上幅24～27cm、下幅13～20cmで、先端には明瞭ではないが28×30cmの煙り出しピットがある。

〔出土遺物〕　住居床面上からC－96甕（第105図4）、土製品P－8（第106図2）、カマド内から土師器C－29甑（第105図5）、C－30坏（第106図1）、左袖中から土師器C－6甕（第105



番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整			内面調整			法量(cm)			残存	備考	写真図版
						口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	器高	口径	底径			
1	C－6	土師器	甕	S I 904	カマド左袖	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ	不明	不明	18.1	13.2	6.2	ほぼ完形	甕 Ⅲ	114－6
2	C－7	土師器	甕	S I 904	カマド右袖	ヨコナデ	刷毛目	ヘラケズリ	ヨコナデ	不明	不明	14.2以上	—	5.3	4/5	鉢 Ⅱ	114－3
3	C－91	土師器	高坏	S I 904	堆積土	不明	ヘラケズリ	—	黒色処理		—	3.8以上	(21.0)	—	1/10	高坏Ⅱ	—
4	C－96	土師器	甕	S I 904	床面	—	刷毛	不明	—	不明	不明	15.7以上	—	7.5	1/4	甕Ⅱb	114－2
5	C－29	土師器	甑	S I 904	カマド内	ヨコナデ	不明	—	不明	ヘラナデ	—	17.1以上	25.5	—	1/3		114－10

第105図　S I 904竪穴住居跡出土遺物（1）



番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	残存	備考	写真図版
1	C−30	土師器	坏	S I 904	カマド内	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	―	―	―	6.4以上	14.7	(8.4)	1/2強	胎B	115−1
2	D−8	土製品	不明	S I 904	床面	不明	ヘラケズリ	不明		指ナデ		(たて) 6.8以上	(よこ) 11.5	―	1/3		115−2
3	N−68	鉄製品	不明	S I 904	堆積土	径2.5×1.7cm、厚さ0.2~0.5cm											114−5
4	N−17	鉄製品	鉄鏃	S I 904	堆積土	長さ4.2cm以上、最大幅2.4cm											114−4

第106図　S I 904竪穴住居跡出土遺物（2）

図1）、右袖中から土師器C－7甕（第105図2）、堆積土中から土師器C－91坏（第105図3）、金属器N－17鉄鏃（第106図4）、N－68不明品（第106図3）が出土している。その他住居内堆積土、床面、カマド内、掘り方から土師器坏、甕片と少量の須恵器坏、甕片が出土している。

S I 910竪穴住居跡

〔調査区〕　B区　　〔検出面〕　IVa層

〔検出状況〕　遺溝の西半を調査区内で検出した。

〔重複〕　S I 925に切られている。

〔規模・平面形〕　西壁4.1m、北壁3.9m以上で、隅丸方形あるいは隅丸長方形と推定される。

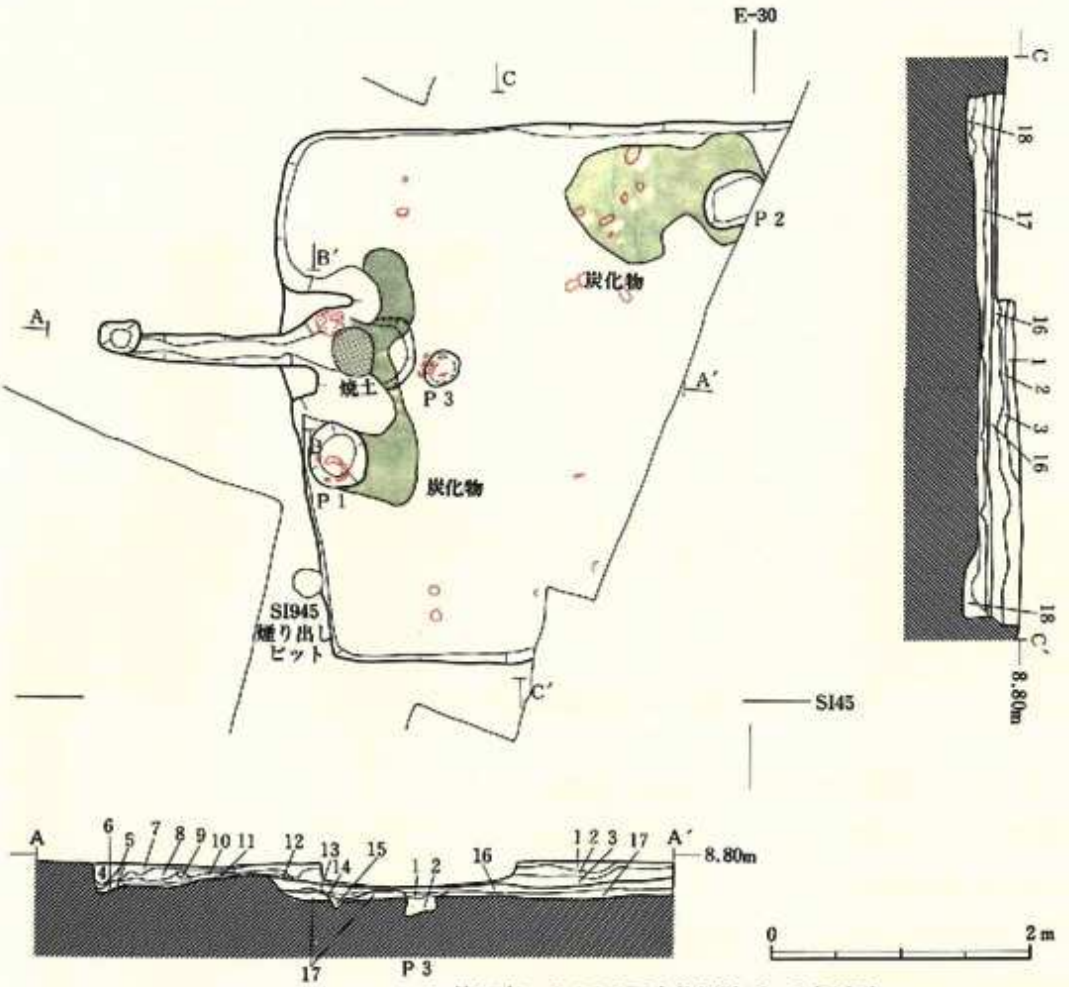
〔方向〕　西壁でN－16°－W、煙道でE－2°－Nである。

〔堆積土〕　18層に分けられるが、貼床上面では3層である。にぶい黄褐色シルト、粘土質シルトである。

〔壁〕　現存する壁高は5～11cmで、ほぼ垂直気味に立ち上がる。

〔床面〕　褐灰色粘土質シルトにより貼床を構築し、ほぼ平坦である。床上面はしまりがあり、非常に堅い。

〔柱穴〕　床上面で3個のピットを検出したが、形態・配置等からいずれも主柱穴とは認め難い。

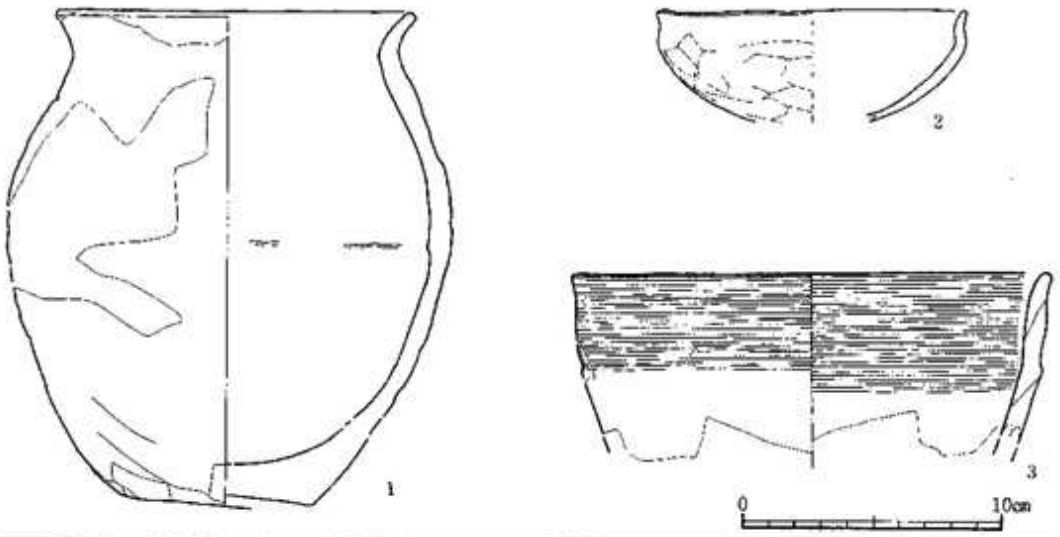


第25表　ＳＩ910竪穴住居跡ピット観察表　（単位：cm）

	P 1	P 2	P 3
平面形	楕円形	楕円形	楕円形
規模	45×51	35×51	23×30
深さ	8	9	19
堆積土	暗褐色粘土質シルト	褐色シルト質粘土	褐灰色シルトなど

層位	土色	土性	備考	層位	土色	土性	備考
1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト		10	10YR5/4にぶい黄褐色	粘土質シルト	
2	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	炭化物を含む	11	10YR6/2灰黄褐色	粘土質シルト	焼土
3	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト		12	10YR5/6黄褐色	シルト	
4	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト		13	10YR3/2黒褐色	シルト質粘土	
5	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト		14	7.5YR3/2暗褐色	粘土質シルト	カマド内堆積土
6	10YR5/3にぶい黄褐色	粘土質シルト		15	10YR4/4褐色	シルト質粘土	
7	10YR5/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物を含む 焼土	16	10YR5/1褐灰色	粘土質シルト	貼床
8	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト		17	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	張り出し土
9	10YR6/2灰黄褐色	シルト		18	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	

第107図　ＳＩ910竪穴住居跡平・断面図

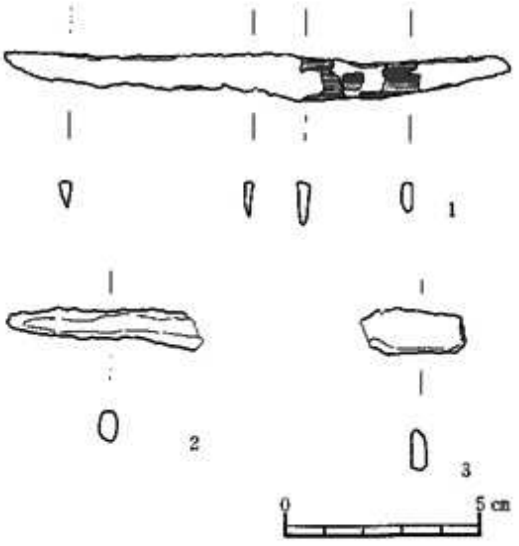


番号	整理番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	残存	備考	写真図版
1	C－5	土師器	甕	S I-910	カマド内	不明	不明	ヘラケズリ	不明	不明	不明	19.2	7.5	13.7	1/4	甕 Ⅱ	114－7
2	C－31	土師器	坏	S I-910	堆積土	不明	ヘラケズリ	ヘラケズリ	不明	不明	不明	4.3以上	12.0		1/3	坏B Ⅱ	115－7
3	C－32	土師器	鉢	S I-910	床面	ヨコナデ	不明	―	ヘラナデ	不明	―	6.9以上	19.0	―	1/4	鉢 Ⅰ	115－9

第108図　S I 910竪穴住居跡出土遺物（1）

〔カマド〕　西壁やや北寄りに位置し、黄褐色粘土質シルト（1層）、褐色シルト質粘土（2層）などで貼床構築後に作られている。焚口と燃焼部、煙道が残っている。両袖の先端幅は90cm、奥行は75cmで底面に55×100cm、深さ26cm程の楕円形のピットがある。煙道は総長140cm、上幅18～23cm、下幅6～13cmで先端に24×37cmの煙り出しピットがある。

〔出土遺物〕　住居床面上から土師器C－32甑？（第108図3）、金属器N－10刀子（第109図1）、N－13不明品（第109図2・3）、カマド内から土師器坏C－5甕（第108図1）が出土している。その他住居内堆積土、床面、カマド内、掘り方から土師器坏、高坏、甕、甑片と少量の須恵器甕片、K－76剝片（写真図版165－3）が出土している。



図版番号	遺物番号	出土地点 地区	出土地点 遺構	出土地点 層位	種別 器形	法量・特徴	写真図版
1	N－10①	B区	S I 910	床直	鉄製品 刀子	全長13.0cm、刃長7.3cm、基部3.7cm、基元幅1.1cm	115－3
2	N－13①	B区	S I 910	床面	金属製品 不明	長さ5.1cm以上、幅0.5～0.7cm 厚さ0.5cm	115－4
3	N－13②	B区	S I 910	床面	金属製品 不明	長さ2.2cm以上、幅0.8～1.2cm 厚さ0.4cm	115－5

第109図　S I 910竪穴住居跡出土遺物（2）

ＳＩ914竪穴住居跡

〔調査区〕　Ａ区　　〔検出面〕Ⅳ層

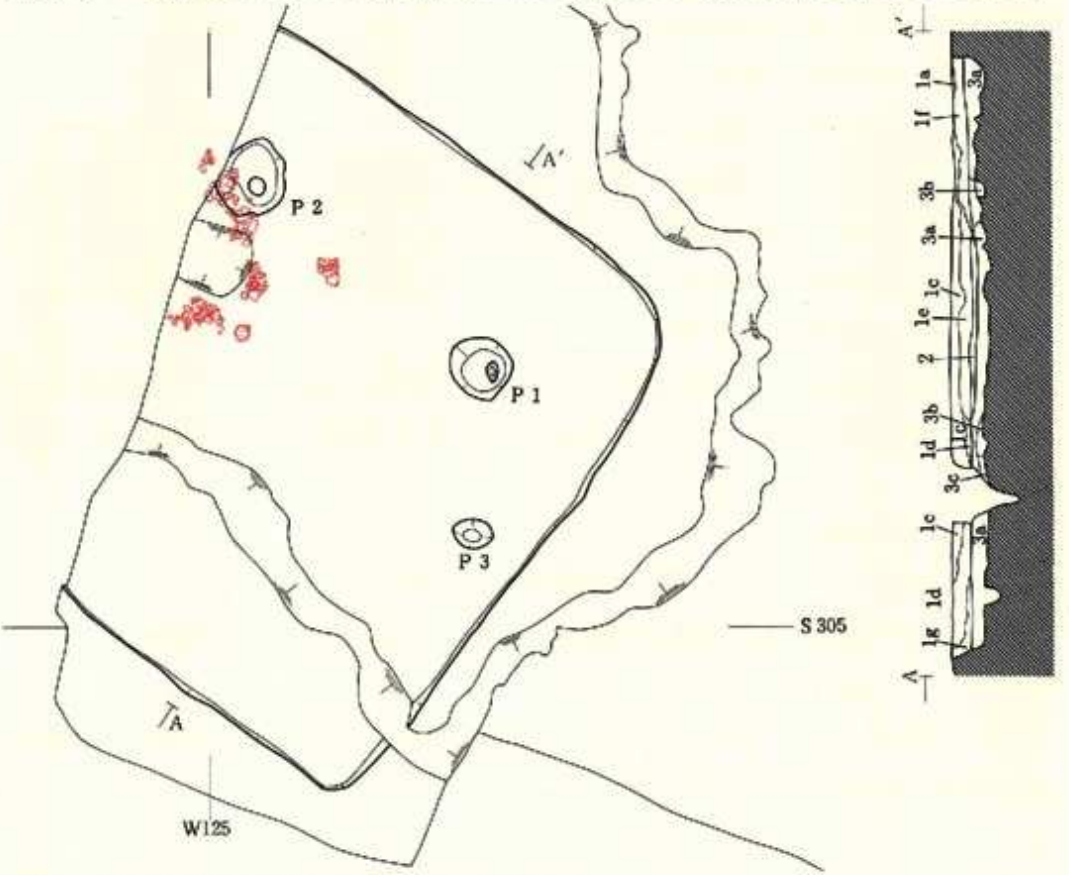
〔検出状況〕　遺構の東半を調査区内で検出したが、木の根による撹乱をうけている。

〔重複〕　認められない。

〔規模・平面形〕　東壁4.5m、北壁3.9m以上で、隅丸方形あるいは隅丸長方形と推定される。

〔方向〕　東壁でＮ－30°－Ｅである。

〔堆積土〕　３層に大別されるが、貼床上面では１層である。暗褐色、褐色粘土などである。



第26表　ＳＩ914竪穴住居跡ピット観察表　（単位：cm）

	P 1	P 2	P 3
平面形	楕円形	隅丸方形	楕円形
規模	45×30	56×53	22×30
深さ	49	13	36
堆積土	灰黄褐色粘土など	黒褐、緑灰色粘土など	褐灰色粘土など

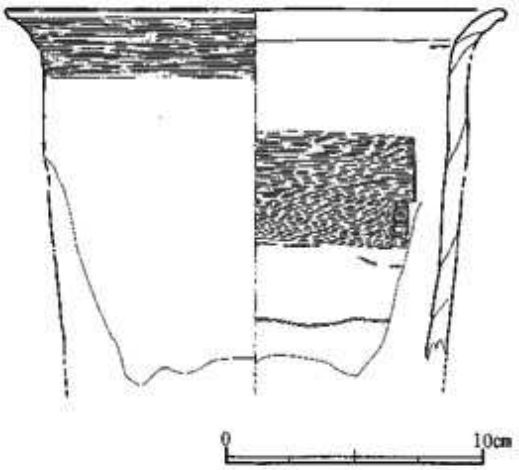
層位	土色	土性	その他	層位	土色	土性	その他
1a	5Y 6/1 灰色	粘土		1g	10YR 4/4 褐色	粘土	灰白色粘土を含む
1b	10YR 3/3 暗褐色	粘土	黄橙色粘土を少量含む	2	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	貼床
1c	10YR 3/3 暗褐色	粘土		3a	10YR 4/4 褐色	シルト質粘土	
1d	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土		3b	10YR 3/2 黒褐色	粘土質シルト	
1e	10YR 3/2 黒褐色	粘土		3c	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト	掘り方埋土
1f	10YR 4/4 褐色	粘土		3d	10YR 4/1 褐灰色	粘土	

第110図　ＳＩ914竪穴住居跡平・断面図

〔壁〕　現存する壁高は19～36.5cmある。掘り方底面から貼床上面まではゆるやかに立ち上るが、床面より上は垂直あるいは外傾気味に立ち上る。

〔床面〕　灰黄褐色、褐色シルト質粘土により貼床を構築している。ほぼ平坦ではあるが、攪乱のためやわらかく沈下している箇所がある。

〔柱穴〕　床面上と掘り方底面上のものを含めて３個のピットを検出したが、そのうち形態、規模の点からＰ２が主柱穴となる可能性がある。



登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整			内面調整			法量(cm)			現存	備考	写真図版
					口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	器高	口径	底径			
C－90	土師器	甕	SI－914	床面上	ヨコナデ	不明	―	不明	ヘラナデ	―	14.7以上	19.4	―	1/3	甕Ⅰ	115－8

第111図　ＳＩ914竪穴住居跡出土遺物

〔出土遺物〕　住居床面から土師器坏Ｃ－90甕(第111図)、Ｃ－97甕、堆積土中から布片の付着した金属器Ｎ－１鍛(写真図版47)、土製品Ｐ－６不明品が出土している。その他住居内堆積土、床面上から土師器坏、甕片が出土している。

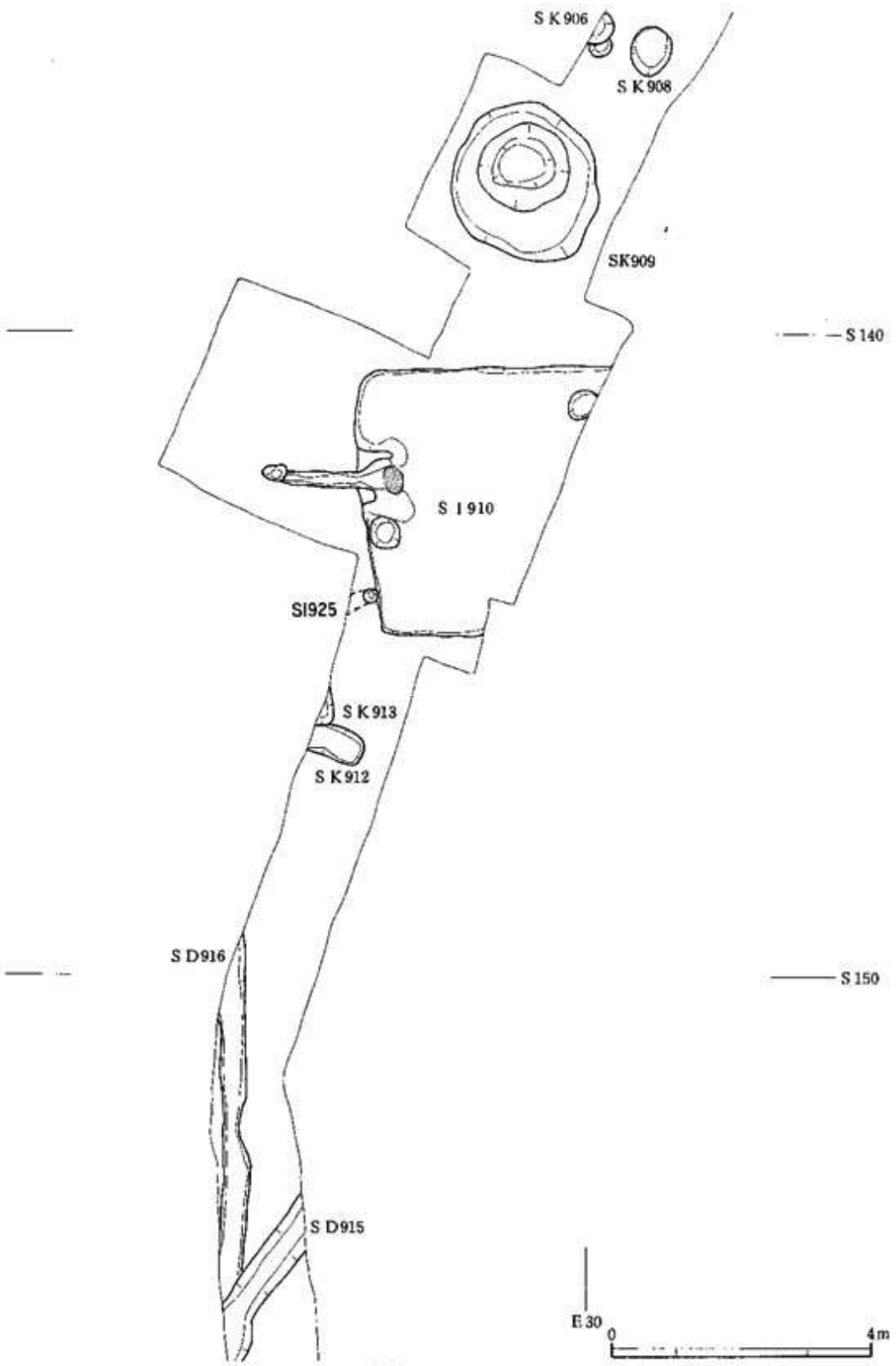
ＳＩ925竪穴住居跡

〔調査区〕　Ｂ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔検出状況〕　煙道の煙り出しピットを検出したのみである。煙道は西側に延びている。

〔重複〕　ＳＩ910を切っている。

〔煙道〕　煙り出しピットは直径22×24cm、深さ18cmの円形で、堆積土は10ＹＲ5/6黄褐色シルト、炭化物、焼土を多量に含んでいる。



第112図　B区北部平面図（S I 925竪穴住居跡）

ＳＩ946竪穴住居跡

〔調査区〕　Ｃ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔重複・増改築〕　ＳＤ345溝跡に切られている。カマドに新旧があり、２時期あると考えられる。

〔規模・平面形〕　南北軸方向で6.4m、東西軸方向6.2～6.3m で、隅丸正方形である。

〔方向〕　西壁でＮ－５°－Ｅである。カマドの方向では、＜ａ＞(旧)がＥ－５°－Ｓ、＜ｂ＞(新)がＮ－８°－Ｅである。

〔堆積土〕　９層に分けられるが貼床上面では４層である。暗褐色シルト、粘土質シルト、にぶい黄褐色シルトである。

〔壁〕　現存する壁高は８～25cmで、底面より周溝の掘り込み上面まではややゆるやかに立ち上り、それより上方では垂直気味に立ち上る。

〔床面〕　黒褐色粘土で貼床を構築し、平坦である。貼床中には、焼土、炭化物が全体に含まれている。新旧カマド周辺に、焼土、炭化物の分布がある。

〔柱穴〕　床面上で５個のピットを検出したが、そのうち規模、形態、配置からＰ１、Ｐ２、Ｐ３、Ｐ４が主柱穴と考えられる。各柱穴底面の土中に被膜状の木材痕跡が検出された（写真図版50・51)。この木材痕跡は形状から柱材の底部痕跡と推定された。

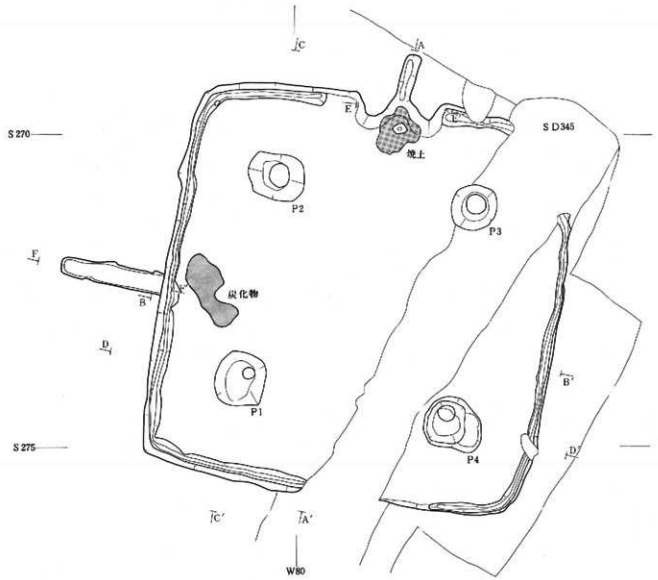
〔カマド〕　＜ａ＞西壁中央に煙道のみが残存している。煙道は、残存長175cm、上幅27～37cm、下幅20～30cmで、煙道底面はほぼ平坦である。＜ｂ＞北壁中央に黄褐色、褐色粘土質シルト、黒褐色粘土でカマドが構築され、天井部は削平されている。カマド内底面で、径16×23cm、深さ15cmの楕円形のＰ５を検出した。煙道は、残存長70cm以上、上幅25cm、下幅５～11cmで、底面はほぼ平坦である。平面形では確認出来なかったが、調査区北壁中まで煙道は延びている。

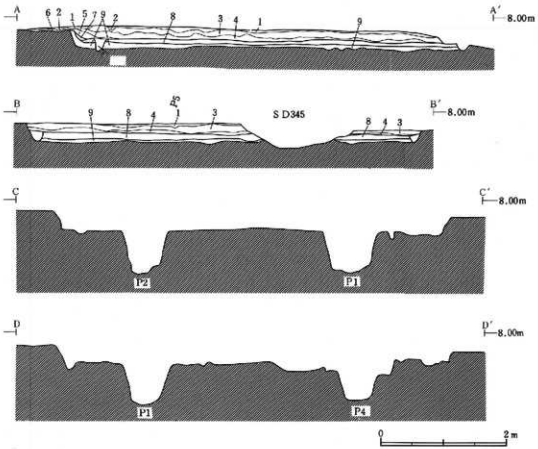
〔周溝〕　上幅11～28cm、下幅３～９cm、床面からの深さは９～16cmで、断面はほぼＵ字形である。

〔出土遺物〕　堆積土中より、土師器、須恵器片が出土している。

第27表　SI946 竪穴住居跡ピット観察表　　(単位：cm)

	Ｐ１	Ｐ２	Ｐ３	Ｐ４	Ｐ５
平面形	隅丸長方形	隅丸長方形	円　形	不整形	楕円形
規　模	85×80	73×90	78×72	80×94	16×23
深　さ	80	83	81	75	15





S I 946

S I 946			
層位	土色	土性	備考
1	10YR 3/3 暗褐色	シルト	
2	10YR 5/3 にぶい黄褐色	シルト	
3	10YR 3/3 暗褐色	シルト	
4	10YR 3/4 暗褐色	粘土質シルト	酸化鉄を多量に含む。
5	7.5YR 3/3 暗褐色	粘土質シルト	カマド内堆積土。
6	10YR 2/3 黒褐色	シルト	酸化鉄と焼土を含む。 壁溝埋積土。
7	10YR 4/1 褐灰色	粘土	カマド内堆積土。
8	10YR 3/1 黒褐色	粘土	炭化物、焼土を少体に含む。 貼床構築土。
9	10YR 3/1 黒褐色	粘土	8層よりしまりがない。
P 5			
1	10YR 4/1 褐灰色	粘土	

カマドb

1	10YR 5/2 青褐色	粘土質シルト	
2	10YR 4/4 褐色	粘土質シルト	焼けている。
3	10YR 3/1 黒褐色	粘土	炭化物、焼土を全体に含む。

カマドa（煙道部）

1	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
2	10YR 4/1 褐灰色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。

第113図　S I 946竪穴住居跡平・断面図

ＳＩ947竪穴住居跡

〔調査区〕　Ｃ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔検出状況〕　遺構図の南半部上面が削平されている。

〔重複〕　ＳＤ931、ＳＢ997に切られ、ＳＫ966、995、997、998、1000を切っている。

〔規模・平面形〕　東壁8.6m、南壁8.2mで、隅丸方形である。

〔方向〕　南壁でＥ－1°－Ｓ、北壁でＥ－1°－Ｎ、東壁でＮ－2°－Ｗである。

〔堆積土〕　7層に分けられるが貼床上面では4層である。褐灰色、灰黄褐色粘土質シルトなどである。

〔壁〕　現存する壁高は15～30cmで、箇所によって垂直気味に立ち上るところとゆるやかに立ち上るところがある。

〔床面〕　褐灰色粘土により貼床を構築し、ほぼ平坦でしまりがある。床面上の西側には炭化物や焼土が堆積している箇所がある。またＰ3の東側には一部焼けた面がある。

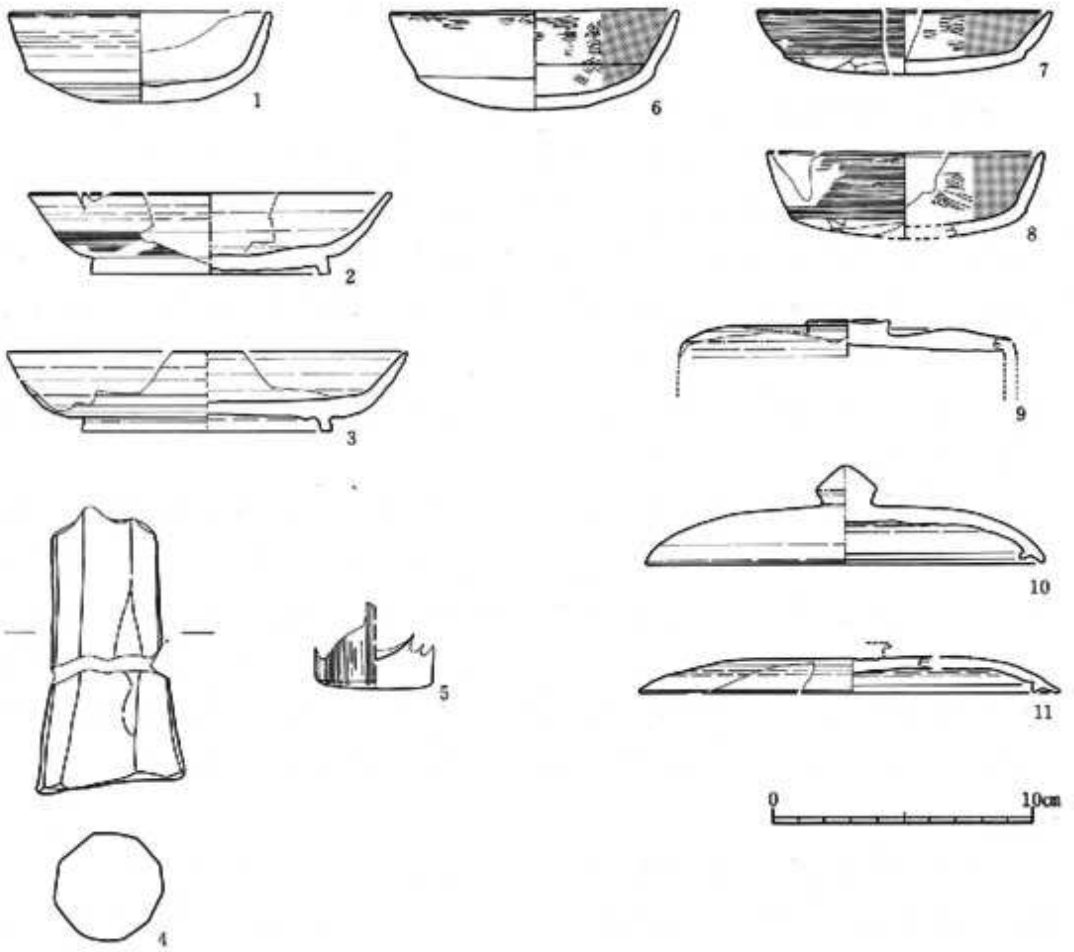
〔柱穴〕　床面上で5個のピットを検出したが、そのうち規模、形態、配置からＰ1、Ｐ2、Ｐ3、Ｐ4が主柱穴と考えられる。Ｐ1、Ｐ3からは底面より礎板状に板材が重り合って出土した（写真図版55･56）。各々の板材は脆弱であったが、Ｐ3から出土した下の板材（第116図）は加工痕跡が明瞭であった。また周溝内からはＰ6～19の小柱穴が検出され、側柱穴と考えられている。

〔カマド〕　西壁中に位置していたと推定されるが、ＳＤ931に切られ煙道のみ残存している。煙道は、残存長100cm、上幅22～27cm、下幅12～16cmで、明瞭ではないが先端がやや凹んでいる。

〔周溝〕　上幅15～40cm、下幅4～21cm、床面からの深さは7～12cmで、断面はほぼ「Ｕ」字形である。側柱穴と考えられるピットを14個検出した。

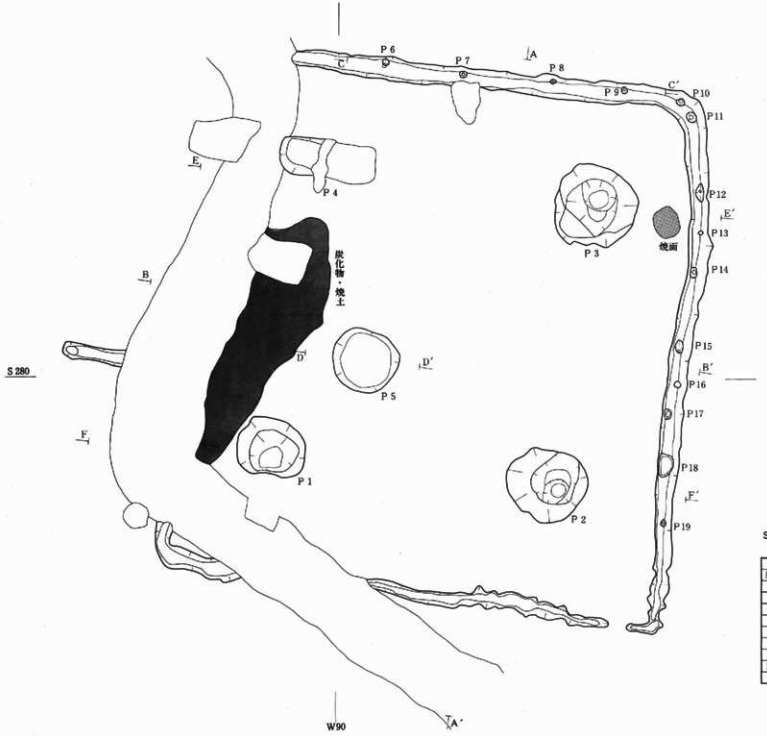
〔出土遺物〕　住居跡床面からは土師器Ｃ－8坏（第114図8）、須恵器Ｅ－1坏（第114図1）、Ｅ－17高台付坏（第114図2）、Ｅ－77蓋（第114図9）、Ｅ－19蓋（第114図10）、Ｅ－18蓋（第114図11）、鉄製品Ｎ－26不明品（第117図2）、Ｎ－27不明品（第117図3）が出土している。またＰ1から鉄製品Ｎ－15刀子（第117図1）、Ｐ3から土製品Ｐ－9不明品（第114図4）、周溝内から土師器Ｃ－3坏（第114図7）が出土している。

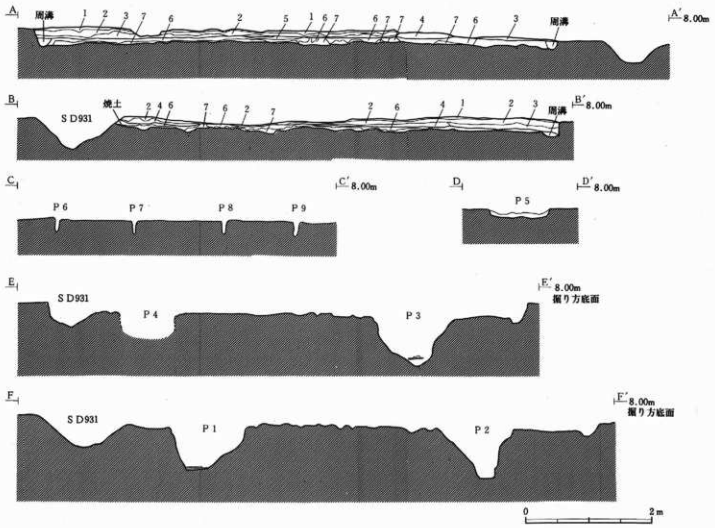
その他堆積土中から土師器Ｃ－33坏（第114図6）、須恵器Ｅ－78高台付坏（第114図3）、土製品Ｐ－10不明品（第114図5）、鉄製品Ｎ－24不明品（第117図4）や、土師器坏、甕（底部2）片、須恵器坏、高坏、壺片が多量に出土している。



番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	残存	備考	写真図版
1	E-1	須恵器	坏	SI-947	床直	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	不明	不明	不明	3.5	12.0	8.8	5/6	坏I 3	116-1
2	E-17	須恵器	高台付坏	SI-947	床直	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	3.1	14.0	9.2	1/4	高台付坏I	116-4
3	E-78	須恵器	高台付坏	SI-947	埋設土	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	3.1	15.4	9.6	1/8	高台付坏I	116-6
4	P-9	土製品	不明	SI-947 pit 3	埋設土	—	ヘラケズリ	—	—	—	—	(たて) 11.6以上	(よこ) 4.0~5.5	—			116-8
5	P-10	土製品	不明	SI-947	埋設土	—	ハケメ	指ナデ	—	指ナデ	指ナデ	(たて) 3.4以上	(よこ) 4.6	—			116-9
6	C-33	土師器	坏	SI-947	埋設土	ヘラミガキ	不明	不明	ヘラミガキ→黒色処理			3.8	11.2	9.2	2/3	坏A12	116-5
7	C-3	土師器	坏	SI-947 周溝	埋設土	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			2.5	11.4	9.3	1/2	坏A II 1a	116-3
8	C-8	土師器	坏	SI-947	床直	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			(10.9)	(3.0)	(8.8)	5/6	坏A II 1	116-2
9	E-77	須恵器	甕	SI-947	床直	つまみ部 ロクロナデ	回転ヘラケズリ	底部 ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	—	1.4以上	(13.0)	—	(体部) ほぼ完形	甕 II 2	116-7
10	E-19	須恵器	甕	SI-947	床直	つまみ部 ロクロナデ	ロクロナデ	底部 ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	—	3.8	15.4	—	1/4	甕 I 1	116-11
11	E-18	須恵器	甕	SI-947	床直	—	回転ヘラケズリ	底部 ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	—	1.3以上	16.2	—	1/2	甕 I 2	116-10

第114図　SI947竪穴住居跡出土遺物（1）





S I 947
土色註記表

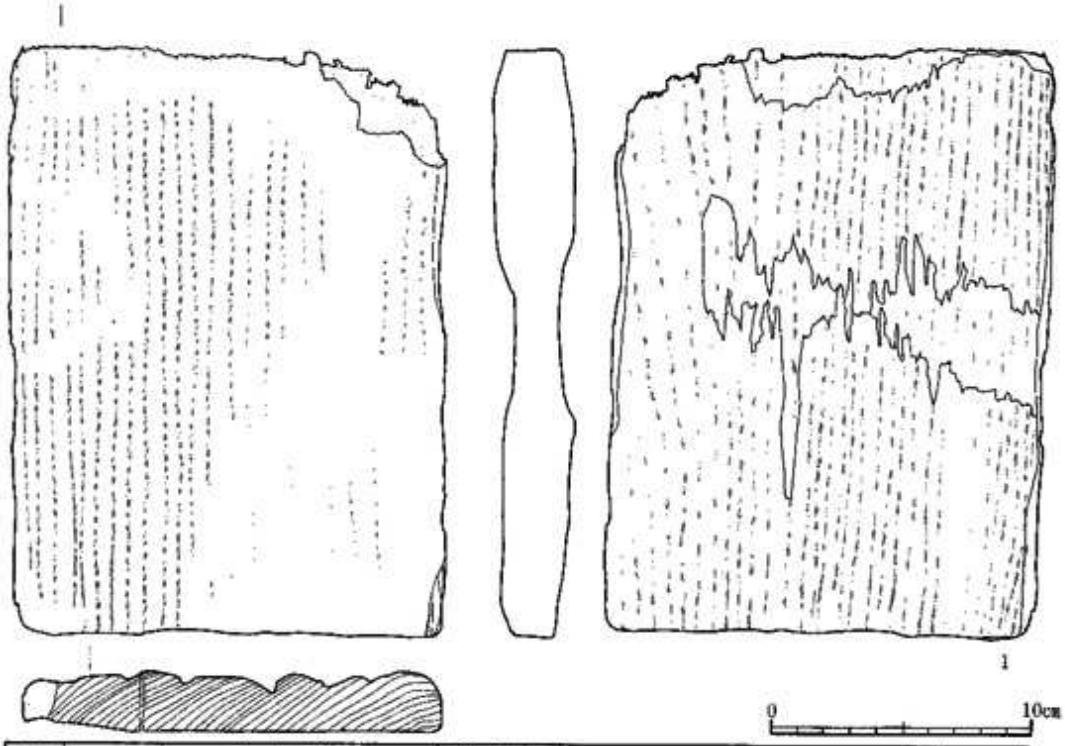
S I 947			
層位	土色	土性	備考
1	10YR 4/1 褐灰色	粘土質シルト	
2	10YR 5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	
3	10YR 4/1 褐灰色	粘土質シルト	土器片を多く含む。
4	10YR 5/1 褐灰色	粘土質シルト	
5	10YR 3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物を多量に含む。
6	10YR 4/1 褐灰色	粘土	貼床構築土
7	10YR 6/6 明黄褐色	粘土質シルト	
P 5			
1	10YR 1.7/1 黒色	シルト質粘土	炭化物を多量に含む。

第28表のS I 947竪穴住居跡ピット観察表

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P10
平面形	楕円形	楕円形	不整円形	不明	楕円形	不整形	不整形	楕円形	円形	不整円形
規模	110×88	125×110	125×96	60以上×80	106×88	12×7	11×10	18×7	10×10	15×10
深さ	70	80	80	20以上	10	7	23	19	25	18

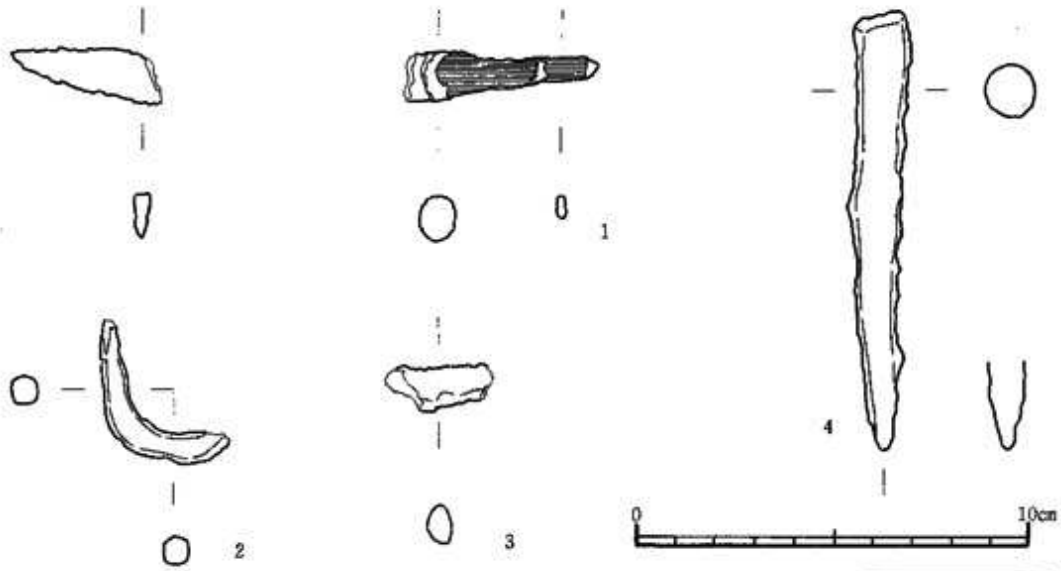
	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19
平面形	円形	不整形	楕円形	楕円形	楕円形	円形	隅丸方形	不整形	楕円形
規模	17×15	13×29	8×5	10×16	13×20	10×9	10×15	23×35	9×10
深さ	10	7	15	10	6	20	6	5	13

第115図　S I 947竪穴住居跡平・断面図



図版番号	登録番号	出土地点 地区	出土地点 遺構	出土地点 層位	種別 器形	法量・特徴	写真図版
1	L—13	C区	S I 947 pit 3	底面	木製品 板材	長さ22.7cm、幅16.6cm、厚さ1.8～3.2cm	117—1

第116図　S I 947竪穴住居跡出土遺物（2）



図版番号	登録番号	出土地点 地区	出土地点 遺構	出土地点 層位	種別 器形	法量・特徴	写真図版
1	N—15	C区	S I 947 pit 1		鉄製品 刀子	刀部長3.9cm以上、茎部長4.2cm以上 茎元幅1.3cm、棟幅～4.0cm	117—3
2	N—26	C区	S I 947	床面	金属製品 不明	長さ3.7cm、厚さ0.5～0.75cm	117—4
3	N—27	C区	S I 947	床上	金属製品 不明	長さ2.8cm以上、幅0.7～1.1cm	117—5
4	N—24	C区	S I 947		金属製品 不明	長さ11.4cm、幅～1.5cm	117—2

第117図　S I 947竪穴住居跡出土遺物（3）

ＳＩ948竪穴住居跡

〔調査区〕　Ｄ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔検出状況〕　遺構の一部を調査区内で検出したのみである。ＳＸ934（第185図参照）により上面が削平されている。

〔重複〕　ＳＩ954、ＳＩ955を切り、ＳＸ934に切られている。

〔規模・平面形〕　東壁5.15m以上、北壁6.1m以上で、方形か長方形と推定される。

〔方向〕　東壁でＮ－２°－Ｗである。

〔堆積土〕　５層に分けられるが、貼床上面では３層である。褐灰色粘土質シルト、暗褐色粘土である。

〔壁〕　現存する壁高は20～25cm、ほぼ垂直に立ち上がっている。

〔床面〕　灰黄褐色粘土質シルト、黒褐色粘土による貼床を構築している。Ｐ１の西側には80×135cm、高さ６cmの灰褐色粘土質シルトなどによるマウンド状の高まりがある。これを除いて床面はほぼ平坦でしまりが良く堅い。

〔柱穴〕　床面、掘り方底面上と周溝内のものを含めて10個のピットを検出したが、そのうち規模や形態、礎板と考えられる板材の出土などから、Ｐ１が主柱穴と考えられる。また周溝内のＰ２、Ｐ３、Ｐ４、Ｐ５、Ｐ６、Ｐ７は配置から側柱穴と考えられる。

〔カマド〕　北壁中から褐色粘土質シルト、黒褐色粘土で作られたカマド痕跡を検出した。天井部、袖などかなり崩壊し、原形を留めていないと考えられる。カマドの構築土を除去した床面上で、83×45cmで、深さ５cm程の不整形のピットを検出した。

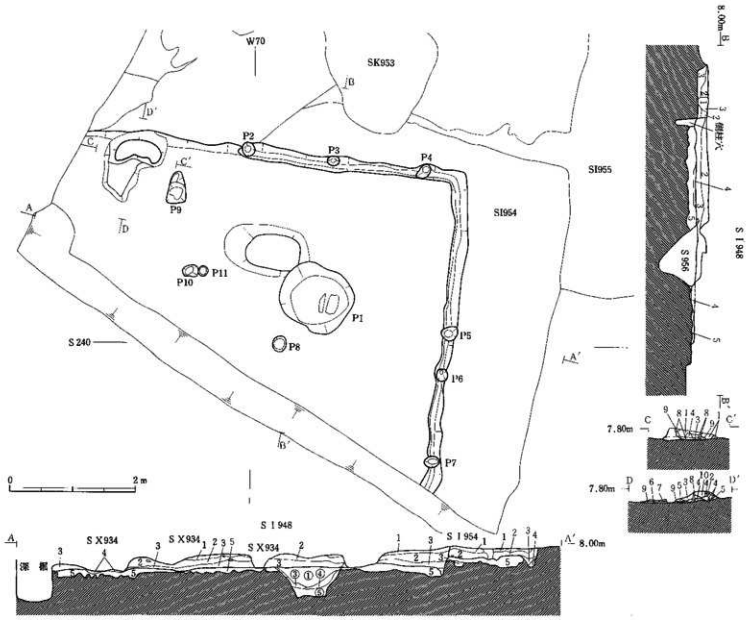
〔周溝〕　北壁の一部と東壁に認められ、幅14～25cm、深さ３～６cm、断面は「Ｕ」字形である。側柱穴と考えられるピットを６個検出した。

〔出土遺物〕　住居床面から土師器Ｃ－37甕（第119図５）、堆積土中から土師器Ｃ－４坏（第119図１）、Ｃ－89坏（第119図２）、掘り方中から須恵器Ｅ－79蓋（第119図３）、Ｐ１から須恵器Ｅ－９蓋（第119図４）、Ｅ－81甕（第119図６）が出土している。その他堆積土、床面、

第29表　ＳＩ948竪穴住居跡ピット観察表　　（単位：cm）

	Ｐ１	Ｐ２	Ｐ３	Ｐ４	Ｐ５	Ｐ６
平面形	隅丸方形	円形	楕円形	不整形	不整形	隅丸方形
規模	113×98	22×20	45×20	22×18	22×25	18×18
深さ	60	16	30	24	6	13
堆積土	灰黄褐色シルト質粘土など	-	褐灰色粘土質シルト	-	褐灰色粘土質シルト	褐灰色粘土質シルト

	Ｐ７	Ｐ８	Ｐ９	Ｐ10	Ｐ11
平面形	楕円形	円形	不整形	不整形	楕円形
規模	17×23	25×20	52×32	22×25	18×25
深さ	10	7	23	10	6
堆積土	灰黄褐色粘土質シルト	黒褐色シルト質粘土	灰黄褐色シルト質粘土	灰黄褐色粘土質シルト	炭化物



S I 948

層位	土色	土性	備考
1	10YR 5/1 褐灰色	粘土質シルト	灰黄褐色砂質シルトを含む
2	10YR 5/1 褐灰色	粘土質シルト	明黄褐色粘土を含む
3	10YR 8/3 暗褐色	粘土	
4	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	貼床
5	10YR 3/1 黒褐色	粘土	

層位	土色	土性	備考
1	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	
2	10YR 5/1 褐灰色	シルト質粘土	
3	10YR 5/2 灰黄褐色	粘土	炭化物を含む。
4	10YR 5/1 褐灰色	粘土	
5	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	

カマド

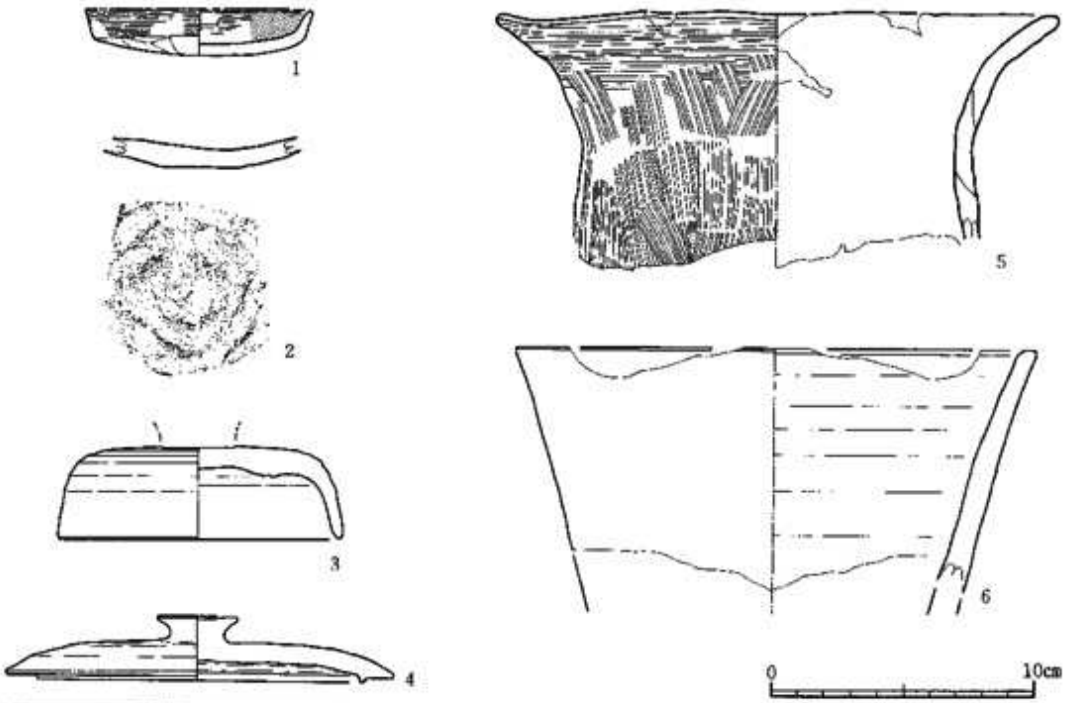
層位	土色	土性	備考
1a	10YR 4/1 褐灰色	粘土	
1b	10YR 3/2 灰黄褐色	粘土	
2	10YR 4/1 褐灰色	粘土	
3	10YR 6/3 にぶい黄橙色	粘土	
4a	10YR 4/4 褐色	粘土質シルト	
4b	10YR 5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	
4c	10YR 5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	
5	10YR 3/1 黒褐色	粘土	

層位	土色	土性	備考
6	10YR 2/1 黒色	炭化物	
7	7.5YR 7/6 橙色	シルト質砂	
8a	10YR 3/1 黒褐色	シルト	
8b	10YR 3/1 黒褐色	粘土質シルト	
9	10YR 3/2 黒褐色	粘土	
10	10YR 4/6 褐色	粘土質シルト	地焼面土
11	10YR 3/2 黒褐色	シルト	地焼面土

（カマド下層）

第118図　S I 948竪穴住居跡平・断面図

掘り方、P2～4から土師器坏、高坏、甕片、須恵器坏、高坏、盤、壺、甕片が出土している。



番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	残存	備考	写真図版
1	C－4	土師器	坏	SI-948	堆積土	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ→黒色処理			1.8	8.8	8.0	ほぼ完形	坏A Ⅳ 3	117－6
2	C－69	土師器	坏	SI-948	堆積土	――	ヘラケズリ	未調整	――	ヘラミガキ→黒色処理		1.2以上	――	2.9	1/5		118－1
3	E－79	須恵器	蓋	SI-948	掘り方	――	回転ヘラケズリ	周部ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	――	3.5	16.0	――	1/2	蓋Ⅱ 2	117－7
4	E－9	須恵器	甕	SI-948	P1	つまみ部ロクロナデ	回転ヘラケズリ→ロクロナデ	周部ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	――	2.5	15.0	――	完形	蓋1 3 b	118－4
5	C－87	土師器	壺	SI-948	床面	ヨコナデ	ハケメ	――	不明	不明	――	8.8以上	21.8	――	1/2	壺Ⅱ a	117－8
6	E－81	須恵器	甕	SI-948	P1	不明	不明	――	ロクロナデ	ロクロナデ	――	10.2以上	20.0	――	1/4	脚の可能性あり	118－2

第119図　ＳＩ948竪穴住居跡出土遺物

ＳＩ954竪穴住居跡

〔調査区〕　D区　　〔検出面〕　Ⅳa層

〔検出状況〕　遺構の一部を調査区内で検出したのみである。ＳＸ934（第185図参照）により上面が削平されている。

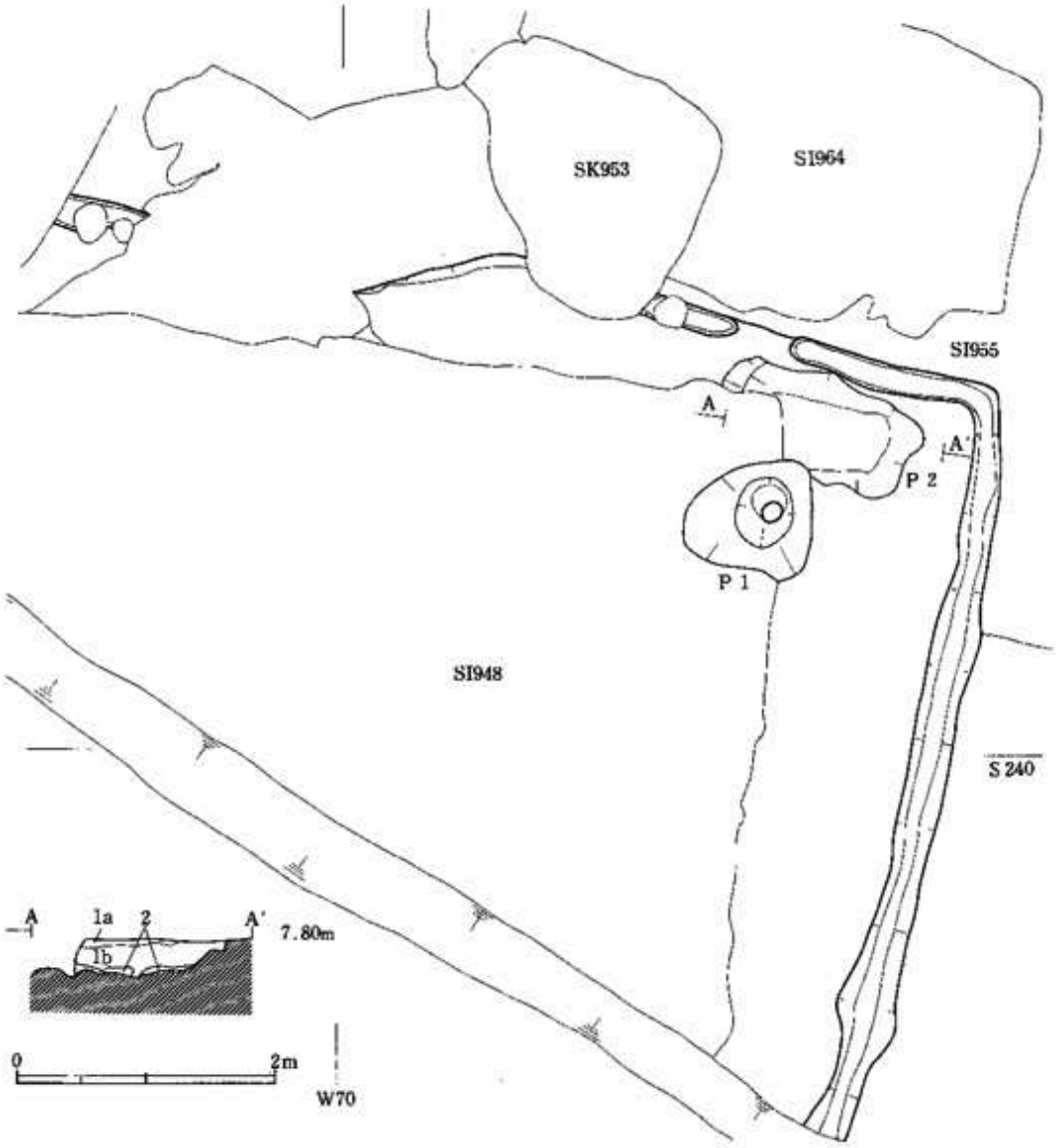
〔重複〕　ＳＩ955を切り、ＳＸ934、ＳＩ948、ＳＫ953に切られている。

〔規模・平面形〕　東壁5.9m以上、北壁7.3m以上で、方形あるいは長方形と推定される。

〔方向〕　東壁でＮ－4°－Ｅである。

〔堆積土〕　6層に分けられるが、貼床上面では3層である。褐灰色、灰黄褐色シルト質粘土などである。

〔壁〕　現存する壁高は0～20cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。



P 2

層位	土色	土性	その他
1 a	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	浅黄橙色土を多量に含む。
1 b	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	
2	10YR 5/2 灰黄褐色	シルト質粘土	

第30表　S I 954竪穴住居跡ピット観察表

	P 1	P 2
平面形	不整形	不整楕円形
規模	98×80	75×128
深さ	70	30
堆積土		灰黄褐色シルト質粘土

（単位：cm）

S I 954

層位	土色	土性	備考	層位	土色	土性	備考
1	10YR 5/1 褐灰色	シルト質粘土		4	10YR 4/1 褐灰色	粘土	凹凸
2	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土		5	10YR 3/2 黒褐色	粘土質シルト	貼床
3	10YR 4/1 褐灰色	粘土		6	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	掘り方埋土

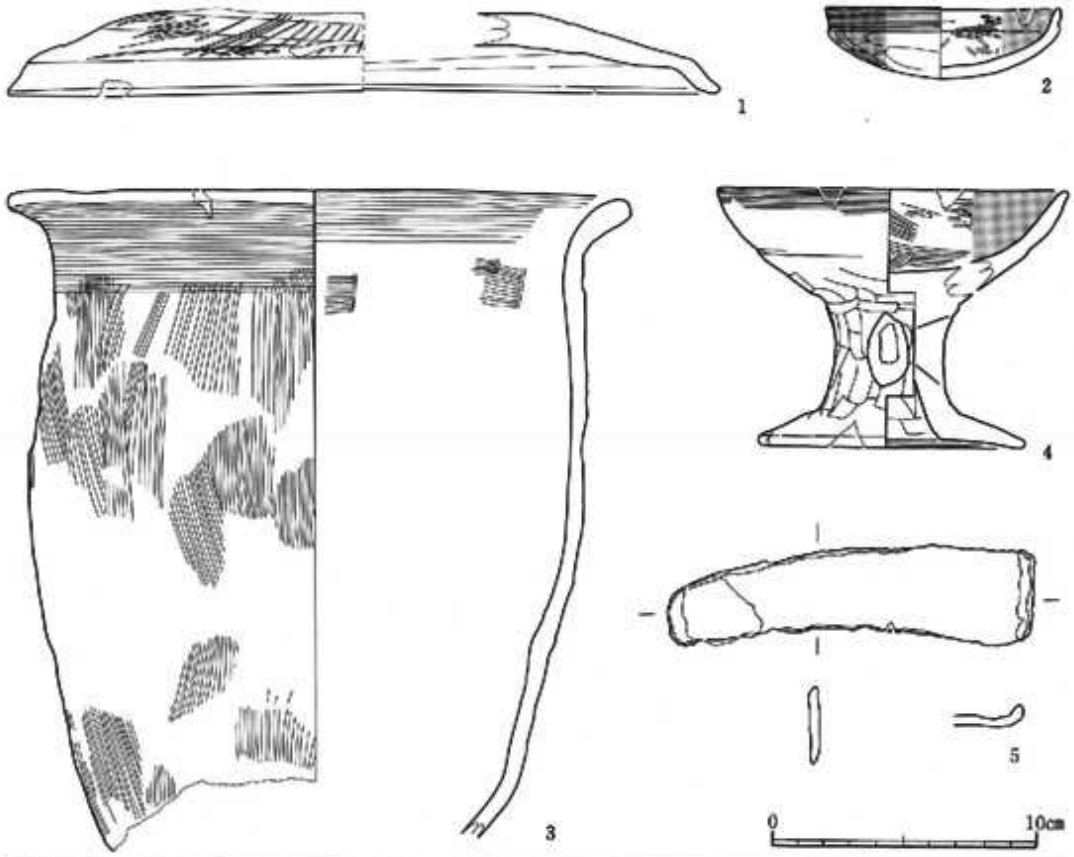
第120図　S I 954竪穴住居跡平・断面図

〔床面〕　黒褐色粘土質シルトにより貼床を構築し、ほぼ平坦である。床上面はしまりがある。

〔柱穴〕　床面上で２個のピットを検出し、規模、形態、配置等からＰ１が主柱穴と考えられる。

〔周溝〕　北壁と東壁に認められ、幅21～30cm、深さ10～11cm、断面形は「Ｕ字形」である。北壁の一部で途切れている。

〔出土遺物〕　住居床面から土師器Ｃ－18高坏（第121図４）、金属器Ｎ－９鎌（第121図５）、堆積土中から土師器Ｃ－94甕(第121図３)、Ｐ２から土師器Ｃ－15坏(第121図２)、須恵器Ｅ－82蓋（第121図１）が出土している。その他堆積土、床面、周溝、Ｐ１から土師器坏、甕片と少量の須恵器坏、高坏、甕片が出土している。



番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	残存	備考	写真図版
1	E-82	須恵器	蓋	SI-954	P2	―	回転ヘラケズリ→回転ナデ	周縁ヨコナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	―	3.3以上	27.0	―	1/3	盤の可能性もある	119-5
2	C-15	土師器	坏	SI-954	P2	ヨコナデ	ヘラケズリ→黒色処理		ヘラミガキ→黒色処理			2.8	8.9	8.7	ほぼ完形	坏A13b	118-3
3	C-94	土師器	甕	SI-954	堆積土	ヨコナデ	ハケメ	―	ヨコナデ	ヘラナデ	―	25.7以上	23.6	―	3.4	甕B a	118-5
4	C-18	土師器	高坏	SI-954	床面	坏部ヨコナデ	坏芯・脚柱部ヘラケズリ	脚裾部端部	坏部ヘラミガキ→黒色処理	脚柱部ヘラケズリ	脚柱部ヨコナデ	10.1	坏口径13.3	脚柱径4.1 脚裾径10.1	2/3	高坏(坏)I1(脚)I1	118-6
5	N-9	金属器	鎌	SI-954	床面	長さ14cm											122-8

第121図　ＳＩ954竪穴住居跡出土遺物

ＳＩ955竪穴住居跡

〔調査区〕　Ｄ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔検出状況〕　遺構の一部を調査区内で検出したのみである。ＳＸ934（第185図参照）により上面が削平されている。

〔重複・増改築〕　ＳＸ934、ＳＩ954、ＳＩ964、ＳＫ953に切られている。検出したカマドの状況から床面の貼り替えを伴う新旧２時期があると考えられる。

〔規模・平面形〕　南北5.7m、東西6.56mで、隅丸方形である。

〔方向〕　南北軸方向でＮ－0°－Ｅである。

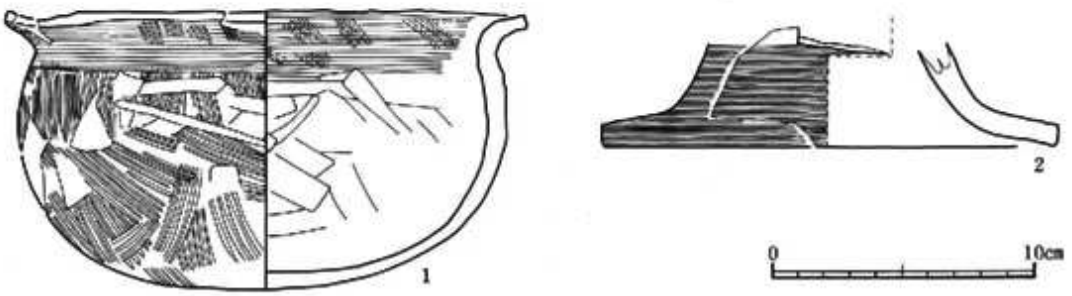
〔堆積土〕　３層に分けられるが、貼床上面では１層である。にぶい黄褐色シルトである。

〔壁〕　現存する壁高は５～20cmで、ゆるやかに立ち上がっている。

〔床面〕　黒褐色粘土質シルトにより貼床を構築し、住居の北西隅を除きほぼ平坦である。床上面はしまりがある。

〔カマド〕　北壁やや西寄りに位置し、55×75cm、深さ13cm程で住居跡より舌状に延びている。堆積土は暗褐色、褐色シルト質粘土で、炭化物、焼土を含んでいる。検出した床面上に、焼土や袖などのカマド痕跡がないことから、最終段階の床面が機能する以前の旧カマドと考えられる。

〔出土遺物〕　住居内堆積土中から土師器Ｃ－20甕（第122図１）、掘り方から土師器Ｃ－35高坏脚部片（第122図２）が出土し、その他堆積土、掘り方から土師器坏、高坏、甕片と少量の須恵器坏、甕片が出土している。



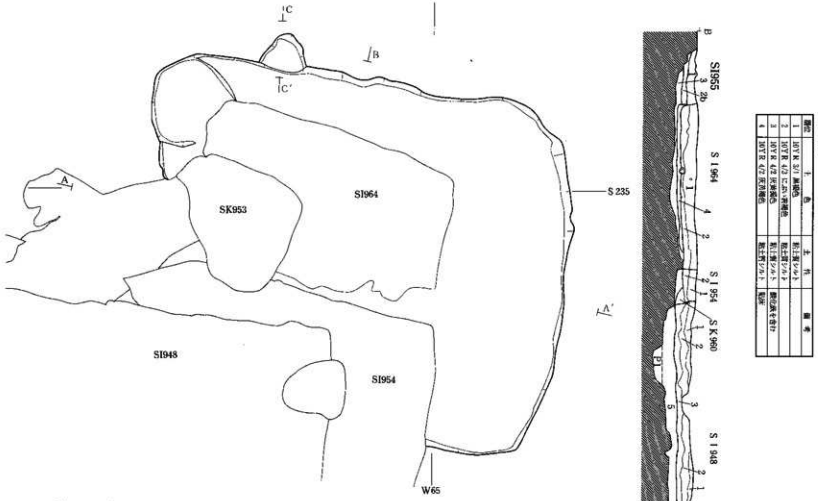
番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	残存	備考	写真図版
1	C－20	土師器	坏	ＳＩ－955	堆積土	ハケメ→ヨコナデ	ハケメ→ヘラケズリ	ハケメ→ヘラケズリ	ハケメ→ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	0.8	20.0		1/3	鉢Ⅱａ	119－7
2	C－35	土師器	高坏	ＳＩ－955	掘り方	—	—	脚柱部 ヘラナデ	—	—	脚端部 1部ヘラケズリ	4.0以上	—	脚裾径 8.7	1/4	高坏Ⅰ	—

第122図　ＳＩ955竪穴住居跡出土遺物

ＳＩ964竪穴住居跡

〔調査区〕　Ｄ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔検出状況〕　遺構の一部を調査区内で検出したのみである。ＳＸ934（第185図参照）により

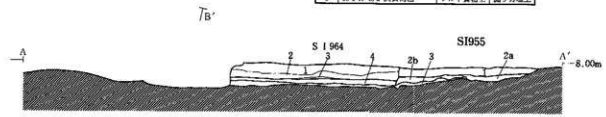


カマド

層位	土色	土性	備考
1	10YR 3/3 暗褐色	シルト質粘土	焼土、炭化物を含む
2	10YR 4/4 褐色	シルト質粘土	焼土を含む

S I 955

層位	土色	土性	備考
1	10YR 5/3 にぶい黄褐色	シルト	
2a	10YR 4/1 褐灰色	粘土質シルト	貼床
2b	10YR 3/2 黒褐色	粘土質シルト	貼床
3	10YR 5/2 灰黄褐色	シルト質粘土	固り方焼土



第123図　S I 955竪穴住居跡平・断面図

上面が削平されている。

〔重複〕　ＳＩ955を切り、ＳＸ934、ＳＩ954、ＳＫ953に切られている。

〔規模・平面形〕　東壁1.8m以上、北壁3.8mで、方形あるいは長方形と推定される。

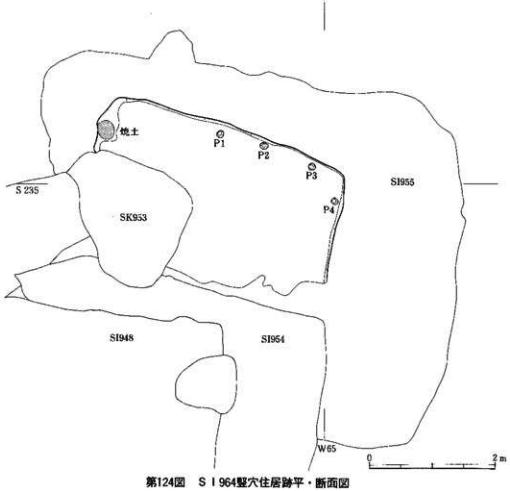
〔方向〕　北壁でＥ－12°－Ｓである。

〔堆積土〕　４層に分けられるが、貼床上面では３層である。黒褐色、にぶい黄褐色粘土質シルトなどである。

〔壁〕　現存する壁高は０～25cmで、ほぼ垂直気味に立ち上がっている。西壁中に30×25cmの範囲で焼土の堆積する箇所がある。

第31表　SI946 竪穴住居跡ピット観察表　（単位：cm）

	P1	P2	P3	P4
平面形	円形	楕円形	円形	円形
規模	14×12	15×11	10×11	11×11
深さ	11	8	9	10



第124図　ＳＩ964竪穴住居跡平・断面図

〔床面〕　灰黄褐色粘土質シルトにより貼床を構築し、ほぼ平坦である。床上面はしまりがある。

〔柱穴〕　床面上で4個のピットを検出し、配置、規模などから側柱穴の可能性がある。

〔カマド〕　西壁の焼土がカマドの痕跡の可能性もあるが、断定できない。

〔出土遺物〕　住居堆積土中から土師器C－86（第125図1）、C－88坏（第125図3）、掘り方から土師器C－34坏(第125図2)が出土している。その他堆積土、掘り方から土師器坏、高坏、甕片と少量の須恵器甕片が出土している。

番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整			内面調整			法量(cm)			残存	備考	写真図版
						口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	器高	口径	底径			
1	C—86	土師器	坏	SI-964	堆積土	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			3.2	12.3	10.5	1/3	坏A Ⅰ2d	119—1
2	C—34	土師器	坏	SI-964	掘り方	ヘラミガキ→黒色処理			ヘラミガキ→黒色処理			4.3	10.9	4.0	3/4	坏A Ⅱ2a	119—3
3	C—88	土師器	坏	SI-964	堆積土	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			2.3	10.0	9.0		坏A Ⅱ4	119—2

第125図　SI964竪穴住居跡出土遺物

SI991竪穴住居

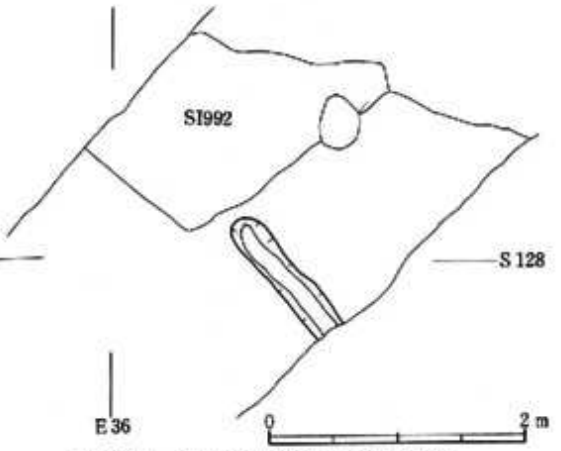
〔調査区〕　L区

〔検出面〕　IVa層

〔検出状況〕　住居の煙道を検出したのみである。煙道は東側にさらに延びている。

〔重複〕　認められない。

〔煙道〕　煙道の上幅45～55cm、下幅20～25cm、深さ6～14cmで、先端ほど深くなっている。堆積土は黒褐色、褐灰色シルト質粘土などで、炭化物を少量含んでいる。



第126図　SI991竪穴住居跡平面図

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。

SI992竪穴住居跡

〔調査区〕　L区　　〔検出面〕　IVa層

〔検出状況〕　遺構の一部を調査区内で検出したのみである。

〔重複〕　SD984に切られている。

〔規模・平面形〕　東壁2m以上、南壁1.1m以上で、平面形は不明である。

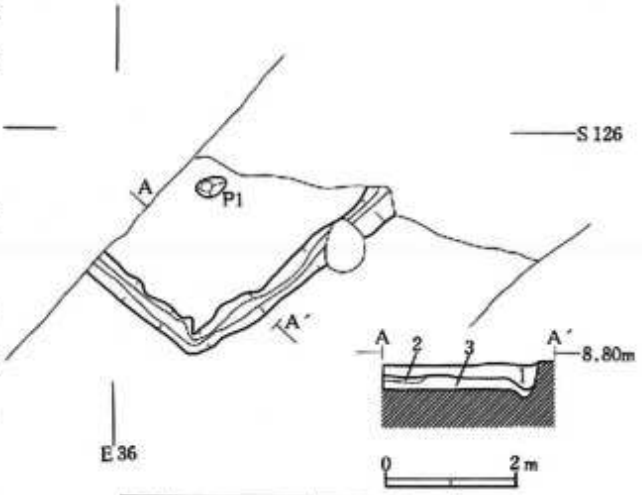
〔方向〕　東壁沿いの周溝でN－43°－Eである。

〔堆積土〕　3層に分けられるが貼床上面では1層で、黒褐色シルト質粘土である。

〔壁〕　現存する壁高は20～30cmで、ゆるやかに立ち上る部分もあるがおおむね垂直気味である。

〔床面〕　黄褐色シルト質粘土により貼床を構築し、周溝部分を除いてはほぼ平坦である。床上面はあまりしまっていない。

〔柱穴〕　床面上で25×15cmの楕円形のピットを1個検出したが、主柱穴となるかどうかは不明である。



層位	土色	土性	備考
1	10YR 3/2 黒褐色	シルト質粘土	
2	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	
3	10YR 5/6 黄褐色	シルト質粘土	貼床

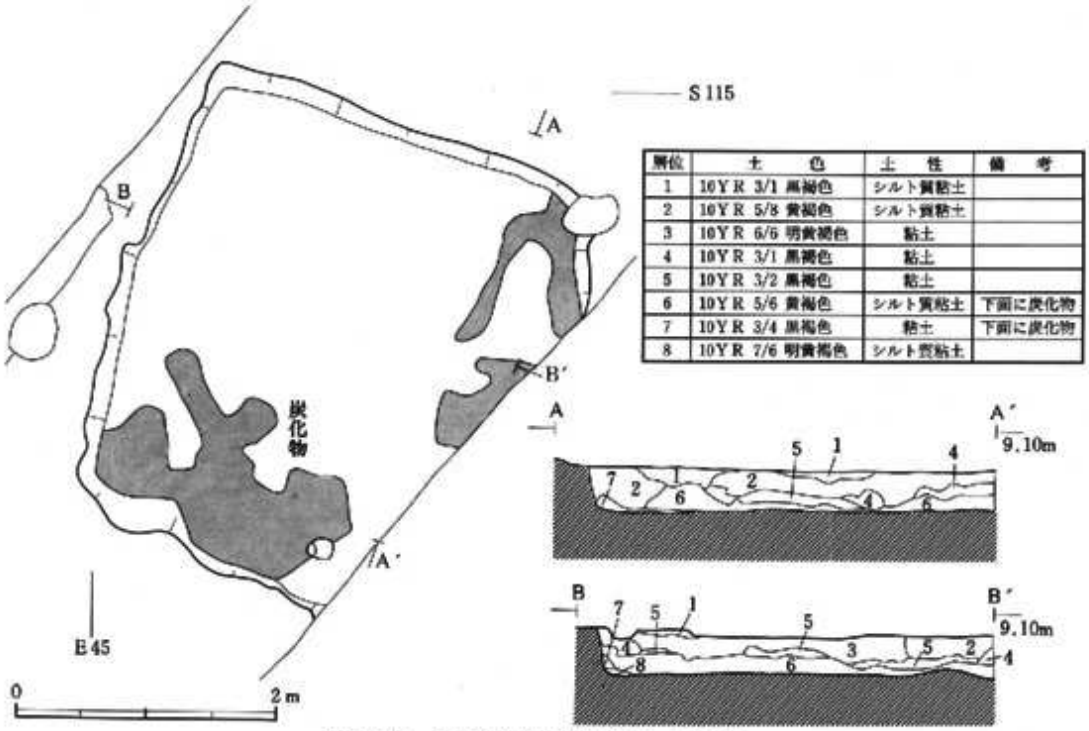
第127図　S I 992竪穴住居跡平・断面図

〔周溝〕　東壁と南壁に認められ、幅15～30cm、深さ20cm、断面は「U」字形である。

〔出土遺物〕　土師器坏、甕片が少量出土している。

S I 993竪穴住居跡

〔調査区〕　L区　　〔検出面〕　IVa層



層位	土色	土性	備考
1	10YR 3/1 黒褐色	シルト質粘土	
2	10YR 5/8 黄褐色	シルト質粘土	
3	10YR 6/6 明黄褐色	粘土	
4	10YR 3/1 黒褐色	粘土	
5	10YR 3/2 黒褐色	粘土	
6	10YR 5/6 黄褐色	シルト質粘土	下面に炭化物
7	10YR 3/4 黒褐色	粘土	下面に炭化物
8	10YR 7/6 明黄褐色	シルト質粘土	

第128図　S I 993竪穴住居跡平・断面図

〔検出状況〕　住居の南東コーナーのみ調査区外に延びている。

〔重複〕　認められない。

〔規模・平面形〕　西壁3.3m、北壁３ｍで、隅丸方形と推定される。

〔方向〕　北壁Ｅ－12°－Ｓである。

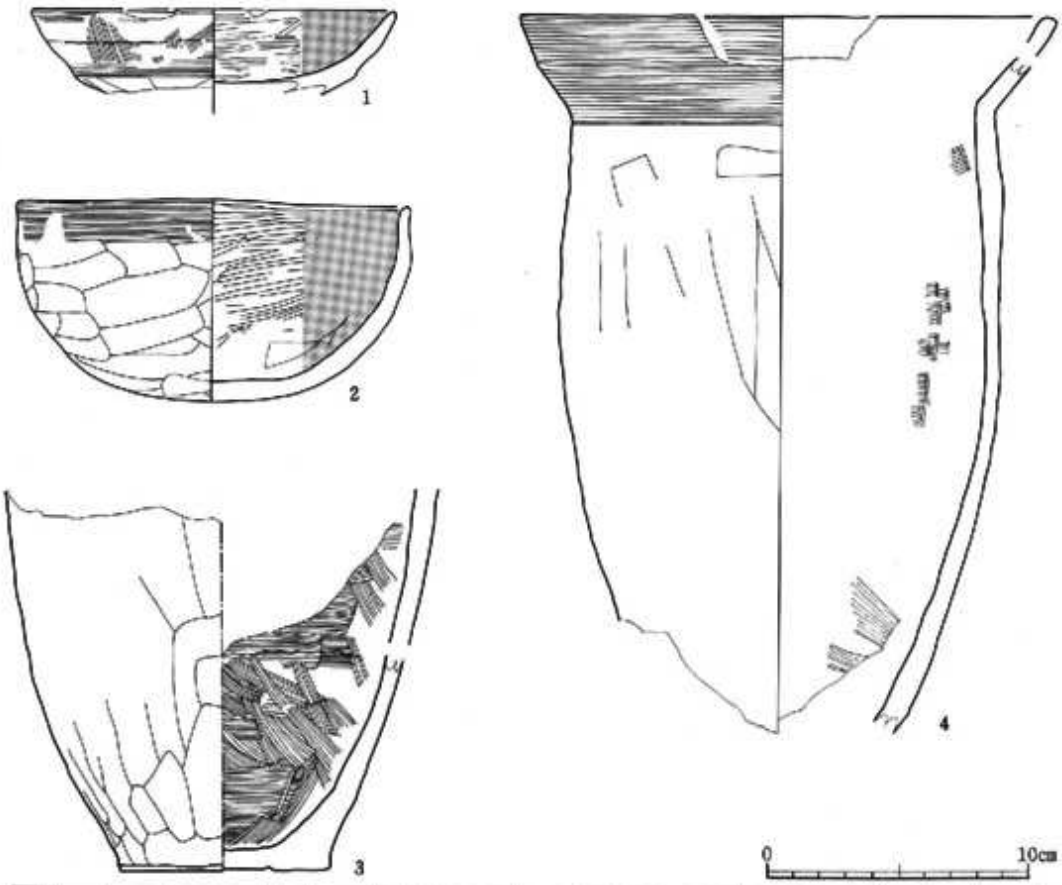
〔堆積土〕　９層に分けられ、明黄褐色粘土、黄褐色シルト質粘土などである。

〔壁〕　現存する壁高は35～47cmで、垂直気味に立ち上がる。

〔床面〕　貼床はなく掘り方の底面自体が平坦となっている。底面上で炭化物が集積することや遺物が集中して出土することなどから、掘り方底面が床として機能していたと考えられる。

〔カマド〕　認められないが、調査区東壁中に焼土がまとまって検出されることから東壁中に位置すると推定される。

〔出土遺物〕　住居底面の炭化物上面より土師器Ｃ－１坏(第129図２)、Ｃ－２高坏(第129図１)、



番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 残存	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	残存	備考	写真図版
1	C－2	土師器	高坏	SI-993	床面	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラケズリ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		3.3以上	13.9	10.7	4/5	高坏II	129-08
2	C－1	土師器	坏	SI-993	床面	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→指色処理			7.8	15.1		5/6	坏A2	120-9
3	C－95	土師器	甕	SI-993	床面	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	16.7以上	—	8.1	1/4	甕B＊	119-4
4	C－93	土師器	甕	SI-993	床面	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	不明	ヘラナデ	—	22.7以上	27.6	—	約1/4	甕B＊	119-6

第129図　ＳＩ993竪穴住居跡出土遺物

C－93甕（第129図４）、C－95甕（第129図３）が出土している。その他堆積土中から土師器坏、甕片、須恵器壺、甕片が出土している。

ＳＩ994竪穴住居跡

〔調査区〕　Ｌ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔検出状況〕　遺構の一部を調査区内で検出したのみである。

〔重複〕　認められない。

〔規模・平面形〕　東壁は4.2m程であるが、東西長、平面形は不明である。

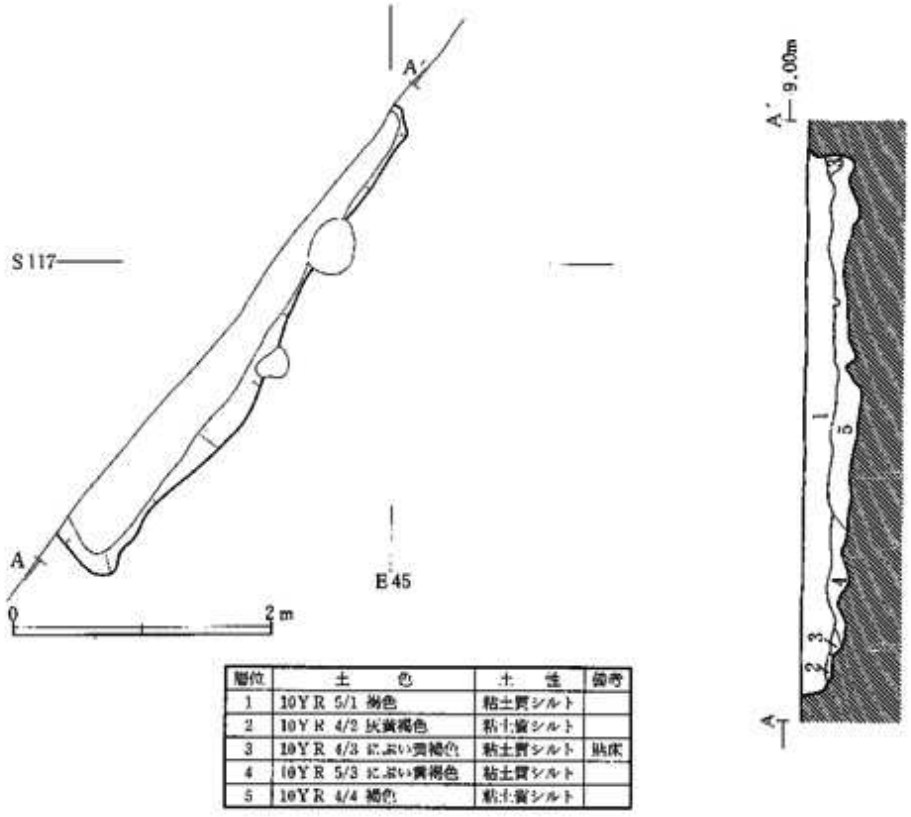
〔方向〕　東壁でＮ－26°－Ｅである。

〔堆積土〕　５層に分けられるが貼床上面では１層である。褐色粘土質シルトで、炭化物、焼土を含んでいる。

〔壁〕　現存する壁高は15～24cmで、ほぼ垂直気味に立ち上る。

〔床面〕　褐色、にぶい黄褐色粘土質シルトなどにより粘床を構築し、ほぼ平坦である。床面上はしまりがある。

〔出土遺物〕　住居内の堆積土、掘り方中から土師器甕片が出土している。



層位	土色	土性	備考
1	10YR 5/1 褐色	粘土質シルト	
2	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	
3	10YR 4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	貼床
4	10YR 5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	
5	10YR 4/4 褐色	粘土質シルト	

第130図　ＳＩ994竪穴住居跡平面図

ＳＩ1101竪穴住居跡

〔調査区〕　Ｃ、Ｆａ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔検出状況〕　遺構の南半を調査区内で検出し、北半は農業用水路により削平されている。

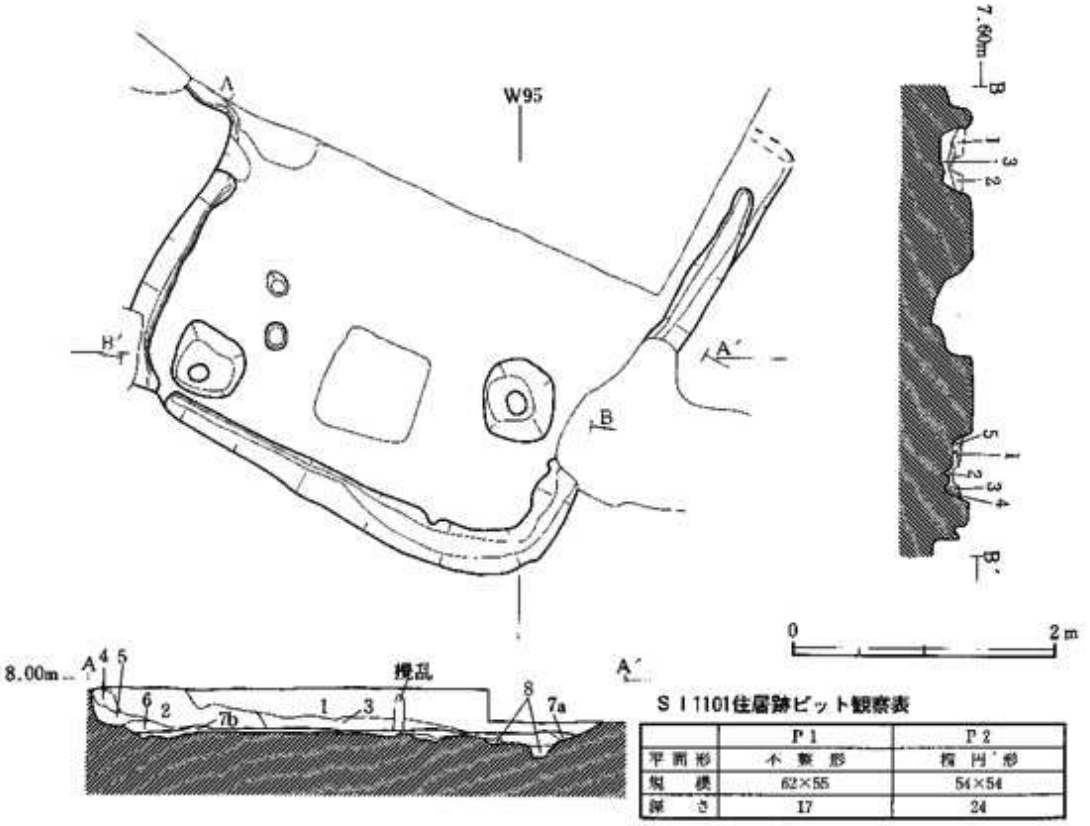
〔重複〕　ＳＢ996、ＳＤ931に切られている。

〔規模・平面形〕　東壁４ｍ、南壁3.7mで、隅丸方形と推定される。

〔方向〕　東壁でＮ－26°－Ｅである。

〔堆積土〕　８層に大別されるが、貼床上面では６層である。黒褐、暗褐色シルトあるいは黒褐色シルト質粘土である。ほぼ同時期に堆積したと推定される。

〔壁〕　現存する壁高は16～38cmで、ほぼ垂直気味に立ち上る。



ＳＩ1101住居跡ピット観察表

	P1	P2
平面形	不整形	楕円形
規模	62×55	54×54
深さ	17	24

（単位：cm）

層位	土色	土性	その他	層位	土色	土性	その他
1	10YR 3/2 黒褐色	シルト		P11	10YR 3/1 黒褐色	シルト	焼土、酸化鉄を含む。
2	10YR 3/3 暗褐色	シルト		2	10YR 3/1 黒褐色	シルト質粘土	炭化物を含む
3	10YR 2/3 黒褐色	シルト質粘土		3	10YR 5/1 褐灰色	粘土質シルト	
4	10YR 3/2 黒褐色	粘土		P21	10YR 4/1 褐灰色	シルト	
5	10YR 2/3 黒褐色	粘土		2	10YR 5/1 褐灰色	シルト質粘土	
6	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土	炭化物、焼土を含む	3	10YR 5/1 褐灰色	粘土質シルト	
7a	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土	貼床	4	10YR 5/1 褐灰色	シルト質粘土	
7b	10YR 3/3 暗褐色	粘土		5	10YR 4/1 褐灰色	シルト質粘土	炭化物を含む
8	10YR 2/2 黒褐色	シルト質粘土					

第131図　ＳＩ1101竪穴住居跡平・断面図

〔床面〕　灰黄褐色粘土により貼床を構築し、ほぼ平坦である。床上面にはしまりがある。

〔柱穴〕　床面、掘り方底面上を含めて4個のピットを検出したが、そのうち規模、形態、配置などからＰ1、Ｐ2が主柱穴と考えられる。

〔カマド〕　北壁のほぼ中央に位置していると推定される。右袖が若干残存し、内側には炭化物が堆積している。煙道は50cm程まで確認したがＳＢ996により切られている。カマドの北半は調査区外のため詳細は不明である。

〔出土遺物〕　住居内堆積土、Ｐ1から土師器坏、高坏、甕片が出土している。

ＳＩ1109竪穴住居跡

〔調査区〕　Ｇ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔検出状況〕　遺構の一部を調査区内で検出したのみである。

〔重複〕　認められない。

〔規模・平面形〕　東壁3.2m、北壁1.1m以上で、平面形は不明である。

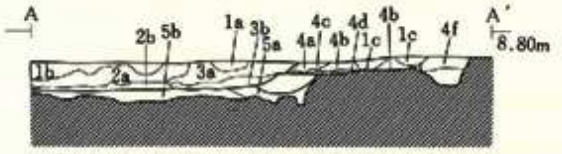
〔方向〕　カマド煙道でＮ－25°－Ｅである。

〔堆積土〕　5層に大別されるが貼床上面では3層である。黒褐色シルト、粘土質シルトなどである。

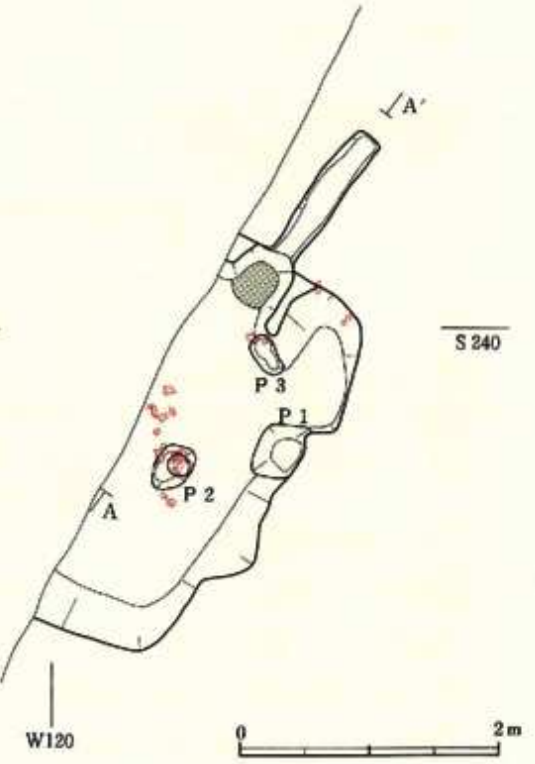
〔壁〕　現存する壁高は20～30cmで、直線的に傾斜を持って立ち上がっている。

〔床面〕　暗褐色、黒褐色シルトにより貼床を構築し、ほぼ平坦である。床上面はあまりしまっていない。

〔柱穴〕　床面で3個のピットを検出した。規模・形態からＰ2が主柱穴の可能性がある。



第133図　ＳＩ1109竪穴住居跡断面図



第132図　ＳＩ1101平面図

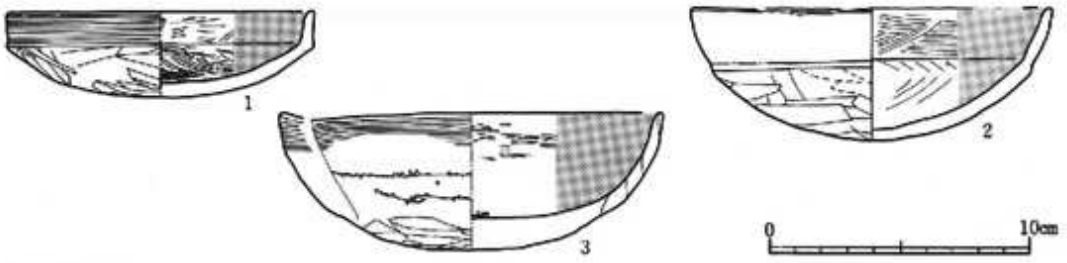
層位	土色	土性	備考
1a	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト	
1b	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色粘土を含む。
2a	10YR 3/1 黒褐色	シルト	
2b	2.5Y 3/1 黒褐色	シルト質粘土	
3a	10YR 3/1 黒褐色	粘土質シルト	
3b	10YR 3/1 黒褐色	粘土	
4a	10YR 3/1 黒褐色	シルト	カマド、天井?
4b	10YR 3/1 黒褐色	粘土質シルト	
4c	10YR 4/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土	煙道
4d	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	
4f	10YR 4/1 褐灰色	シルト質粘土	
5a	10YR 3/3 暗褐色	シルト	貼床
5b	10YR 3/2 黒褐色	シルト	

〔カマド〕　北壁中に位置し、暗褐色シルト質粘土、黒褐色粘土質シルトで貼床構築後に作られている。燃焼部と煙道が残存し、両袖の先端幅は45cm、奥行は55cmで、底面に70×60cmの範囲で厚さ15cm程の焼土が堆積している。煙道は総長115cm、上幅20～25cm、下幅13～20cmである。

第32表　ＳＩ1109竪穴住居跡ピット観察表　（単位：cm）

	P1	P2	P3
平面形	不整方形	不整形	楕円形
規模	43×43	36×30	34×20
深さ	16	10	8
堆積土		10YR 3/1 黒褐色シルト質粘土	—

〔出土遺物〕　カマド付近の床面上から土師器Ｃ－24坏（第134図２）、Ｃ－57坏（第134図１）Ｃ－58坏（第134図３）が出土している。その他床面、掘り方、Ｐ１から土師器坏、高坏、甕片が出土している。



番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	残存	備考	写真図版
1	C－57	土師器	坏	SI-1109	床面	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			3.3	11.8		1/2	坏AⅠ3a	120－2
2	C－24	土師器	坏	SI-1109	床面	不明	不明	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			5.1	14.0		2/3	坏AⅠ2a	120－5
3	C－58	土師器	坏	SI-1109	床面	ヨコナデ	不明	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			5.3	14.9	10.0	1/3	坏AⅡ2a(1)	120－3

第134図　ＳＩ1109竪穴住居跡出土遺物

ＳＩ1121竪穴住居跡

〔調査区〕　Ｈ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔検出状況〕　煙道の先端部を除いて調査区内で検出した。未検出となった煙道の先端部付近は、学校施設との兼ね合いから調整がつかず、やむを得ず調査が実施出来なかった箇所である。

〔重複〕　Ⅳａ層上面ではＰ65に切られている。

〔規模・平面形〕　東壁7.5m、北壁6.8mで、隅丸方形である。

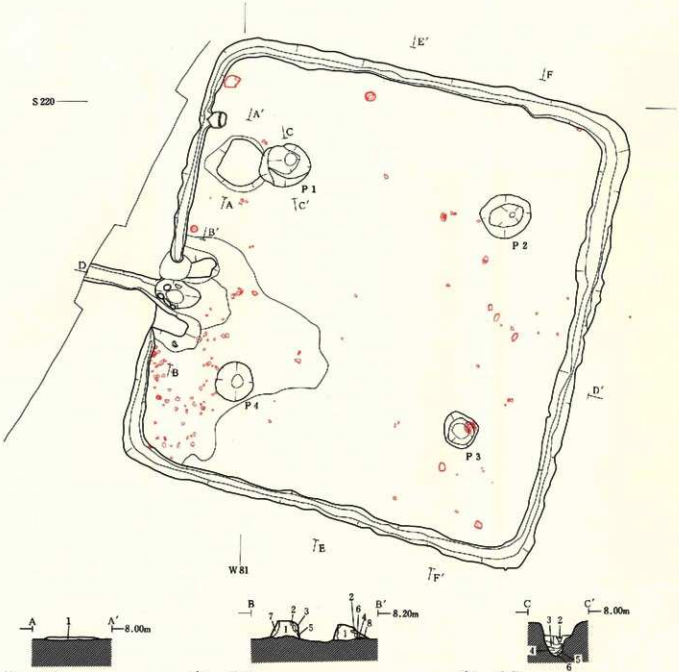
〔方向〕　南壁でＥ－8°－Ｓ、東壁でＮ－5°－Ｓである。

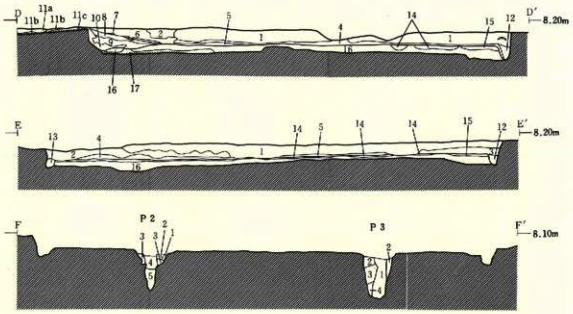
〔堆積土〕　カマド内の堆積土を含め17層程であるが、カマド、貼床上面では５層である。灰黄褐色、黒褐色、褐灰色粘土などである。

〔壁〕　現存する壁高は30～42cmで、ほぼ垂直気味に立ち上る。

〔床面〕　灰黄褐色粘土質シルト、褐灰色シルト質粘土により貼床を構築し、平坦でしまりがある。カマド周辺には、灰、炭化物、焼土が堆積している箇所がある。Ｐ１の西側には90～100×90cm、高さ５cmの灰黄褐色シルト質粘土によるマウンド状の高まりがある。

〔柱穴〕　床面上で４個のピットを検出し、規模、形態、配置から主柱穴と考えられる。





S I 1121

表1　D-D'、E-E'

層位	土　色	土　性	備　考	層位	土　色	土　性	備考
1	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	褐灰色シルトを含む	11b	10YR 5/2 黄褐色	シルト	硬遮内堆積土
2	10YR 3/1 黒褐色	シルト質粘土	灰黄褐色シルト質粘土を含む	11b	10YR 3/1 黒褐色	シルト質粘土	硬遮内堆積土
3	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土		11c	10YR 5/3 にぶい黄褐色など	シルト	硬遮内堆積土
4	10YR 5/1 褐灰色	シルト質粘土	黄褐色粘土質シルトを含む	12	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	周溝内堆積土
5	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物、灰を含む	13	10YR 5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	周溝内堆積土
6	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	褐灰色シルト質粘土など を含む	14	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	貼床膜築土
7	10YR 6/4 にぶい黄褐色	シルト質粘土	焼土	15	10YR 5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	貼床膜築土
8	10YR 4/1 褐灰色など	灰	焼土を含む	16	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	貼床膜築土
9	10YR 2/1 黒色など	シルト	灰、焼土を多量に含む	17	10YR 4/1 褐灰色	シルト質粘土	
10	10YR 5/2 灰黄褐色	粘土質シルトなど	カマド構築土				

表2　F-F'

P 2				P 3			
層位	土　色	土　性	備　考	層位	土　色	土　性	備　考
1	10YR 5/2 灰黄褐色	シルト質粘土		1	10YR 4/1 褐灰色	粘土	
2	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土		2	10YR 4/1 褐灰色	シルト質粘土	
3	10YR 5/2 灰黄褐色	粘土質シルト		3	2.5Y 7/2 灰黄色	シルト質粘土	酸化鉄、粘土を含む
4	10YR 3/2 黒褐色	シルト質粘土	火山灰を微量に含む	4	2.5Y 6/2 灰黄色	シルト質粘土	粘土を含む
5	10YR 4/3 にぶい黄褐色	粘土					

表4　A-A'

層位	土　色	土　性	備　考
1	10YR 5/2 灰黄褐色	シルト質粘土	

表5　B-B'

層位	土　色	土　性	備　考
1	10YR 5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	
2	10YR 5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	
3	10YR 4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	焼土を含む
4	10YR 4/1 褐灰色	粘土質シルト	炭化物、灰を少量含む
5	10YR 4/4 褐色	粘土質シルト	焼土を含む
6	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む
7	10YR 5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	C−60品坪出土
8	10YR 4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	焼土を含む

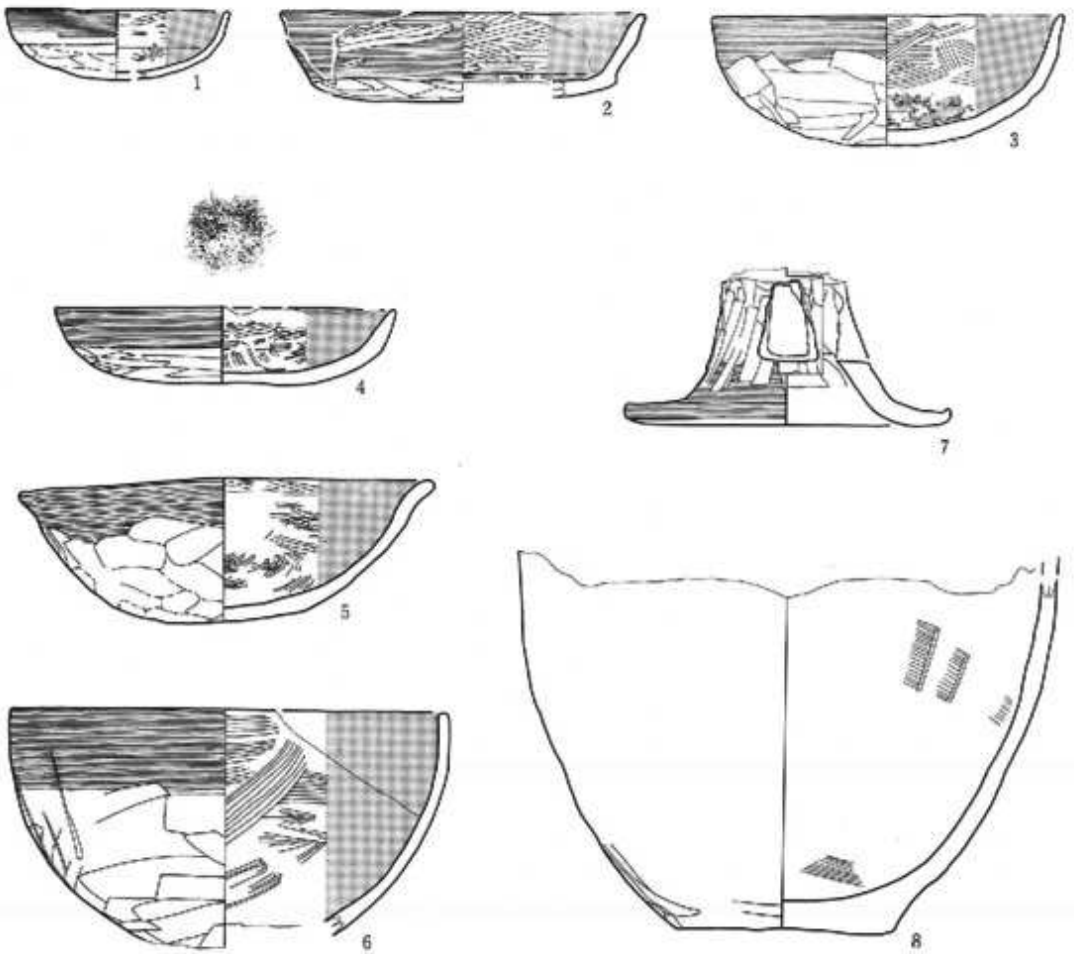
表3　C-C'

P 1			
層位	土　色	土　性	備　考
1	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	
2	10YR 3/2 黒褐色	シルト質粘土	
3	10YR 4/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土	
4	10YR 3/3 暗褐色	シルト質粘土	
5	10YR 4/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土	酸化鉄を含む
6	10YR 4/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土	

第135図　S I 1121竪穴住居跡平・断面図

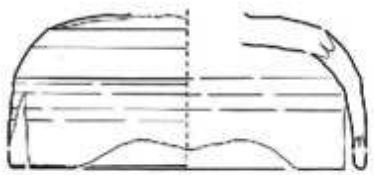
第33表　住居跡ピット観察表　(単位：cm)

	P 1	P 2	P 3	P 4
平面形	不整楕円形	楕円形	隅丸方形	楕円形
規模	80×70	80×70	55×50	60×62
深さ	55	55	72	60
堆積土				10YR 6/1 褐灰色シルト質粘土など



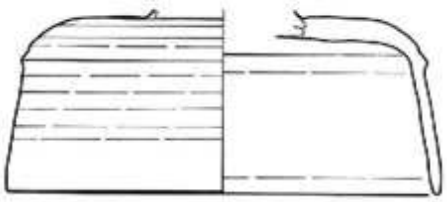
番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	残存	備考	写真図版
1	C−66	土師器	坏	SI−1121	堆積土	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			2.8	8.6	7.5	1/2	坏AⅠ2a	120−1
2	C−67	土師器	坏	SI−1121	床 面	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			3.5	13.9	11.6	1/6	坏AⅢ1a	120−7
3	C−12	土師器	坏	SI−1121	堆積土	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			5.2	13.4	—	3/4	内面底部に渦付暗AⅡ2a	120−6
4	C−64	土師器	坏	SI−1121	床 面	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			2.9	13.2	11.4	ほぼ完形	内面に「X」線有り、AⅢ2	120−4
5	C−63	土師器	坏	SI−1121	床 面	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			5.6	15.9	8.8	完形	坏AⅡ3	121−2
6	C−65	土師器	坏	SI−1121	床 面	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			9.5	16.8	7.6	ほぼ完形	椀A2	121−3
7	C−60	土師器	高坏	SI−1121	覆 土	—	脚柱部 ヘラケズリ	脚裾部 ヨコナデ	脚柱部 ヘラケズリ	坏底部 ヘラミガキ→黒色処理		6.2以上	脚裾径 13.5		1/6	高坏Ⅰ	121−1
8	C−61	土師器	甕	SI−1121	カマド	—	不 明	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	12.8以上	—	8.4	1/3	甕Ⅲ	121−5

第136図　ＳＩ1121竪穴住居跡出土遺物（１）

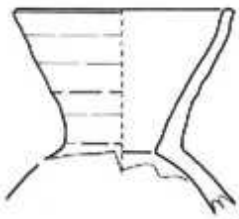


1

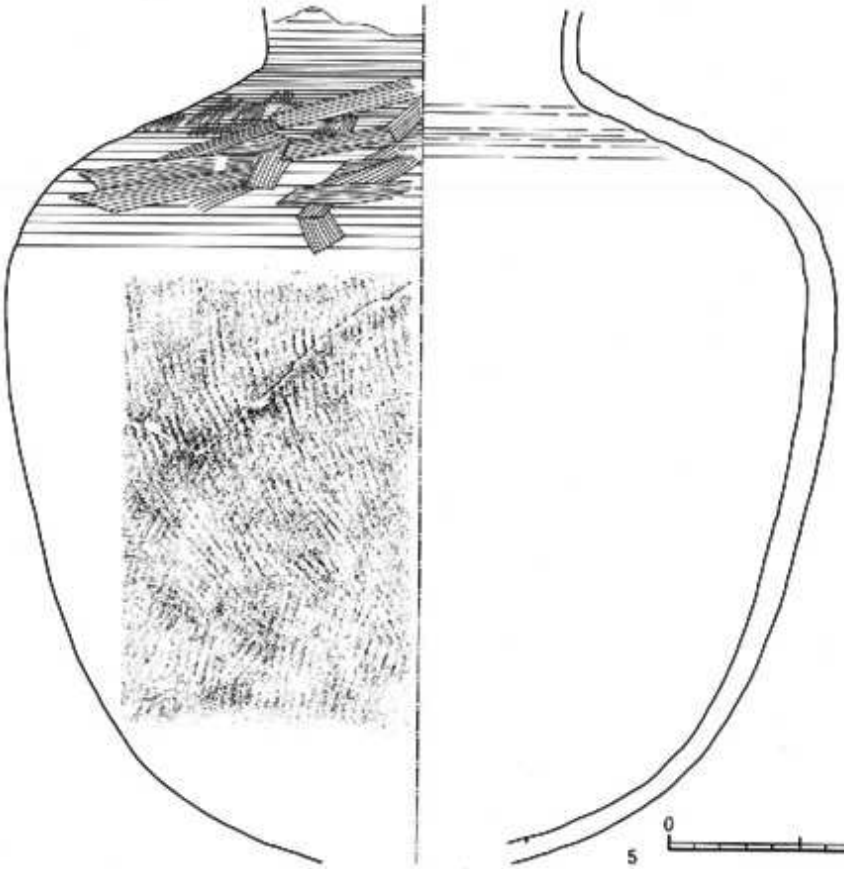
2



3



4

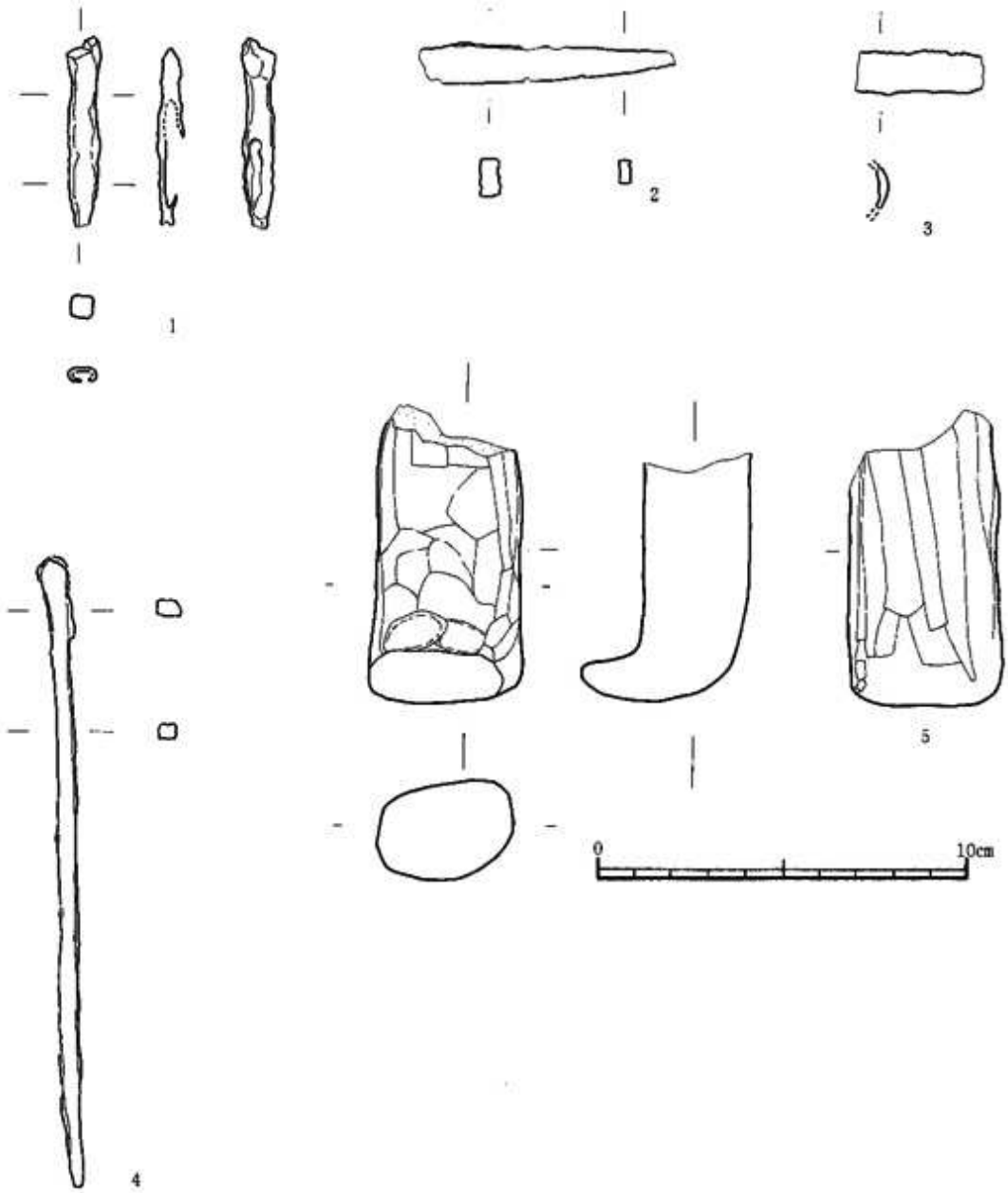


5

0 10cm

番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整			内面調整			法量(cm)			残存	備考	写真図版
						口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	器高	口径	底径			
1	E-52	須恵器	蓋	SI-1121	地山土	―	回転ヘラケズリ	端部ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	―	6.0以上	13.8		1/4以下		121-6
2	E-49	須恵器	蓋	SI-1121	床面	つまみ部ロクロナデ	回転ヘラケズリ	端部ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	―	5.5	13.4				122-4
3	E-51	須恵器	蓋	SI-1121	床面	―	回転ヘラケズリ	端部ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	―	7.1以上	16.8		1/5		122-7
4	E-4	須恵器	壺	SI-1121	地山土	ロクロナデ	―	―	不明	―	―	7.9以上	8.4		1/3	内面漆紙	121-4
5	E-50	須恵器	壺	SI-1121	床面	ロクロナデ	ロクロナデ→ヘラナデ	ロクロナデ→ヘラナデ	―	ロクロナデ	―	33.1以上	―	(9.0)			123-1

第137図　S I 1121竪穴住居跡出土遺物（2）



図版番号	登録番号	種別	出土地点			法量(cm)			備考	写真図版
			地区	遺構	層位	長さ	幅	厚さ		
1	N－7	金属製品	II区	SI-1121	12	5.2	0.7	0.6	周溝内	122－3
2	N－4	刀子	H区	SI-1121	床面	6.8	1.1	0.5		122－1
3	N－69	金属製品	H区	SI-1121	床面	3.4	1.1	0.3		122－2
4	N－3	鉄鏃	H区	SI-1121	床面	17.2	0.7	0.5		122－5
5	P－18	土製品	H区	SI-1121	P	8	3.7	2.7	脚か	122－6

第138図　S I 1121竪穴住居跡出土遺物（3）

〔カマド〕　西壁やや南寄りに位置し、灰黄褐色、にぶい黄褐色粘土質シルトなどで貼床構築後に作られている。焚口と燃焼部、煙道が残っている。両袖の先端幅は80cm、奥行は90cmで、底面には60×40cm、深さ5cm程のピットがある。また天井部はこのピットを囲むように径10～20cmの礫が配されている。

〔出土遺物〕　住居跡床面からは土師器C－67坏（第136図2）、C－64坏（第136図4）、C－63坏（第136図5）、C－65坏（第136図6）、須恵器E－49蓋（第137図2）、E－51蓋（第137図3）、E－50甕（第137図5）、鉄製品N－4刀子片（第138図2）、N－69不明品（第138図3）、N－3鉄鏃（第138図4）、K－3紡垂車（写真図版156－5）が出土している。またカマド内から土師器C－61甕（第136図8）、南袖の構築土中から土師器C－60高坏（第136図7）、周溝内から鉄製品N－7不明品（第138図1）が出土している。Pitからは土製品P－18不明品（第136図6）が出土している。

その他堆積土中から土師器C－66坏（第136図1）、C－12坏（第136図3）、須恵器E－52蓋（第137図1）、E－4壺（第137図4）、土師器坏、高坏、甕片、須恵器坏、甕、壺片が多量に出土している。このうち土師器C－12坏と須恵器E－4壺は内面に漆が付着している。

SI1200竪穴住居跡

〔調査区〕　N区　　〔検出面〕　Ⅳ層

〔重複〕　SD345、SD1164に切られている。

〔規模・平面形〕　南北4.0m、東西1.8m以上、平面形は不明である。

〔方向〕　西壁でN－7°－Wであったと推定される。

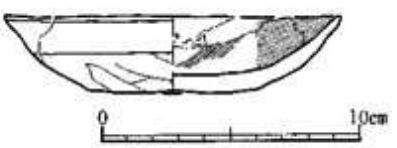
〔堆積土〕　4層に大別されるが、貼床上面では2層である。黒褐色、暗褐色、灰黄褐色シルトなどである。炭化物、焼土を含んでいる層が多い。

〔壁〕　現存する壁高は20～24cmで、直線的あるいは段を有しながらゆるやかに立ち上がっている。

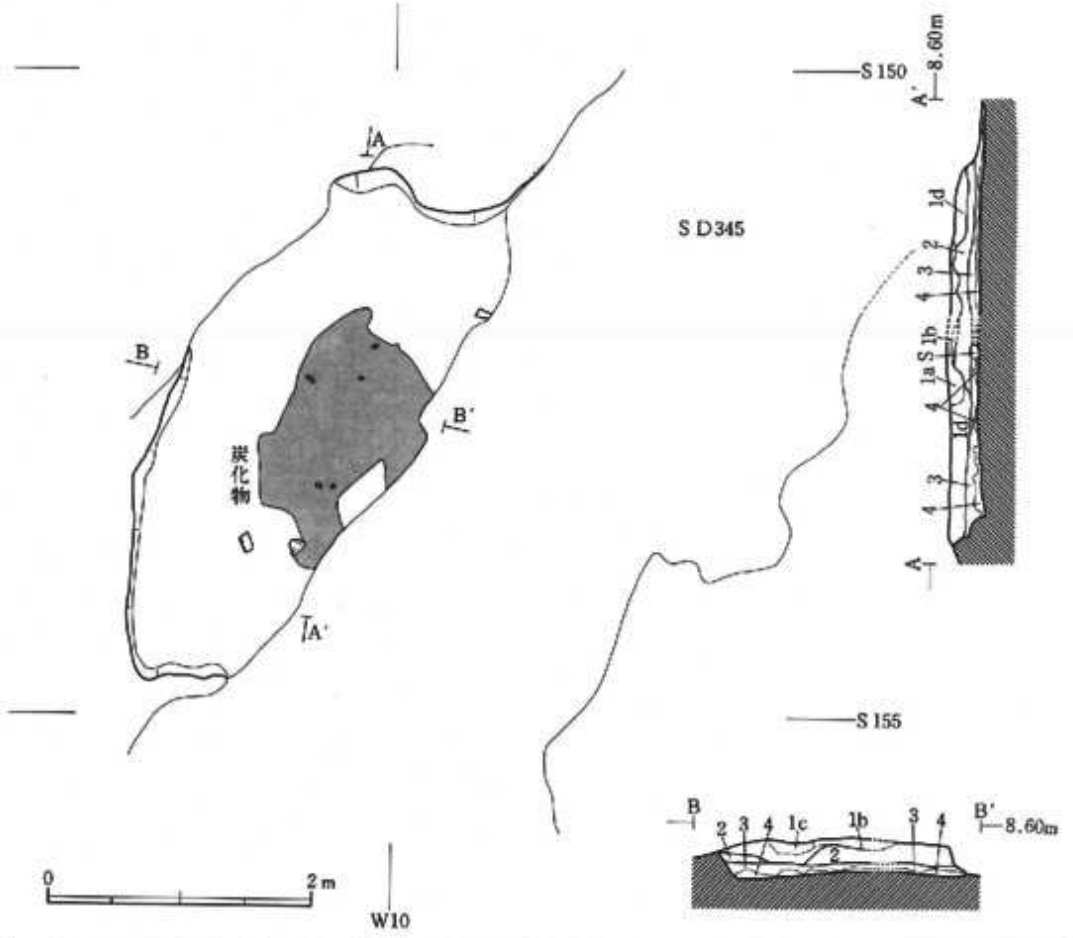
〔床面〕　暗褐色シルトにより貼床を構築し、ほぼ平坦である。床面上には炭化物が集中し堆積している箇所がある。

〔出土遺物〕　床面上より土師器C－116坏（第139図）が出土し、堆積土中からは土師器坏、須恵器蓋、甕片、また掘り方底面より瓦片が出土している。

登録番号	種別	器形	出土遺構	外面調整			内面調整			法量(cm)			残存	備考
				口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	器高	口径	底径		
C 116	土師器	坏	SI1200	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			3.0	13.2	6.8	1/6	A 層1



第139図　SI1200竪穴住居跡出土遺物



層位	土　色	土　性	備　考	層位	土　色	土　性	備　考
1a	10YR 2/2 黒褐色	シルト	炭化物少量	2	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物、焼土微量
1b	10YR 3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量	3	10YR 3/3 暗褐色	シルト	粘質、上面に炭化物多量
1c	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト		4	10YR 5/4 にぶい黄褐色	シルト	炭化物微量
1d	10YR 3/2 黒褐色	シルト質粘土	炭化物微量				

第140図　S I 1200竪穴住居跡平・断面図

S I 1303竪穴住居跡

〔調査区〕　N区　　〔検出面〕　IV層

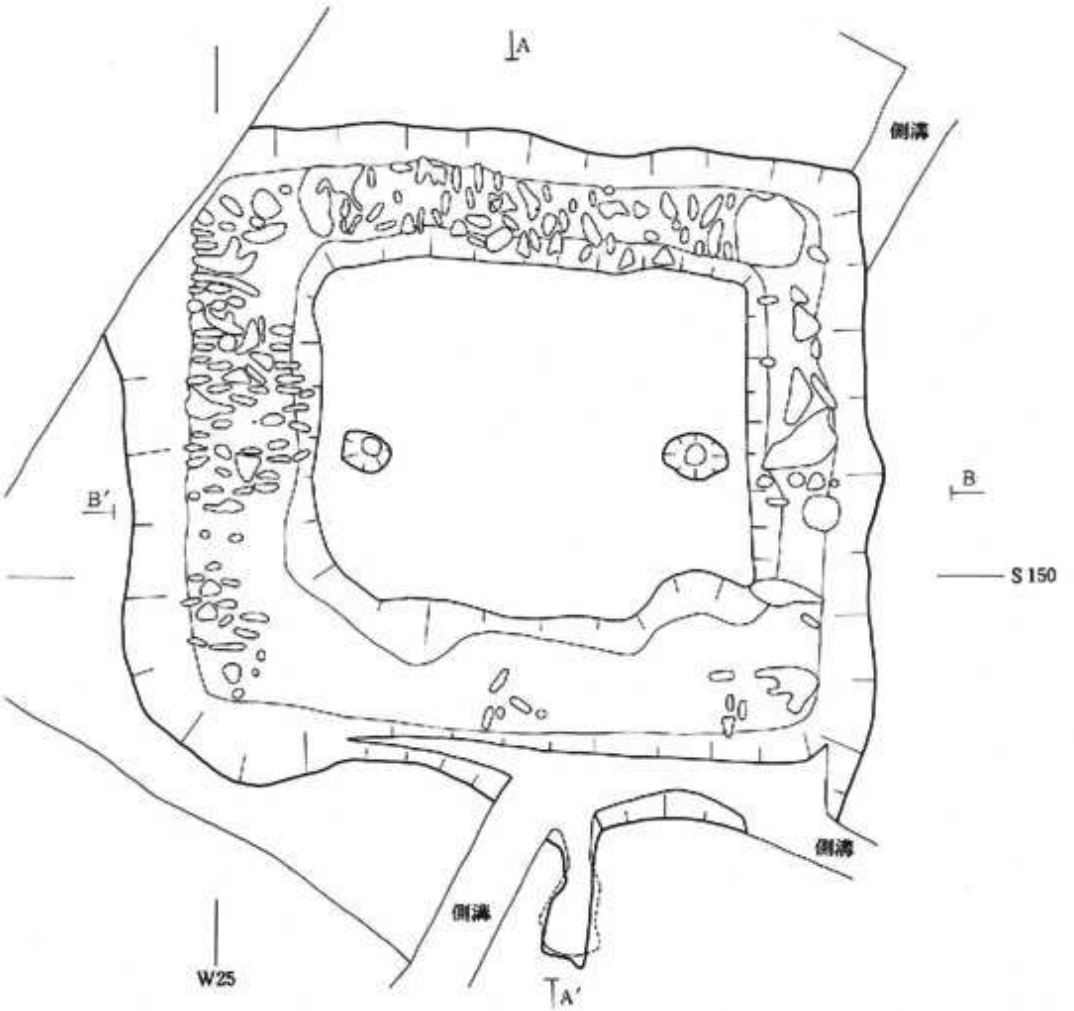
〔残存・重複〕　北西角の部分がO区にまたがる。調査区内に設定した排水用側溝が遺構上面をT字形に切っている。他の遺構との重複はなかった。

〔規模・平面形〕　東西5.2m、南北5.1mの隅丸方形である。

〔方向〕　東辺はN－5°－E、北辺はE－3°－Nである。

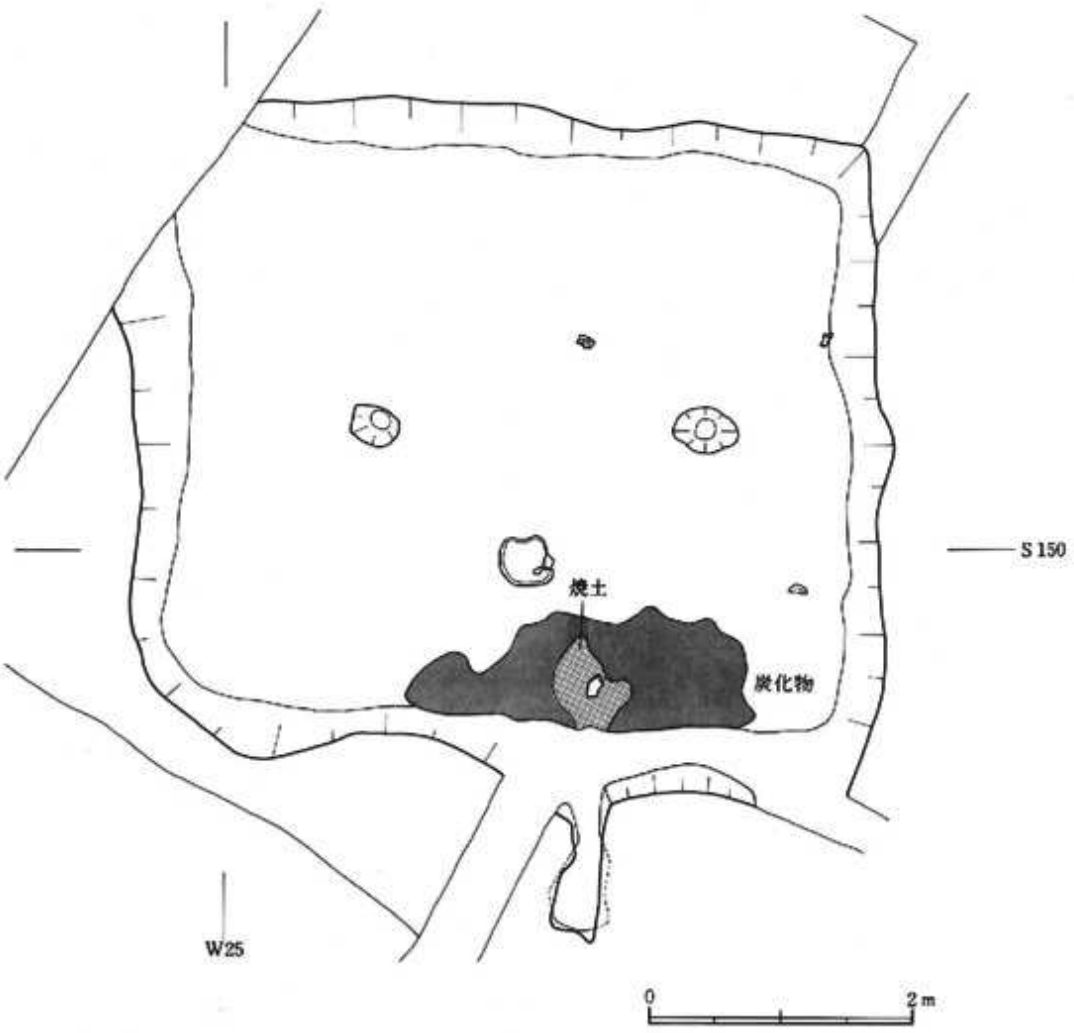
〔堆積土〕　3層に大別でき、上層は灰白色火山灰を含む黒褐色粘土質シルト、中層は焼土・炭化物を多量に含む暗褐色系シルト質粘土、下層は黄褐色系シルト質粘土である。

〔壁〕　直立気味に立ち上がり、床面までの深さは40cmほどである。



層位	土色	土性	備考
1	10YR 3/2 黒褐色	シルト	火山灰を含む。
2	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物を多量に含む。 火山灰を多く含む。
3	10YR 3/2 黒褐色	シルト質粘土	炭化物と焼土を多量に含む。
4	10YR 3/3 暗褐色	シルト質粘土	炭化物と焼土を微量に含む。
5	10YR 4/4 褐色	シルト	
6	10YR 2/3 黒褐色	シルト質粘土	炭化物を少量含む。
7a	10YR 5/4 にぶい黄褐色	シルト質粘土	炭化物を少量含む。
7b	10YR 5/2 灰黄褐色	シルト質粘土	炭化物を微量に含む。
7c	10YR 5/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土	炭化物を微量に含む。
7d	10YR 6/2 灰黄褐色	シルト質粘土	

第141図　S I 1303竪穴住居跡平・断面図



第142図　ＳＩ1303竪穴住居跡平面図（床面）

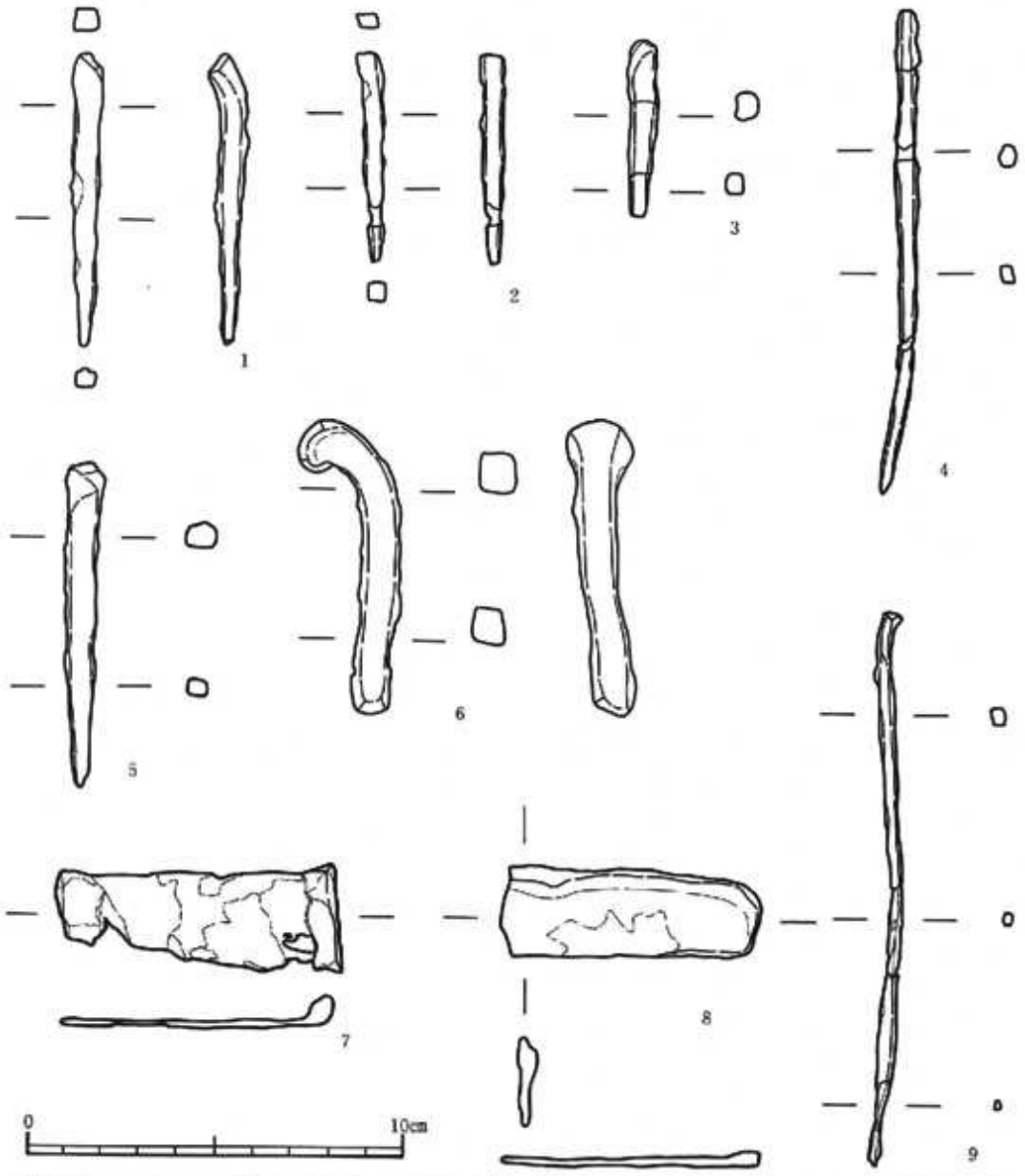
〔床面〕 厚さ３～５cmのにぶい黄褐色シルト質粘土などの貼床で、平坦である。住居の四周、掘り方の底面に鋤によると推定される。幅４～６cm、長さ10～20cmの工具痕跡を多数検出した。

〔柱穴〕 直径30～50cm、深さ50～60cmの円形の主柱穴２個を検出した。柱間隔は2.5m ほどである。柱痕跡は確認できなかった。堆積土は暗褐色ないし褐色粘土質シルトである。

〔カマド〕 南辺東寄りに付けられている。煙道は幅25～35cm、長さ160cmである。カマド前面部の床面には、カマドからの掻き出しとみられる焼土・炭化物層の広がりがみられる。

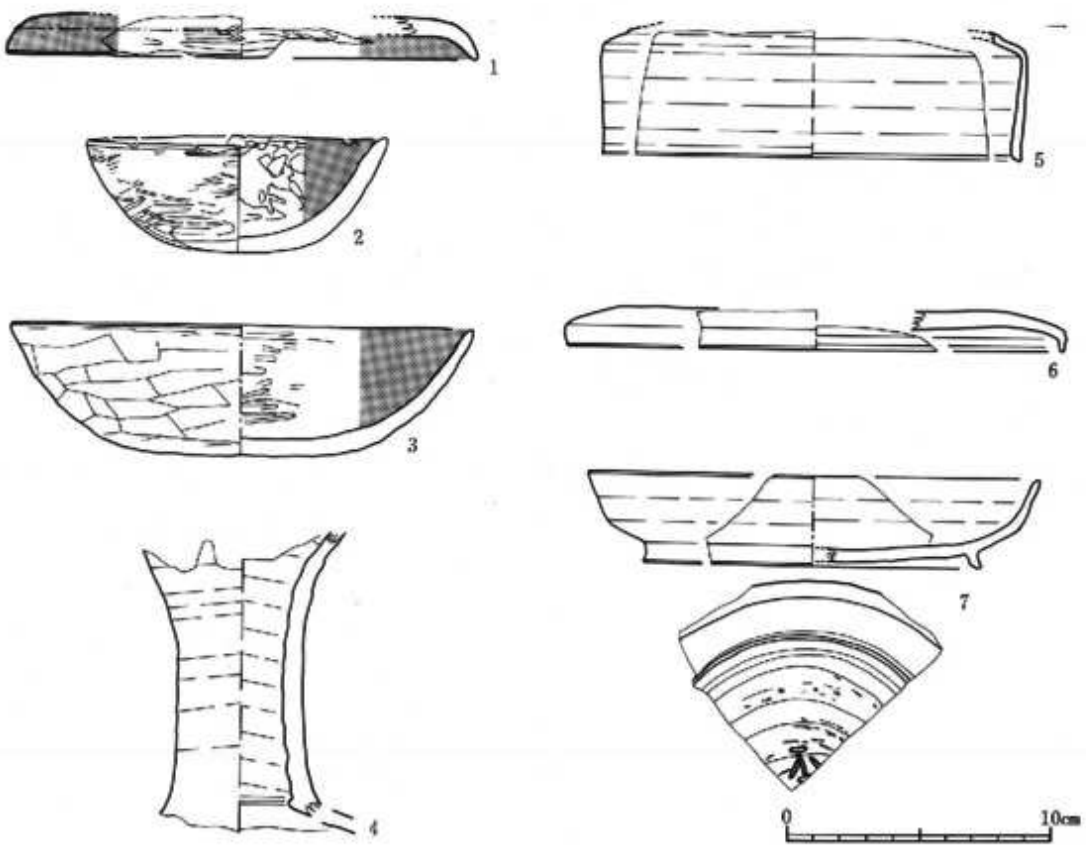
〔周溝〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 堆積土中から、土師器Ｃ－114・115坏（第144図２・３）、土師器Ｃ－118蓋（第144図１）、土師器Ｃ－119甕、底部に「金」もしくは「平」とヘラ描きされた須恵器Ｅ－84高台付坏（第144図７）、口縁部から直立気味に天井部まで立ち上がる須恵器Ｅ－83蓋（第144図



図版番号	遺物番号	出土地点			種別・器形	法量・特徴	写真図版
		地区	遺構	層位			
1	N—65①	N区	SI-1303	2層	鉄製品 釘	長さ8cm以上、幅～0.9cm、厚さ～0.9cm	124—5
2	N—65②	N区	SI-1303	2層	鉄製品 釘	長さ5.6cm以上、幅～0.7cm、厚さ～0.7cm	124—5
3	N—65③	N区	SI-1303	2層	鉄製品 釘	長さ4.8cm以上、幅～0.7cm、厚さ0.4～0.7cm	124—5
4	N—64	N区	SI-1303	2層	鉄製品 鉄鏃	長さ13.0cm、幅0.3～0.6cm、厚さ0.3～0.5cm	124—2
5	N—62	N区	SI-1303	2層	鉄製品 釘	長さ8.8cm、幅0.5～1.1cm、厚さ0.5～0.8cm	124—3
6	N—58	N区	SI-1303	2層	鉄製品 釘	長さ8.0cm、幅0.8～1.8cm、厚さ0.8～0.9cm	124—4
7	N—59	N区	SI-1303	2層	金属製品 不明	たて1.8～2.8cm、よこ7.4cm	124—5
8	N—61	N区	SI-1303	2層	金属製品 不明	たて2.0～2.4cm、よこ6.8cm	123—6
9	N—63	N区	SI-1303	2層	金属製品 鉄鏃	長さ14.8cm、幅0.2～0.5cm、厚さ0.2～0.4cm	124—1

第143図　SI1303竪穴住居跡出土遺物（1）



番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整			内面調整			法量(cm)			残存	備考	写真図版
						口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	器高	口径	底径			
1	C-118	土師器	鉢	SI1303	4層	—	底部 ヘラミガキ→黒色処理		—	底部 ヘラミガキ→黒色処理		1.6以上	18.0	—	1/8		—
2	C-114	土師器	坏	SI1303	4層	ヘラケズリ→ヘラミガキ			ヘラミガキ→黒色処理			4.5	11.5	5.5	楕円気味	坏A皿1	123-3
3	C-115	土師器	坏	SI1303	4層	ヘラミガキ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	5.0	17.7	8.9	1/2	坏A皿1	123-2
4	E-86	須恵器	長頸壺	SI1303	9層上面	—	口縁部 ロクロナデ	—	—	口縁部 ロクロナデ	—	11.5以上	—	—	口縁部の1/3		123-4
5	E-83	須恵器	蓋	SI1303	4層	—	ロクロナデ	摘部 ロクロナデ	—	ロクロナデ	端部 ロクロナデ	4.8以上	16.0	—	1/5	蓋E2	—
6	E-87	須恵器	蓋	SI1303	2,4層	—	回転 ヘラケズリ	端部 ロクロナデ	—	ロクロナデ	天部 ロクロナデ	1.5以上	19.0	—	1/5	蓋E1b	—
7	E-84	須恵器	高台付坏	SI1303	2層	ロクロナデ	ロクロナデ	回転 ヘラケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	3.5	12.2	12.8	1/4	高台付坏E	—

第144図　ＳＩ1303竪穴住居跡出土遺物（２）

５）、口縁部に返りのない須恵器Ｅ－87蓋（第144図６）、Ｅ－86･88須恵器長頸壺、ＳＢ1320掘立柱建物跡抜取り穴出土遺物と接合した須恵器Ｅ－94甕、Ｎ－52・53・54・58・60・62・65角釘、Ｎ－55・59・61刀子もしくは鎌と思われる板状の鉄製品、Ｎ－63・64鉄鏃の他、瓦、鉄滓、縄文土器などを出土している。またＳＢ1320建物跡の抜き取り穴より出土している須恵器Ｅ－94甕と同固体の破片が、６層中より一点出土している。

(3) 土　坑

ＳＫ943土坑

〔調査区〕　Ｄ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔検出状況〕　Ⅲ層の底面であるＳＸ934により上面が削平されている。

〔重複〕　ＳＸ934に切られている。

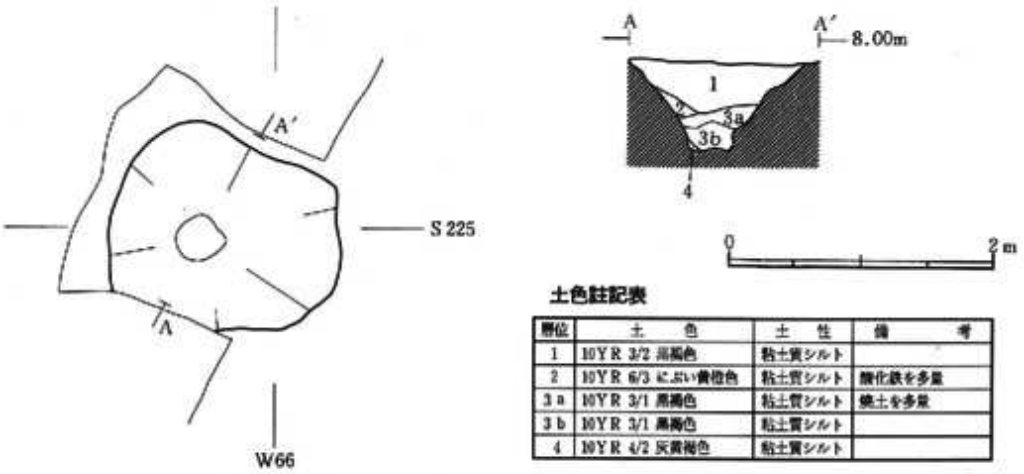
〔規模・平面形〕　長軸1.9m、短軸1.7m、深さ70cmで、隅丸方形と推定される。

〔堆積土〕　４層に大別され、黒褐色粘土質シルトなどである。

〔壁〕　ゆるやかではあるが直線的に立ち上がっている。

〔底面〕　ほぼ平坦である。

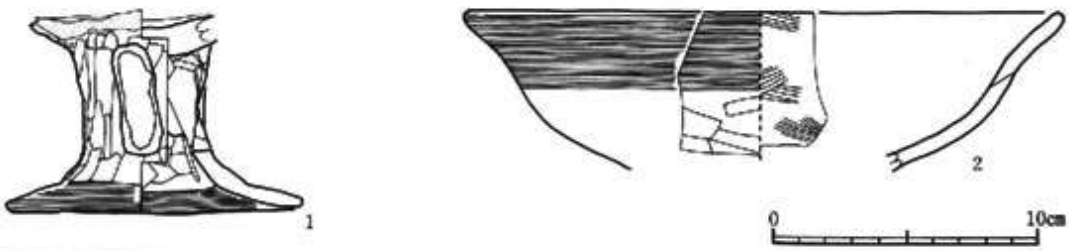
〔出土遺物〕　堆積土中から土師器Ｃ－87坏（第146図２）、底面付近から土師器Ｃ－17高坏（第146図１）が出土し、その他堆積土中から少量の土師器坏、甕片、須恵器坏、甕片が出土している。



土色註記表

層位	土　色	土　性	備　考
1	10YR 3/2 黒褐色	粘土質シルト	
2	10YR 6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	酸化鉄を多量
3a	10YR 3/1 黒褐色	粘土質シルト	焼土を多量
3b	10YR 3/1 黒褐色	粘土質シルト	
4	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	

第145図　ＳＫ943土坑平・断面図



番号	整理番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	残存	備考	写真図版
1	C-17	土師器	高坏	SK 943	底 面	—	脚上部 ヘラケズリ	脚裾部 ヨコナデ	坏部ヘラミガキ →黒色処理	脚柱部ヘラケズリ →ヘラナデ	脚裾部 ヨコナデ	7.8以上	—	11.5	(脚部)完形	基坏Ⅰ 透孔3ヶ所有	126－6
2	C-87	土師器	坏	SK 943	堆積土	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヘラミガキ→黒色処理		—	6.2以上	20.9	—	1/4	坏AⅡ3	—

第146図　ＳＫ943土坑出土遺物

ＳＫ953土坑

〔調査区〕　Ｄ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

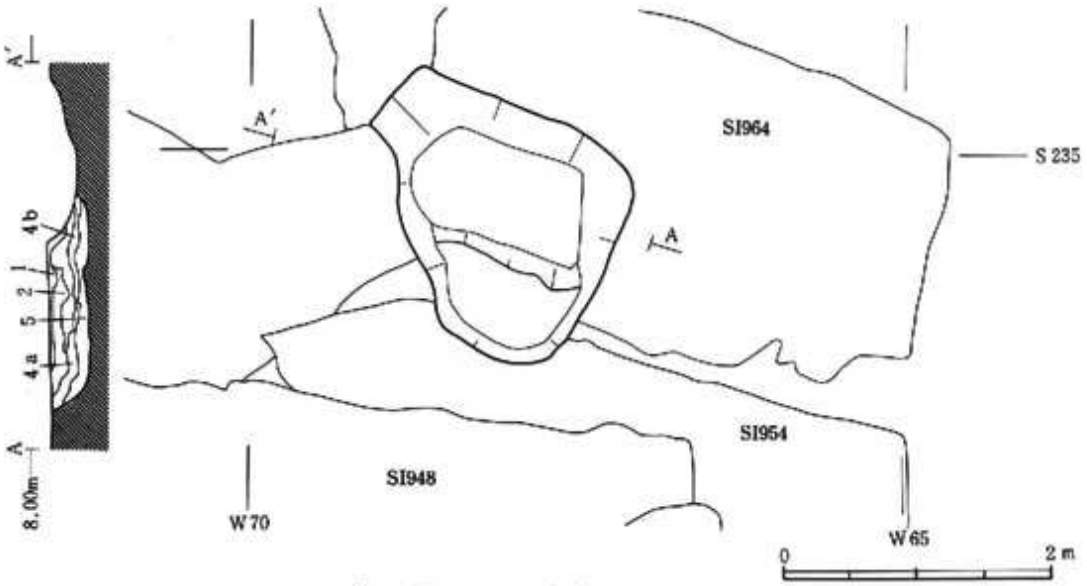
〔検出状況〕　Ⅲ層の底面であるＳＸ934により上面が削平されている。

〔重複〕　ＳＩ954、ＳＩ964、ＳＩ965を切り、ＳＸ934に切られている。

〔規模・平面形〕　長軸2.15m、短軸1.83m、深さ34cm程で、不整形である。

〔堆積土〕　５層に大別され、褐灰色シルト、黒褐色粘土質シルトなどである。

〔壁〕　ゆるやかに立ち上がるが、南半部では検出面から15cm程のところにテラス状の平場が



第147図　ＳＫ953土坑平・断面図

層位	土色	土性	備考
1	10YR 4/1 褐灰色	シルト	炭化物を少量
2	10YR 4/1 褐灰色	シルト	黄褐色土、炭化物、焼土粒
3	10YR 5/1 褐灰色	粘土質シルト	炭化物を少量
4a	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物、焼土粒
4b	10YR 4/1 褐灰色	粘土質シルト	炭化物、焼土粒を少量
5	10YR 3/1 黒褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土、炭化物

存在する。

〔底面〕　ほぼ平坦である。

〔出土遺物〕　多量の土師器坏、高坏、甕片と、須恵器蓋片を１点出土している。

ＳＫ1128土坑

〔調査区〕　Ｇ区　　〔検出面〕　Ⅳｋ層

〔重複〕　ＳＢ1130ｂＮ１Ｅ１を切っている。

〔規模・平面形〕　長軸140cm、短軸104cm、深さ19cmで、不整形である。

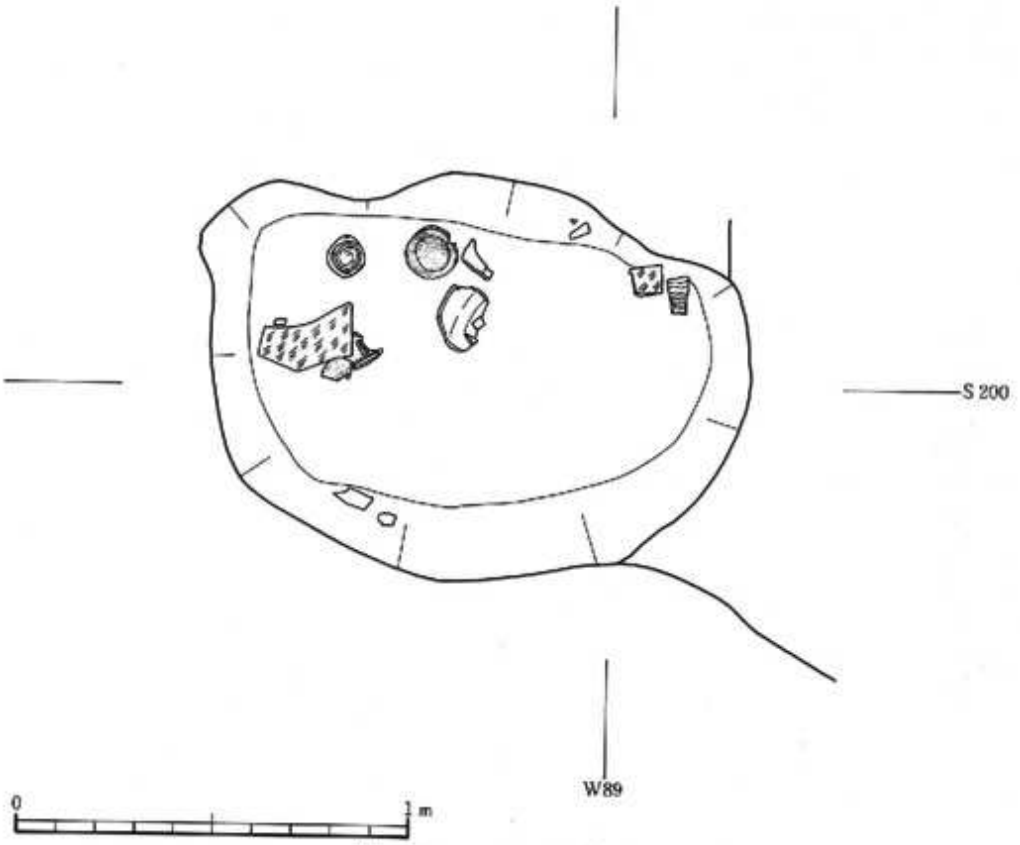
〔堆積土〕　褐色粘土質シルトで、焼土粒を含んでいる。

〔壁〕　ゆるやかではあるが直線的に立ち上がっている。

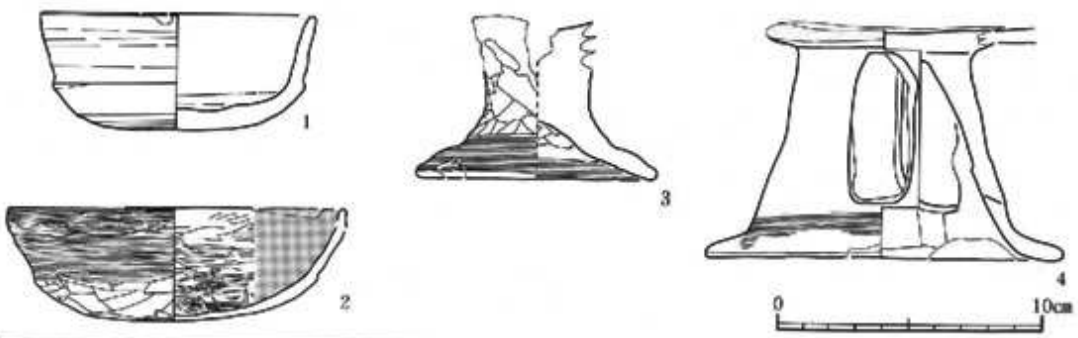
〔底面〕　ほぼ平坦である。

〔出土遺物〕　堆積土中から土師器Ｃ－10坏（第149図２）、Ｃ－79高坏（第149図３）、Ｃ－11

高坏（第149図４）、須恵器坏（第149図１）が出土し、その他少量の土師器坏、高坏、甕片が出土している。



第148図　ＳＫ1128土坑平面図



番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 器高	口径	底径	残存	備考	写真図版
1	E-2	須恵器	坏	SK-1128		ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	4.5	10.5	9.7		坏Ⅰ３	126-3
2	C-10	土師器	坏	SK-1128		ヨコナデ →部ヘラミガキ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理			4.3	13.1	10.9	3/4完形	坏ＡⅠ２ｃ	126-1
3	C-79	土師器	高坏	SK-1128		―	脚柱部ヨコナデ →ヘラケズリ	脚裾部ヨコナデ	坏部ヘラミガキ →黒色処理	―	脚部ヨコナデ →ヘラケズリ	8.3 以上		9.4	脚部のみ 1/2	高坏脚	126-2
4	C-11	土師器	高坏	SK-1128		―	脚部ヘラケズリ	脚裾部ヨコナデ	坏部ヘラミガキ →黒色処理	―	脚部 ヘラケズリ	8.8 以上	―	13.8	2/3	透孔は３ヶ所有 高坏Ⅱ	126-4

第149図　ＳＫ1128土坑出土遺物

ＳＫ1145土坑（第158図参照）

〔調査区〕　Ｇ区　　〔検出面〕　Ⅳｋ層

〔重複〕　認められない。

〔規模・平面形〕　東西72cm、南北72cm、深さ35cmで、隅丸方形である。

〔堆積土〕　２層に分けられ、灰黄褐色シルトなどである。

〔壁〕　ゆるやかに立ち上る。

〔底面〕　一部へこんでいる。

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。

ＳＫ1146土坑（第158図参照）

〔調査区〕　Ｇ区　　〔検出面〕　Ⅳｋ層

〔重複〕　認められない。

〔規模・平面形〕　東西86cm、南北82cm、深さ29cm、ほぼ円形である。

〔堆積土〕　２層に分けられ、灰黄褐色シルト質粘土、粘土である。

〔壁〕　ゆるやかに立ち上る。

〔底面〕　中央部がへこんでいる。

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。

ＳＫ1149土坑（第162図参照）

〔調査区〕　Ｇ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔検出状況〕　旧農業用水路により西側の一部が削平されている。

〔重複〕　認められない。

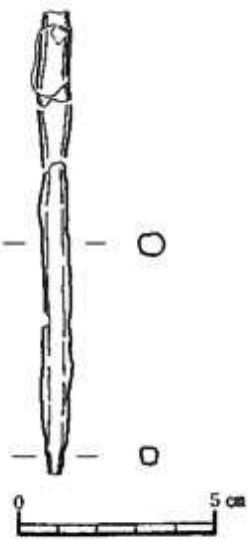
〔規模・平面形〕　長軸1.28m以上、短軸1.0m、深さ28cmで、ほぼ長方形である。

〔堆積土〕　黒褐色シルト質粘土で、炭化物、焼土を少量含んでいる。

〔壁〕　ゆるやかではあるが直線的に立ち上がっている。

〔底面〕　すり鉢状に中央がへこんでいる。

〔出土遺物〕　堆積土中から金属器Ｎ－５鉄鏃片（第150図）が出土し、その他土師器坏、甕片、須恵器坏、甕、蓋片が少量出土している。



図版番号	登録番号	出土地点			種別・形態	法量・特徴	写真図版
		地区	遺構	層位			
1	N－5	G区	ＳＫ1149	堆積土中	鉄製品 鉄鏃	長さ10.4cm以上、厚0.4～0.8cm	124－8

第150図　ＳＫ1149土坑出土遺物

ＳＫ1169土坑（第162図参照）

〔調査区〕　Ｇ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔重複〕　認められない。

〔規模・平面形〕　東西80cm、南北90cm、深さ17cmで、隅丸の不整形である。

〔壁〕　垂直気味に立ち上る。

〔底面〕　ほぼ平坦である。

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。

ＳＫ1160土坑

〔調査区〕　Ｇ区　　〔検出面〕　Ⅳｋ層

〔検出状況〕　調査区内で検出したのは一部であり、調査区北壁の土層の観察からさらに東西に延びていることが推定される。断面の形状から住居跡、あるいは溝跡になる可能性もある。

〔重複〕　調査区北壁断面の検討から、ＳＢ1154Ｗ３、ＳＤ1118を切っている。

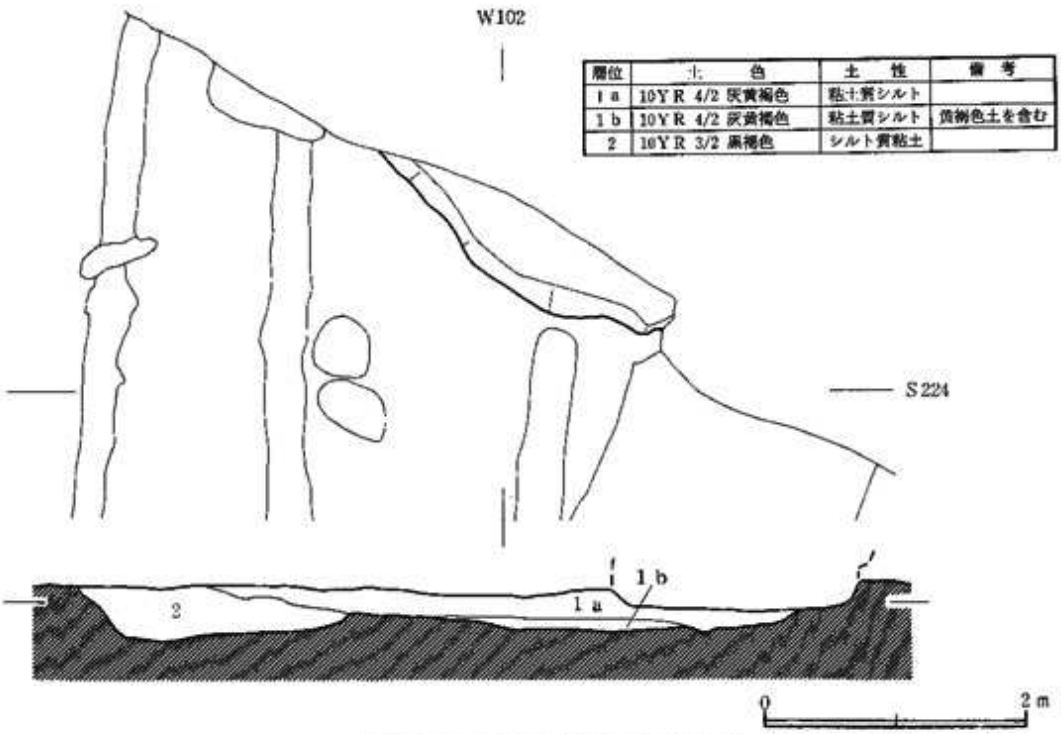
〔規模・平面形〕　東西2.6m以上、南北0.6m以上、深さ19～24cmで、平面形は不明である。

〔堆積土〕　２層に大別され、灰黄褐色粘土質シルト、黒褐色シルト質粘土である。

〔壁〕　ゆるやかに立ち上がっている。

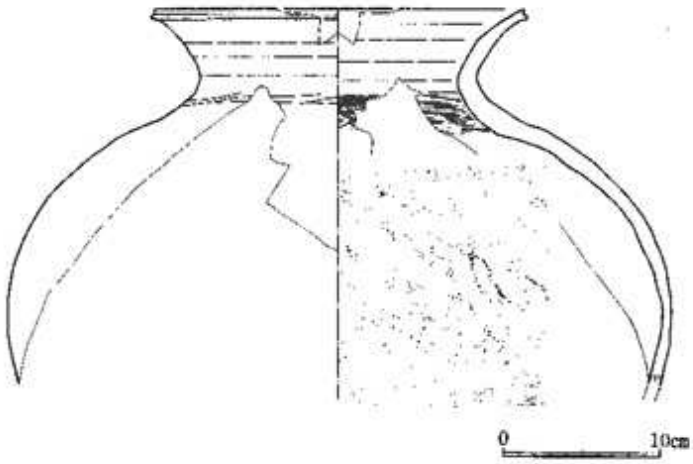
〔底面〕　西側がやや落ち込み、それ以外もやや凹凸がある。

〔出土遺物〕　堆積土中から須恵器Ｅ－61甕（第152図）が出土し、その他少量の土師器坏、甕片、須恵器坏、高台付坏、蓋、甕片、また骨片が出土している。



層位	土色	土性	備考
1a	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	
1b	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	焼粒色土を含む
2	10YR 3/2 黒褐色	シルト質粘土	

第151図　ＳＫ1160土坑平・断面図



登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整			内面調整			法量(cm)			残存	備考	写真図版
					口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	器高	口径	底径			
E-61	須恵器	壺	SK-1160	地検土	ロクロナデ	平行叩き目	—	ロクロナデ	平行叩き目	—	25.2以上	23.8	—	(口縁部の)1/2	壺1-1	124-7

第152図　SK1160土坑出土遺物

SK1339土坑

〔調査区〕　O区　　〔検出面〕　IVc層

〔検出状況〕　やや黒褐色を帯びたIVb層を除去したIVc層上面で検出した。

〔重複〕　他の遺溝との重複はなかった。

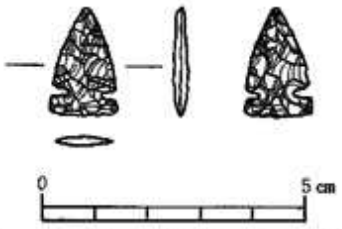
〔規模・平面形〕　長軸155cm、短軸125cm、深さ30cmで、ほぼ円形である。

〔堆積土〕　灰黄褐色・にぶい黄褐色・黒褐色の粘土質シルト3層に分かれる。

〔壁〕　緩やかに立ち上がる。

〔底面〕　平坦である。

〔出土遺物〕　堆積土2層中より、石器K-177式石鏃を出土した。



図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点		
				地区	遺構	層位
1	K-177	石鏃	鉱石質	O区	SK1339	2

法量				備考
長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
2.0	1.3	0.15	0.50	チャート

SK1339土坑出土遺物

SK1340土坑

〔調査区〕　O区　　〔検出面〕　IVc層

〔検出状況〕　IVb層を除去したIVc層上面で検出した。

〔重複〕　他の遺構との重複はなかった。

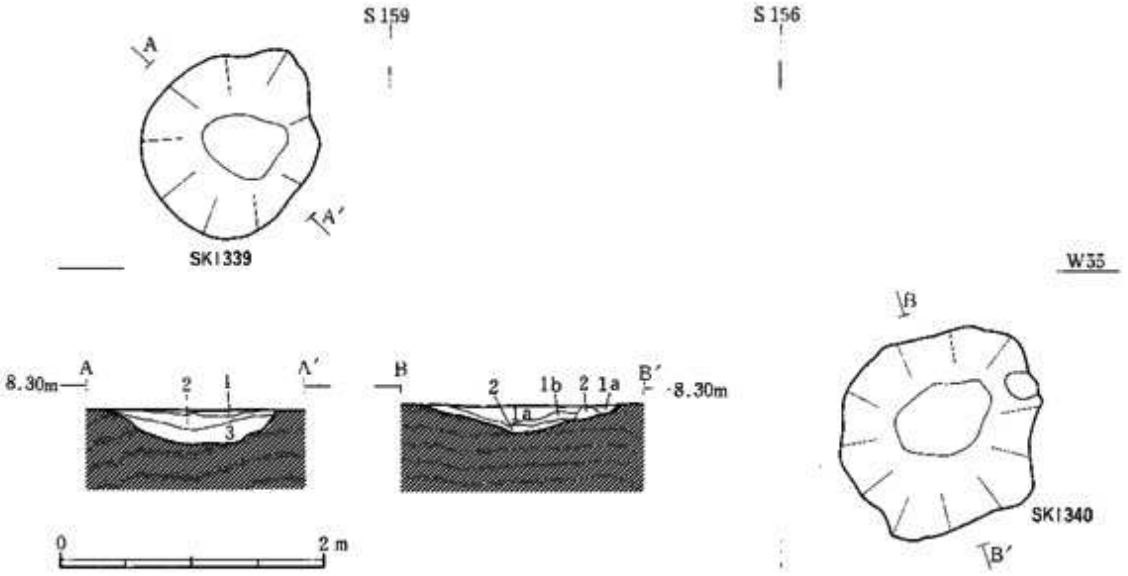
〔規模・平面形〕　長軸180cm、短軸145cm、深さ20cmで、ほぼ円形である。

〔堆積土〕　2層に分かれ、にぶい黄褐色ないし灰黄褐色の粘土質シルトである。

〔壁〕　緩やかに立ち上がる。

〔底面〕　やや凹凸がある。

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。



S K 1339

層位	土　色	土　性	備　考
1	10YR 4/2 灰褐色	粘土質シルト	
2	10YR 4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	
3	10YR 3/2 黒褐色	粘土質シルト	

S K 1340

層位	土　色	土　性	備　考
1a	10YR 4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物と火山灰(?)を微量に含む
1b	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	
2	10YR 4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	

第153図　S K 1339、S K 1340土坑平・断面図

34表　土坑観察表

SK	調査区	時期区	重複	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	深さ	堆積土 層	堆積土 土色・土性	備考	図版
906	B	IVa	P355を切る	円形？	55×27以上	13	2	10YR4/2灰黄褐色シルト質粘土など		112
908	B	IVa		楕円形	77×60	52	3	10YR4/4褐色粘土など		112
909	B	IVa		楕円形	255×225	75	4	10YR3/3暗褐色粘土など		112
912	B	IVa	SK913を切る	隅丸長方形？	85以上×50	30	3	10YR2/3黒褐色粘土質シルトなど	炭化物多量	112
913	B	IVa	SK912に切られる	不明	60以上	15	1	10YR2/3黒褐色粘土質シルト		112
935	D	IVa	SX934に切られる	不整形	152×126	65	3	10YR3/2黒褐色粘土など		192
936	E	IVa		楕円形	145×145	27	5	10YR4/2灰黄褐色シルト質粘土など	酸化鉄多量	39
937	E	IVa		楕円形	150×110	30	3	10YR3/2灰黄褐色粘土など	酸化鉄多量	39
938	E	IVa	SK945を切る	楕円形	130×95	41	3	10YR3/3にぶい黄褐色粘土など	酸化鉄多量	39
942	E	IVa		楕円形	125×115	35	1	10YR3/3にぶい黄褐色粘土		39
944	E	IVa		楕円形	60×60	13.5	1	10YR3/3暗褐色シルト質粘土		39
945	E	IVa	SK938に切られる	不明	100以上×100	35	1	10YR3/4暗褐色シルト質粘土		39
957	C	IVa	SK931に切られる	不明	140×45以上	13	—			59
966	C	IVa	SI947P 3に切られる	不明	150×50以上	70	11	—		115
968	D	IVa	SX934に切られる	不整円形	175×66	8	1	10YR4/3にぶい黄褐色シルト質粘土		192
987	K	IVa		不整形	160以上×320	44	4	10YR3/2黒褐色シルトなど		156
995	C	IVa	SI947 P 2に切られる	不明	140以上	60	1	10YR3/2灰黄褐色粘土質シルト		115
997	C	IVa	SI947 P 1に切られる	不明	170以上×80		60	—		115
998	C	IVa	SI947 P 4に切られる	不整形	170×45	40	5	2.5Y 5/2暗灰黄色粘土など		115
1000	C	IVa	SI947 P 2に切られる	不明	50×45以上	40	3	10YR5/2灰黄褐色シルト質粘土		115
1122	I	IVa		不整楕円形	287×213	30	2	10YR4/3にぶい黄褐色粘土など		163
1124	G	IVk		円形	156×144	33	4	10YR4/2灰黄褐色シルト質粘土など		63
1135	G	IVk		不整形	130以上×70	30	2	10YR3/1黒褐色粘土質シルトなど		66
1151	I	IVa		不整形	430×236	18	2	10YR3/2黒褐色シルトなど		194
1136	G	IVk		不整形	74×48	70	1	10YR4/1褐灰色シルト質粘土など		66
1137	G	IVk	SK1138に切られる	不明	75以上×70	12	1	10YR4/1褐灰色シルト質粘土		66
1138	G	IVk	SK1137を切る	円形	100×100	21	1	2.5Y 黄灰色粘土質シルト		66
1150	G	IVk		楕円形	60×48	9	1	10YR3/1黒褐色シルト		66
1152	H	IVa		不明	80以上×30以上	6	1	10YR3/2黒褐色シルト質粘土	火山灰微量	193
1158	G	IVk		不明	100×80以上	30	2	10YR4/2灰黄褐色粘土など	酸化鉄多量	
1163	M	IVa	SD345を切る	楕円形？	106×60以上	20	1	10YR3/3暗褐色シルト質粘土		156
1171	G	IVa		円形	320×280	16	—			63
1172	G	IVk	SB1136N3E14に切られる	不整楕円形	56					66
1173	L	IVa		不明	120×36以上	36	—	—		136
1178	N	IV		不整形	130×67	16	2	10YR5/4にぶい黄褐色シルト質粘土など		94
1181	N	IV		不整形	56×33	25	3	10YR4/1褐色粘土質シルトなど	炭化物微量	配置図
1185	N	IV	SD920に切られる	不明	110以上×37以上	15.5	2	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトなど	陶器1－3杯	91
1192	N	IV		隅丸方形	75×62	28.5	3	10YR3/3暗褐色シルト	炭化物微量	配置図
1197	N	IV		楕円形	90×76	14	2	10YR4/3にぶい黄褐色シルト		配置図
1198	N	IV	P164に切られる	不明	70×30	16	1	10YR3/3暗褐色粘土質シルトなど		91
1199	N	IV	P163に切られる	隅丸長方形	120×65	17	1	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	炭面に凹凸あり	91
1201	N	IV	SD345に切られる	不整形	140×100	30	5	10YR3/1黒褐色シルトなど	炭化物微量	94
1202	N	IV	SD1164に切られる	楕円形？	110以上×38	12	2	10YR3/2灰黄褐色粘土質シルトなど	底面にやや凹凸あり	配置図
1204	N	IV		不整形	275以上×125	20～60	？		上層に炭化物、焼土に東側に延びる。	配置図
1207	N	IV	SB1306N3E1、SD1319を切っている。	長方形(溝状)	325以上×85	3～12	1	10YR3/2黒褐色シルト	長軸方向E-13°-S	91
1318	N	IV	SD345に切られる	不整楕円形	105×60	40	1	10YR5/2灰黄褐色粘土		91
1321	O	IV		不整形	265×140	15	2	10YR3/3暗褐色粘土質シルトなど		184
1326	O	IV	SD1322を切る	隅丸方形	118×85	13～20	2	10YR3/4暗褐色粘土など		184
1346	N	IV	SB1306N3E10を切る	不整形	250×140	3～10	1	—	炭化物・焼土多量SB1306N3E10の柱抜き取り穴の可能性もある。	94

(4) 溝　跡

ＳＤ984溝跡

〔調査区〕　K・L区　　〔検出面〕　Ⅳa層

〔重複〕　ＳＩ992を切り、ＳＤ1164、P91～97に切られている。

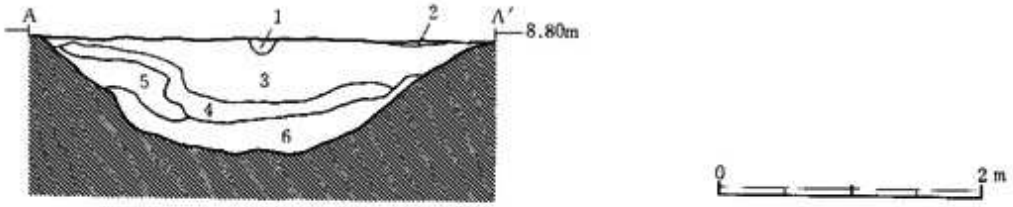
〔規模・平面形〕　長さ154m以上、上幅360cm、下幅100～170cm、深さ80～120cmで、E－0°－Sの東西方向に延びる溝跡である。

〔堆積土〕　6層に大別され、褐色粘土質シルト、灰黄褐色粘土などである。

〔壁・断面形〕　ゆるやかに立ち上がり、逆台形を呈する。

〔底面〕　ほぼ平坦であるが、東から西へ低く傾斜している。

〔出土遺物〕　堆積土中から土製品Ｐ－５土錘（第157図１）、瓦Ｆ－８丸瓦片（第157図２）、塊形鍾（第157図６・７）、金属器Ｎ－11、12不明品（第157図５）、18不明品（第157図３・４）、弥生土器Ｂ－38鉢（第155図１）、Ｂ－41（第155図２）が出土し、その他土師器坏、甕片、須恵器甕片が出土している。

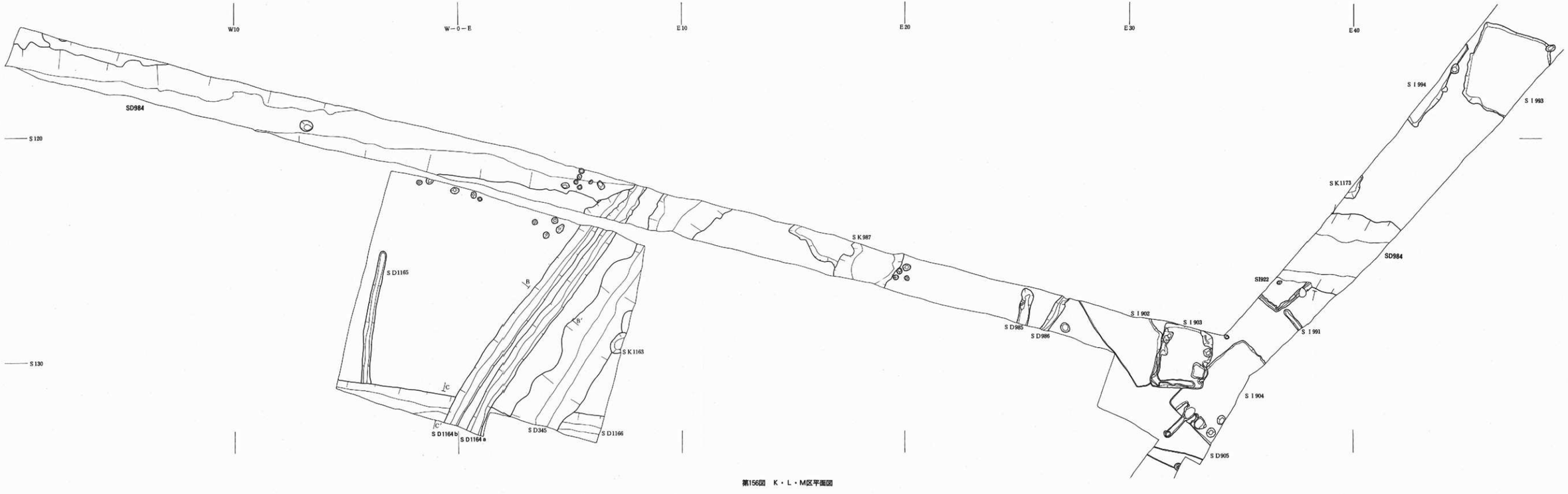


層位	土色	土性	備考
1	2.5YR 8/2 灰白色	火山灰	
2	10YR 4/1 褐灰色	粘土質シルト	
3	10YR 5/2 灰黄褐色など	粘土質シルト	粘土をブロック状に含む
4	10YR 4/2 灰黄褐色など	粘土質シルト	
5	10YR 4/6 褐色など	粘土質シルト	
6	10YR 4/2 灰黄褐色など	粘土	

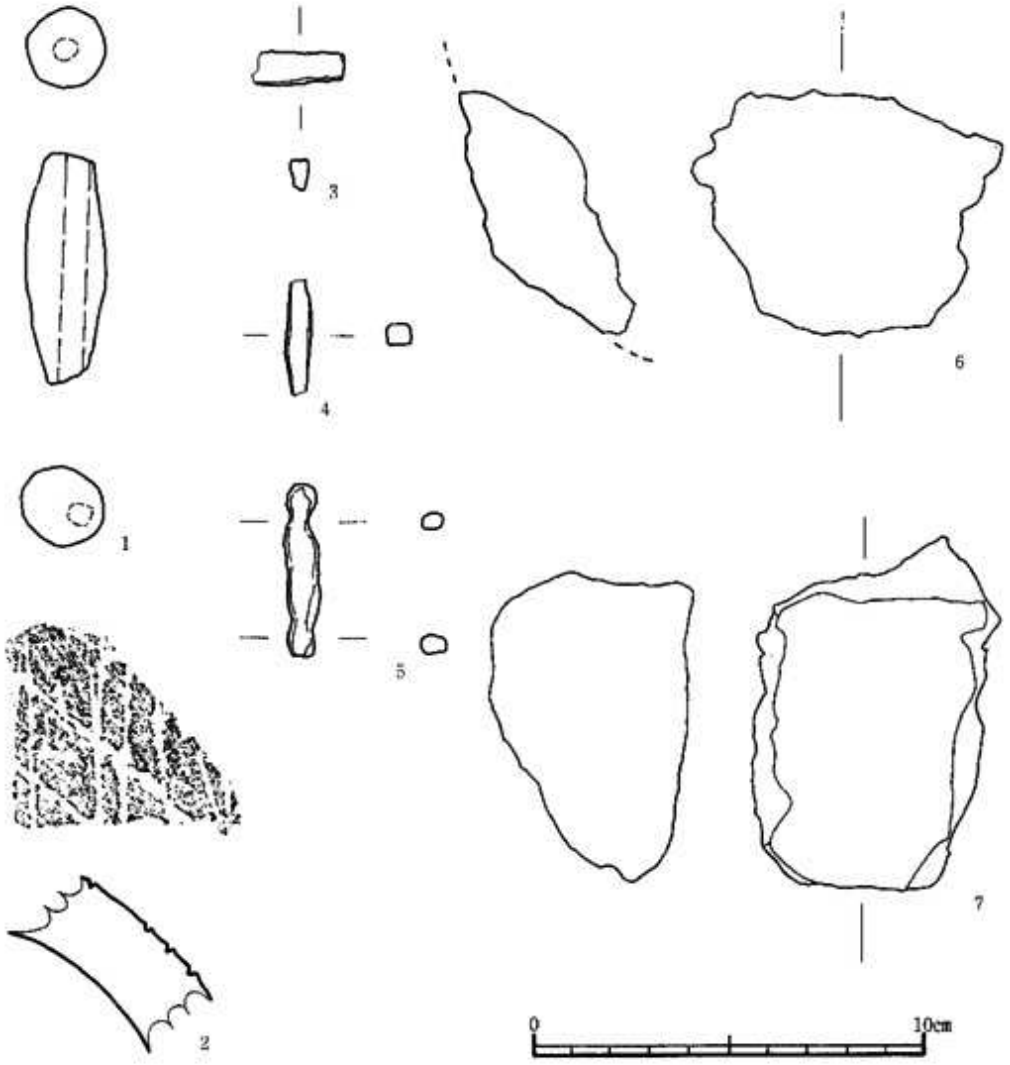
第154図　ＳＤ984溝跡断面図

図版番号	登録番号	種別	器形	部位	出土地点 地区	遺構	層位	施文調整 外面	内面	備考	写真図版
1	B－38	弥生土器	鉢	口縁部	L区	ＳＤ984		横位沈線文・ミガキ（３条種図）口縁部にＬＲ縄文	横位沈線文（１条）→ミガキ		―
2	B－41	弥生土器	不明	体部	L区	ＳＤ984	底面	ＬＲ縄文・横位沈線文	ミガキ		―

第155図　ＳＤ984溝跡出土遺物（1）

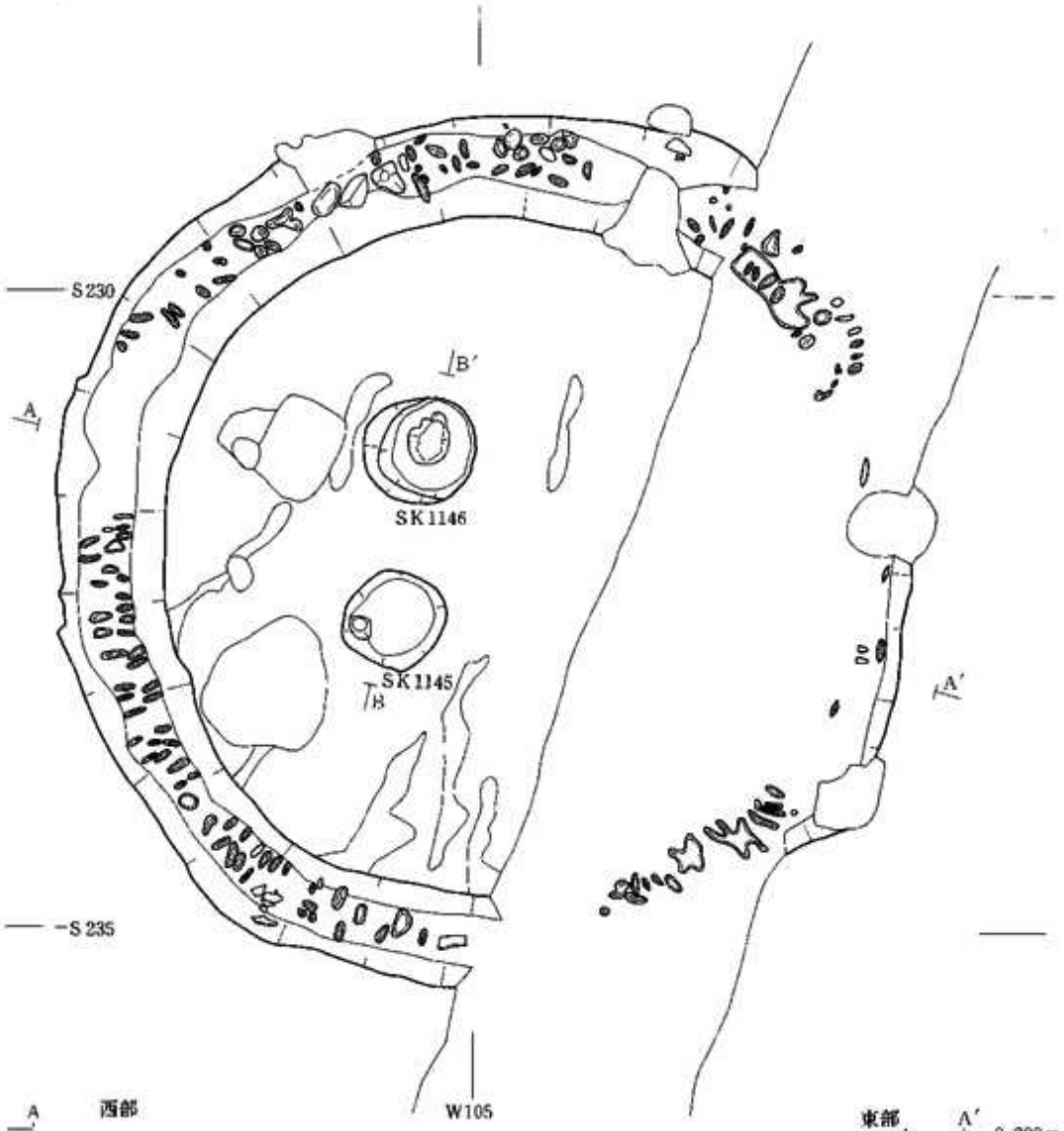


第156図　K・L・M区平面図



図版番号	遺物番号	出土地点 地区	出土地点 遺構	種別・器形	法量・特徴	写真図版
1	P－5	K・L区	SD 984	土製品 土錘	長さ6cm、最大幅2.1cm、孔径6～7cm	128－4
2	F－8	K・L区	SD 984	瓦 丸瓦	〈凸面〉ヘラ状のキザミ痕跡 〈凹面〉布目・模骨痕	――
3	N－18①	K・L区	SD 984	金属器 不明品	たて0.8cm、よこ2.3cm以上、厚さ0.3～0.5cm	128－1
4	N－18②	K・L区	SD 984	金属器 不明品	たて2.9cm以上、よこ0.4～0.6cm、厚さ0.7cm	128－2
5	N－12	K・L区	SD 984	金属器 不明品	たて4.5cm、よこ0.4～1.0cm、厚さ0.6cm	128－3
6	N－70	K・L区	SD 984	鉄製品 板状鉄滓	たて6.7cm、よこ8.1cm、厚さ1.0～2.8cm	――
7	N－71	K・L区	SD 984	鉄製品 板状鉄滓	たて8.8cm、よこ5.8cm、厚さ2.7～5.0cm	――

第157図　SD984溝跡出土遺物 (2)



B-B′

層位	土色	土性	備考
1	10YR 5/2 灰黄褐色	シルト質粘土	酸化鉄を多量
2	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土	酸化鉄を多量

A-A′

層位	土色	土性	備考
西部			
1	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄多量
2	10YR 3/1 黒褐色	シルト質粘土	
3	10YR 4/1 褐灰色	シルト質粘土	
4	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土	酸化鉄多量
東部			
1	10YR 3/1 黒褐色	シルト質粘土	
2	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土	
3	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	酸化鉄多量
4	10YR 2/2 黒褐色	粘土	

第158図　SD1108円形周溝, SK1145・SK1146土坑平・断面図

ＳＤ1108円形周溝

〔調査区〕　Ｇ区　　〔検出面〕　Ⅳｋ層

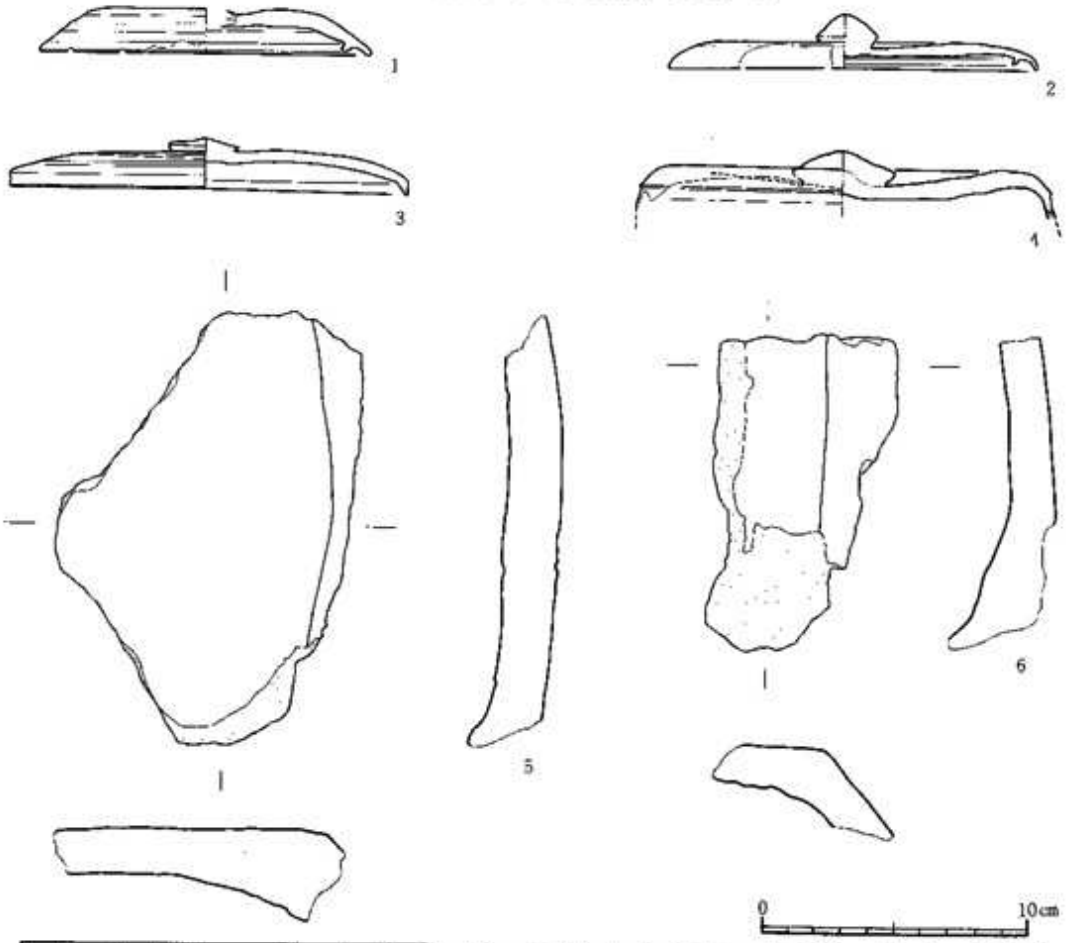
〔検出状況〕　旧農業用水路により遺構の東側1/3ほどが削平されている。

〔重複〕　ＳＢ1119を切っている。

〔規模・平面形〕　直径6.8m、上幅65～95cm、下幅24～45cm、深さ50cm程の円形周溝である。

〔堆積土〕　４層に分けられ、灰黄褐色粘土、シルト質粘土、黒褐色シルト質粘土などである。

〔壁・断面形〕　直線的に立ち上がる箇所が多く、逆台形を呈する。

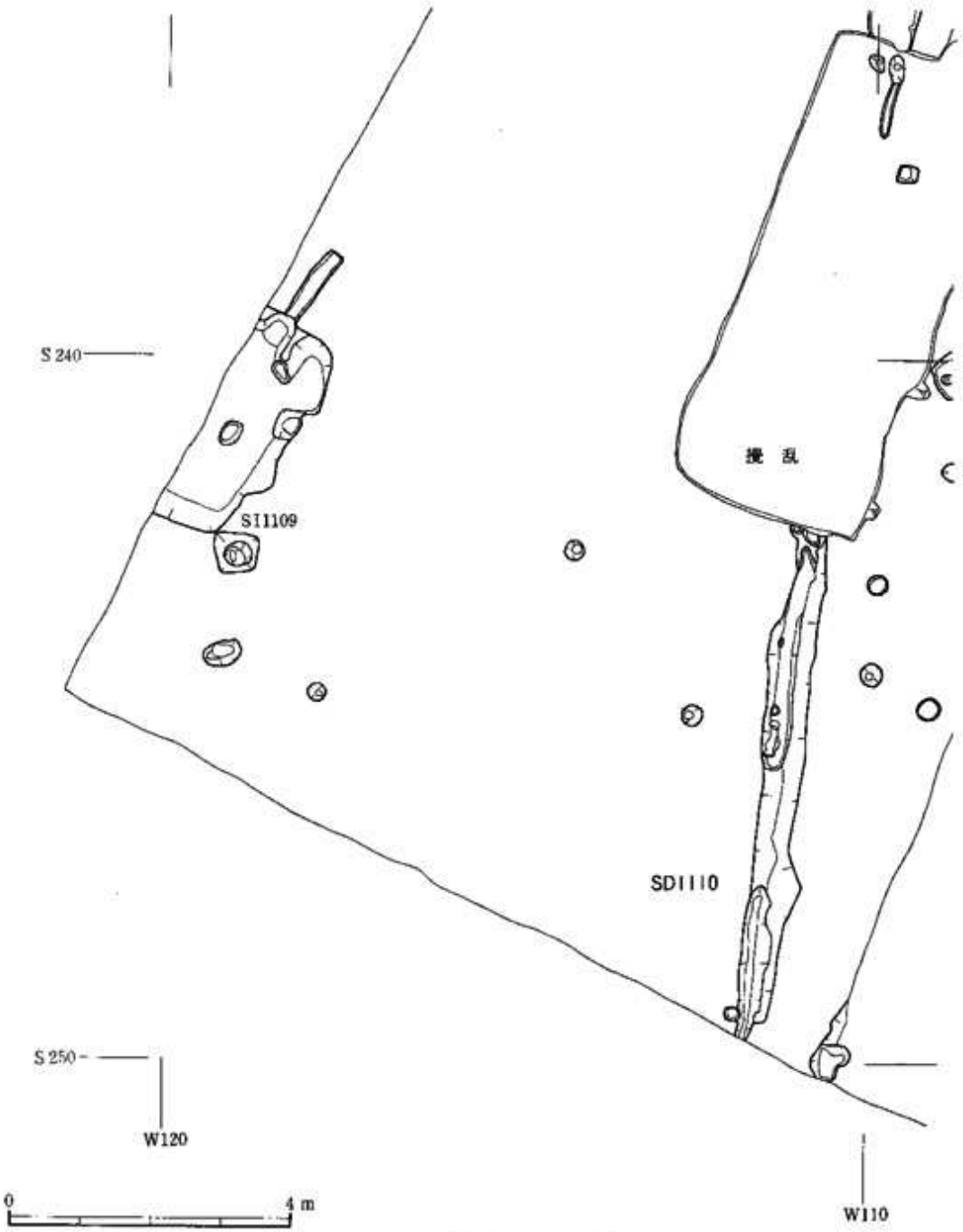


番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	残存	備考	写真図版
1	E-48	須恵器	皿	SD-1108	―	回転ヘラケズリ→ロクロナデ	糸切り→ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	―	1.8以上	12.8	―	1/2	第Ⅰ1	128-6
2	E-47	須恵器	皿	SD-1108	つまみ部 ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り→ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	―	2.1	14.1	―	3/4	第Ⅰ2a	128-7
3	E-56	須恵器	蓋	SD-1108	つまみ部 ロクロナデ	回転ヘラケズリ	糸切り→ロクロナデ	ヘラナデ	ロクロナデ	―	1.9	15.4	―	1/2	第Ⅱ1b	128-8
4	E-14	須恵器	蓋	SD-1108	つまみ部 回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	糸切り→ロクロナデ	―	ヘラナデ	―	2.5以上	16.0以上	―	1/2	第Ⅱ2	128-9
5	P-16①	土製品	不明品	SD-1108	―	ヘラケズリ	―	―	ナデ	―	たて 15.7以上	よこ 10.7以上	厚さ 1.7～3.0			128-5①
6	P-16②	土製品	不明品	SD-1108	―	ヘラケズリ	―		ナデ	―	たて 12.1以上	よこ 7.6以上	厚さ 11.6～			128-5②

第159図　ＳＤ1108円形周溝出土遺物

〔底面〕　掘削した際の工具痕と推定される凹凸が残っている。

〔出土遺物〕　堆積土中から須恵器Ｅ－48、47、56、14蓋（第159図１、２、３、４）、土製品Ｐ－16（第159図５・６）が出土し、その他土師器坏、甕片、内面の黒色処理されない土師器坏片、須恵器坏、蓋、甕片が出土している。



第160図　G区南西部平面図（SD1110溝跡）

ＳＤ1110溝跡

〔調査区〕　Ｇ・Ｈ区　　〔検出面〕　Ⅳｋ、Ⅳａ層

〔検出状況〕　旧農業用水路と旧校庭内の施設により、遺構の一部が削平されている。

〔重複〕　Ｐ225、226、229、233、237、242、263、264、265を切り、Ｐ117、118、126、142、277、ＳＸ930に切られている。

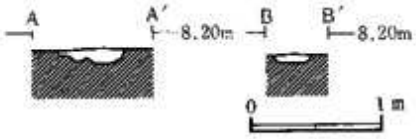
〔規模・平面形〕　長さ南北23m以上、東西32m以上、上幅９～68cm、下幅０～50cm、深さ５～12cmで、南北Ｎ－０°－Ｅ、東西Ｅ－０°－ＳのＬ字形に延びる溝跡である。

〔堆積土〕　西南の一部では、灰黄褐色シルト、褐灰色シルト質粘土などであるが、他は黒褐色シルト、シルト質粘土などである。

〔壁・断面形〕　一定していない。

〔底面〕　平坦な部分もあるが、凹凸の著しい箇所が多い。また断面形がＶ字形になる箇所では、底面に一定の幅が見られない。

〔出土遺物〕　堆積土中から土師器坏、高坏、甕片と少量の須恵器蓋、甕片、Ｅ－59甕（第85図８）片の一部が出土している。



A－A′			
層位	土色	土性	備考
1	10YR 3/2 黒褐色	シルト	
B－B′			
1	10YR 3/2 黒褐色	シルト質粘土	火山灰

第161図　ＳＤ1110溝跡断面図

ＳＤ1115円形周溝

〔調査区〕　Ｇ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔検出状況〕　旧農業用水路により遺構の一部が削平されている。

〔重複〕　ＳＢ1148を切っている。

〔規模・平面形〕　直径８ｍ、上幅58～78cm、下幅25～50cm、深さ35cm程の円形周溝である。

〔堆積土〕　３層に分けられるが、灰黄褐色、黒褐色粘土質シルトなどである。

〔壁・断面形〕　直線的に立ち上り、傾斜も急な箇所がある。断面形は逆台形を呈する。

〔底面〕　掘削した際の工具痕と推定される凹凸が残っている。

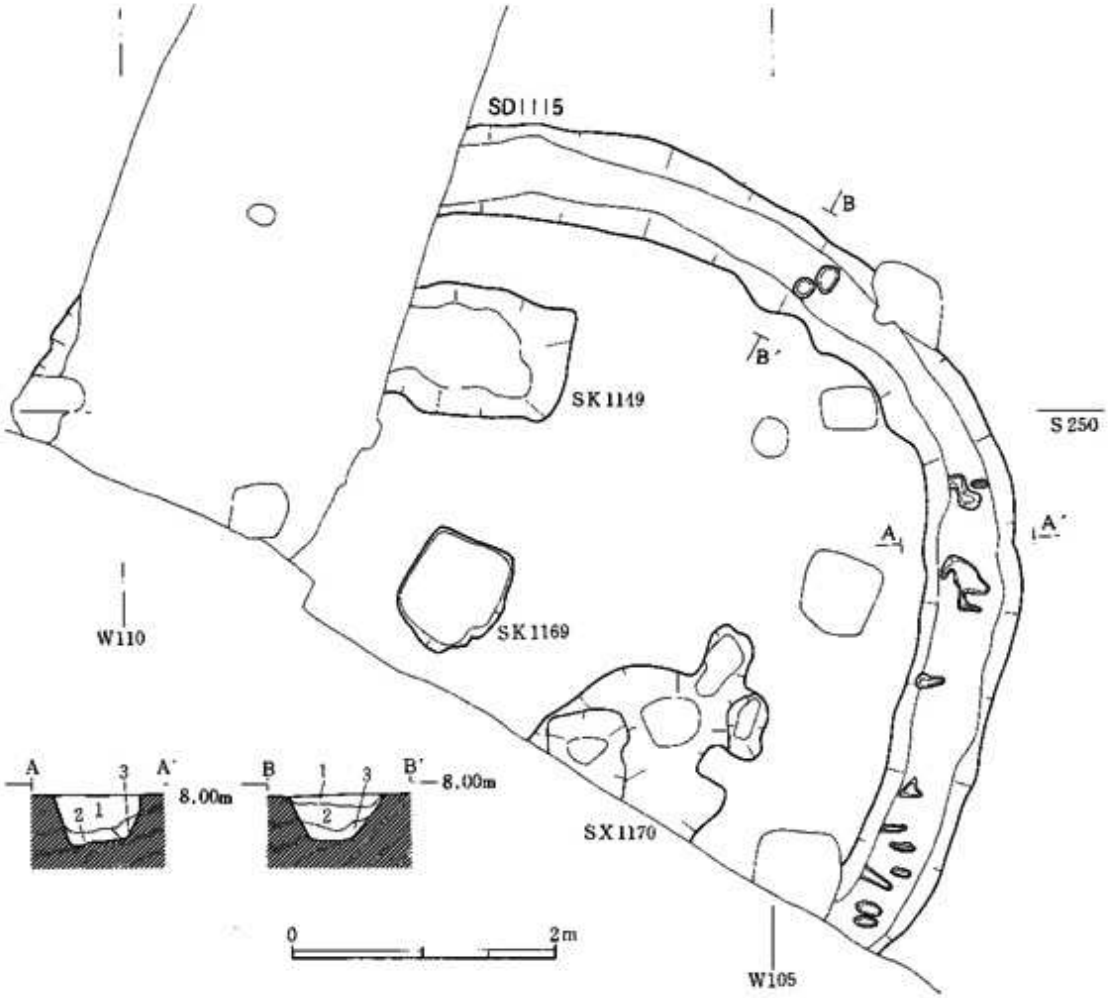
〔出土遺物〕　堆積土中から土師器坏、甕片と、少量の須恵器坏、蓋、甕片が出土している。

土色註記表

層位	土色	土性	備考
1	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	火山灰少量
2	10YR 3/2 黒褐色	粘土質シルト	
3	10YR 3/2 黒褐色	粘土質シルト	黄褐色土

ＳＤ1127円形周溝

〔調査区〕　Ｉ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層



第162図　SD1115円形周溝平・断面図, SK1149・SK1169平面図

〔検出状況〕　遺構の一部は調査区外に延びている。

〔重複〕　P175を切り、P11、12、15、42、47、50、53に切られている。

〔規模・平面形〕　長軸12m以上、短軸9 m以上の不整楕円形で、上幅113～340cm以上、下幅28～135cm、深さ10～50cm程である。

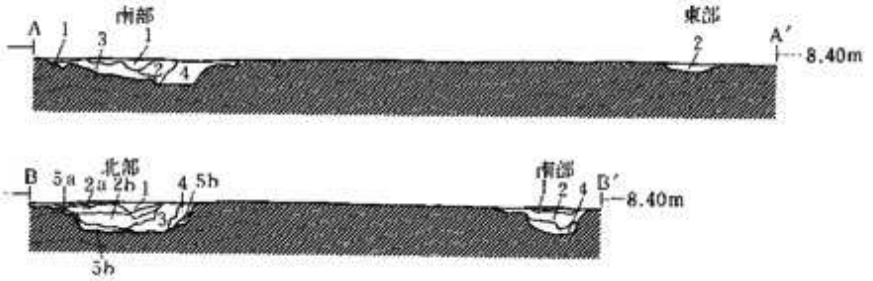
〔堆積土〕　北部は2層に大別され褐灰色粘土、シルト質粘土、それ以外は褐灰色シルト質粘土、浅黄色粘土質シルトである。

〔壁・断面形〕　立ち上りは一定せず、断面形も浅いU字形や扁平に開いたU字形など観察する箇所によって異なってくる。

〔底面〕　平坦ではなく、部分的に落ち込んでいる。一部工具痕跡の観察される箇所がある。

〔出土遺物〕　堆積土中から土師器甕片が一点出土している。

第163図　H区北東部，Ⅰ区北部平面図（SD1127円形周溝）



北　部

層位	土　色	土　性	備　考
1	10YR 4/1 褐灰色	シルト質粘土	
2a	10YR 5/1 褐灰色	シルト質粘土	
2b	10YR 5/1 褐灰色	シルト質粘土	褐灰色粘土
3a	10YR 5/1 褐灰色	粘土	
3b	10YR 5/1 褐灰色	粘土	灰黄褐色粘土、炭化物
4	10YR 5/1 褐灰色	シルト質粘土	
5a	2.5YR 6/1 黄灰色	粘土	
5b	2.5YR 6/1 黄灰色	粘土	灰白色粘土、灰黄色粘土質シルト

西部・東部・南部

層位	土　色	土　性	備　考
1	10YR 4/1 褐灰色	シルト質粘土	
2	10YR 4/1 褐灰色	シルト質粘土	褐灰色粘土
3	2.5Y 7/3 浅黄色	粘土質シルト	
4	2.5Y 7/3 浅黄色	粘土質シルト	灰白色粘土、炭化物

第164図　SD1127円形周溝断面図

SD1133溝跡（第165図参照）

〔調査区〕　H区　　〔検出面〕　IVa層（IVk層上面より掘り込まれている。）

〔検出状況〕　遺溝の北側が調査区外へ延びている。

〔規模・平面形〕　長さ5.6m以上、上幅20～40cm、下幅10～20cm、深さ5～10cmで、N－7°－Eの南北方向に延びる溝跡である。

〔堆積土〕　黒褐色シルトが主であるが、部分的に灰黄褐色シルトの堆積する箇所もある。

〔壁・断面形〕　立ち上りは一定せず、断面形も舟底形や逆台形など観察する箇所により異なっている。

〔底面〕　ほぼ平坦であるが、掘削した際の工具痕と推定される凹凸が残っている。

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。

SD1134溝跡（第165図参照）

〔調査区〕　H区　　〔検出面〕　IVa層（IVk層上面より掘り込まれている。）

〔重複〕　認められない。

〔規模・平面形〕　長さ4.5m、上幅20～40cm、下幅18～37cm、深さ4～8cmで、N－3°－Eの南北方向に延びる溝跡である。

〔堆積土〕　黒褐色シルトが主であるが、部分的ににぶい黄褐色シルトの堆積する箇所もある。

〔壁・断面形〕　ゆるやかに立ち上り、ほぼ逆台形を呈する。

〔底面〕　ほぼ平坦であるが、掘削した際の工具痕と推定される凹凸が残っている。

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。

ＳＤ1135溝跡

〔調査区〕　Ｈ区

〔検出面〕　Ⅳａ層（Ⅳｋ層上面より掘り込まれている。）

〔検出状況〕　遺構の東側が調査区外へ延びている。

〔重複〕　認められない。

〔規模・平面形〕　南北4.2m、東西2.2m以上、上幅16～34cm、下幅12～24cm、深さ８～25cmで南北Ｎ－３°－Ｅ、東西Ｅ－０°－Ｓの丁字形の溝跡である。

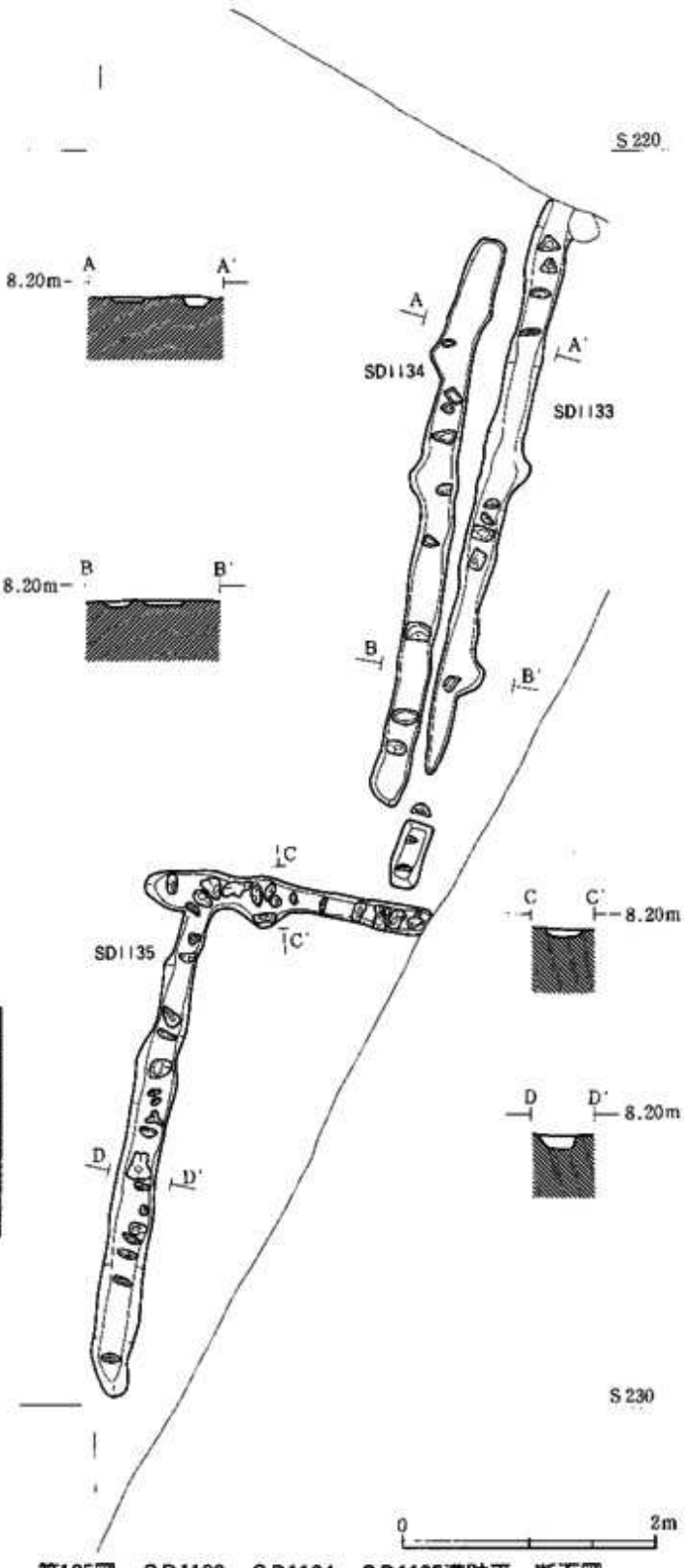
〔堆積土〕　黒褐色シルト質粘土である。

〔壁・断面形〕　ゆるやかに立ち上がり、Ｕ字形を呈する。

〔底面〕　ほぼ平坦ではあるが、掘削した際の工具痕と推定される凹凸が残っている。

〔出土遺物〕　出土しなかった。

A-A'	
SD1134	10YR5/3 にぶい黄褐色シルト
SD1133	10YR3/1 黒褐色シルト
B-B'	
SD1134	10YR2/3 黒褐色シルト
SD1133	10YR4/2 灰黄褐色シルト
C-C'	
SD1135	10YR2/2 黒褐色シルト質粘土
D-D'	
SD1135	10YR2/2 黒褐色シルト質粘土



第165図　ＳＤ1133・ＳＤ1134・ＳＤ1135溝跡平・断面図

ＳＤ1164ａ・ｂ溝跡（第156図参照）

〔調査区〕　K・M・N区　　〔検出面〕　Ⅳ層

〔検出状況〕　N区からO区の方向へ延びていたが、O区では検出されなかった。

〔重複〕　ＳＤ345、ＳＤ984、ＳＤ1166、ＳＢ1306、ＳＩ1200、ＳＫ1302を切っている。ａ・ｂ間での重複は認められない。

〔規模・平面形〕　長さ60m以上、N－27°－E方向で南北に延び、N区の南西端にいたってW－2°－Sに方向を変え、L字形を呈している。なおａ・ｂ溝跡はK区北端より41m南の地点で合流して一本となる。（ａ）上幅34～108cm、下幅14～40cm、深さ3.5～21cm

（ｂ）上幅37～88cm、下幅14～34cm、深さ９～32cm

ａ・ｂが合流し一条となってからは、上幅118～250cm、下幅80～167cm、深さ２～14cmとなる。

〔堆積土〕　（ａ）２層に分けられ、褐色シルト質粘土、にぶい黄褐色シルトである。

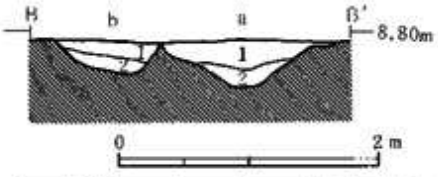
（ｂ）２層に分けられ、黒褐色シルト質粘土、褐灰色粘土質シルトである。

〔壁・断面形〕　（ａ）ゆるやかに立ち上り、Ｖ字形を呈する。

（ｂ）ゆるやかに立ち上り、逆台形を呈する。

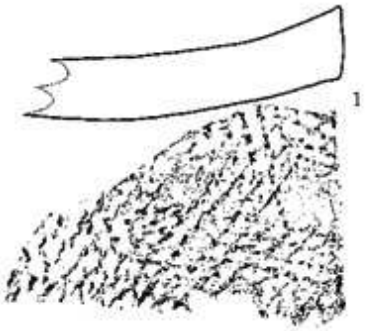
〔底面〕　ほぼ平坦であるが、南から北へ傾斜して低くなっている。

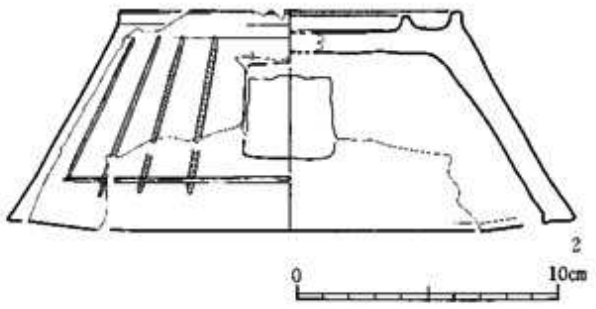
〔出土遺物〕　堆積土中からＥ－５円面硯（第167図２）、Ｇ－３平瓦（第167図１）が出土し、その他土師器坏、甕片、須恵器甕片、中世陶器片、Ｋ－64砥石（第168図）炭化物が少量出土している。なおＥ－５円面硯の破片は、ＳＤ345溝跡からも出土している。



	層位	土色	土性
a	1	10YR 4/4 褐色	シルト質粘土
	2	10YR 4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト
b	1	10YR 2/3 黒褐色	シルト質粘土
	2	10YR 4/1 褐灰色	粘土質シルト

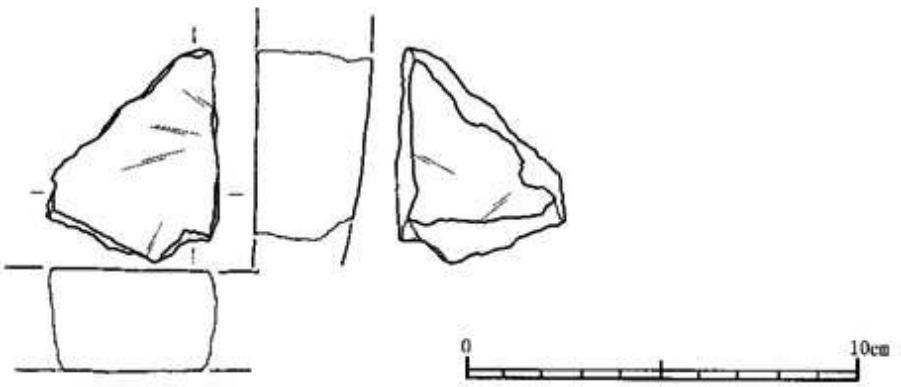
第166図　ＳＤ1164溝跡断面図





番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	残存	備考	写真図版
1	G－3	瓦	平瓦	ＳＤ－1164	7層	―	―	―	―	―	―	―	―	―			―
2	E－5	須恵器	円面硯	ＳＤ－1164	7層	ロクロナデ			ロクロナデ			(13.1)	脚部(4.5) 陸部(6.5)	(22.7)			128－10

第167図　ＳＤ1164溝跡出土遺物（1）



登録番号	種別	石材	出土地点 地区	遺構	層位	法量 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特徴	備考	写真図版
K-64	砥石	不明	M区	SD1164	1層	5.9	4.4	2.9	86.0	擦痕		164-1

第168図　SD1164溝跡出土遺物 (2)

SD1166溝跡（第156図参照）

〔調査区〕　M区　　〔検出面〕　IVa層

〔重複〕　SD1164、SD1165に切られている。

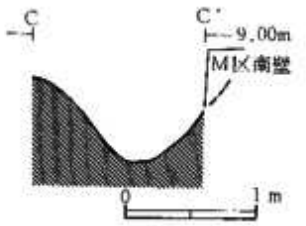
〔規模・平面形〕　長さ12m以上、上幅120cm以上、下幅18～32cm、深さ60cmで、E－7°－Sの東西方向に延びる溝跡である。

〔堆積土〕　5層に分けられ、褐灰色シルト、シルト質粘土、にぶい黄橙色粘土、シルトなどである。

〔壁・断面形〕　ゆるやかに立ち上がり、V字形を呈する。

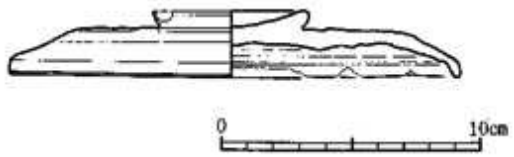
〔底面〕　ほぼ平坦である。

〔出土遺物〕　底面から須恵器E－7蓋（第170図）が出土し、その他堆積土中から土師器坏、甕片、須恵器坏、蓋、甕片が少量出土している。



層位	土色	土性
1	10YR 6/1 褐灰色	シルト
2	10YR 4/1 褐灰色	粘土
3	10YR 5/1 褐灰色	シルト質粘土
4	10YR 6/3 にぶい黄橙色	粘土
5	10YR 6/4 にぶい黄橙色	シルト

第169図　SD1166溝跡断面図



登録番号	種別	器形	出土地点 地区	遺構	層位	外面調整	内面調整	備考	写真図版
E-7	須恵器	蓋	M区	SD1166	底面	ロクロナデ	ロクロナデ	重量1a	128-11

第170図　SD1155溝跡出土遺物

ＳＤ922溝跡（第91図参照）

〔調査区〕　B、N区　　〔検出面〕　Ⅳ層

〔重複〕　P167に切られている。ＳＤ920との重複関係は認められず、同時期に埋まった可能性がある。

〔規模・平面形〕　長さ41m以上、上幅30～204cm、下幅10～175cm、深さ0.6～14cmで、N－10°－Eの南北方向に延びる溝跡である。

〔堆積土〕　10ＹＲ2/2黒褐色シルトである。

〔壁・断面形〕　ゆるやかに立ち上り、扁平な舟底形を呈する。

〔底面〕　ほぼ平坦であるが、北から南へ傾斜して低くなっている。

〔出土遺物〕　堆積土中から土師器坏、甕片、須恵器坏、甕片が少量出土している。

ＳＤ1180溝跡（第94図参照）

〔調査区〕　N区　　〔検出面〕　Ⅳ層

〔重複〕　ＳＤ1176、ＳＤ1179を切り、ＳＤ345、ＳＤ1164、ＳＤ1186、ＳＤ1187、Ｐ１に切られている。

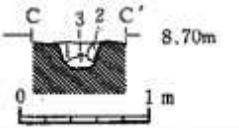
〔規模・平面形〕　長さ24.8m、上幅15～65cm、下幅６～50cm、深さ３～35cmで、E－2°－Sの東西方向に延びる溝跡である。

〔堆積土〕　黒褐色シルト、シルト質粘土であるが、部分的に褐灰色シルト質粘土の堆積する箇所がある。

〔壁・断面形〕　垂直気味に立ち上り、Ｕ字形を呈する。

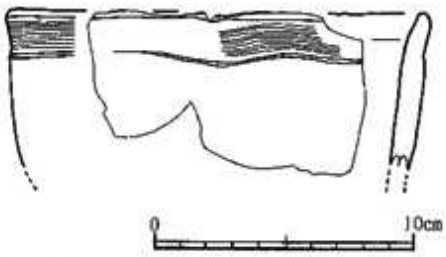
〔底面〕　ほぼ平坦である。

〔出土遺物〕　堆積土中から土師器Ｃ－120甕（第172図）が出土し、その他土師器坏、甕片、須恵器坏、甕片が少量出土している。



層位	土色	土性	備考
1	10YR 3/2 黒褐色	シルト	
2	10YR 3/2 黒褐色	シルト質粘土	しまりあり
3	10YR 3/2 黒褐色	シルト質粘土	しまりややあり

第171図　ＳＤ1180溝跡断面図



登録番号	器種	器形	出土遺構	外面調整 口縁部	外面調整 体部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 口径	法量(cm) 器高	法量(cm) 底径	備考
C－120	土師器	甕	ＳＤ1180	ヨコナデ	不明	ヘラケズリ	不明	—	6.1以上	(16.9)	—	(口縁部の1/4)

第172図　ＳＤ1180溝跡出土遺物

ＳＤ1188溝跡（第94図参照）

〔調査区〕　N区　　〔検出面〕　Ⅳ層

〔検出状況〕　北端において浅くなり、不明瞭となる。

〔重複〕　認められない。

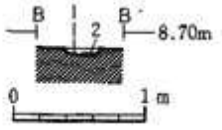
〔規模・平面形〕　長さ4.72m、上幅26～55cm、下幅10～28cm、深さ3.6～14cmで、N－3°－Eの東西方向に延びる溝跡である。

〔堆積土〕　暗褐色シルトなどである。

〔壁・断面形〕　ゆるやかに立ち上り、扁平なU字形を呈す。

〔底面〕　やや凹凸がある。

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。



層位	土色	土性
1	10YR 3/3 暗褐色	シルト
2	10YR 3/2 黒褐色	粘土質シルト

第173図　ＳＤ1188溝跡断面図

ＳＤ1319溝跡（第94図参照）

〔調査区〕　N区　　〔検出面〕　Ⅳ層

〔検出状況〕　北に行くにしたがって不明瞭となり、跡切れる。

〔重複〕　撹乱に切られている。

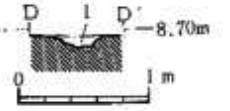
〔規模・平面形〕　長さ2.6m、上幅30～42cm、下幅16～18cm、深さ5～13cmで、N－1°－Eで南北方向に、跡切れながら延びる溝跡である。

〔堆積土〕　10YR4/2灰黄褐色シルトである。

〔壁・断面形〕　ゆるやかに立ち上がり逆台形を呈する。

〔底面〕　凹凸がある。

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。



第174図　ＳＤ1319溝跡断面図

ＳＤ1190溝跡（第91図参照）

〔調査区〕　N区　　〔検出面〕　Ⅳ層

〔重複〕　P107に切られている。

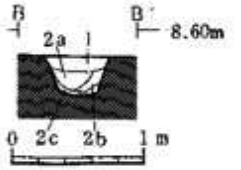
〔規模・平面形〕　長さ南北5.3m以上、東西2.2m、上幅30～70cm、下幅17～47cm、深さ14～33cmで、南北N－1°－E、東西E－0°－SのL字形に延びる溝跡である。

〔堆積土〕　褐色、明黄褐色シルトなどである。

〔壁・断面形〕　やや急な傾斜を有しながら立ち上り、逆台形を呈する。

〔底面〕　平坦な部分もあるが、南半にいたって凹凸の著しい箇所がある。

〔出土遺物〕　堆積土中から土師器甕片が少量出土している。



層位	土色	土性
1	10YR 4/6 褐色	シルト
2a	10YR 6/6 明黄褐色	シルト
2b	10YR 5/1 褐灰色	粘土質シルト
2c	10YR 5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト

第175図　ＳＤ1190溝跡断面図

ＳＤ1308溝跡（第91図参照）

〔調査区〕　Ｎ区　　〔検出面〕　Ⅳ層

〔重複〕　認められない。

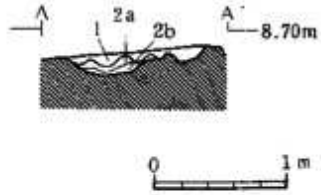
〔規模・平面形〕　長さ５ｍ以上、上幅55～154cm、下幅57～130cm、深さ１～12cmで、Ｅ－０°－Ｓの東西方向に延びる溝跡である。

〔堆積土〕　暗褐色粘土質シルト、褐色シルトである。

〔壁・断面形〕　ゆるやかに立ち上り、断面形は一定していない。

〔底面〕　やや凹凸がある。

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。



層位	土色	土性	備考
1	10YR 3/4 暗褐色	粘土質シルト	
2a	10YR 4/4 褐色	シルト	粘性あり
2b	10YR 4/4 褐色	シルト	粘性ややあり

第176図　ＳＤ1308溝跡断面図

ＳＤ920溝跡（第91図・第179図参照）

〔調査区〕　Ｂ、Ｎ、Ｏ区　　〔検出面〕　Ⅳ層

〔検出状況〕　西半において著しく撹乱による削平をうけている。

〔重複〕　ＳＫ1185を切り、ＳＤ345、ＳＤ1164、ＳＡ1338、Ｐ165に切られている。なおＳＤ922との重複関係は認められず、同時期に埋まった可能性がある。

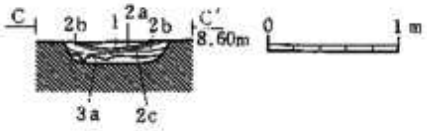
〔規模・平面形〕　長さ67ｍ以上、上幅79～150cm、下幅58～78cm、深さ13～54cmで、Ｅ－２°－Ｓの東西方向にやや蛇行しながら延びる溝跡である。

〔堆積土〕　黒褐色シルト、黄褐色粘土質シルトなどである。

〔壁・断面形〕　ゆるやかに立ち上り、逆台形を呈する。

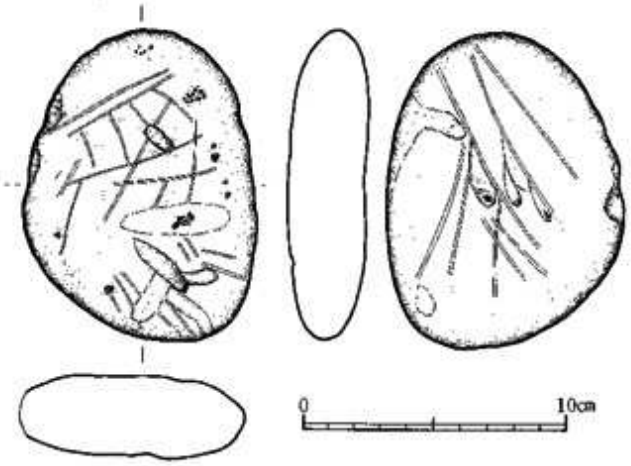
〔底面〕　ほぼ平坦である。西から東へ傾斜して低くなっている。

〔出土遺物〕　堆積土中から土師器坏、甕片、須恵器甕片、Ｋ－180礫石器（第178図）が少量出土している。



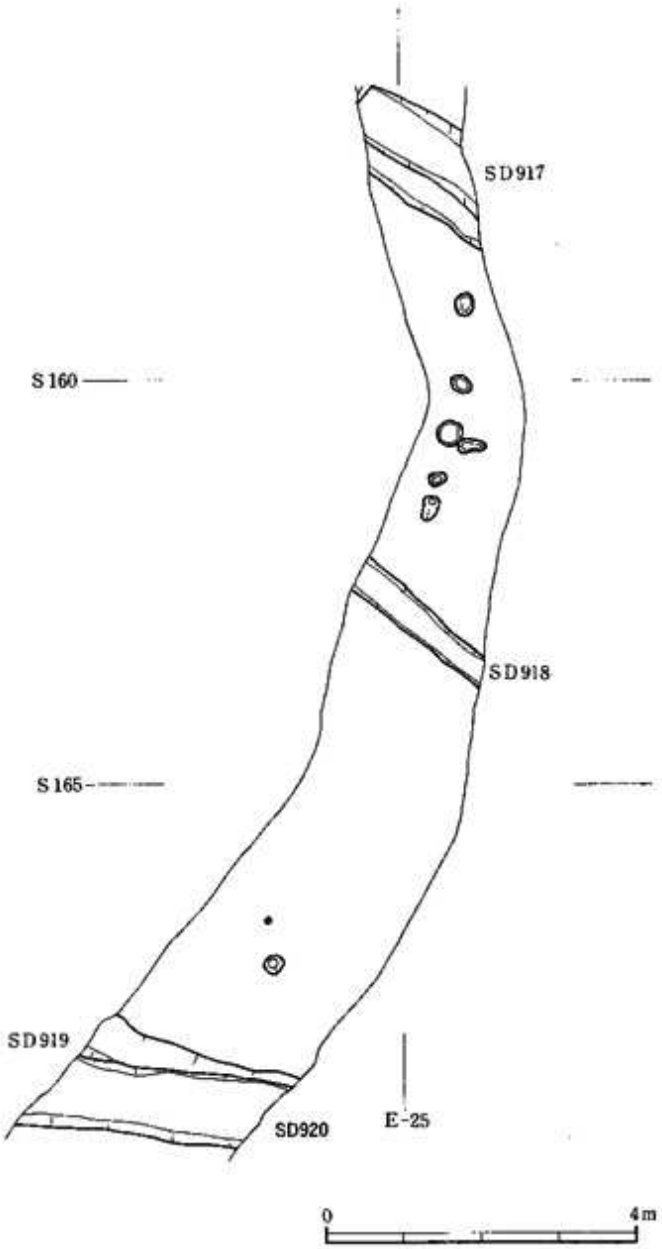
層位	土色	土性	備考
1	10YR 3/2 黒褐色	シルト	炭化物
2a	10YR 3/2 黒褐色	シルト	
2b	10YR 3/3 暗褐色	シルト	
2c	10YR 2/3 黒褐色	粘土質シルト	
3	10YR 5/6 黄褐色	粘土質シルト	

第177図　ＳＤ920溝跡断面図



登録番号	種別	GR	出土地点			法量				特徴	備考	写真図版
			地区	遺構	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
K-180	礫石器	安山岩	O区	SD920		12.1	6.1	3.2	21.1	磨面、磨面		172-5

第178図　ＳＤ920溝跡出土遺物



第179図　B区北部平面図

ＳＤ1322溝跡（第184図参照）

〔調査区〕　N・O区　　〔検出面〕　IV層

〔検出状況〕　O区において一定の深さをもっているが、N区にいたると痕跡を残し確認できなくなる。

〔重複〕　全ての小規模なピットを切り、ＳＫ1325、1326に切られている。尚、N区におけるＳＤ1194、1195、1196はＳＤ1322の痕跡ということが、平成２年度の調査で明らかとなった。

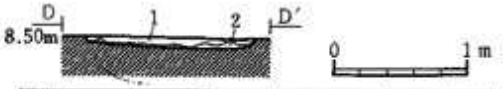
〔規模・平面形〕　長さ37.6m以上、上幅98～146cm、下幅80～132cm、深さ2～9cmで、E－1°－Nの東西方向に延びる溝跡である。

〔堆積土〕　暗褐色、にぶい黄褐色シルトで、炭化物を少量含んでいる。

〔壁・断面形〕　やや急な傾斜を有しながら立ち上り、著しく扁平な逆台形である。

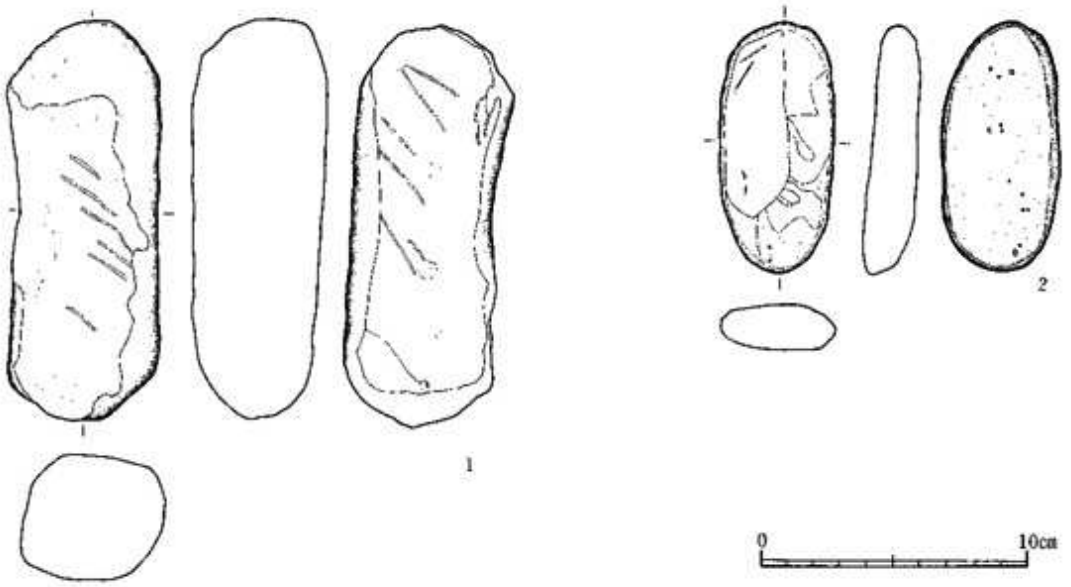
〔底面〕　ほぼ平坦であるが、西から東へ傾斜して低くなっている。

〔出土遺物〕　土師器坏（内面黒色処理）、甕の底部片、須恵器高台付坏、甕片礫石器（第181図1、2）などが少量出土している。



層位	土色	土性	備考
1	10YR 3/3 暗褐色	シルト	炭化物
2	10YR 4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物

第180図　SD1322溝跡断面図



図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点 地区	遺構	層位	法量 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特徴	備考	写真図版
1	K－181	礫石器	安山岩	O区	SD1322		15.4	5.2	5.0	867.3	擦痕		171－4
2	K－182	礫石器	安山岩	O区	SD1322		9.6	4.5	2.0	119.3	敲面		171－6

第181図　SD1322溝跡出土遺物

SD1333溝跡（第97図参照）

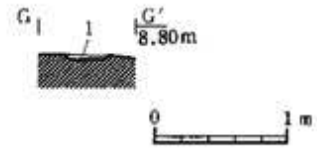
〔調査区〕　O区　　〔検出面〕　IV層

〔重複〕　認められない。

〔規模・平面形〕　長さ6.6m、上幅15～50cm、下幅10～40cm、深さ0.5～4cmで、N－12°－Eの南北方向に延びる溝跡である。

〔堆積土〕　10YR3/3暗褐色シルトである。

〔壁・断面形〕　ゆるやかに立ち上り、扁平なU字形である。



第182図　SD1333溝跡断面図

〔底面〕　ほぼ平坦であるが、北から南へ若干傾斜して低くなっている。

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。

ＳＤ1336溝跡（第97図参照）

〔調査区〕　Ｏ区　　〔検出面〕　Ⅳ層

〔検出状況〕　旧農業用水路と撹乱により遺溝の一部が削平されている。

〔重複〕　Ｐ273、Ｐ280、Ｐ407、Ｐ418～421を切り、ＳＤ1327、ＳＤ1329、ＳＤ1330、Ｐ261、Ｐ279に切られている。

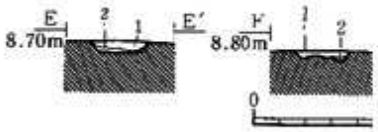
〔規模・平面形〕　長さ23m 以上、上幅32～52cm、下幅26～46cm、深さ３～13cmで、Ｅ－２'－Ｓの東西方向に延びる溝跡である。中央より東側で7.7m 程とぎれる部分があるが、この範囲については上層よりの水田耕作により削平されたものと考えられる。

〔堆積土〕　暗褐色あるいは褐色シルト質粘土である。

〔壁・断面形〕　ゆるやかに立ち上り、扁平なＵ字形あるいは逆台形を呈する。

〔底面〕　ほぼ平坦である。

〔出土遺物〕　須恵器甕片が１点出土している。



	層位	土　色	上　性	備　考
E-E'	1	10YR 3/3 暗褐色	シルト質粘土	炭化物、焼土を多量に含む箇所がある。
	2	10YR 3/4 暗褐色	シルト質粘土	
F-F'	1	10YR 4/4 褐色	シルト質粘土	マンガンを含む。
	2	10YR 4/4 褐色	シルト質粘土	

第183図　ＳＤ1336溝跡断面図

第184図　O区南半平面図

第36表　溝跡観察表

SD	調査区	時期	重複	方向	規模(m) 長さ	上幅	下幅	深さ	埋土 層	土色・土性	備考	図版
905	B	IV	P?に切られる	E-4°-S	2.3以上	0.55~0.8	0.47~0.77	0.34	1	10YR4/2灰黄褐色シルト		196
915	B	II	SD906、917を切る	N-28°-E	3以上	0.5~0.36	0.2~0.4	0.08	1	10YR4/1褐灰色シルト		172
916	B	II	SD915に切られる	N-7°-W	5.63以上	0.35~0.5	0.14~0.37	0.05	1	10YR6/2灰黄褐色粘土質シルト		172
917	B	II	SD915に切られる	E-18°-S	2以上	1	0.85	0.18	3	10YR3/3暗褐色粘土など	2時期あり	179
918	B	IV		E-35°-S	2.3以上	0.35~0.47	0.25~0.34	0.12	1	10YR2/3黒褐色粘土質シルト		179
919	B	IV	SD920を切る	E-22°-S	2.5以上	0.37~0.9	0.23~0.45	0.1	1	10YR3/3暗褐色シルト		179
921	B	II		N-37°-E	2以上	1~1.5	0.1~0.65	0.2	1	———		配置図
926	B	IV		N-8°-W	4.9以上	0.19~0.44	0.06~0.3	0.06	2	10YR5/1褐灰色粘土など		配置図
927	B	IV		E-0°-S	2.5以上	1.2~1.4	0.3~0.45	0.35	3	10YR5/1褐灰色砂など		配置図
928	B	IV		E-14°-E	5.9以上	0.8	0.25~0.6	0.1	2	10YR5/2灰黄褐色砂など		配置図
929	B	IV		不明	6.0以上	1.1~2.5	0.3~2.2	0.5	4	10YR4/1褐灰色粘土質シルトなど	蛇行している	配置図
939	D	IVa		N-6°-E	6.8以上	0.25	0.15	0.16	2	10YR6/4褐色粘土など		190
940	D	IVa		N-0°-E	2.4以上	0.28~0.37	0.08~0.14	0.11	3	10YR6/1褐灰色粘土など		190
941	D	IVa		N-6°-E	1.85	0.09~0.18	0.02~0.05	0.11	2	10YR4/4褐色粘土など		190
961	C	IVa		不明	3.4	0.18	0.15	0.4	1	———	途切れている	38
965	K	IV		N-3°-E	1.68以上	0.46~0.5	0.36	0.1	1	10YR3/4暗褐色粘土など		156
966	K	IV		N-26°-E	1.6以上	0.3~0.45	0.08~0.16	0.1	1	10YR3/4暗褐色粘土など		156
1111	H	IVb		N-3°-E	11.6以上	~0.6	~0.42	0.06	2	10YR4/2灰黄褐色シルト質粘土		163
1123	H	IVa		E-9°-S	1.9以上	0.22~0.44	0.10~0.3	0.14	1	10YR3/2黒褐色シルト質粘土		193
1116	G	IVa	SB1154S1W1を切る	E-3°-S N-7°-W	2.7以上 6.2以上	0.35~0.6	0.12~0.48	0.1~0.25	3	10YR4/1褐灰色粘土など	T字形の溝	66
1117	G	IVa		N-1°-W	4.8以上	0.24~0.4	0.14~0.38	0.06~0.23	2	10YR4/1褐灰色粘土質シルトなど		66
1118	G	IVa	SB1154S1E1を切る	N-7°-W	4以上	0.28~0.4	0.1~0.29	0.04~0.19	3	10YR4/2灰黄褐色シルト質粘土など		66
1152	G	IVb		N-3°-W	1.4以上	~0.4	~0.19	0.09~0.12	—	———		66
1159	G	IVa		N-7°-W	5.2以上	0.3~0.36	0.19~0.29	0.06~0.18	2	10YR3/2黒褐色シルト質粘土など		66
1165	M	IV		N-7°-W	6.5以上	0.35	0.16	0.1~0.25				156
1176	N	IV	SD1179を切り、SD1165、1164、1168、SB1306、N3E1に切られている	E-29°-S	18.25以上	0.2~0.9	0.12~0.56	0.34~0.77	1	10YR6/1褐灰色シルト	北西端にて不明瞭となる	94
1177	N	IV	SD1179を切る	E-37°-S	4.5	0.21~0.35	0.14~0.24	0.028~0.12	1	10YR4/2褐灰色シルト		94
1179	N	IV	SD1176、1177、P77に切られている	N-47°-E	3.36	0.27~0.44	0.1~0.31	0.024~0.12	1	10YR3/3暗褐色シルト		94
1182	N	IV		E-7°-N	0.8	0.13~0.19	0.04~0.08	0.015~0.05	2	10YR4/2灰黄褐色シルトなど		94
1183	N	IV	P27に切られている	E-18°-S	8.2	0.18~0.55	0.04~0.4	0.01~0.04	1	10YR4/3にぶい黄褐色シルト		配置図
1184	N	IV	P55、59を切り、P49に切られている	E-3°-S	1.8	0.24~0.33	0.09~0.27	0.03~0.085	1	10YR3/2黒褐色シルト		配置図
1186	N	IV	SD1188、1189を切り、P169に切られている	N-4°-E	2.89	0.18~0.28	0.07~0.15	0.05~0.10	1	10YR3/2黒褐色シルト		94
1187	N	IV	SD1189を切る	N-9°-E	1.04	0.12~0.18	0.03~0.08	0.02~0.035	1	10YR3/3暗褐色シルト		94
1188	N	IV	SD1126、1186に切られている	E-19°-S	3.72以上	0.2~0.43	0.13~0.25	0.025~0.04	1	10YR4/2灰黄褐色シルト		94
1193	N	IV		N-60°-E N-55°-E	4.13以上 3	0.28~0.45 0.32~0.5	0.23~0.28 0.15~0.26	0.01~0.08 0.03~0.1	2 3	10YR3/2黒褐色シルトなど	途切れている	91
1194	N	IV		E-5°-S	2.12	0.32~0.43	0.18~0.34	0.009~0.09	3	10YR3/3暗褐色シルトなど	O区の調査から	91
1195	N	IV	P133に切られる	N-63°-E	1.63以上	0.33~0.5	0.34~0.37	0.02~0.06	2	10YR3/1黒褐色シルト質粘土など	SD1132の続き	91
1196	N	IV		E-50°-S	1.5以上	0.35~0.6	0.27~0.3	0.02~0.055	2	10YR4/4褐色シルトなど		91
1305	N	IV	SB1306N1E2を切り SD601に切られる	E-65°-S	4.6以上	0.38~0.6	0.17~0.5	0.03~0.09	2	10YR4/1褐灰色シルト質粘土など	北端にて不明瞭となる	91
1308	N	IV	SB1306N1E10を切り SX2347に切られている	N-3°-W	2.5以上	0.36~0.34	0.15~0.25	0.05~0.07	2	10YR6/2灰黄褐色シルト質など		94
1310	N	IV	SB1306N1E9を切る	N-7°-W	2.4以上	0.23~0.4	0.13~0.34	0.04~0.07	2	10YR4/2灰黄褐色シルトなど		94
1311	N	IV	SB1306N1E8を切る	N-7°-W	1.73以上	0.11~0.3	0.02~0.18	0.03~0.16	1	10YR4/2灰黄褐色シルト		94
1312	N	IV	SB1306N2E4を切る	N-6°-W	1.95以上	0.33~0.44	0.21~0.33	0.01~0.08	2	10YR4/3にぶい黄褐色シルトなど		94
1313	N	IV	SB1306N1E3を切る	N-9°-W	1.45以上	0.33~0.43	0.18~0.35	0.043~0.1	2	10YR4/3にぶい黄褐色シルトなど		94
1314	N	IV		N-65°-E	5.55以上	0.27~0.4	0.14~0.22	0.04~0.08	2	10YR4/2暗褐色シルトなど		94
1315	N	IV	SX1347に切られる	N-9°-W	2.55以上	0.25~0.4	0.19~0.3	0.015~0.06	1	10YR4/2灰黄褐色シルト		94
1327	O	IV	SB1320N1E8、N3E8、SD1336を切る	N-1°-E	6.3	0.21~0.41	0.38~0.37	0.02~0.1	1	10YR3/4暗褐色シルト		97
1328	O	IV	SB1320N1E8、SD1337を切る	N-6°-W	6.15以上	0.22~0.35	0.28~0.3	0.01~0.21	1	10YR3/4暗褐色シルト		97
1329	O	IV	SB1330N3E7、SD1337、1336を切る	N-1°-W	8.4以上	0.2~0.3	0.04~0.37	0.005~0.12	1	10YR3/4暗褐色シルト		97
1330	O	IV	SD1320N3E8、SD1337、1336を切る	N-2°-W	8.4以上	0.18~0.38	0.09~0.38	0.005~0.05	1	10YR3/3暗褐色シルト	2ヶ所で途切れる	97
1331	O	IV	SB1320N3E6を切る	N-1°-W	5.62	0.19~0.46	0.12~0.36	0.01~0.025	1	10YR4/6褐色シルト		97
1332	O	IV	SB1320N1E5を切る	N-7°-W	4.30以上	0.17~0.36	0.08~0.29	0.02	1	10YR3/4暗褐色シルト	南端で途切れ、屈曲している	97
1334	O	IV		E-30°-S	1.8以上	0.5	0.09~0.25	0.16~0.2	2	10YR3/4暗褐色シルトなど		97
1335	O	IV		E-7°-S	4.42	0.29~0.38	0.09~0.3	0.014~0.084	1	10YR2/3黒褐色シルト質粘土		97
1337	O	IV	SD1327、1328、1329、1330に切られている	E-4°-S	8.7	0.12~0.35	0.01~0.18	0.01~0.07	1	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	3ヶ所で途切れる	97

(5) その他の遺構

ＳＸ1170（第63図参照）

〔調査区〕　G区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔検出状況〕　遺構の一部のみ調査区内で検出した。

〔重複〕　認められない。

〔規模・平面形〕　東西1.5m、南北1.5m 以上、深さ 4 ～25cmで、不整形である。

〔壁〕　一定していない。

〔底面〕　凹凸が著しい。

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。

ＳＸ934

〔調査区〕　D・H区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔重複〕　ＳＩ948、ＳＩ954、ＳＩ955、ＳＩ964、ＳＫ935、ＳＫ943、ＳＫ953を切っている。

〔規模・平面形〕　東西17m、南北22.5m 以上で、深さ 5 ～60cmで、平面形は一定でなく乱れている。

〔堆積土〕　基本層位Ⅲ層で、上面に灰白色火山灰を含んでいる。

〔壁〕　一定していない。

〔底面〕　凹凸が著しい。

〔出土遺物〕　堆積土中から土師器坏、甕、高坏の小片が多量に出土し、須恵器坏、高台付坏、蓋、甕、高坏、壺片が少量出土している。

ＳＸ924（第55図参照）

〔調査区〕　B区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔検出状況〕　木の根による撹乱をうけている。

〔重複〕　ＳＤ345を切っている。

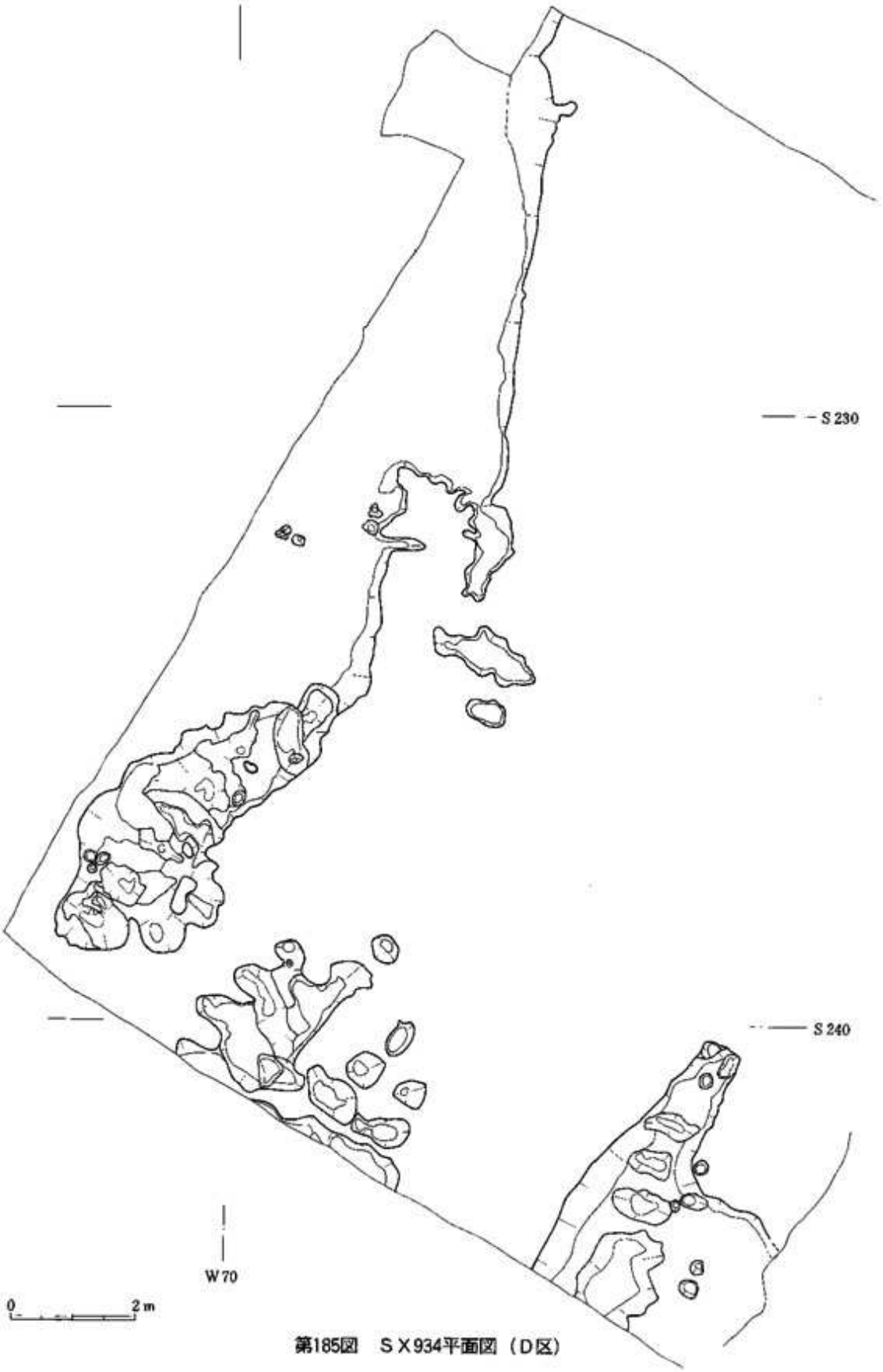
〔規模・平面形〕　調査区の幅が狭く詳細は不明であるが、南北10m 程の範囲で摺鉢状に凹んでいる。Ｓ－296、Ｗ－90付近で最も深度があり、50cm程である。

〔堆積土〕　3 層に大別され、灰黄褐色、褐色粘土などである。

〔壁〕　ゆるやかに途々に立ち上がっている。

〔底面〕　一部に凹凸がある。

〔出土遺物〕　底面より鹿尾が出土し、その他堆積土中から土師器坏、甕、高坏片、内面を黒色処理しない土師器坏片、須恵器坏、蓋、甕、壺片、磁器片が出土している。



第185図　ＳＸ934平面図（Ｄ区）

ＳＸ1102

〔調査区〕　Ｆｂ　Ｇ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔重複〕　ＳＢ1144を切っている。

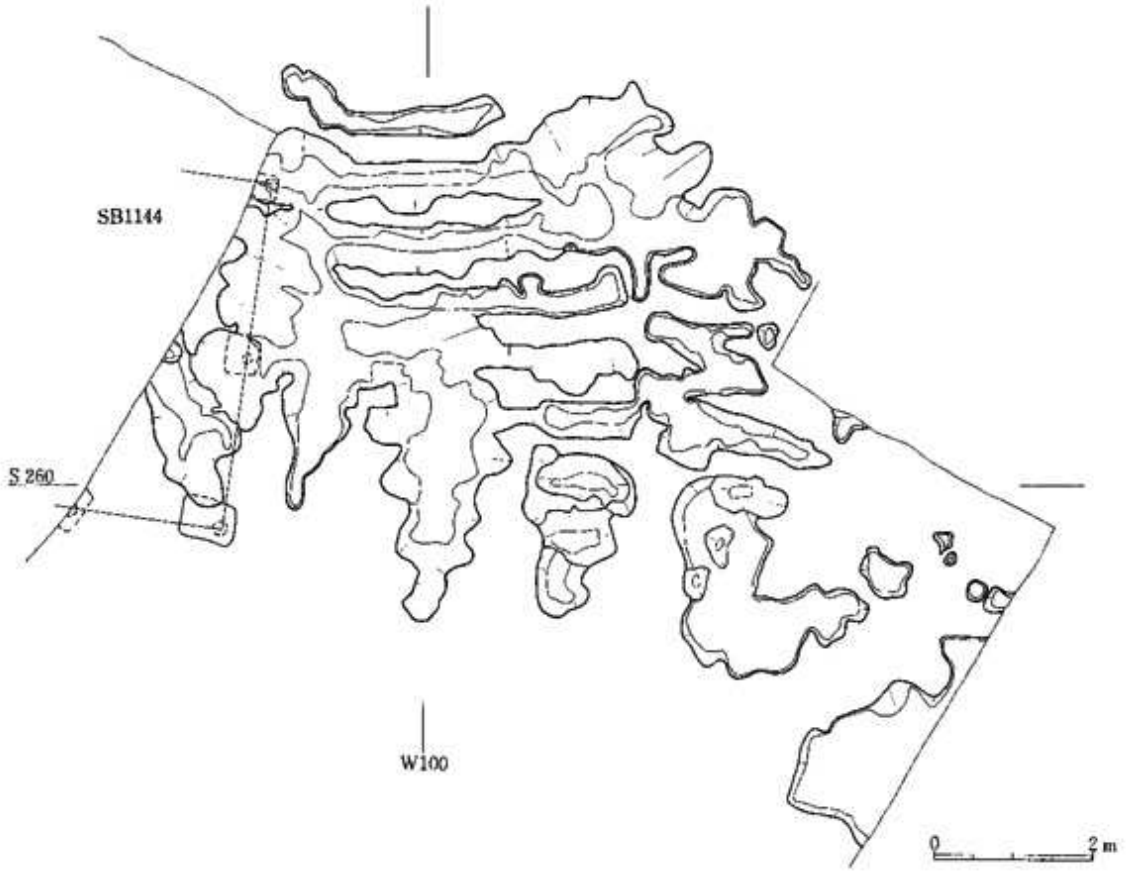
〔規模・平面形〕　東西10m以上、南北9.5m、深さ２～26cmで、平面形は一定でなく乱れている。

〔堆積土〕　基本層位Ⅲ層で、上面に灰白色火山灰を含んでいる。

〔壁〕　一定していない。

〔底面〕　凹凸が著しい。

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。



第186図　ＳＸ1102平面図

ＳＸ930

〔調査区〕　Ｂ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔重複〕　ＳＤ929に切れられている。

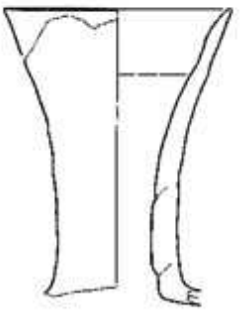
〔規模・平面形〕　調査区の幅が狭く詳細は不明であるが、南北6.5m程の範囲で凹んでいる。

〔堆積土〕　灰黄褐色粘土である。炭化物、焼土を多量に含んでいる。

〔壁〕　一定でない。

〔底面〕　中央部が東西に溝状に落ち込んでいる。

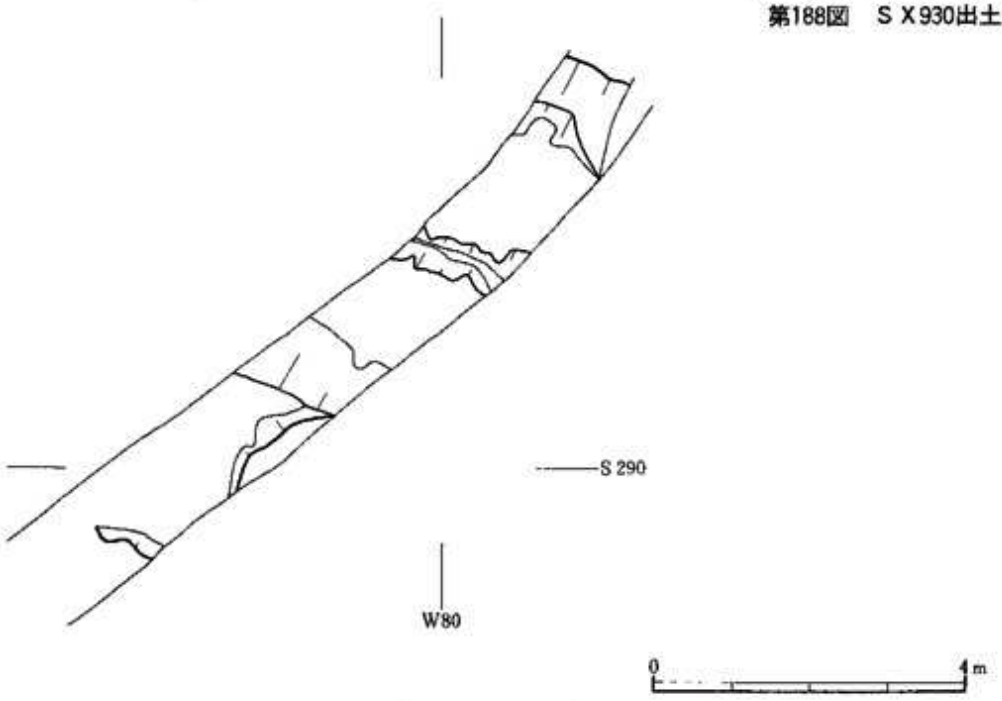
〔出土遺物〕　堆積土上面から須恵器Ｅ－16長頸壺片（第188図）、その他堆積土中から土師器坏、甕片、須恵器坏、蓋、甕、壺、盤片が出土している。



番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	外面調整		
					口縁部	体部	底部
1	E-16	須恵器	長頸壺	SX 930	ロクロナデ	—	—

内面調整			法量(cm)			残存	備考	写真図版
口縁部	体部	底部	器高	口径	底径			
ロクロナデ	—	—	11.7以上	8.8	—			129－7

第188図　ＳＸ930出土遺物



第187図　ＳＸ930平面図

ＳＸ1347（第94図参照）

〔調査区〕　Ｎ区　　〔検出面〕　Ⅳａ層

〔検出状況〕　Ｎ区の北西端で、遺構の一部を検出した。

〔重複〕　ＳＤ1309、ＳＤ1315を切っている。

〔規模・平面形〕　東西4.1m以上、南北1.05m、深さ6～24cmで、平面形は不明である。

〔壁〕　傾斜を有し、直線的に立ち上がっている。

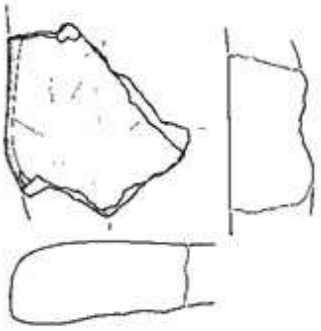
〔底面〕　凹凸がある。

〔出土遺物〕　遺物は出土しなかった。

その他、Ⅳ層中、あるいは上面より以下の遺物が出土している。

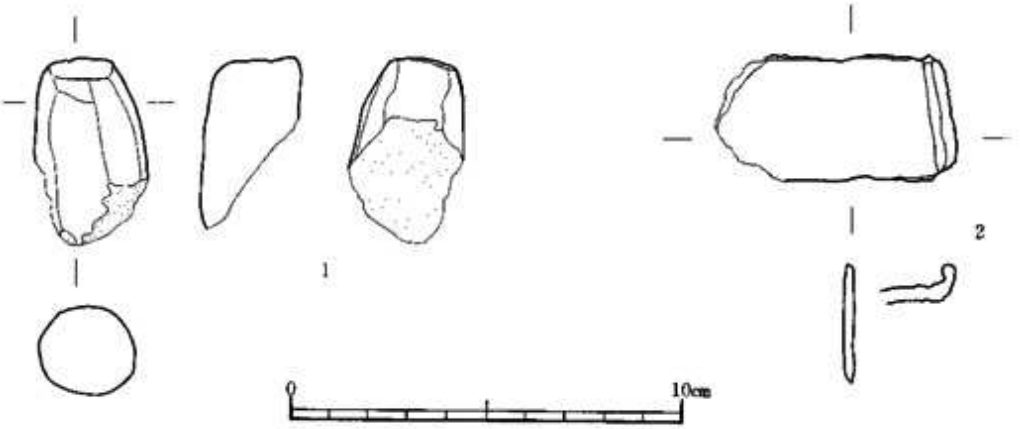
図番号	分類番号	種別	器形	部位	出土地点 地区	遺構	層位	施文記号 外面	内面	備考	写真図版
1	B－215	弥生土器	壺	頸部	K区		Ⅳd層	横位平行沈線文（4条）	不明	外面ナデ	—
2	B－216	弥生土器	壺	頸部	G4区		Ⅳ層上面	L R縄文→横位平行沈線文（2条）	ミガキ		—

第189図　Ⅳ層からの出土遺物（1）



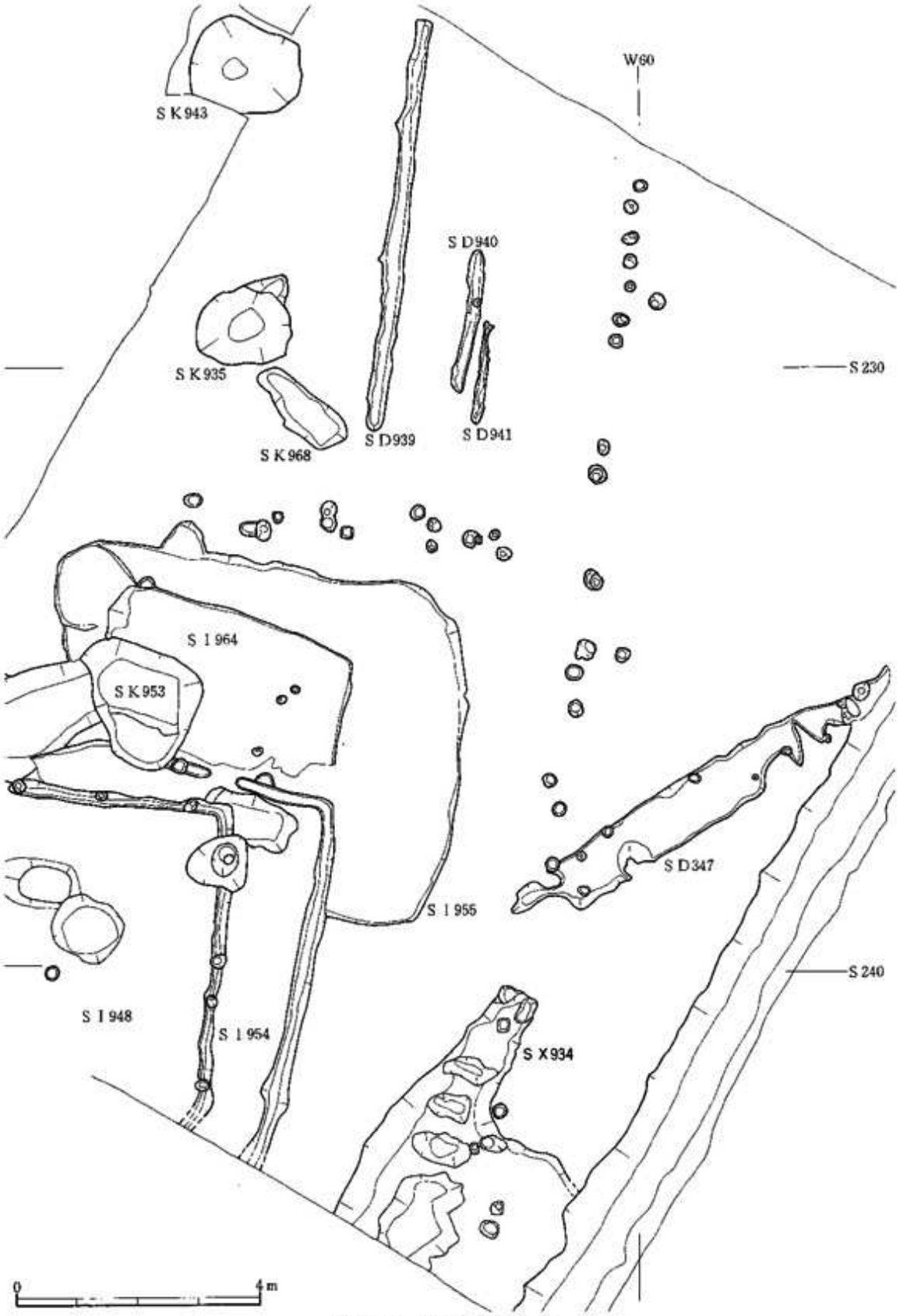
登録番号	種別 石材	出土地点 地区	遺構	層位	法量 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特徴	備考	写真図版
K－32	磨石 凝灰岩	G4区	—	Ⅳ層	7.5	7.2	3.4	239.0	扁面		159 6

第190図　Ⅳ層からの出土遺物（2）

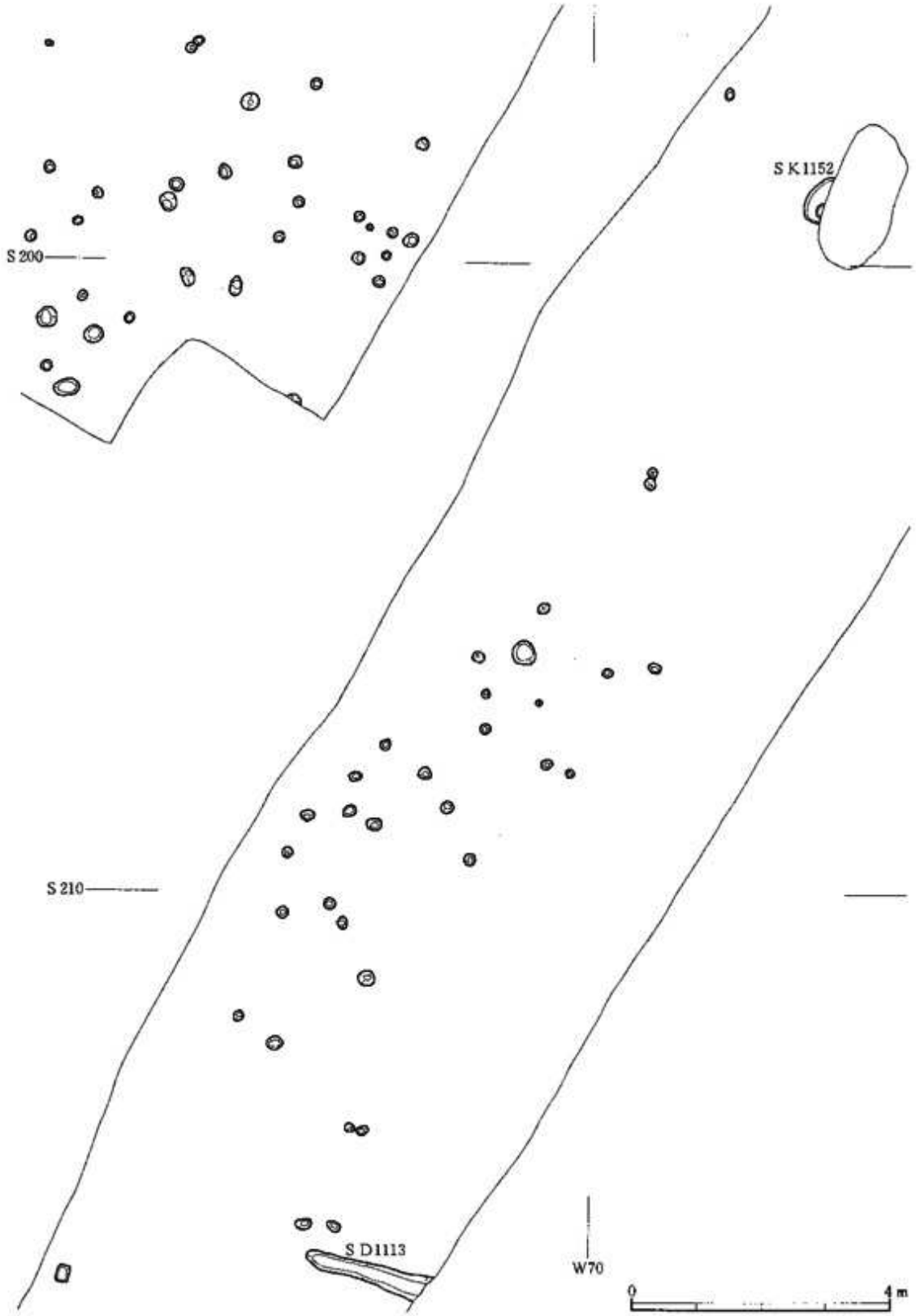


図版番号	遺物番号	出土地点 地区	遺構	層位	種別 器形	法量・特徴	写真図版
1	P－20	L区		Ⅳ層上面	土製品 不明品	長さ4.8cm以上、幅1.8～2.9cm	125－1
2	N－30	I区		Ⅳ下層	金属製品 鏃	長さ6.1cm以上、基部幅3.0cm 刃部幅3.2cm、棟幅0.2～0.3cm	125－5

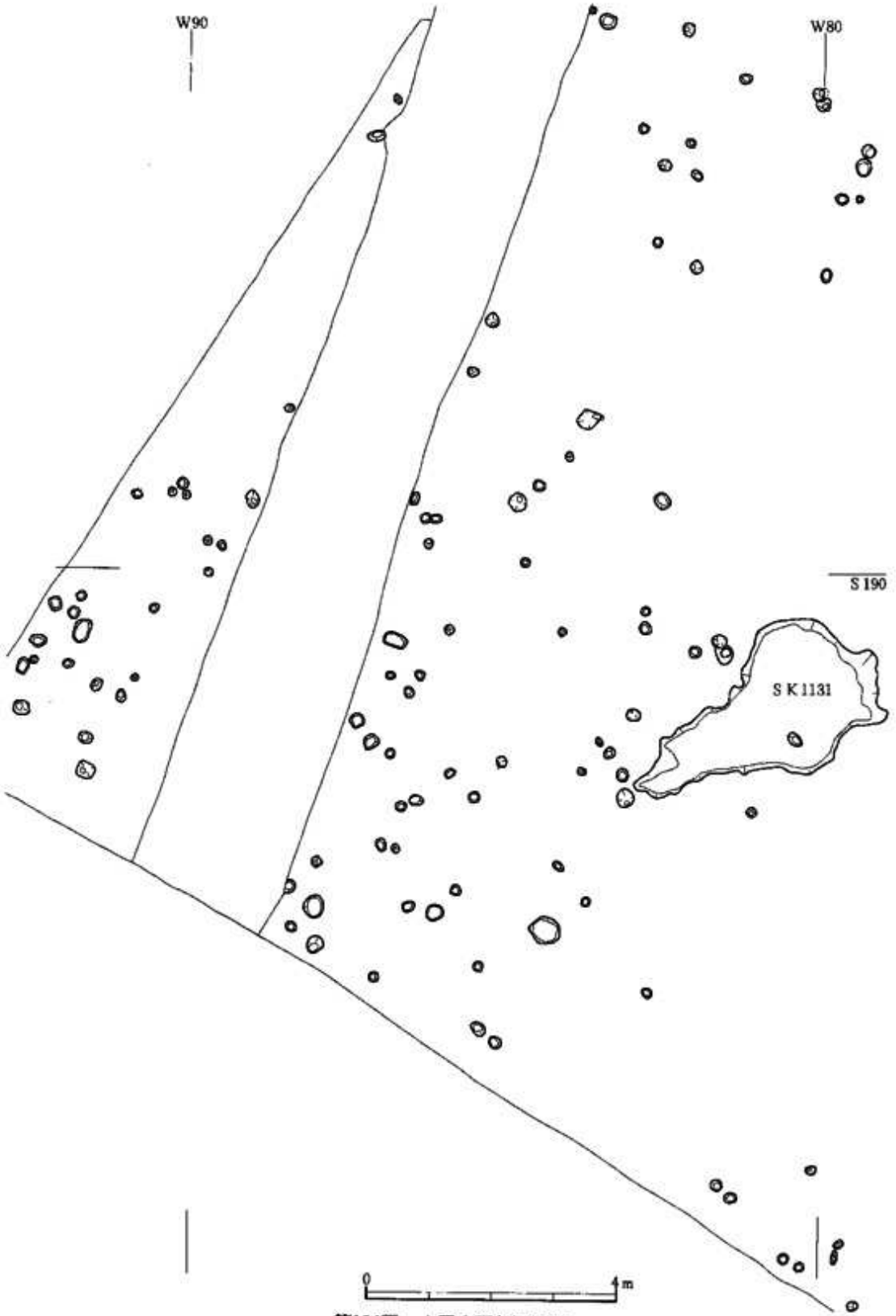
第191図　Ⅳ層からの出土遺物（3）



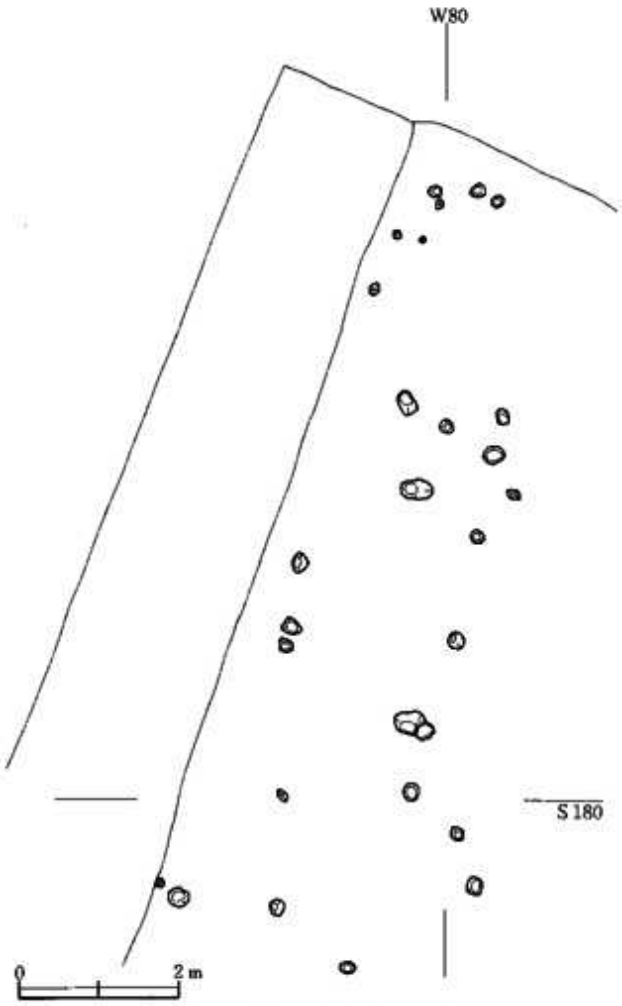
第192図　D区中央部平面図



第193図　H区中央部平面図



第194図　Ⅰ区南西部平面図



第195図　I区北西部平面図

5．Ⅶ層における遺構と遺物

Ⅶ層において検出された遺構は、畦畔状遺構１条である。Ⅶ層の分布はK、L、M区を除いて、厚さに違いはあるが各調査区で確認できる。しかし上面での遺構となると下記の遺構のみである。

畦畔状遺構

〔調査区〕　D区　　〔検出面〕　Ⅶ層

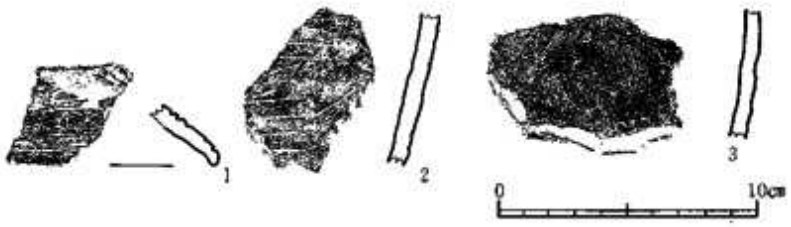
〔重複・検出状況〕　Ⅶ層上面において畦畔状遺構との重複は認められないが、畦畔状遺構の南西部をⅣ層上面の遺構であるＳＩ984、ＳＩ954の掘り方が削平している。また畦畔状遺構の北東部は先行した下層調査のため削平されている。

〔規模・方向〕　検出長は11.5m であるが、さらに南北に延びていたと考えられる。上端幅0.27～2.15m、下端幅1.2～2.5m で、平行した西側が溝状に落ち込んでいる。方向はＮ－43°－Ｅである。

〔構築土〕　基本層位Ⅶ層上での凹凸で別種の土で土盛りをしたものではない。

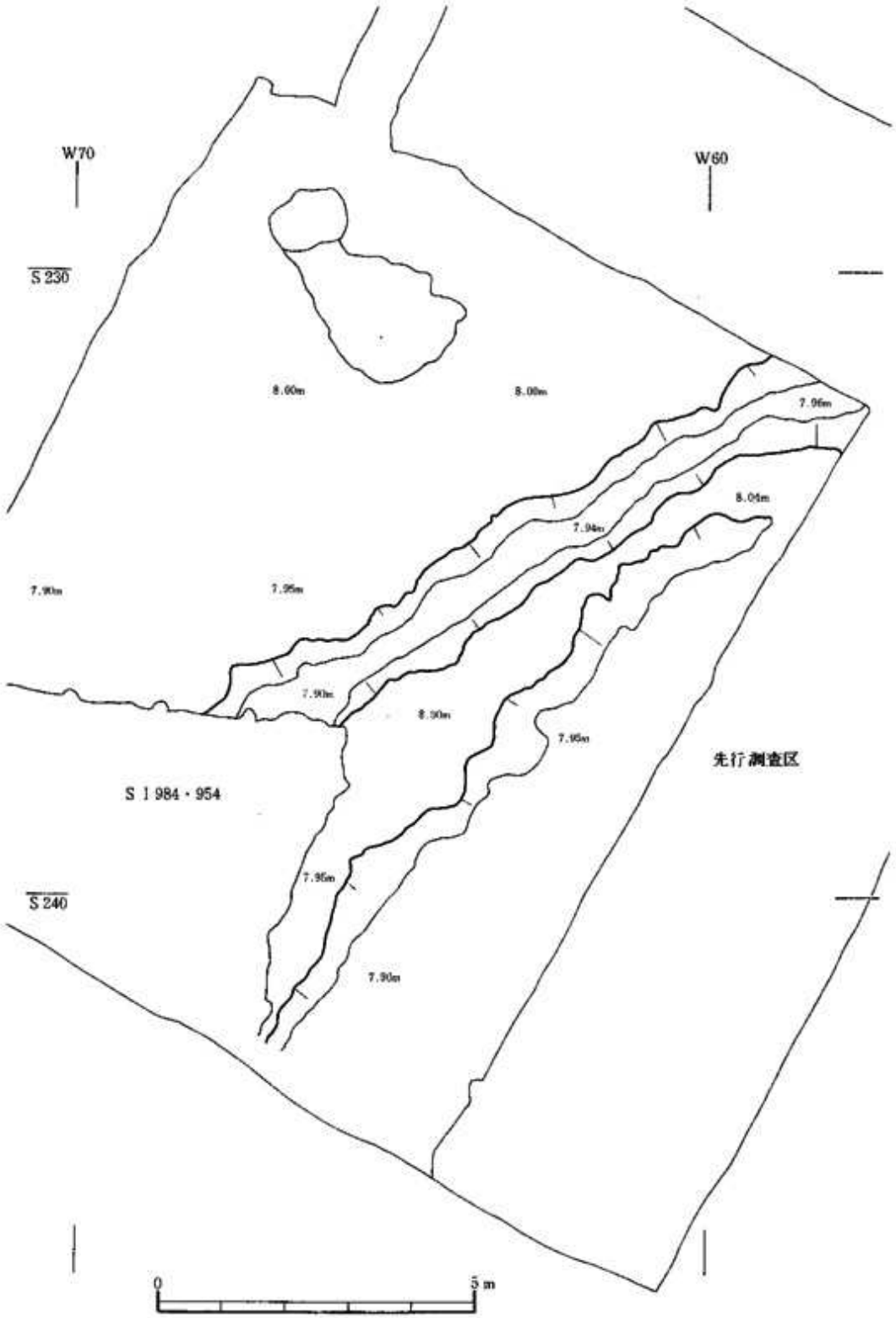
〔その他〕　周辺のⅦ層上面との比高差は、東側で２～６cm高く、西側の溝状の落ち込みの底面で６～８cm、西側の溝状の落ち込みの上端でⅦ層上面とほぼ同じ標高となる。

この他層中より以下の遺物が出土した。



図版番号	登録番号	種別	器種	部位	出土地点 地区	出土地点 遺構	出土地点 層位	施文調整 外面	施文調整 内面	備考	写真図版
1	B－47	弥生土器	壺	口縁部	G区	—	Ⅶ層	沈線	ミガキ		—
2	B－48	弥生土器	不明	体部	G区	—	Ⅶ層	沈線	ミガキ		—
3	B－42	弥生土器	壺	体部	F6区	—	Ⅶ層	沈線	ミガキ		—

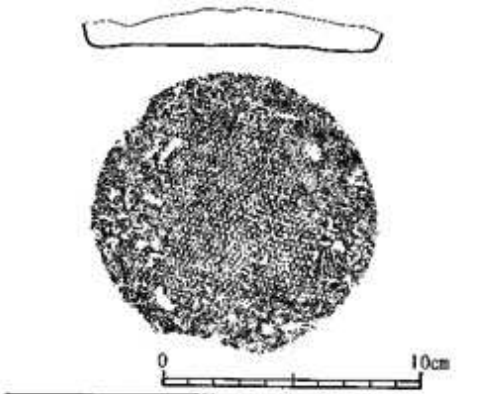
第196図　Ⅶ層中からの出土遺物



第197図　D区畦畔状遺構

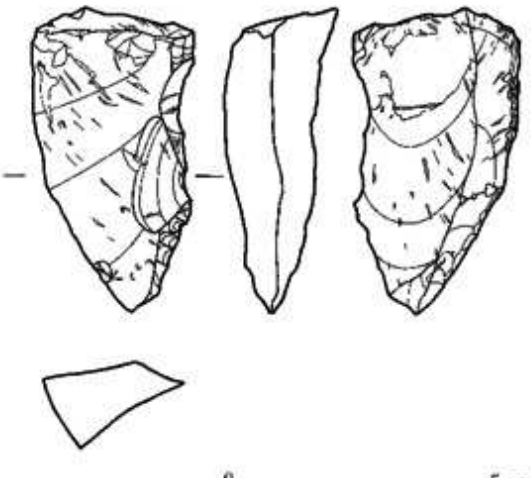
6．Ⅷ層における遺物

Ⅷ層において遺構を検出することはできなかったが、一部に樹木の根の痕跡と考えられるものが観察された。また層中より以下の遺物と石器K－281剝片(写真図版182－４)、K－283(写真図版183－２）が出土した。



登録番号	種別	器形	部位	出土地点 地区	遺構	層位	施文調整 外面	内面	備考	写真図版
B-6	弥生土器	鉢	底部	N区	—	Ⅷ層	(底部)網代痕	—		—

第198図　N区Ⅷ層中からの出土遺物



図版番号	器種	石材	出土地点 地区	遺構	層位	法量 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	写真図版
K-89	剝片	黒曜石	D区	—	Ⅷ層	5.8	3.1	1.5	24.1		185-4

第199図　D区Ⅷ層中からの出土遺物

図版番号	登録番号	種別	器種	部位	出土地点 地区	遺構	層位	施文調整 外面	内面	備考	写真図版
1	B—118	弥生土器	壺	体部	N区		Ⅷ層	LR縄文	剝離		—
2	B—197	弥生土器	鉢	口縁部	D区	—	Ⅷ層	LR縄文	ミガキ		—
3	B—106	弥生土器		体部	N区	—	Ⅷ層	RL縄文	磨滅		—
4	B—104	弥生土器		体部	N区	—	Ⅷ層	RL縄文	磨滅		—

第200図　Ⅷ層中からの出土遺物

7．IX層上面における遺構と遺物

IX層上面において検出された遺構は、畦畔状遺構１条、水田跡１である。IX層の分布は、D、E、N、O区などに限られ、他の調査区では堆積していない層である。

畦畔状遺構

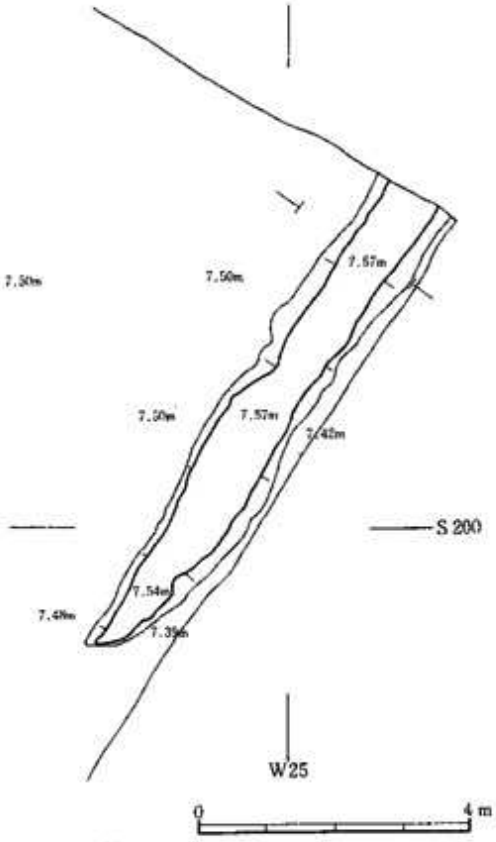
〔調査区〕　E区　　〔検出面〕　IX層上面

〔重複〕　認められない。

〔規模・方向〕　検出長8.4mであるが、さらに調査区外へ延びていると考えられる。上端幅0.55～１m、下端幅１m以上で、東側が落ち込んで土手状になっている。方向はN－25.5°－Eである。

〔構築土〕　基本層位IXａ層による盛り上りで、別種の土で土盛りをしたものではない。

〔その他〕　周辺のIX層上面との比高差は、西側で４～８cmで、東側は12～20cmである。



第201図　E区畦畔状遺跡

IX層　水田跡

〔調査区〕　O区

〔検出面〕　IX層

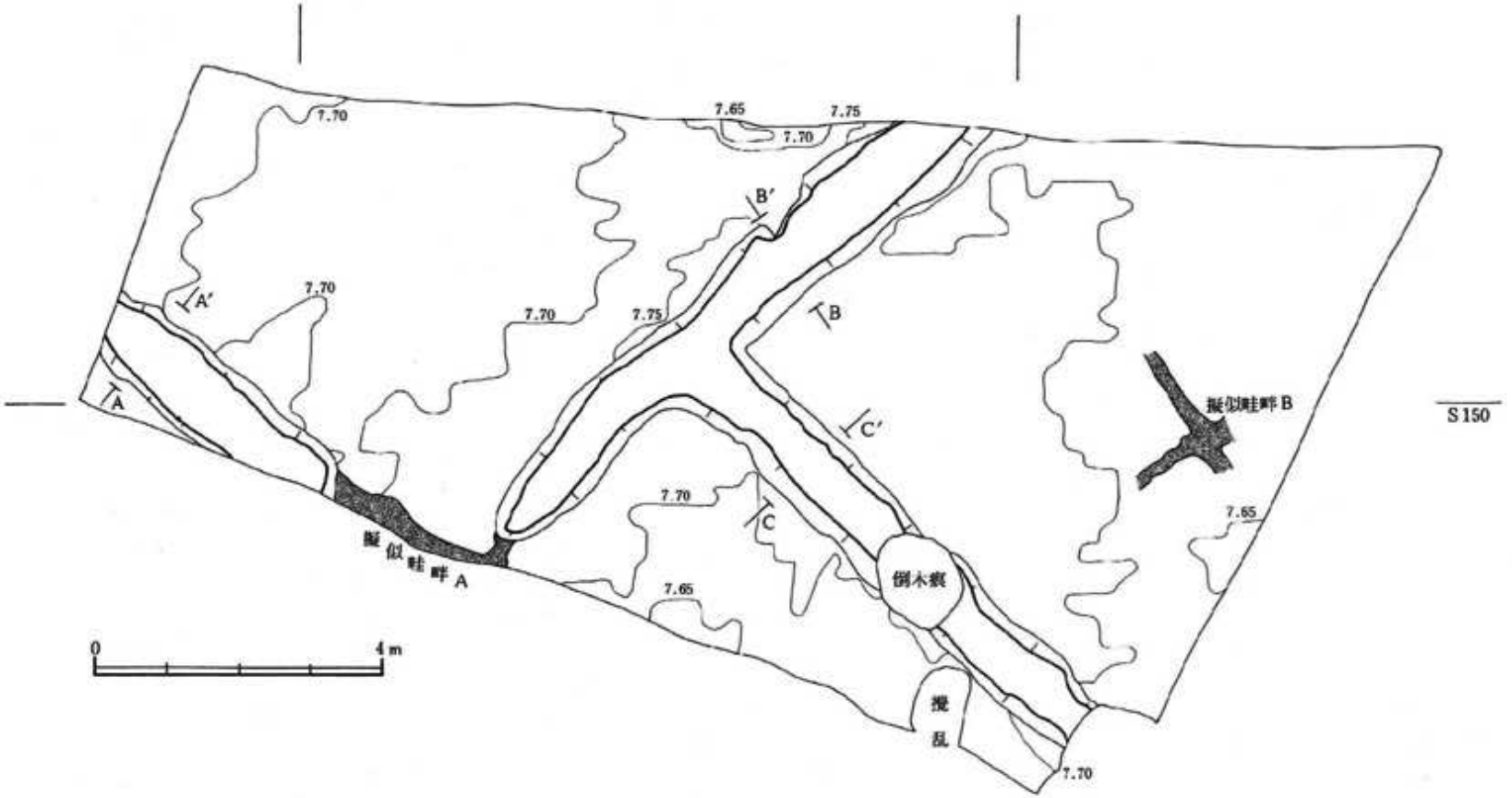
〔検出・残存・重複状況〕　Ⅷ層を除去しながら、畦畔、擬似畦畔を検出した。倒木痕（長軸280cm、短軸220cm、深さ40cm、不整円形）に畦畔の一部が撹乱されているが、他の遺構との重複は認められない。

〔水田の構成・形状・規模〕　２ケ所でT字形に交差する大畦畔を検出した。

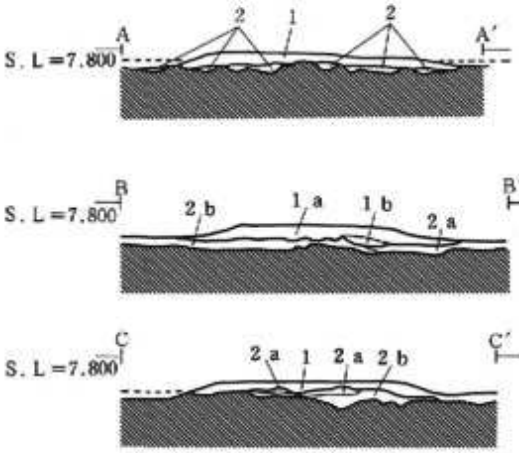
（畦畔）

完全な水田区画は検出していない。大畦畔の規模は上端幅90～180cm、下端幅150～250cm、作土上面からの高さ５～10cmを測り、N－40°－E（検出長16.5m）の方向の畦畔と、これに直交するE－33°－S（同８m）、E－36°－S（同15m）の方向を示す２本の畦畔が、調査区内で交差する。土壌は灰黄褐色シルト質粘土の盛り土畦畔である。大畦畔の下面、および調査区東側で十字形に直交する擬似畦畔を確認している。

（水口）



第202図　Ⅸ層水田跡平面図



A-A'

層位	土色	土性	備考
1	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	畦畔盛土
2	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	基本層位IXb層

B-B'

層位	土色	土性	備考
1a	10YR 5/2 灰黄褐色	シルト質粘土	畦畔盛土、酸化鉄・マンガン多い
1b	10YR 5/2 灰黄褐色	シルト質粘土	畦畔盛土
2a	10YR 5/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土	作土
2b	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土	作土

C-C'

層位	土色	土性	備考
1	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	畦畔盛土
2a	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	基本層位IXb層
2b	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	基本層位IXb層、マンガン多い

第203図　Ⅳ層水田跡断面図

水田面の標高は7.70m前後で、水田区画間ではほとんど標高差がないが、N－40°－EとE－33°－Sの方向を示す畦畔の交差部分付近ではIX層が薄く、4.5mほどが途切れて擬似畦畔が表出している。調査区壁面の観察では、IX層の盛り上りも確認され、この部分では水流などにより、畦畔部分が削平され、擬似畦畔だけがくびれた形状で確認された。水口もしくは畦畔の決壊によるものであろう。

（作土）

厚さ8～14cm程度である。畦畔下部では擬似畦畔を検出している。作土下面には鉄分の集積は認められなかった。

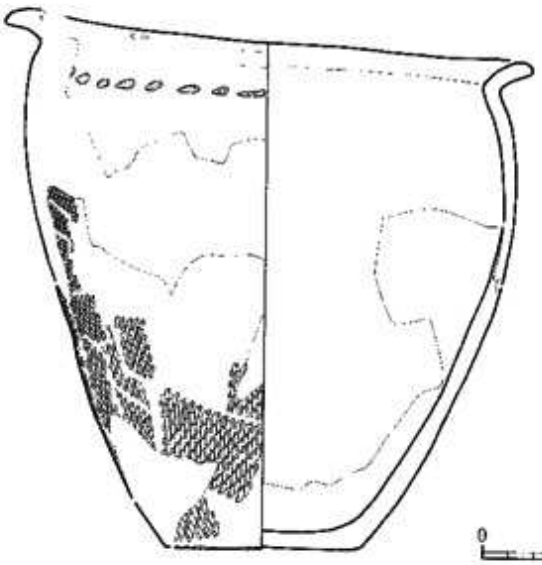
（擬似畦畔）

大畦畔以外に調査区東側の水田区画内、IX層水田の作土上面で擬似畦畔を検出した。規模は30～60cm、長さ4mと3m、方向N－39°－W、E－23°－Nの直交する2本である。大畦畔とセットで区画をなす小畦畔の擬似畦畔であるとすれば、一区画の面積は約80m²となる。

（出土遺物）

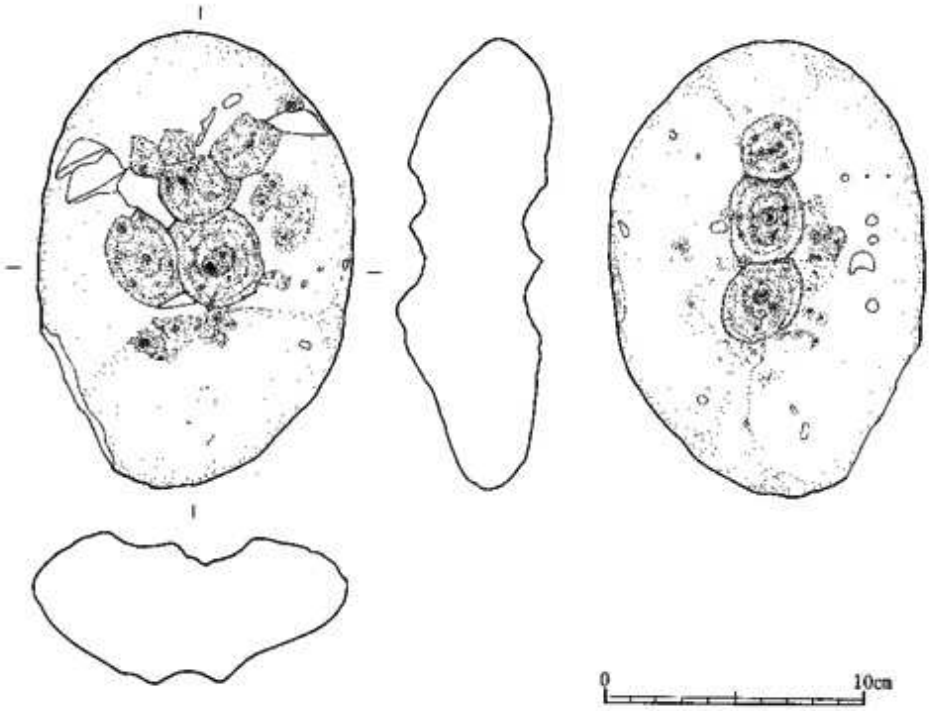
大畦畔の交差部分、擬似畦畔上面付近に集中して、弥生土器の破片や剝片K－183（写真図版174－5）が出土している。その他、N区西側IX層上面でも弥生土器B－4甕、B－5、B－6、K－260凹石（第204図2）などや使用痕跡の観察されるK－268（第Ⅴ章11参照）が出土している。

〔その他〕　IX層の分布は、O区を中心に検出されており、層厚は15～25cmほどで、西側で厚い。西から東側にいくにつれて色調が徐々に明るくなり、N区ではX層との分層が困難になって西側の一部を除きIX層を確認できなかった。IX層の標高は、7.6～7.8m前後で、IX層の地形はほぼ水平である。



0 10cm

登録番号	種別	器種	部位	出土地点 地区	出土地点 遺構	出土地点 層位	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	施文調整 外面	施文調整 内面	備考	写真図版
B—4	弥生土器	鉢		N区		Ⅸ層	20.2	(20.1)	7.2	刻目文 1. R縄文	ミガキ		—



0 10cm

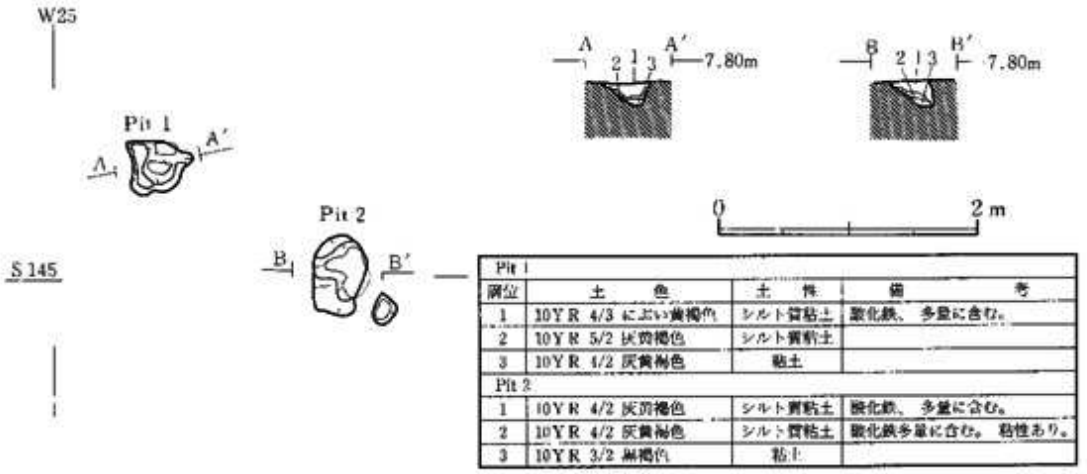
図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点 地区	出土地点 遺構	出土地点 層位	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重量(g)	特徴	備考	写真図版
2	K—260	磨石類	凝灰岩	N区		Ⅸ層	17.8	12.2	5.8	902.4		凹石	177—3

第204図　Ⅸ層からの出土遺物（1）

8．X層における遺構と遺物

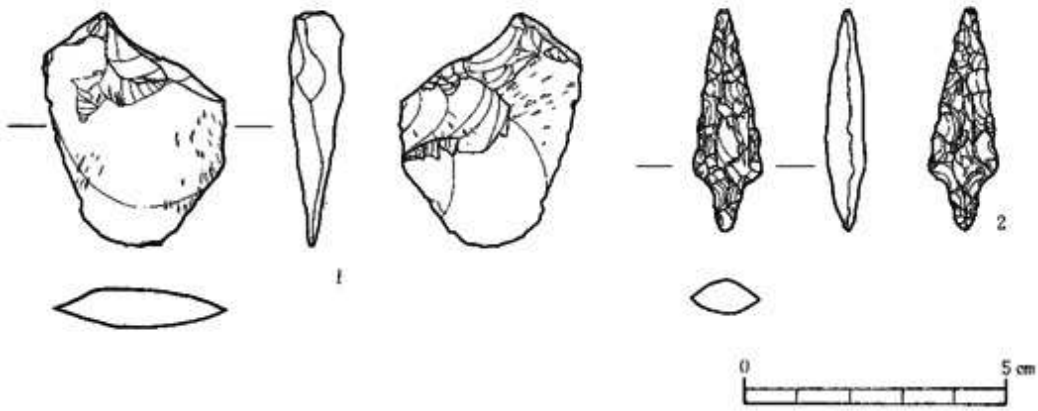
X層において遺構を検出したのは、O区においてのみである。

O区北東端、X層上面でPitを3基検出した。Pitは直径30～40cm前後、深さ18cm程の2基と直径20cm、深さ8cm程度の1基である。堆積土は灰黄褐色シルト質粘土を主とする。X層上面および、ピット内で火山灰を確認している。P42の内堆積土から縄文土器小片を4点出土している。



Pit 1			
層位	土色	土性	備考
1	10YR 4/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土	酸化鉄、多量に含む。
2	10YR 5/2 灰黄褐色	シルト質粘土	
3	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土	
Pit 2			
1	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	酸化鉄、多量に含む。
2	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	酸化鉄多量に含む。粘性あり。
3	10YR 3/2 黒褐色	粘土	

第205図　O区X層上面平・断面図



図版番号	登録	種別	石材	出土地点			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特徴	備考	写真図版
				未区	遺構	層位							
1	K-133	剥片	安山岩	I区		X層	4.5	3.3	0.75	9.90			168 9
2	K 6	石鏃	珪質凝灰岩	P5 北		X層	4.2	1.3	0.6	2.80			156-3

第206図　X層中からの出土遺物

9．XI層における遺構と遺物

XI層において検出された遺構は、D区東壁沿いで検出した性格不明な遺構とI区で検出した土坑、ピットなどである。XI層は明確な遺構や、それに伴っての遺物の出土は少量で、遺物はXI層の層上面や層中よりの出土がほとんどである。またI区、H区では倒木痕跡が明瞭で、その周辺では遺物の集中にまとまりが見い出せる箇所がある。

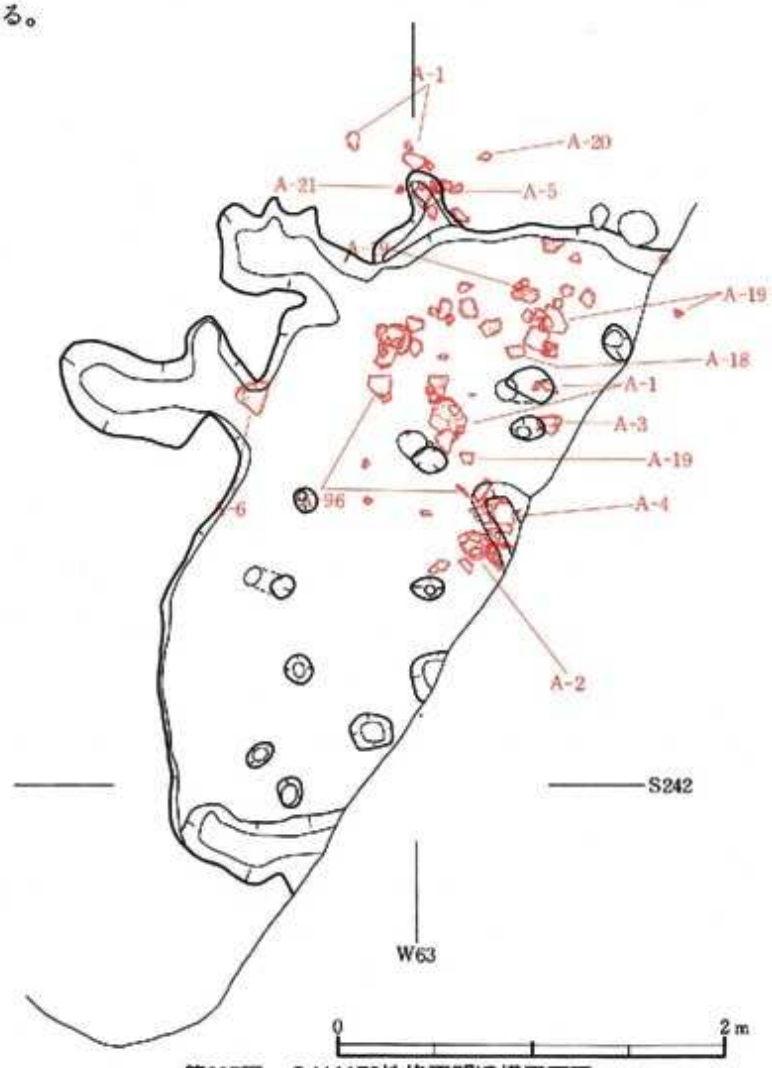
S X1173

〔調査区〕　D区　　〔検出面〕　XI c層上面

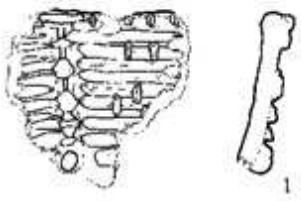
〔検出状況〕　遺構の一部のみ調査区内で検出した。

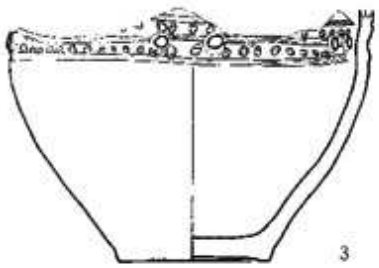
〔規模・平面形〕　東西3 m、南北3.8m、深さ4～12cmで不整形である。

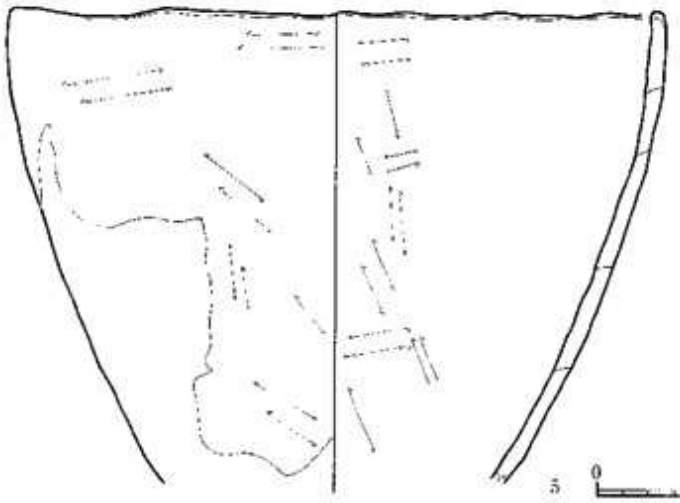
〔堆積土〕　遺構内に堆積しているのは、基本層位XI b層が漸次変化したもので、炭化物を多量に含んでいる。



第207図　S X1173性格不明遺構平面図







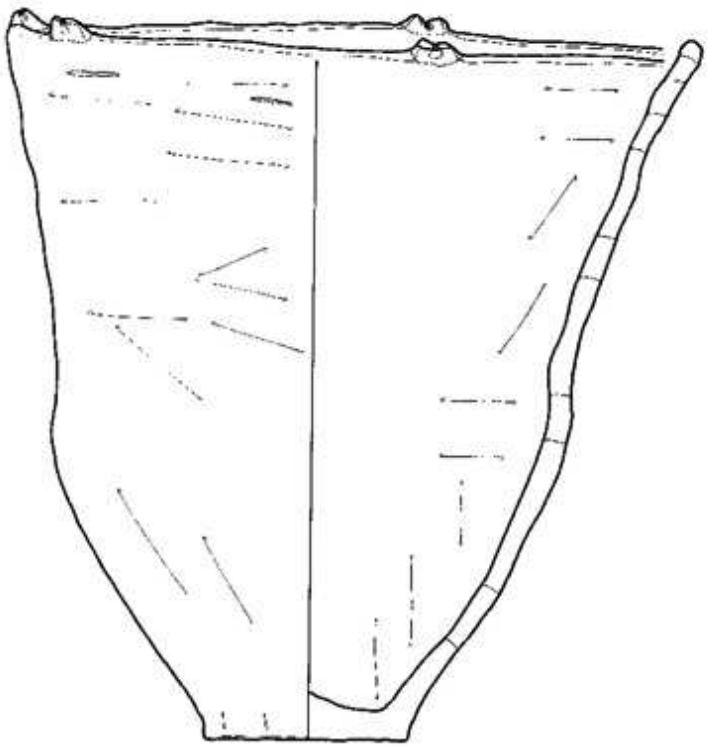
図版番号	試料番号	種別	器形	部位	出土地点 地区	出土地点 遺構	出土地点 層位	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	施文調整 外面	施文調整 内面	備考	写真図版
1	A—5①	縄文土器	鉢	口縁部	D区	SX1173		——	——	——	張り付け→沈線文 →刻目文	ミガキ		139—2
2	A—5②	縄文土器	鉢	口縁部	D区	SX1173		——	——	——	張り付け→沈線文 →刻目文	ミガキ		139—1
3	A—2	縄文土器	深鉢	体部～底部	D区	SX1173	Nb層	9.8以上	——	5.9	沈線文→刺突 →櫛状小突起	ミガキ		139—4
4	A—3	縄文土器	深鉢	口縁部～底部	D区	SX1173	Nb層	13.2	14.6	4.2	(口縁部)小突起 (LR横走)刻目文→沈線文 (体部)LR縄文→沈線文 →小突起→刻目文	ミガキ		139—3
5	A—4	縄文土器	深鉢	口縁部～体部	D区	SX1173	N 層	18.6以上	25.1	——	ミガキ	ミガキ		139—6

第208図　SX1173出土遺物（1）

〔壁〕　直線的に急に立ち上がっている。

〔底面〕　深さや形状の一定しないピット状の落ち込みが12ケ所あり、南端部は底面より２～９cm溝状に落ち込んでいる。また東壁ぎわでは底面より５～14cmの高さで舌状に盛り上がっている箇所がある。

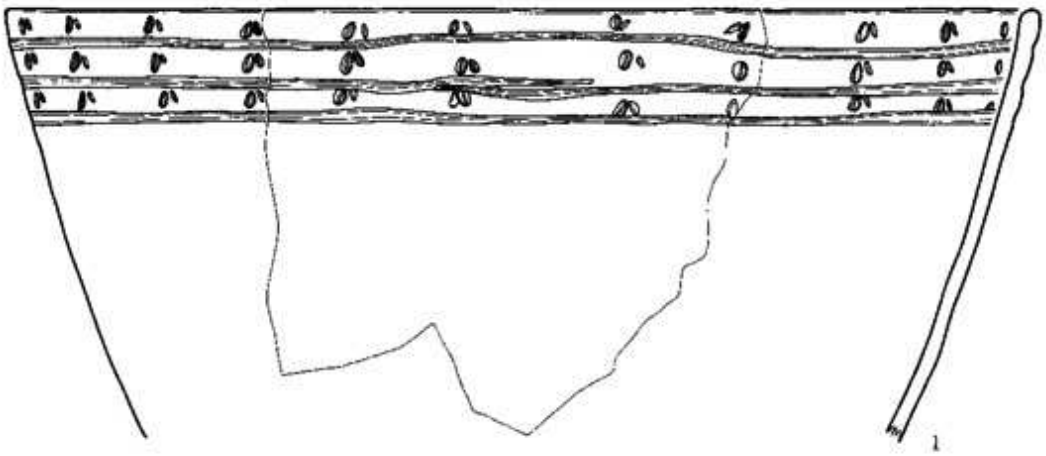
〔出土遺物〕　縄文土器が多量の炭化物とともにまとまって出土した。遺構内で破片が一ヶ所に集中して出土しているのが、縄文土器Ａ－２、４、５（第208図３、５、１～２）、Ａ－18（第211図２）、Ａ－21（第211図２）深鉢などで、遺構内で破片が散在的に出土しているのが縄文土器Ａ－１（第209図）、Ａ－３（第208図４）、Ａ－19、20（第211図１、２）などである。遺物の出土状況から、同時期に埋まったものと考えられる。

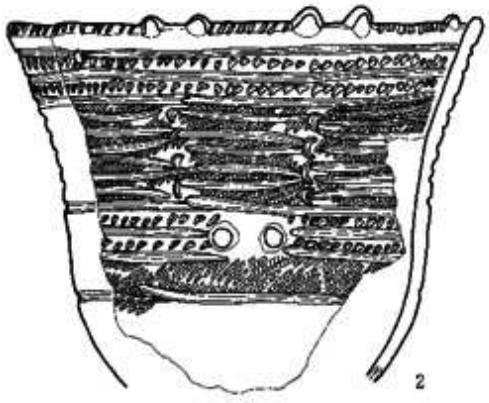


登録番号	種別	器形	部位	出土地点 地区	出土地点 遺構	出土地点 層位	法量 器高	法量 口径	法量 底径	施文調整 外面	施文調整 内面	備考	図版
A—1	縄文土器	深鉢		D区	S X1173	Ⅵ層	26.6	25.5	7.8	ミガキ 口縁部、突起5有 底部、網代痕	ミガキ		139—5

第209図　ＳＸ1173出土状況（２）

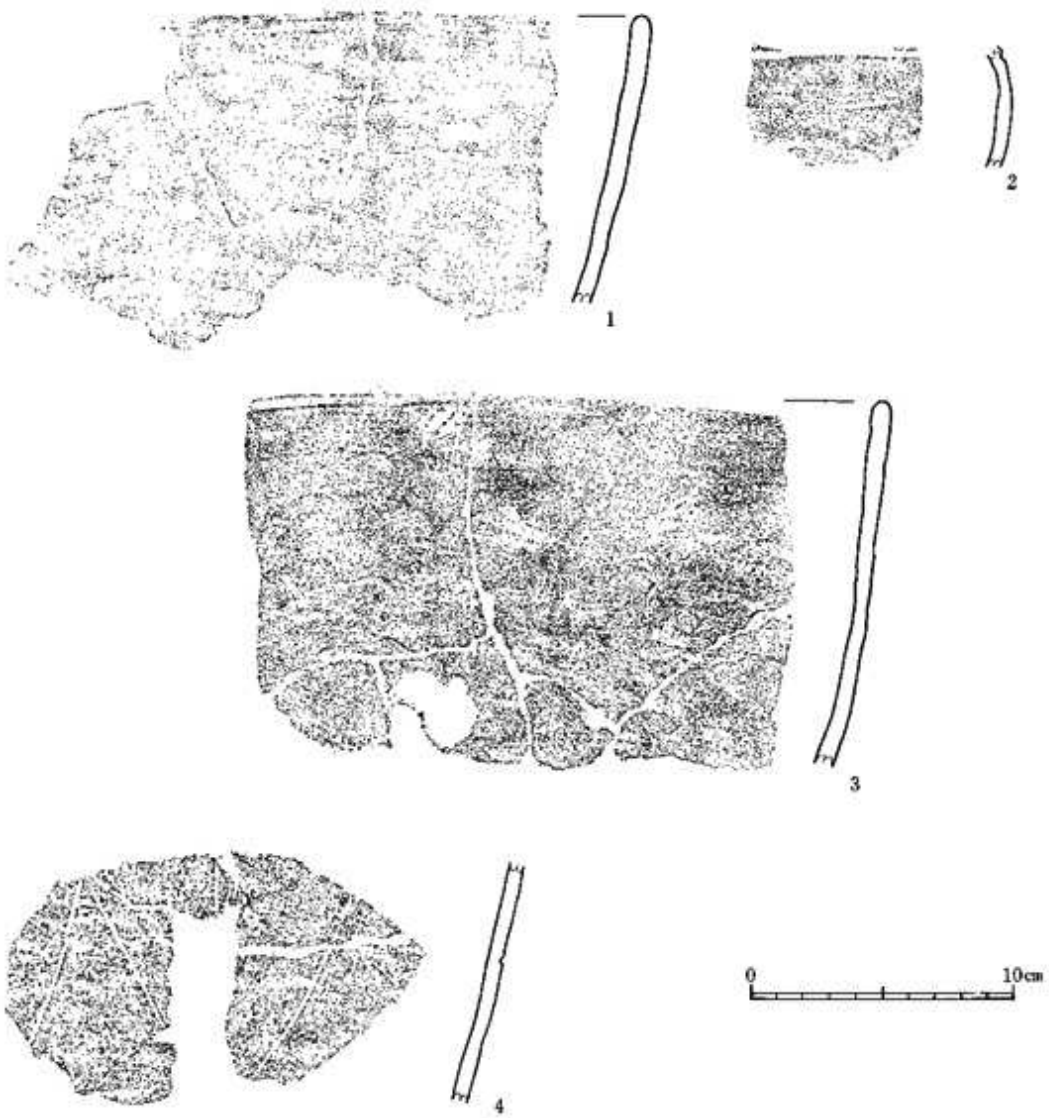
出土した遺物の特徴は縄文土器A－2、4、6深鉢などは瘤状の小突起が充填され、それとともに沈線で区画された中に刻目や、沈線の中に縄文の充填された入組帯状文が配されたものなどである。また縄文土器A－1深鉢は、無文ではあるが全体の器高が瘤状の小突起や入り組み帯縄文の施された深鉢と同様の特徴を示している。





図版番号	登録番号	種別	器形	部位	出土地点			法量(cm)			縄文調整		備考	写真図版
					地区	遺構	層位	器高	口径	高径	外面	内面		
1	A－96	縄文土器	鉢	口縁部～体部	D区	S X 1173		16.3以上	43.0		刺突文→沈線文	ミガキ		145-8
2	A－6	縄文土器	深鉢	口縁部～体部	D区	S X 1173		14.5以上	17.9		(口縁部)小突起→刻目文 (口縁部)沈線文→刺突文 刺突文 瘤状 (体部) →沈線文→ LR縄文 小突起	ミガキ		140-5

第210図　S X1173出土遺物（3）



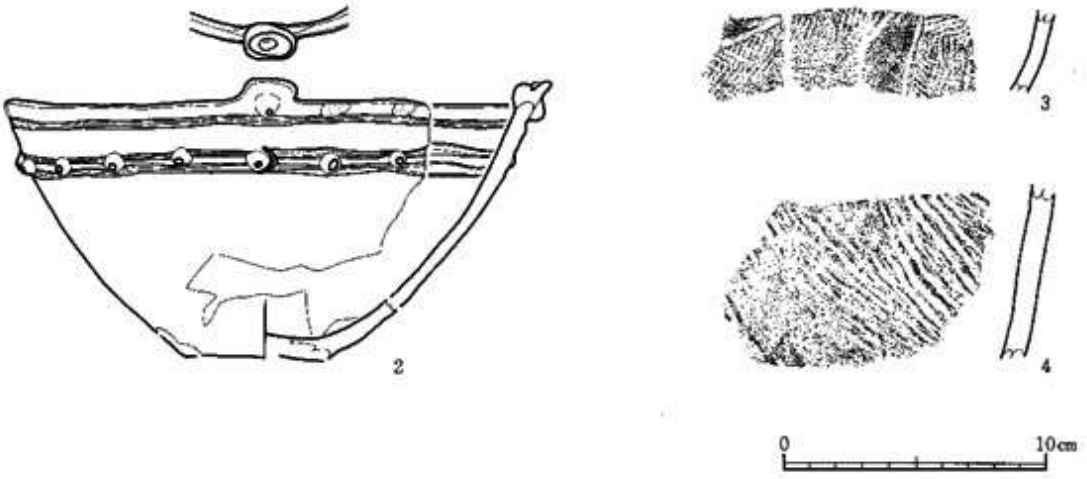
図版番号	登録番号	種別	器形	部位	出土地点 地区	遺構	層位	法量(cm) 器高	口径	底径	整形・文様 外面	内面	備考	写真図版
1	A-19	縄文土器	鉢	口縁部～体部	D区	SX1173		11以上			ミガキ	ミガキ		141-2
2	A-21	縄文土器	鉢	体部	D区	SX1173		4.5以上			沈線文・ミガキ	ミガキ→ 磨ナデ		
3	A-18	縄文土器	鉢	口縁部～体部	D区	SX1173		14以上			ミガキ	ミガキ		141-1
4	A-20	縄文土器	鉢	体部	D区	SX1173		9以上			ケズリ→ミガキ→沈線文	ミガキ		－

第211図　ＳＸ1173出土遺物（４）

D区における出土遺物

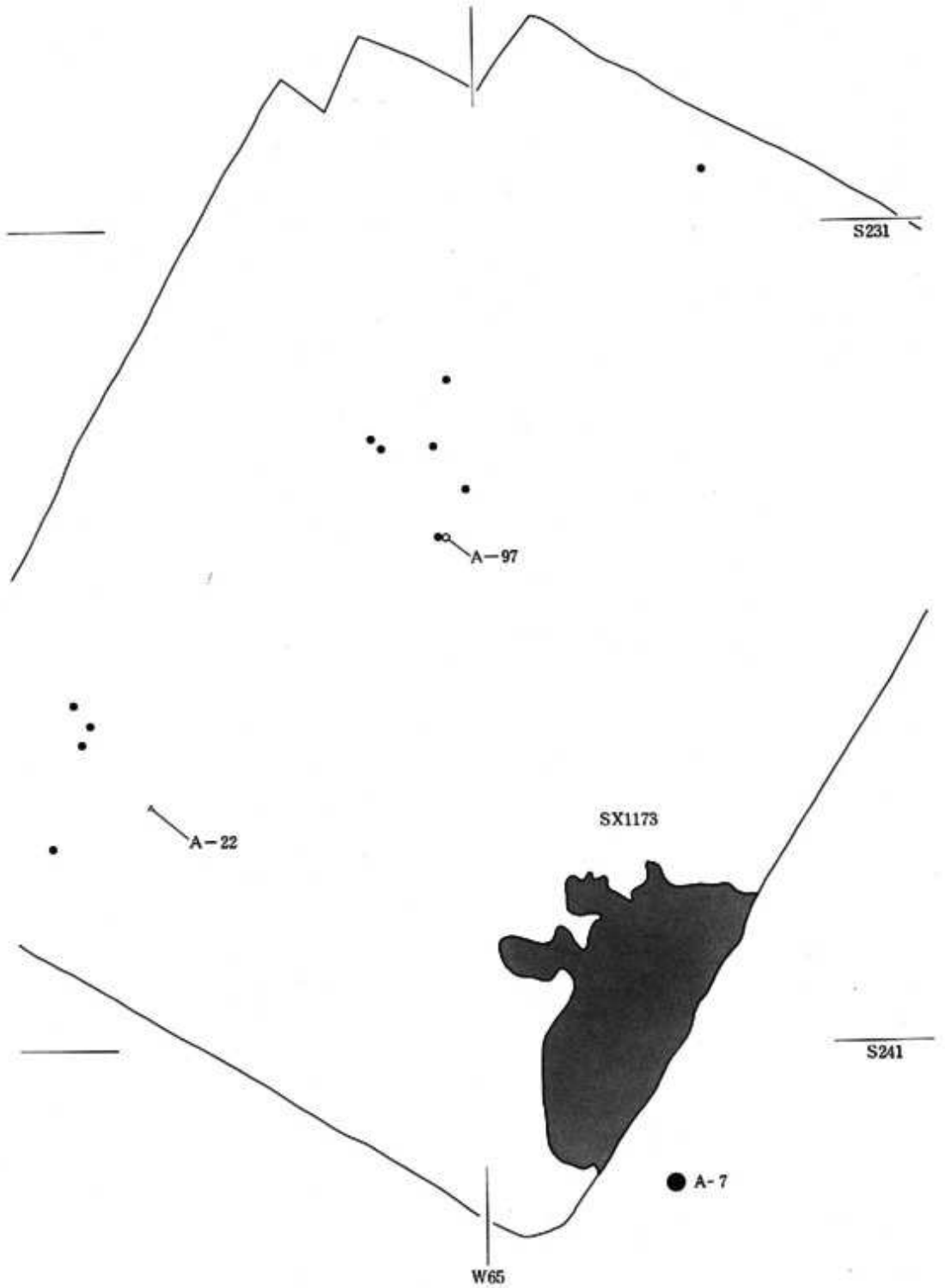
ＳＸ1173の他に、Ｄ区Ⅺ層中より縄文土器片が少量出土している。そのうち図化可能な特徴的なものについて載せておく。Ⅺｃ層中より縄文土器Ａ－７浅鉢（第212図２）が第213図のように小破片が散在して出土している。他にもⅪｃ層中より縄文土器Ａ－97、14、22(第212図１、３、４）などが出土している。

ＳＸ1173出土の縄文土器とⅪｃ層中より出土した縄文土器の出土状況を検討してみると、ＳＸ1173はⅪｃ層上面で検出されるものであり、その中から集中して出土した土器はⅪｃ層中から出土した土器との間に、明らかに時間的な差が認められることになる。しかしＳＸ1173は平、断面を観察すると、人為的な掘り込みとしては不明瞭な点がある。したがってここでは第212図に示したⅪｃ層中出土の土器が、ＳＸ1173出土土器より、やや先行する可能性を指摘するにとどめたい。なお土器の年代観については第４節においてふれるが、縄文時代後期後半の年代が与えられるようである。



図版番号	登録番号	種別	器形	部位	出土地点 地区	遺構	層位	法量(cm) 器高	口径	底径	施文調整 外面	内面	備考	写真図版
1	Ａ－97	縄文土器	不明	不明	Ｄ区		Ⅺｃ層中	2.0以上			ＬＲ縄文→縦状突起→沈線文	ミガキ		145-3
2	Ａ－７	縄文土器	浅鉢	口縁部～底部	Ｄ区		Ⅺｃ層上面	10.8	10.9	5.4	沈線文→縦状突起	ミガキ		140-3
3	Ａ－14	縄文土器	不明	体部	Ｄ区		Ⅺｃ層中	3.1以上			ＬＲ縄文→沈線文	ミガキ		－
4	Ａ－22	縄文土器	深鉢	体部	Ｄ区		Ⅺｃ層中	6.2以上			Ｒ撚糸文	ミガキ		-

第212図　Ｄ区Ⅺｃ層出土遺物（１）



第213図　D区XIc層遺物出土状況

ＳＫ1162土坑

〔調査区〕　Ⅰ区　　〔検出面〕　Ⅺｂ層

〔重複〕　認められない。

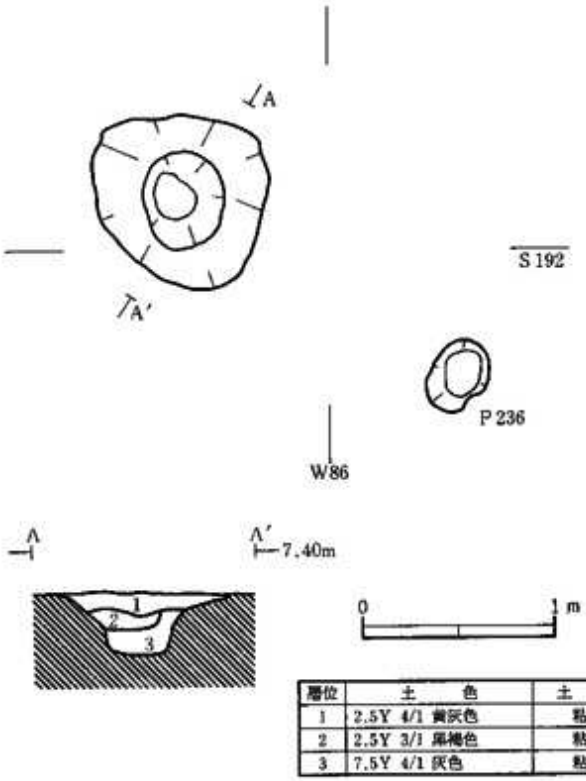
〔規模・平面形〕　長軸1.01m、短軸0.86m、深さ33cmで、不整円形である。

〔堆積土〕　３層に分けられ、黄灰色、黒褐色、灰色粘土などである。

〔壁〕　下半は直線的に急に立ち上がり、上半に至って直線的ではあるがゆるやかに立ち上がっている。

〔底面〕　中央部がやや凹んでいるが、ほぼ平坦である。

〔出土遺物〕　少量の骨片を出土した。

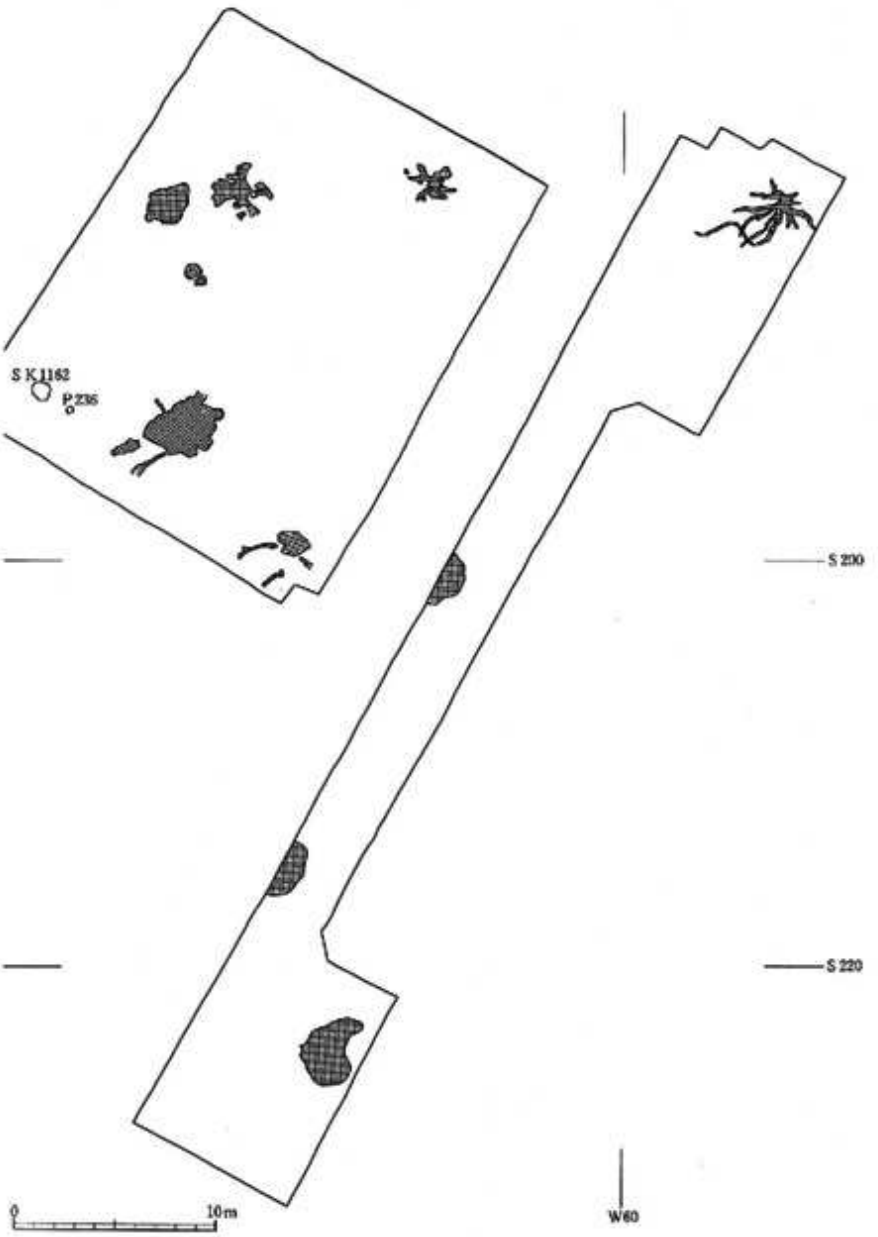


層位	土　色	土　性
1	2.5Y 4/1 黄灰色	粘土
2	2.5Y 3/1 黒褐色	粘土
3	7.5Y 4/1 灰色	粘土

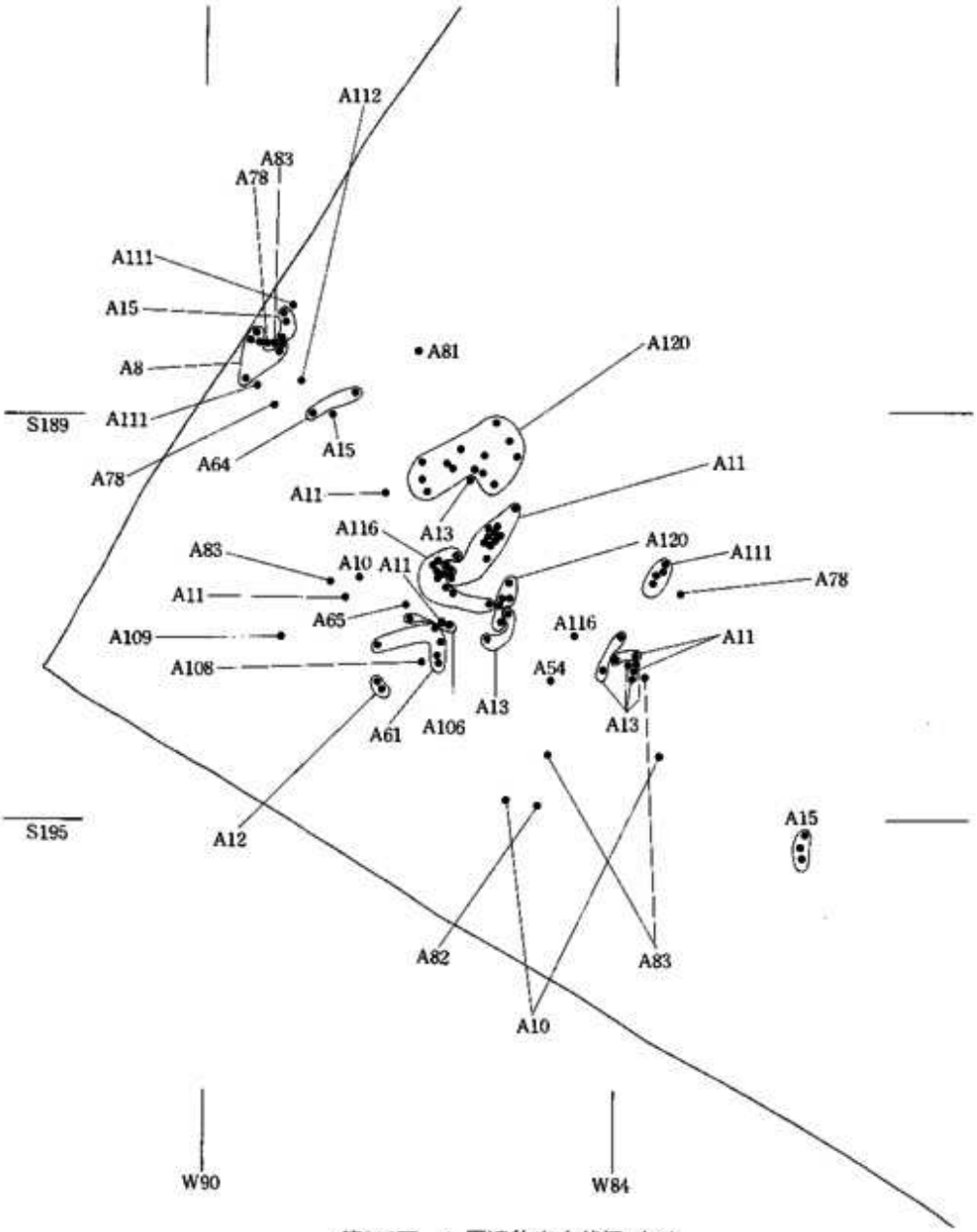
第214図　Ⅰ区ＳＫ1162土坑平・断面図

Ⅰ、H、F区における出土遺物

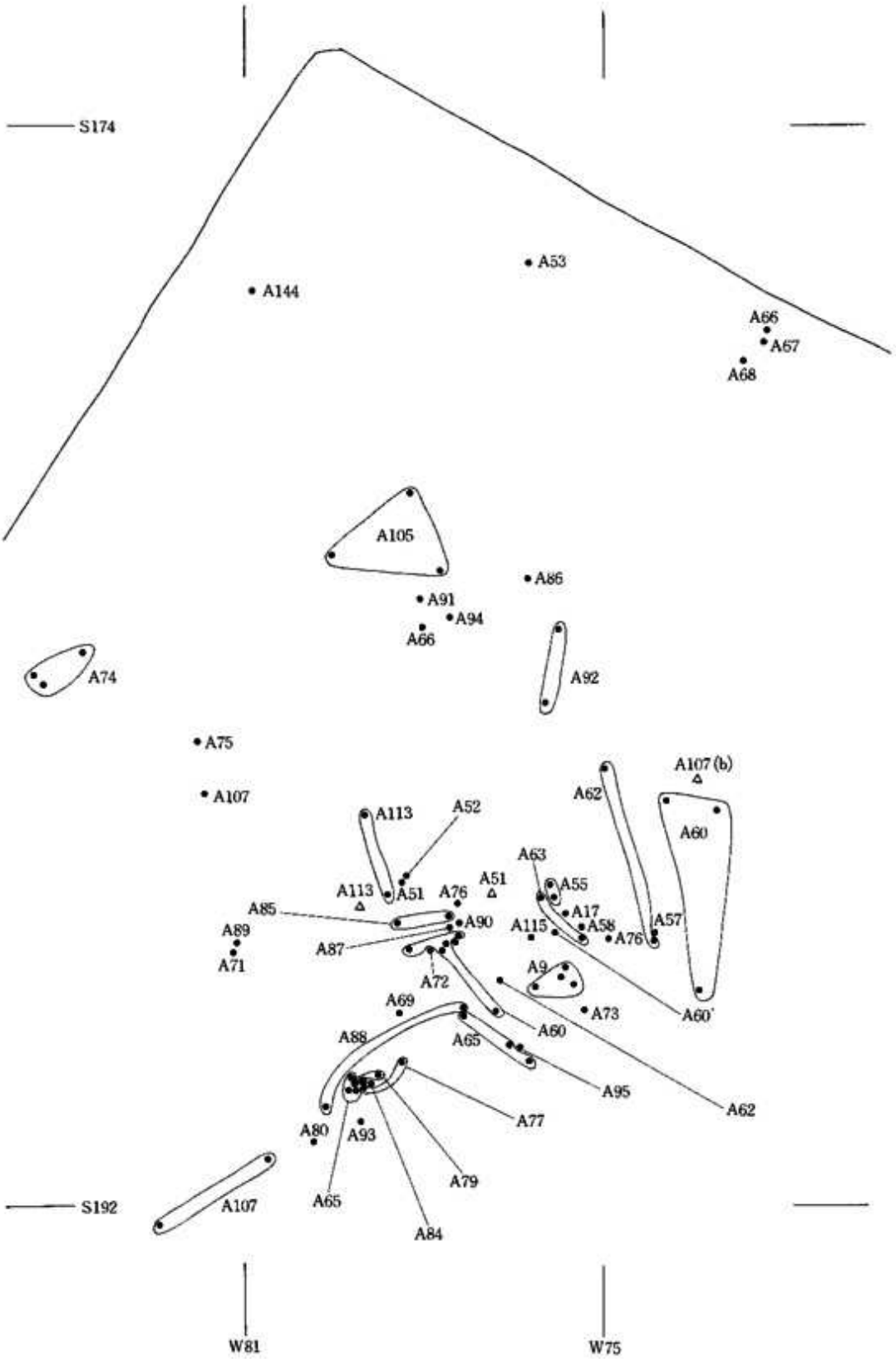
Ⅰ区においてはⅪａ層上面とⅪｂ層中から、H、F区においてはⅪ層中から主に遺物が出土している。またⅠ、H区では倒木痕跡が明瞭である（第215図参照）。最も遺物が集中しているのはⅠ区で第216・217図のとおりである。出土した遺物の破片ごとの層位、垂直分布については第36・37・38表のとおりである。垂直分布の標高が同じでもⅪ層中の細別層位が違うのは、同じ調査区の中でも地点により層の傾斜があるためである。



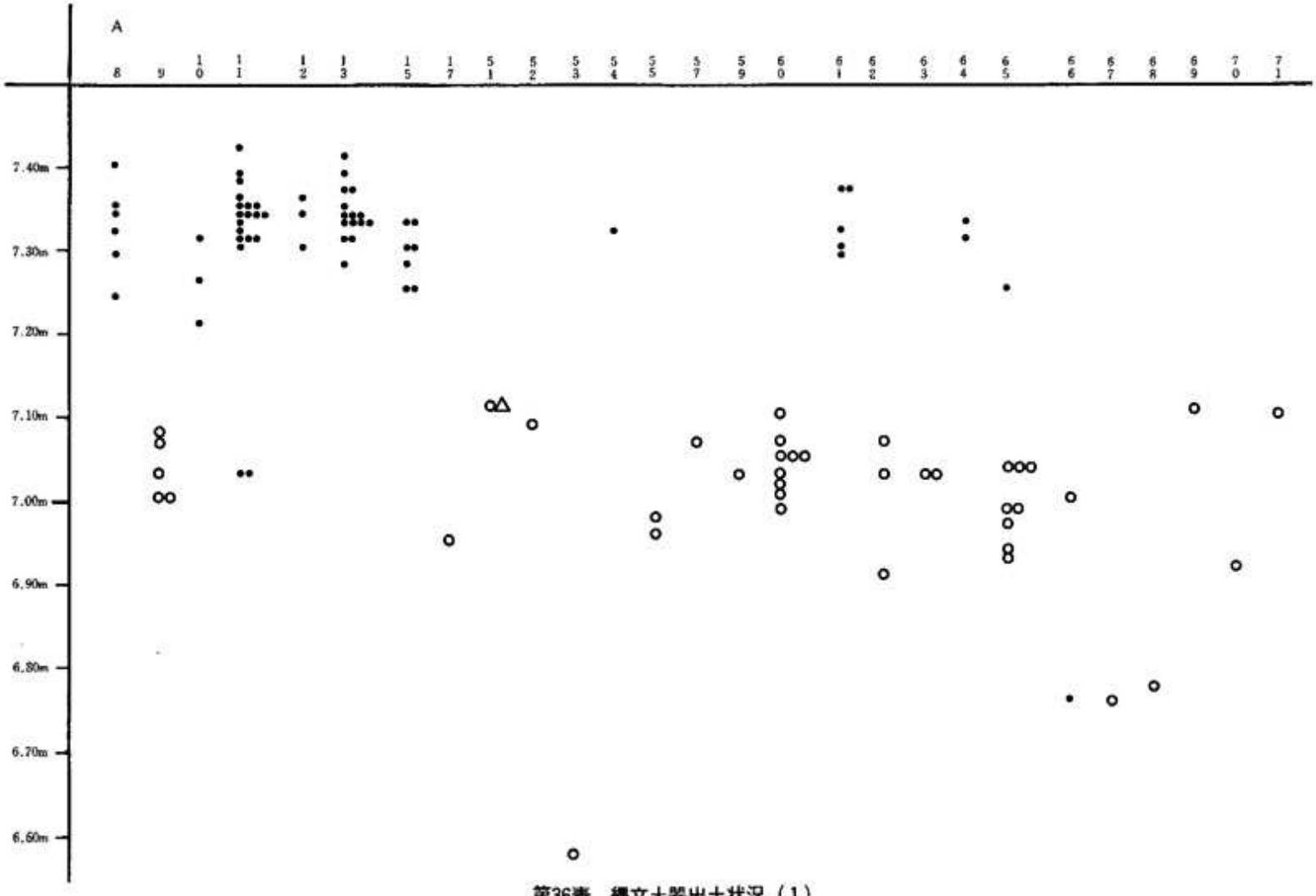
第215図　Ⅺ層上面平面図



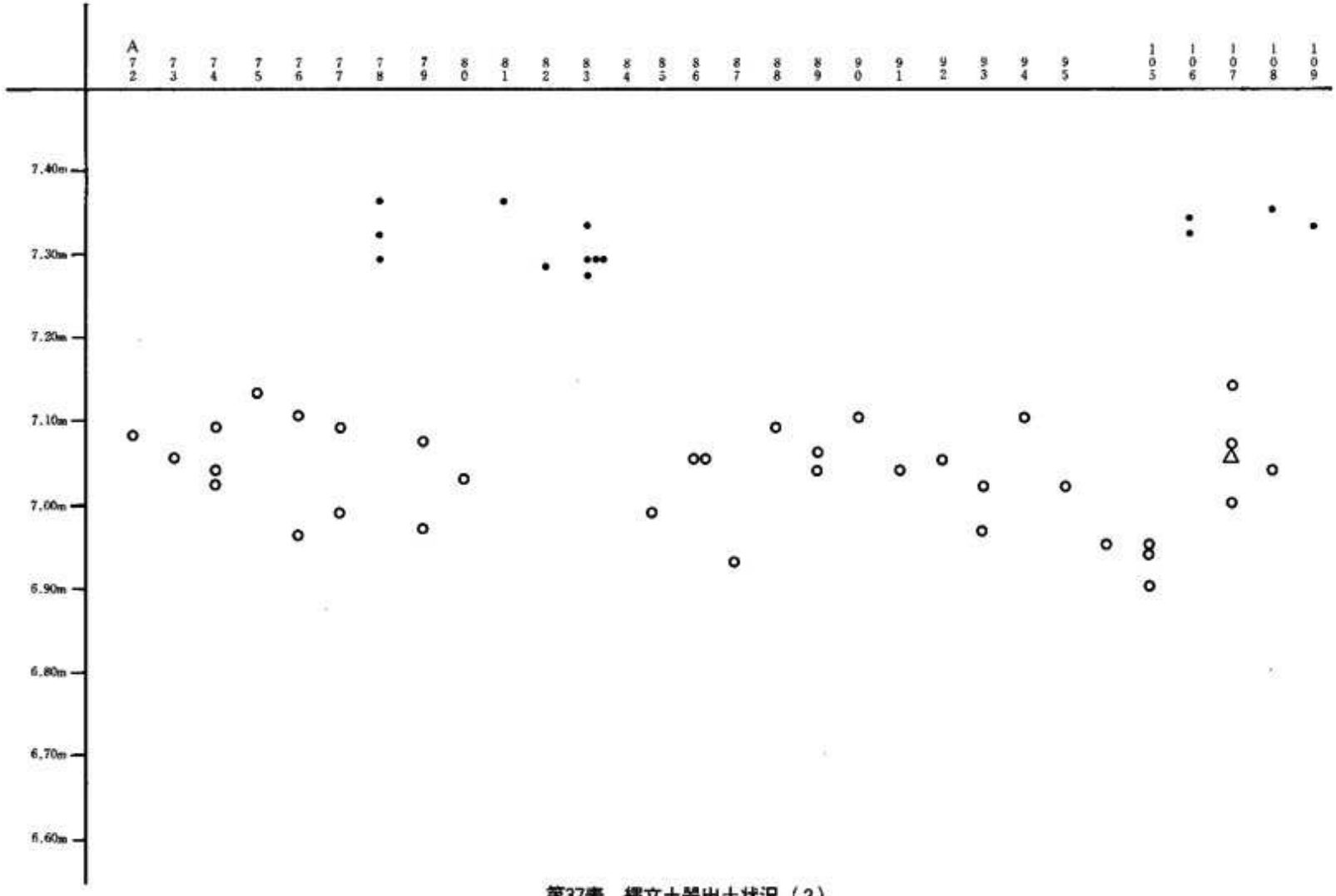
第216図　I 区遺物出土状況（1）



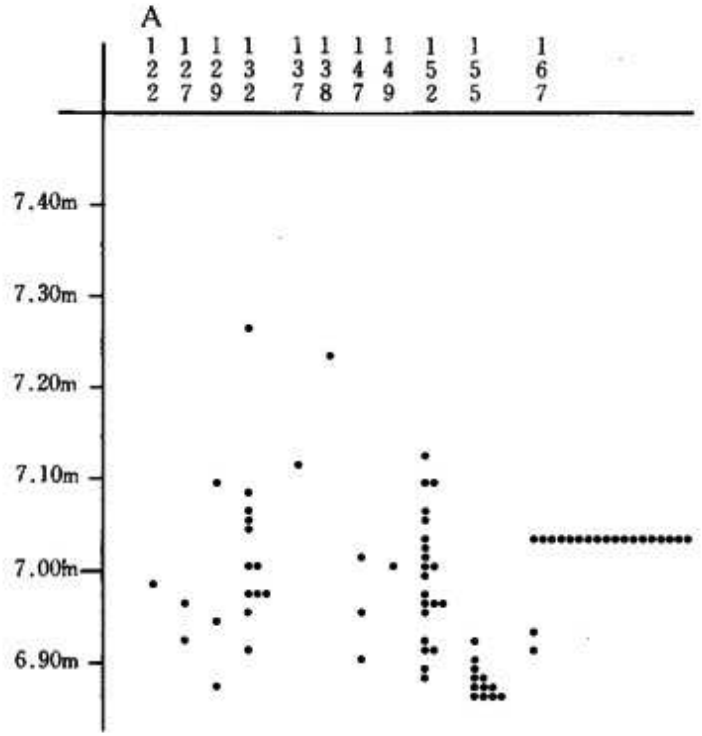
第217図　I 区遺物出土状況（2）



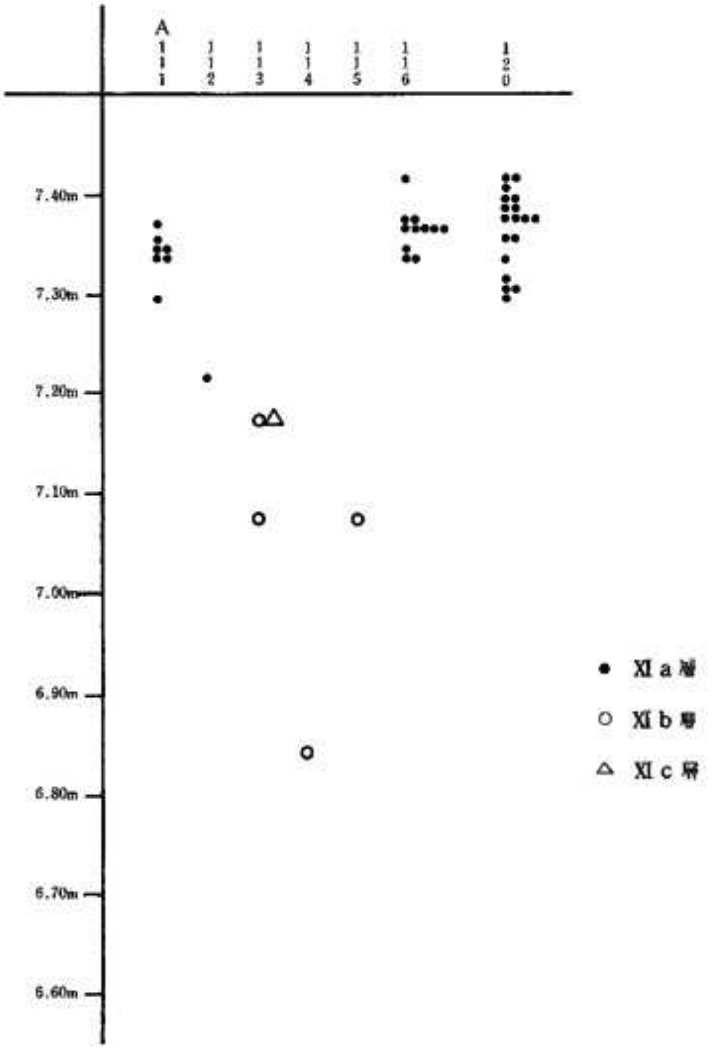
第36表　縄文土器出土状況（1）



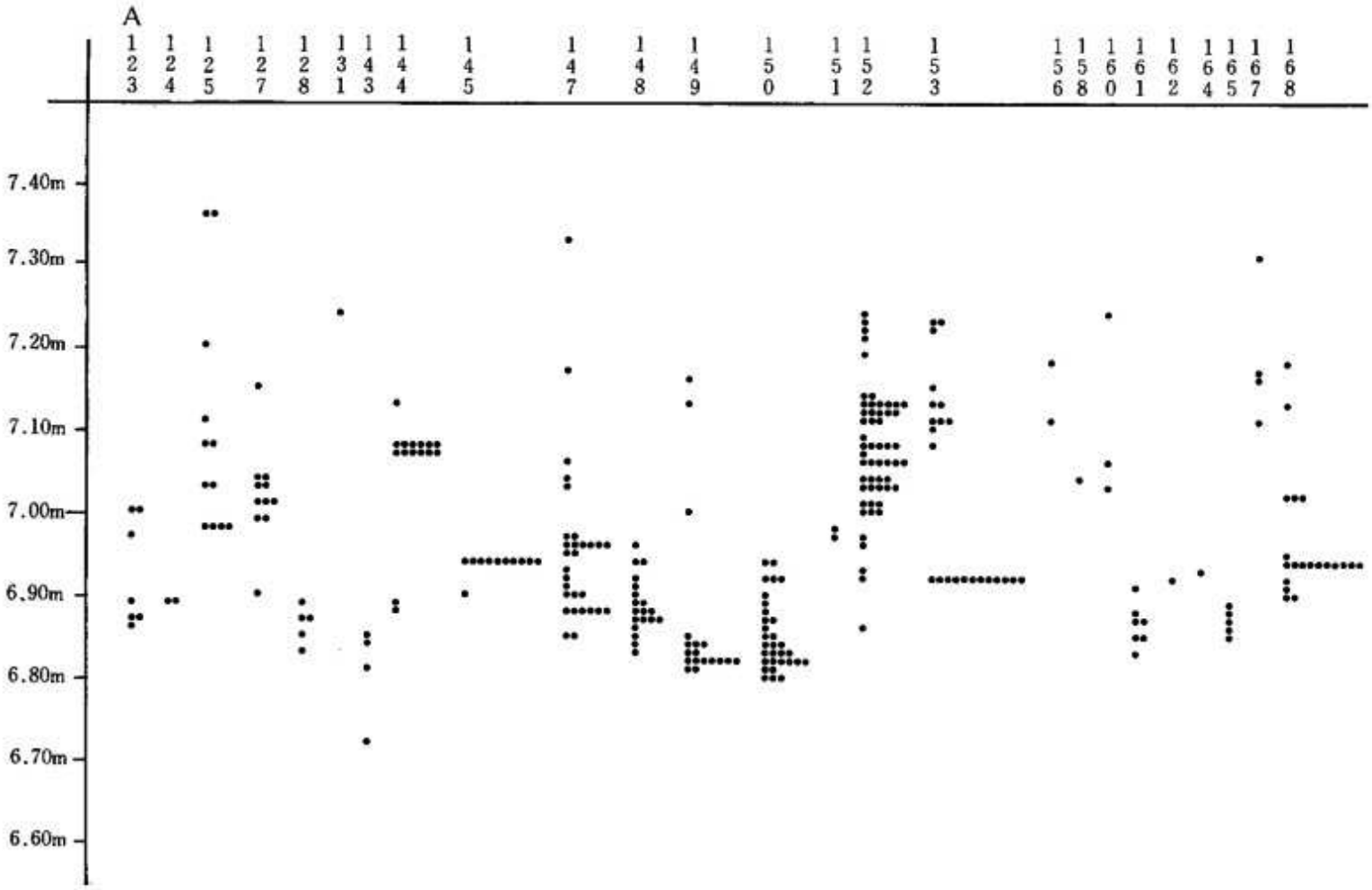
第37表　縄文土器出土状況（2）



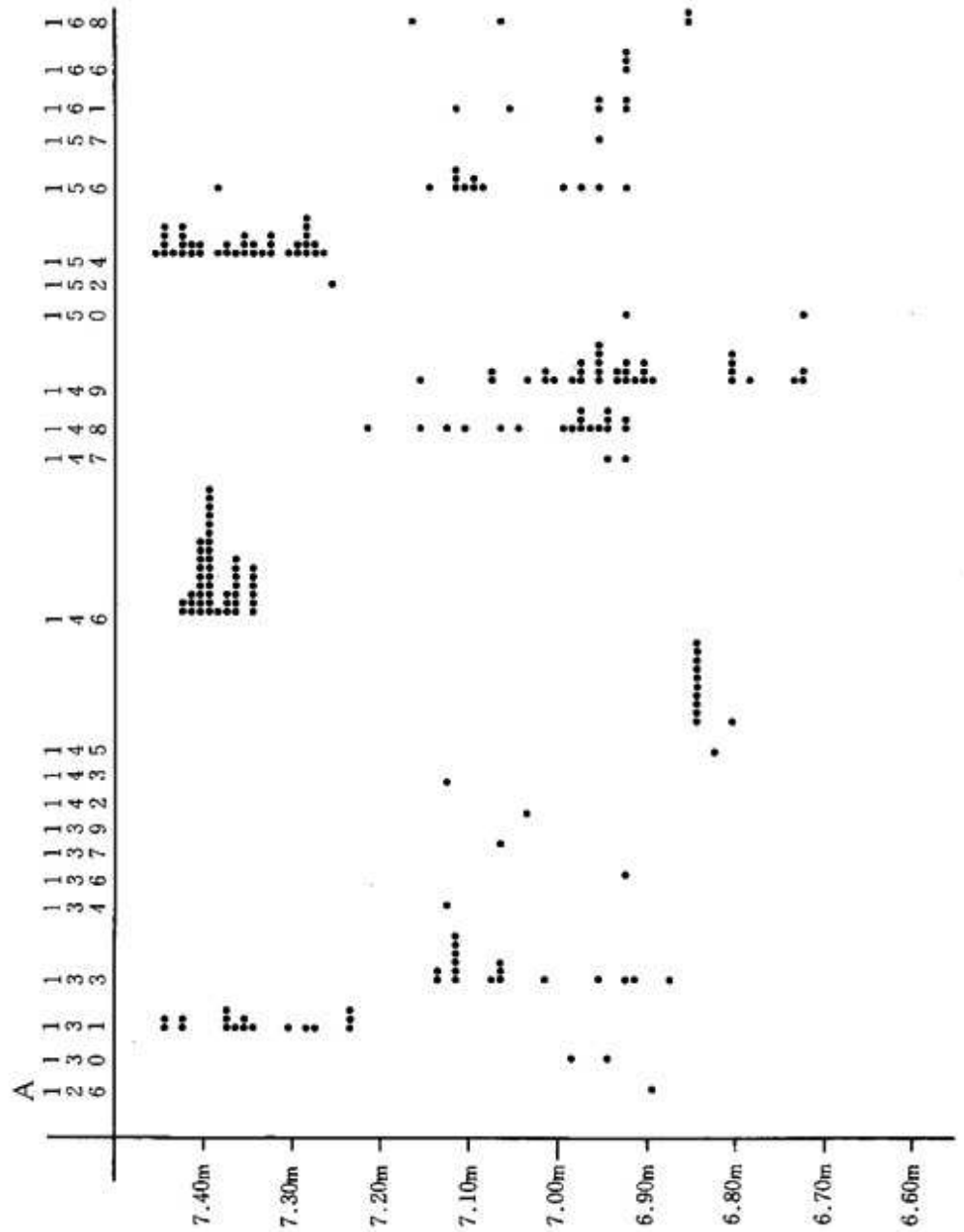
第39表　O区遺物出土状況（1）



第38表　縄文土器出土状況（3）



第40表　O区縄文土器出土状況（2）

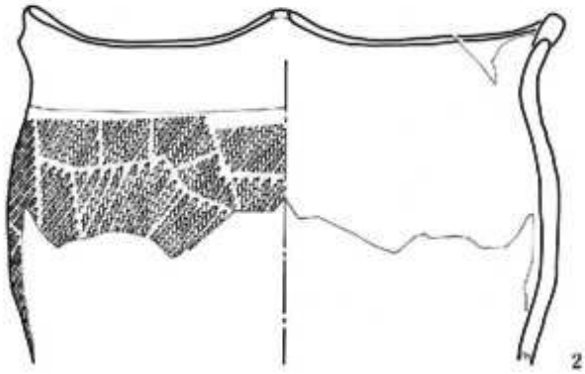


第41表　O区縄文土器出土縄文土器（3）

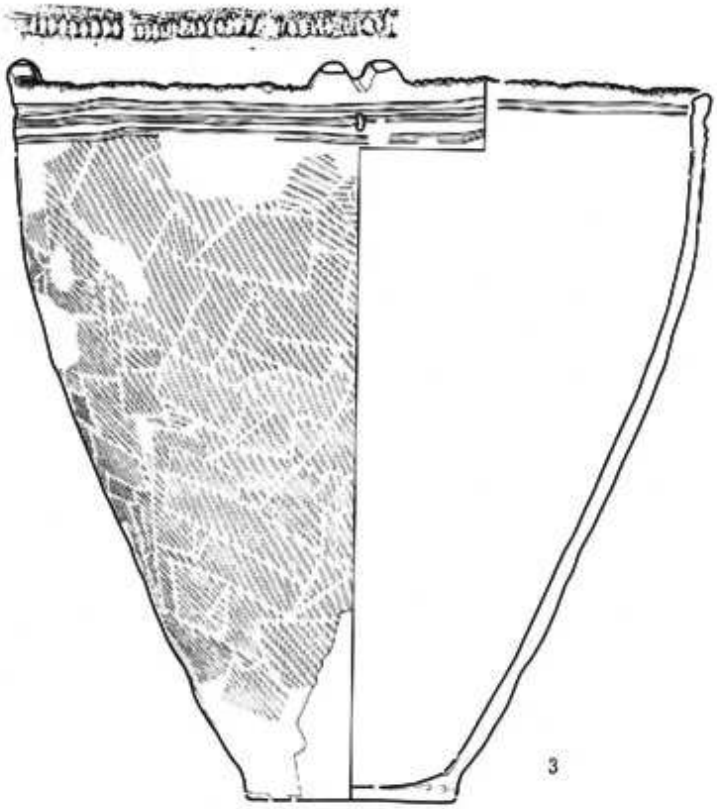
その他の調査区における出土遺物

C、E、G、N、O区においてもⅫ層中より遺物が出土している。その中ではO区から遺物がまとまって出土している。O区の遺物出土状況については、第39表～第41表を参考にしていただきたい。

1



2

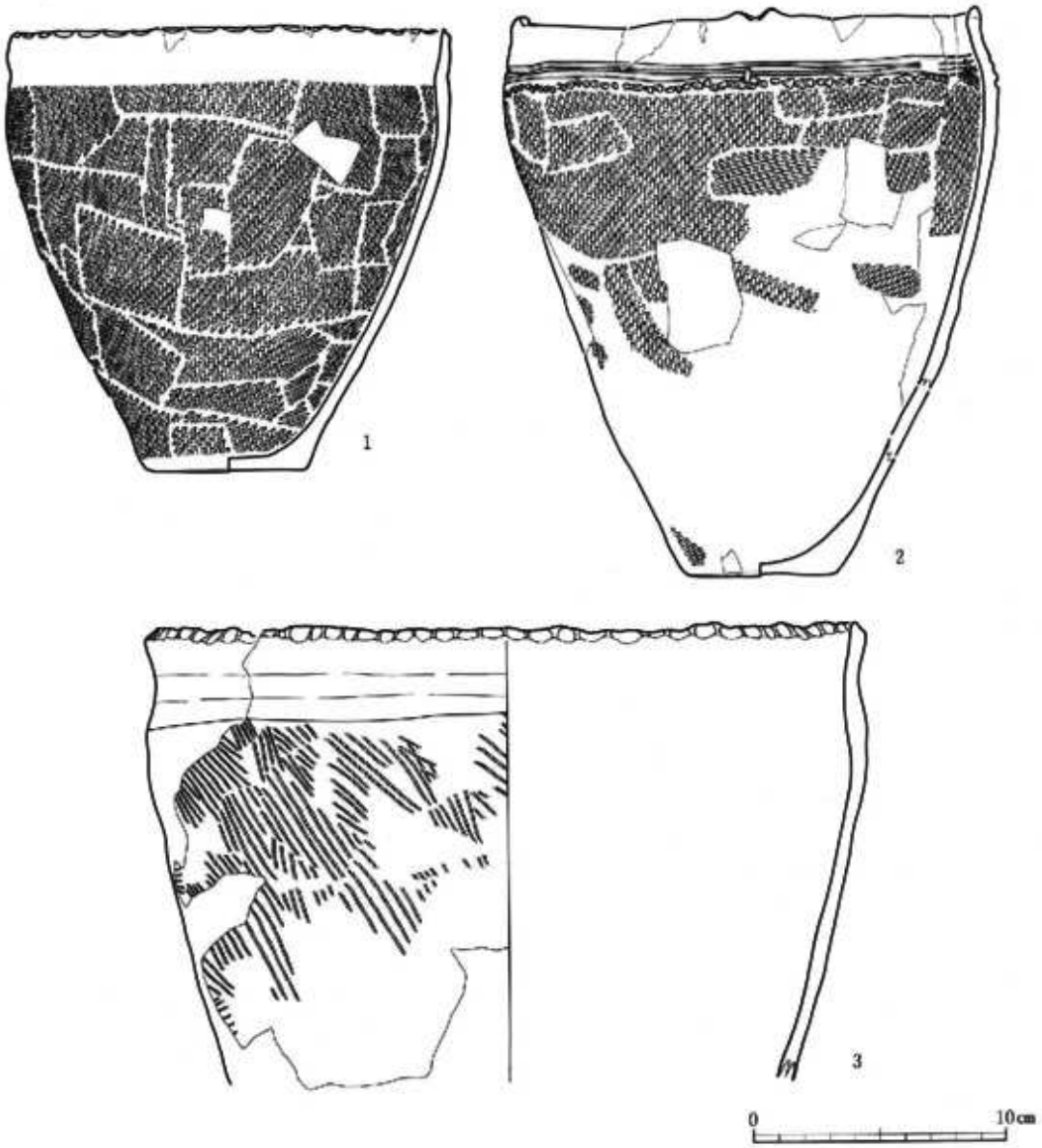


3

0 10cm

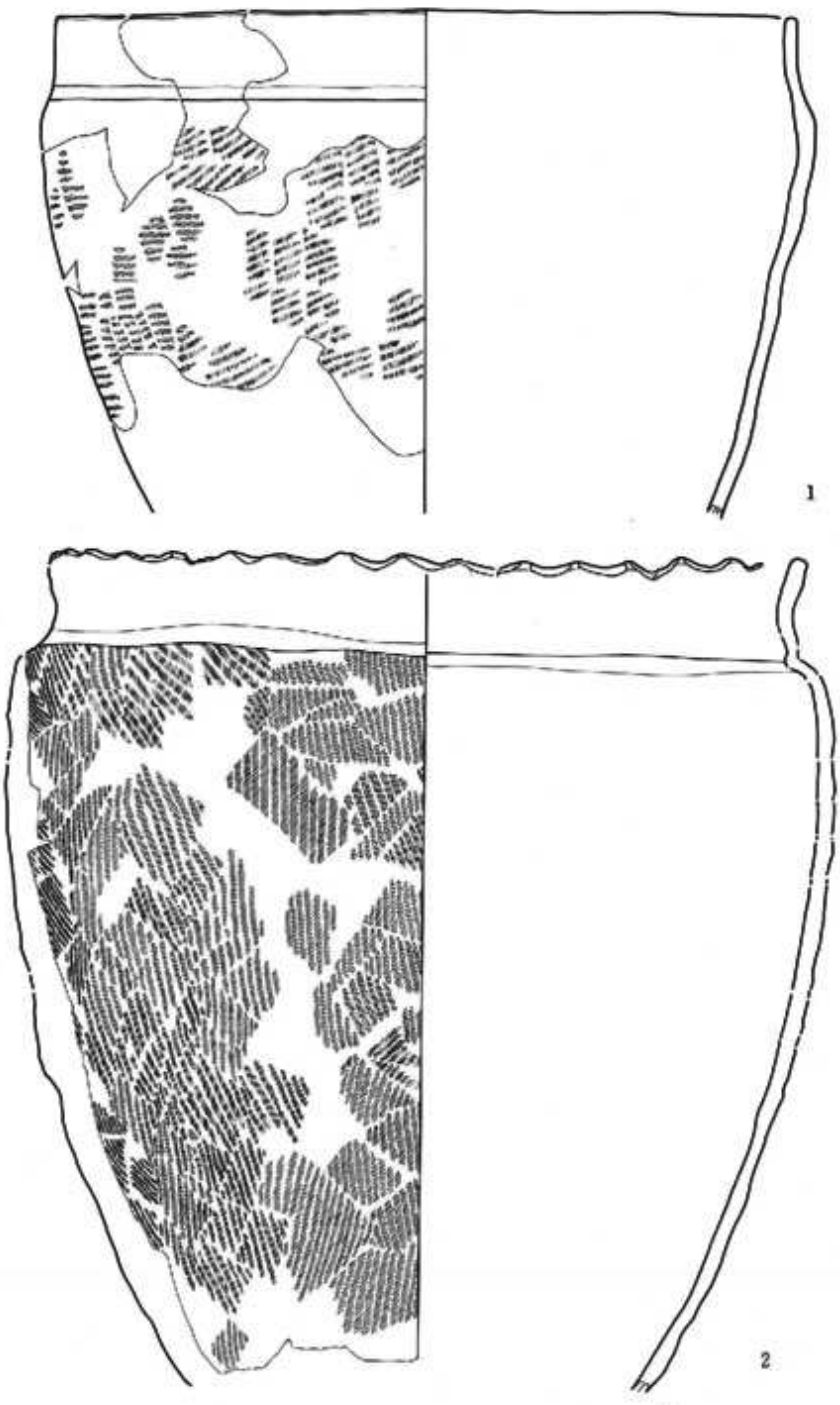
図版番号	登録番号	種別	器形	部位	出土地点 地区	出土地点 層位	施文調整	備考	写真図版
1	A－141	縄文土器	深鉢	体部	O区	XIa層	沈線		－
2	A－146	縄文土器	深鉢	口縁部～体部	O区	XIa層	L R縄文、口縁部に山形の突起		150－3
3	A－12	縄文土器	深鉢	口縁部～体部	I区	XIa層	L R縄文、沈線、口縁部に対の突起		161－5

第218図　XI層出土遺物（1）



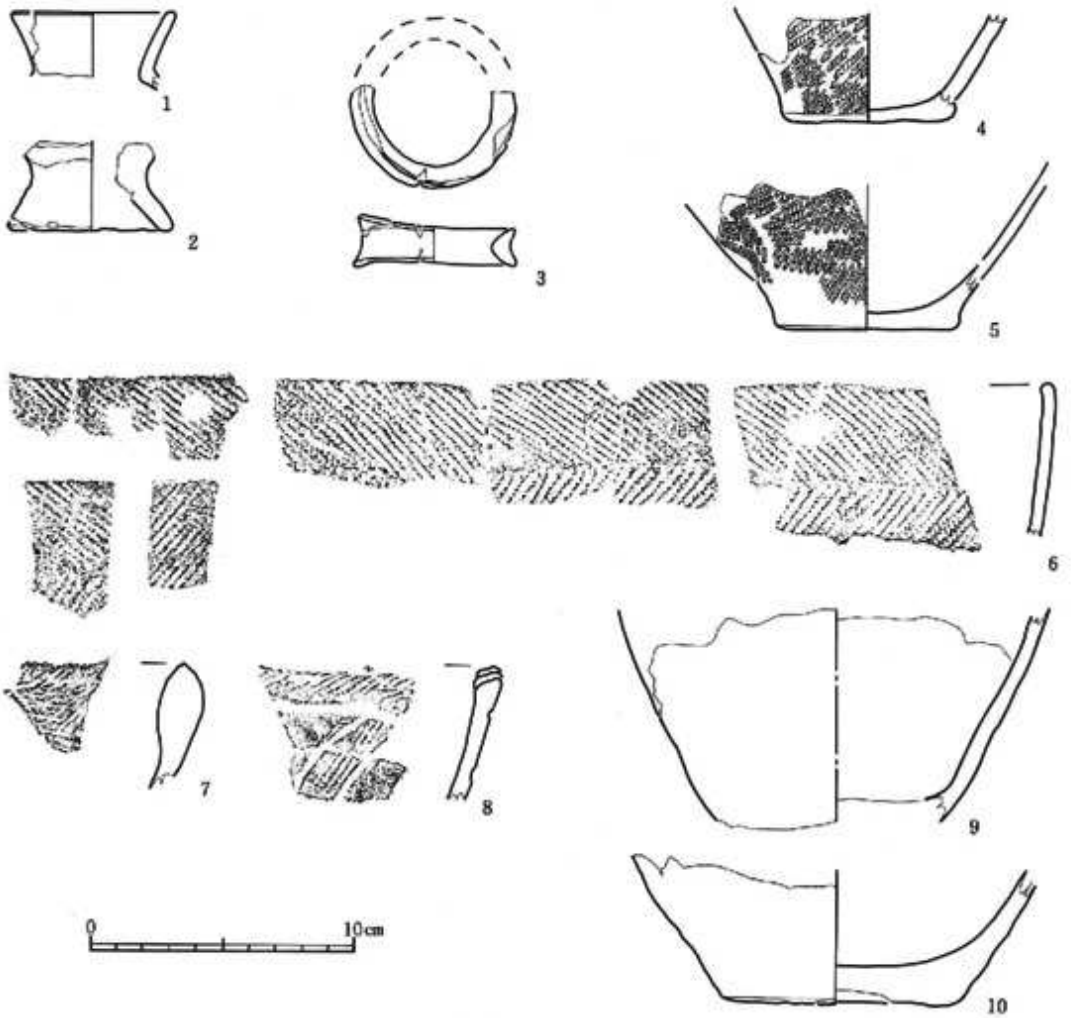
図版番号	登録番号	種別	器形	部位	出土地点 地区	出土地点 層位	施文調整	備考	写真図版
1	A－11	縄文土器	深鉢	口縁部～底部	I区	XIa編	LR沈線、口唇部に刻目文		141－3
2	A－13	縄文土器	深鉢	口縁部～底部	I区	XIa層	LR沈線、沈線、刻目文、口縁部に小突起		141－13
3	A－120	縄文土器	深鉢	口縁部～底部	I区	XIa層	R撚糸文、口唇部に刻目文		147－2

第219図　XI層出土遺物（2）



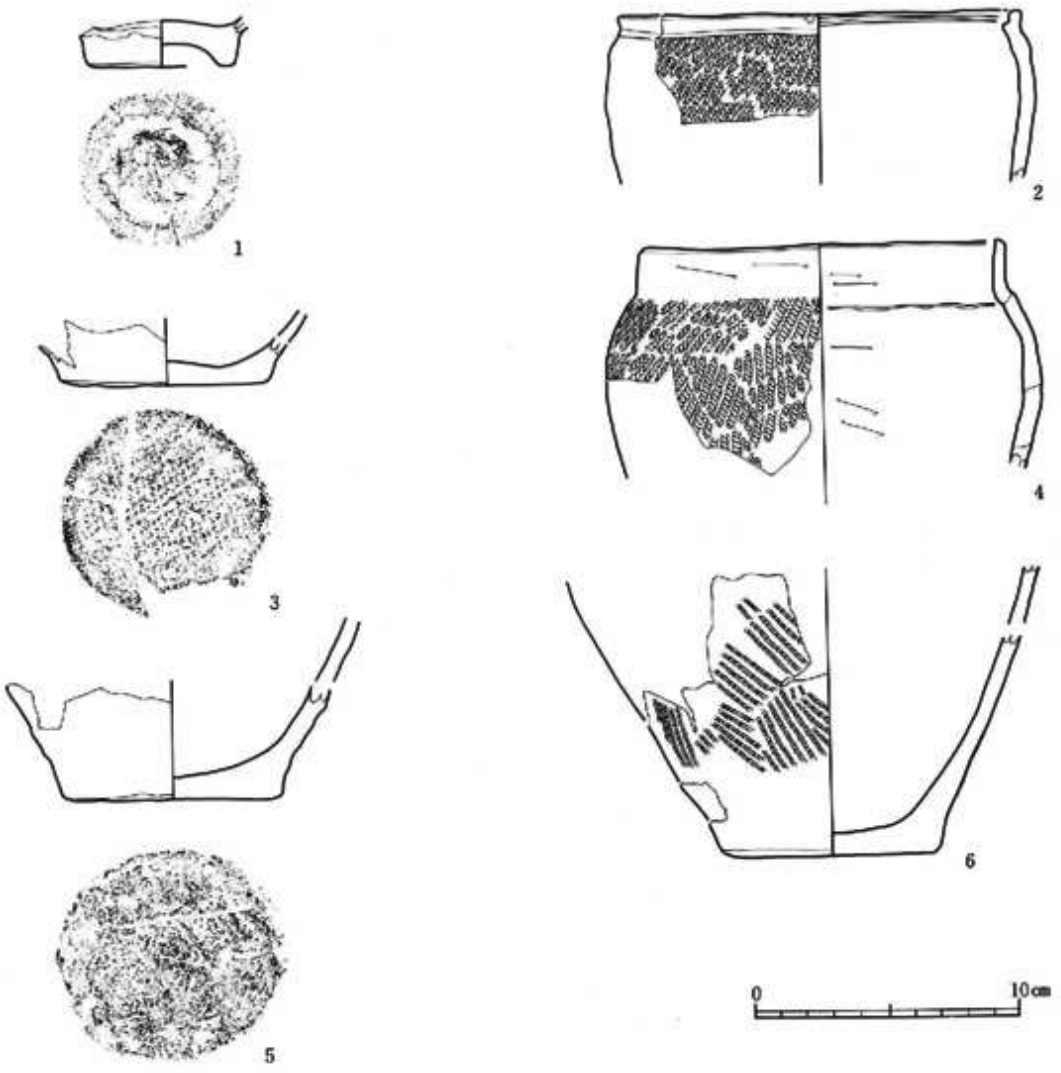
図版番号	登録番号	種別	器形	部位	出土地点		施文調整	備考	写真図版
					地区	層位			
1	A－116	縄文土器	深鉢	口縁部～体部	I区	XIa層	無節縄文		147－5
2	A－119	縄文土器	深鉢	口縁部～体部	I区	XIa層	無節縄文、波状口縁		147－3

第220図　XI層出土遺物（3）



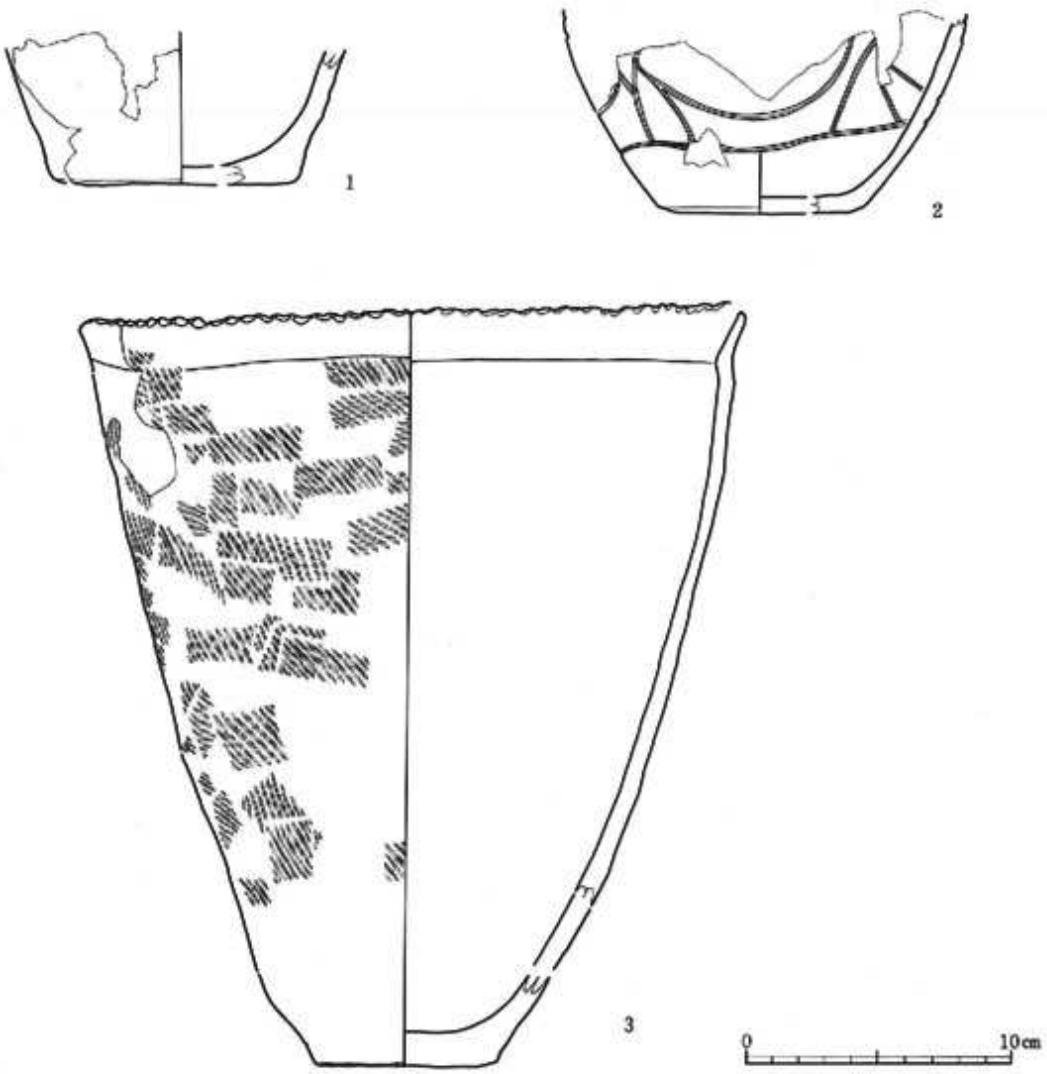
図版番号	登録番号	種別	器形	部位	出土地点 地区	出土地点 層位	施文調整	備考	写真図版
1	A－114	縄文土器	壺	口縁部	I区	Ⅺa層	ミガキ		－
2	A－100	縄文土器	不明	不明	F区	Ⅺa層	ミガキ		145－5
3	A－113	土製品	耳飾		I区	Ⅺa層	ミガキ		146－2
4	A－112	縄文土器	鉢	底部	I区	Ⅺa層	LR縄文		－
5	A－109	縄文土器	鉢	底部	I区	Ⅺa層	LR縄文		146－6
6	A－131	縄文土器	深鉢	口縁部～体部	O－c区	Ⅺa層	羽状縄文		－
7	A－181	縄文土器	鉢	口縁部	N－a区	Ⅺ層			154－1
8	A－180	縄文土器	深鉢	口縁部	N－a区	Ⅺ層	LR縄文		155－2
9	A－179	縄文土器	深鉢	胴部	N－a区	Ⅺ層	ミガキ		155－3
10	A－102	縄文土器	鉢	底部	G区	Ⅺa層	ミガキ		145－6

第221図　Ⅺ層出土遺物（4）



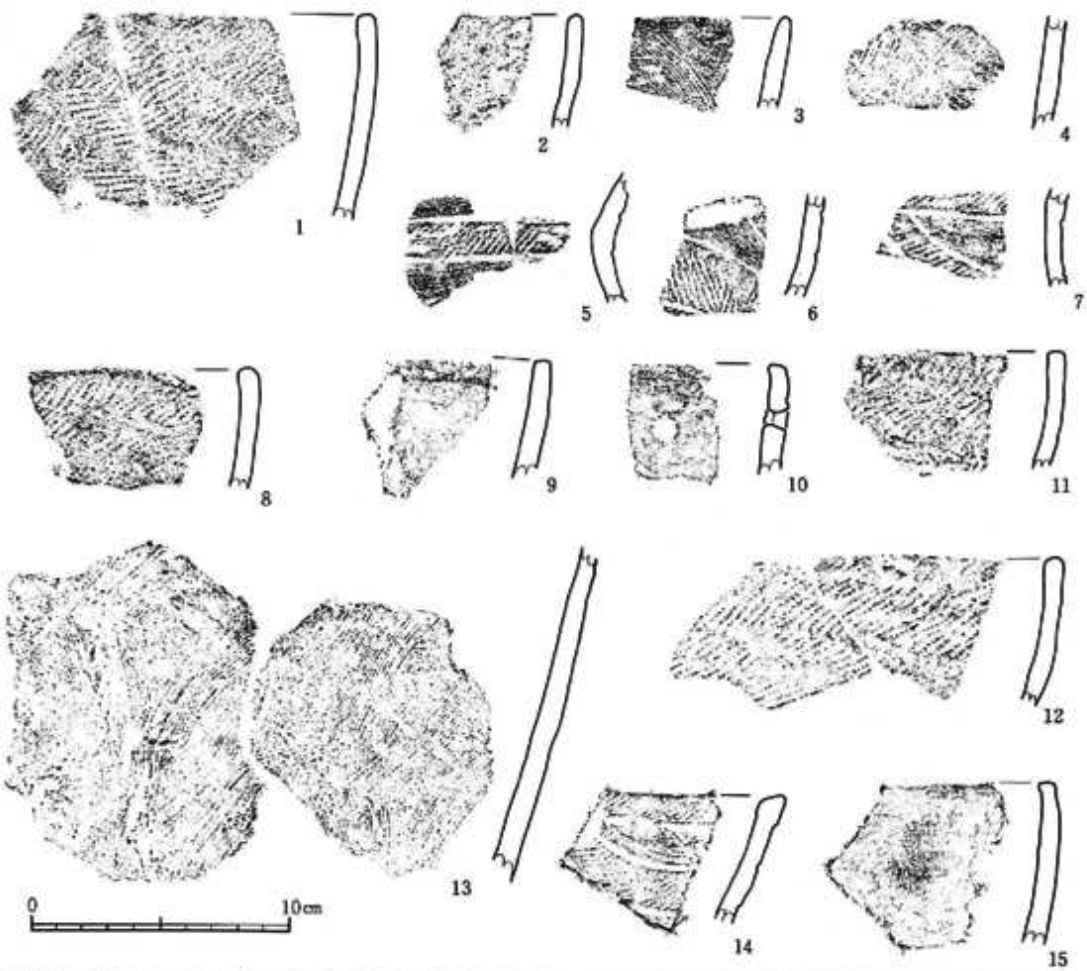
図版番号	登録番号	種別	器形	部位	出土地点 地区	出土地点 層位	施文要整	備考	写真図版
1	A－75	縄文土器	鉢	底部	I区	XIa層			－
2	A－111	縄文土器	鉢	口縁部～体部	I区	XIa層	LR縄文		146－1
3	A－74	縄文土器	鉢	底部	I区	XIa層			－
4	A－8	縄文土器	鉢	口縁部～体部	I区	XIa層	LR縄文		140－4
5	A－61	縄文土器	鉢	底部	I区	XIa層 XI上面			143－2
6	A－10	縄文土器	鉢	体部～底部	I区	XIa層	R撚糸文		140－1

第222図　XI層出土遺物（5）



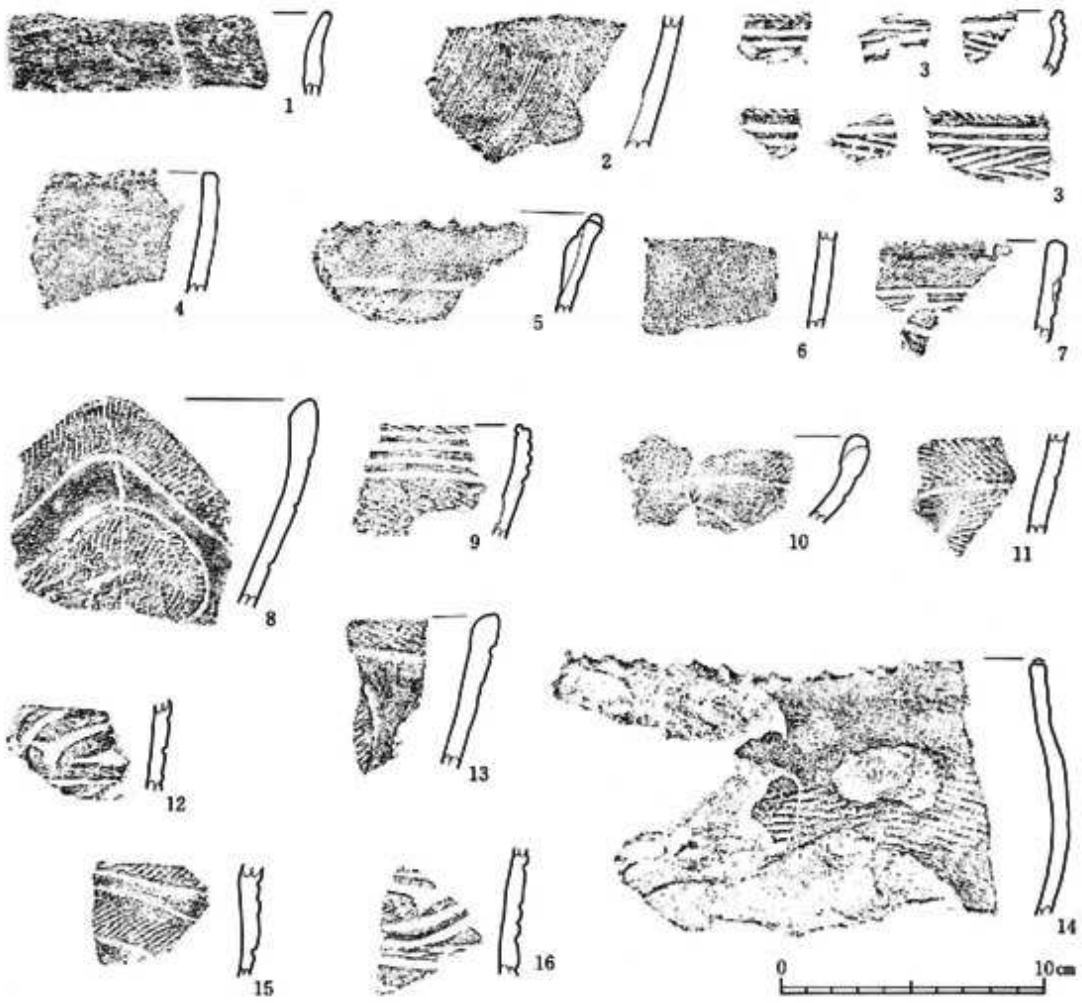
図版番号	登録番号	種別	器形	部位	出土地点		施文製塩	備考	写真図版
					地区	層位			
1	A－108	縄文土器	鉢	底部	I区	XIa区			－
2	A－105	縄文土器	鉢	底部	I区	XIa区	比較		146－8
3	A－15	縄文土器	深鉢	口縁部～体部	I区	XIa層	R縄文	波状口縁	141－6

第223図　XI層出土遺物（6）



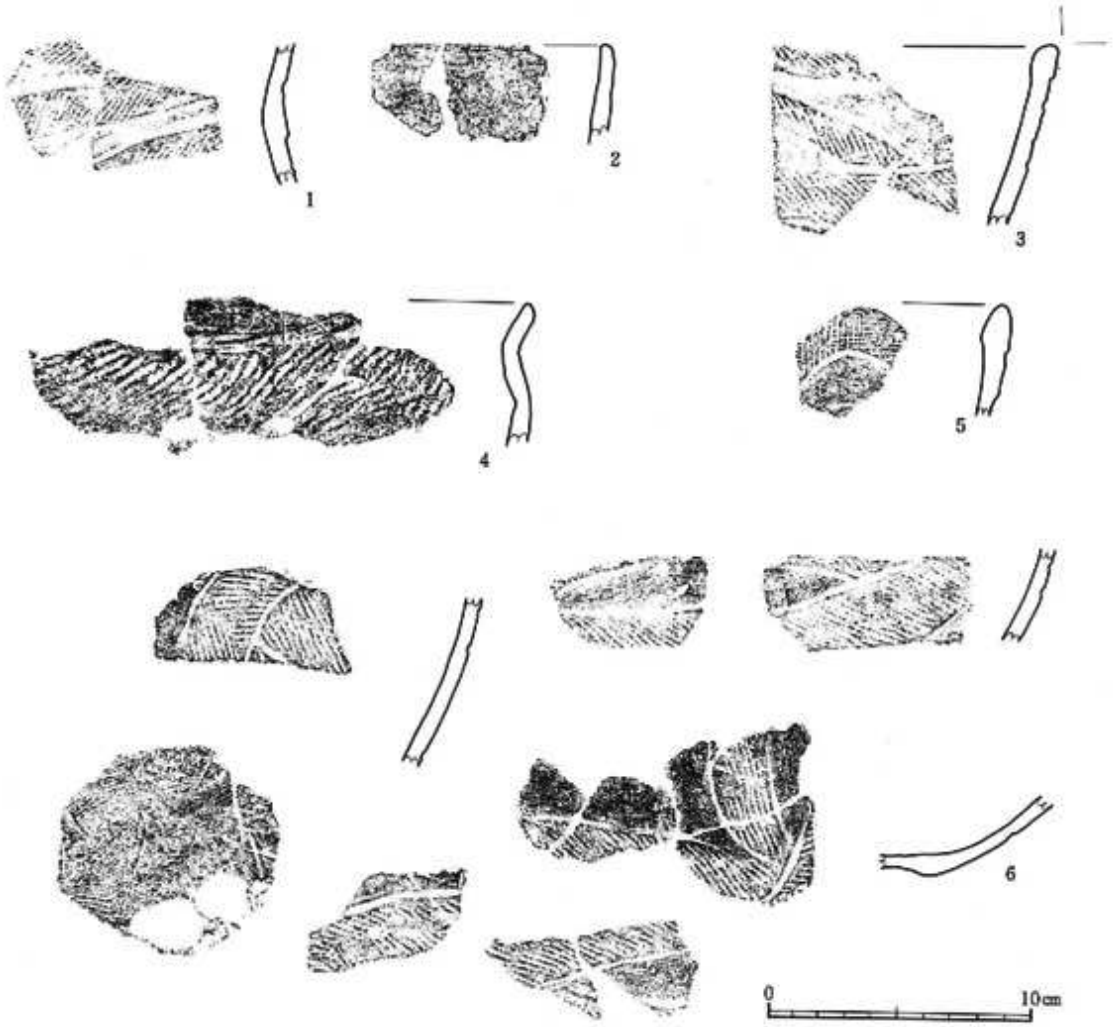
図版番号	登録番号	種別	器形	部位	出土地点 地区	出土地点 層位	施文製塩	備考	写真図版
1	A－55	縄文土器	鉢	口縁部	I区	XIc層			—
2	A－56	縄文土器	鉢	口縁部	I区	XIc層			—
3	A－52	縄文土器	鉢	口縁部	I区	XIc層	縄面状沈線		—
4	A－51	縄文土器	鉢	胴部	I区	XIa・b層	縄面状沈線		—
5	A－87	縄文土器	鉢	胴部	I区	XIc層	LR縄文→沈線		—
6	A－84	縄文土器	鉢	胴部	I区	XIc層	LR縄文→沈線		—
7	A－90	縄文土器	鉢	胴部	I区	XIc層	LR縄文→沈線		—
8	A－87	縄文土器	鉢	口縁部	I区	XIc層	LR縄文（磨滅）		—
9	A－72	縄文土器	鉢	口縁部	I区	XIc層	無文		—
10	A－69	縄文土器	鉢	口縁部	I区	XIc層	無文	補修孔あり	144－2
11	A－58	縄文土器	鉢	口縁部	I区	XIc層	LR縄文（磨滅）		—
12	A－63	縄文土器	鉢	口縁部	I区	XIc層	LR縄文		—
13	A－76	縄文土器	深鉢	胴部	I区	XIc層	縄面状沈線		144－8
14	A－95	縄文土器	鉢	口縁部	I区	XIc層	LR縄文→沈線		—
15	A－73	縄文土器	鉢	口縁部	I区	XIc層	無文		—

第224図　XI層出土遺物（7）



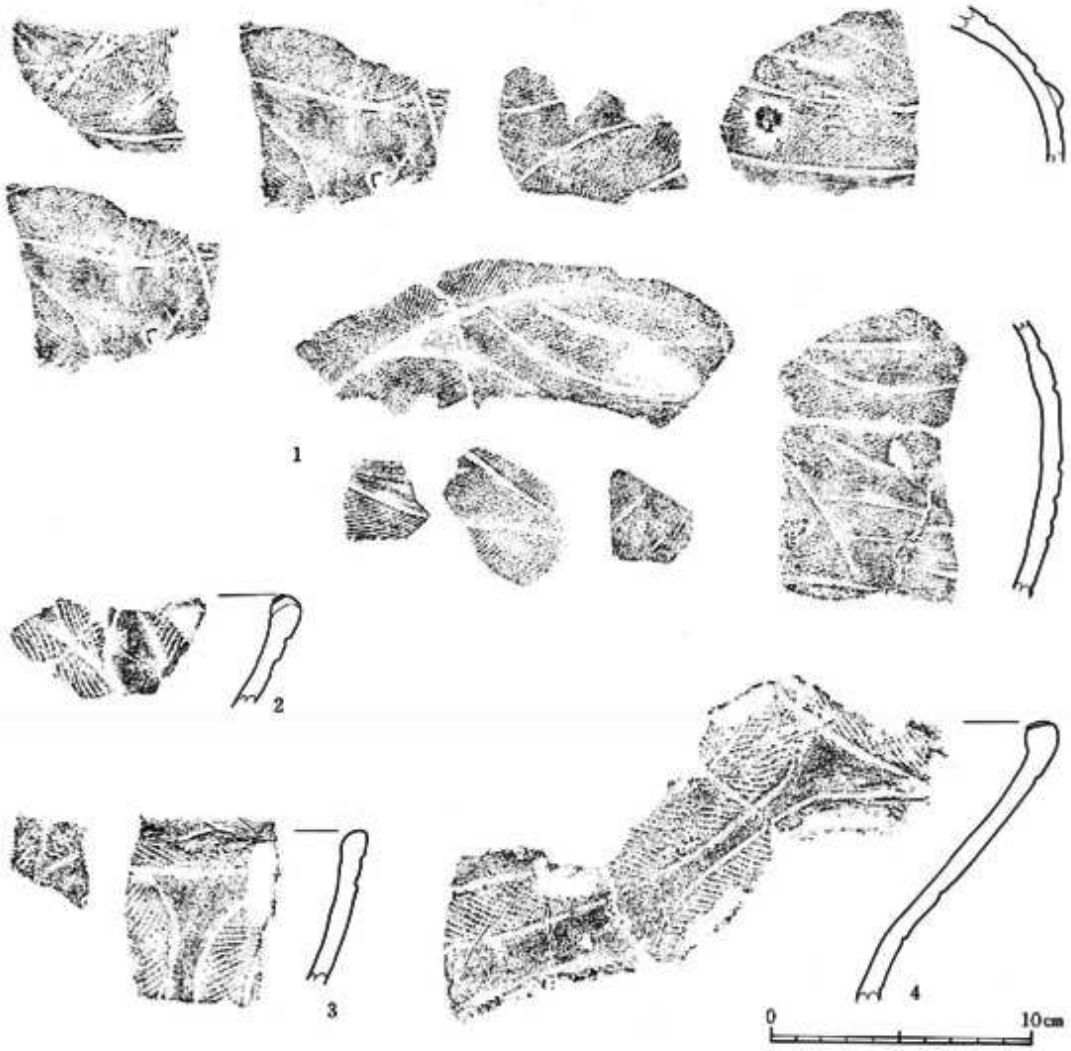
図版番号	登録番号	種別	器形	部位	出土地点 地区	出土地点 層位	施文調整	備考	写真図版
1	A－64	縄文土器	鉢	口縁部	I区	XIa層			－
2	A－55	縄文土器	深鉢	体部	I区	XIc層	櫛歯状文		－
3	A－83	縄文土器	鉢	口縁部	I区	XIa層	竹管文、沈線		144－1
4	A－70	縄文土器	鉢	口縁部	I区	XIa層			－
5	A－81	縄文土器	鉢	口縁部	I区	XIa層	沈線、波状口縁		144－7
6	A－53	縄文土器	鉢	体部	I区	XIc層	櫛歯状文		－
7	A－66	縄文土器	鉢	口縁部	I区	XIc層	LR縄文、沈線		144－4
8	A－94	縄文土器	鉢	口縁部	I区	XIc層	LR縄文、沈線、波状口縁		145－7
9	A－82	縄文土器	鉢	口縁部	I区	XIa層	沈線		144－6
10	A－92	縄文土器	鉢	口縁部	I区	XIc層	RL縄文、沈線、波状口縁		145－2
11	A－80	縄文土器	鉢	体部	I区	XIc層	RL縄文、沈線		－
12	A－67	縄文土器	鉢	体部	I区	XIc層	LR縄文、沈線		144－3
13	A－93	縄文土器	鉢	口縁部	I区	XIc層	LR縄文、沈線		－
14	A－69	縄文土器	鉢	口縁部～体部	I区	XIb層	LR縄文、波状口縁		143－3
15	A－86	縄文土器	鉢	体部	I区	XIc層	LR縄文、沈線		－
16	A－68	縄文土器	鉢	体部	I区	XIc層	LR縄文、沈線		144－5

第225図　XI層出土遺物（8）



図版番号	登録番号	種別	器形	部位	出土地点 地区	出土地点 層位	施文調整	備考	写真図版
1	A－85	縄文土器	鉢	胴部	I区	XIa層 XIc層	LR縄文→沈線		－
2	A－71	縄文土器	鉢	口縁部	I区	XIa層 XIc層	無文		－
3	A－88	縄文土器	鉢	口縁部	I区	XIa層 XIc層	RL縄文→沈線		144－9
4	A－78	縄文土器	浅鉢	口縁部～胴部	I区	XIa層	LR縄文		144－10
5	A－85	縄文土器	鉢	口縁部	I区	XIa層 XIc層	LR縄文→沈線		－
6	A－65	縄文土器	鉢	胴部～底部	I区	XIa層 XIc層	LR縄文→沈線		143－5

第226図　XI層出土遺物（9）

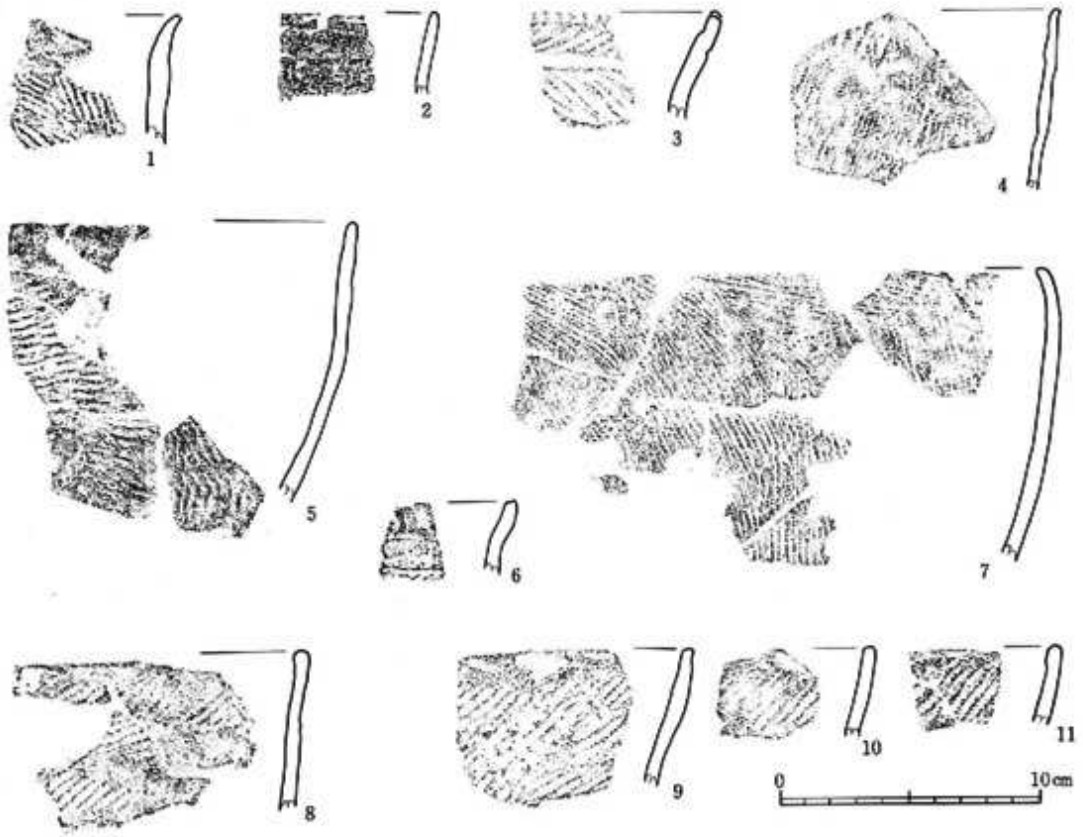


図版番号	登録番号	種別	器形	部位	出土地点		施文調整	備考	写真図版
					地区	層位			
1	A－60	縄文土器	深	胴部	I区	Ⅺc層	LR縄文→沈線、ボタン状貼付文		143－4
2	A－77	縄文土器	鉢	胴部	I区	Ⅺc層	RL縄文		－
3	A－79	縄文土器	鉢	口縁部	I区	Ⅺc層	RL縄文→沈線		－
4	A－62	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	I区	Ⅺc層	RL縄文→沈線		143－1

第227図　Ⅺ層出土遺物（10）

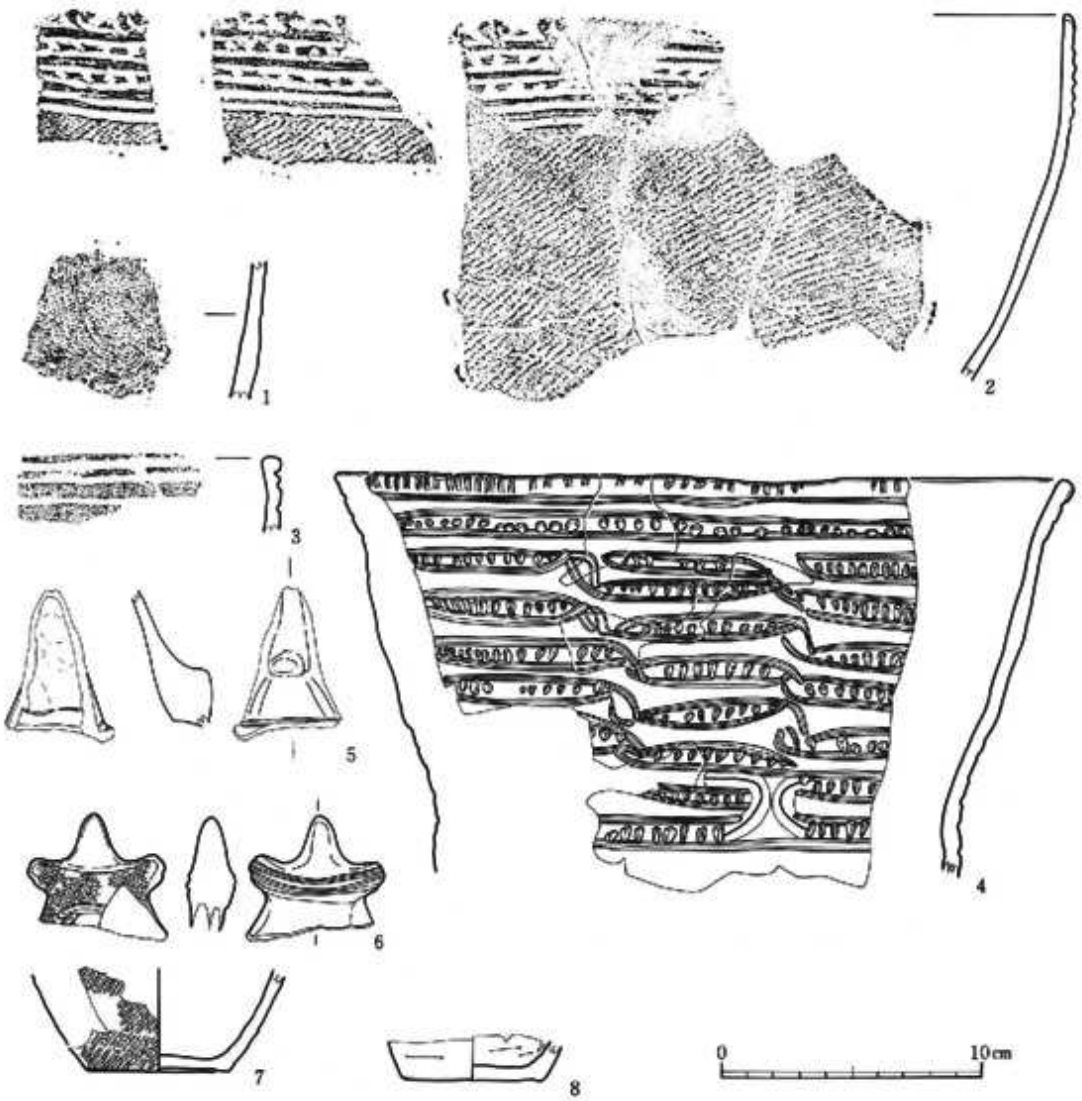
図版番号	登録番号	種別	器形	部位	出土地点 地区	出土地点 層位	施文調整	備考	写真図版
1	A－24	縄文土器	鉢	口縁部	F区	Ⅺ層	羽状縄文		－
2	A－27	縄文土器	深鉢	口縁部	F区	Ⅺ層	LR縄文		－
3	A－25	縄文土器	深鉢	口縁部	F区	Ⅺ層	LR縄文		142－1
4	A－26	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	F区	Ⅺb層	羽状縄文		142－3

第228図　Ⅺ層出土遺物（11）



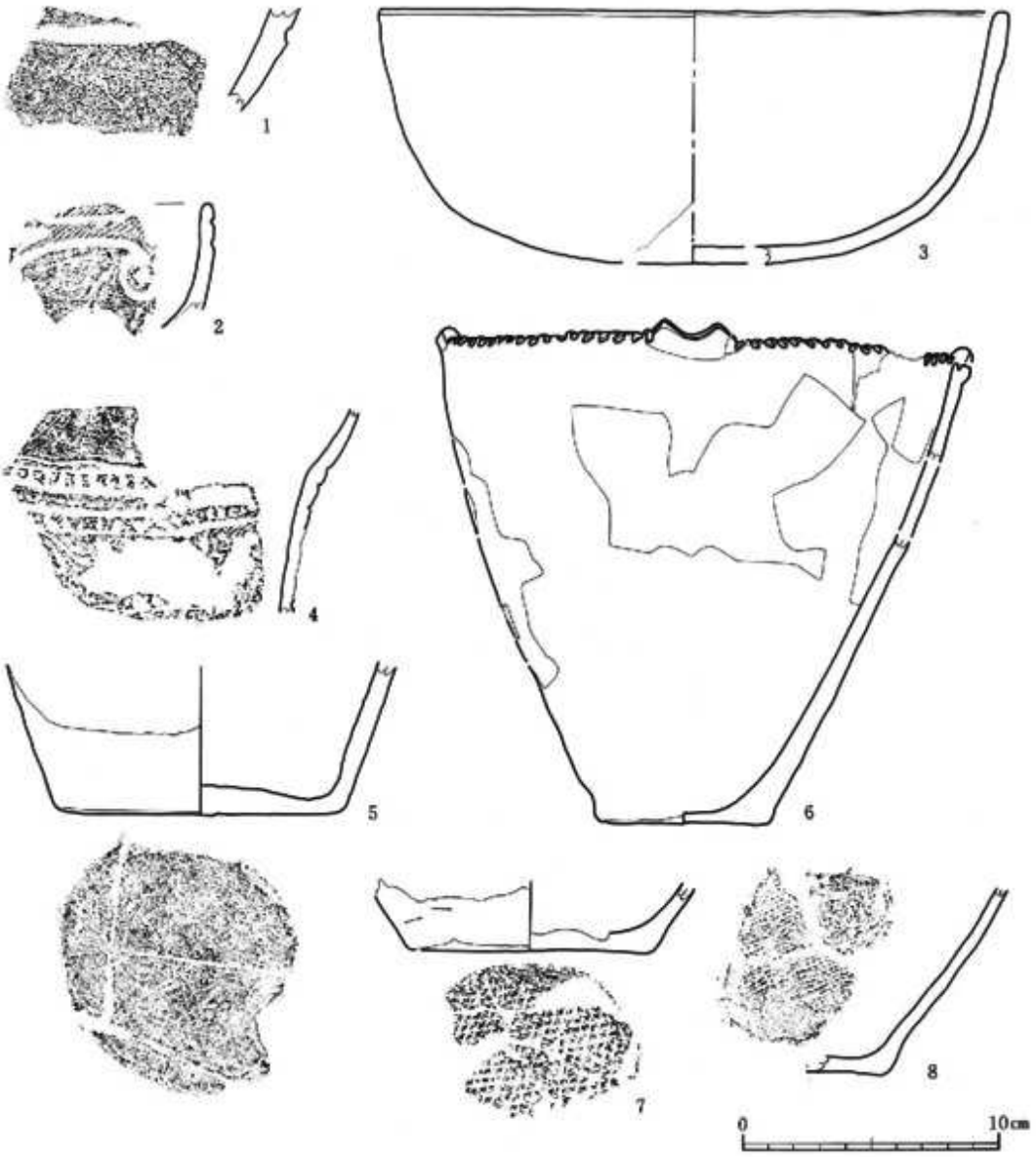
図版番号	登録番号	種別	器形	部位	出土地点 地区	出土地点 層位	施文施文	備考	写真図版
1	A－31	縄文土器	鉢	口縁部	G区	Ⅺa層	RL縄文		－
2	A－30	縄文土器	鉢	口縁部	G区	Ⅺa層	無文		－
3	A－38	縄文土器	鉢	口縁部	G区	Ⅺa層	強いナデ、沈線		－
4	A－29	縄文土器	深鉢	口縁部	G区	Ⅺa層	R縄文		－
5	A－28	縄文土器	鉢	口縁部～胴部	G区	Ⅺa層	不明		－
6	A－37	縄文土器	鉢	口縁部	G区	Ⅺa層	無文		－
7	A－32	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	G区	Ⅺa層	櫛描状沈線文		142－4
8	A－33	縄文土器	鉢	口縁部	G区	Ⅺc層	LR縄文		－
9	A－35	縄文土器	鉢	口縁部	G区	Ⅺc層	LR縄文		－
10	A－36	縄文土器	鉢	口縁部	G区	Ⅺc層	LR縄文		－
11	A－34	縄文土器	鉢	口縁部	G区	Ⅺc層	LR縄文		－

第229図　Ⅺ層出土遺物（12）



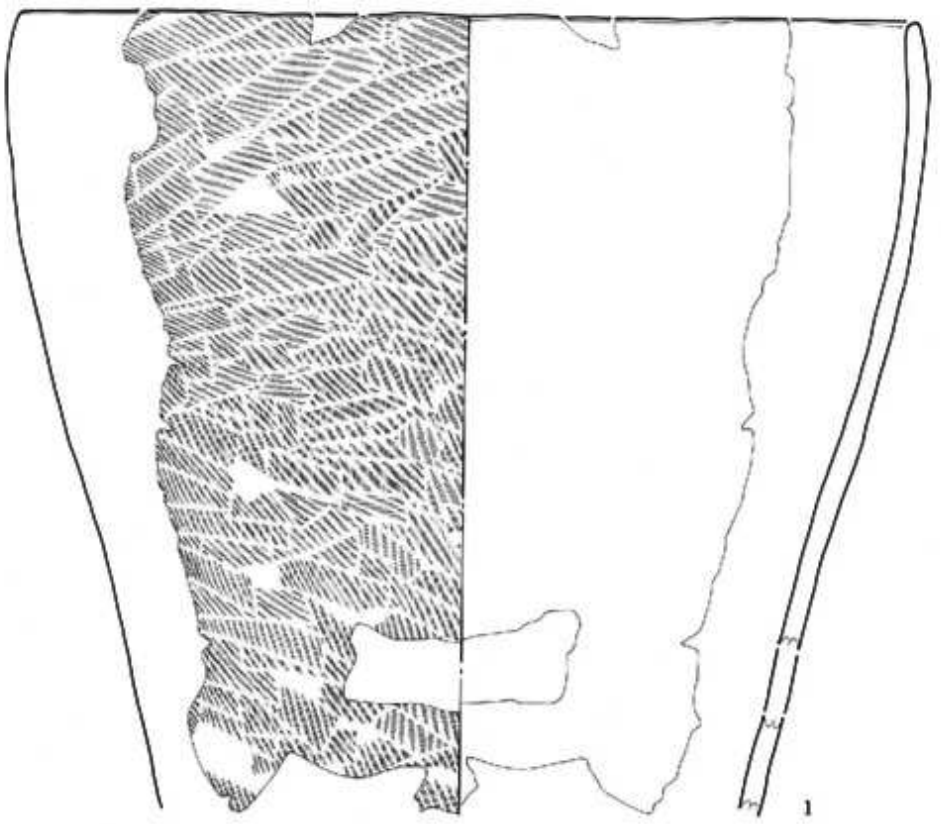
図版番号	登録番号	種別	器形	部位	出土地点 区	出土地点 層位	施文調整	備考	写真図版
1	A－139	縄文土器	鉢	胴部	O－c区	XIb層	曲線的な櫛歯状沈線文		－
2	A－103	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	G区	XIb層	LR縄文、羊歯状文、平行沈線		145－9
3	A－142	縄文土器	鉢	口縁部	O－c区	XIa・b層	沈線		－
4	A－118	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	C区	XI層	入組帯状文、刺突		147－4
5	P－27	土製品	不明	不明	O区	XIc層			－
6	A－121	縄文土器	不明	突起	C区	XI層	RL縄文、沈線		147－1
7	A－23	縄文土器	鉢	底部	E区	XIc層			－
8	A－99	縄文土器	鉢	底部	E区	XI層			－

第230図　XI層出土遺物（13）



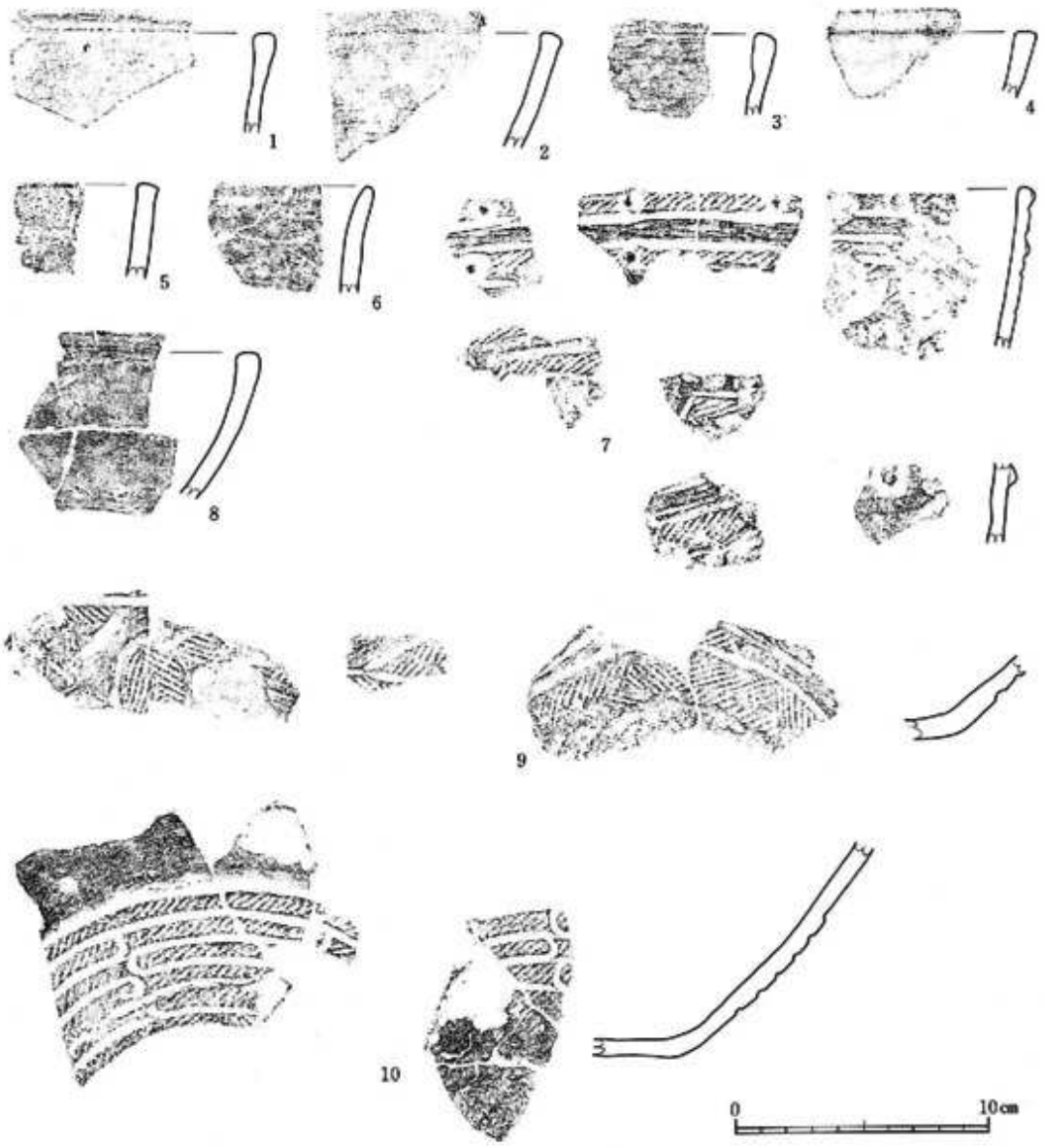
図版番号	登録番号	種別	器形	部位	出土地点 地区	出土地点 層位	施文図版	備考	写真図版
1	A－178	縄文土器	鉢	胴部	N－a区	Ⅺc層	沈線		－
2	A－169	縄文土器	浅鉢	口縁部～胴部	N－b区	Ⅺc層	LR縄文、沈線		－
3	A－173	縄文土器	浅鉢	口縁部～底部	N区	Ⅺc層			155－5
4	A－176	縄文土器	深鉢	胴部	N－a区	Ⅺa・c層	沈線、刺突		154－2
5	A－50	縄文土器	鉢	底部	H区	Ⅺc層			142－5
6	A－117	縄文土器	深鉢	口縁部～底部	H区	Ⅺa層	2個1対の山形突起が4単位、胴目	胴部に縄文（不明）	146－7
7	A－23	縄文土器	鉢	底部	E区	Ⅺc層			－
8	A－174	縄文土器	鉢	胴部～底部	N区	Ⅺc層	LR縄文		154－3

第231図　Ⅺ層出土遺物（14）



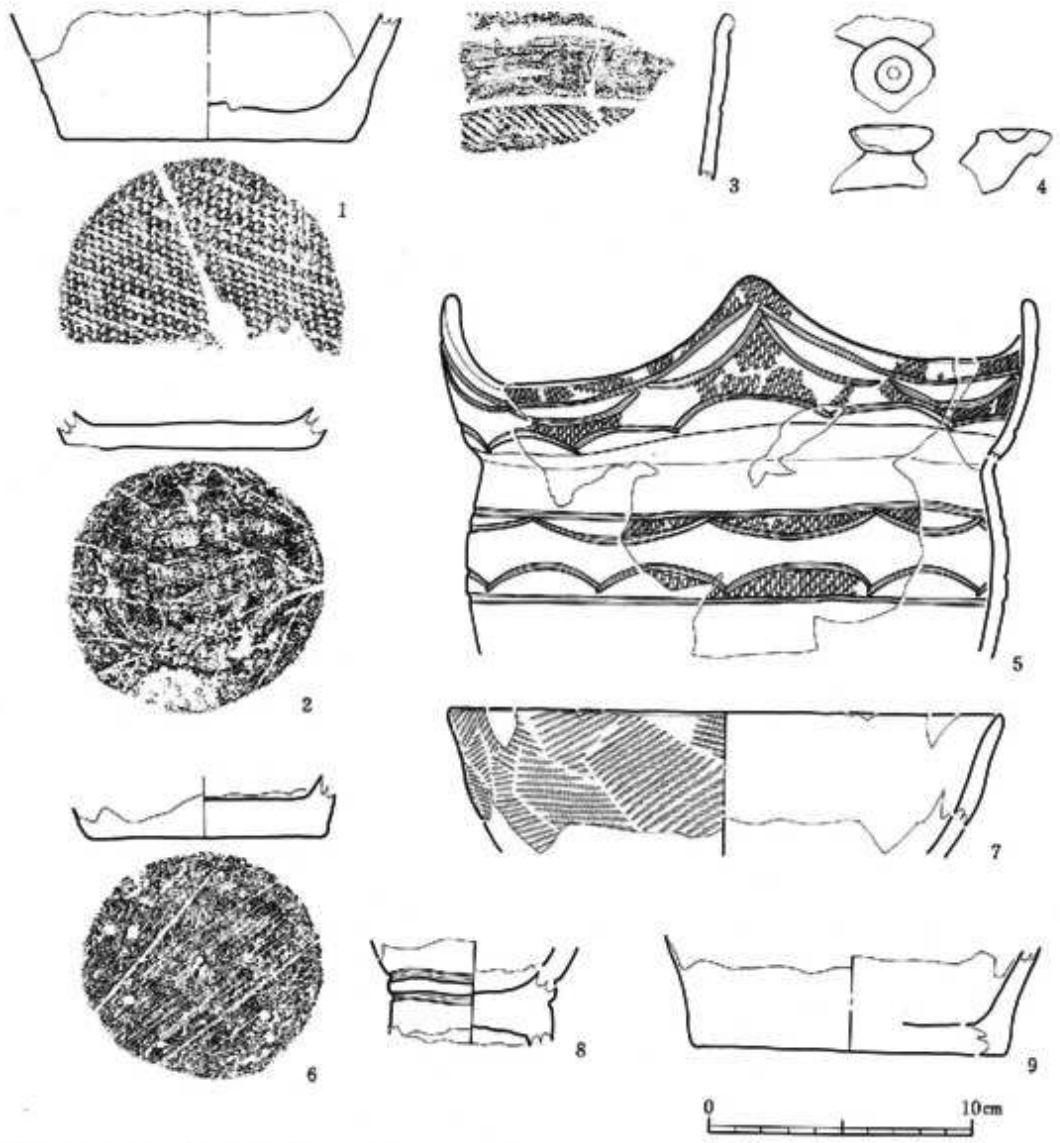
図版番号	登録番号	種別	器形	部位	出土地点 地区	出土地点 層位	施文調整	備考	写真図版
1	A−149	縄文土器	深鉢	口縁部〜胴部	O−b・c区	Ⅺ層上 Ⅺb・c層 Ⅺ・Ⅺb・c層	R縄文		151−1
2	A−156	縄文土器	鉢	底部	O−b・c区	Ⅺb・c層 Ⅺ層			153−2
3	A−9	縄文土器	鉢	胴部	I区	Ⅺa層 Ⅺc層	羽状縄文 (上RL、下LR)		140−2

第232図　XI層出土遺物 (15)



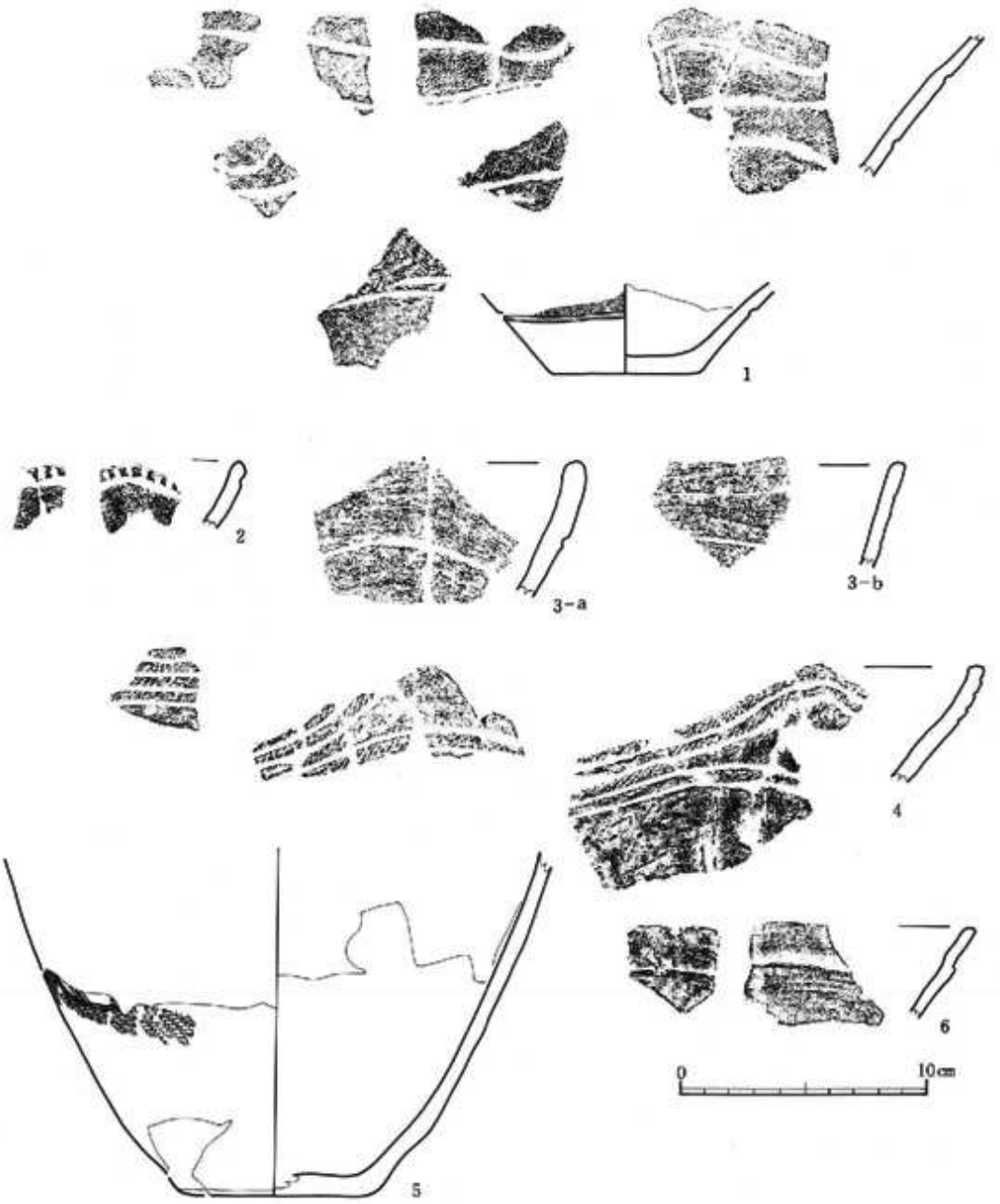
区版番号	登録番号	種別	器形	部位	出土地点 地区	出土地点 層位	施文具痕	備考	写真図版
1	A－41	縄文土器	鉢	口縁部	H区	Ⅱc層			
2	A－42	縄文土器	鉢	口縁部	H区	Ⅱc層			
3	A－44	縄文土器	鉢	口縁部	H区	Ⅱc層			
4	A－45	縄文土器	鉢	口縁部	H区	Ⅱc層			
5	A－46	縄文土器	鉢	口縁部	H区	Ⅱc層			
6	A－48	縄文土器	鉢	口縁部	H区	Ⅱc層			
7	A－43	縄文土器	鉢	口縁部～底部	H区	Ⅱc層	LR縄文、沈線、貼付文		
8	A－48	縄文土器	鉢	口縁部	H区	Ⅱc層			
9	A－39	縄文土器	鉢	底部	H区	Ⅱc層	LR縄文、沈線		
10	A－40	縄文土器	鉢	胴部～底部	H区	Ⅱc層	LR縄文		142－2

第233図　Ⅺ層出土遺物（16）



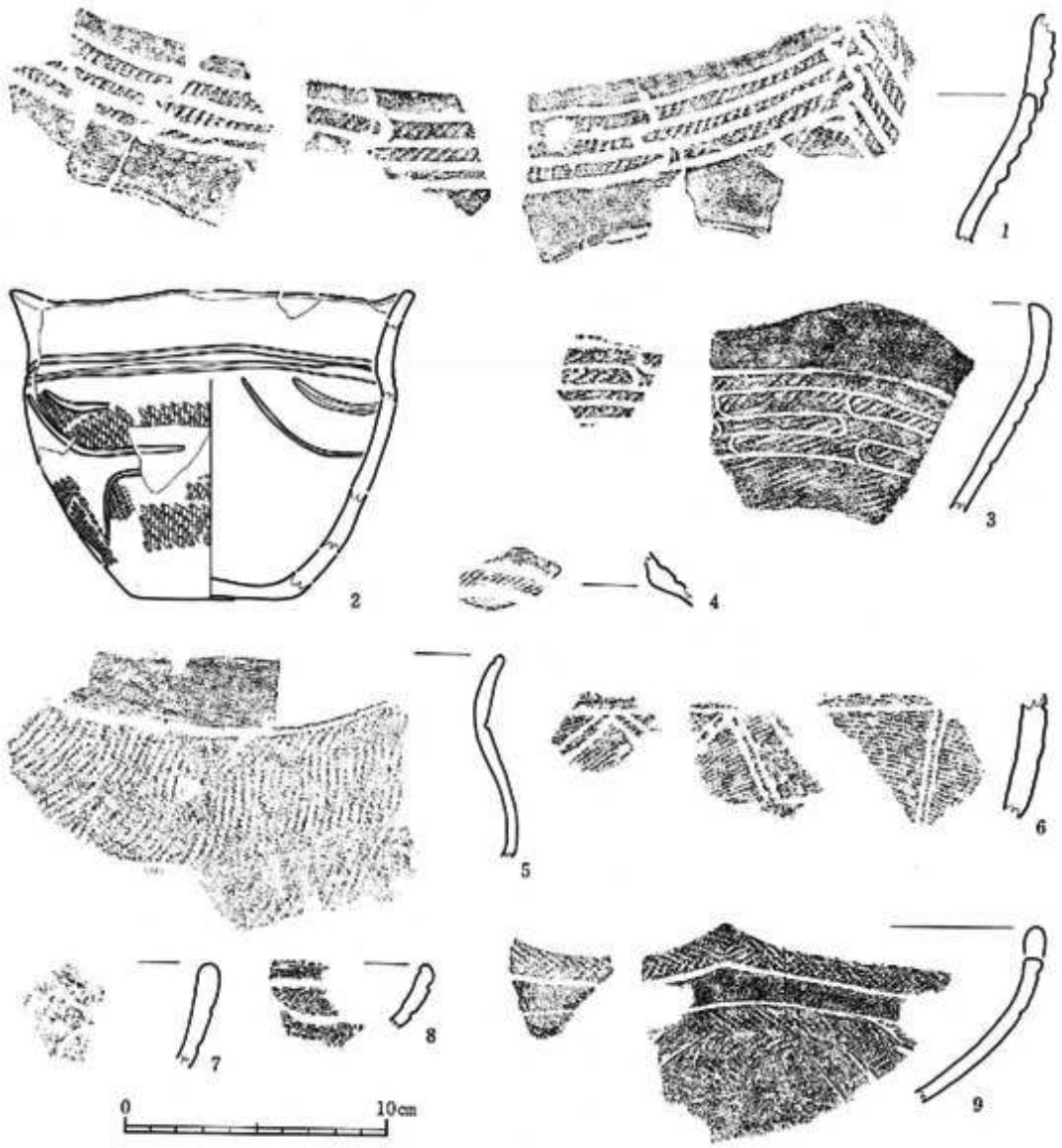
図版番号	登録番号	種別	器形	部位	出土地点 区	出土地点 層位	施文手法	備考	写真図版
1	A－157	縄文土器	鉢	底部	O－c区	Ⅺc層			153－6
2	A－158	縄文土器	鉢	底部	O－b区	Ⅺc層			－
3	A－166	縄文土器	鉢	胴部	O－c区	Ⅺc層	単位LR縄文、沈線	SK1343からも出土している。	－
4	A－163	縄文土器	不明	突起	O－c区	Ⅺc層			153－4
5	A－153	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	O－b区	Ⅺb・c層	LR縄文、沈線		151－3
6	A－182	縄文土器	鉢	底部	O－b区	Ⅺc層			－
7	A－168	縄文土器	浅鉢	口縁部	O－b区 O－c区	Ⅺb・c層	L縄文		154－4
8	A－160	縄文土器	不明	底部	O－b区	Ⅺb・c層	沈線		153－1
9	A－159	縄文土器	鉢	底部	O－c区	Ⅺc層			153－3

第234図　Ⅺ層出土遺物（17）



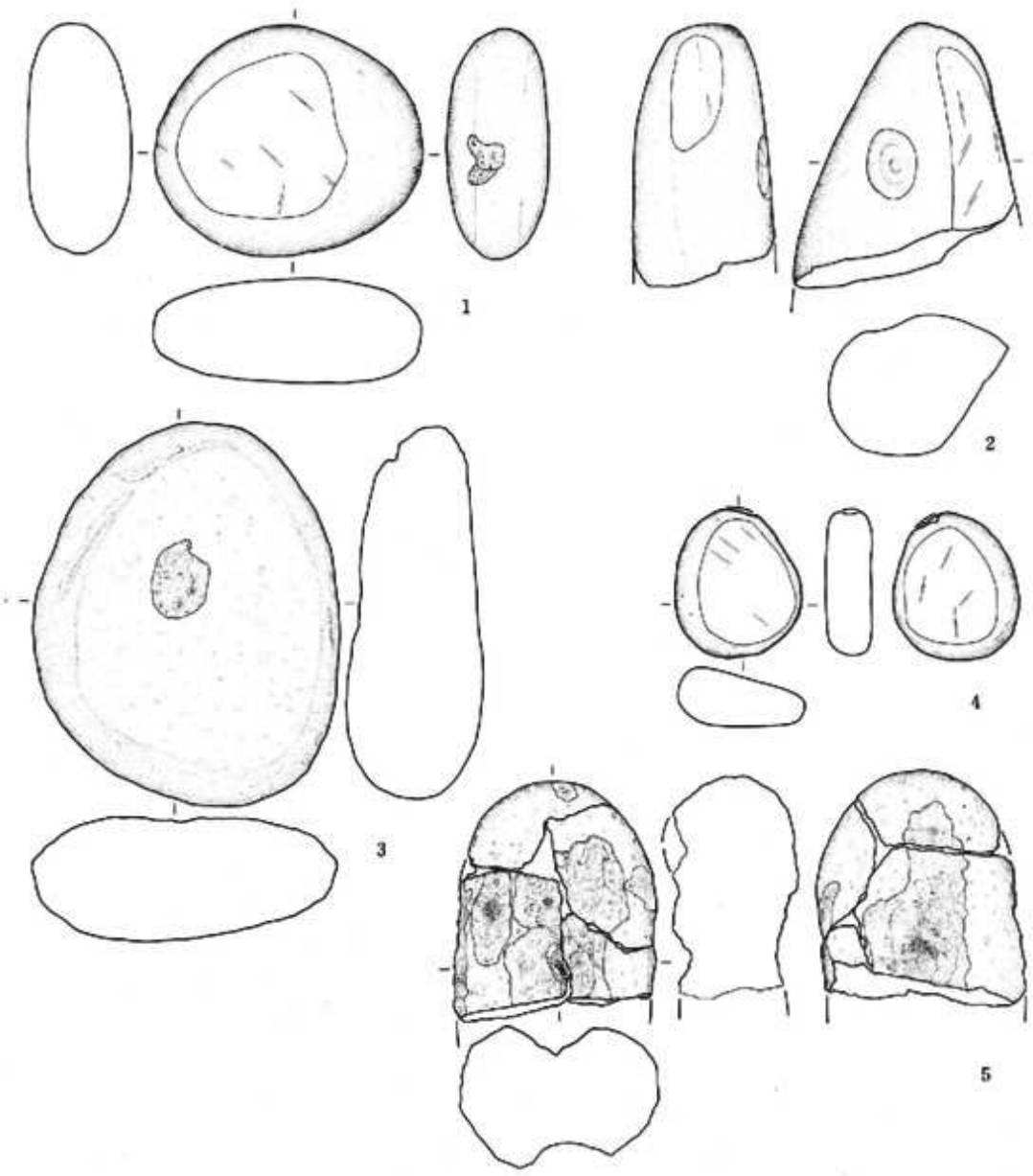
図版番号	登録番号	種別	器形	部位	出土地点 区	出土地点 層位	施文要素	備考	写真図版
1	A－132	縄文土器	深鉢	胴部～底部	O－a区	XIb・c層	LR縄文、沈線		149－5
2	A－138	縄文土器	鉢	口縁部	O－a区	XIb・c層	沈線		－
3	A－129	縄文土器	鉢	口縁部	O－a区	XIb・c層	沈線		－
4	A－127	縄文土器	鉢	口縁部	O－a区 O－b区	XIb・c層	LR縄文、沈線	XI層からも破片が出土している。	148－1
5	A－167	縄文土器	深鉢	胴部～底部	O－a区 O－b区	XIa～c層	変位LR縄文、沈線		154－5
6	A－137	縄文土器	鉢	口縁部	O－a区 O－c区	XIb・c層			149－1

第235図　XI層出土遺物（18）



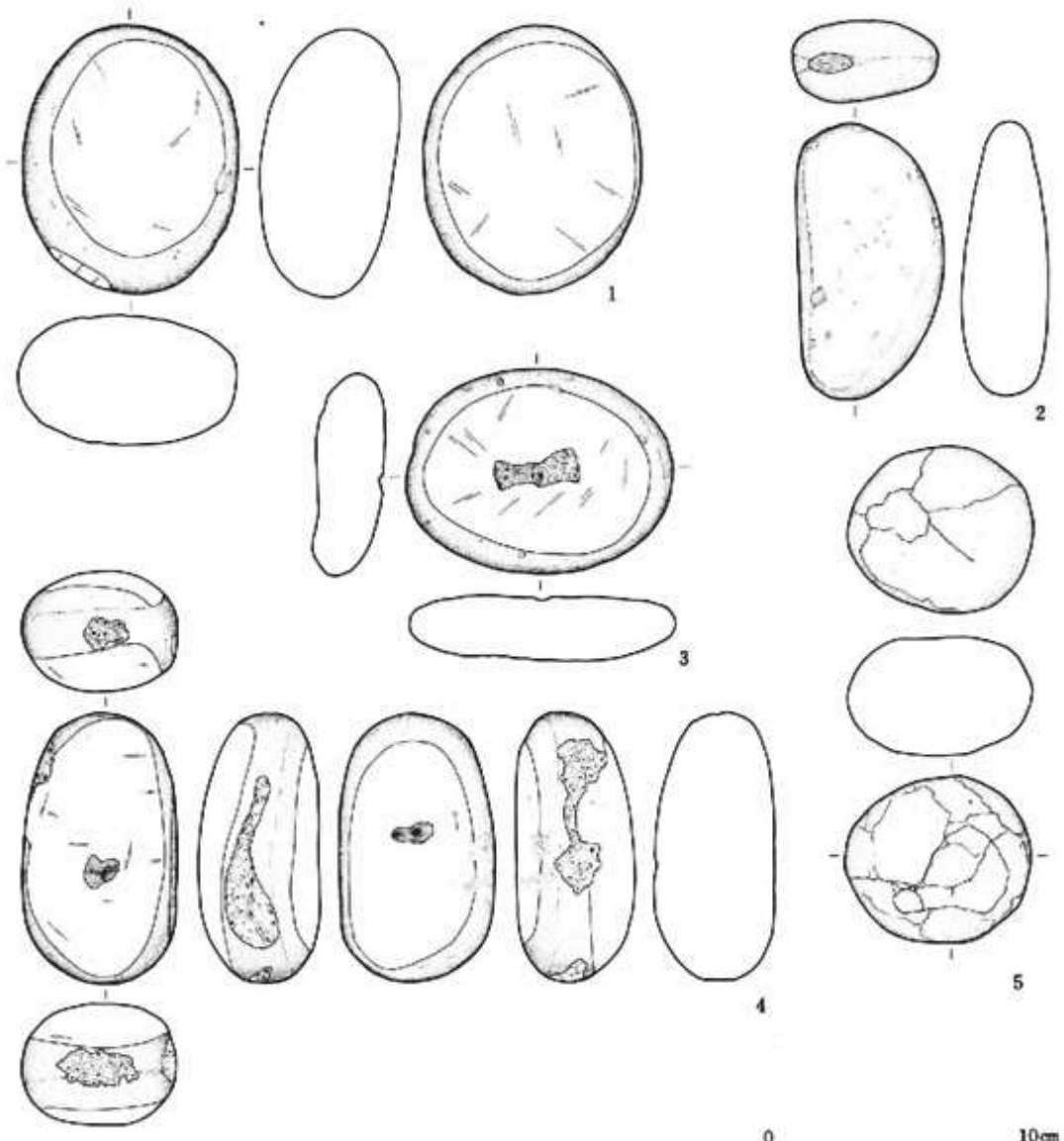
図版番号	登録番号	種別	器形	部位	出土地点 地区	出土地点 層位	施文調整	備考	写真図版
1	A－148	縄文土器	深鉢	口縁部	O-a・b・d区	XIa・c層	波状口縁、沈線、縦位LR縄文	XI層、SK1343からも破片が出土している。	150－1
2	A－144	縄文土器	浅鉢	口縁部～底部	O-a・b・d区	XIa・c層	RL縄文、沈線		149－3
3	A－122	縄文土器	鉢	口縁部	O区	XIc層	反転平行沈線		148－2
4	A－170	縄文土器	壺	胴部	O区	XIc層	LR縄文、沈線		－
5	A－154	縄文土器	鉢	口縁部～胴部	O－c区	XIa・c層	LR縄文		152－4
6	A－140	縄文土器	鉢	胴部	O－c区	XIc層	斜位LR縄文		－
7	A－135	縄文土器	鉢	口縁部	O－c区	XIc層	沈線		－
8	A－126	縄文土器	不明	口縁部	O－c区	XIc層	沈線		－
9	A－130	縄文土器	浅鉢	口縁部～胴部	O－c区	XIc層	波状口縁、沈線、羽状縄文		149－2

第236図　XI層出土遺物（19）



図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点 地区	層位	法量 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特徴	備考	写真図版
1	K-56	礫石器	安山岩	I区	第8層	10.5	9.1	4.1	617.5	磨面・敲打痕		162-8
2	K-63	礫石器	安山岩	I区	第8層	10.6	8.75	5.65	559.5	磨面・敲打痕		164-5
3	K-51	礫石器	安山岩	I区	第8層	15.2	12.1	5.4	1396.5	敲打痕		162-5
4	K-46	礫石器	安山岩	I区	第8層	6.0	5.1	2.2	98.5	磨面		161-3
5	K-67	礫石器	安山岩	I区	第8層	9.5	8.1	6.1	358.5	敲打痕	凹石	164-3

第237図　XI層出土遺物 (20)

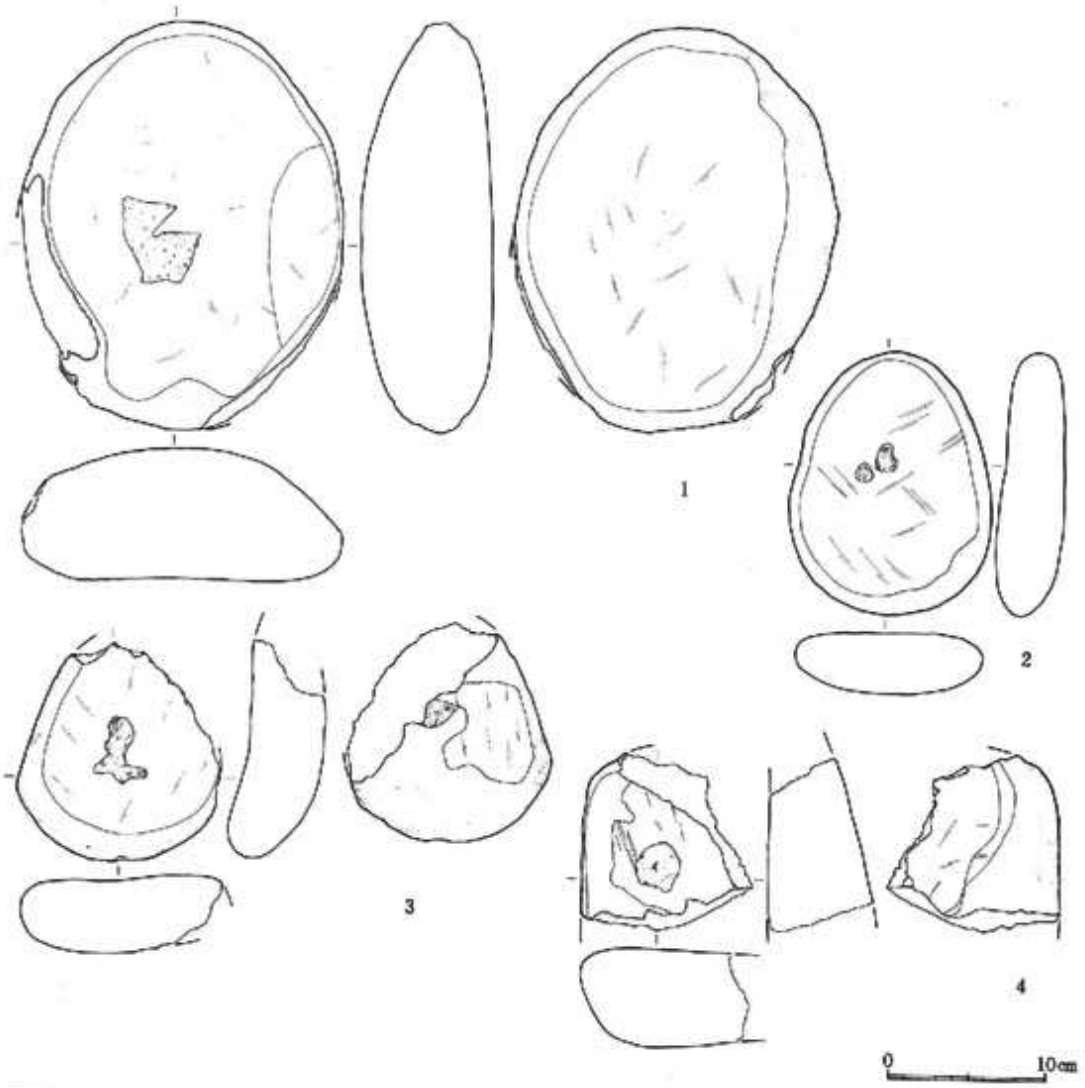


図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点 地区	出土地点 層位	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重量(g)	特徴	備考	写真図版
1	K-57	磨石類	安山岩	I区	XIa層	10.5	8.4	5.1	498.5	磨面		162-4
2	K-73	磨石類	安山岩	I区	XIa層	10.7	5.55	3.3	296.0	敲打痕		165-5
3	K-54	磨石類	安山岩	I区	XIa層	10.4	8.0	2.5	355.0	敲打痕		162-7
4	K-47	磨石類	安山岩	I区	XIa層	10.45	5.95	4.65	470.5	磨面・敲打痕		161-5
5	K-49	磨石類	安山岩	I区	XIa層	7.2	6.55	4.7	273.0	磨面		161-8

第238図　XI層出土遺物（21）

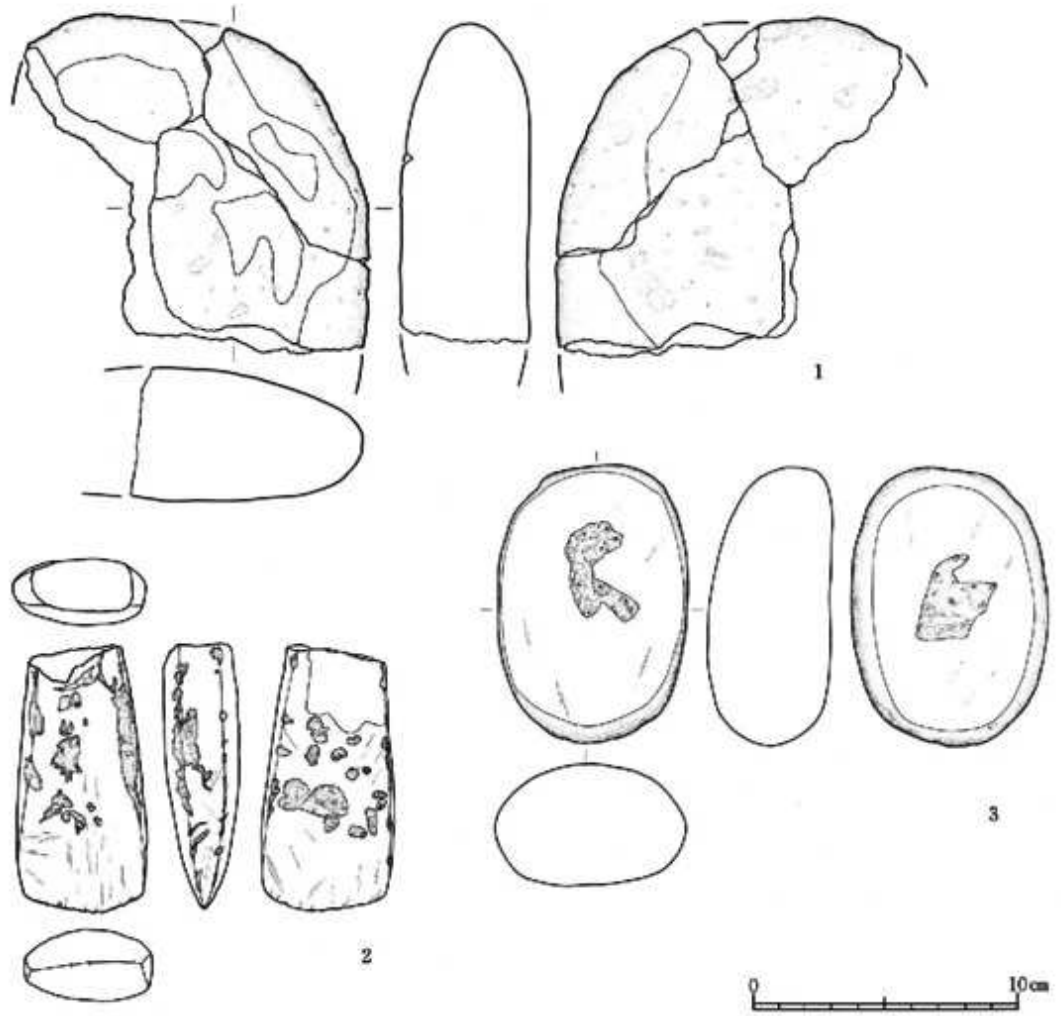
図版番号	登録番号	器種	石材	出土地点 地区	出土地点 層位	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重量(g)	特徴	備考	写真図版
1	K-53	磨石類	安山岩	I区	Xa層	12.9	6.5	5.5	517.0	敲石・敲打痕		162-2
2	K-43	磨石器	石英安山岩	I区	Xa層	6.1	7.1	3.0	312.0	楕石		161-1
3	K-55	磨石器	安山岩	I区	Xa層	7.0	6.0	3.7	210.5	磨面・敲打痕		162-1
4	K-42	磨石器	安山岩	I区	Xa層	9.4	8.7	6.4	750.0	磨面・敲打痕		160-6
5	K-45	磨石類	安山岩	I区	Xa層	6.8	7.35	4.65	345.0	磨面・敲打痕		161-4
6	K-69	磨石類	頁岩	I区	Xa層	9.7	5.3	4.75	326.0	楕石		165-1

第239図　XI層出土遺物（22）



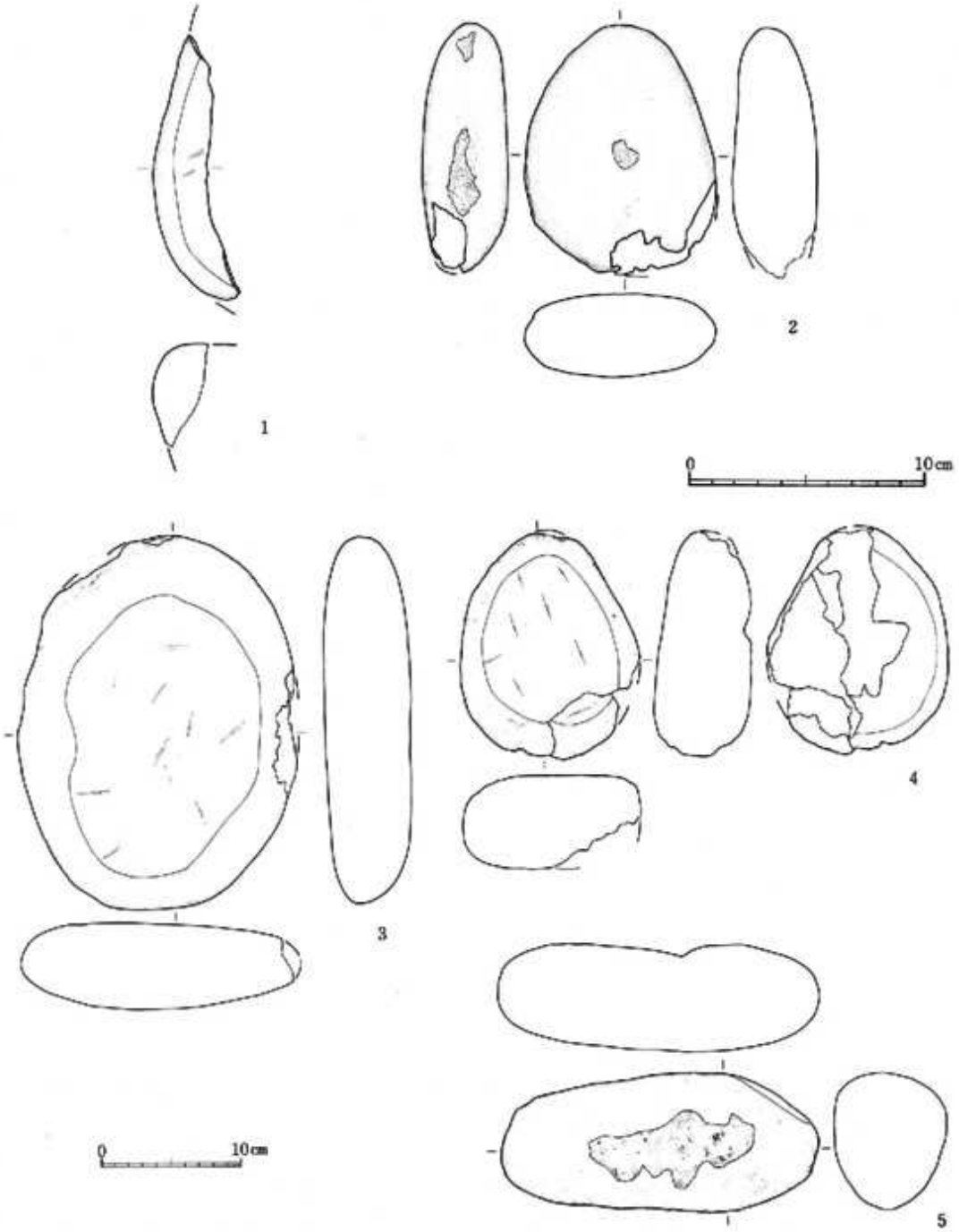
図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点 地区	出土地点 層位	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重量(g)	特徴	備考	写真図版
1	K-59	敲石器	不明	I区	Xa層	26.2	20.4	8.5	6803.5	磨面・敲打痕		163-1
2	K-52	敲石器	安山岩	I区	Xa層	16.8	12.5	4.3	1142.0	磨面・敲打痕		162-3
3	K-50	磨石器	安山岩	I区	Xa層	14.0	13.0	4.7	1157.0	磨面・敲打痕		161-6
4	K-30	磨石器	安山岩	I区	Xa層	11.5	11.1	6.7	993.5	磨面・敲打痕		160-3

第240図　XI層出土遺物 (23)



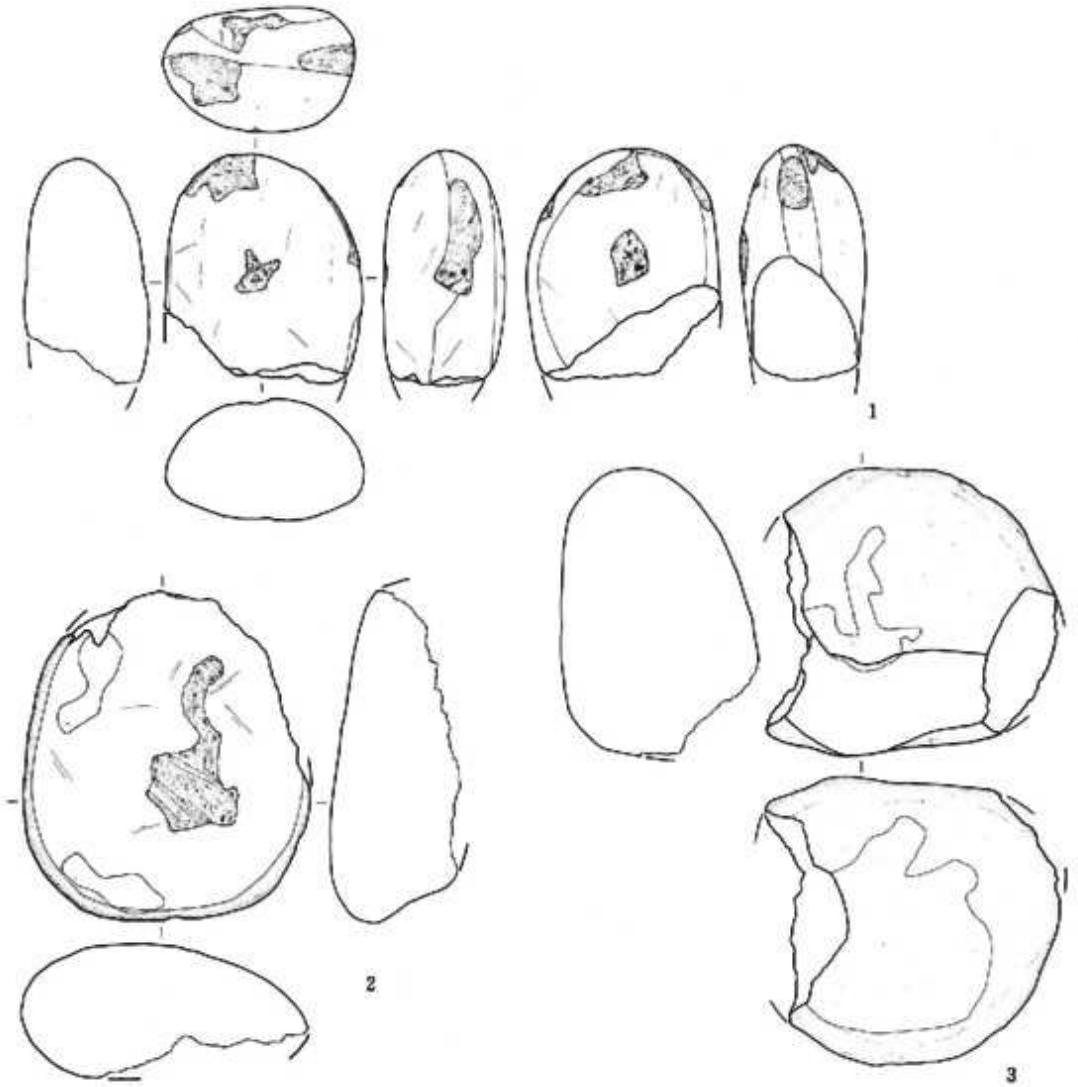
図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点		法量				特徴	備考	写真図版
				地区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1	K-68	磨石類	安山岩	I区	Xa・c層	13.1	13.1	5.1	1133.5	扁円		164-6
2	K-2	剥製石斧	安山岩	I区	Xb層	10.3	5.0	2.7	245.30	敲打痕・擦痕		156-8
3	K-48	磨石類	安山岩	I区	Xa層	11.6	7.3	4.7	606.0	磨痕・敲打痕		161-7

第241図　XI層出土遺物（24）



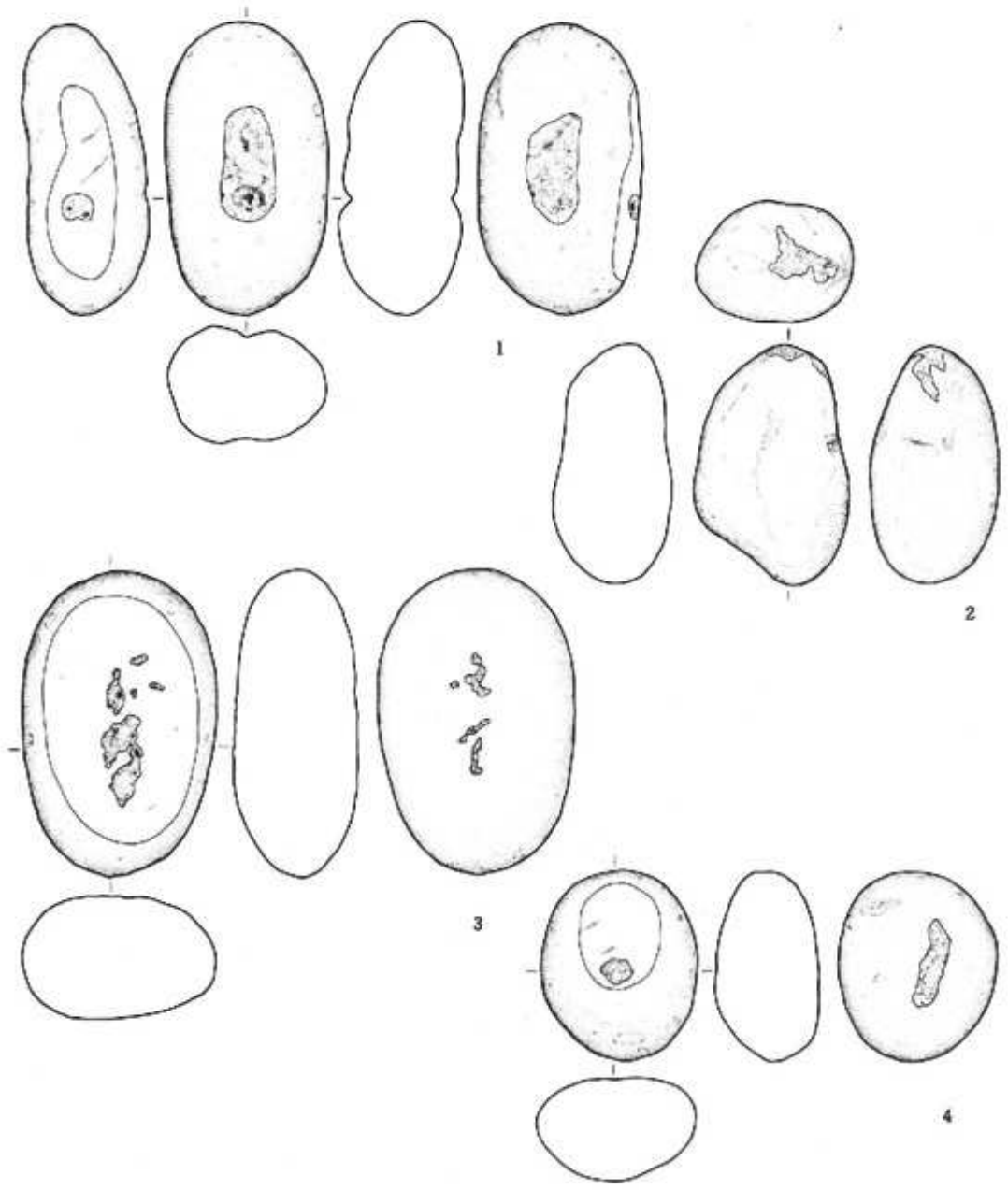
図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点 地区	出土地点 層位	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重量(g)	特徴	備考	写真図版
1	K-62	磨石類	安山岩	I区	第c層	11.4	2.3	2.1	130.0	磨痕		154-2
2	K-44	磨石類	安山岩	I区	第c層	10.75	8.1	3.6	424.5	敲打痕		161-2
3	K-60	磨石類	安山岩	I区	第c層	26.4	20.0	6.5	5205.5	磨痕		163-2
4	K-41	磨石類	不明	I区	第c層	16.2	12.7	6.9	1849.0	磨痕		161-9
5	K-58	磨石類	不明	I区	第a層	22.5	9.6	7.4	3640.0	敲打痕		162-6

第242図　XI層出土遺物（25）



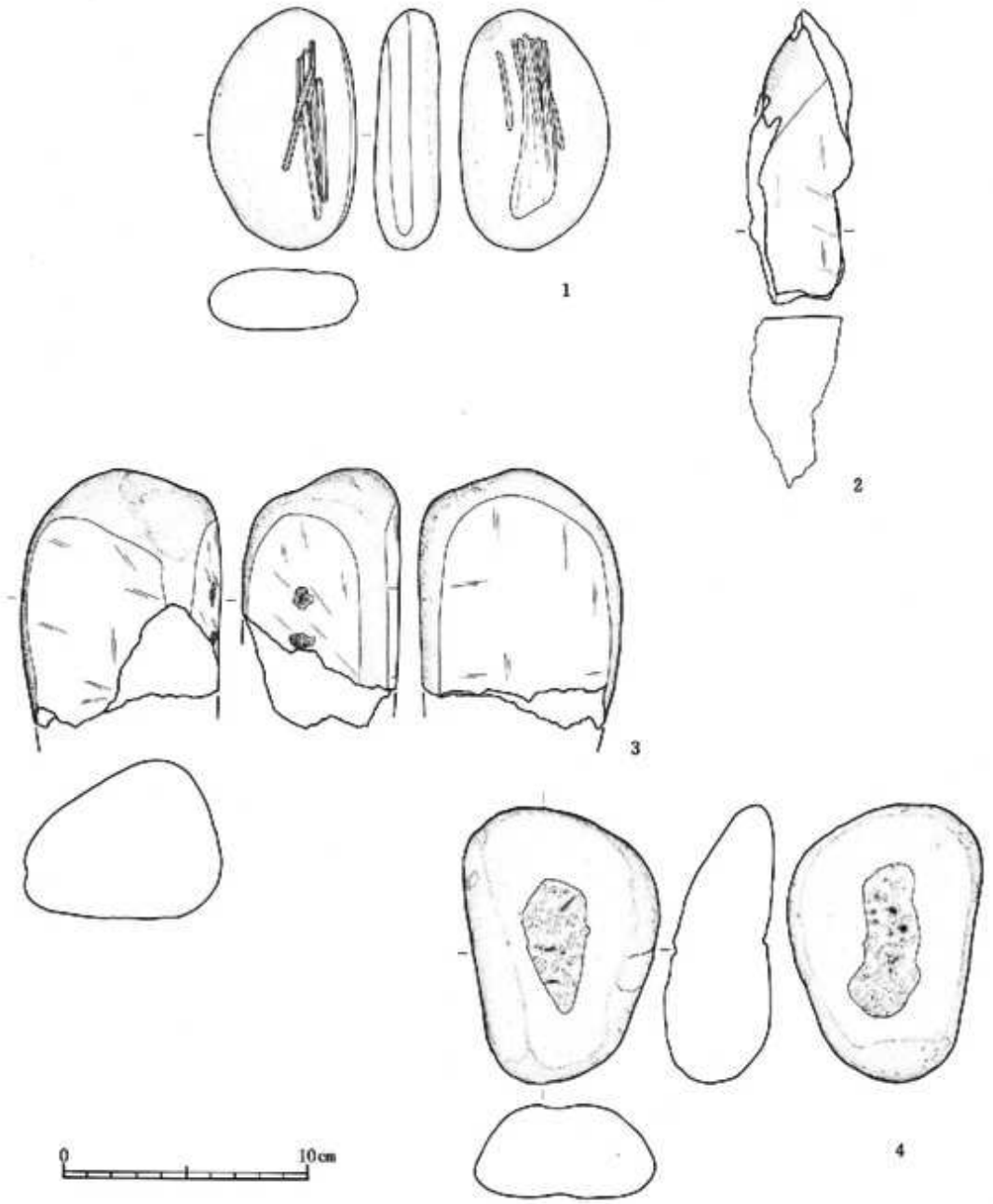
図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点 地区	出土地点 層位	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重量(g)	特徴	備考	写真図版
1	K−37	緑石器	安山岩	H区	Ⅺa層	8.9	7.3	4.4	453.0	原面・剥打痕		160−2
2	K−38	緑石器	安山岩	H区	Ⅺa層	12.5	10.8	5.0	840.5	原面・剥打痕・研磨状の痕跡		160−6
3	K−166	緑石器	安山岩	H区	Ⅺb層	11.2	11.1	7.5	1235.5	原面・摩滅		170−7

第243図　Ⅺ層出土遺物（26）



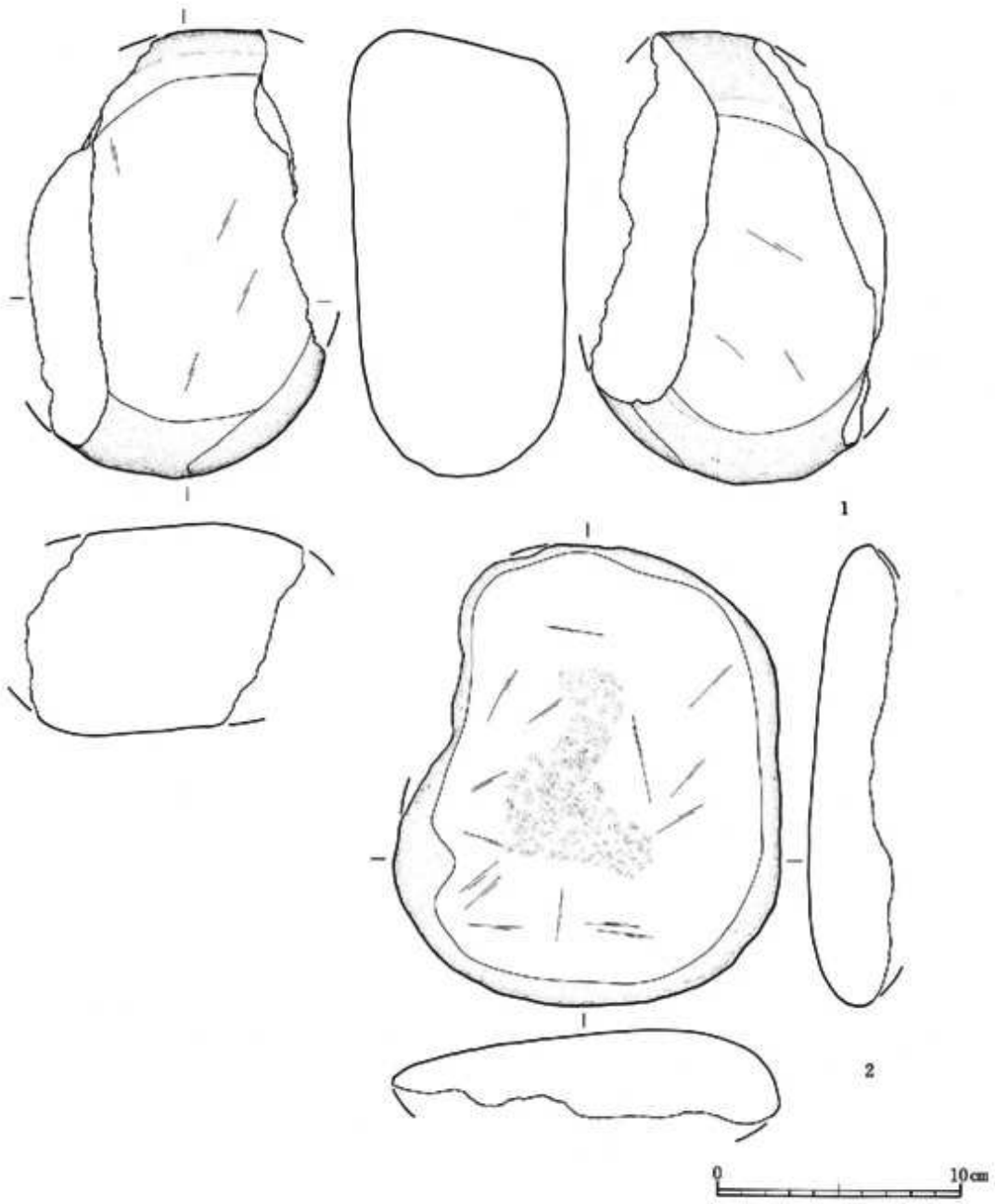
図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点 地区	出土地点 層位	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重量(g)	特徴	備考	写真図版
1	K-14	磨石器	安山岩	D区	Ⅺ層	11.8	6.3	4.9	506.0	腹面・敲打痕		157-3
2	K-74	磨石器	不明	D区	Ⅺ層	9.85	6.4	5.1	430.0	腹面・敲打痕		165-7
3	K-18	磨石器	不明	D区	Ⅺ層	12.2	7.6	5.0	869.5	腹面・敲打痕		157-6
4	K-16	磨石器	不明	D区	Ⅺ層	7.3	6.4	4.3	295.5	腹面・敲打痕		157-2

第244図　Ⅺ層出土遺物（27）



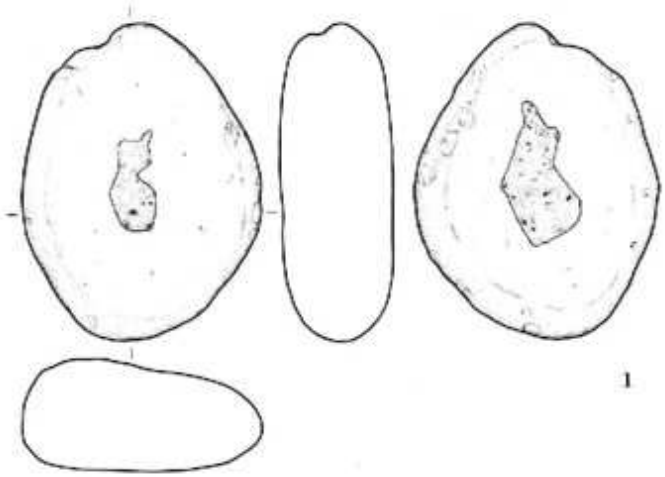
図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点 区	出土地点 層位	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重量(g)	特徴	備考	写真図版
1	K-33	磨石類	安山岩	G区	Xa層	9.9	6.1	2.7	126.0	研磨状の稜線		159-7
2	K-34	磨石類	砂岩	G区	Xa層	12.2	4.3	7.9	458.0	磨面		159-5
3	K-15	磨石類	安山岩	D区	XI層	10.7	8.2	6.5	787.5	磨面・敲打痕		157-5
4	K-17	磨石類	安山岩	D区	XI層	11.1	7.6	4.3	512.5	敲打痕		157-4

第245図　XI層出土遺物（28）

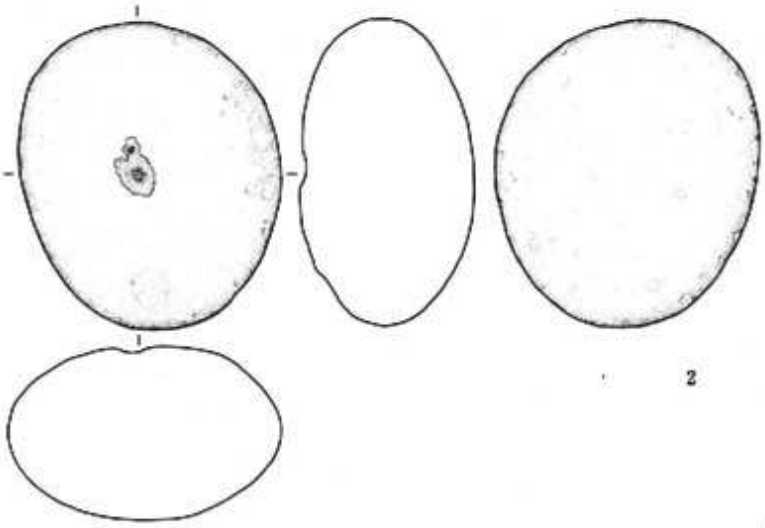


図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点		法量				特徴	備考	写真図版
				地区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1	K-26	磨石類	安山岩	E区	Ⅺ層	18.5	12.1	8.5	2536.5	扁園		158-3
2	K-21	磨石類	安山岩	E区	Ⅺc層	19.1	15.8	3.9	1637.5	扁円		158-6

第246図　XI層出土遺物（29）



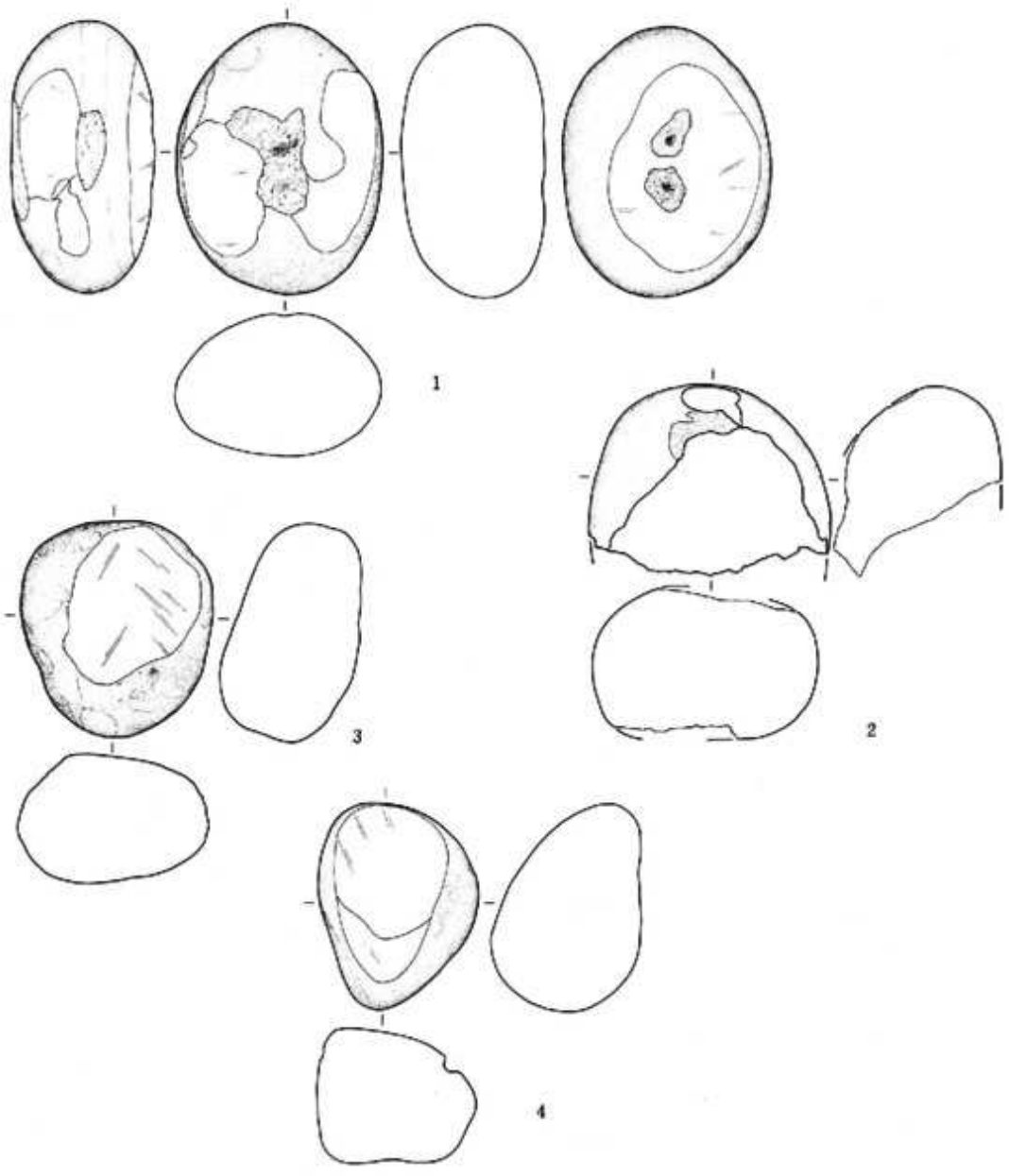
1



2

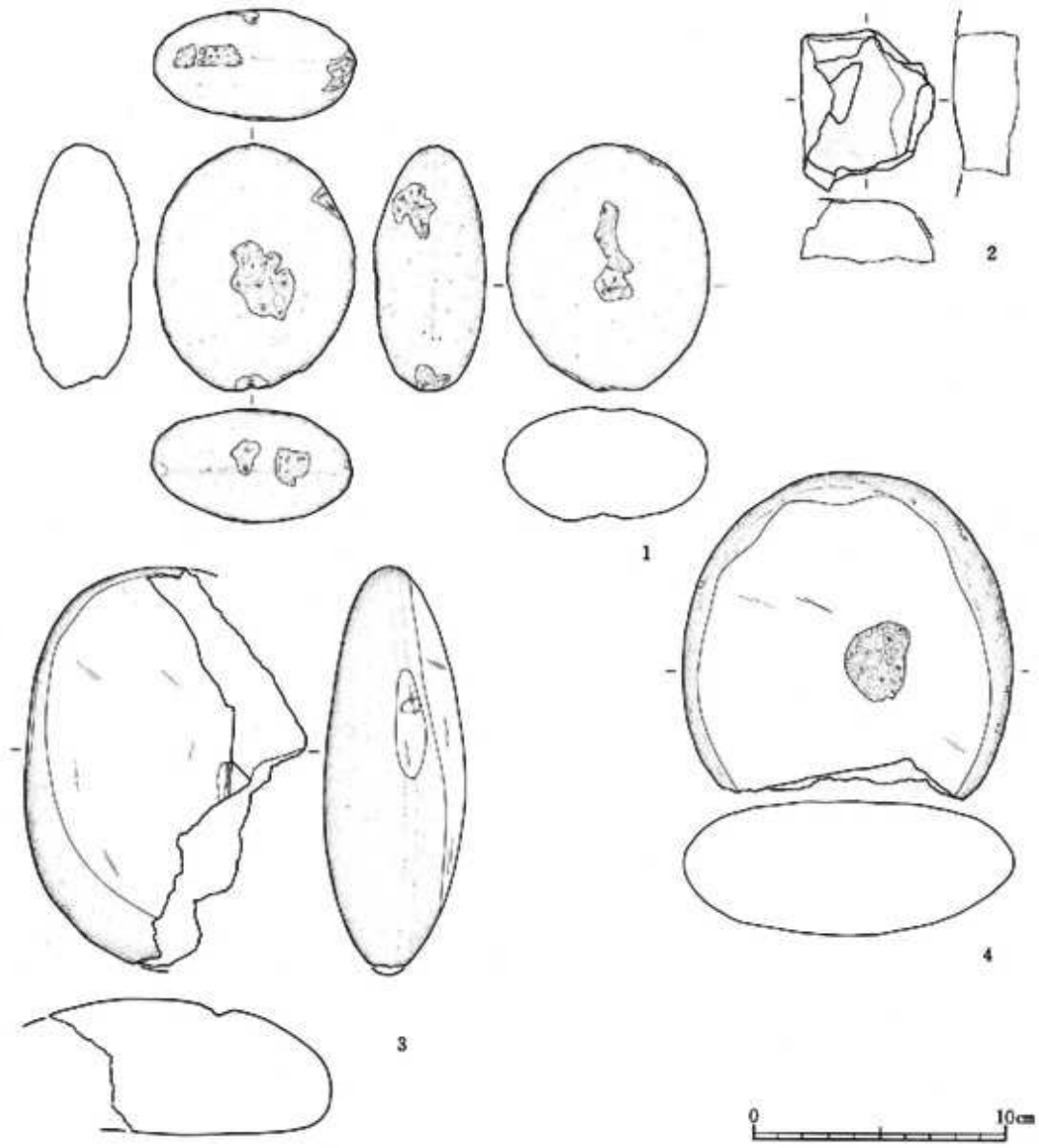
図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点		法量				特徴	備考	写真図版
				地区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1	K-22	敲石類	安山岩	E区	Ⅶc層	12.2	9.0	4.4	729.5	敲打痕		158-1
2	K-23	敲石類	安山岩	E区	Ⅶc層	11.5	9.7	6.5	1151.5	敲打痕		158-2

第247図　XI層出土遺物（30）



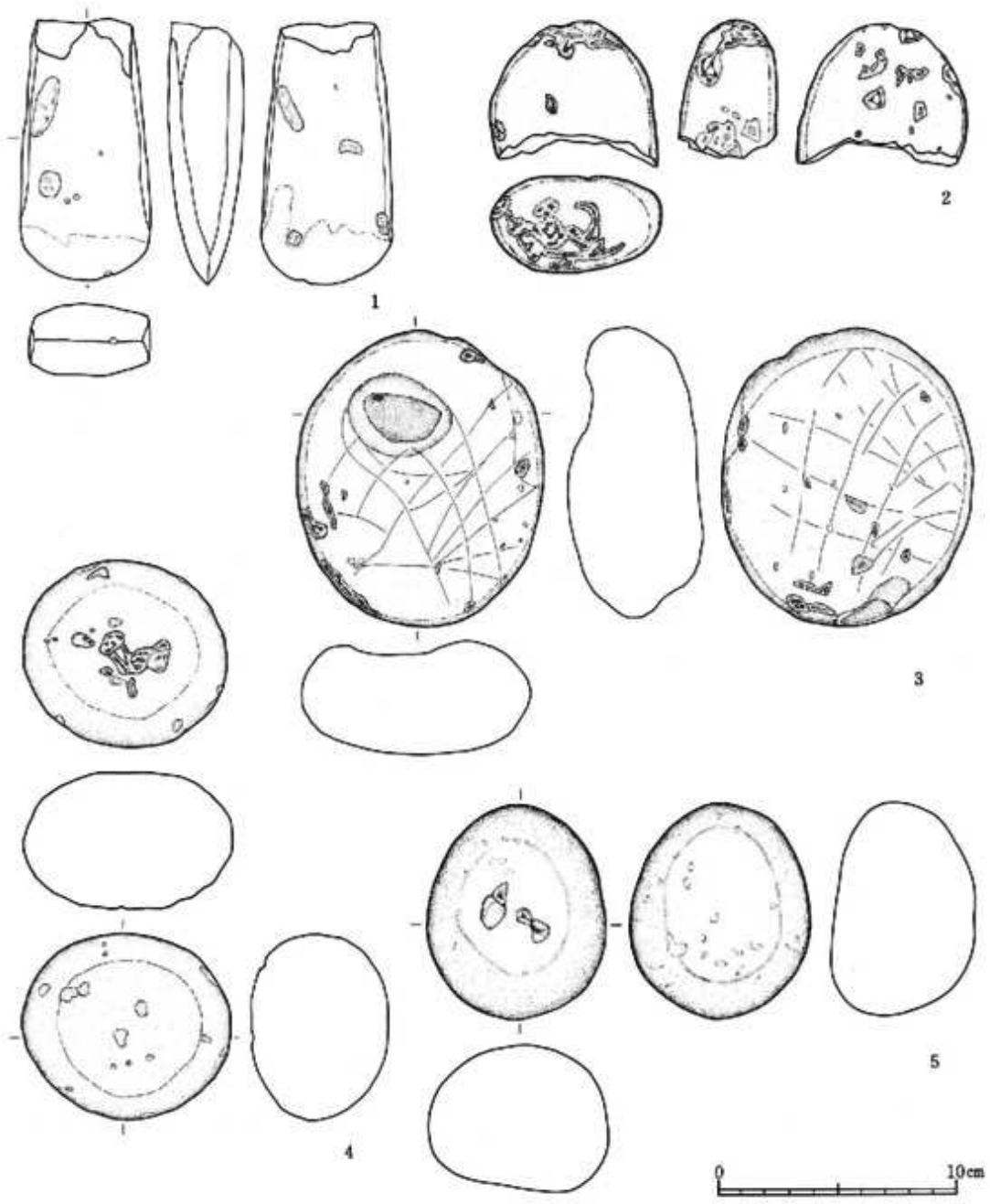
図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点		法量				特徴	備考	写真図版
				地区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1	K-25	礫石器	安山岩	E区	XI層	11.05	8.3	5.7	763.6	磨面・敲打痕		158-5
2	K-71	礫石器	安山岩	E区	XI層	7.8	9.8	6.8	599.0	敲打痕		165-6
3	K-24	礫石器	安山岩	E区	XIc層	8.85	7.75	5.60	537.5	磨面		158-4
4	K-27	礫石器	安山岩	E区	XI層	8.45	6.5	6.0	428.0	磨面		159-1

第248図　XI層出土遺物（31）



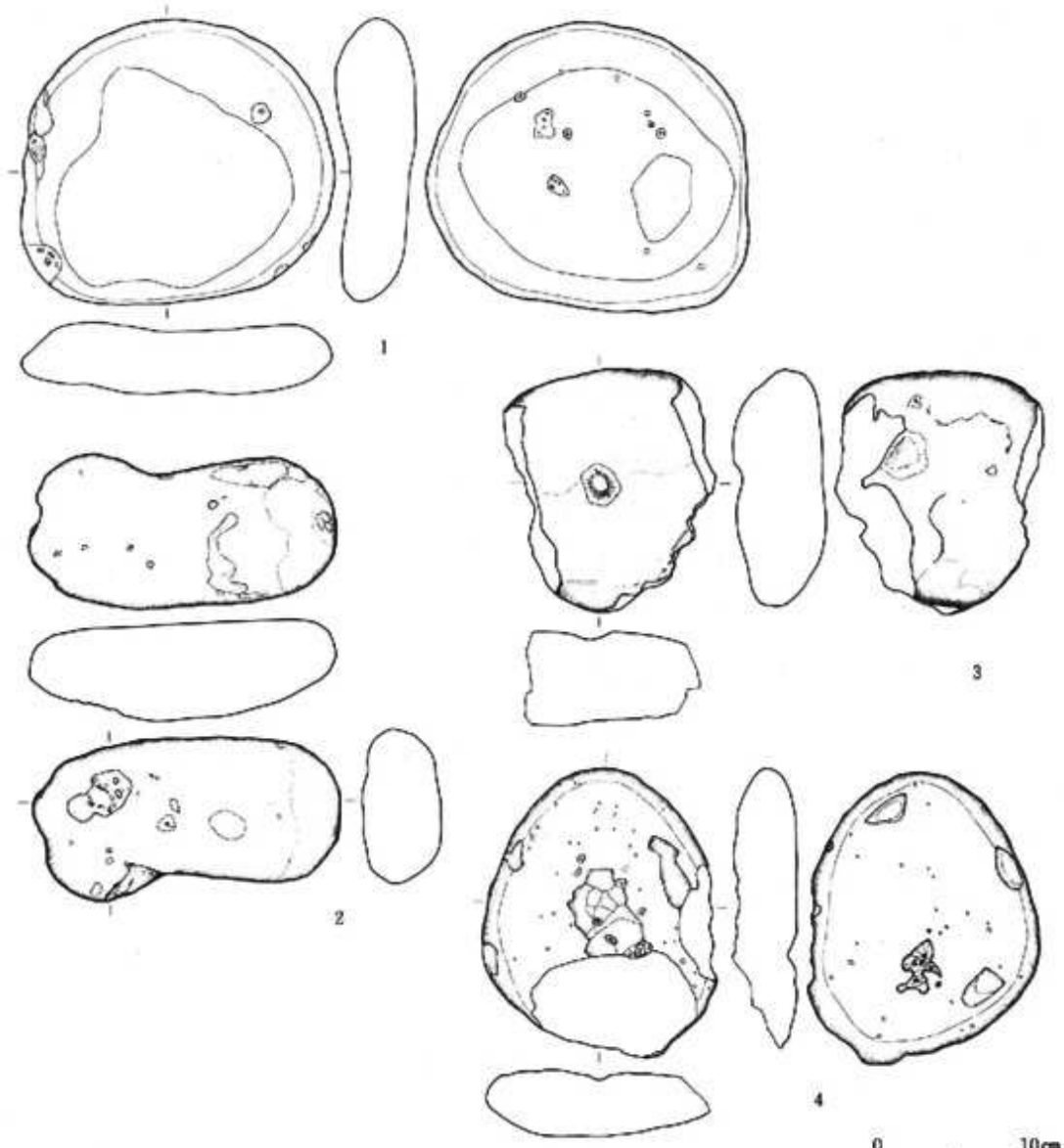
図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点		法量				特徴	備考	写真図版
				地区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1	K−29	礫石器	安山岩	Fa区	Ⅲb層	9.7	7.8	4.3	482.0	敲打痕		159−3
2	K−65	礫石器	安山岩	M区	Ⅲa層	6.5	5.2	2.5	124.0	磨面・線面		164−4
3	K−40	礫石器	安山岩	H区	Ⅲc層	16.0	11.05	5.7	1109.5	磨面・擦痕		160−4
4	K−10	礫石器	安山岩	C区	Ⅲ層	13.1	13.1	5.4	1384.5	磨面・敲打痕		157−8

第249図　Ⅺ層出土遺物（32）



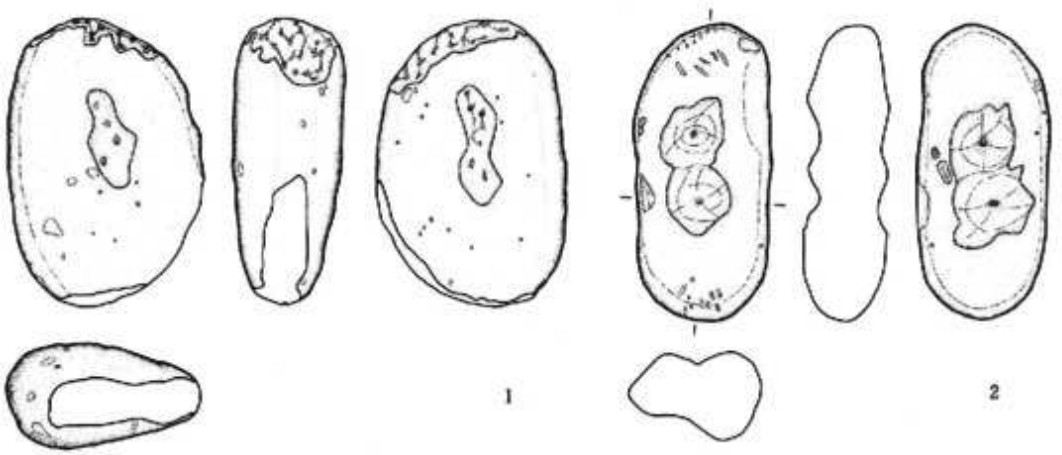
図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点 地区	出土地点 遺位	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重量(g)	特徴	備考	写真図版
1	K-255	磨製石斧	安山岩	NK	第b層	10.98	5.43	3.04	335.0	使用痕・敲打痕		179-1
2	K-263	敲石器	安山岩	NK	第b層	6.82	5.64	3.54	214.0	敲打痕		179-2
3	K-259	敲石器	安山岩	NK	第b層	12.07	10.22	5.62	960.5	敲打痕		178-3
4	K-258	敲石器	安山岩	NK	第c層	8.66	7.77	5.92	576.0	敲打痕		178-2
5	K-170	敲石器	安山岩	NK	XI層	9.00	7.60	6.60	585.5	敲打痕		170-8

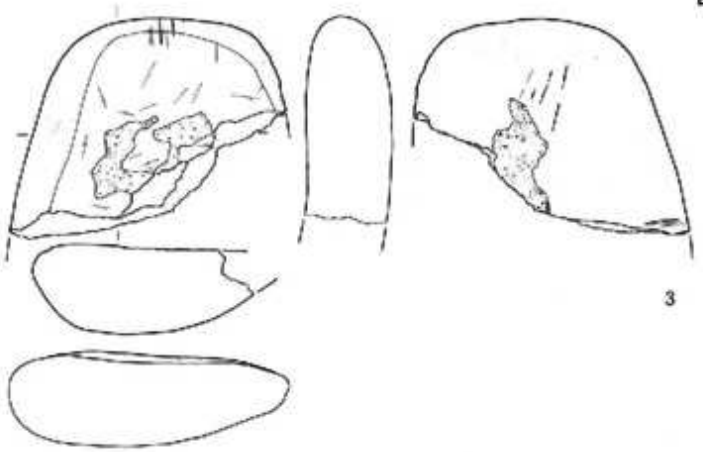
第250図　XI層出土遺物（33）

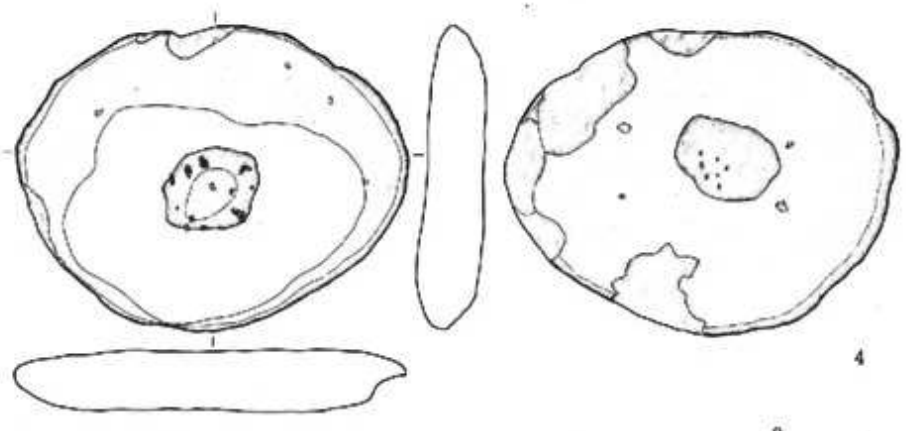


図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点 地区	出土地点 層位	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重量(g)	特徴	備考	写真図版
1	K-267	磨石器	安山岩	N区	XI層	20.05	18.46	5.46	3020.0	剥離・敲打痕		180-5
2	K-257	磨石器	安山岩	N区	XIb層	20.13	8.75	6.36	1924.0	敲打痕		180-3
3	K-256	磨石器	安山岩	N区	XI層	15.30	12.66	5.73	1394.0	敲打痕		183-1
4	K-262	磨石器	砂岩？	N区	XIb層	18.48	14.28	4.61	1037.0	敲打痕		181-2

第251図　XI層出土遺物（34）

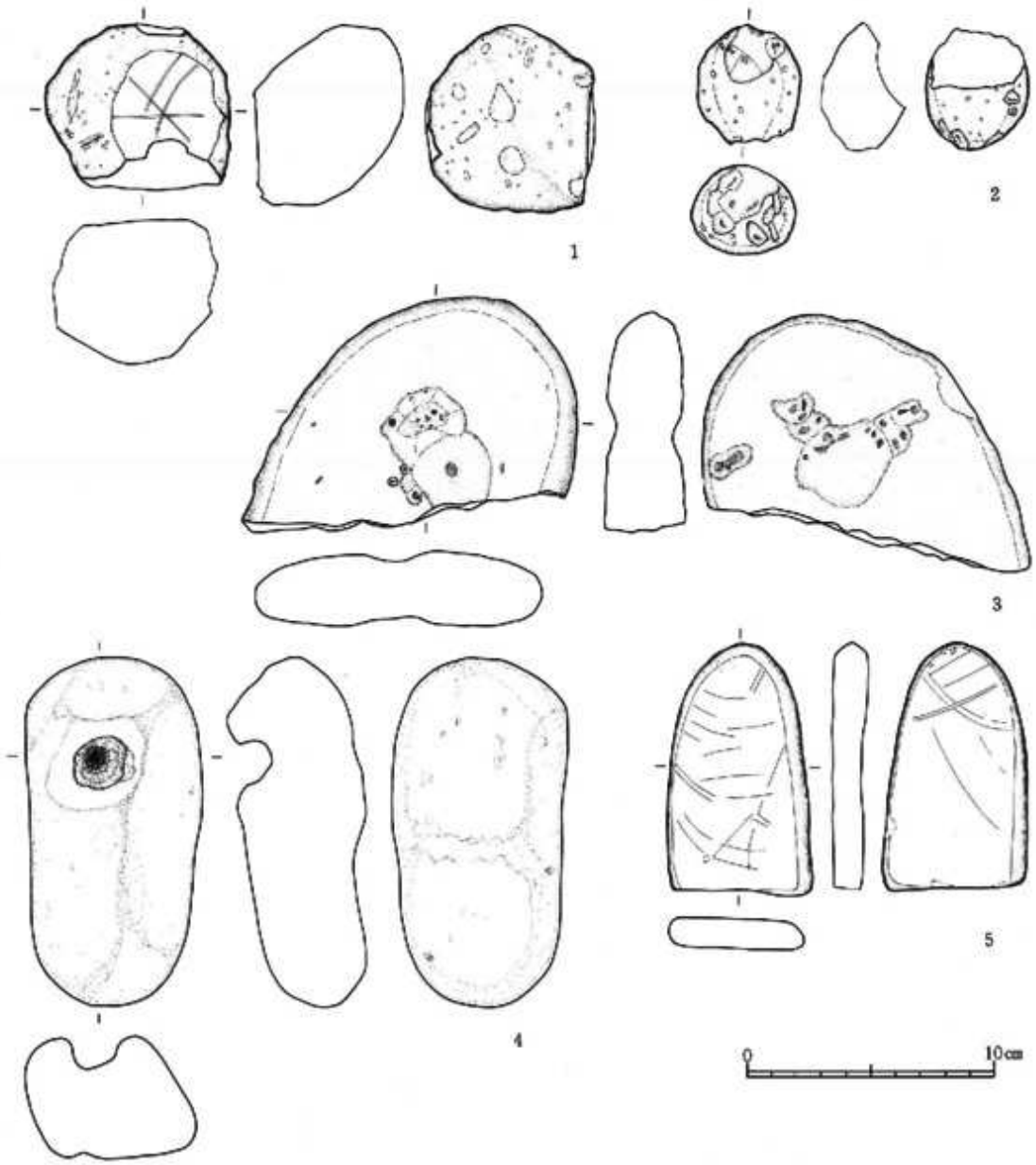






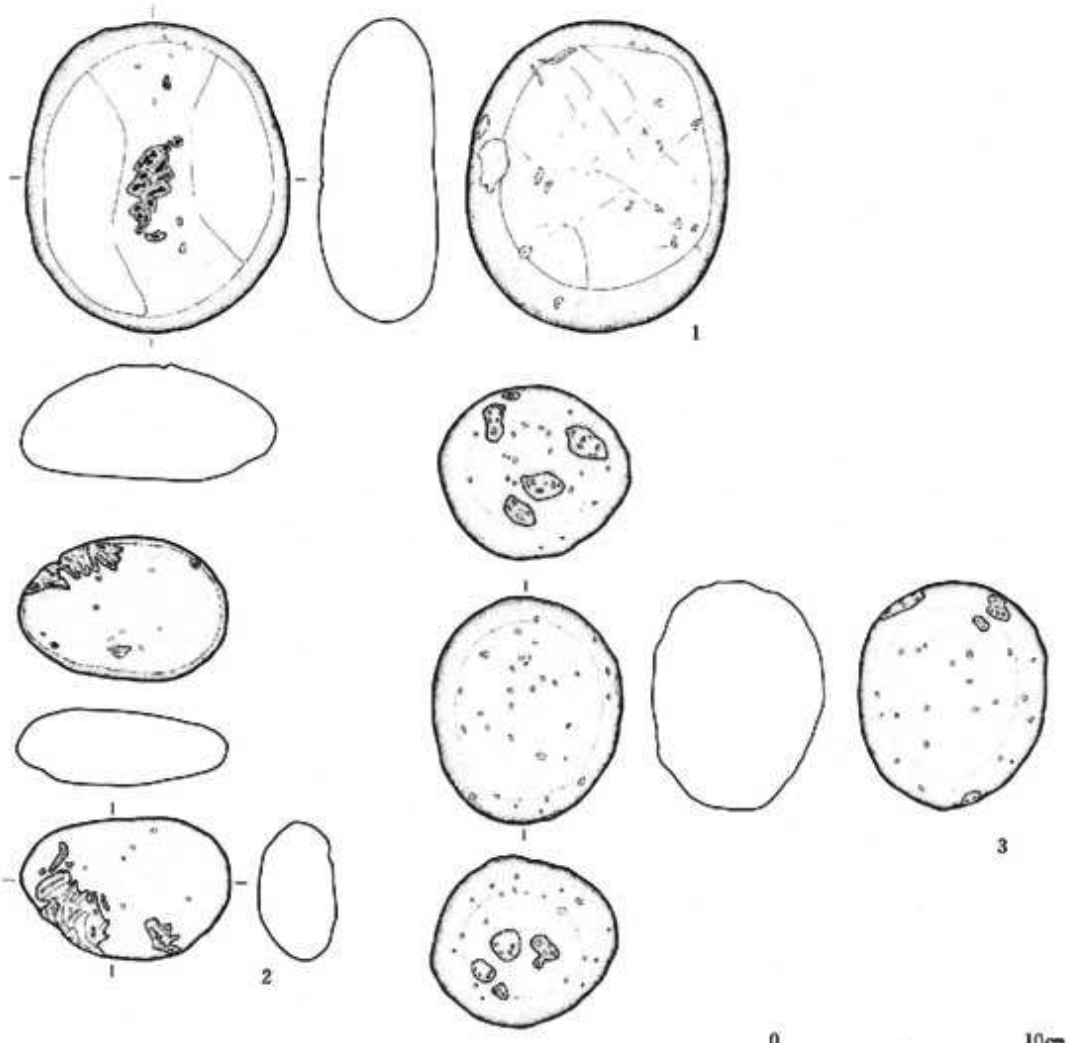
図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点 地区	出土地点 層位	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重量(g)	特徴	備考	写真図版
1	K-219	磨石類	安山岩	O区	Xc層	11.15	7.37	4.21	467.5	敲打痕		174-3
2	K-190	磨石類	砂岩？	O区	Xc層	11.47	5.12	3.56	166.0	敲打痕		173-3
3	K-35	磨石類	安山岩	H区	Xa層	14.0	15.2	5.6	1044.0	磨面・敲打痕・擦痕		169-1
4	K-225	磨石類	安山岩	O区	Xc層	24.75	19.31	4.04	2932.5	磨面・敲打痕		175-3

第252図　XI層出土遺物（35）



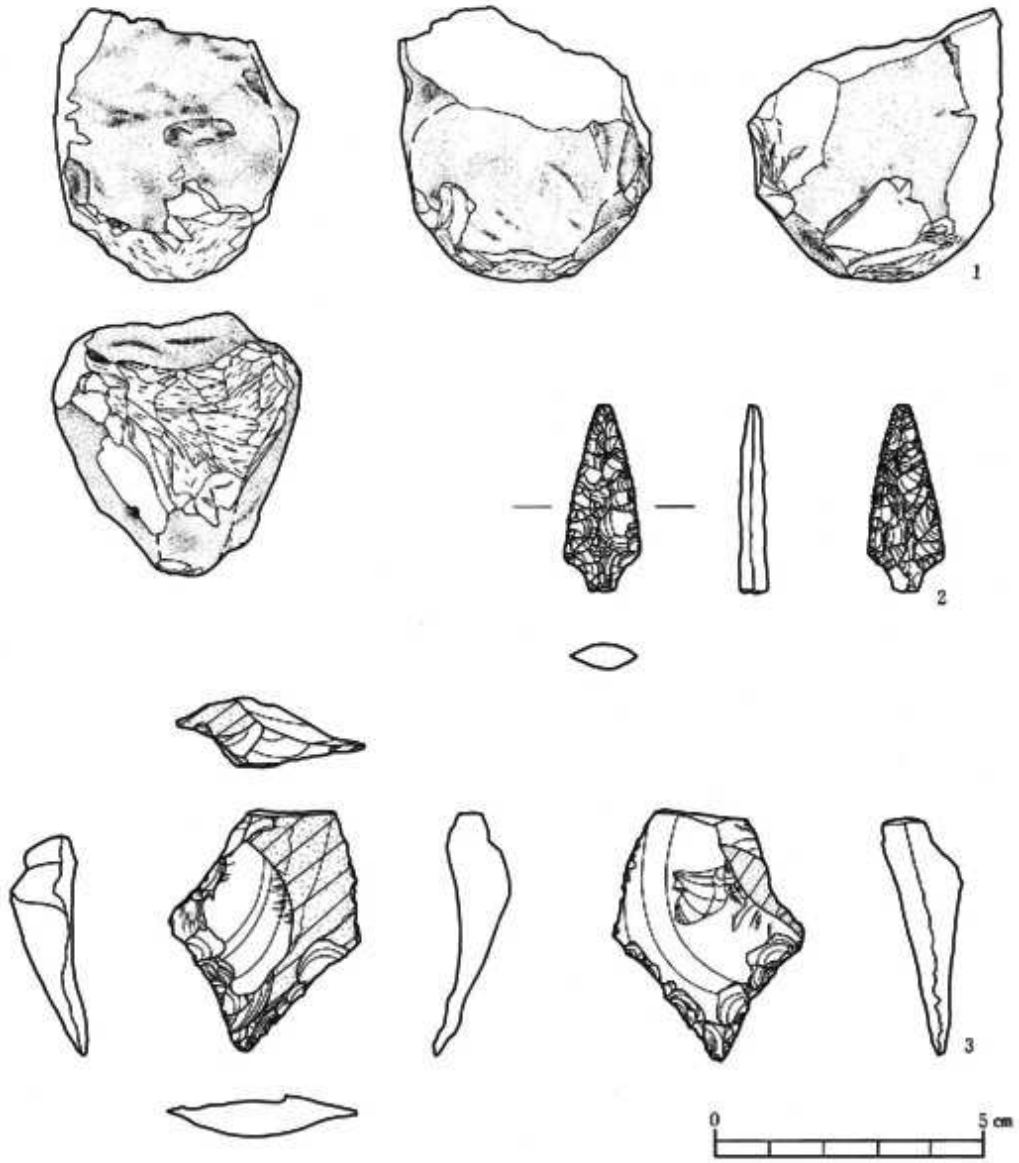
図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点		法量				特徴	備考	写真図版
				地区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1	K-184	磨石類	輝緑凝灰岩	O区	Ⅺa層	7.68	6.57	6.01	243.0	敲面・擦痕		172-3
2	K-186	磨石類	安山岩	O区	Ⅺb層	4.84	4.14	3.58	85.0	敲打痕		172-6
3	K-264	磨石類	安山岩	O区	Ⅺb層	12.42	8.75	3.65	494.5	敲打痕		179-4
4	K-254	磨石類	安山岩	O区	Ⅺb層	14.44	7.22	5.27	763.0	敲打痕	凹石	179-3
5	K-185	磨石類	砂岩	O区	Ⅺb層	10.17	5.76	1.41	85.0	磨痕		172-1

第253図　Ⅺ層出土遺物（36）



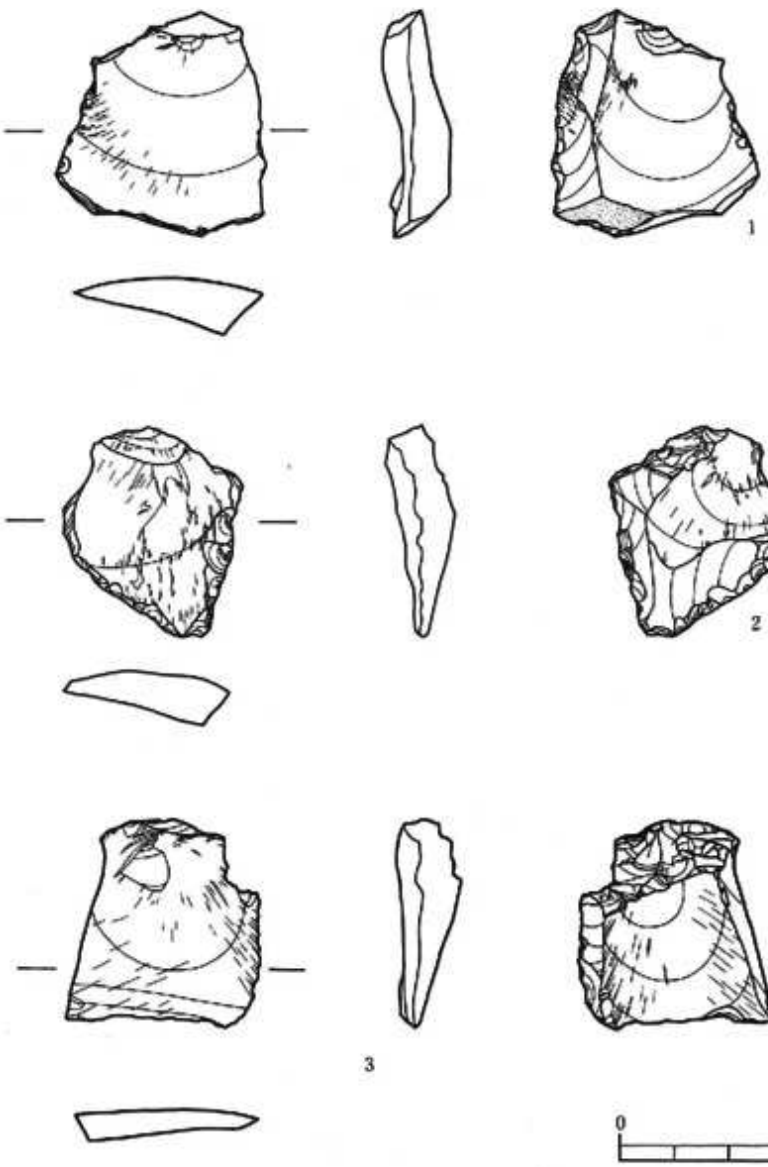
図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点 地区	出土地点 層位	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重量(g)	特徴	備考	写真図版
1	K-226	磨石類	安山岩	OK	Ⅺc層	11.62	9.73	4.59	723.0	側面・敲打痕		175-4
2	K-197	磨石類	砂岩？	OK	Ⅺc層	7.98	5.51	2.97	109.5	敲打痕		173-4
3	K-201	磨石類	安山岩	OK	Ⅺc層	8.94	7.23	6.58	608.5	敲打痕		174-1

第254図　Ⅺ層出土遺物（37）



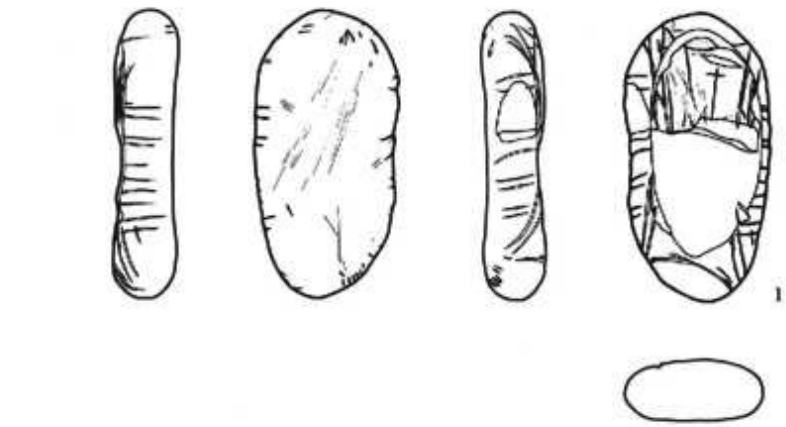
図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点			法量				特徴	備考	写真図版
				地区	遺構	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1	K-133	楔形石器	安山岩	I区		Xa	6.9	6.3	6.6	279.80	打撃により先端が潰れている 炭化物付着	ハンマーストーンの可能性	169-4
2	K-204	石鏃	頁岩	O区		Xa	3.55	1.4	0.5	2.15	アスファルト付着		174-4
3	K-126	石錐	頁岩	I区		Xa	4.6	3.5	0.7	11.60			169-13

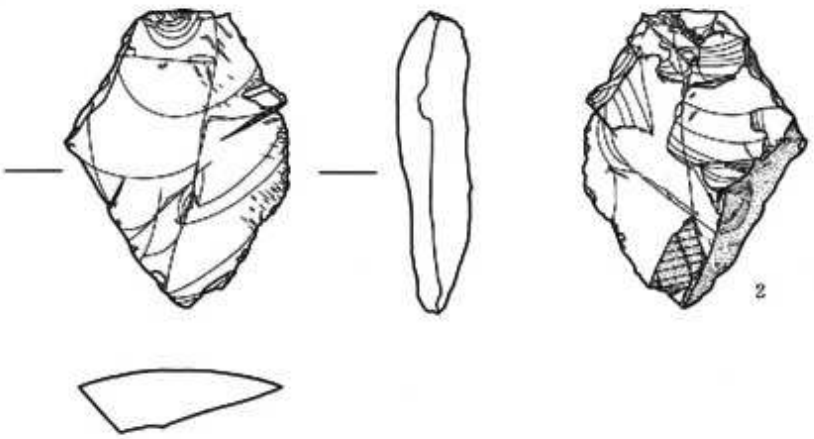
第255図　XI層出土遺物（38）

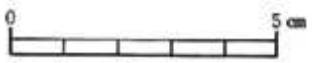


図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点			法量				特徴	備考	写真図版
				地区	遺構	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1	K-130	剥片	頁岩	I区		Ⅺa	4.3	3.9	1.0	15.50			168-4
2	K-106	剥片	頁岩	G区		Ⅺa	4.0	3.3	0.9	11.30			167-1
3	K-110	剥片	頁岩	G区		Ⅺa	3.8	3.4	0.5	12.90			167-5

第256図　Ⅺa層出土遺物（39）

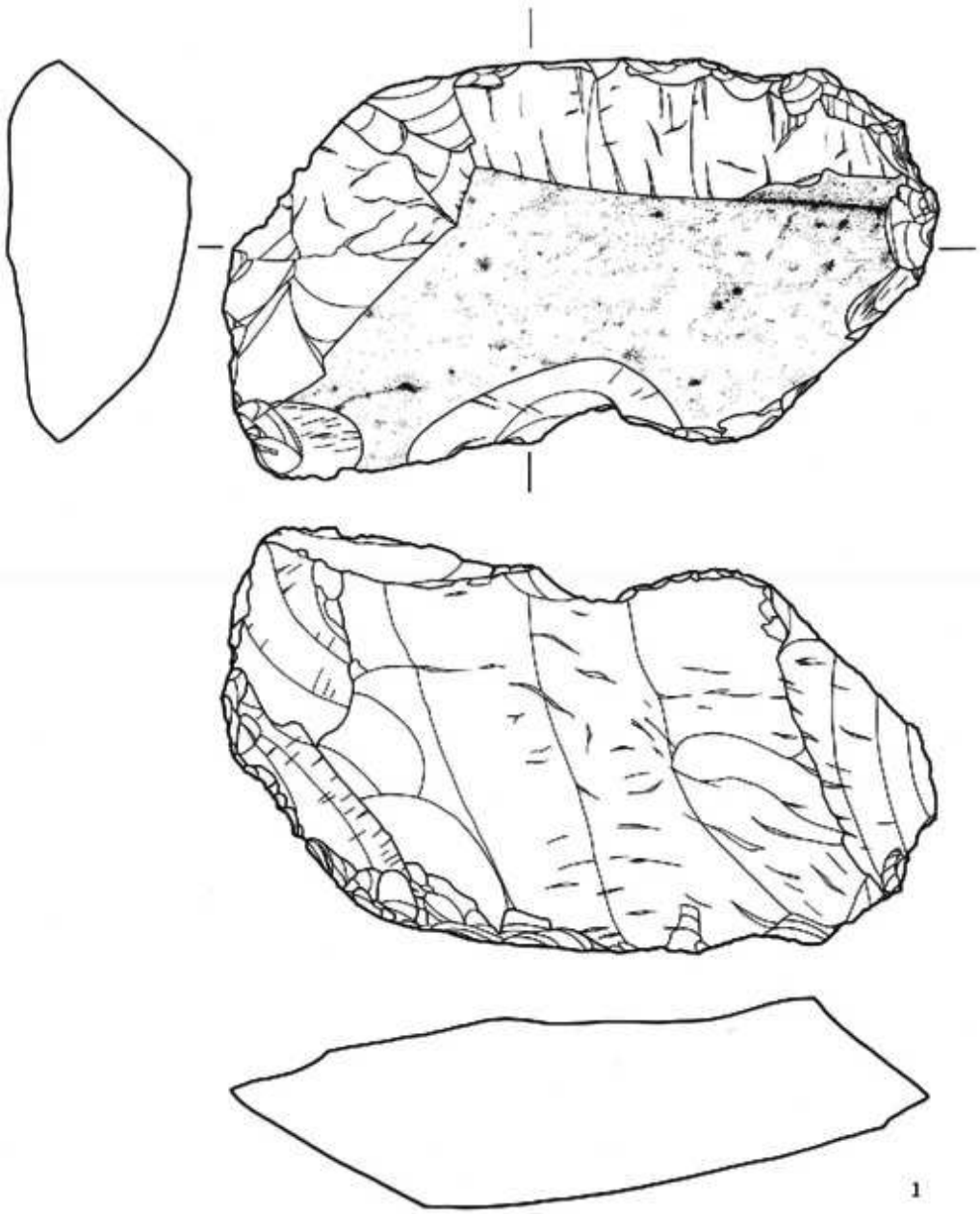






図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点			法量				特徴	備考	写真図版
				地区	遺構	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1	K-122	磨石器	緑色凝灰岩	I区		XIa	7.4	3.5	1.5	28.15	磨痕、敲痕	使用痕	169-14
2	K-104	剥片	頁岩	G区		XIa	5.7	4.2	1.05	26.95			169-7

第257図　XI層出土遺物（40）



図版番号	登録番号	種別	石材	出土地点			法量				特徴	備考	写真図版
				地区	遺構	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1	K-61	石核石器	安山岩	I区		XIa	14.0	7.5	3.55	551.3		石核の可能性	169-4

第258図　XI層出土遺物（41）